

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|-------------------|---|-------------------|-----|-----------|
| 宗教学 Religion | | 全学科 | | 20BAHU1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 島田 一道 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ |
| 概要 | この講義の目標は宗教を知るということである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 世界三大宗教の簡単な概要を説明できる。 (2) 日本宗教史の簡単な概略を説明できる。 (3) 浄土真宗や親鸞について簡単な概略を説明できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 宗教とは何か | 宗教全般について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 2 | キリスト教 | 配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 3 | イスラム教 | 配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 4 | 釈尊の生涯と仏教の誕生 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、釈尊について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 5 | 仏教 その1 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、仏教について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 6 | 仏教 その2 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、仏教について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 7 | 仏教の伝播(インド→中国→日本) | 教科書(講義時に指示)を読み込み、仏教について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 8 | 日本宗教史 その1(古代～) | 配布資料を読み込み、日本宗教史(古代～)について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 9 | 日本宗教史 その2(中世～) | 配布資料を読み込み、日本宗教史(中世～)について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 10 | 日本宗教史 その3(近世～) | 配布資料を読み込み、日本宗教史(近世～)について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 11 | 親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その1 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、親鸞の生涯(前半)について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 12 | 親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その2 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、親鸞の生涯(後半)について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 13 | 浄土真宗 その1 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、浄土真宗について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 14 | 浄土真宗 その2 | 教科書(講義時に指示)を読み込み、浄土真宗について調べてくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |
| | 15 | まとめ | 過去14回の講義内容を振り返ってくる。2時間 | 授業の振り返りを行う。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（知識）100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび参考文献 | 『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章著 本願寺出版社 2009年 |
| メッセージ | 皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------|-----------|--------------------------|-----------------------|---------|------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 世界三大宗教を知り、その内容を説明することができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明することができる。 | 多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明できない。 | 定期試験 | 35% |
| (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明することができる。 | 多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明できない。 | 定期試験 | 35% |
| (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明することができる。 | 多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明できない。 | 定期試験 | 30% |

| | | | | | |
|------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 生活と芸術 Life and Art | | 全学科 | 20BAHU1002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 村上 芳明 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、絵手紙、砂絵、カード制作などの自由制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を学びながら、「芸術」の意味や役割について考える。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための心地良い色彩や形を選択する事ができる。 (2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。 (3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」などの目的で作品を描き、制作する事ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション -生活と芸術とは- | | 「生活と芸術」の関係について自分の考えをまとめる。2時間 | |
| | 2 | 絵手紙の制作① -絵手紙とは何か。落款の制作- | 絵手紙について調べる。2時間 | 絵手紙のデザインを2種類以上考える。2時間 | |
| | 3 | 絵手紙の制作② -墨で練習してみる。よい線とは?- | 絵手紙のデザインを2種類以上考える。2時間 | 墨で線を描く練習をする。2時間 | |
| | 4 | 絵手紙の制作③ -基本の道具、顔彩の色- | 絵手紙の彩色のデザインを考えて、色鉛筆で着色してみる。2時間 | 授業で描いた絵柄に文字を入れてみる。2時間 | |
| | 5 | 絵手紙の制作④ -野菜、果物を描く- | 今まで考えたデザインに文字を入れてみて、バランスをみる。2時間 | 授業で描いた絵柄に文字を入れてみる。2時間 | |
| | 6 | 絵手紙の制作⑤ -試し描き- | 清書するデザインを決定する。2時間 | 授業で描ききれなかった試し描きを描く。2時間 | |
| | 7 | 絵手紙の制作⑥ -クリスマスカードや年賀状をつくる。文字も入れる- | 清書するデザインの修正箇所を検討する。2時間 | 授業で描ききれなかった清書を描く。2時間 | |
| | 8 | 自由制作の進め方 各自、自由制作の内容をカタログ等で検討し決定する | 自由制作の内容を考える。2時間 | 自由制作の制作手順を検討する。2時間 | |
| | 9 | 自由制作 ① -準備、画材の選択- | 自由制作に必要な画材を検討する。2時間 | 自由制作に必要な画材を購入する。2時間 | |
| | 10 | 自由制作 ② -下描き、下地づくり- | 自由制作の制作手順の決定。2時間 | 本時の作業内容を振り返り、次回必要なものを検討する。2時間 | |
| | 11 | 自由制作 ③ -下塗り、荒づくり- | 本時の作業内容を想定して、必要なものを準備する。2時間 | 本時の作業内容を振り返り、次回必要なものを検討する。2時間 | |
| | 12 | 自由制作 ④ -本塗り(1)、中づくり(1)- | 本時の作業内容を想定して、必要なものを準備する。2時間 | 本時の作業内容を振り返り、次回必要なものを検討する。2時間 | |
| | 13 | 自由制作 ⑤ -本塗り(2)、中づくり(2)- | 本時の作業内容を想定して、必要なものを準備する。2時間 | 本時の作業内容を振り返り、仕上げに必要なものを検討する。2時間 | |
| | 14 | 自由制作 ⑥ -仕上げ- | 仕上げ作業に必要なものを準備する。2時間 | 授業中に未完了の作業を終わらせる。2時間 | |
| 15 | 自由制作 ⑦ -完成、提出- | 作品を完成させて提出に備える。2時間 | 授業を振り返り、未提出物がないかを確認する。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 作品（知識・理解・判断力・技能・発想・表現力）50% 授業の取り組み（関心・意欲・態度）50% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は実施しない。 作品の評価、改善方法については授業の中で随時指導する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし （プリントを随時配布） |
| メッセージなど | 材料費が500～1000円くらい必要です。自由制作もできます。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|--|--|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための心地良い色彩や形を選択する事ができる。 | 生活の中の「芸術」を理解し、多くの人が心地良いと感じる色彩や形を選択する能力が十分にある。 | 生活の中の「芸術」を理解し、自分なりに心地良い色彩や形を選択する能力がある。 | 生活の中の「芸術」を概ね理解し、自分なりに色彩や形を選択する能力がある。 | 生活の中の「芸術」を理解できず、色彩や形を選択する能力がない。 | 作品 （知識・理解・判断力） | 25% |
| (2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。 | 生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。 | 生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。 | 不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。 | 生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。 | 授業の取り組み （関心・意欲・態度） | 50% |
| (3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」などの目的で作品を描き、制作する事ができる。 | 実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。 | 実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。 | 人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。 | 実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。 | 作品 （技能・発想・表現力） | 25% |

| | | | | | | |
|--------------------------------|---|------------------------------------|-------------------|-------------------|-----|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 余暇生活論 Study on Leisure Life | | 全学科 | | 20BAHU1003 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 渡邊 哲郎 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 余暇生活という窓口から人間と社会のあり方を見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、デザインを解説する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 授業ガイダンス 自己の生活を振り返る | | 余暇資料① 2時間 | | |
| | 2 | 余暇とは何か | 余暇資料① 2時間 | 余暇資料② 2時間 | | |
| | 3 | 生活行動と余暇 | 余暇資料② 2時間 | 余暇資料③ 2時間 | | |
| | 4 | 現代社会と余暇 (高齢化社会・情報化社会) | 余暇資料③ 2時間 | 余暇資料④ 2時間 | | |
| | 5 | 余暇生活とレジャー・レクリエーション | 余暇資料④ 2時間 | 余暇資料⑤ 2時間 | | |
| | 6 | 余暇生活を診断する (1) | 余暇資料⑤ 2時間 | 余暇資料⑥ 2時間 | | |
| | 7 | 余暇生活を診断する (2) | 余暇資料⑥ 2時間 | 余暇資料⑦ 2時間 | | |
| | 8 | 余暇生活を診断する (3) | 余暇資料⑦ 2時間 | 余暇資料⑧ 2時間 | | |
| | 9 | 中間レポートの報告会 | 余暇資料⑧ 2時間 | 余暇資料⑨ 2時間 | | |
| | 10 | 余暇生活を開発する (個人・グループ作業①テーマを決める) | 余暇資料⑨ 2時間 | 余暇資料⑩ 2時間 | | |
| | 11 | 余暇生活を開発する (個人・グループ作業②テーマに合わせた情報収集) | 余暇資料⑩ 2時間 | 余暇資料⑪ 2時間 | | |
| | 12 | 余暇生活を振り返る (個人・グループ作業③情報収集のまとめ) | 余暇資料⑪ 2時間 | 余暇資料⑫ 2時間 | | |
| | 13 | 余暇生活を振り返る (全体発表) | 余暇資料⑫ 2時間 | 余暇資料⑬ 2時間 | | |
| | 14 | 余暇生活能力の向上に必要なこと | 余暇資料⑬ 2時間 | 余暇資料⑭ 2時間 | | |
| | 15 | 今後の創造的な余暇生活をめざして | 余暇資料⑭ 2時間 | | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期レポート（知識・理解）60%、受講態度（関心・意欲）40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回の、授業振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。 定期レポート結果はルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび参考文献 | 配布資料 |
| メッセージなど | 豊かな余暇生活（学生生活）を送りたいと考えている学生の受講を希望する。 共に学ぶという基本姿勢のもと、充実した人生の指針を探ることを希望する。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------------|----------------------|------------------------|-----------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できている。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。 | 説明できていない。 | 定期試験 （知識・理解） | 60% |
| (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できている。 | 大きな間違いがなく、説明できている。 | 間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。 | 説明できていない。 | 課題レポート （関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べている。 | ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。 | 大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。 | 間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | | 20% |

| | | | | | |
|---|--|-------------------------|-------------------------|---------------------------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 比較文化概説 Introduction to Comparative Culture | | 全学科 (一般学生対象) | 20BAHU1004 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 東 宮史 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 異文化、文化について説明することができる。 (2) 外国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。 (3) 協同学習を通し、周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | Introduction、「異文化を理解する」 | Day 2の資料を読む。 2時間。 | | |
| | 2 | 「文化とは」(その1) | Day 3の資料を読む。 2時間。 | Day 1の振り返り。 2時間。 | |
| | 3 | 「文化とは」(その2) | Day 4の資料を読む。 2時間。 | Day 1-3の振り返り、レポ ート1に備える。 2時間。 | |
| | 4 | 「異文化適応」 | Day 5の資料を読む。 2時間。 | Day 4の振り返り。 2時間。 | |
| | 5 | 「シミュレーション」 | Day 6の資料を読む。 2時間。 | Day 5の振り返り。 2時間。 | |
| | 6 | 「違いに気づく」 | Day 7の資料を読む。 2時間。 | Day 6の振り返り、レポ ート2に備える。 2時間。 | |
| | 7 | 「異文化の認識」 | Day 8の資料を読む。 2時間。 | Day 7の振り返り。 2時間。 | |
| | 8 | 「差別を考える」 | Day 9の資料を読む。 2時間。 | Day 8の振り返り。 2時間。 | |
| | 9 | 「世界の価値観」 | Day 10の資料を読む。 2時間。 | Day 9の振り返り、レポ ート3に備える。 2時間。 | |
| | 10 | 「異文化トレーニング」 | Day 11の資料を読む。 2時間。 | Day 10の振り返り。 2時間。 | |
| | 11 | 「異文化受容」 | Day 12の資料を読む。 2時間。 | Day 11の振り返り。 2時間。 | |
| | 12 | 「自分を知る」 | Day 13の資料を読む。 2時間。 | Day 12の振り返り、レポ ート4に備える。 2時間。 | |
| | 13 | 「非言語コミュニケーション」 | Day 14の資料を読む。 2時間。 | Day 13の振り返り。 2時間。 | |
| | 14 | 「アサーティブコミュニケーション」 | Day 15の資料を読む。 2時間。 | Day 14の振り返り。 2時間。 | |
| | 15 | 「多文化共生社会の実現に向けて」 | Day 1-15の資料を読む。 2時間。 | Day 1-15の振り返り、最 終レポートに備える。 2時間。 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | ポートフォリオ（関心・意欲・態度・思考力）30%、 感想文（知識・理解・関心）30%、 協同学習アクティビティ共同学習アクティビティ（関心・意欲・態度・技能・表現力・判断力・思考力）10%、 最終レポート（知識・理解・関心・意欲・態度・思考力・表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | ポートフォリオと感想文、レポートにはコメントを書いて返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | 資料は配布します。【参考文献】「異文化理解入門 原沢伊都夫 研究社」「グローバル社会における異文化コミュニケーション 池田理知子・塙幸枝 三修社」「よくわかる異文化コミュニケーション 池田理知子 ミネルヴァ書房」 |
| メッセージなど | クラスメートとの協同学習に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、学生の皆さんのご協力をお願いします！ |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------------------|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 文化、異文化について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 感想文 (知識・理解) | 50% |
| (2) 周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。 | 周りにいる人を理解し、自身の価値観を探求できる。 | ある程度、周りにいる人を理解し、自身の価値観を探求できる。 | ある程度周りにいる人を理解し、ある程度自身の価値観を探求できる。 | 周りにいる人を理解しようとせず、自身の価値観も探求できない。 | 協同学習 (関心・意欲・態度・技能・表現力・判断力・思考力) | 50% |

| | | | | | |
|---|---|----------------------------|-------------------|-------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 比較文化概説 Introduction to Comparative Culture | | 全学科 (留学生対象) | 20BAHU2005 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 伸一 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 日本の文化について説明することができる。 (2) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | おもてなしの心・日本式のマナーと日本事情 | オリエンテーション | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 2 | 山口事情と山口の伝統文化・歴史 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 3 | 日本の若者のファッション：ダメージジーンズ | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 4 | 高齢化社会の日本事情 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 5 | 健康にいい日本食：栄養バランス | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 6 | 日本の映像芸術：フォトコンテスト | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 7 | 日本の色形容詞と実際の色彩 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 8 | 日本の四季：春夏秋冬（雪景色） | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 9 | 日本のソフトパワーとなったアニメ | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 10 | 山口の温泉と足湯 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 11 | ヒューマンライブラリー（人間図書館） | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 12 | 朗読に挑戦してみよう！（金子みすゞ・中原中也） | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 13 | 世界に広がるカワイイ | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 14 | 紙芝居で知る日本の昔話（桃太郎、一寸法師、かぐや姫） | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 15 | 紙芝居で知る世界の昔話（裸の王様、ジャックと豆の木） | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 小テストと定期試験の評価比率に沿って総合的に成績を評価する。 小テスト・定期試験（知識・理解）50%、口頭発表・定期試験（関心・意欲・表現力）50% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。 |
| テキストおよび参考文献 | 『おいでませ山口5』PPT教材、紙芝居教材 |
| メッセージなど | 日本の文化を紙芝居やパワーポイント教材で学びます。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 日本の文化について理解することができる。 | 日本文化についてほぼ完璧に理解できる。 | 大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。 | 間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。 | 日本の文化について理解することができない。 | 小テスト 定期試験 (知識・理解) | 25% |
| (2) 日本の文化について説明することができる。 | 日本文化についてほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。 | 日本の文化について説明することができない。 | 小テスト 定期試験 (知識・理解) | 25% |
| (3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。 | 母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。 | 母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。 | 母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。 | 母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。 | 口頭発表 定期試験 (関心・意欲・表現力) | 25% |
| (4) 日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。 | 日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。 | 日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。 | ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。 | 日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。 | 口頭発表 定期試験 (関心・意欲・表現力) | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------------|--|--------------------|-------------------|-------------------|-----|-----------|
| 日本国憲法 The Constitution of Japan | | 全学科 | | 20BASO1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福田 達也 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 私たちが暮らしている日本の国の憲法はどのような考え方・理念をもとに制定されているのか、人権尊重や民主主義の歴史的背景について理解しながら深めていきたいと思います。「日本国憲法」と聞くと、難しいという印象を持つ人も多いかもしれませんが、質問にも随時受け付け、映像なども用いて、憲法に関わる様々な社会の問題を身近な事柄として考えてもらえる授業を目指します。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方や理念について理解を深めたうえで、説明できる。 (2) 憲法制定の背景、近代化の流れを理解しながら、近現代史をあらためて多角的に捉え直し、現在の社会の出来事についても興味、関心を持ち、説明できる。 (3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明ができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 日本国憲法の構成と特徴 | 日本国憲法の特徴 45分 | 日本国憲法の構成 45分 | | |
| | 2 | 大日本帝国憲法と戦前の日本 | 戦前の憲法 45分 | 大日本帝国憲法 45分 | | |
| | 3 | 日本国憲法の制定 | GHQについて 45分 | 憲法の制定 45分 | | |
| | 4 | 前文と三大原理 | 前文について 45分 | 三大原理について 45分 | | |
| | 5 | 国民主権と民主主義 | 民主主義とは 45分 | 国民主権 45分 | | |
| | 6 | 欧米近代化の歴史と人権思想 | 人権とは 45分 | 近代化と人権 45分 | | |
| | 7 | 基本的人権①—個人の人権— | 基本的人権 45分 | 法の下での平等 45分 | | |
| | 8 | 基本的人権②—自由権— | 自由権とは 45分 | 自由権の種類 45分 | | |
| | 9 | 基本的人権③—生存権— | 社会権とは 45分 | 生存権とその施策 45分 | | |
| | 10 | 基本的人権④—参政権・新しい人権— | 選挙権とは 45分 | 参政権 45分 | | |
| | 11 | 平和主義—第9条解釈・平和的生存権— | 平和主義とは 45分 | 9条の解釈 45分 | | |
| | 12 | 統治機構—三権分立— | 三権分立とは 45分 | 統治機構 45分 | | |
| | 13 | 日本の裁判制度と法律家 | 裁判制度 45分 | 民事・刑事裁判 45分 | | |
| | 14 | 裁判員制度 | 裁判員制度の概要 45分 | 裁判員制度の内容 45分 | | |
| 15 | まとめ | 憲法とは 45分 | まとめ 45分 | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験 80%、課題(レポート)20% |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 定期試験および課題(レポート)については、模範解答を提示する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：授業で参考資料を配布 参考文献：必要に応じて紹介 |
| メッセージなど | 難しい言葉や歴史も一つ一つ丁寧に理解を積み重ねていくと、今まで分からなかった世界が身近になり、広がっていきます。がんばりましょう！ 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|--------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方や理念について理解を深めたうえで、説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験およびレポート(知識・理解) | 50% |
| (2) 憲法制定の背景、近代化の流れを理解しながら、近現代史をあらためて多角的に捉え直し、現在の社会の出来事についても興味、関心を持ち、説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験およびレポート(知識・理解) | 20% |
| (3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験およびレポート(知識・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------------|--|-------------------------|-------------------|-------------------|-----|-----------|
| 現代社会問題 Issues in Modern Society | | 全学科 | | 20BASO1002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 梅田 美穂 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 子どもはみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？子どもの生活を激変させた第二次世界大戦終戦から、現在に至るまで、それぞれの時代の子どもを捉えながら、現代の子どもの問題について考える | | | | | |
| 到達目標 | (1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べるができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味を湧き自分の意見を持って協議する。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題を探す・2時間 | | |
| | 2 | 終戦前後の子ども文化 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題を探す・2時間 | | |
| | 3 | 戦後の社会的養護 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題を探す・2時間 | | |
| | 4 | 教育制度・集団就職 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題をまとめる・2時間 | | |
| | 5 | 高度経済成長期の子どもたち テレビの世界 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題をまとめる・2時間 | | |
| | 6 | 加熱化する進学塾 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題をまとめる・2時間 | | |
| | 7 | いじめ | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題をまとめる・2時間 | | |
| | 8 | 平成時代の子どもたち ファミコン・シンドローム | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 9 | 少年A | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 10 | 学校に行けない子ども、行かない子ども | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 11 | 特別な支援の必要な子どもたち | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 12 | 「モンスター・ペアレント」の出現 | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 13 | 女性に社会進出と保育ニーズ | 配布資料を読んでおく・2時間 | 発表準備・2時間 | | |
| | 14 | ポスター発表 | 発表準備・2時間 | 振り返りシートの記入・2時間 | | |
| | 15 | スマホ世代の子どもたち | 配布資料を読んでおく・2時間 | 課題レポート・2時間 | | |
| | | ※授業内容を一部変更する場合があります。 | | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み・グループ活動への参加（関心・意欲・態度）50%、 ポスター発表（意欲・態度・思考力・判断力・表現力）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | ポスター発表後、コメントを記入し返却します。質問は授業内で対応します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 授業時にプリント配布 参考文献：深谷和子編 児童心理「子どもの問題70年」金子書房 |
| メッセージ な ど | 社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間 です。自覚して頑張りましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|--|---|-------------------------------------|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 時代背景に合わせた 子どもの問題の変化 について説明でき る。 | 子どもの問 題の変化を 的確に説明 できる。 | 子どもの問 題の変化に ついて大体 のことを説 明できる。 | 時代背景に 合わせた子 どもの問題 の変化を 間違いはあるが説明できる。 | 時代背景に 合わせた子 どもの問題 の変化を説 明できてい ない。 | レポート(知 識・思考・表 現力) | 20% |
| (2) 子どもに関わる問題 について具体的に述 べることができる | 子どもに関 わる問題に ついて的確 に認識し、 ほぼ完璧に 自分の考え を述べてい る。 | 子どもに関 わる問題に ついて大体 のことを認 識し、自分 の考えを述 べている。 | 子どもに関 わる問題に ついて認識 の間違いは あるが、最 低限の自分 の考えを述 べている。 | 子どもに関 わる問題に ついて認識 できておら ず、自分の 考えを述べ ていない。 | 発表・レポー ト(知識・思 考力・判断 力・表現力) | 40% |
| (3) マスコミ（新聞、テ レビ等）のニュース 報道に興味を湧き自 分の意見を持って協 議する | 的確な問題 意識を持っ て協議して いる。 | 問題意識を 持ち、協議 している。 | 間違いはい くつかある が、協議に 参加してい る。 | 身近な問題 に触れよう とせず、協 議していな い。 | 授業の取り組 み（関心・意 欲・思考・表 現力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|----------------------------|--------------------------------|----------------------------|-----------|
| 社会福祉援助概説 Introduction to Social Welfare | | 全学科 | 20BASO1003 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 今川 晋平 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 社会福祉援助技術として必要な対人援助の基礎となるコミュニケーションについてグループ演習を交えながら体験的・体系的に学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 対人援助の基礎となるコミュニケーションとはなにかを説明できる。 (2) 援助を行っていく上でのコミュニケーション技術を身につける。 (3) 対人援助について関心を持ち自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ーオリエンテーションーアイスブレイクを体験しよう | | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 2 | 人が持っている枠組みとは何か | 自分の癖や枠組みを考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 3 | 自分の持っている価値観と他人が持っている価値観とは | 自分にはどんな価値観があるか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 4 | 思い込みとは | 自分はどんな思い込みをしているか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 5 | 分かち合いとこたえる | 自分は相手に対してどのように答えたりしているか考える 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 6 | 自己開示とフィードバックとは | フィードバックと何か考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 7 | トラブルや葛藤とのつきあい方とは | 自分がどんな時に葛藤をしているか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 8 | 話す・聞くとは | 自分の話し方聞き方は、どんな形か考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 9 | みる・サインとしての身体と感情表出のさまざまな形とは | 身体の出すサインはどんなものがあるか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 10 | 人が人を理解するときとは | 人を理解するにはどのようにしているかを考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 11 | リーダーシップとは | リーダーシップは何か考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 12 | 伝えるとは | 伝えるとはどんなことか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 13 | 伝える① | 伝えるとはどんなことか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 14 | 伝える② | 伝えるとはどんなことか考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |
| | 15 | 援助者に求められるコミュニケーション力を考えよう | コミュニケーションには何が大事か考えておく 2時間 | 振り返りシートに基づき、授業の内容をまとめる 2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）70% 課題レポート（関心・判断・思考・把握）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。 |
| テキストおよび参考文献 | 講義時に資料を配布。参考文献はその都度紹介。 |
| メッセージなど | 講義中の私語、携帯は慎む。 資料を配布予定であるので、資料を保管するためのファイル等を用意することが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|---|------------------------------------|---------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 対人援助の基礎となるコミュニケーションとはなにかを説明できる。 | 問題なくほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。 | 最低限度の説明はできる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 40% |
| (2) 援助を行っていく上でのコミュニケーション技術を身につける。 | 問題なくほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。 | 最低限度の説明はできる。 | 説明できていない。 | | 30% |
| (3) 対人援助について関心をもち自分の考えや意見を述べることができる。 | 対人援助について正しく認識してほぼ完璧に自分の考えを述べることができる。 | 対人援助について基本的な説明をすることが可能で自分の考えを述べることができる。 | 対人援助について最低限度の説明はでき自分の考えを述べることができる。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート (関心・判断・思考・把握) | 30% |

| | | | | | | |
|----------------------------|---|-------------------------|----------------------|-------------------|-----|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 行動科学 Behavioral Science | | 全学科 | | 20BASO1004 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福屋 いずみ | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ |
| 概要 | 行動科学（主に心理学）について、概観していくことを通して、心理学における各領域の基礎的な知識を獲得することを目的とする。心理学は、日常生活とも関連しているため、人の行動に対して関心を高め、自己理解や他者理解へとつなげていく場とする。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 心理学の各領域に関する基礎用語の意味を理解し説明することができる。 (2) 日常生活に現れる人の行動に対する関心を高め、講義内容と関連づけて表現することができる。 (3) 講義内容や質問紙などを通して、自身の行動の背景にあるこころの働きについて気づき、説明することができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション ー行動科学と心理学ー | — | 本時の内容をまとめる。2時間 | | |
| | 2 | 心をどのように測定するのか | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 3 | 知覚心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 4 | 学習心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 5 | 進化心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 6 | 神経心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 7 | 個人差心理学①心理測定 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 8 | 個人差心理学②性格 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 9 | 認知心理学①記憶 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 10 | 認知心理学②人の考えの歪み | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 11 | 発達心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 12 | 感情心理学 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 13 | 社会心理学①人とのかかわり | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 14 | 社会心理学②集団 | キーワードの印象を書く。 2時間 | 配布資料を読み、まとめる。2時間 | | |
| | 15 | まとめ | テキストや配布資料を読む。 2時間 | レポート提出 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）20%、 毎時の課題（関心・意欲・態度）70%、 レポート（思考力・判断力・表現力）10% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 定期試験とレポートはルーブリック評価に基づき結果を示す。 |
| テキストおよび 参考文献 | 金沢 創（2015）ゼロからはじめる心理学・入門：人の心を知る科学 有斐閣 プリントを配布する |
| メッセージ など | 心理学では、観察できる行動からころについて考えていきます。興味がある人は受講してください。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|---|---|---|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 心理学の各領域に関する基礎用語の意味を理解し説明することができる。 | 心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。 | 心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。 | 心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。 | 心理学の各領域の基礎用語を説明できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) 日常生活に現れる人の行動に対する関心を高め、講義内容と関連づけて表現することができる。 | 毎時の内容を振り返り、日常生活の出来事との関連を見出して、自分の考えを十分に述べるができる。 | 毎時の内容を振り返り、日常生活の出来事との関連を見出し、自分の考えを概ね述べることができる。 | 毎時の内容を振り返ることができているが、日常生活の出来事との関連の見出しが不十分である。 | 毎時の内容の振り返りができていない。 | 毎時の課題 (関心・意欲・態度) | 70% |
| (3) 講義内容や質問紙などを通して、自身の行動の背景にあるところの働きについて気づき、説明することができる。 | 自身の行動の背景にあるところの働きについて、心理学的視点に立って気づくことができ、それを十分に表現することができる。 | 自身の行動の背景にあるところの働きについて、心理学的視点に立って気づくことができ、それを概ね表現することができる。 | 自身の行動の背景にあるところの働きについて、心理学的視点に立って概ね気づくことができているが、表現が不十分である。 | 自身の行動の背景にあるところの働きについて、心理学的視点に立って気づくことができていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|-------------------------|--------------------------------------|--|-----|-----------|
| 現代の数学観 Aspects of Modern Mathematics | | 全学科 | | 20BANA1001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 日置 智子 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 様々な分野の数学の基本概念を正しく理解し、実際に問題を解くことで、数学的な考え方を身に付けることをねらいとする。授業の終盤では、日常生活の中で用いられている数学的な考え方について各自でまとめ、発表を行う。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 数学の基本的な概念をわかりやすく説明することができる。 (2) 数学の各分野における基礎的な問題を解くことができる。 (3) 日常生活の中で用いられている数学的な考え方を、具体例を挙げて論ずることができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 2 | 座標と空間 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 3 | 様々な図形① 一直線、放物線の方程式 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 4 | 様々な図形② 円の方程式、球面の方程式 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 5 | ベクトルとその応用 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 6 | 微分① 微分とは何か | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 7 | 微分② 物理学への応用 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 8 | 不定積分 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 9 | 定積分① 定積分の考え方 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 10 | 定積分② 面積 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 11 | 定積分③ 体積 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 12 | グラフ理論① グラフの定義 | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 13 | グラフ理論② オイラーグラフとハミルトングラフ | 参考文献等を利用し、授業テーマについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |
| | 14 | 発表準備 | 日常生活で用いられている数学的な考え方について情報収集を行う。(2時間) | 発表準備および発表練習を行う。(2時間) | | |
| | 15 | 発表 | 発表準備および発表練習を行う。(2時間) | 自身の発表の反省と、他の学生の発表を聴いて学んだことについての復習をする。(2時間) | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 発表（知識・理解・思考力・判断力・表現力）50% レポート（知識・理解・思考力）50% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業時に解説を行う。 発表については、学生間での相互評価の結果をまとめ、発表者に返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし 参考文献：授業時に適宜紹介する |
| メッセージなど | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------------|----------------------------|------------------------------|-------------|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 数学の基本的な概念をわかりやすく説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 発表（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| | | | | | 課題レポート（知識・理解・思考力） | 20% |
| (2) 数学の各分野における基礎的な問題を解くことができる。 | ほぼ完璧に解くことができる。 | 大きな間違いがなく、解くことができる。 | 間違いはいくつかあるが、助言があれば解くことができる。 | 解くことができない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力） | 30% |
| (3) 日常生活の中で用いられている数学的な考え方を、具体例を挙げて論ずることができる。 | 適切な具体例を挙げ、ほぼ完璧に論ずることができる。 | 具体例を挙げ、大きな間違いがなく論ずることができる。 | 多少の間違いはあるが、具体例を挙げて論ずることができる。 | 論ずることができない。 | 発表（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|--------------|--|--|------------|-------------|
| 物理学 Physics | | 全学科 | | 20BANA2002 | 1年次 2年次 | 令和3年度 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 吉村 洋輔 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 (2) 重さ (N) と質量 (kg) の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 (3) 静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス℃と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 (9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解し、横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 力の合成と分解 | 力の表し方、合力、分力の求め方。 2時間 | 2力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。 2時間 | | |
| | 2 | 重さと質量 | 重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。2時間 | 重さと質量の関係が正しく理解できる。2時間 | | |
| | 3 | いろいろな力 | 静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。2時間 | 静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。2時間 | | |
| | 4 | 剛体のつりあい | 大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。2時間 | 力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。 2時間 | | |
| | 5 | 速度と加速度 | 速度と加速度の概念が正しく理解できる。 2時間 | 等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。2時間 | | |
| | 6 | 落体の運動 | 真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。 2時間 | 等加速度直線運動の4つの公式を使って落体の運動を解説できる。 2時間 | | |
| | 7 | 慣性力 | 電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。2時間 | 慣性力＝質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。2時間 | | |
| | 8 | 仕事と仕事率 | 仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。2時間 | ジュール、ワット単位次元についても理解する。2時間 | | |
| | 9 | 仕事量と力学的エネルギー | 運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーについて理解する。2時間 | 保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。2時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|-------------------------------------|-------------|--|---|
| | 10 | 熱とエネルギー | 熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。2時間 | セルシウス度、絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。2時間 |
| | 11 | 気体の熱的性質 | 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を正しく理解する。2時間 | 気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。2時間 |
| | 12 | 波の伝わり方 | 波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。2時間 | 横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。2時間 |
| | 13 | 電気と電圧、電流と電子 | 電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。2時間 | 抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求めると。2時間 |
| | 14 | 電気エネルギー | ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。2時間 | 電気器具を消費した時間から消費電力を求めると。2時間 |
| | 15 | 問題演習 | 問題演習課題プリント 2時間 | プリントの問題が確実に解けるようにする。2時間 |
| 成績評価 | 定期試験 80%、課題レポート 20% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | ルーブリック評価をフィードバックする。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 作成プリントを使用 | | | |
| メッセージなど | 日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--------------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------|------|------|
| (1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 | ベクトル作図を使ってほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている。 | いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。 | 理解できていない。 | 定期試験 | 9% |
| (2) 重さ(N)と質量(kg)の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 | ほぼ完璧に理解できている。 | 大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている。 | いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。 | 理解できていない。 | | 5% |
| (3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 | 力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。 | 大きな間違いはなく基礎的事項は理解できている。 | いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。 | 理解できていない。 | | 9% |
| (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 | ほぼ完璧に理解できている。応用力も身につけている。 | 大きな間違いはなく基礎的事項は理解できている。 | 間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 6% |

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 | |
|---|------------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-----------|------|--------|-----|
| (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いはなく、基礎的事項は理解できている。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | 定期試験 | 9% | |
| (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 8% | |
| (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス℃と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 5% | |
| (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 7% | |
| (9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 6% | |
| (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 6% | |
| (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 10% | |
| (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。 | 基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解でき、思考力応用力も身につけている。 | 大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。 | いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。 | 理解できていない。 | | 課題レポート | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|------------------------|---------------------------|-----------------------------|------------|-----------|
| 化学 Chemistry | | 全学科 | | 20BANA1003 | 1年次 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 坪郷 好夫 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 中学校で学ぶ理科の化学領域を中心的な内容とし、基礎的・基本的事項を授けることを第一目標とする。 自然界や身の回りの化学現象を取り上げ、科学的なものの見方、考え方で、面白く楽しく学べる授業にする。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 元素記号を理解し、化学反応式が作成できる。 (2) 原子・分子の構造を理解し、化学結合論を説明できる。 (3) 身近な化学現象を化学的に説明できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 原子と分子、元素の周期律 | 周期律を調べる。2時間 | 元素記号を覚える。2時間 | | |
| | 2 | 単体と化合物、化学式 | 単体と化合物を調べる。2時間 | 単体と化合物をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 3 | 物質の三態、気体の発生 | 物質の三態・気体の発生法を調べる。2時間 | 物質の三態・気体の発生法をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 4 | 融解と凝固、蒸発と沸騰 | 物質を分離する方法を調べる。2時間 | 物質の分離に融点・沸展が関係することをまとめる。2時間 | | |
| | 5 | 物質の燃焼と酸素、化合と分解 | 酸化・熱分解を調べる。2時間 | 酸化・熱分解をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 6 | 化学変化の諸法則 | 化学変化の法則を調べる。2時間 | 化学変化の法則をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 7 | 物質の溶解、溶解度、濃度 | 物質の溶け方について調べる。2時間 | 物質の溶け方についてノートにまとめる。2時間 | | |
| | 8 | 水溶性イオン、酸と塩基 | 酸、塩基を調べる。2時間 | 酸・塩基をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 9 | 中和反応と塩 | 中和反応を調べる。2時間 | 中和反応をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 10 | 電気分解 | 電気分解を調べる。2時間 | 電気分解をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 11 | 熱化学反応 | 熱化学反応を調べる。2時間 | 熱化学反応をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 12 | レポート課題「身の回りの化学現象と化学物質」 | 課題をまとめ発表ができる。2時間 | 皆の発表を聞き感想をまとめる。2時間 | | |
| | 13 | 主な無機化合物 | 無機化合物を調べる。2時間 | 無機化合物をノートにまとめる。2時間 | | |
| | 14 | 主な有機化合物 | 有機化合物を調べる。2時間 | 有機化合物をノートにまとめる。2時間 | | |
| 15 | 小学校・中学校の観察・実験の基本的事項と事故防止 | 観察・実験の基本的なことを調べる。2時間 | 実験・観察の基本的な内容をノートにまとめる。2時間 | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業の終わりの小テスト（試験）50% 課題のまとめ・発表 25% 実験操作・レポート 25% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 化学の基礎用語・化学反応式等を試験で確認する。 自分で調べたことをまとめて発表できたか。 |
| テキストおよび参考文献 | 講義資料を配布 |
| メッセージなど | 化学を習得するには、教室での学習だけに留まらず、実験にも真剣に取り組むとともに、自然界および身の回りの化学物質や化学現象に絶えず注意を払い、学んだ化学の知識でもってそれらを考え説明する心掛けを持つならば、自ら化学に興味湧き、一層理解が深まるであろう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------|---------------------|----------------------|--------------------|----------------------|----------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 化学の基礎用語・化学反応式が理解できる。 | 十分理解できている。 | 普通に、理解している | なんとか理解できる。 | まったく理解していない。 | 試験 | 50% |
| (2) 化学について自分で調べ・まとめ発表できる。 | まとめ発表ができる。 | 普通に、発表ができる | なんとか発表ができる。 | まとめ発表ができない。 | 発表 | 25% |
| (3) 実験操作ができ、実験レポートがかけられる。 | 実験レポートがかけ、実験操作ができる。 | 普通に実験レポートが書け、実験ができる。 | なんとか実験し、レポートか、書ける。 | 実験ができない。実験レポートもかけない。 | 実験レポート 実験操作 | 25% |

| | | | | | | |
|------------------------|--|------------------|----------------------------|---------------------------|------------|-------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 生物学 Biology | | 全学科 | | 20BANA2004 | 1年次 2年次 | 令和3年度 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 安藤 稔朗 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す。 (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる。 | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 生物分野において、科学的なものの見方・考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | テキスト1～5ページを 読んでおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 2 | 生物学のあゆみ | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 3 | 生命とは何か -生命とその特徴- | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 4 | 生命の基本単位 -細胞- | テキスト6～11ページ を調べておく。2時間。 | 単細胞生物と多細胞生物 をまとめる。2時間。 | | |
| | 5 | 植物の構成と機能 | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 6 | 植物の成長 | テキスト12～13Pを調 べておく。2時間。 | 植物の成長について特色 を整理する。2時間。 | | |
| | 7 | 環境と植物 | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 環境と植物のかかわりを まとめる。2時間。 | | |
| | 8 | 動物の働き -生理作用- | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 9 | 動物の行動 | テキスト20～25Pを調 べておく。2時間。 | 授業を振り返り、内容を復 習する。2時間。 | | |
| | 10 | 生殖と発生 | テキスト14～16Pを調 べておく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 11 | 遺伝 | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 12 | 生物の多様性と進化 | 用意したプリントを読ん でおく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 13 | 生物の生活と生産 | テキスト26～30Pを調 べておく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 14 | 生物界のつりあいと自然環境保全 | テキスト31～32Pを調 べておく。2時間。 | 授業を振り返り、内容をま とめる。2時間。 | | |
| | 15 | 地球環境と生命 | テキスト33～34Pを調 べておく。2時間。 | 授業を振り返り、要点をま とめる。2時間。 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）30%、 毎回の授業感想レポート（関心・意欲）：30%、 観察・実験の技能（思考力・判断力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布 |
| メッセージ な ど | 講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|---------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 生物分野において、 科学的なものの方 見方、考え方を培うた めの内容について、 具体的な資料を活用 しながら説明でき る。 | ほぼ完璧に 説明でき る。 | 大きな間違 いがなく、 内容を説明 できる。 | 間違いはい くつかある が、説明で きる。 | 説明でき ていない。 | 定期試験 (知識・理 解) | 30% |
| (2) 生物学で取り扱う教 材の特性や着眼点な どについて、レポー トにまとめ説明でき る。 | ほぼ完璧に 説明でき る。 | 大きな間違 いがなく、 説明でき る。 | 間違いはい くつかある が、説明で きる。 | 説明でき ていない。 | レポ ー ト (関心・意 欲) | 30% |
| (3) テキストの生物教材 をとおして、自然現 象の解明の仕方を説 明できる。 | ほぼ完璧に 授業を工夫 できる。 | 大きな間違 いがなく、 授業を工夫 できる。 | 間違いはい くつかある が、授業を 工夫でき る。 | 工夫でき ていない。 | 観察・実験(思 考力・判断 力・表現 力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|--|----------------------|----------------------|------------|-----------|
| 地学 Earth Science | | 全学科 | | 20BANA1005 | 1年次 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 渡邊 哲郎 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | <p>中学校の理科で学んだ地学領域の基本的な知識を理解し、地球を取り巻く様々な変化を統一的な視点でとらえる力を養う。</p> <p>地球のいろいろな事象を、地球誕生から現在までの時間軸上に位置づけ、物理・化学・生物領域と関連づけながら考察する力を育成する。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) 地学的な事物・現象を物性・時間・空間・エネルギー概念と関係づけてとらえることができる。</p> <p>(2) 地球の形成過程（歴史）を物理的、化学的、生物的な面から推論することができる。</p> <p>(3) 身近に起きている大地の変化を過去の地球の変動と関係付けることができる。</p> | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | | テキスト地学3～13 ① 2時間 | | |
| | 2 | 大地の成り立ちと生い立ち ①日本列島の姿 | テキスト地学3～13 ① 2時間 | テキスト地学3～13 ② 2時間 | | |
| | 3 | 大地の成り立ちと生い立ち ②平野の生い立ち | テキスト地学3～13 ② 2時間 | テキスト地学3～13 ③ 2時間 | | |
| | 4 | 震える日本列島 | テキスト地学3～13 ③ 2時間 | テキスト地学14～24 ① 2時間 | | |
| | 5 | 地球を取り巻く大気と水 ①大気のとくりと性質 | テキスト地学14～24 ① 2時間 | テキスト地学14～24 ② 2時間 | | |
| | 6 | 地球を取り巻く大気と水 ②水のゆくえ | テキスト地学14～24 ② 2時間 | テキスト地学14～24 ③ 2時間 | | |
| | 7 | 世界の気候と日本の天気 ①世界の気候の特徴 | テキスト地学14～24 ③ 2時間 | テキスト地学14～24 ④ 2時間 | | |
| | 8 | 世界の気候と日本の天気 ②天気の変化 | テキスト地学14～24 ④ 2時間 | テキスト地学25～36 ① 2時間 | | |
| | 9 | 天体の動きと地球の運動 ①星空を見よう | テキスト地学25～36 ① 2時間 | テキスト地学25～36 ② 2時間 | | |
| | 10 | 天体の動きと地球の運動 ②地球の自転 | テキスト地学25～36 ② 2時間 | テキスト地学25～36 ③ 2時間 | | |
| | 11 | 天体の動きと地球の運動 ③地球の公転と星座の動き | テキスト地学25～36 ③ 2時間 | テキスト地学25～36 ④ 2時間 | | |
| | 12 | 天体の動きと地球の運動 ④月と惑星の見え方 | テキスト地学25～36 ④ 2時間 | テキスト地学25～36 ⑤ 2時間 | | |
| | 13 | 太陽系と宇宙 ①太陽系の広がり | テキスト地学25～36 ⑤ 2時間 | テキスト地学25～36 ⑥ 2時間 | | |
| | 14 | 太陽系と宇宙 ②銀河の広がり | テキスト地学25～36 ⑥ 2時間 | テキスト地学37～42 ① 2時間 | | |
| | 15 | まとめ | テキスト地学37～42 ① 2時間 | | | |
| | | 実験観察を取り入れ、小テスト、グループ学習と発表を取り入れ、アクティブな学習を行う。 | | | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（知識、理解）60%、 受講態度（関心、意欲）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎回の、授業振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。 定期試験結果はルーブリック評価の結果を渡す |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト「地学」「地学図説資料」 |
| メッセージ など | 現在の地球の姿になるまでに 46 億年経過した地球のさまざまな変動の歴史を実感し、将来の地球環境のあり方を考察する。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------------|------------------------|-----------------------------|---------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 大地の活動の様子や身近な岩石、地層、地形などの観察を通して地球について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できている。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できている。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) 身近な気象の観察を通して、気象要素、大気の変化の関係を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できている。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できている。 | 説明できていない。 | | 20% |
| (3) 身近な天体の観察を通して、地球の運動について理解を深め、太陽・惑星・月の特徴を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できている。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できている。 | 説明できていない。 | | 20% |
| (4) 地学に関する身近な問題について、自分の意見を述べることができる。 | ほぼ完璧に自分の意見を述べている。 | 大きな間違いがなく、自分の意見を述べている。 | 大きな間違いがなく、自分の意見を述べている。 | 自分の意見を述べていない。 | 課題レポート (関心・意欲) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|-----------------------|-------------------------|------------------------|-----------|
| 学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings | | 全学科 | 20BAGE1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 柴田 道信・佐藤 嘉倫 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読み、科目の内容を把握する(1h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 2 | 本学を知る ～建学の精神と3つのポリシー～ | 学生便覧の該当箇所を読む(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 3 | 学生生活について①学生生活の心得 | 学生便覧の該当箇所を読む(2h) | 授業内容を振り返り、復習する(2h) | |
| | 4 | 学生生活について②安全・安心な生活 | 防災の種類と方法について調査する(2h) | 授業内容を振り返り、復習する(2h) | |
| | 5 | 学生生活について③アルバイトほか | 労働基準法について調査する(2h) | 授業内容を振り返り、復習する(2h) | |
| | 6 | 大学での学び | 大学での学びの意義を考え、まとめる(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 7 | グループ討議の方法 | ワールドカフェ方式について調査する(2h) | 授業内容を振り返り、復習する(2h) | |
| | 8 | グループ討議の実践 | 指定テーマについて自分の考えをまとめる(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 9 | 情報収集と情報整理・活用 | 情報収集の方法について考え、まとめる(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 10 | 論理的な思考方法 | 論理的な思考について考え、まとめる(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | |
| | 11 | レポートの書き方 | 指定テーマでレポートを作成する(2h) | レポートをまとめる(2h) | |
| | 12 | 過去と現在と未来の私①過去の振り返り | これまでの自分の振り返りを行う(2h) | 授業内容を振り返り、自己分析を進める(2h) | |
| | 13 | 過去と現在と未来の私②現在の分析 | 自己紹介書の各項目に記入する(2h) | 授業内容を振り返り、自己分析を進める(2h) | |
| | 14 | 過去と現在と未来の私③未来計画 | 卒業後の自分について考える(2h) | 授業内容を振り返り、将来設計を進める(2h) | |
| 15 | まとめ | 授業全体を振り返る(2h) | 授業内容を振り返り、考えをまとめる(2h) | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 小レポート（関心・意欲・態度、知識・理解、表現力）60% 課題レポート（知識・理解、思考力・判断力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | 必要に応じてプリント配布 |
| メッセージなど | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--------------------------|----------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 | 大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。 | 大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。 | 最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。 | 主体的な学びの姿勢が見られない。 | 小レポート（関心・意欲・態度・知識・理解） 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 | ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。 | 大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。 | 最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。 | アカデミック・スキルが身に付いていない。 | 小レポート（知識・理解・表現力） 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。 | 積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を大きく発展させることができる。 | コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。 | 最低限のコミュニケーションは図ることができる。 | コミュニケーションを図ることができない。 | 小レポート（関心・意欲・態度・表現力） 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------------|---|-----------------------|-----------------------------|------------------------------|-----------|
| 国際交流 International Activities | | 全学科 | 20BAGE2002 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 柴田 道信・呉 靱 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ |
| 概要 | 文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的として海外研修を実施する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。 (2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。 (3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読み、科目の内容を把握する (1h) | 国際交流の目的と意義を考えまとめる (1h) | |
| | 2 | 海外研修について | 海外研修先について調べる (1h) | 研修先についてまとめる (1h) | |
| | 3 | 国際交流と異文化理解 | 自分の人生における国際交流をまとめる (1h) | 国際交流を通して得たことをまとめる (1h) | |
| | 4 | グループワークについて | ワールドカフェ方式について調べる (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 5 | グループワーク (1) 常識と非常識 | 日常生活における常識と非常識を考える (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 6 | グループワーク (2) 食文化 | 自国の食文化の特徴をまとめる (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 7 | グループワーク (3) コミュニケーション | 日常使うジェスチャーを考える (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 8 | グループワーク (4) 価値観 | 自身の恋愛観・結婚観をまとめる (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 9 | グループワーク (5) テーマ討論 | 指定されたテーマについて自身の考えをまとめる (1h) | グループ討議の結果をまとめる (1h) | |
| | 10 | まとめ | 前期の授業内容を振り返りまとめる (2h) | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 外務省のHPで海外渡航の危険情報を見ておく (1h) | 配布プリントを復習する (1h) | |
| | 2 | 外国調査 (1) 基礎情報 | 研修先の基礎情報を調べておく (1h) | 基礎情報をまとめる (1h) | |
| | 3 | 外国調査 (2) 文化、習慣、国内事情 | 研修先の文化・習慣を調べておく (1h) | 文化・習慣をまとめる (1h) | |
| | 4 | 海外研修と異文化理解 | 海外研修を振り返りまとめる (1h) | 海外研修で得たことをまとめる (1h) | |
| | 5 | 国際交流のまとめ | 全授業内容を振り返りまとめる (1h) | この授業を通して得たことや考えたことをまとめる (1h) | |
| | ※上記15コマの授業の他に、海外研修(15コマ)を実施する。海外研修に参加できない学生には、異文化理解講座(担当:呉)の受講とレポート課題を課す。 | | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業の取り組み*（関心・意欲・態度・表現力）80% *授業内の小レポートも含む レポート（思考力・判断力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。 |
| テキストおよび 参考文献 | 適宜プリントを配布 |
| メッセージ な ど | 学生時代に海外を訪れ、異文化を体験するという事は、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。皆さんが海外研修に参加されることを期待しています。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|--|-----------------------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。 | 外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。 | 外国文化へ興味・関心を持ち、学ぶ姿勢も十分見られる。 | 外国文化への興味・関心は低い、最低限の学ぶ姿勢は見られる。 | 外国文化への興味・関心が低く、学ぶ姿勢が見られない。 | 授業の取り組み・レポート（関心・意欲・態度） | 40% |
| (2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。 | 完璧に身に付いている。 | 十分に身に付いている。 | 最低限であるが身に付いている。 | 身に付いていない。 | 授業の取り組み（関心・意欲・態度・表現力） | 30% |
| (3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。 | 自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。 | 自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。 | 自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。 | 自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・も低い。 | 授業の取り組み・レポート（思考力・判断力・表現力） | 30% |

| | | | | | |
|----------------------------|---|-------------------------------|--------------------------|-------------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 認知科学 Cognitive Sciences | | 全学科 | 20BAGE1003 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ |
| 概要 | 認知科学とは、哲学・心理学・神経科学・人工知能・人類学・言語学の6分野の連合体として人間の心と知能のメカニズムを明らかにする学問である。この授業では認知科学の基礎的知識である「空間認知」、「記憶」、「知覚」、「思考」について説明をする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。 (2) 情報の獲得・変更・保持・活用など心のソフトウェアとしての面を理解する。 (3) 多様な動物の認知知能と感情機能を、比較的単純な情報処理過程から他者のこころの理解に至るまで理解する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション — 認知科学とは | — | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 2 | ヒトはどんなふうにものを考えるか? — 感覚・知覚 | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 3 | ヒトはどんなふうにものを考えるか? — 直感と論理 | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 4 | 空間認知 — こころの中の認知地図 | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 5 | 動物たちの色の知覚 — 動物たちの基礎的な環境認識 | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 6 | 動物たちの形の知覚 — 錯視や形情報の処理の特徴 | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 7 | 動物たちの記憶 — 動物の記憶に関する実証的研究を紹介する | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 8 | 人間の知覚と記憶① — 記憶のメカニズム | テキストの第1章の1, 2節を読む・2時間 | もう一度第1章の1, 2節を読む・2時間 | |
| | 9 | 人間の知覚と記憶② — 人間の忘却 | テキストの第1章の3, 4, 5節を読む・2時間 | もう一度第1章の3, 4, 5節を読む・2時間 | |
| | 10 | 動物たちの社会的知性 — 人間を含む動物の社会的関係の形成 | テキストの第2章の1, 2節を読む・2時間 | もう一度第2章の1, 2節を読む・2時間 | |
| | 11 | 動物たちの感情 — 喜怒哀楽といった基本的な感情の形成 | テキストの第2章の3, 4, 5節を読む・2時間 | もう一度第2章の3, 4, 5節を読む・2時間 | |
| | 12 | チンパンジーのこころ — チンパンジーの知能と言語訓練 | テキストの第3章を読む・2時間 | もう一度第3章を読む・2時間 | |
| | 13 | イヌのこころ — 物理的知性、社会的知性、家畜化、オオカミ | テキストの第4章を読む・2時間 | もう一度第4章を読む・2時間 | |
| | 14 | イルカのこころ — 「音」の世界 | テキストの第5章を読む・2時間 | もう一度第5章を読む・2時間 | |
| | 15 | 全体のまとめ | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み・グループディスカッションへの参加 ワークシート（思考力・表現力・判断力）30%、期末発表（知識・理解）70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回のワークシートにコメントをつけて返却する 各学生の期末発表に対する視聴者の感想とコメント（無記名）及び教員のコメントを手渡しする |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『成功する子・失敗する子』英治出版 配布資料：『初めての認知科学』新曜社 |
| メッセージなど | 人間が世界をどのように感じ取っているのか、それはほかの動物とどう違うのかに興味がある人は受講して下さい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------|------------------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 期末発表 (70%) | 70% |
| (2) 情報の獲得・変更・保持・活用など心のソフトウェアとしての面を理解する。 | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） (30%) | 30% |
| (3) 多様な動物の認知知能と感情機能を、比較的単純な情報処理過程から他者のこころの理解に至るまで理解する。 | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | | |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|--|---|-----------|
| 言葉とコミュニケーション Language and Communication | | 全学科 (一般学生対象) | 20BAGE1004 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 小河原 香代子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ |
| 概要 | 英語と日本語の言語文化の違いを「ポライトネス」の表出の違いを通して、英語コミュニケーション能力を向上させるためのストラテジー（方略）について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。 (2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。 (3) 言語文化の違いについての気づき、考え方を述べることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | イントロダクション、Small Talk、初めての人に話しかけてみよう | Unit 1: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。Task 1-5 をする。(2時間) | Unit 1: テキストにある表現を覚える。音声が開けるところは音声聞いて練習する。(2時間) | |
| | 2 | Compliments、ほめてみよう | Unit 2: 同上 (2時間) | Unit 2: 同上 (2時間) | |
| | 3 | I beg your pardon?、わからないときは聞き直そう | Unit 3: 同上 (2時間) | Unit 3: 同上 (2時間) | |
| | 4 | Answering with additional information、もう一言加えてみよう | Unit 4: 同上 (2時間) | Unit 4: 同上 (2時間) | |
| | 5 | Backchanneling、あいづちを打とう | Unit 5: 同上 (2時間) | Unit 5: 同上 (2時間) | |
| | 6 | Showing interest、相手に興味を示そう | Unit 6: 同上 (2時間) | Unit 6: 同上 (2時間) | |
| | 7 | Thanking、お礼の言い方を覚えよう | Unit 7: 同上 (2時間) | Unit 7: 同上 (2時間) | |
| | 8 | Complaints、上手に苦情を言ってみよう | Unit 8: 同上 (2時間) | Unit 8: 同上 (2時間) | |
| | 9 | Apologies、上手に謝ろう | Unit 9: 同上 (2時間) | Unit 9: 同上 (2時間) | |
| | 10 | Dealing with undesirable questions、答えたくない質問へ上手に対処しよう | Unit 10: 同上 (2時間) | Unit 10: 同上 (2時間) | |
| | 11 | Requests、丁寧に頼んでみよう | Unit 11: 同上 (2時間) | Unit 11: 同上 (2時間) | |
| | 12 | Invitation (Asking for a date)、誘ってみよう | Unit 12: 同上 (2時間) | Unit 12: 同上 (2時間) | |
| | 13 | Saying "No"、うまく断ろう | Unit 13: 同上 | Unit 13: 同上 (2時間) | |
| | 14 | Softeners、口調を和らげる表現を覚えよう | Unit 14: 同上 (2時間) | Unit 14: 同上 (2時間) | |
| | 15 | How to say goodbye、会話を切り上げる表現を覚えよう | Unit 15: 同上 (2時間) | Unit 15: 同上 (2時間) | |
| | * 1 レッスン 1 Unit を目安としていますが、多少遅れることがあります。 | | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 期末テスト（知識・理解・表現力）70%、 毎回の授業感想レポート（関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび 参考文献 | ”Keep Talking - Strategies for Interpersonal Communication” Kasuyo Murata / Mami Otani / Yasumi Murata / Yuka Shigemitsu |
| メッセージ な | 実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|---|--|-------------------------------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。 | 課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。 | 課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。 | 課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。 | 課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。 | | 40% |
| (3) 言語文化の違いについての気づき、考え方を述べることができる。 | 言語文化の違いについて理解し、自分の気づき、考え方を明確に述べている。 | 言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気づき、考え方を述べている。 | 言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気づき、考え方を述べている。 | 言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。 | 授業内レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|---|-------------------|-------------------|-----------|
| 言葉とコミュニケーション Language and Communication | | 全学科 (留学生対象) | 20BAGE2005 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 伸一 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 日本語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？母語と日本語の言語文化の違いから日本語学習者が陥りやすい問題点に焦点を当て、読解力と会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 日本語の言語理解と表現のためのストラテジー能力を身につける。 (2) 言語文化の違いについて問題意識を高めることができる。 (3) コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | お願いがあるんですが(頼みにくいことを丁寧に頼む・感謝の気持ちを表す) / 昼 | オリエンテーション | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 2 | 何のことですか(わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認する) / 外来語 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 3 | 遅れそうなんです(事情を説明して丁寧に謝る・変更をお願いする) / 時間よ、止まれ! | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 4 | 伝言お願いできますか(伝言を頼む・受ける・留守番電話に伝言を残す) / 電話嫌い | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 5 | どう行ったらいいでしょうか(行き方を尋ねる・教える・道順を尋ねる・教える) / 地図 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 6 | 行かせていただきたいんですが(許可を得たいと申し出る) / メンタルトレーニング | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 7 | 楽しみにしています・遠慮させてください(誘いを受ける・断る) / まんじゅう、怖い | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 8 | 迷子になっちゃったんです(人や物の様子を詳しく説明する) / 科学者ってどう見える? | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 9 | どこが違うんですか(希望や条件を伝える・比較し選択する) / カラオケ | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 10 | そんなはずはありません(誤解されたことに冷静に反応する) / 記憶型と注意型 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 11 | お勧めのところ、ありませんか(提案する・提案を受け入れる) / 白川郷の黄金伝説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 12 | ご迷惑をかけてすみませんでした(謝る・事情を説明する) / 日本で暮らす(座談会) | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 13 | まとめと復習(弱点補強) 1 | 既習事項まとめ。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 14 | まとめと復習(弱点補強) 2 | 既習事項まとめ。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 15 | まとめと復習(弱点補強) 3 | 既習事項まとめ。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | * 1 レッスン 1 課を目安としていますので予習、復習をしっかりとって授業に臨むこと。 | | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 小テスト定期試験 100% 小テストと定期試験の評価比率に沿って総合的に成績を評価する。 |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。 |
| テキストおよび参考文献 | 『みんなの日本語 中級 I 本冊』『おいでませ山口 4』 小テストとして、日本語能力試験問題集などを用いる |
| メッセージなど | 日本語と日本文化に興味を持って、会話練習などの活動に積極的に授業参加されることを望みます。予習、復習が必要です。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------|----------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。 | ほぼ完璧に確認できる。 | 大きな間違いなく、確認できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。 | 確認することができない。 | 小テスト 定期試験 (知識・理解) | 25% |
| (2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。 | ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。 | 大きく礼を失することなく依頼し、感謝できる。 | 表現上の間違いはいろいろあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。 | 依頼し、感謝することができない。 | 小テスト 定期試験 (知識・理解) | 25% |
| (3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。 | ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。 | 大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。 | 表現上の間違いはいろいろあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。 | 事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更を願い出ることができない。 | 小テスト 定期試験 (意欲・表現力・判断力) | 25% |
| (4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく説明できる。 | 表現上の間違いはいろいろあるが、ほぼ説明できる。 | 人や物の様子を詳しく説明することができない。 | 小テスト 定期試験 (意欲・表現力・判断力) | 25% |

| | | | | | | |
|------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------|--------------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 英語会話 English Conversation | | 全学科 | | 20BAFL1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | Inkster Ryan | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ |
| 概要 | (概要) 様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ。 (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | | 準備学習 (復習内容・時間) |
| | 1 | (Assessment & Placement) 英会話レベル判定 | | 中高英語内容の復習 2 時間 | | 中高英語内容の復習 2時 間 |
| | 2 | Japanese Sports and clubs (スポーツ) | | Pg. 5 読む 2時間 | | Pg.6 読む 2時間 |
| | 3 | Japanese Sports and clubs (スポーツ) | | Pg. 7 読む 2時間 | | Pg8-9 読む 2時間 |
| | 4 | Japanese Music (音楽) | | Pg 11 読む 2時間 | | Pg12 読む 2時間 |
| | 5 | Japanese Music (音楽) | | Pg. 13 読む 2時間 | | Pg. 14-15 読む 2時間 |
| | 6 | Japanese Food (食べ物) | | Pg. 17 読む 2時間 | | Pg. 18 読む 2時間 |
| | 7 | Japanese Food (食べ物) | | Pg. 19 読む 2時間 | | Pg 20-21 読む 2時間 |
| | 8 | Japanese Holidays (祝日) | | Pg 29 読む 2時間 | | Pg. 30 読む 2時間 |
| | 9 | Japanese Holidays (祝日) | | Pg 31 読む 2時間 | | Pg. 32-33 読む 2時間 |
| | 10 | Japanese Games | | Pg. 35 読む 2時間 | | Pg. 36 読む 2時間 |
| | 11 | Japanese Games | | Pg. 37 読む 2時間 | | Pg. 38-39 読む 2時間 |
| | 12 | Famous Cities (観光) | | Pg. 41 読む 2時間 | | Pg. 42 読む 2時間 |
| | 13 | Famous Places (観光) | | Pg. 43 読む 2時間 | | Pg. 44-45 読む 2時間 |
| | 14 | REVIEW (復習) | | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 |
| | 15 | REVIEW (復習) | | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 |
| | TEST (試験) | | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | | 前期振り返り 2時間 | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 1 | Relaxation (趣味) | Pg. 48 読む 2時間 | Pg. 49 読む 2時間 |
| | 2 | Relaxation (趣味) | Pg. 50 読む 2時間 | Pg. 51-52 読む 2時間 |
| | 3 | Famous Japanese People (有名人) | Pg. 53 読む 2時間 | Pg. 54 読む 2時間 |
| | 4 | Famous Japanese People (有名人) | Pg. 55 読む 2時間 | Pg. 56-57 読む 2時間 |
| | 5 | Japanese Superstitions (迷信) | Pg. 59 読む 2時間 | Pg. 60 読む 2時間 |
| | 6 | Japanese Superstitions (迷信) | Pg. 61 読む 2時間 | Pg. 62-63 読む 2時間 |
| | 7 | Japanese Animations (アニメ、マンガ) | Pg. 65 読む 2時間 | Pg. 66 読む 2時間 |
| | 8 | Japanese Animations (アニメ、マンガ) | Pg. 67 読む 2時間 | Pg. 68-69 読む 2時間 |
| | 9 | Japanese Arts and Theater (芸術や劇場) | Pg. 71 読む 2時間 | Pg. 72 読む 2時間 |
| | 10 | Japanese Arts and Theater (芸術や劇場) | Pg. 73 読む 2時間 | Pg. 74-75 読む 2時間 |
| | 11 | Japanese Etiquette (エチケットマナー) | Pg. 77 読む 2時間 | Pg. 78 読む 2時間 |
| | 12 | Japanese Etiquette (エチケットマナー) | Pg. 79 読む 2時間 | Pg. 80-81 読む 2時間 |
| | 13 | Famous Buildings (有名な建物) | Pg. 83-84 読む 2時間 | Pg. 85-87 読む 2時間 |
| | 14 | REVIEW (復習) | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 |
| | 15 | REVIEW (復習) | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 |
| | | TEST (試験) | コミュニケーションサマ リー 学習 2時間 | 後期振り返り 2時間 |
| 成績評価 | 会話力テスト(100%) | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | マンツーマンインタビュー | | | |
| テキストおよび 参考文献 | Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793 | | | |
| メッセージ など | ネイティブ講師による基礎的な日常会話(コミュニケーション)授業 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------|----------------|-------------|--------------------|------------------|----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ | ほぼ完璧に学ぶことができる。 | あまり問題なくできる。 | 少しは問題があるが、最低限はできる。 | 語彙や文法を学ぶことができない。 | 講師との会話を通して会話力をテストする。 | 100% |
| (2) 英語を聞く力を養う。 | ほぼ完璧に学ぶことができる | あまり問題なくできる。 | 少しは問題があるが、最低限はできる。 | 聞く力を養うことができない。 | | |
| (3) さまざまなトピックで英会話を練習する | ほぼ完璧に学ぶことができる | あまり問題なくできる。 | 少しは問題があるが、最低限はできる。 | 英会話ができない。 | | |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|---|--------------------------------------|-------------------------------------|-----|-----------|
| 英語会話 English Conversation | | 全学科 | | 20BAFL1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 東 宮史 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ |
| 概 要 | (概要)2020年東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、海外に出るだけでなく海外から人々を迎え入れる準備をしなければならない。本科目では、海外から来る人々をどのように「もてなす」か、実践的なコミュニケーション活動を通して様々な語彙や表現を学びながら、コミュニケーション能力の養成を目指す。なお、聞く・話すだけでなく、読む・書く活動もコミュニケーションの一部として扱う。 (目標)四技能のスキルを練習し、コミュニケーション能力、グローバル社会で活用できる言語能力を身につけることを目標としている。また、様々なアクティビティを通して、他者との協同学習に必要な態度を身につけることを目標としている。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 基本的な文法を理解している。 (2) 英会話を聞いて、理解できる。 (3) 英語文化圏にある社会や文化への関心を高める。 (4) クラスメイトとの協同学習を通し、課題を解くことができる。 (5) 簡単な英語を使ってアウトプットすることができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | Introduction | Unit 1 を読んでおく。2時間。 | | | |
| | 2 | Unit 1: Would you like chicken or fish? | Unit 2 を読んでおく。2時間。 | Unit 1 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 3 | Unit 2: Can I have your passport, please? | Unit 3 を読んでおく。2時間。 | Unit 2 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 4 | Unit 3: My mother has her own business. | Unit 4 を読んでおく。2時間。 | Unit 3 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 5 | Unit 4: Can I check my email? | Unit 5 を読んでおく。2時間。 | Unit 4 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 6 | Unit 5: Are you ready to order? | Destination: The U.K. を読んでおく。2時間。 | Unit 5 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 7 | Destination: The U.K. | Unit 6 を読んでおく。2時間。 | Destination: The U.K. の振り返り。2時間。 | | |
| | 8 | Unit 6: Where's the station? | Unit 7 を読んでおく。2時間。 | Unit 6 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 9 | Unit 7: Can I use my card in this ATM? | Unit 8 を読んでおく。2時間。 | Unit 7 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 10 | Unit 8: Do you have a non-smoking room? | Unit 9 を読んでおく。2時間。 | Unit 8 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 11 | Unit 9: I have a stomachache. | Unit 10 を読んでおく。2時間。 | Unit 9 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 12 | Unit 10: I'm from Japan | Destination: New Zealand を読んでおく。2時間。 | Unit 10 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | |
| | 13 | Destination: New Zealand | Unit 1-5 を読んでおく。2時間。 | Destination: New Zealand の振り返り。2時間。 | | |
| | 14 | Review and activities | Unit 6-10 を読んでおく。2時間。 | Unit 1-5 の振り返り、期末に備える。2時間。 | | |
| 15 | Review and activities | Unit 1-10 を読んでおく。2時間。 | Unit 6-10 の振り返り、クイズに備える。2時間。 | | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|--|----------------------------------|--------------------------------|
| | 1 | Review | Unit 11を読んでおく。2時間。 | |
| | 2 | Unit 11: What time does it start? | Unit 12を読んでおく。2時間。 | Unit 11の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 3 | Unit 12: Have you been to the islands? | Unit 13を読んでおく。2時間。 | Unit 12の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 4 | Unit 13: I really like rugby! | Unit 14を読んでおく。2時間。 | Unit 13の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 5 | Unit 14: Where should we meet? | Unit 15を読んでおく。2時間。 | Unit 14の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 6 | Unit 15: How about 400 baht for two? | Destination: Thailandを読んでおく。2時間。 | Unit 15の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 7 | Destination: Thailand | Unit 16:を読んでおく。2時間。 | Destinationの振り返り。2時間。 |
| | 8 | Unit 16: I'd like to send this to Japan, please. | Unit 17を読んでおく。2時間。 | Unit 16の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 9 | Unit 17: We are staying five more days. | Unit 18を読んでおく。2時間。 | Unit 17の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 10 | Unit 18: I lost my bag! | Unit 19を読んでおく。2時間。 | Unit 18の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 11 | Unit 19: Which bus goes to the airport? | Unit 20を読んでおく。2時間。 | Unit 19の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 12 | Unit 20: What did you like the best? | Destination: Irelandを読んでおく。2時間。 | Unit 20の振り返り、クイズに備える。2時間。 |
| | 13 | Destination: Ireland | Unit 10-15を読んでおく。2時間。 | Destination: Irelandの振り返り。2時間。 |
| | 14 | Review and activities | Unit 15-20を読んでおく。2時間。 | Unit 10-15の振り返り、期末に備える。2時間。 |
| 15 | Review and activities | Unit 10-20を読んでおく。2時間。 | Unit 16-20の振り返り、期末に備える。2時間。 | |
| 成績評価 | 毎回の学習ポートフォリオ（関心・意欲・態度・思考力）30%、ユニットクイズ（知識・理解・表現力）20%、共同学習アクティビティ（関心・意欲・態度・技能・表現力・判断力・思考力）20%、期末試験（知識・理解）30% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | ポートフォリオとユニットクイズはコメントを記入する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | Passport 2 nd Edition Level 1 Student Book with CD, Oxford University Press (ISBN: 978-0-19-471816-5) | | | |
| メッセージなど | 必要であれば、辞書持参のこと。クラスメートとの協同学習に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたと思いますので、学生の皆様のご協力をお願いします！ | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------|--------------------------|---------------------------------|--------------------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 英会話を聞いて、理解することができ、基本的な文法を理解している。 | ほぼ完璧に理解し、使用できる。 | 語彙や表現の理解に大きな誤りはなく、使用できる。 | 語彙や表現の理解や使用にいくつか誤りがあるが、最低限、できる。 | 理解や使用ができない。 | 定期試験 (関心・意欲・知識・理解・表現力・判断力・思考力) | 30% |
| (2) 協同学習を通し、課題に取り組むことができる。 | 真摯な態度で取り組む。 | ある程度、真剣に取り組む。 | 最低限の態度で取り組む。 | 協同学習アクティビティに参加しない。 | | 40% |
| (3) 簡単な英語を使ってアウトプットを試み、コミュニケーションをとることができる。 | ほぼ完璧に使用できる。 | 大きな誤りはなく、使用できる。 | いくつか誤りがあるが、最低限の表現を使用できる。 | 使用することができない。 | | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|----------------------------|----------------------|----------------------|-----|-----------|
| 英語会話 English Conversation | | 全学科 | | 20BAFL1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 大野 厚子 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 英語学習初心者を対象とする。英語の基礎から紹介していく。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 学習者が英語に抵抗がなくなり、慣れ親しむことができる。 (2) 会話に必要な語彙を楽しく学んで、身につけることができる。 (3) 文法を会話の中で自然に使うことができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | (Assessment 1 & Placement) | P10, 11 をやる。1時間 | NA | | |
| | 2 | Daily Life | P16, 17 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 3 | Weekend Events- | P22, 23 をやる。1時間 | Dialog を練習する 30分 | | |
| | 4 | Small Talk | P30, 31 をやる。1時間 | Dialog を練習する 30分 | | |
| | 5 | Likes and Dislikes | P36, 37 をやる。1時間 | Dialog を練習する 30分 | | |
| | 6 | Student Life | P42, 43 をやる。1時間 | Dialog を練習する 30分 | | |
| | 7 | Family | P52, 53 をやる。1時間 | Dialog を練習する 30分 | | |
| | 8 | Friends | P60, 61 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 9 | Going Out | P66, 67 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 10 | Restaurants | P74, 75 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 11 | Shopping | P80, 81 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 12 | Strengths and Weaknesses | P86, 87 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 13 | Places | P94, 95 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 14 | Vacations | P100, 101 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| 15 | Experiences | P106, 107 をやる。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | Hi, is this seat taken? | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 2 | That's a lovely T-shirt. | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 3 | Pardon? | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 4 | I really enjoyed it. | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 5 | Is that right? | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 6 | How about you? | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 7 | Thank you so much. | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| | 8 | Excuse me, but... | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | |
| 9 | This is my fault. | 日本語の表現を調べてく る。1時間 | Dialog を練習する。 30分 | | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---|---|-------------------|---------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 10 | I' d rather not say. | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| | 11 | Could you tell me the way to the station? | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| | 12 | How about next Sunday? | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| | 13 | I' ll think about it. | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| | 14 | That' s a good idea, but... | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| | 15 | I' d better be going. | 日本語の表現を調べてくる。1時間 | Dialogを練習する。 30分 |
| 成績評価 | 習ったことをどれだけ身に付けたかをテストする。 定期試験（文法、語彙、リスニングなどの基本）100% 1. ペーパーテスト 2. Dialogを作成してacting out する。 | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 発表させてその時にコメントを言う。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | Free Talking: Basic Strategies for Building Communication Keep Talking | | | |
| メッセージ など | | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|----------------------------------|-----------|------------------------|--------------------------|------------------|----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 学習者が英語に抵抗がなくなり、慣れ親しむことができる。 | ほぼ完璧にできる。 | あまり躊躇なく、できる。 | 少しは抵抗があるが、最低限はできる。 | 慣れ親しむことはできない。 | 定期試験 (文法、語彙、リスニングなどの基本) | 30% |
| (2) 会話に必要な語彙を楽しく学んで、身につけることができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、身につけることができる。 | 間違いはあるが、最低限を身に付けることができる。 | 身につけることができない。 | | 30% |
| (3) 文法を会話の中で自然に使うことができる | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、使うことができる。 | 間違いはあるが、最低限を使うことはできる。 | 文法を会話で使うことはできない。 | | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|--|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-----------|----|
| ハングル Korean Language | | 全学科 | | 20BAFL1002 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 | |
| 演習 | 2 | 選択 | 朴賢珠 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | | ○ |
| 概要 | ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。韓国人留学生と一緒に勉強することで異文化コミュニケーションを図る授業になる。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | ハングルの仕組み① -文字の組み合わせパターン- | テキスト 2~3 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 2~3 ページを復習する。2時間 | | |
| | 2 | ハングルの仕組み② -基本母音- | テキスト 4~5 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 4~5 ページを復習する。2時間 | | |
| | 3 | ハングルの仕組み③ -基本子音- | テキスト 6~7 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 6~7 ページを復習する。2時間 | | |
| | 4 | ハングルの仕組み④ -濃音- | テキスト 8~10 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 8~10 ページを復習する。2時間 | | |
| | 5 | ハングルの仕組み⑤ -複合母音- | テキスト 13~14 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 13~14 ページを復習する。2時間 | | |
| | 6 | ハングルの仕組み⑥ -パッチム (1) - | テキスト 15~17 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 15~17 ページを復習する。2時間 | | |
| | 7 | ハングルの仕組み⑦ -パッチム (2) - | テキスト 15~17 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 15~17 ページを復習する。2時間 | | |
| | 8 | 日本語のハングル表記 | テキスト 18~20 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 18~20 ページを復習する。2時間 | | |
| | 9 | ハングルの仕組みのまとめ | テキスト 19~20 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 19~20 ページを復習する。2時間 | | |
| | 10 | 中間テスト | テスト範囲を勉強しておく。 | テスト範囲をまとめる。 | | |
| | 11 | 視聴覚教育・映画観賞① -前半- | テーマに沿って事前調査をしておく。2時間 | テーマに沿って事前調査をする。2時間 | | |
| | 12 | 視聴覚教育・映画観賞② -後半- | テーマに沿って事前調査をしておく。2時間 | テーマに沿って事前調査をする。2時間 | | |
| | 13 | 「名詞+です」文の作り方 | テキスト 36~37 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 36~37 ページを復習する。2時間 | | |
| | 14 | 「名詞+ですか」文の作り方 | テキスト 38~39 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 38~39 ページを復習する。2時間 | | |
| 15 | まとめ | テキスト 23~42 ページを読んでおく。2時間 | テキスト 23~42 ページを復習する。2時間 | | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|--------------------------------|---|-------------------------|------------------------|-----------------------|
| | 1 | 前期の復習① - 1回目- | テキスト4~21ページを読んでおく。2時間 | テキスト4~21ページを復習する。2時間 |
| | 2 | 前期の復習② - 2回目- | テキスト23~42ページを読んでおく。2時間 | テキスト23~42ページを復習する。2時間 |
| | 3 | 動詞・形容詞の丁寧形① - です/ます形- | テキスト46~47ページを読んでおく。2時間 | テキスト46~47ページを復習する。2時間 |
| | 4 | 動詞・形容詞の丁寧形② - ですか/ますか形- | テキスト54~57ページを読んでおく。2時間 | テキスト54~57ページを復習する。2時間 |
| | 5 | 視聴覚教育 | テーマに沿って事前調査をしておく。2時間 | 感想文を提出する。2時間 |
| | 6 | 助詞のまとめ | テキスト48~49ページを読んでおく。2時間 | テキスト48~49ページを復習する。2時間 |
| | 7 | 中間テスト | テスト範囲を勉強しておく。 | テスト範囲をまとめる。2時間 |
| | 8 | 指示代名詞を使った表現 | テキスト58~59ページを読んでおく。2時間 | テキスト58~59ページを復習する。2時間 |
| | 9 | 人称代名詞を使った表現 | テキスト60~61ページを読んでおく。2時間 | テキスト60~61ページを復習する。2時間 |
| | 10 | 「イダ」否定形 | テキスト62~63ページを読んでおく。2時間 | テキスト62~63ページを復習する。2時間 |
| | 11 | 動詞・形容詞の前置否定形 | テキスト66~69ページを読んでおく。2時間 | テキスト66~69ページを復習する。2時間 |
| | 12 | 動詞・形容詞の後置否定形 | テキスト66~69ページを読んでおく。2時間 | テキスト66~69ページを復習する。2時間 |
| | 13 | 否定形のまとめ | テキスト70~71ページを読んでおく。2時間 | テキスト70~71ページを復習する。2時間 |
| | 14 | 尊敬形 | テキスト72~77ページを読んでおく。2時間 | テキスト72~77ページを復習する。2時間 |
| 15 | まとめ | テキスト46~77ページを読んでおく。2時間 | テキスト46~77ページをまとめる。2時間 | |
| 成績評価 | 定期試験(知識):40%、レポート(関心・意欲・態度):30% 発表(表現):40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法 | 試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 朴賢珠 他「サランヘヨ!ハングルー初級から中級へ」白帝社、2015年 | | | |
| メッセージ など | 山口は韓国と深いつながりがある場所です。 韓国の留学生と一緒にハングルを勉強しましょう。 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------------|------------------|-----------------------|------------------|----------------|------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、読み書きができる。 | 最低限の読み書きができる。 | 読み書きができない。 | 定期試験・課題(知識・理解) | 20% |
| (2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。 | 発表や発言など積極的に参加する。 | 発表や発言などに積極的ではないが参加する。 | 発表や発言など部分的に参加する。 | 発表や発言などに参加しない。 | レポート・発表(関心・意欲・思考力・表現力) | 20% |
| (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、応用できる。 | 最低限の文法の応用ができる。 | 文法の応用ができない。 | 定期試験・課題(知識・理解) | 30% |
| (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、韓国語会話ができる。 | 最低限の会話ができる。 | 簡単な韓国語会話ができない。 | 定期試験・課題(知識・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|--|-------------------------------|---|--|-----------|
| 日本語 Japanese Language | | 全学科 (留学生対象) | 20BAFL1003 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義・演習 | 2 | 選択 | 鈴木 隆子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ |
| 概要 | (1) 基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 (2) 日本語の特色を理解する。 (3) 日本語能力試験等の資格を取得する。 (4) 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 日常生活や授業・受講を支える基礎的な会話・読み書きができる。 (2) カタカナ・ひらがな・漢字を習得し、課題についてレポートを書くことができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用語など日本語の特色を理解し、日常会話の中で使うことができる。 (4) 日本語能力試験等の資格試験にチャレンジし、最低2級の資格を取得する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション、学習のすすめ方 | | 「テキスト日常会話1課の和訳・暗 誦」「自己紹介文」7時間 | |
| | 2 | 日常会話の基礎①－自己紹介、挨拶、基本会話 | 「日常会話1課6枚」「自己紹介」目 的別の自己紹介文下書 7時間 | 「会話1課暗誦」「自己紹介文清書」 「日常生活基本語①を覚える」 7時間 | |
| | 3 | 日常会話の基礎②－日常生活の基本語彙 | 「会話2課」「基本語①のテスト」7 時間 | 「会話2課」「基本語①読解再学習」 7時間 | |
| | 4 | 日本語の文字－ひらがな、カタカナ、漢字、 | 「50音図」「会話3課」「基本語②」7 時間 | 「50音図再学習プリント」「会話3課 「基本語②」」7時間 | |
| | 5 | 日本語の発音・イントネーション | 「会話4課」「基本語③」「漢字106 字への挑戦テスト①」7時間 | 「会話4課」「基本語③」「漢字再問 題①」7時間 | |
| | 6 | 日常会話の基本単語①－発音練習－ | 「会話5課」「基本語④」「漢字②」7 時間 | 「会話5課」「基本語④」「漢字②」7 時間 | |
| | 7 | 日本語能力試験への対応の仕方① | 「会話6課」「基本語⑤」「漢字③」「日 本語能力試験2級練習問題」 7時間 | 「会話6課」「基本語⑤」「漢字③」「日 本語能力試験2級復習①」 7時間 | |
| | 8 | 日常会話の基本文形①－5W1H | 「会話7課」「基本語⑥」「漢字④」「日 本語能力試験②」7時間 | 「会話7課」「基本語⑥」「漢字④」「日 本語能力試験②」7時間 | |
| | 9 | 日常会話の基本文形②－動詞の活用－ | 「会話8課」「基本語⑦」「漢字⑤」「日 本語能力試験③」7時間 | 「会話8課」「基本語⑦」「漢字⑤」「日 本語能力試験③」7時間 | |
| | 10 | 日常会話の基本文形③－過去、現在、未来－ | 「会話9課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日 本語能力試験④」7時間 | 「会話9課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日 本語能力試験④」7時間 | |
| | 11 | 日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い 方－ | 「会話10課」「基本語⑨」「漢字⑦」 「日本語能力試験⑤」7時間 | 「会話10課」「基本語⑨」「漢字⑦」 「日本語能力試験⑤」7時間 | |
| | 12 | 日常会話の基本文形⑤－否定、疑問 | 「会話11課」「基本語⑩」「漢字⑧」 「日本語能力試験⑥」7時間 | 「会話11課」「基本語⑩」「漢字⑧」 「日本語能力試験⑥」7時間 | |
| | 13 | 日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、 経験 | 「会話12課」「基本語⑪」「漢字⑨」 「日本語能力試験⑦」7時間 | 「会話12課」「基本語⑪」「漢字⑨」 「日本語能力試験⑦」7時間 | |
| | 14 | 日本語の特色①－補助用語・複合語－ | 「会話13課」「基本語⑫」「漢字⑩」 「日本語能力試験⑧」7時間 | 「会話13課」「基本語⑫」「漢字⑩」 「日本語能力試験⑧」7時間 | |
| | 15 | 日本語の特色②－敬語－ | 「会話14課」「基本語⑬」「漢字⑪」 「日本語能力試験⑨」7時間 | 「会話14課」「基本語⑬」「漢字⑪」 「日本語能力試験⑨」7時間 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|-------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 学習のすすめ方、前期の学習の復習、 | 「会話15課」「基本語①」「漢字②」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話15課」「基本語①」「漢字②」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 2 | 日本語能力試験への対応②－語彙・文字－ | 「会話16課」「基本語⑤」「漢字③」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話16課」「基本語⑤」「漢字③」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 3 | 日本語能力試験への対応③－聴解－ | 「会話17課」「基本語⑥」「漢字④」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話17課」「基本語⑥」「漢字④」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 4 | 日本語能力試験への対応④－文法－ | 「会話18課」「基本語⑦」「漢字⑤」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話18課」「基本語⑦」「漢字⑤」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 5 | 日本語能力試験への対応⑤－読解－ | 「会話19課」「基本語⑧」「漢字⑥」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話19課」「基本語⑧」「漢字⑥」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 6 | 日本語の特色③－慣用語、ことわざ－ | 「会話20課」「基本語⑨」「漢字⑦」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話20課」「基本語⑨」「漢字⑦」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 7 | 日本語の特色④－部首・同音異義語－ | 「会話21課」「基本語⑩」「漢字⑧」 「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話21課」「基本語⑩」「漢字⑧」 「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 8 | 日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－ | 「会話22課」「漢字⑨」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話22課」「漢字⑨」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 9 | 日本語の特色⑥－方言と共通語－ | 「会話23課」「漢字⑩」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話23課」「漢字⑩」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 10 | 日本の国語教科書①－教科書概観・音読－ | 「会話24課」「漢字⑪」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話24課」「漢字⑪」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 11 | 日本の国語教科書②－教科書輪読－ | 「会話25課」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「会話25課」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 12 | 日本の国語教科書③－教科書発表－ | 「漢字⑬」「教科書音読」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「漢字⑬」「教科書音読」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 13 | 日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－ | 「漢字⑭」「教科書音読・練習」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「漢字⑭」「教科書視写」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 14 | 日本語によるスピーチ②－発表－ | 「漢字⑮」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験⑩」 7時間 | 「漢字⑮」「スピーチ原稿音読」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| | 15 | 日本語によるスピーチ③－発表－ | 「スピーチ練習」(「日本語能力試験⑩」) 7時間 | 「スピーチ原稿音読」「日本語能力試験⑩」 7時間 |
| 成績評価 | 定期試験（知識）20%、 毎授業の小テスト（知識・技能）30%、 レポート・発表・授業への取り組み・個人指導（関心・意欲・態度）30%、 日本語能力試験資格取得 20% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：テキスト・プリントをその都度配布 | | | |
| メッセージなど | 日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|--|---|--------------------------|--------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 基本文型を理解し、留学生生活を支える基礎的な日常会話ができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 聞き取るこ とが完璧に でき、話す こともほぼ できる。 | 間違いはあ るが、最低 限の会話は できる。 | 日常会話が できない。 | 取組み・発表 (関心・意欲・表 現力) | 30% |
| (2) カタカナ・ひらが な・教育漢字をマス ターし、平易な文章 の読み書きができ る。 | ほぼ完璧に できる。 | 間違いはあ るがほぼで きる。 | 間違いは多 いが、最低 限の基本的 なことはで きる。 | 平易な文章 の読み書き も難しい。 | 毎時間の小テ スト(実 技)(知識・理解) | 30% |
| (3) 敬語・オノマトペ・ 慣用句など、日本語 の特色を知り、会話 の中で使うことがで きる。 | 意味を理解 し、積極的 に会話の中 で使うこと ができる。 | 基本的なこ とは理解し ているが、 使いこなす ことはでき ない。 | 聞き取るこ とはできる が使うこと はできな い。 | 会話の中で 使うことは できない。 | 定期試験(実 技)(知識・理解) | 20% |
| (4) 最低2級の日本語能 力試験の資格を取得 する。 | 能力試験 2 級に合格し ている。 | 校内 2 級試 験に合格し ている。 | 3 級レベル には到達し ている。 | 3 級レベル にも到達し ていない。 | 7月・12月の 日本語能力試 験 2月校内試験 | 20% |

| | | | | | |
|----------------------------------|---|---------------------------------|-------------------------|--------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 健康科学 Health Science | | 全学科 | 20BAHP1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 1 | 必修 | 上地 広昭 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 運動、睡眠、および食行動などの健康行動が生活習慣病に及ぼす影響を説明し、健康行動変容に関する理論・モデルを紹介する。また、健康増進のためのプログラム作りなども行い理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 生活習慣病予防に果たす健康行動の役割を説明できる。 (2) 健康行動変容に関する理論・モデルを説明できる。 (3) 健康行動に関する理論を健康指導や健康増進プログラム作りに応用できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | イントロダクション (健康に関する用語の整理) | 健康に関する身近な情報の収集 1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 2 | 健康行動と疾病予防① | 運動実施状況についてのセルフモニタリング1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 3 | 健康行動とメンタルヘルスの関係 | 睡眠習慣についてのセルフモニタリング 1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 4 | 若年女性におけるダイエット行動と健康 | 日常の食事についてのセルフモニタリング 1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 5 | 健康行動変容の理論と実際① (変容ステージ・意志決定バランス) | 行動変容理論についての事前調べ 1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 6 | 健康行動変容の理論と実際③ (内発的動機づけ) | 動機づけについての事前調べ 1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 7 | 行動変容の理論と実際⑤ (ソーシャルマーケティング) | 身近な健康キャンペーンについての情報収集1時間 | 授業内容のまとめ・ノート整理 1時間 | |
| | 8 | まとめ | 試験準備 1時間 | 試験の問題の振り返り 1時間 | |
| 成績評価 | 定期試験 (知識・理解) 100% 最終授業で行う試験において 60 点以上を合格とする。出席回数および課題の提出状況は欠格条件とする。 | | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 事前学習で行わせる課題については、授業中に実施状況を確認し、授業の中で活用する。また、試験については、合格基準に達していない場合、再度、同様の範囲から試験を行う。 | | | | |
| テキストおよび 参考文献 | テキストの購入は必要ない | | | | |
| メッセージ など | 生涯を通して健康管理を行うための知識を身につけてもらいたい。 | | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|-------------|----------------|---------------|-----------|-----------------|------|
| (1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく説明できる。 | 最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく説明できる。 | 最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) 健康行動変容の理論と実際についての説明 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく説明できる。 | 最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------|---|-------------------------|--------------------|---------------------|-----------|
| スポーツ教育 Sport Education | | 全学科 | 20BAHP1002 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実技 | 1 | 必修 | 子安 崇夫・斎藤 雅記 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す (2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる | | | | ○ ○ |
| 概要 | 現代社会は生涯を通じてスポーツに参加することが国民の教養の一つになっている。しかし、今日のスポーツ状況は様々に多様化しているし、国民のスポーツニーズも多様化している。 そのような状況をふまえて山口短大では、以下の2つのコースを設定し、1年次にその中から1つを選ぶ選択性の授業を実施している。また、夏期野外活動（キャンプ）コースを選択すれば、日本キャンプ協会のキャンプ・インストラクターの資格が取得できる。なお、重複履修も可能である。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。 (3) スポーツや野外活動を楽しむための基礎的な知識や技能を修得する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (選択1) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション（スポーツ教育のねらい） | | バスケットボールについて調べる。2時間 | |
| | 2 | グループづくり | バスケットボールの基本の確認。2時間 | バスケットボールについて調べる。2時間 | |
| | 3 | バスケットボールのルール及び基礎技能練習 | 次時の学習内容の動きの確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 4 | ドリブル・パスの練習 | 次時の学習内容の動きの確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 5 | シュートの練習 | 次時の学習内容の動きの確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 6 | ドリブルゲーム | 次時の学習内容の動きの確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 7 | アウトナンバーゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 8 | ゲーム分析及びゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 学習内容の動きの復習。2時間 | |
| | 9 | イーブンナンバーゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 戦術面の復習。2時間 | |
| | 10 | 連携を意識したゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 戦術面の復習。2時間 | |
| | 11 | 空間に入り込むことを意識したゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 戦術面の復習。2時間 | |
| | 12 | 空間を作り出すことを意識したゲーム | ゲーム中の動き方の確認。2時間 | 戦術面の復習。2時間 | |
| | 13 | 戦術の作成とゲーム | 戦術の確認。2時間 | 戦術面の復習。2時間 | |
| | 14 | まとめ：リーグ戦① | 戦術の確認。2時間 | ゲームの総括。2時間 | |
| | 15 | まとめ：リーグ戦②（勝率に応じたゲームの展開） | 戦術の確認。2時間 | ゲームの総括。2時間 | |

| 授業内容 と 進め方 (選択2) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|-------------------------------|---|----------------------|----------------------|-----------------------|
| | 1 | オリエンテーション (野外活動のねらい) | | 授業の内容選択および提出。2時間 |
| | 2 | グループづくり・係決め | 活動内容の確認。2時間 | グループによる役割分担決め。2時間 |
| | 3 | 携帯コンロの使い方 | 道具の準備と使い方を読む。2時間 | 道具の片づけと使い方の復習。2時間 |
| | 4 | ダッチオープンの使い方 | ダッチオープンの使い方の予習。2時間 | 片付けと復習。2時間 |
| | 5 | キャンプの安全性についての理論 | キャンプでの危険性について調べる。2時間 | 学習内容のまとめ。2時間 |
| | 6 | 野外活動の基本および山の歩き方 | プログラムの確認。2時間 | 野外活動の基本についてまとめる。2時間 |
| | 7 | キャンプの歴史 | キャンプのテキストを読む。2時間 | 学習内容の振り返り。2時間 |
| | 8 | タープの設営 | 道具の確認。2時間 | タープの設営の復習。2時間 |
| | 9 | 野外炊飯の理論 | しおりを見て事前学習。2時間 | 野外炊飯の応用活動。2時間 |
| | 10 | 地図とコンパスの使い方 | しおりを見て事前学習。2時間 | 学習内容の復習。2時間 |
| | 11 | 登山の理論と装備 | しおりをみて事前学習。2時間 | 学習内容の復習。2時間 |
| | 12 | 登山の実践 | しおりをみて事前学習。2時間 | 実践。2時間 |
| | 13 | キャンドルサービスの理論 | しおりをみて事前学習。2時間 | 実践。2時間 |
| | 14 | キャンドルサービスの実践 | しおりをみて事前学習。2時間 | 実践。2時間 |
| | 15 | 撤収とまとめ | 全体の撤収作業前の各自の撤収作業。2時間 | キャンプ全般に対する感想をまとめる。2時間 |
| 成績評価 | 授業への取り組み・ゲーム (関心・意欲・表現力) 30% 授業への取り組み・レポート (知識・理解、思考力・判断力・表現力) 30% 授業への取り組み・グループ活動・レポート (知識・理解、思考力・判断力・表現力) 40% | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 基本的には実技であるため、活動中に振り返りの時間を設け、フィードバックする。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 夏期野外活動 (キャンプ) コース: 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」 スポーツコーチングコース: 基本的に各授業開始時にプリントを配布する。 | | | |
| メッセージなど | 自分たち自らスポーツを楽しむために必要な言動を意識的に身につけるように努力してほしい。 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。 | 自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる | 自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる | 自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる | 自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない | 授業への取り組み・ゲーム (関心・意欲、思考力・表現力) | 30% |
| (2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。 | ほぼ完璧に修得している | 大きな間違いがなく修得している | 最低限のことは修得している | 修得していない | 授業への取り組み・レポート (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (3) スポーツや野外活動を楽しむための基礎的な知識や技能を修得する。 | ほぼ完璧に修得している | 大きな間違いがなく修得している | 最低限のことは修得している | 修得していない | 授業への取り組み・グループ活動・レポート (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|---------------------|--------------------------------|--|-----------|
| 情報科学概論 Introduction to Information Science | | 情報メディア学科 | 20IMC01001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 情報社会を構築するコンピュータや情報通信に関する幅広い知識を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) コンピュータの基本構成や動作原理を説明できる。 (2) コンピュータ内での情報の表現方法について説明できる。 (3) インターネットや暗号化など情報通信技術の基本的な事項について説明できる。 (4) IoTやAIに関する基本的な事項について説明できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーションー情報科学とは何かー | 情報とは何かを学習しておく。2時間 | 情報と情報科学の位置づけを確認しておく。2時間 | |
| | 2 | 情報とは…情報量と単位 | ビット、バイトについて学習しておく。2時間 | 情報量の単位キロ、メガ、ギガ、テラバイトについて再度学習しておく。2時間 | |
| | 3 | 情報の表現ー文字の符号化ー | JISコード等について学習しておく。2時間 | 文字コードが読み取れるようにしておく。2時間 | |
| | 4 | 情報の表現ー数値の表現ー | 2進数について学習しておく。2時間 | 2進数、10進数、16進数の相互変換を確認しておく。2時間 | |
| | 5 | 論理演算と論理関数、論理回路 | 基本論理演算について学習しておく。2時間 | 真理値表から主加法標準形が求められるように学習しておく。2時間 | |
| | 6 | コンピュータの種類と歴史 | コンピュータの種類について学習しておく。2時間 | ノイマン方式のコンピュータについてまとめておく。2時間 | |
| | 7 | コンピュータの構成要素 | 5大機能について学習しておく。2時間 | K-COMマイコンを用いてCPUの動作を確認しておく。2時間 | |
| | 8 | オペレーティングシステム | OSの種類について学習しておく。2時間 | なぜOSが必要なのか再度まとめておく。2時間 | |
| | 9 | システム構築とデータベース | データベースとは何か調査をしておく。2時間 | 情報システム開発プロセスについて再度学習しておく。2時間 | |
| | 10 | プログラムとアルゴリズム | プログラム開発言語にはどのようなものがあるか調査する。2時間 | アルゴリズムの種類をまとめる。2時間 | |
| | 11 | コンピュータネットワーク | プロトコルとは何か調査しておく。2時間 | IPアドレスとドメインの関係を再度学習しておく。2時間 | |
| | 12 | インターネットとセキュリティ | ファイアーウォールについて調査しておく。2時間 | 暗号方式や電子認証について再度学習する。2時間 | |
| | 13 | IoTについて | IoTの現状について学習しておく。2時間 | IoTの将来展望についてまとめておく。2時間 | |
| | 14 | AIについて | AIの現状について学習しておく。2時間 | 機械学習の教師有り学習、教師無し学習、強化学習について違いをまとめておく。2時間 | |
| | 15 | まとめ | 定期試験に向けて学習した内容をまとめておく。2時間 | 定期試験に向けて各自でまとめる。2時間 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） 80%、 課題レポート（関心・意欲・表現力） 20% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 確認テストを数回実施し、その結果をフィードバックします。また、試験はルーブリック評価の結果を渡します。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし 参考文献：「情報科学の基礎」実教出版 |
| メッセージなど | 情報に関する技術革新はとどまることがありません。コンピュータの仕組みや動作原理を理解し、幅広い知識を習得することは「IT革命」の時代を生きるわれわれにとって非常に重要なことです。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|----------------------------|-------------------------|----------------------------|------------------|---------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンピュータの基本構成や動作原理を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (2) コンピュータ内での情報の表現方法について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 30% |
| (3) インターネットや暗号化など情報通信技術の基本的な事項について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 30% |
| (4) IoTやAIに関する基本的な事項について説明できる。 | 非常に多くの情報収集ができており、完璧に説明できる。 | 基礎的な情報収集ができており、ほぼ説明できる。 | 基礎的な情報収集はできているが、説明が十分ではない。 | 課題レポートが提出できていない。 | 課題レポート（関心・意欲・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------------------------|--|------------------------------|-----|-----------|
| 情報モラルとセキュリティ Information Ethics and Security | | 情報メディア学科 | | 20IMC01002 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 林 孝哉 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | | ○ |
| 概要 | 情報やネットワークを利用する上で必要とされる事柄は、「情報リテラシー」、「情報モラル」、「情報セキュリティ」である。本講義では、「情報モラル」および「情報セキュリティ」について説明する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 情報モラルとは何か、またその必要性を説明できる。 (2) 情報セキュリティ対策とその必要性について説明できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 情報化社会のモラルとセキュリティ | テキスト「情報モラル」の第1章を読んでおく。2時間 | 情報化社会のモラルとセキュリティについて復習する。2時間 | | |
| | 2 | 個人情報の取り扱い | テキスト「情報モラル」の第2章を読んでおく。2時間 | 個人情報の取り扱いについて復習する。2時間 | | |
| | 3 | デジタル時代の著作権 | テキスト「情報モラル」の第3章を読んでおく。2時間 | デジタル時代の著作権について復習する。2時間 | | |
| | 4 | ネット社会の危険と対策 | テキスト「情報モラル」の第4章を読んでおく。2時間 | ネット社会の危険と対策について復習する。2時間 | | |
| | 5 | メールコミュニケーション | テキスト「情報モラル」の第5章を読んでおく。2時間 | メールコミュニケーションについて復習する。2時間 | | |
| | 6 | Web コミュニケーション | テキスト「情報モラル」の第6章を読んでおく。2時間 | Web コミュニケーションについて復習する。2時間 | | |
| | 7 | モバイル機器の活用 | テキスト「情報モラル」の第7章を読んでおく。2時間 | モバイル機器の活用について復習する。2時間 | | |
| | 8 | 情報セキュリティの基礎 | テキスト「情報セキュリティ」の第2章を読んでおく。2時間 | 情報セキュリティの基礎について復習する。2時間 | | |
| | 9 | 脅威とその対策① -マルウェア- | テキスト「情報セキュリティ」の第3章の1を読んでおく。2時間 | マルウェアについて復習する。2時間 | | |
| | 10 | 脅威とその対策② -共通の対策- | テキスト「情報セキュリティ」の第3章の2を読んでおく。2時間 | セキュリティの共通の対策について復習する。2時間 | | |
| | 11 | 脅威とその対策③ -暗号とデジタル署名- | テキスト「情報セキュリティ」の第5章の5を読んでおく。2時間 | 暗号とデジタル署名について復習する。2時間 | | |
| | 12 | 脅威とその対策④ -フィッシング詐欺- | テキスト「情報セキュリティ」の第3章の4を読んでおく。2時間 | フィッシング詐欺について復習する。2時間 | | |
| | 13 | 脅威とその対策⑤ -ワンクリック請求- | テキスト「情報セキュリティ」の第3章の5を読んでおく。2時間 | ワンクリック請求について復習する。2時間 | | |
| | 14 | 脅威とその対策⑥ -標的型攻撃と誘導型攻撃- | テキスト「情報セキュリティ」の第3章の3を読んでおく。2時間 | 標的型攻撃と誘導型攻撃について復習する。2時間 | | |
| | 15 | 脅威とその対策⑦ -さまざまな攻撃や対策- | セキュリティのさまざまな攻撃や対策について、Web等で予備学習を行う。2時間 | テキストや配布資料をよく読み、受講内容を復習する。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 課題レポート 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | レポートは、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト： ・富士通エフ・オー・エム株式会社（FOM 出版）、「改訂 3 版」情報モラル&情報セキュリティ」、FOM 出版、2020。 （ISBN-13：978-4865104196） ・情報処理推進機構、「情報セキュリティ読本 五訂版」、実教出版、2018。 （ISBN-13：978-4844336389） |
| メッセージなど | 上級情報処理士：選択科目（I 群） ウェブデザイン実務士：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------|----------------------------------|------------------------------------|-----------------------|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 情報モラルとは何か、またその必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に情報モラルについて説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な情報モラルについて説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の情報モラルについて説明できる。 | 情報モラルについて説明できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 50% |
| (2) 情報セキュリティ対策とその必要性について説明できる。 | ほぼ完璧に情報セキュリティについて説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な情報セキュリティについて説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の情報セキュリティについて説明できる。 | 情報セキュリティについて説明できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------------|--|-----------------------|----------------------------------|------------------------|-----|-------------|
| 情報数学 Information Mathematics | | 情報メディア学科 | | 20IMC01003 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 大崎 堅 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 情報科学を学ぶための基礎となる離散数学の中から集合、写像、関係、順列と組合せ、論理等に関する基本的な事項について講述する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 各種専門用語について説明できる。 (2) 与えられた命題や推論の真理表が作成できる。 (3) ブール代数の公理・定理を理解し、論理回路との対応関係が説明・解析できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | 「情報数学」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「情報数学」の目的と意義を理解する。(2h) | | |
| | 2 | 集合、写像 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 3 | 写像、関係 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 4 | 集合、写像、関係演習 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 5 | 順列、組合せ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 6 | 組合せ、確立 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 7 | 順列、組合せ、確立演習 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 8 | 行列 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 9 | 行列の演算 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 10 | 論理代数① - 命題と真理値 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 11 | 〃 ② - 論理和、論理積、否定 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 12 | 〃 ③ - 同値命題 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 13 | 〃 ④ - 条件文と双条件文 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 14 | 〃 ⑤ - 推論と含意 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| 15 | ブール代数の基礎 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）80%、 レポート（理解度・思考力・意欲）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、 次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|--|--------------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 各種専門用語についての確に説明できる。 | 専門用語（集合、写像、関係、順列と組合せ、論理等）について80%以上の確に説明できている。 | 専門用語（集合、写像、関係、順列と組合せ、論理等）について79～70%的確に説明できている。 | 専門用語（集合、写像、関係、順列と組合せ、論理等）について69～60%的確に説明できている。 | 的確な説明が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 20% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 10% |
| (2) 与えられた命題や推論の真理表が作成できる。 | 論理演算のプロセスと結果の意味を80%以上の確に説明できている。 | 論理演算のプロセスと結果の意味を79～70%的確に説明できている。 | 論理演算のプロセスと結果の意味を69～60%的確に説明できている。 | 的確な説明が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 30% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 10% |
| (3) ブール代数の公理・定理を理解し、論理回路との対応関係が説明・解析できる。 | ブール表現と論理回路の関係を80%以上の確に説明・解析できている。 | ブール表現と論理回路の関係を79～70%的確に説明・解析できている。 | ブール表現と論理回路の関係を69～60%的確に説明・解析できている。 | 的確な説明・解析が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 30% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------------|--|---------------------|------------------------|--------------------|------------|
| オペレーティングシステム Operating System | | 情報メディア学科 | 20IMC01004 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 柴田 道信 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概 要 | コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステム(OS)の基本的な概念および個々の機能の実現手法を解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) OSの種類、役割、機能について説明することができる。 (2) プロセス管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 (3) 記憶管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 (4) ファイル管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読み、科目の内容を把握する(1h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 2 | コンピュータとオペレーティングシステム | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントを復習する(2h) | |
| | 3 | プロセス管理について | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントを復習する(2h) | |
| | 4 | スケジューリングの基本 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントを復習する(2h) | |
| | 5 | 横取りのないスケジューリング方式 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 6 | 横取りのあるスケジューリング方式 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 7 | スケジューリング実例 | スケジューリングの問題を解く(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 8 | 主記憶管理について | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 9 | 主記憶の割当て方法 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 10 | 空き領域(主記憶)の管理 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 11 | 仮想記憶 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 12 | ファイル管理について | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 13 | ファイルとアクセス法 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 14 | ディレクトリと領域割当て方式 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |
| | 15 | 空き領域(補助記憶)の管理 | 授業テーマを参照し、予習する(2h) | 配布プリントの内容を復習する(2h) | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 試験（知識・理解・思考力・判断力）100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、解説も含め授業内で全体に対してフィードバックする。試験については、ルーブリック評価の結果で提示する。 |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に資料を配布 |
| メッセージなど | PC やスマートフォンをはじめとして様々な情報機器に OS が搭載される時代である。情報分野を専門とする学生には、OS の役割としくみをしっかりと理解してもらいたい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------|------------------|---------------------|-----------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) OS の種類、役割、機能について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 試験（知識・理解） | 25% |
| (2) プロセス管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 | ほぼ完璧に適用できる。 | 大きな間違いがなく、適用できる。 | 間違いはあるが、最低限の適用はできる。 | 適用できていない。 | 試験（知識・理解・思考力・判断力） | 25% |
| (3) 記憶管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 | ほぼ完璧に適用できる。 | 大きな間違いがなく、適用できる。 | 間違いはあるが、最低限の適用はできる。 | 適用できていない。 | 試験（知識・理解・思考力・判断力） | 25% |
| (4) ファイル管理の基本的な考え方と実現手法を理解し、実際に適用することができる。 | ほぼ完璧に適用できる。 | 大きな間違いがなく、適用できる。 | 間違いはあるが、最低限の適用はできる。 | 適用できていない。 | 試験（知識・理解・思考力・判断力） | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------------------|--|-------------------|-------------------|-----------------------|-------------|
| コンピュータの仕組み Mechanism of Computers | | 情報メディア学科 | 20IMC01005 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 寺本 公思 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | <p>コンピュータは現代社会では欠かせないものとなっている。コンピュータといってもスーパーコンピュータから家電製品に使われる制御用マイクロコンピュータまで様々である。</p> <p>また、コンピュータに関する勉強では例えばワープロや表計算、プログラミング言語などどちらかというとソフトウェアの比率が高い傾向にある。しかし、コンピュータ本体に関するハードウェアの学習なくしてはコンピュータに関する知識を深めることはできない。ここではパソコンやマイクロコンピュータの仕組みなど、ハードウェアに関する基礎知識を学習する</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) コンピュータの構成について理解し説明できる。</p> <p>(2) コンピュータ内部でのデータ表現や流れ、および通信の仕組みについて説明できる。</p> <p>(3) コンピュータの入出力装置や周辺機器について理解し説明できる。</p> | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | コンピュータについて・2時間 | コンピュータについて・2時間 | |
| | 2 | コンピュータの歴史 | コンピュータの歴史・2時間 | コンピュータの歴史・2時間 | |
| | 3 | コンピュータ内部のデータの流れ | コンピュータの扱うデータ・2時間 | コンピュータの扱うデータと流れ・2時間 | |
| | 4 | コンピュータのデータ表現 | 2進数と16進数・2時間 | 2進数と16進数・2時間 | |
| | 5 | コンピュータの基本構成 | コンピュータの構成・2時間 | コンピュータの構成・2時間 | |
| | 6 | 中央処理装置 | CPUについて・2時間 | CPUの仕組みと働き・2時間 | |
| | 7 | 主記憶装置 | メモリについて・2時間 | 主記憶装置について・2時間 | |
| | 8 | 補助記憶装置(メモリ、FDD) | メモリとFDDなど・2時間 | メモリの種類とFDD・2時間 | |
| | 9 | 補助記憶装置(HDD、光メディア) | HDDの働きと仕組み・2時間 | HDDの仕組みと速度計算・2時間 | |
| | 10 | 入力装置 | コンピュータの入力装置・2時間 | キーボード、マウスなどについて・2時間 | |
| | 11 | 出力装置 | コンピュータの出力装置・2時間 | ディスプレイ、プリンタなどについて・2時間 | |
| | 12 | コンピュータ通信 | コンピュータ通信について・2時間 | プロトコルなどについて・2時間 | |
| | 13 | コンピュータネットワークの基礎 | ネットワークの基礎的な内容・2時間 | IPアドレスなどについて・2時間 | |
| | 14 | インターネット | インターネットについて・2時間 | インターネットについて・2時間 | |
| | 15 | まとめ | 全体のまとめを行う・2時間 | 全体の復習・2時間 | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 試験やレポートについてルーブリック評価により成績評価を行う 定期試験（知識・理解）70%、 演習課題等（関心・意欲）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | 適宜プリントを配布する。 |
| メッセージ など | 上級情報処理士：必修科目 ウェブデザイン実務士：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|--|---|------------------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンピュータの構成 について理解し説明 できる。 | ほぼ完璧に 説明できる。 | 大きな間違い なく、基本 を説明できる。 | 間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。 | 基本的なこ とも理解で きていな い。 | 定期試験 確認用小テ スト (知識・理解) | 40% |
| (2) コンピュータ内部で のデータ表現や流れ および通信について 説明できる。 | ほぼ完璧に 説明できる。 | 大きな間違い なく、基本 を説明できる。 | 間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。 | 基本的なこ とも理解で きていな い。 | | 30% |
| (3) コンピュータやその 入出力装置、周辺機 器について理解し説 明できる。 | ほぼ完璧に コンピュータ の入出力 装置や周辺 機器につい て説明でき る。 | 大きな間違い なく、入 出力装置や 周辺機器に ついて基本 を説明でき る。 | 間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。 | 基本的なこ とも理解で きていな い。 | 定期試験 および 演習課題等 (関心・意欲 思考・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------|
| プログラミング基礎 Foundations of Computer Programming | | 情報メディア学科 | 20IMC01006 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 4 | 必修 | 日置 智子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | プログラムとは、コンピュータに処理を行わせるための手順を指示する命令の集まりである。本講義では、プログラムを記述するための言語の一つであるC言語の基本的な文法を学び、実際にプログラムを組むことによって、プログラミングの考え方を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | (1) C言語の基本的な文法について説明できる。 (2) C言語で構成された基本的なプログラムの処理内容を説明できる。 (3) C言語を使用して基本的なプログラムを作成できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション -コンピュータの利用環境 説明- | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | コンピュータの基本操作について復習しておく。(2時間) | |
| | 2 | プログラミング言語の種類 | プログラミング言語にはどのようなものがあるのかを調べておく。(2時間) | 授業で学んだいくつかの言語について調べ、まとめておく。(2時間) | |
| | 3 | プログラムの作成から実行まで | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | プログラムのコンパイルと実行の流れについて復習しておく。(2時間) | |
| | 4 | C言語の基本事項 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 5 | コンピュータへの入出力 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 6 | 変数 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 7 | 演算と型 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 8 | 条件分岐① -if文- | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 9 | 条件分岐② -switch文- | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 10 | 繰り返し① -do while文- | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 11 | 繰り返し② -for文- | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 12 | 繰り返し③ -多重ループ- | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 13 | 配列 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 14 | 多次元配列 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 15 | まとめ | テキストのこれまで学んだ範囲を見直しておく。(2時間) | これまでに作成したプログラムの説明ができるようになっておく。(2時間) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 試験（知識・理解）80%、 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業時に解説を行う。 試験については、ルーブリック評価の結果を提示する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：柴田 望洋「新 明解C言語 入門編」ソフトバンククリエイティブ (株) 適宜資料を配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------|------------------------|-------------------------------------|---------------|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) C 言語の基本的な文法について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 試験（知識・理解） | 20% |
| (2) C 言語で構成された基本的なプログラムの処理内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | | 60% |
| (3) C 言語を使用して基本的なプログラムを作成できる。 | ほぼ完璧にプログラムを作成できる。 | 大きな間違いがなく、プログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえたプログラムを作成できる。 | プログラムを作成できない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------------------|---|--|---|--------------------|-------------|
| プレゼンテーション技術 Presentation Technique | | 情報メディア学科 | 20IMC01007 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | コンピュータメーカーのシステムエンジニアとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 聴き手の立場や状況を理解し効果的なプレゼンテーションを行う能力を身に付けることを目標とする。スライドを用いたプレゼンテーションの実践を通じて、情報処理能力、論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) PowerPoint の使い方ができる。 (2) テーマの選定、伝えたい情報の取捨選択、ストーリー構成がわかりやすいスライドが作成できる。 (3) メッセージが伝わる発表ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション、PowerPoint の起動および画面の各部の名称の確認 | 「プレゼンテーション技術」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 授業で学んだ内容を復習する。(1h) | |
| | 2 | プレゼンテーションの企画 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | わかりやすいストーリー構成 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 必要な情報の収集 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | センスアップするレイアウトデザイン | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 視覚に訴えるチャート化 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 訴求力を上げるカラー化 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 数値をアピールする表・グラフ活用 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | イメージを伝えるイラスト・写真活用 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 発表で魅せるアニメーション | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 自信を高める万全な準備 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | メッセージが伝わる発表スキル | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 信頼を得る質疑応答 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 発表① | 発表スライドの作成及び発表準備(3h) | 発表会参加後の感想をまとめる(1h) | |
| 15 | 発表② | 発表スライドの作成及び発表準備(3h) | 発表会参加後の感想をまとめる(1h) | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取組み 30%、課題・発表 70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業時に課した演習課題は電子ファイルの提出をしてもらい、次週以降の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：山崎紅著、「情報利活用プレゼンテーション PowerPoint 2013/2010 対応」、日経 BP 社など 参考文献：授業中に適宜指示資料を適宜に配布する |
| メッセージなど | 2年次後期に行われる卒業研究発表の準備の一環としても捉え、真剣に取り組んでほしい。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------------|----------------------|-------------------|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) PowerPoint の使い方ができる。 | ほぼ完璧に使える。 | まあまあ使える。 | 何とか使える。 | 使えない。 | 授業への取組み (関心・意欲・知識・理解・技能) | 30% |
| (2) テーマの選定、伝えたい情報の取捨選択、ストーリー構成がわかりやすいスライドが作成できる。 | ほぼ完璧に作成できる。 | まあまあ作成できる。 | 何とか作成できる。 | 作成できない。 | | 課題・発表 (知識・理解・思考力・表現力・技能) |
| (3) メッセージが伝わる発表ができる。 | 配分時間内に、ほぼ完璧に、わかりやすく発表できる。 | 完璧とは言えないが、まあまあ発表できる。 | 何とか伝わるが、改善余地が大きい。 | 発表内容がまったく伝わらない。 | | |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------------|--|-----------------------|-------------------------------------|---------------------------|------------|
| 工学リテラシー Literacy for Engineers | | 情報メディア学科 | 20IMC01008 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 大崎 堅 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 学問をするためには「読み」、「書き」、「計算」、「話す」が必修条件となる。本学科は、工学系であるゆえ、最も必要とされる基礎的な数学について10回、事象の理解と伝達の基本である実用文書(例えば解説や論文、各種報告書等)の講読を3回、論文・発表用予稿の書き方並びに研究発表(プレゼンテーション)の仕方について2回に分けて講述する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 各種の数の定義とその用法について説明できる。 (2) 各種関数の意味・グラフ・用法について説明できる。 (3) 関数の極限・微分・積分について理解し、計算・説明できる。 (4) 実用文章の内容を把握し、その概要を書くことができる。 (5) 与えられたテーマについて、グループで討論し、要領よくまとめ、かつ発表できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 「工学リテラシー」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「工学リテラシー」の目的と意義を理解する。(2h) | |
| | 2 | 公理、定義、定理及び演算法則 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 数について | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 指数と対数 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 複素数と三角関数 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 一次・二次及び三角関数とそのグラフ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 連立一次方程式の解法 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 関数と極限 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | 微分係数と導関数 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 積分の定義、面積と積分 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 随筆の購読と解説 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 解説記事の購読と解説 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 論文の購読と解説 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 論文や発表用予稿の書き方 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| 15 | 研究発表(プレゼンテーション)の仕方 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）75%、 レポート（理解度・思考力・意欲）25% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|--|--|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 各種の数の定義とその 使用法について説明 できる。 | 数の定義と 使用法につ いて 80%以 上の確に説 明できている。 | 数の定義と 使用法につ いて 79～ 70%的確に 説明できている。 | 数の定義と 使用法につ いて 69～ 60%的確に 説明できている。 | 的確な説明 が 60%未満 である。 | 定期試験（知 識・理解・思 考力） | 20% |
| | | | | | 演習レポート （理解・意 欲・思考力） | 5% |
| (2) 各種関数の意味・グ ラフ・使用法につ いて説明できる。 | 関数の意 味・グラフ・ 使用法につ いて 80%以 上の確に説 明できている。 | 関数の意 味・グラフ・ 使用法につ いて 79 ～70%的確 に説明でき ている。 | 関数の意 味・グラフ・ 使用法につ いて 69 ～60%的確 に説明でき ている。 | 的確な説明 が 60%未満 である。 | 定期試験（知 識・理解・思 考力） | 20% |
| | | | | | 演習レポート （理解・意 欲・思考力） | 5% |
| (3) 関数の極限・微分・ 積分について理解 し、計算・説明でき る。 | 関数の極 限・微分・ 積分を 80% 以上の確に 計算・説明 することが できている。 | 関数の極 限・微分・ 積分を 79～ 70%的確に 計算・説明 することが できている。 | 関数の極 限・微分・ 積分を 69～ 60%的確に 計算・説明 することが できている。 | 的確な計 算・説明が 60%未満で ある。 | 定期試験（知 識・理解・思 考力） | 25% |
| | | | | | 演習レポート （理解・意 欲・思考力） | 5% |
| (4) 実用文章の内容を把 握し、その概要を的確 に書くことができる。 | 80%以上の 確に書くこ とができている。 | 79～70% 的確に書く ことができている。 | 69～60% 的確に書く ことができている。 | 的確に書 くことが 60% 未満であ る。 | 感想文レポ ート（理解・意 欲・思考力・ 表現力） | 10% |
| (5) 与えられたテーマに ついて、グループで 討論し、要領よくま とめ、かつ発表でき る。 | 80%以上の 確にまとめ、 発表するこ とができている。 | 79～70% 的確にまとめ、 発表するこ とができている。 | 69～60% 的確にまとめ、 発表するこ とができている。 | 的確にまと め、発表す ることが 60% 未満であ る。 | 演習レポ ート・発表（理 解・意欲・思 考力・判断 力・協同力・ 表現力） | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|----------|--------------|-----|-------------|
| 卒業研究 Graduation Research | | 情報メディア学科 | 20IMC02001 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習・実験 | 2 | 必修 | 情報メディア学科 全教員 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 問題を解決するため、主体的に必要な知識・情報・技術などを取得し活用する能力を養う。 2年間で修得した知識に基づき、自己の能力に応じた課題を自ら提起し、創ることの楽しさや責任感および発表・表現力を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 文献や資料の基本的な収集をすることができる。 (2) 資料の基本的な整理・分析をすることができる。 (3) 研究結果をまとめ、人前で発表をすることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 【近年の発表テーマ[抜粋] ① Python と Google API の使い方習得のための音声認識システム作成 ② 仮想通貨の現状と今後 ③ Unity を用いたゲーム制作 ④ WordPress を用いた子供向け英語学習サイトの作成 ⑤ レゴマインドストームを使ったプログラミング学習教材の制作 ⑥ Arduino を使った自立ロボットの制作 ⑦ Web アプリケーションの開発 -旅行の Web サイト ⑧ VR を用いた山短紹介コンテンツの制作日本語 ⑨ 韓国における微細粉塵対策の現状 ⑩ 機械学習を用いた画像認識 ⑪ 旅行 Web サイトの構築 ⑫ ベトナム人留学希望者を対象とした本学紹介サイトの作成 ⑬ WordPress を用いた日本語能力試験対策サイトの作成 ⑭ IoT による獣害対策の研究 ⑮ マッチムーブによる大学紹介コンテンツの制作 ⑯ 顔認証ログインの開発 ⑰ Unity を用いた教育用ゲームの制作 ⑱ 硬式野球ボールフィーダーの試作 | | | | |
| 成績評価 | ルーブリックによる評価を行う。 課題解決（知識・技能・関心・意欲）30%、 原稿作成（興味・関心・思考力・判断力）30%、 研究結果の発表（興味・関心・意欲・思考力・判断力）40% | | | | |

| | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | ルーブリックによる評価を返却する。 |
| テキストおよび 参 考 文 献 | 各研究テーマによる指導教員の指定テキスト |
| メ ッ セ ー ジ な ど | 時間割以外空いている時間があれば、進んで研究室等で研究する。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|--------------------------|----------------------------|-----------------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 文献や資料の基本的な収集をすることができる。 | ほぼ完璧に文献や資料の収集をすることができる。 | 文献や資料の収集をすることができる。 | 最低限の文献や資料の収集をすることができる。 | 文献や資料の収集をすることができない。 | 課題解決 (技能・知識・ 関心・意欲) 発表・原稿作成 (興味・関心・ 意欲・思考 力・判断力) | 30% |
| (2) 資料の基本的な整理・分析をすることができる。 | ほぼ完璧に資料の基本的な整理・分析をすることができる。 | 基本的な資料の整理・分析をすることができる。 | 最低限の資料の基本的な整理・分析をすることができる。 | 資料の整理・分析をすることができない。 | | 30% |
| (3) 研究結果をまとめ、人前で発表をすることができる。 | ほぼ完璧に研究結果をまとめ、人前で発表をすることができる。 | 研究結果をまとめ、人前で発表をすることができる。 | 最低限のまとめと発表をすることができる。 | 研究結果をまとめたり、人前で発表をすることができない。 | | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|----------------|------------------------------------|--------------------------|-------------|
| 情報数学応用 Advanced Course in Information Mathematics | | 情報メディア学科 | 20IMC02002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 大崎 堅 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 情報数学、工学リテラシーの一部で習得した情報科学を学ぶに必要な基礎的数学の知識を基にして、更にもう一步進んだ離散数学等について講述する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 与えられた論理回路のブール表現並びに最小ブール表現ができる。 (2) グラフに関する各種専門用語について説明できる。 (3) 与えられたネットワークフローの最大フローを求めることができる。 (4) 簡単な1階線形微分方程式が解ける。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 「情報数学応用」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「情報数学応用」の目的と意義を理解する。(2h) | |
| | 2 | ブール代数 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | ブール表現 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 論理ゲート | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 論理回路 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | カルノー図 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | グラフ① - 概念 - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | グラフ② - 連結グラフ - | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | 一筆書き問題及び結婚の問題 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 木 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 根を持つ木 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 有向グラフ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | ネットワークフロー | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 微分方程式 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 15 | 1階線形微分方程式 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）80%、 レポート（理解度・思考力・意欲）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|--|--------------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 与えられた論理回路のブール表現並びに最小ブール表現ができる。 | 論理回路とブール表現・最小ブール表現との関係を80%以上の確に説明・解析できている。 | 論理回路とブール表現・最小ブール表現との関係を79～70%の確に説明・解析できている。 | 論理回路とブール表現・最小ブール表現との関係を69～60%の確に説明・解析できている。 | 的確な説明・解析が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 25% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 5% |
| (2) グラフに関する各種専門用語について説明できる。 | 各種専門用語について80%以上の確に説明できている。 | 各種専門用語について79～70%の確に説明できている。 | 各種専門用語について69～60%の確に説明できている。 | 的確な説明が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 25% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 5% |
| (3) 与えられたネットワークフローの最大フローを求めることができる。 | ネットワークフローの意味、最大ネットワークフローを求める意味・手法を80%以上の確に説明・解析できている。 | ネットワークフローの意味、最大ネットワークフローを求める意味・手法を79～70%の確に説明・解析できている。 | ネットワークフローの意味、最大ネットワークフローを求める意味・手法を69～60%の確に説明・解析できている。 | 的確な説明・解析が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 15% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 5% |
| (4) 簡単な1階線形微分方程式が解ける。 | 1階線形微分方程式の意味及び解を80%以上の確に説明・求めることができる。 | 1階線形微分方程式の意味及び解を80%以上の確に説明・求めることができる。 | 1階線形微分方程式の意味及び解を80%以上の確に説明・求めることができる。 | 的確な説明・解答が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 15% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 5% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------------|--|---------------------------------|---------------------|--------------------|-----|-----------|
| アルゴリズム Algorithm of Program | | 情報メディア学科 | | 20IMC02004 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ |
| 概 要 | コンピュータメーカーのシステムエンジニアとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 問題解決に当たって論理的に思考することは重要である。本講義では、コンピュータを用いた問題解決を想定したコンピュータ処理の具体的な手続きであるアルゴリズムとデータ構造について学ぶ。基本的なデータ構造や代表的なアルゴリズムの設計技法について解説する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 基本的なデータ構造について説明できる。 (2) 代表的なアルゴリズムについて説明できる。 (3) 流れ図を見てアルゴリズムが理解できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | イントロダクションーアルゴリズムとは何かー | 授業テーマを参照し、予習する。(1h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 2 | 流れ図とアルゴリズム | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 3 | 流れ図の書き方 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 4 | 基本的なデータ構造①(配列・リスト構造) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 5 | 基本的なデータ構造②(キュー・スタック・木構造) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 6 | 基本的なデータ構造③(逆ポーランド記法) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 7 | 問題演習ー1回目ー | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 8 | 代表的なデータ整列アルゴリズム①(基本交換法・基本選択法) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 9 | 代表的なデータ整列アルゴリズム②(基本挿入法・シェルソート) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 10 | 問題演習ー2回目ー | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 11 | 代表的なデータ探索アルゴリズム①(線形探索法) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 12 | 代表的なデータ探索アルゴリズム②(2分探索法・ハッシュ探索法) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 13 | 問題演習ー3回目ー | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 14 | 計算量 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| 15 | 総合問題演習 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取組み 30%、定期試験 70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは、次の授業時に解説を行う。また、試験はルーブリック評価の結果を渡します。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：特に指定しない 参考文献：柏木厚著、「柏木先生の基本情報技術者教室」、技術評論社 |
| メッセージなど | 上級情報処理士：選択科目（I群） |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------|---------------|-------------------|------------------------------|------------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 基本的なデータ構造について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 最低限の基本も理解できていない。 | 授業への取組み (意欲・関心) | 25% |
| (2) 代表的なアルゴリズムについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 最低限の基本も理解できていない。 | | 55% |
| (3) 流れ図を見てアルゴリズムが理解できる。 | ほぼ完璧に流れ図が読める。 | 大きな間違いなく、流れ図が読める。 | 記号等の理解はできているが、全体処理の流れはつかめない。 | 最低限の基本も理解できていない。 | 定期試験 演習課題等 (知識・理解力・思考力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|---|-----------------------|-----------------------------|--------------------------|-------------|
| ソフトウェア設計 Software Design | | 情報メディア学科 | 20IMIP2006 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 寺本 公思 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | ものづくりや家を建てるためには設計図が必要となります。同様にコンピュータのソフトウェアもきちんとした設計図がなければ、目的のソフトウェアは作成できません。 そのためこのソフトウェア設計では与えられた問題に対する分析・設計に関する学習を行います。また、UML (Unified Modeling Language) やオブジェクト指向についても学びます。 | | | | |
| 到達目標 | (1) ソフトウェア開発に必要な「分析・設計」ができる。 (2) 「分析・設計」結果をUMLによって表現できる。 (3) オブジェクト指向によるプログラム設計について理解できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | ソフトウェアについて調べる・2時間 | ソフトウェア設計について・2時間 | |
| | 2 | 情報処理システムの概要 | 情報処理システムとは・2時間 | 情報処理システムについてまとめる・2時間 | |
| | 3 | システム開発の手順と文書化 | システム開発について・2時間 | システム開発の手順についてまとめる・2時間 | |
| | 4 | システムの分析と設計 (DFDの描き方) | システムの分析について調べる・2時間 | DFDの描き方を復習する・2時間 | |
| | 5 | 現状調査と現状分析 | 現状調査と分析について調べる・2時間 | 現状調査と分析法について復習する・2時間 | |
| | 6 | 概要設計と詳細設計 | 概要設計と詳細設計について調べる・2時間 | 概要設計と詳細設計についてまとめる・2時間 | |
| | 7 | 入力及び出力詳細設計 | 入力及び出力設計について読んでおく・2時間 | 入力及び詳細設計についてまとめる・2時間 | |
| | 8 | 画面概要設計と詳細設計 | 画面設計について調べる・2時間 | 画面設計についてまとめる・2時間 | |
| | 9 | コード設計及びファイル設計 | コンピュータで使われるコードについて調べておく・2時間 | コードやファイル設計についてまとめる・2時間 | |
| | 10 | システムのテストと運用 | システムテストについて調べる・2時間 | システムのテストと運用についてまとめる・2時間 | |
| | 11 | ERモデリング | ERについて・2時間 | ERについてまとめる・2時間 | |
| | 12 | UML (クラス図とオブジェクト図) | UMLについて調べる・2時間 | クラス図を描く・2時間 | |
| | 13 | UML (ユースケース図およびその他の図) | ユースケースについて調べる・2時間 | ユースケース図を描く・2時間 | |
| | 14 | オブジェクト指向によるプログラム設計 | オブジェクト指向について調べる・2時間 | オブジェクト指向によるプログラム作成・2時間 | |
| | 15 | オブジェクト指向によるプログラム演習 | オブジェクト指向によるプログラム作成・2時間 | オブジェクト指向による応用プログラム作成・2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 試験やレポートについてルーブリック評価により成績評価を行う。 定期試験（知識・理解）70%、 演習課題等（関心・意欲）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポートに対するルーブリック評価の返却による。 |
| テキストおよび参考文献 | 適宜プリントを配布する。 |
| メッセージなど | 予備知識は特に必要としないが、プログラミングやシステム開発に興味がある人が望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------|------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ソフトウェア開発に必要な「分析・設計」ができる。 | ほぼ完璧に「分析・設計」できる。 | 大きな間違いなく、「分析・設計」できる。 | 間違いはいくつかあるが、「分析・設計」できる。 | 最低限の基本も理解できていない。 | 定期試験 演習課題等 (知識・理解) | 40% |
| (2) 「分析・設計」結果をUMLによって表現できる。 | ほぼ完璧に表現をすることができる。 | 大きな間違いなく、表現することができる。 | 間違いはいくつかあるが、表現することができる。 | 最低限の基本も理解できていない。 | | 30% |
| (3) オブジェクト指向によるプログラム設計について理解できる | ほぼ完璧にオブジェクト指向によるプログラム設計ができる。 | 大きな間違いなく、オブジェクト指向によるプログラム設計ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本が理解できている。 | オブジェクト指向によるプログラム設計について理解できていない。 | 演習課題等 (関心・意欲思考・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|----------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|------------|
| プログラミング応用 Application of Computer Programming | | 情報メディア学科 | 20IMC02003 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 日置 智子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 関数やポインタ等のC言語の文法を学ぶと共に、オリジナルプログラムの作成を行うことによりコンピュータを用いた問題解決能力を身に付ける。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 関数とポインタの役割について説明できる。 (2) C言語で構成された応用的なプログラムの処理内容を説明できる。 (3) C言語を使用して応用的なプログラムが作成できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | プログラミング基礎で学んだ内容の復習を行う。(2時間) | |
| | 2 | 基本的な文法の復習 ー標準関数、条件分岐、繰り返しー | プログラミング基礎で学んだ内容の復習を行っておく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 3 | 基本的な文法の復習 ー配列ー | プログラミング基礎で学んだ内容の復習を行っておく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 4 | 関数① ー関数とはー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 5 | 関数② ー関数の呼び出しと引数ー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 6 | 関数③ ー返却値ー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 7 | 関数④ ー配列の受け渡しー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 8 | 静的変数、外部変数 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 9 | 乱数 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 10 | ポインタ① ーポインタとはー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 11 | ポインタ② ーポインタの使い方ー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 12 | ポインタ③ ーポインタと配列ー | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 13 | 構造体 | テキストの該当範囲を読んでおく。(2時間) | テキストの該当範囲の問題を解く。(2時間) | |
| | 14 | 問題演習 | テキストのこれまで学んだ範囲を見直しておく。(2時間) | これまでに作成したプログラムの説明ができるようになっておく。(2時間) | |
| | 15 | まとめ | テキストのこれまで学んだ範囲を見直しておく。(2時間) | これまでに作成したプログラムの説明ができるようになっておく。(2時間) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 試験（知識・理解）80%、 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業時に解説を行う。 試験については、ルーブリック評価の結果を提示する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：柴田 望洋「新 明解C言語 入門編」ソフトバンククリエイティブ (株) 適宜資料を配布 |
| メッセージ など | 本講義を受講する前に「プログラミング基礎」で学んだC言語の基本的な文法を 復習しておいて下さい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------------|-------------------|------------------------|-------------------------------------|---------------|-----------------------|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 関数とポインタの役割について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 試験（知識・理解） | 20% |
| (2) C言語で構成された応用的なプログラムの処理内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | | 60% |
| (3) C言語を使用して応用的なプログラムが作成できる。 | ほぼ完璧にプログラムを作成できる。 | 大きな間違いがなく、プログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえたプログラムを作成できる。 | プログラムを作成できない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|---|--------------------------------|----------------------------|-------------|
| Java演習 I Java Programming Exercises I | | 情報メディア学科 | 20IMC02009 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概 要 | Java 言語を用いて簡単な例題を行い、Java プログラミングの基礎について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) オブジェクト指向の考え方や専門用語を説明できる。 (2) Java 言語で作成されたプログラムを読み、処理内容を説明できる。 (3) Java 言語を用いて基本的なプログラムを作成できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | プログラミングとは、Java プログラムの書き方、 実行方法とエラーへの対応 | テキスト第1章と付録Bを 読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 2 | 演算子、制御構文 | テキスト第2章と第3章を 読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 3 | 配列 | テキスト第4章を読んでお く。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 4 | メソッド | テキスト第5章を読んでお く。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 5 | オブジェクト指向の基礎 | テキスト第7章を読んでお く。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 6 | インスタンスとクラス | テキスト 301～308 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 7 | クラスの定義とインスタンスの利用 | テキスト 309～327 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 8 | クラス型変数 | テキスト 333～348 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 9 | コンストラクタ | テキスト 349～362 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 10 | 継承を用いたクラス定義 | テキスト 369～382 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 11 | 継承とインスタンス | テキスト 383～399 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 12 | 多態性 | テキスト 459～468 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 13 | 多態性の捉え方 | テキスト 469～486 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| | 14 | カプセル化とアクセス制御 | テキスト 491～502 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | |
| 15 | getter と setter | テキスト 503～516 ページ を読んでおく。1時間 | 受講内容を復習し、練習問 題に取り組む。1時間 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：中山清喬、国本大悟、「スッキリわかる Java 入門 第3版」、インプレス、2019。（ISBN-13：978-4295007807） |
| メッセージなど | プログラミングの基本（データ型と変数、制御構文、配列、関数等）を理解していること。受講前に、プログラミングの基本をしっかりと復習しておくこと。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------------|-------------------|----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) オブジェクト指向の考え方や専門用語を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | オブジェクト指向の考え方や専門用語が説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) Java 言語で作成されたプログラムを読み、処理内容を説明できる。 | ほぼ完璧に処理内容を説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な処理内容を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の処理内容を説明できる。 | 処理内容が説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) Java 言語を用いて基本的なプログラムを作成できる。 | ほぼ完璧にプログラムを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なプログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本プログラムを作成できる。 | 基本的なプログラムを作成できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|---|------------------------|-------------|
| Java演習Ⅱ Java Programming Exercises II | | 情報メディア学科 | 20IMC02010 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | Java 言語を用いて、GUI アプリケーション開発や Web アプリケーション開発の基礎について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) Java 言語による GUI アプリケーション開発手順を理解し、基本的な GUI アプリケーションを開発できる。 (2) イベント処理を用いた GUI アプリケーションを開発できる。 (3) マウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを開発できる。 (4) グラフィックスを用いた GUI アプリケーションを開発できる。 (5) Java 言語による Web アプリケーション開発手順を理解し、Web アプリケーションを開発できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 統合開発環境を用いた Java アプリケーションの開発 | 統合開発環境について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 2 | 統合開発環境を用いた Java アプリケーション開発課題 | 前回の内容をもとにした課題を行うので、前回の配布資料をよく読んでおく。1時間 | 課題のプログラムを作成する。1時間 | |
| | 3 | GUI アプリケーション作成の基礎 | GUI アプリケーション作成について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 4 | GUI アプリケーションの作成：イベント処理の基本 | イベント処理について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 5 | GUI アプリケーションの作成：UI コンポーネントの基礎 | UI コンポーネントについて、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 6 | GUI アプリケーションの作成：UI コンポーネントの応用 | UI コンポーネントの処理について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 7 | GUI アプリケーション作成課題（イベント処理） | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。1時間 | 課題のプログラムを作成する。1時間 | |
| | 8 | GUI アプリケーションの作成：マウスイベント処理 | マウスイベント処理について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 9 | GUI アプリケーションの作成：グラフィックス処理 | Java グラフィックスについて、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 10 | GUI アプリケーション作成課題（マウスイベント・グラフィックス処理） | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。1時間 | 課題のプログラムを作成する。1時間 | |
| | 11 | HTML の復習 | HTML について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 12 | Java による Web アプリケーションの作成 | Web アプリケーション作成について、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 13 | Web アプリケーションの作成：サーブレットの基礎 | Java サーブレットについて、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| | 14 | Web アプリケーションの作成：パラメータの受け渡し | Java サーブレットのパラメータ受け渡しについて、Web 等で予備学習を行う。1時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。1時間 | |
| 15 | Web アプリケーションの作成：サーブレットによる Web アプリケーション作成課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。1時間 | 課題のプログラムを作成する。1時間 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題レポート 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | レポートは、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | オブジェクト指向、Java の文法（「Java 演習 I」の範囲）について、理解していることを受講の前提とする。HTML の基本も理解していることが望ましい。 ウェブデザイン実務士：選択必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|---|---|--------------------------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) Java 言語による GUI アプリケーション開発手順を理解し、基本的な GUI アプリケーションを開発できる。 | ほぼ完璧に基本的な GUI アプリケーションを作成できる。 | 大きな間違いが無く、GUI アプリケーションを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本的な GUI アプリケーションを作成できる。 | 基本的な GUI アプリケーションを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (2) イベント処理を用いた GUI アプリケーションを開発できる。 | ほぼ完璧にイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 大きな間違いが無く、イベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | イベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) マウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを開発できる。 | ほぼ完璧にマウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 大きな間違いが無く、マウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のマウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | マウスイベント処理を用いた GUI アプリケーションを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (4) グラフィックスを用いた GUI アプリケーションを開発できる。 | ほぼ完璧にグラフィックスを用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 大きな間違いが無く、グラフィックスを用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のグラフィックスを用いた GUI アプリケーションを作成できる。 | グラフィックスを用いた GUI アプリケーションを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (5) Java 言語による Web アプリケーション開発手順を理解し、Web アプリケーションを開発できる。 | ほぼ完璧に Web アプリケーションを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な Web アプリケーションを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の Web アプリケーションを作成できる。 | Web アプリケーションを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------|--|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|------------|
| 通信ネットワーク Computer Networks | | 情報メディア学科 | 2IMC02006 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | インターネットの普及に伴い、ネットワークに対する関心が高まってきている。IP ネットワークの仕組みやネットワーク構築技術について説明する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) コンピュータネットワークの関連用語を説明できる。 (2) TCP/IP 階層モデルの各階層の役割を説明できる。 (3) IP アドレスやサブネットマスクなど与えられた条件からアドレス計算ができる。 (4) インターネットプロトコルの構成と動作を説明できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | コンピュータネットワークの基礎 | コンピュータネットワークの基礎について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | コンピュータネットワークの基礎について復習する。2時間 | |
| | 2 | プロトコルと TCP/IP | プロトコルについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | プロトコルについて復習する。2時間 | |
| | 3 | TCP/IP 階層モデル① インターネット層 | インターネット層について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | インターネット層について復習する。2時間 | |
| | 4 | IP アドレス | 2進数について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | IP アドレスについて復習する。2時間 | |
| | 5 | IP アドレスとサブネットマスク | サブネットマスクについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | サブネットマスクについて復習する。2時間 | |
| | 6 | CIDR | CIDRについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | CIDRについて復習する。2時間 | |
| | 7 | プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレス | プライベート IP アドレスについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | プライベート IP アドレスについて復習する。2時間 | |
| | 8 | DHCP | DHCPについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | DHCPについて復習する。2時間 | |
| | 9 | ゲートウェイ | ゲートウェイについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | ゲートウェイについて復習する。2時間 | |
| | 10 | DNS | DNSについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | DNSについて復習する。2時間 | |
| | 11 | TCP/IP 階層モデル② アプリケーション層 | アプリケーション層について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | アプリケーション層について復習する。2時間 | |
| | 12 | TCP/IP 階層モデル③ トランスポート層 | トランスポート層について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | トランスポート層について復習する。2時間 | |
| | 13 | TCP/IP 階層モデル④ ネットワークインタフェース層 | ネットワークインタフェース層について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | ネットワークインタフェース層について復習する。2時間 | |
| | 14 | ネットワークの設定 | ネットワークの設定について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | ネットワークの設定について復習する。2時間 | |
| 15 | ネットワークセキュリティ | ネットワークセキュリティについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | ネットワークセキュリティについて復習する。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 成績評価 | 定期試験 100% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 試験は、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージ など | 上級情報処理士：選択科目(I群) ウェブデザイン実務士：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンピュータネットワークの関連用語を説明できる。 | ほぼ完璧に用語を説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な用語を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の用語を説明できる。 | 用語が説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2) TCP/IP 階層モデルの各階層の役割を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 30% |
| (3) IP アドレスやサブネットマスクなど与えられた条件からアドレス計算ができる。 | ほぼ完璧にアドレスの計算できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なアドレス計算ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のアドレス計算ができる。 | アドレスの計算ができていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 25% |
| (4) インターネットプロトコルの構成と動作を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------|--|---|---|-------------------------------|-------------|
| データベース I Databases I | | 情報メディア学科 | 20IMCO2007 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | データベースとは、大量の情報を効率よく管理し、データの検索・入力・更新・削除などを行うための技術である。代表的なリレーショナルデータベースについて学習する。データベース関連用語や、データベースの設計手法について解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) データベース関連用語の説明ができる。 (2) E-R 図を作成できる。 (3) データベースの正規化が行える。 (4) 簡単な SQL 文が記述できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | データベースとは | データベースについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | データベースについて復習する。2 時間 | |
| | 2 | データベースの基本機能 | データベースの基本機能について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | データベースの基本機能について復習する。2 時間 | |
| | 3 | データベースの種類 | データベースの種類について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | データベースの種類について復習する。2 時間 | |
| | 4 | リレーショナルデータベース | リレーショナルデータベースについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | リレーショナルデータベースについて復習する。2 時間 | |
| | 5 | E-R モデル (1) : E-R モデルによる分析 | E-R モデルについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | E-R モデルについて復習する。2 時間 | |
| | 6 | E-R モデル (2) : エンティティ (実体) とリレーションシップ (関連) | エンティティとリレーションシップについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | エンティティとリレーションシップについて復習する。2 時間 | |
| | 7 | E-R モデル (3) : E-R 図の作成 | E-R 図の作成について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | E-R 図の作成について復習する。2 時間 | |
| | 8 | E-R モデル (4) : E-R 図作成の練習 | 前回までの内容をもとにした練習問題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2 時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2 時間 | |
| | 9 | 正規化 (1) : 表の正規化とは | 正規化について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | 正規化について復習する。2 時間 | |
| | 10 | 正規化 (2) : キーの検討 | 主キーについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | 主キーについて復習する。2 時間 | |
| | 11 | 正規化 (3) : 正規化のステップ | 正規化のステップについて、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | 正規化のステップについて復習する。2 時間 | |
| | 12 | 正規化 (4) : 正規化の練習 | 前回までの内容をもとにした練習問題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2 時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2 時間 | |
| | 13 | SQL によるデータベースの利用 (1) : DDL | DDL について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | DDL について復習する。2 時間 | |
| | 14 | SQL によるデータベースの利用 (2) : DCL | DCL について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | DCL について復習する。2 時間 | |
| 15 | SQL によるデータベースの利用 (3) : DML | DML について、Web 等で予備学習を行う。2 時間 | DML について復習する。2 時間 | | |

| | |
|----------------------------|---------------------|
| 成績評価 | 定期試験 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | 上級情報処理士：選択科目（I群） |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------|----------------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------|---------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) データベース関連用語の説明ができる。 | ほぼ完璧に関連用語を説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な関連用語を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の関連用語を説明できる。 | 関連用語を説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 30% |
| (2) E-R図を作成できる。 | ほぼ完璧にE-R図を作成できる。 | 大きな間違いが無く、E-R図の基本を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のE-R図を作成できる。 | E-R図を作成できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 25% |
| (3) データベースの正規化が行える。 | ほぼ完璧にデータベースの正規化が行える。 | 大きな間違いが無く、データベースの正規化の基本が行える。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のデータベースの正規化を行える。 | データベースの正規化ができていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 30% |
| (4) 簡単なSQL文が記述できる。 | ほぼ完璧にSQL文が記述できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なSQL文が記述できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のSQL文が記述できる。 | SQL文が記述できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 15% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------|--|------------------------------|--|---------------------------|-------------|
| データベースⅡ Databases II | | 情報メディア学科 | 20IMCO2008 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | データベースとは、大量の情報を効率よく管理し、データの検索・入力・更新・削除などを行うための技術である。代表的なリレーショナルデータベース処理について学習する。データベース問合せ言語（SQL）の利用方法について解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) データベース関連用語について説明できる。 (2) 基本的な問い合わせが SQL 文により記述できる。 (3) グループ化が SQL 文により記述できる。 (4) 表結合が SQL 文により記述できる。 (5) 副問い合わせが SQL 文により記述できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | リレーショナルデータベースとは | リレーショナルデータベースについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | リレーショナルデータベースについて復習する。2時間 | |
| | 2 | SQL の基本 (1) : SQL 文、問い合わせの基本 | SQL 文による基本的な問い合わせについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 3 | SQL の基本 (2) : 条件を指定した問い合わせ | 条件指定について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 4 | SQL の基本 (3) : 並べ替え | 並べ替えについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 5 | SQL の基本 (4) : 集計関数を用いた問い合わせ | 集計関数について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 6 | SQL 基本の総合練習 | 前回までの内容をもとにした総合練習を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 7 | グループ化 (1) : グループ化の基本 | グループ化について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 8 | グループ化 (2) : グループ化と条件指定 | グループ化と条件指定について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 9 | グループ化の総合練習 | 前回までの内容をもとにした総合練習を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 10 | 表の結合 (1) : 結合の基本 | 表の結合について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 11 | 表の結合 (2) : 結合とグループ化 | 結合とグループ化について、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 12 | 表結合の総合練習 | 前回までの内容をもとにした総合練習を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 13 | 副問い合わせ (1) : 副問い合わせの基本 | 副問い合わせについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 14 | 副問い合わせ (2) スカラサブクエリー | スカラサブクエリーについて、Web 等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 15 | 副問い合わせの総合練習 | 前回までの内容をもとにした総合練習を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | データベースの概念や設計については「データベース I」で学ぶので、2年次前期の「データベース I」を受講しておくことが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) データベース関連用語について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) 基本的な問い合わせが SQL 文により記述できる。 | ほぼ完璧に基本的な問い合わせが SQL 文により記述できる。 | 大きな間違いが無く、問い合わせの基本が SQL 文により記述できる。 | 間違いはいくつかあるが、問い合わせの最低限の SQL 文が記述できる。 | 基本的な問い合わせが SQL 文により記述できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 25% |
| (3) グループ化が SQL 文により記述できる。 | ほぼ完璧にグループ化が SQL 文により記述できる。 | 大きな間違いが無く、グループ化の基本が SQL 文により記述できる。 | 間違いはいくつかあるが、グループ化の最低限の SQL 文が記述できる。 | グループ化が SQL 文により記述できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 20% |
| (4) 表結合が SQL 文により記述できる。 | ほぼ完璧に表結合が SQL 文により記述できる。 | 大きな間違いが無く、表結合の基本が SQL 文により記述できる。 | 間違いはいくつかあるが、表結合の最低限の SQL 文が記述できる。 | 表結合が SQL 文により記述できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 20% |
| (5) 副問い合わせが SQL 文により記述できる。 | ほぼ完璧に副問い合わせが SQL 文により記述できる。 | 大きな間違いが無く、副問い合わせの基本が SQL 文により記述できる。 | 間違いはいくつかあるが、副問い合わせの最低限の SQL 文が記述できる。 | 副問い合わせが SQL 文により記述できていない。 | 定期試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 15% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|-----------------------------------|---|---------------------|------------|
| メディアリテラシー Media Literacy | | 情報メディア学科 | 20IMIC1002 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 日置 智子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | テレビや新聞、インターネット等、各メディアの特徴について学ぶ。また、メディアから発信される情報を読み解く力と、データを適切な方法で加工し発信するための知識を身に付けることをねらいとして、データの基本的な統計処理方法とグラフ化の手法について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 各メディアの特徴について説明することができる。 (2) データの基本的な統計処理が行える。 (3) グラフの読み取りができる。 (4) データの種類に応じて適切にグラフ化が行える。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 2 | メディアを構成する素材の特性 | メディアの種類について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 3 | 印刷メディアの特徴 | 新聞紙面の構成について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 4 | 放送メディアの特徴 | テレビやラジオの番組表を見て、番組の内容と放送される時間帯の特徴をつかんでおく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 5 | インターネットの特徴 | インターネット利用時の注意点について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 6 | データの種類と集計方法 | 表計算ソフトの操作方法について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 7 | データの代表値の特徴と算出方法 | 平均値、中央値、最頻値について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 8 | データの散らばり | 分散、標準偏差について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 9 | データの相関 | 相関係数について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 10 | グラフの種類 | グラフの種類について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 11 | グラフ①－棒グラフ・ヒストグラム－ | 棒グラフ、ヒストグラムについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 12 | グラフ②－折れ線グラフ・円グラフ－ | 折れ線グラフ、円グラフについて調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 13 | グラフ③－散布図・その他のグラフ－ | 散布図について調べておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| | 14 | 総合演習問題 | これまでに学んだ基本的な統計処理が行えるようにしておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | |
| 15 | まとめ | これまでに学んだ基本的な統計処理が行えるようにしておく。(2時間) | 授業で学んだ内容を復習する。(2時間) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 試験（知識・理解・思考力・判断力）60%、 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートの一部は、知識・理解・思考力をチェックし、返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：なし 参考文献：講義中に適宜指示 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------|------------------------|---------------------------|-------------------------------|--------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 各メディアの特徴について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 課題レポート （知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (2) データの基本的な統計処理が行える。 | ほぼ完璧にデータの基本的な統計処理を行える。 | 大きな間違いなくデータの基本的な統計処理を行える。 | 間違いはいくつかあるが、データの基本的な統計処理を行える。 | データの基本的な統計処理ができない。 | 試験 （知識・理解・思考力・判断力） | 40% |
| (3) グラフの読み取りができる。 | ほぼ完璧にグラフの読み取りができる。 | 大きな間違いなくグラフの読み取りができる。 | 間違いはいくつかあるが、グラフの読み取りができる。 | グラフの読み取りができない。 | | 20% |
| (4) データの種類に応じて適切にグラフ化が行える。 | ほぼ完璧にデータのグラフ化ができる。 | 大きな間違いなくデータのグラフ化ができる。 | 間違いはいくつかあるが、データのグラフ化ができる。 | データのグラフ化ができない。 | 課題レポート （知識・理解・思考力・判断力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|--|--|-----------------------|-------------------|-------------|
| 画像処理 Graphic Design | | 情報メディア学科 | 20IMIC1003 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 横山 吉朋 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | グラフィックデザイナーとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。Photoshop を使用しながらコンピューターグラフィックに関する手法を実践し習得する。またグラフィック表現に関する知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) Photoshop の操作を理解し、作業プロセスを説明できる。 (2) Photoshop で制作物を完成させることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 基礎知識① -デザインに使うソフトウェア- 演習① -photoshop 解説- | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 2 | 基礎知識② -デザインに必要な作業環境- 演習② -photoshop のツール- | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 3 | 基礎知識③ -様々なファイル形式- 演習③ -フォトレッタッチ- | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 4 | 基礎知識④ -効率的なコンピュータ操作 他- 演習④ -フォトレッタッチ- | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 5 | 基礎知識⑤ -作業フローにおける制作物の取扱い 他- 演習⑤ -フォトレッタッチ- | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 6 | 基礎知識⑥ -現代メディアにおける写真の活用 例- 演習⑥作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 7 | 基礎知識⑦ -現代メディアにおけるグラフィック について- 演習⑦作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 8 | 基礎知識⑧ -現代メディアにおけるイラストレ ーションについて- 演習⑧作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 9 | 基礎知識⑨ -タイポグラフィについて- 演習 ⑨作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 10 | 基礎知識⑩ -グラフィック表現における色の 扱い- 演習⑩ 作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 11 | 基礎知識⑪ -グラフィック媒体の多様化につ いて- 演習⑪ 作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 12 | 基礎知識⑬ -ウェブデザインにおける視覚表 現①- 演習⑫ 作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 13 | 基礎知識⑬ -ウェブデザインにおける視覚表 現②- 演習⑬ 作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 14 | 基礎知識⑬ -ウェブデザインにおける視覚表 現③- 演習⑭ 作品制作 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |
| | 15 | 基礎知識⑬ -ウェブデザインにおける視覚表 現④- 演習⑮ 作品制作 講評 | WEB テキストを読む (1 時間) | 演習内容の復習 (1 時間) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題提出 50%、授業態度 50%にて評価する。 |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業中に提示した課題において制作する成果物について、制作中の指導および制作後の講評により、個別にフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | |
| メッセージなど | たくさんのグラフィックに囲まれて経済活動を営む現代社会において、比較的応用範囲の広い基本的な知識を学びます。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|------------|--------------------|---------------------------|-----------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) Photoshop の操作を理解し、作業プロセスを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく基本が説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解) | 50% |
| (2) Photoshop で制作物を完成させることができる。 | 補助なく完成できる | ほとんど補助なく完成できる。 | 補助が必要な部分があるが、なんとか完成できる | 完成できない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解・関心・意欲・態度) | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|---------------------------|---------------------|--------------------|-----------|
| コンピュータグラフィックス I Computer Graphics I | | 情報メディア学科 | 20IMIC2003 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概 要 | コンピュータメーカーのシステムエンジニアとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 3次元コンピュータグラフィックス (Computer Graphics : CG) に関する基礎知識 (主にモデリングに関する内容) を体系的に身につけることを目的とする。尚、本講義では特定の言語によるグラフィックプログラミングや特定の CG ソフトウェアの使い方を解説するのではなく、CG の原理や技法について解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) デジタル画像の仕組みについて説明できる。 (2) 3DCG の仕掛けについて説明できる。 (3) 3DCG の各モデリング手法の特徴、利点、欠点について説明できる。 (4) 3D 形状の幾何変換についての演算ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 授業ガイダンスおよびCGの定義や応用分野など | 授業テーマを参照し、予習する。(1h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 2 | コンピュータによる画像の表現法と3DCG制作の流れ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 座標系 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | ワイヤーフレームモデル・サーフェイスモデル | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | ソリッドモデル | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 直線(2次元)・2次曲線 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 直線(3次元)・平面・曲面 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 境界と領域 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | プリミティブの表現 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 自由曲線の表現 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 自由曲面の表現 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 行列の演算 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 3次元形状の平行移動・拡大と縮小・反転 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 3次元形状の回転・せん断 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 15 | まとめ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取組み 15%、課題提出等 15%、定期試験 70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは、次の授業時に解説を行う。また、試験はルーブリック評価の結果を渡します。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜にプリントを配布） 参考文献：前川佳徳著、「コンピュータグラフィックス」、オーム社 |
| メッセージなど | 2年次（通年）の「コンピュータグラフィックスⅡ」（演習）も受講し、3DCGに関する基礎知識を演習と同時に身に付けていく方が望ましい。 上級情報処理士：選択科目（I群） |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------------|--|--------------------------|-----------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) デジタル画像の仕組みについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本的な事項について説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 授業への取組み （関心・意欲） 課題提出等 （関心・意欲・知識・理解） 定期試験 （知識・理解・思考力・判断力） | 10% |
| (2) 3DCGの仕掛けについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本的な事項について説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる | 説明できていない。 | | 20% |
| (3) 3DCGの各モデリング手法の特徴、利点、欠点について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本的な事項について説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる | 説明できていない。 | | 50% |
| (4) 3D形状の幾何変換についての演算ができる。 | 演算方法を理解し、ほぼ完璧に問題を解ける。 | 演算方法の基本が理解できて、問題の解く方向性はつかめているが、正解を導くまではいかない。 | 正解は導けないが、最低限の理解及び演算はできる。 | 理解できていない。 | | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------------------|--|---------------------|-------------------------|-------------------------|-----------|
| コンピュータグラフィックスⅡ Computer Graphics Ⅱ | | 情報メディア学科 | 20IMIC2004 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | コンピュータメーカーのシステムエンジニアとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 グラフィックソフトを用いて簡単な3DCG画像を作りながら、その基本的な技術について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 使用するソフトウェアでのカメラ、光源、オブジェクトの位置の設定ができる。 (2) 使用するソフトウェアが準備している基本図形が扱える。 (3) オブジェクトの平行移動・回転移動・拡大と縮小または数式でオブジェクトの作成ができる。 (4) 色彩やテクスチャなどが表現できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | いろいろな形を作る | 授業テーマを参照し、予習する。(1h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 2 | 座標変換① - 移動、拡大・縮小 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 3 | 座標変換② - 回転、せん断 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 4 | 例題演習① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 5 | 色、パターン、模様指定 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 6 | 例題演習② | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 7 | テクスチャマッピング | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 8 | 表面を凸凹にする | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 9 | 例題演習③ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 10 | 空、地面を作る | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 11 | 例題演習④ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 12 | 集合演算① - 和・差 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 13 | 集合演算② - 積 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 14 | 例題演習⑤ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| 15 | 前期総合演習 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 質感の設定① - 石、木材 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 2 | 質感の設定② - 金属、硝子 - | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 3 | 例題演習⑥ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 4 | 屈折率の設定 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| | 5 | 立体文字の作成① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| 6 | 立体文字の作成② | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|---------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 7 | 繰り返し処理① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 8 | 繰り返し処理① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 9 | マクロと関数① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 10 | マクロと関数② | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 11 | 課題制作① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 12 | 課題制作② | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 13 | 課題制作③ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| | 14 | 課題制作④ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) |
| 15 | 課題制作⑤ | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。(2h) | |
| 成績評価 | 授業への取り組み 30%、課題提出 70% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業中に提示した課題等について、制作中の指導等により、個別にフィードバックする。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（プリント随時配布） | | | |
| メッセージなど | 2年次前期の「コンピュータグラフィックスⅠ」も受講し、3DCGに関する基礎知識を演習と同時に身に付けていく方が望ましい。 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------|--------------------------|-------------------------|----------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 使用するソフトウェアでのカメラ、光源、オブジェクトの位置の設定ができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 改善余地はあるが、設定できる。 | 適切とは言えないが、最低限のことはできている。 | 最低限の基本もできていない。 | 授業への取り組み・課題提出等 (関心・意欲・知識・理解・思考力・表現力・技能) | 10% |
| (2) 使用するソフトウェアが準備している基本図形が扱える。 | ほぼ完璧にできる。 | 改善余地はあるが、自力で基本図形の扱いができる。 | ヒントを与えられて、やっとならできる。 | 最低限の基本もできていない。 | | 20% |
| (3) オブジェクトの平行移動・回転移動・拡大と縮小または数式でオブジェクトの作成ができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 改善余地はあるが、自力で作成できる。 | ヒントを与えられて、やっとならできる。 | 最低限の基本もできていない。 | | 50% |
| (4) 色彩やテクスチャなどが表現できる。 | ほぼ完璧にできる。 | 改善余地はあるが、自力で表現できる。 | ヒントを与えられて、やっとならできる。 | 最低限の基本もできていない。 | | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|--|--|-----------------------------|-------------|
| メディアコンテンツ制作 Media Content Production | | 情報メディア学科 | 20IMIC2005 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | コンピュータ上で扱うメディアは、文字・文書、画像・図形、音声・音響、動画・映像などさまざまである。これらメディアの特徴を理解し、目的や用途によって適切なメディア処理ソフトウェアを利用し、適切なファイル形式で保存することが要求される。本授業では、メディアコンテンツ制作に必要な技術について説明する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) デジタル化について説明できる。 (2) メディア技術の種類と特徴を説明できる。 (3) メディアコンテンツを適切なメディア処理ソフトについて説明できる。 (4) メディアコンテンツを適切なメディア処理ソフトを利用して作成できる。 (5) メディアの種類に適したファイル形式でコンテンツを保存できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | マルチメディア技術の種類と特徴 | マルチメディア技術の種類と特徴について、Web等で予備学習を行う。2時間 | マルチメディア技術の種類と特徴について復習する。2時間 | |
| | 2 | ファイルフォーマット、ファイルの圧縮 | ファイルの圧縮について、Web等で予備学習を行う。2時間 | ファイルの圧縮について復習する。2時間 | |
| | 3 | メディア技術のファイルフォーマット | ファイルフォーマットについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | ファイルフォーマットについて復習する。2時間 | |
| | 4 | メディア処理ソフトウェア | メディア処理ソフトウェアについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | メディア処理ソフトウェアについて復習する。2時間 | |
| | 5 | 文字：文字コード・フォント | 文字コード・フォントについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 文字コード・フォントについて復習する。2時間 | |
| | 6 | 音声編集の基本：波形編集・エフェクト | 音声編集について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 7 | 音声波形編集の課題 | 前回の内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、課題に取り組む。2時間 | |
| | 8 | 音楽作成の基本：MIDI・音源 | 音楽作成について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 9 | 音楽作成の課題 | 前回の内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、課題に取り組む。2時間 | |
| | 10 | 動画編集の基本(1)：ノンリニア編集・文字・音声設定 | 動画編集について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 11 | 動画編集の基本(2)：映像合成・エフェクト | エフェクトについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 12 | 動画編集の課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、課題に取り組む。2時間 | |
| | 13 | ベクタ形式画像の作成(1)：ラスタ形式とベクタ形式 | ベクタ形式画像について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 14 | ベクタ形式画像の作成(2)：ベクタ画像の作成 | ベクタ画像の作成について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| 15 | ベクタ形式画像作成の課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、課題に取り組む。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|--------------------------|
| 成績評価 | 定期試験 60%、課題レポート 40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポートは、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | ウェブデザイン実務士：選択必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------|-------------------------------|---------------------------------|------------------------|---------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) デジタル化について説明できる。 | ほぼ完璧にデジタル化について説明できる。 | 大きな間違いが無く、デジタル化についての基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のデジタル化について説明できる。 | デジタル化について説明できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (2) メディア技術の種類と特徴を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (3) メディアコンテンツを適切なメディア処理ソフトについて説明できる。 | ほぼ完璧にメディア処理ソフトについて説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | メディア処理ソフトについて説明できていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (4) メディアコンテンツを適切なメディア処理ソフトを利用して作成できる。 | ほぼ完璧にコンテンツを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なコンテンツを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のコンテンツを作成できる。 | コンテンツを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・表現力） | 20% |
| (5) メディアの種類に適したファイル形式でコンテンツを保存できる。 | ほぼ完璧にファイルを保存できる。 | 大きな間違いが無く、ファイルを保存できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本的なファイルを保存できる。 | ファイルの保存ができていない。 | 課題レポート（知識・理解・判断力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------|--|--|---------------------|-------------------|-------------|
| WEBデザイン基礎 Website Design I | | 情報メディア学科 | 20IMIC1001 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 横山 吉朋 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | グラフィックデザイナーとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。ウェブページのデザインにおける基礎的な項目を一般的な規格に基づきながら実践し習得する。主にHTMLとCSS、Photoshopを使用しながらウェブページの入門的な知識を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | (1) ウェブページを作成して公開するまでの作業プロセスを説明できる。 (2) ウェブページを構成するHTML+CSSの記述を読み、処理内容を説明できる。 (3) HTML+CSSを使って基本的なウェブページを作成できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 基礎知識① - ウェブサイトデザインに関わる職業- 演習①HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 2 | 基礎知識② - ウェブデザインの作業フロー 演習② HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 3 | 基礎知識③ - ウェブデザインのポイント- 演習③ HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 4 | 基礎知識④ - ドメインとサーバー 演習④ HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 5 | 演習⑤ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 6 | 基礎知識⑤ - ささまざまなウェブサイト例- 演習⑥ HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 7 | 基礎知識⑥ - ささまざまなウェブサイト例- 演習⑦HTMLとCSSを書いてみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 8 | 演習⑧ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 9 | 基礎知識⑦ - 企業でのウェブサイト活用例- 演習⑨ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 10 | 基礎知識⑧ - 地域活性化のウェブサイト活用例- 演習⑩ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 11 | 基礎知識⑨ - デザインの仕様- 演習⑪ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 12 | 基礎知識⑩ - ウェブデザインにおけるモラル- 演習⑫ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 13 | 演習⑬ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 14 | 演習⑭ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| 15 | 演習⑮ ウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題提出 50%、授業態度 50%にて評価する。 |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業中に提示した課題において制作する成果物について、制作中の指導により個別にフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | |
| メッセージなど | 難しそうに思えるかもしれませんが、HTML と CSS はプログラミング言語に比べ習得しやすい技術です。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------|--------------------|---------------------------|-----------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ウェブページを作成して公開するまでの作業プロセスを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく基本が説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解) | 30% |
| (2) ウェブページを構成するHTML+CSSの記述を読み、処理内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく基本が説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解・関心・意欲・態度) | 30% |
| (3) HTML+CSS を使って基本的なウェブページを作成できる。 | 設定した仕様を満たして制作できる | 大きなエラーや抜けがなく制作できる。 | 間違いはいくつかあるが、制作できる。 | 制作できていない。 | 課題提出 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------------|--|--|---------------------|-------------------|-------------|
| WEBコンテンツ制作 Web Contents Design | | 情報メディア学科 | 20IMIC2001 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 横山 吉朋 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 前期の「WEB デザイン基礎」「画像処理」の内容を踏まえたうえで、ウェブサイトデザインにおける重要なポジションを占めるコンテンツの制作に関する知識を実践を通して学んでいく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) コンテンツを制作するためのワークフローを説明することができる。 (2) HTML+CSS、Photoshop などを使ってウェブコンテンツを制作することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 応用知識① -コンテンツ制作- 演習① -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 2 | 応用知識② -コピーライティング- 演習② -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 3 | 応用知識③ -スマートフォン時代の写真撮影- 演習③ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 4 | 応用知識④ -ロゴデザイン- 演習④ -ウェブサイト制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 5 | 応用知識⑤ -さまざまな広告コンテンツ- 演習⑤ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 6 | 応用知識⑥ -さまざまな広告コンテンツ- 演習⑥ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 7 | 応用知識⑦ -ブランドコンテンツ- 演習⑦ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 8 | 応用知識⑧ -オウンドメディア- 演習⑧ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 9 | 応用知識⑨ -コンテンツマーケティング- 演習⑨ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 10 | 応用知識⑩ -ウェブサイト・SNS・ブlogger- 演習⑩ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 11 | 演習⑪ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 12 | 演習⑫ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 13 | 演習⑬ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 14 | 演習⑭ -ウェブコンテンツ制作- | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 15 | 演習⑮ -ウェブコンテンツ制作-講評 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題提出 50%、授業態度 50%にて評価する。 |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業中に提示した課題において制作する成果物について、制作中の指導および制作後の講評により、個別にフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | |
| メッセージなど | 「WEBデザイン基礎」「画像処理」を踏まえた上で進めていきますので、必ず受講してください。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------|--------------------|---------------------------|-----------|-----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンテンツを制作するためのワークフローを説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本が説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解) | 30% |
| (2) CMS、HTML+CSS、Photoshopなどを使ってウェブコンテンツを制作することができる。 | 設定した仕様を満たして制作できる。 | 大きなエラーや抜けがなく制作できる。 | 間違いはいくつかあるが、制作できる。 | 制作できていない。 | 課題提出 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) | 70% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|---|------------------------|--|------------------------|-------------|
| WEBアニメーション Web Animation | | 情報メディア学科 | 20IMIC2006 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | Web ページで動きのあるコンテンツを活用することは、魅力あるページには不可欠な要素となっている。Web ページのアニメーションは、一般的な動画コンテンツとは異なり、Web ページという制限された中で表現しなければならない。本講義では、JavaScript というスクリプト言語を用いて、Web ページで表現できる簡単なアニメーションを作成する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) Web ページでアニメーションを実現する原理が説明できる。 (2) JavaScript を使った画像表示プログラミングができる。 (3) JavaScript を使った簡単なアニメーションプログラミングができる。 (4) JavaScript を使ったシーン遷移プログラミングができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション・WEBアニメーションとは | WEBアニメーションについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | WEBアニメーションについて復習する。2時間 | |
| | 2 | JavaScriptの基本 | JavaScriptについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 3 | JavaScriptライブラリの利用 | JavaScriptライブラリについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 4 | 画像の読み込みと表示、移動・回転・拡大縮小 | 画像表示について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 5 | サウンドの読み込みと再生、停止 | サウンド再生について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 6 | 画像・サウンド基本操作 作品制作課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 課題のコンテンツを作成する。2時間 | |
| | 7 | アニメーションの基本 | アニメーションについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 8 | Tweenアニメーション | Tweenアニメーションについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 9 | アニメーション 作品制作課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 課題のコンテンツを作成する。2時間 | |
| | 10 | シーン遷移 | シーン遷移について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 11 | 衝突判定 | 衝突判定について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 12 | マウスイベント・キーボードイベント | マウスイベントについて、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講内容を復習し、練習問題に取り組む。2時間 | |
| | 13 | 応用処理 作品制作課題 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 課題のコンテンツを作成する。2時間 | |
| | 14 | 最終課題制作 WEBアニメーション作品の設計 | これまでの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 課題のコンテンツを作成する。2時間 | |
| | 15 | 最終課題制作 WEBアニメーション作品の制作 | これまでの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 課題のコンテンツを作成する。2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題レポート 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | レポートは、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | プログラミングの基礎を修得していることを履修の前提とする。 ウェブデザイン実務士：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) Web ページでアニメーションを実現する原理が説明できる。 | ほぼ完璧に原理を説明できる。 | 大きな間違いが無く、基本原理を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本原理を説明できる。 | 原理を説明できていない。 | 課題レポート（知識・理解） | 10% |
| (2) JavaScript を使った画像表示プログラミングができる。 | ほぼ完璧に画像表示プログラムを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的な画像表示プログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の画像表示プログラムを作成できる。 | 画像表示プログラムを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) JavaScript を使った簡単なアニメーションプログラミングができる。 | ほぼ完璧にアニメーションプログラムを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なアニメーションプログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のアニメーションプログラムを作成できる。 | アニメーションプログラムを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 35% |
| (4) JavaScript を使ったシーン遷移プログラミングができる。 | ほぼ完璧にシーン遷移プログラムを作成できる。 | 大きな間違いが無く、基本的なシーン遷移プログラムを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のシーン遷移プログラムを作成できる。 | シーン遷移プログラムを作成できていない。 | 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 35% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------------|--|---|---------------------|-------------------|-------------|
| WEBデザイン総合演習 Website Design II | | 情報メディア学科 | 20IMIC2002 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 横山 吉朋 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | グラフィックデザイナーとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 ウェブページのデザインを実践し習得する。 主にCMSを使用したウェブページ制作の知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) CMSをサーバにインストールして公開するまでの作業プロセスを説明できる。 (2) CMSの基本的な機能を使いウェブサイトを作成することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 基礎知識①－CMSの機能説明－ 演習①CMSを操作してみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 2 | 基礎知識②－CMSの機能説明－ 演習②CMSを操作してみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 3 | 基礎知識③さまざまなウェブサイトの構成I 演習③CMSを操作してみよう | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 4 | 演習④ CMSによるウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 5 | 演習⑤ CMSによるウェブページ制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 6 | 演習⑥ CMSによるウェブページ制作演習 講評 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 7 | 基礎知識④さまざまなウェブサイトの構成II 演習⑦ CMSによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 8 | 演習⑧ CMSによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 9 | 演習⑨ CMSによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 10 | 演習⑩ CMSによるウェブページ制作演習 講評 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 11 | 基礎知識⑤さまざまなウェブサイトの構成II 演習⑪ チームによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 12 | 演習⑫ チームによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 13 | 演習⑬ チームによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 14 | 演習⑭ チームによるウェブサイト制作演習 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |
| | 15 | 演習⑮ チームによるウェブサイト制作演習 講評 | WEBテキストを読む (1時間) | 演習内容の復習 (1時間) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 課題提出 50%、授業態度 50%にて評価する。 |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業中に提示した課題において制作する成果物について、制作中の指導および制作後の講評により、個別にフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | |
| メッセージなど | 「WEBデザイン基礎」「画像処理」を踏まえた上で進めていきますので、必ず受講してください。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------|--------------------|---------------------------|-----------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) CMS でウェブサイトを作成して公開するまでの作業プロセスを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく基本が説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解) | 40% |
| (2) CMS の機能を理解し、それを利用してウェブサイトを制作できる。 | 設定した仕様を満たして制作できる | 大きなエラーや抜けがなく制作できる。 | 間違いはいくつかあるが、制作できる。 | 制作できていない。 | 授業への取り組み・課題提出 (知識・理解・関心・意欲・態度) | 60% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|------------------------------|------------------------------------|--------------------------|------------|
| 電気回路 I Electric Circuit I | | 情報メディア学科 | 20IMC01010 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 大崎 堅 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 情報の処理・伝送・蓄積は、複雑な電気回路の組合せによって生成される種々の電気現象を利用して効果的に達成されている。したがって、情報の勉強をする際、電気回路の知識があればより高度な学習が可能となる。この科目では、電気回路における抵抗、電流、電圧、磁界、電源等の物理的機能、更に、それらの直流回路での相互関係について講述する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 電気回路に関する専門用語を理解し、的確に説明できる。 (2) 電気回路における物理現象を理解し、的確に説明できる。 (3) 直流回路の電圧、電流、抵抗の関係について理解し、回路の計算が的確にできる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 「電気回路 I」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「電気回路 I」の目的と意義を理解する。(2h) | |
| | 2 | 電流 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 電位、電位差、電圧 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 起電力と電流 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 直流と交流 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 電流と磁界 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 電磁誘導 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 回路素子 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | オームの法則とキルヒホッフの法則 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 電力と電力量 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 電気回路の基本的解法① -抵抗の直列、並列、直並列計算- | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 電気回路の基本的解法② -枝電流法- | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 電気回路の基本的解法③ -閉路または網目電流法- | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 電気回路の基本的解法④ -節点電位法- | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| 15 | 直流回路における演習 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）80%、 レポート（理解度・思考力・意欲）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ な ど | 「電気回路Ⅱ（後期）」を履修予定の人は、この科目を履修しておくことが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|------------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 電気回路に関する専門用語を理解し、的確に説明できる。 | 専門用語を用いて 80%以上の確に説明できている。 | 専門用語を用いて 79～70%的確に説明できている。 | 専門用語を用いて 69～60%的確に説明できている。 | 的確な説明が 60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 20% |
| (2) 電気回路における物理現象を理解し、的確に説明できる。 | 複雑な物理現象を理路整然と 80%以上の確に説明できている。 | 複雑な物理現象を理路整然と 79～70%的確に説明できている。 | 専門用語を用いて 69～60%的確に説明できている。 | 的確な説明が 60%未満である。 | | 20% |
| (3) 直流回路の電圧、電流、抵抗の関係について理解し、回路の計算が的確にできる | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて 80%以上の確に解析できている。 | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて 79～70%的確に解析できている。 | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて 69～60%的確に解析できている | 的確な解析が 60%未満である。 | | 40% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|------------|
| 電気回路Ⅱ Electric Circuit Ⅱ | | 情報メディア学科 | 20IMIP2001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 大崎 堅 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 家庭内で使用している電気機器の電源は、コンセントから供給される交流が使用されている。交流では電圧・電流が時間的に変化しており、電気回路Ⅰで学修する直流回路に比して複雑な回路計算が必要となる。そこで、この科目では正弦波交流回路について複素代数学を導入し、回路計算を単純化する手法について講述する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 正弦波交流の性質や大きさの表し方について理解し説明できる。 (2) 交流のベクトル表示や交流回路の計算法について説明できる。 (3) 交流回路において電圧・電流・インピーダンスを数理的に解析できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 「電気回路Ⅰ」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「電気回路Ⅰ」の目的と意義を理解する。(2h) | |
| | 2 | 正弦波交流①－発生、周波数、周期、角周波数、位相、位相差－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 正弦波交流②－瞬時値、peak to peak 値、平均値、実効値－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 複素数とベクトル①－複素数の表示及び演算－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 複素数とベクトル②－電圧と電流の複素数表示－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 複素数とベクトル③－複素インピーダンスと複素アドミタンス－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 記号法による交流回路の計算①－単素子回路－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 記号法による交流回路の計算②－R-L 回路－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | 記号法による交流回路の計算③－R-C 回路－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 記号法による交流回路の計算④－R-L-C 回路－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 記号法による交流回路の計算⑤－共振回路－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 交流回路の電力①－瞬時電力、有効電力、力率－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 交流回路の電力②－皮相電力、無効電力－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 三相交流①－三相起電力－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| 15 | 三相交流②－対称三相回路の電力－ | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）80%、 レポート（理解度・思考力・意欲）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ など | 「電気回路Ⅰ（前期）」を履修しておくことが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 正弦波交流の性質や大きさの表し方について理解し説明できる。 | 交流現象とその表示法を80%以上の確に説明できている。 | 交流現象とその表示法を79～70%の確に説明できている。 | 交流現象とその表示法を69～60%の確に説明できている。 | 的確な説明が60%未満である。 | 定期試験（知識・理解・思考力） | 20% |
| (2) 交流のベクトル表示や交流回路の計算法について説明できる。 | 交流現象とベクトル表示との関係を80%以上の確に説明できている。 | 交流現象とベクトル表示との関係を79～70%の確に説明できている。 | 交流現象とベクトル表示との関係を69～60%の確に説明できている。 | 的確な説明が60%未満である。 | | 20% |
| (3) 交流回路において電圧・電流・インピーダンスを数理的に解析できる。 | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて80%以上の確に解析できている。 | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて79～70%の確に解析できている。 | 回路に生じる電気現象を諸定理を用いて69～60%の確に解析できている。 | 的確な解析が60%未満である。 | | 40% |
| | | | | | 演習レポート（理解・意欲・思考力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|-------------------------|--|------------------------------|-----|-------------|
| エレクトロニクス基礎 Fundamentals of Electronics | | 情報メディア学科 | | 20IMIP1001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 大崎 堅 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | エレクトロニクスは現代科学のあらゆる分野で活用され、欠かすことのできないものとなっている。本講義では情報分野の学生がより広い視野を持って専門の学習に進めるように、エレクトロニクスの基礎を講義する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 電気回路における諸法則を理解し、これらを用いて計算できる。 (2) 半導体素子の基本的な働きを説明できる。 (3) 基礎的な電子回路図を見て、その動作を説明できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | 「エレクトロニクス基礎」のシラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1h) | 「エレクトロニクス基礎」の目的と意義を理解する。(2h) | | |
| | 2 | オームの法則 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 3 | 抵抗の接続方法 (直列接続と並列接続) | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 4 | 抵抗の接続方法② (直・並列接続) | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 5 | キルヒホッフの法則 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 6 | キルヒホッフの法則の適用例 (多電源回路) | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 7 | キルヒホッフの法則の適用例② (ブリッジ回路) | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 8 | 電気回路 (2～7) の復習問題 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 9 | ダイオードの原理と特性 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 10 | ダイオードの応用回路 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 11 | トランジスタの原理と特性 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 12 | トランジスタのバイアスと増幅機能 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 13 | トランジスタの接地方式 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 14 | 増幅回路の設計 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |
| | 15 | 発振回路の設計 | プリントの該当部をよく読み考える。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（理解・知識・思考力・判断力）80%、 レポート（理解度・思考力・意欲）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは理解・意欲・思考力等の程度をチェックし、次の授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：使用しない。 適宜プリントを配布 |
| メッセージ など | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------|-----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 電気回路における諸法則を理解し、これらを用いて計算できる。 | 諸法則の説明、回路計算が80%以上の確にできている。 | 諸法則の説明、回路計算が79～70%の確にできている。 | 諸法則の説明、回路計算が69～60%の確にできている。 | 的確な説明、回路計算が60%未満である。 | 定期試験 (知識・理解・思考力) | 20% |
| | | | | | | 30% |
| (2) 半導体素子の基本的な働きを説明できる。 | 基本的な働きの説明が80%以上の確にできている。 | 基本的な働きの説明が79～70%の確にできている。 | 基本的な働きの説明が69～60%の確にできている。 | 的確な説明が60%未満である。 | 演習レポート (理解・意欲・思考力) | 10% |
| | | | | | | 30% |
| (3) 基礎的な電子回路図を見て、その動作を説明できる。 | 回路の動作説明が80%以上の確にできている。 | 回路の動作説明が79～70%の確にできている。 | 回路の動作説明が69～60%の確にできている。 | 的確な回路説明計算が60%未満である。 | 定期試験 (知識・理解・思考力) | 30% |
| | | | | | | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|-------------------------|-------------------------|---------------------|-------------|
| マイクロコンピュータ工学 Microcomputer Engineering | | 情報メディア学科 | 20IMIP2002 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 柴田 道信 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | マイクロコンピュータの基本的な構成要素と機能およびアセンブリ言語を用いたプログラミング方法を学ぶ。実際に PIC マイコンを用いて LED 点灯制御を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) PIC の基本的な構成要素と機能を説明できる。 (2) PIC の命令について動作を説明できる。 (3) アセンブリ言語を用いてプログラムを作成することができる。 (4) PIC を用いて基本的な制御回路を設計・構築できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読み、科目の内容を把握する (1h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 2 | マイクロコンピュータとは | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントを復習する (2h) | |
| | 3 | マイクロコンピュータの構成 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントを復習する (2h) | |
| | 4 | マイクロコンピュータの構成要 ①CPU | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントを復習する (2h) | |
| | 5 | マイクロコンピュータの構成要素 ②メモリ・IO | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 6 | マイコンにおけるデータ表現 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 7 | マイコンとアセンブリ言語 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 8 | データ転送に関する命令 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 9 | 算術演算・論理演算に関する命令 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 10 | シフトや回転に関する命令 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 11 | 条件分岐に関する命令 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 12 | プログラム作成方法と実行手順 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 13 | プログラミング実習①ハードウェア構成 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 14 | プログラミング実習②プログラム作成と実行 | 授業テーマを参照し、予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 15 | まとめ | 既習事項のまとめを行う (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（知識・理解、思考力・判断力）30%、 定期試験（知識・理解・思考力）70% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、解説も含め授業内で全体に対してフィードバックする。試験については、ルーブリック評価の結果で提示する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：プリントを配布 参考文献：堀桂太郎「図解 PIC マイコン実習—ゼロからわかる電子制御」森北出版 |
| メッセージ な ど | C言語などの予備知識は特に必要としない。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------|--------------------|----------------------|------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) PIC の基本的な構成要素と機能を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる | 間違いはあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) PIC の命令について動作を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる | 間違いはあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) アセンブリ言語を用いて基本的なプログラムを作成することができる。 | ほぼ完璧に作成できる。 | 大きな間違いがなく、作成できる。 | 助言があれば、作成できる。 | 作成できない。 | 授業への取り組み・試験 (知識・理解・思考力・判断力) | 30% |
| (4) PIC を用いて基本的な制御回路を設計・構築できる。 | 自分の力のみで設計・構築できる。 | ほぼ助言なしで、設計・構築ができる。 | 多少の助言があれば、設計・構築ができる。 | 設計・構築できない。 | 授業への取り組み (知識・理解・思考力・判断力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|--|---------------------------|-------------------------------|----------------------------|-------------|
| 論理回路 Logic Circuit | | 情報メディア学科 | 20IMIP1002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 寺本 公思 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | コンピュータのようなデジタル信号を扱う機器は論理素子で構成される論理回路から成り立っている。また、マイコンで動作する各種ロボットを設計する際にも入出力回路などに論理回路の知識は不可欠である。ここでは基本論理回路とそれらを組み合わせた論理回路について学習する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 基本論理素子の構成要素である FET などのスイッチ素子について理解し説明できる。 (2) ブール代数やカルノー図を利用して論理式を簡略化することができる。 (3) 基本論理素子について理解し、論理回路を設計することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 論理回路について調べる・2時間 | 論理回路について復習する・2時間 | |
| | 2 | アナログとデジタル | デジタルとアナログについて調べる・2時間 | デジタルとアナログについてまとめる・2時間 | |
| | 3 | デジタルの特徴 | デジタルの特徴についてテキストを読む・2時間 | デジタルの特徴についてまとめる・2時間 | |
| | 4 | スイッチ素子 | スイッチ素子について調べる・2時間 | スイッチ素子についてまとめる・2時間 | |
| | 5 | 集積回路と MOS-FET | FET について調べる・2時間 | MOS-FET 回路についてまとめる・2時間 | |
| | 6 | 基本論理回路 (AND, OR, NOT) | AND, OR, NOT について調べる・2時間 | AND, OR, NOT についてまとめる・2時間 | |
| | 7 | 基本論理回路 (NAND, NOR) | NAND, NOR について調べる | NAND, NOR についてまとめる・2時間 | |
| | 8 | 基本論理回路 (一致回路、不一致回路) | EX-OR 等について調べる・2時間 | EX-OR についてまとめる・2時間 | |
| | 9 | ブール代数と論理式の簡略化 | ブール代数について調べる・2時間 | ブール代数での簡略化の演習をする・2時間 | |
| | 10 | カルノー図による簡略化 | カルノー図について調べる・2時間 | カルノー図による簡略化の演習をする・2時間 | |
| | 11 | 論理回路の設計 (半加算器・全加算器) | 加算機回路について調べる・2時間 | 加算機回路についてまとめる・2時間 | |
| | 12 | エンコーダとデコーダ | エンコーダ・デコーダについて調べる・2時間 | エンコーダ・デコーダ回路を設計してみる・2時間 | |
| | 13 | RS フリップフロップ | フリップフロップ回路について調べる・2時間 | RS フリップフロップのタイムチャートを描く・2時間 | |
| | 14 | JK フリップフロップとその応用 | JK フリップフロップについて調べる・2時間 | JK フリップフロップについて理解する・2時間 | |
| 15 | T フリップフロップと D フリップフロップ | その他のフリップフロップ回路について調べる・2時間 | T フリップフロップやその応用回路についてまとめる・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 試験や課題に対してルーブリックによる評価を行う。 定期試験（知識・理解）70%、演習課題等（関心・意欲）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | 適宜プリントを配布する。 |
| メッセージなど | この科目で学習する論理回路はマイコン回路やロボットを動作させるためのインタフェース回路設計等でも必要となる知識である。 |

ブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|--|---|--|--|--------------------------|------|
| (1) 基本論理素子の構成要素である FET などのスイッチ素子について理解し説明できる。 | 基本論理素子の構成要素である FET などのスイッチ素子について十分理解し説明できる。 | 基本論理素子の構成要素である FET などのスイッチ素子について概ね理解し説明できる。 | FET などのスイッチ素子について概ね理解できているが十分に説明が出来ない。 | 基本論理素子の構成要素である FET などのスイッチ素子について理解できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 40% |
| (2) ブール代数やカルノー図を利用して論理式を簡略化することができる。 | ブール代数やカルノー図について理解し、それらを使う利点についても理解でき、複雑な論理式を簡略化するために応用することができる。 | ブール代数の公理や定理について説明できる、また、カルノー図についても説明でき、それらを使って論理式を簡略化できる。 | ブール代数やカルノー図について理解し、説明でき、簡単な論理式を簡略化できる。 | ブール代数やカルノー図についてその役割や利点について理解できていない。 | | 30% |
| (3) 基本論理素子について理解し、論理回路を設計することができる。 | 基本論理素子について十分理解し、フリップフロップ回路や半加算器、順序回路などの応用回路が完璧に設計でき、その動作やタイムチャートについて十分説明できる。 | 基本論理素子について概ね理解し、フリップフロップ回路や半加算器、順序回路などの応用回路が設計でき、その動作やタイムチャートについて概ね説明できる。 | 基本論理回路を用いた、簡単なフリップフロップ回路や学習済みの回路について設計できる。 | 基本論理素子に伝の理解が不十分であり、論理回路についても理解が不十分で論理回路の設計が出来ない。 | 演習課題 (関心・意欲 思考・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------|--|---------------------------|---------------------------|------------------------------|-------------|
| デジタル回路 Digital Circuit | | 情報メディア学科 | 20IMIP2003 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 寺本 公思 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 実際のコンピュータ回路や、インタフェース回路の設計には論理回路やデジタル回路の基礎知識が必要です。この科目では実際の演習を行いながらデジタル回路についての理解を深めます。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 論理回路素子について理解し説明できる。 (2) 基本的なデジタル回路の設計ができ、内容について説明できる。 (3) デジタル回路の知識を使って、応用回路の設計と演習ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 論理回路に復習・2時間 | 論理回路の復習・2時間 | |
| | 2 | 論理回路素子 (AND OR NOT EX-OR) | 論理回路素子の復習・2時間 | 論理回路素子についてまとめる・2時間 | |
| | 3 | 論理回路 (組合せ論理回路) | 組合せ論理回路について調べる・2時間 | 組合せ論理回路の復習・2時間 | |
| | 4 | フリップフロップ回路 | フリップフロップ回路について調べる・2時間 | フリップフロップ回路のタイムチャートを描く・2時間 | |
| | 5 | フリップフロップ応用回路 | フリップフロップの応用回路について調べる・2時間 | フリップフロップ応用回路についてまとめる・2時間 | |
| | 6 | デコーダ回路の設計 | デコーダ回路について調べる・2時間 | デコーダ回路の設計についてまとめる・2時間 | |
| | 7 | デコーダ回路とコンピュータのメモリマップ | コンピュータで使用するメモリについて調べる・2時間 | コンピュータのメモリマップについて理解する・2時間 | |
| | 8 | 発振回路 | 発振回路について調べる・2時間 | 発振回路を設計してみる・2時間 | |
| | 9 | 16進カウンタ回路 | 16進カウンタについて調べる・2時間 | 16進カウンタについてまとめタイムチャートを描く・2時間 | |
| | 10 | 10進カウンタ回路 | 10進カウンタについて調べる・2時間 | 10進カウンタの設計を試してみる・2時間 | |
| | 11 | 7セグメント表示回路 | 7セグメント表示器について調べる・2時間 | 7セグメントデコーダ回路を設計してみる・2時間 | |
| | 12 | デジタル回路設計 (発振回路) | 発振回路について復習しておく・2時間 | 発振回路を設計してみる・2時間 | |
| | 13 | デジタル回路設計 (10進カウンタの組合せ) | カウンタ回路について復習しておく | 10進カウンタを組み合わせる・2時間 | |
| | 14 | デジタル回路設計 (デコーダと表示回路) | 表示回路について復習する・2時間 | デコーダ回路を設計してみる・2時間 | |
| | 15 | まとめと総合演習 (0~99までのカウンタ設計) | デジタル回路について復習しておく・2時間 | デジタル回路の設計法について復習する・2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 試験やレポートについてルーブリック評価により成績評価を行う。 定期試験（知識・理解）70%、演習課題等（関心・意欲）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | 適宜プリントを配布する。 |
| メッセージなど | 1年次に「論理回路」を履修し、論理回路や論理式の基礎知識を習得していること。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|---------------------|--------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 論理回路素子について理解し説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 基本的なことも理解できていない。 | 定期試験 課題テスト (知識・理解) | 30% |
| (2) 基本的なデジタル回路の設計ができ、内容について説明できる | ほぼ完璧に基本的なデジタル回路の設計ができ、内容について説明できる。 | 大きな間違いなく、基本的なデジタル回路の設計ができ基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、基本的なデジタル回路の設計ができる。 | 基本的なデジタル回路の設計ができない。 | | 40% |
| (3) デジタル回路の知識を使って、応用回路の設計と演習ができる。 | ほぼ完璧に応用回路の設計と演習ができる。 | 大きな間違いなく、応用回路の設計と演習ができる | 間違いはいくつかあるが、応用回路の設計と演習ができる | 応用回路の設計と演習ができない | 演習課題 (関心・意欲思考・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|-------------------|------------------------------|----------------------------------|-----------|
| 電子情報実験Ⅰ Experiments on Electronics and Information Science I | | 情報メディア学科 | 20IMIP1003 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実験 | 1 | 選択 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 電気回路の諸法則をテーマとした実験を行い、抽象的な電気回路の理論を体験的に理解する。基礎的な実験技能および報告書作成技術を養う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 実験に用いる計器や測定器具類を正しく選定し、正しく取り扱うことができる。 (2) 実験の際に、計器・測定器具・実験セットなどを正しく配線することができる。 (3) 実験データを適切に整理・解析する技術を習得し、的確な報告書を作成することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 測定誤差について学習しておく。2時間 | 測定器具の扱い方で注意すべき事をまとめておく。2時間 | |
| | 2 | レポートの書き方、実験上の注意 | 有効数字とは何か学習しておく。2時間 | 有効数字の演習問題をしておく。2時間 | |
| | 3 | 回路計（テスタ）の使い方 | テスタとは何か学習しておく。2時間 | 計器には色々な種類があるが可動コイル形以外を調査する。2時間 | |
| | 4 | オームの法則の実験 | オームの法則について学習しておく。2時間 | オームの法則を用いて演習問題をしておく。2時間 | |
| | 5 | 抵抗の直並列の実験 | 直並列の計算方法について学習しておく。2時間 | キルヒホッフの法則を使って回路計算をやってみる。2時間 | |
| | 6 | 単相交流電力の測定 | 交流回路の電力測定に必要なものは何か学習しておく。2時間 | 力率を改善する方法を調べておく。2時間 | |
| | 7 | オシロスコープによる波形観測 | オシロスコープとはどのようなものか学習しておく。2時間 | リサージュ図形を用いた位相差の測定方法について調査する。2時間 | |
| | 8 | ダイオードの特性 | ダイオードとはどのような素子か学習しておく。2時間 | ダイオードの種類と用途について学習しておく。2時間 | |
| | 9 | 整流回路の特性実験 | 整流回路の種類について調査しておく。2時間 | 半波整流、全波整流を比較して全波整流の利点を考えてみる。2時間 | |
| | 10 | トランジスタの静特性 | トランジスタとはどのような素子なのか学習しておく。2時間 | 直流負荷線の書き方について学習する。2時間 | |
| | 11 | トランジスタ増幅回路の特性測定 | トランジスタ負帰還増幅回路について学習しておく。2時間 | 負帰還を掛けることのメリット、デメリットを調査する。2時間 | |
| | 12 | オペアンプの増幅回路 | オペアンプとは何か学習しておく。2時間 | オペアンプを用いた応用回路について調べる。2時間 | |
| | 13 | デジタル IC 基本回路 | 論理回路、真理値表、論理式について学習しておく。2時間 | 論理式の簡略化について学習しておく。2時間 | |
| | 14 | DA・AD 変換回路 | DA 変換、AD 変換とは何か学習しておく。2時間 | 電圧を電気信号に変換する際の精度が何で決まるか考えてみる。2時間 | |
| 15 | 各種センサの基礎実験（光センサ、温度センサ、磁気センサ） | センサとは何か学習しておく。2時間 | センサと IoT との関連を学習しておく。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 実験態度（知識・関心・意欲） 50%、 報告書（知識・理解・表現力） 50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎回レポートを提出してもらいます。内容を確認して返却します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 実験プリントを配布 |
| メッセージ など | 実験終了後は、実験内容をまとめた実験報告書を毎回提出してもらいます。 なお、「電子情報実験Ⅱ（後期）」を履修予定の人は、「電子情報実験Ⅰ」を履修しておくことが望ましいです。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|---|---|------------------------------|----------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 実験に用いる計器や測定器具類を正しく選定し、正しく取り扱うことができる。 | 実験内容に応じて、計器や測定器具類を正しく選定し、正しく扱うことができる。 | 実験内容に応じて、計器や測定器具類を正しく選定できるが、扱い方が一部間違っている。 | 実験内容に応じて、計器や測定器具類を正しく選定できるが、扱い方が間違っている。 | 実験内容に応じて、計器や測定器具類を正しく選定できない。 | 実験態度（知識・関心・意欲） | 30% |
| (2) 実験の際に、計器・測定器具・実験セットなどを正しく配線することができる。 | 実験回路が完璧に結線できる。 | 実験回路は結線できるが、不要な配線がある。 | 実験回路は結線できるが、計器類の極性に誤りがある。 | 実験回路の結線ができない。 | | 20% |
| (3) 実験データを適切に整理・解析する技術を習得し、的確な報告書を作成することができる。 | 実験データの処理が完璧で、考察も理論と比較して技術的見地に立って考えをまとめている。 | 実験データの処理は完璧だが、考察が不十分である。 | 実験データの処理が不十分で、考察も不十分である。 | 報告書が提出できない。 | 報告書（知識・理解・表現力） | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|--|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------|
| 電子情報実験Ⅱ Experiments on Electronics and Information Science II | | 情報メディア学科 | 20IMIP2004 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実験 | 1 | 選択 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | これまで専門教育科目で学習してきた内容を活用し、組み込みマイコン技術や基礎的な回路を設計・製作する力を養う。そのために、「半導体温度センサ (LM35DZ) を使った温度計」の設計から製作までを学習する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 電子部品のデータシートから必要な情報を読み取ることができる。 (2) データシートをもとに簡単な電子回路を設計することができる。 (3) 組み込みマイコンの簡単なプログラムを開発することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 電子回路開発にはどのような工程があるか調査する。2時間 | 回路図エディターとは何か調査する。2時間 | |
| | 2 | 回路図エディター「BSch 3」の使い方 | 回路図エディターの機能にはどのようなものがあるか調査する。2時間 | 回路図エディターを使ってみる。2時間 | |
| | 3 | 「BSch 3」を使った電子回路設計 | 簡単な電子回路設計をやってみる。2時間 | 電子回路を設計してみる。2時間 | |
| | 4 | ブレッドボードによる動作実験 (電源回路、3桁7セグメントLED点灯回路) スタティック点灯 | ブレッドボードの仕組みについて学習しておく。2時間 | ダイナミック点灯とはどのようなものか調査する。2時間 | |
| | 5 | データシートの見方、電子部品のサイズ | データシートとは何か調査する。2時間 | データシートとから読み取れるものを箇条書きにしてみる。2時間 | |
| | 6 | プリント基板エディター「PCBE」によるパターン設計① | プリント基板とは何か学習しておく。2時間 | PCBE を使用して設計をしてみる。2時間 | |
| | 7 | プリント基板エディター「PCBE」によるパターン設計② | 効率の良い部品配置について検討しておく。2時間 | PCBE を使用して設計・修正する。2時間 | |
| | 8 | 基板加工機による基板加工 | 基板加工機に使われる工具にはどのようなものがあるか調査する。2時間 | 基板と回路図を比較して間違いが無いか調査する。2時間 | |
| | 9 | ハンダ付け、ケース加工 (ノギスの使い方) | ハンダ付けとは何か調査しておく。2時間 | ノギスの使い方について再度確認しておく。2時間 | |
| | 10 | 目視検査、通電テスト | テストの使い方を復習しておく。2時間 | 基板の面積を出来るだけ小さくする方法はないか検討する。2時間 | |
| | 11 | 半導体温度センサの特性測定 | 半導体温度センサの特性について調査しておく。2時間 | プログラムを組む際にどのような変換式を使えば良いのか考える。2時間 | |
| | 12 | PIC 開発環境「MPLAB X IDE」の使い方 | PIC とは何か調査する。2時間 | 授業で使っている Arduino と何が違うのか調査する。2時間 | |
| | 13 | LED のスタティック点灯とダイナミック点灯制御 | 7セグメントLEDと点灯方法について調査する。2時間 | ダイナミック点灯のフローチャートを考えておく。2時間 | |
| | 14 | AD変換処理、割り込み処理のプログラム | 割り込みとは何か学習しておく。2時間 | タイマー割り込みのプログラムを考えておく。2時間 | |
| 15 | 温度計としての全体のプログラム作成 | 温度測定プログラムのアルゴリズムを考えておく。2時間 | 効率の良いプログラム構成は出来ないか再度検討する。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み（意欲・関心・態度） 30%、 実験レポート（思考力・判断力・表現力） 30%、 完成した作品（知識・理解） 40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回レポートを提出してもらいます。内容を確認して返却します。 |
| テキストおよび参考文献 | 自作テキストを配布 |
| メッセージなど | ものづくりの基本を一から学べます。自分ひとりで電子回路を作り上げることができます。なお、この科目は「電子情報実験Ⅰ」を履修していることが望ましいです。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------------|-----------------------|--------------------------|---------------------------|------------------|---------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 電子部品のデータシートから必要な情報を読み取ることができる。 | 非常に多くの情報収集が出来る。 | 基礎的な情報収集ができる。 | 情報収集があまり出来ていない。 | 情報収集が全く出来ていない。 | 授業への取り組み（意欲・関心・態度） | 30% |
| (2) データシートをもとに簡単な電子回路を設計することができる。 | ほぼ完璧に設計が出来ている。 | 大きな間違いがなく、設計が出来ている。 | 間違いはいくつかあるが、基本的な設計はできている。 | 設計することが全く出来ていない。 | 実験レポート（思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 組み込みマイコンの簡単なプログラムを開発することができる。 | 目的とするプログラムを完璧に完成している。 | プログラムは完成しているが一部無駄な処理がある。 | プログラムは完成しているが無駄な処理が多い。 | プログラムが完成していない。 | 完成した作品（知識・理解） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------------------|--|-------------------------------|------------------------------|-----------------------|-------------|
| ロボット製作演習 Robot Production Exercise | | 情報メディア学科 | 20IMIP2005 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 寺本 公思・大上 文典 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | これからの社会はロボットに代表される、マイコン組み込み技術が重要になってきます。この科目ではPCボード Arduino について学んだ後、センサやモータ等のアクチュエータを含めたロボット制御技術について学習し、最終的には自立型ロボットの製作を行うことにより組込み技術の習得を目指します。 | | | | |
| 到達目標 | (1) Arduino 演習ボードを製作しプログラミングできる。 (2) 代表的なセンサについて説明し活用できる。 (3) センサ・マイコン・アクチュエータ (モータ) を使ったロボットの設計・プログラミングができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | プリント基板の作成 | ロボットの回路と基盤の関係について調べる・2時間 | プリント基板の回路についてまとめる・2時間 | |
| | 2 | 回路製作演習 (抵抗及びジャンパ線の取り付け) | 使用素子について調べる・2時間 | 使った素子についてまとめる・2時間 | |
| | 3 | 回路製作演習 (IC、ソケット、液晶表示器) | 使用素子について調べる・2時間 | 使った素子についてまとめる・2時間 | |
| | 4 | 回路製作演習 (回路動作チェック) | 動作チェック方法について考える・2時間 | 動作チェック方法についてまとめる・2時間 | |
| | 5 | Arduino 演習 (IDE の使い方と LED 制御) | LED について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 6 | Arduino 演習 (LED 制御 2) | LED の制御方法について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 7 | Arduino 演習 (Delay 関数) | Delay 関数について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 8 | Arduino 演習 (for 文と While 文) | For 文と while 文について学習しておく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 9 | Arduino 演習 (ポート制御) | Arduino のポートについて調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 10 | Arduino 演習 (変数と配列) | C 言語の変数と配列について復習しておく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 11 | Arduino 演習 (アナログ出力) | アナログについて調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 12 | Arduino 演習 (スイッチ入力) | マイコンにおけるスイッチ入力について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 13 | Arduino 演習 (シリアル通信) | シリアル通信について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 14 | Arduino 演習 (LCD の制御) | 液晶表示器について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 15 | Arduino 演習 (LCD の制御とスイッチ入力) | 液晶表示器のプログラミングについて調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | Arduino 演習 (アナログ入力) | アナログについて調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 2 | Arduino 演習 (AD 変換と電圧測定) | AD 変換について調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 3 | Arduino 演習 (センサの活用: 光) | 光センサについて調査する・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| | 4 | Arduino 演習 (センサの活用: 距離、温度) | 距離センサと温度センサについて調べる・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | |
| 5 | Arduino 演習 (センサの活用) | いままですったセンサについてまとめておく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------------|---|-------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 6 | ロボット製作 (本体の製作) | テキストの該当部分を読んでおく・2時間 | 作成手順についてまとめる・2時間 |
| | 7 | ロボット製作 (スイッチ類の取り付け) | テキストの該当部分を読んでおく・2時間 | 作成手順についてまとめる・2時間 |
| | 8 | ロボット制御 (前進、後進) | テキストの前進後進に関する部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 9 | ロボット制御 (自作関数による制御) | テキストの自作関数に関する部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 10 | ロボット制御 (スピードコントロール) | テキストの速度制御に関する部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 11 | ロボット制御 (床センサと距離センサーを使う) | テキストのセンサ使用に関する部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 12 | ロボット制御 (ライントレースプログラム) | テキストの該当部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 13 | ロボット制御 (自動倉庫プログラム) | テキストの該当部分を読んでおく・2時間 | 作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| | 14 | 最終課題 | 今までのプログラムについて理解しておく・2時間 | 最終課題で作成したプログラムについて復習する・2時間 |
| 15 | 最終課題に関する発表 | 発表できるようにまとめる・2時間 | 発表の反省点をまとめる・2時間 | |
| 成績評価 | 作成プログラム及びレポートによるルーブリック評価 プログラミング課題 (知識・技能・関心・意欲) 40%、 センサー等を活用したプログラミング (知識・技能) 30%、 アクチュエータ等を使ったプログラミング (知識・技能・関心・意欲) 30% | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | ルーブリック評価を返却する。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 適宜プリントを配布する。 | | | |
| メッセージ など | ものづくりや電気回路、プログラミングについて興味があることが望ましい。 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------|---------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) Arduino 演習ボードを製作しプログラミングできる。 | ほぼ完璧に製作し、プログラミングができる。 | 大きな間違いがなく、製作し、プログラミングができる。 | 間違いはいくつかあるが、製作し、プログラミングができる。 | 製作やプログラミングができない。 | 課題 (技能・知識・関心・意欲) | 40% |
| (2) 代表的なセンサについて説明し活用できる。 | ほぼ完璧にセンサを活用し、説明できる。 | 大きな間違いがなく、センサを活用し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、センサを活用し、説明できる。 | センサを活用し、内容について説明することができない。 | | 20% |
| (3) センサ・マイコン・アクチュエータ (モータ) を使ったロボットの設計・プログラミングができる。 | ほぼ完璧にロボットの設計・プログラミングができる。 | 大きな間違いがなく、ロボットの設計・プログラミングができる。 | 間違いはいくつかあるが、ロボットの設計・プログラミングができる。 | ロボットの設計・プログラミングをすることができない。 | | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|--|------------------------|------------------------------------|---|-----------|
| CAD Computer-Aided Design | | 情報メディア学科 | 20IMC02005 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | CAD (Computer Aided Design) は、コンピュータ支援設計の略称である。今日では、CAD システムは作図する上で欠かせないツールになっている。本講義では、CAD の使い方についての講義と演習を行う。あわせて、JISに基づく製図規則について学習する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) JIS 製図規則を理解し、第三角法でかかれた図面から描かれているものがイメージできる。 (2) CAD ソフトウェアの基本的な操作ができる。 (3) CAD の色々な機能を活用して、電気製図、機械製図、建築製図の製図規則を守り効率よく書くことができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | CAD とは何か学習しておく。2時間 | CAD が産業現場でどのように使用されているのか調査する。2時間 | |
| | 2 | 製図の基礎 (第三角法) | 物体の形状を平面図に示すための投影法について調査しておく。2時間 | 第三角法を使って色々な品物を書いてみる。2時間 | |
| | 3 | CAD ソフトウェアの基本操作① | CAD にはどんな種類があるのか調査する。2時間。 | レイヤの概念について再度学習しておく。2時間 | |
| | 4 | CAD ソフトウェアの基本操作② | CAD ソフトを実際に使って色々な機能を確認しておく。2時間 | 初期設定ファイルが自分で作成できるようにしておく。2時間 | |
| | 5 | 課題1 「簡単な図形」① | レイヤを切り替えて線種が使い分けられるようにしておく。2時間 | スナップ機能や複線機能の使い方を学習しておく。2時間 | |
| | 6 | 課題1 「簡単な図形」② | 寸法の記入方法を学習しておく。2時間 | 寸法値、寸法引出線、寸法線の違いと設定方法を再度学習しておく。2時間 | |
| | 7 | 課題2 「ペン立て」① | 初期設定ファイルの設定方法を学習しておく。2時間 | レイヤの使い方について再度学習しておく。2時間 | |
| | 8 | 課題2 「ペン立て」② | 寸法補助記号の種類と意味を学習しておく。2時間。 | 寸法補助記号の用法について再度学習しておく。2時間 | |
| | 9 | 課題3 電気製図「半加算回路と全加算回路」① | 半加算回路と全加算回路について学習しておく。2時間 | 電気用図記号について学習しておく。2時間 | |
| | 10 | 課題3 電気製図「半加算回路と全加算回路」② | 複製コマンドの使い方を学習しておく。2時間 | AND、OR、NOT、接続点など図記号を自分で制作する方法を再度学習する。2時間 | |
| | 11 | 課題4 機械製図「フランジ形固定軸継手」① | 機械製図に必要なとなる JIS 規格について調査する。2時間 | 機械製図に関する断面図の書き方など学習しておく。2時間 | |
| | 12 | 課題4 機械製図「フランジ形固定軸継手」② | 機械製図に必要なとなる JIS 規格について調査する。2時間 | 機械製図の図面が読み取れるよう再度ルールを確認しておく。2時間 | |
| | 13 | 課題5 建築製図「木造2階建専用住宅」① | 木造住宅を設計する際に必要となる専門用語について学習する。2時間 | 「インチモジュール」「メートルモジュール」「尺モジュール」の違いを再度確認する。2時間 | |
| | 14 | 課題5 建築製図「木造2階建専用住宅」② | 建具の使い方を学習しておく。2時間 | 外構の作図や図形パーツの使い方を学習しておく。2時間 | |
| | 15 | 課題5 建築製図「木造2階建専用住宅」③ | 勾配のある屋根の図面はどのようにして作図するのか学習しておく。2時間 | 建築製図の図面が読み取れるよう再度ルールを確認しておく。2時間 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 課題レポート（理解・判断・思考力）20%、 受講態度（関心・意欲・態度・理解）30%、 課題作品（知識・理解・意欲）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎回作品を提出してもらいます。内容を確認の後返却します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 自作プリントを配布 |
| メッセージ な ど | 製図は、品物を製作するときに用いられ、設計者の意図を充分に表して製作者に伝える図面です。そのためには、製図規則を守り正確に書くことが大切です。なお、この教科で使用するCADソフトウェアは「Jw_cad」です。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) JIS 製図規則を理解し、第三角法でかかれた図面から描かれているものがイメージできる。 | 第三角法の図面から等角図が完璧に書ける。 | 第三角法の図面から等角図がほぼ書けるが、一部のみ欠けている。 | 第三角法の図面から等角図が書けるが、不十分である。 | 第三角法の図面から等角図が書けない。 | 課題レポート（理解・判断・思考力） | 20% |
| (2) CAD ソフトウェアの基本的な操作ができる。 | 直線、円、円弧、文字、レイヤについて完璧に操作ができる。 | 直線、円、円弧、文字、レイヤについてほぼ操作ができる。 | 直線、円、円弧、文字、レイヤについて十分な操作ができない。 | 直線、円、円弧、文字、レイヤについて操作ができない。 | 受講態度（関心・意欲・態度・理解） | 30% |
| (3) CAD の色々な機能を活用して、電気製図、機械製図、建築製図の製図規則を守り効率よく書くことができる。 | CAD を利用して図面を効率よく完璧に書くことができる。 | CAD を利用して図面を時間内に書き上げることができる。 | CAD を利用して図面を書くことができるが、時間がかかる。 | 課題作品を提出できない。 | 課題作品（知識・理解・意欲） | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------|------------------------|-------------|
| OA演習 Office Automation Exercises | | 情報メディア学科 | 20IMC01011 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 大上 文典 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | OA化が進み、日常生活やあらゆる分野において、パソコンが導入されている。一般社会でのパソコンソフト(ワープロ・表計算・プレゼンテーション等)の基本操作の知識・技能を身につけ、情報処理を効率よく作成する能力を養う。本授業では、Word・Excel・PowerPointを学び、文書・表・グラフ・図形・表計算・プレゼンテーションを作成し発表をする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) パソコンの基本的操作を行うことができる。 (2) レイアウトの良い表や文書を作成することができる。 (3) 表計算・グラフ・図等を作成することができる。 (4) Word・Excelを活用することができる。 (5) PowerPointの基本操作をすることができる。 (6) PowerPointを用いてスライドを作成することができる。 (7) PowerPointにより人前でプレゼン発表することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス：建学の精神、注意事項等、授業内容、ファイルの配布・整理等 | パソコンの基本操作練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 2 | PCの起動・操作方法ーパスワードー Wordの基本操作とページ設定 | タイピング練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 3 | Word演習 Wordによる文書作成と文字の加工 | Wordの基本作業練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 4 | Word演習 Wordによる文書作成と表の作成 | Wordの基本作業練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 5 | Word演習 案内文書作成 作図の方法 表・イラスト・図の挿入 | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 6 | Word演習 報告文書作成 表・イラスト・図の活用 | 文書・表作成練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 7 | Word演習 広告・チラシの作成 | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 8 | Excelの基本操作と表の作成、並べ替え、 | Excel基本作業練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 9 | Excel演習 表の作成・集計計算 | Excel基本作業集計計算練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 10 | Excel演習 表計算と並べ替え・グラフ作成とグラフの変更 | Excel基本作業グラフの練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 11 | Excel演習 作図と図・グラフの挿入 | Excel基本作業図の挿入 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 12 | Excel演習 表の集計とグラフの応用課題① | Excelのデータ活用練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 13 | Excel演習 表の集計とグラフの応用課題② | Excelのデータ管理練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| | 14 | Word・Excel演習 リンクとExcelのデータ管理、データの共有化 | WordとExcelのデータ共有 【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理 【2時間】 | |
| 15 | Word演習 Excelとリンク ファイル整理と提出 知識試験 | 知識試験の準備 【2時間】 | ファイルの整理 【2時間】 | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|----|---|---------------------------------|-------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | ガイダンス：授業内容、日程表、諸注意等 Word 演習 Word の復習とイラスト作成 | Word と Excel の基本練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 2 | Word による図形の作成 Word 演習 Word のPOP 広告作成 | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 3 | Word による図形の作成 Word 演習 ポスターの作成図（形作成と挿入） | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 4 | PowerPoint の基本操作 PP 演習 スライドの作成 | PowerPoint 基本練習 デザイン【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 5 | PowerPoint の基本操作 PP 演習 デザイン・コンテンツの挿入 | PowerPoint 基本練習 挿入図形【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 6 | PowerPoint の活用 PP 演習 表の挿入、図形作成 | PowerPoint 基本練習 表、グラフ【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 7 | PowerPoint の活用 PP 演習 アニメーションの導入 | PowerPoint 基本練習 アニメーション【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 8 | PowerPoint の活用 PP 演習 アニメーション化・イラスト挿入 | PowerPoint 基本練習 アニメーション【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 9 | PowerPoint の活用 PP 演習 スライドのリンク クイズ作成 | PowerPoint 基本練習 リンク作業【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 10 | PowerPoint の活用 PP 演習 スライドの外部リンク 写真・動画挿入 | PowerPoint 基本練習 リンク作業【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 |
| | 11 | PowerPoint の活用 PP 演習 スライドの外部リンク写真・動画挿入 | スライドの資料準備とデ ータ収集【2時間】 | 発表スライドの作成 【2時間】 |
| | 12 | PowerPoint の活用 PP 演習 発表用プレゼンテーションの作成 | スライドの資料準備とデ ータ収集【2時間】 | 発表の練習 【2時間】 |
| | 13 | プレゼン作品発表①ー前半ー | 発表の練習 【2時間】 | 発表の反省 【2時間】 |
| | 14 | プレゼン作品発表②ー後半ー | 発表の練習 【2時間】 | 発表の反省 【2時間】 |
| | 15 | 授業のまとめ 知識試験 ファイルの課題整理・提出 | 知識試験の準備 【2時間】 | ファイルの整理 【2時間】 |
| 成績評価 | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み（関心・意欲・態度）：15%、 ・演習課題の提出（知識・技能・理解）：50%、 ・プレゼンテーション（表現・発表・意欲）：10%、 ・基礎知識試験（情報技術に関する基礎知識）：15%、 ・ファイルの整理（自己評価、実習資料や提出課題の整理）：10% | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | | <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。 ・演習内容は情報化社会に関するデータを活用し、情報化社会における課題や問題点などを用いる。情報技術者として必要なスキルを身につけさせる。 ・プレゼンテーションは情報活用能力を身につけ、情報化時代における課題や問題点の解決、表現力を身につけ、必要なスキルを身につけさせる。 | | |
| テキストおよび 参考文献 | | 授業用テキスト（課題プリント） | | |
| メッセージ など | | 中学校教諭二種免許：必修科目 | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------|--|---------------------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) パソコンの基本的操作を行うことができる。 | ほぼ完璧に操作できる。 | 大きな間違いがなく、基本的な操作ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のパソコン操作ができる。 | パソコンを操作することができない。 | 課題 (技能・知識・関心・意欲・態度) 知識試験 (コンピュータの基礎知識) | 10% |
| (2) レイアウトの良い表や文書を作成することができる。 | ほぼ完璧に文書を作成できる。 | 大きな間違いがなく、表や文書を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限文書や表を作成できる。 | 表や文書を作成することができない。 | | 10% |
| (3) 表計算・グラフ・図等を作成することができる。 | ほぼ完璧に表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 大きな間違いがなく、表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 表計算・グラフ・図等を作成することができない。 | | 15% |
| (4) Word・Excel を活用することができる。 | ほぼ完璧にどちらも活用できる。 | 大きな間違いがなく、Word や Excel を活用できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限 Word や Excel を活用できる。 | Word や Excel を活用することができない。 | | 15% |
| (5) PowerPoint の基本操作をすることができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint の基本操作ができる。 | 大きな間違いがなく PowerPoint を操作できる。 | 間違いはいくつかあるが、PowerPoint を操作できる。 | まったく PowerPoint を操作することができない。 | | 15% |
| (6) PowerPoint を用いてスライドを作成することができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint でスライドが作成できる。 | 大きな間違いがなく PowerPoint でスライドを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、PowerPoint でスライドを作成できる。 | まったく PowerPoint でスライドを作成できない。 | | 15% |
| (7) PowerPoint により人前でプレゼン発表することができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint でプレゼンテーションすることができる。 | 人前で自分が作成したプレゼンテーションすることができる。 | いくつかミスもあったが、自分が作成したプレゼンテーションをすることができる。 | まったく PowerPoint でプレゼンテーションをすることができない。 | | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|---------------------|-------------------------------------|--------------------------|-----|------------|
| ビジネス演習 Business Practice | | 情報メディア学科 | | 20IMIC1005 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 福原 道照 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 前期は、ワープロソフトウェアを利用したビジネス文書の作成及び表計算ソフトウェアを利用したビジネスにおける表の作成を学ぶ。 後期は、企業の取引を記録・計算・整理する複式簿記について学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) ビジネス文書の作成ができる。 (2) ビジネスにおける表の作成ができる。 (3) 複式簿記による仕訳と転記、決算処理ができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | ガイダンス | テキスト 32 ページから 54 ページを読んでおく。(40 分) | 文字入力の基本操作を復習する。(30 分) | | |
| | 2 | ビジネス文書の作成①－基本的文書－ | テキスト 55 ページから 61 ページを読んでおく。(20 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 3 | ビジネス文書の作成②－文字の修飾－ | テキスト 62 ページから 64 ページを読んでおく。(15 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 4 | ビジネス文書の作成③－表の活用－ | テキスト 65 ページから 78 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 5 | ビジネス文書の作成④－画像の活用－ | テキスト 79 ページから 88 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 6 | ビジネス文書の作成⑤－図形の活用－ | テキスト 89 ページから 91 ページを読んでおく。(15 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 7 | ビジネス文書の作成⑥－総合問題①－ | ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。(1 時間) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 8 | ビジネス文書の作成⑦－総合問題②－ | ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。(30 分) | 授業時の文書作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 9 | 表の作成①－データ入力－ | テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 10 | 表の作成②－基本的なワークシート編集－ | テキスト 112 ページから 117 ページを読んでおく。(20 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 11 | 表の作成③－関数・セル参照の利用－ | テキスト 120 ページから 137 ページを読んでおく。(40 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 12 | 表の作成④－グラフ－ | テキスト 142 ページから 148 ページを読んでおく。(20 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 13 | 表の作成⑤－条件判定・検索－ | テキスト 152 ページから 166 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 14 | 表の作成⑥－総合問題①－ | 表の作成①から⑤の復習をしておく。(1 時間) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| | 15 | 表の作成⑦－総合問題②－ | 表の作成①から⑤の復習をしておく。(30 分) | 授業時の表の作成方法を復習する。(30 分) | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 簿記の概要、簿記の要素 | テキスト 8 ページから 26 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の演習問題の解き方を復習する。(1 時間) | | |
| | 2 | 取引と勘定 | テキスト 28 ページから 36 ページを読んでおく。(20 分) | 授業時の演習問題の解き方を復習する。(1 時間) | | |
| | 3 | 仕訳と転記 | テキスト 38 ページから 48 ページを読んでおく。(20 分) | 授業時の演習問題の解き方を復習する。(1 時間) | | |
| | 4 | 取引の記帳①－現金預金－ | テキスト 78 ページから 92 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の演習問題の解き方を復習する。(1 時間) | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---|-------------------------------|--|---------------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 5 | 取引の記帳② -商品売買- | テキスト 96 ページから 106 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 6 | 取引の記帳③ -掛け・手形- | テキスト 109 ページから 126 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。(1時間) |
| | 7 | 取引の記帳④ -有価証券、固定資産- | テキスト 129 ページから 132 ページ、147 ページから 150 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 8 | 取引の記帳⑤ -その他の債権・債務- | テキスト 134 ページから 144 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。(1時間) |
| | 9 | 取引の記帳⑥ -資本、税金、 販売費及び一般管理費- | テキスト 152 ページから 163 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 10 | 会計帳簿・伝票・試算表 | テキスト 196 ページから 209 ページ、51 ページから 56 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 11 | 決算① -決算整理(1)- | テキスト 62 ページから 73 ページ、168 ページから 172 ページを読んでおく。(30 分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 12 | 決算② -決算整理(2)- | テキスト 172 ページから 179 ページ、214 ページから 226 ページを読んでおく。(40分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。(1時間) |
| | 13 | 決算③ -精算表- | テキスト 57 ページから 60 ページ、230 ページから 232 ページを読んでおく。(20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。(1時間) |
| | 14 | 決算④ -損益計算書・貸借対照表- | テキスト 233 ページから 235 ページを読んでおく。 (15分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| | 15 | 総合問題演習 | 2 回から 14 回までの授業 時の演習問題の復習をし ておく。(2時間) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) |
| 成績評価 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力):60%、 定期試験(知識・理解):40% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 課題レポートや定期試験は、添削・採点をし原則として次の授業時に返却する。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 前期テキスト:「30時間でマスター Office2013」実教出版編修部 編 実教出版 後期テキスト:「新簿記 新訂版」安藤 英義 他 執筆・編集 実教出版 | | | |
| メッセージ など | 基礎・基本を理解することが大切です。 簿記は復習を十分に行う必要があります。 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|---|---|--------------------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ビジネス文書の作成 ができる。 | ほぼ完璧に ビジネス文 書の作成が できる。 | 大きな間違 いがなく、ビ ジネス文書 の作成がで きる。 | 間違いはい くつかある が、最低限の ビジネス文書 の作成が できる。 | ビジネス文 書の作成が できていな い。 | 課題レポート (関心・意欲・ 態度・思考 力・判断力・ 表現力) | 15% |
| | | | | | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2) ビジネスにおける表 の作成ができる。 | ほぼ完璧に 表の作成が できる。 | 大きな間違 いがなく、表 の作成がで きる。 | 間違いはい くつかある が、最低限の 表の作成が できる。 | 表の作成が できていな い。 | 課題レポート (関心・意欲・ 態度・思考 力・判断力・ 表現力) | 15% |
| | | | | | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (3) 複式簿記による仕訳 と転記、決算処理がで きる。 | ほぼ完璧に 仕訳・転記・ 決算処理が できる。 | 大きな間違 いがなく、仕 訳・転記・決 算処理がで きる。 | 間違いはい くつかある が、最低限の 仕訳・転記・ 決算処理が できる。 | 仕訳・転記・ 決算処理が できていな い。 | 課題レポート (関心・意欲・ 態度・思考 力・判断力・ 表現力) | 30% |
| | | | | | 定期試験 (知識・理解) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------------------------------|---|---------------------------------|-----------|
| 中小企業会計学 Accounting Study of the Small and Medium | | 情報メディア学科 | 20IMIC1004 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福原 道照 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用して コンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することがで きること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 企業において日常発生する企業外部との取引を記録・計算・整理する方法について、複式簿記による基本的な処理を学ぶ。授業内容のレベルは、日商簿記検定3級程度である。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 複式簿記による企業の取引活動の基本的処理方法を記録・整理できる。 (2) 複式簿記によって、企業の日常の取引について仕訳と転記ができる。 (3) 決算の意味や目的及び決算整理の必要性を理解し、決算整理の処理ができる。 (4) 財務諸表（損益計算書と貸借対照表）の作成ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス、簿記の概要、簿記の要素 | テキスト 8 ページから 26 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 2 | 取引と勘定 | テキスト 28 ページから 36 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 3 | 仕訳と転記 | テキスト 38 ページから 48 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 4 | 取引の記帳①－現金預金－ | テキスト 78 ページから 92 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 5 | 取引の記帳②－商品売買－ | テキスト 96 ページから 106 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 6 | 取引の記帳③－掛け・手形－ | テキスト 109 ページから 126 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 7 | 取引の記帳④－有価証券、固定資産－ | テキスト 129 ページから 132 ページ、147 ページか ら 150 ページを読んでお く。(20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 8 | 取引の記帳⑤－その他の債権・債務－ | テキスト 134 ページから 144 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 9 | 取引の記帳⑥－資本、税金、 販売費及び一般管理費－ | テキスト 152 ページから 163 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 10 | 会計帳簿・伝票・試算表 | テキスト 196 ページから 209 ページ、51 ページから 56 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 11 | 決算①－決算整理(1)－ | テキスト 62 ページから 73 ページ、168 ページから 172 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 12 | 決算②－決算整理(2)－ | テキスト 172 ページから 179 ページ、214 ページか ら 226 ページを読んでお く。(40分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 13 | 決算③－精算表－ | テキスト 57 ページから 60 ページ、230 ページから 232 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 14 | 決算④－損益計算書・貸借対照表－ | テキスト 233 ページから 235 ページを読んでおく。 (15分) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |
| | 15 | 総合問題演習 | 2 回から 14 回までの授業 時の演習問題の復習をし ておく。(2時間) | 授業時の演習問題の解き 方を復習する。 (1時間) | |

| | |
|--------------------------------|---|
| 成績評価 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力)：60%、 定期試験(知識・理解)：40% |
| 課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法 | 課題レポートや定期試験は、添削・採点をし原則として次の授業時に返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「新簿記 新訂版」 安藤 英義 他 執筆・編集 実教出版 参考文献：「みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記 第8版」 滝澤 ななみ 著 TAC 出版 |
| メッセージ など | 復習を十分に行う必要があります。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------|--------------------------|--------------------------------|-------------------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 複式簿記による企業の取引活動の基本的処理方法を記録・整理できる。 | ほぼ完璧に学習内容を記録・整理できる。 | 大きな間違いがなく、学習内容を記録・整理できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の学習内容を記録・整理できる。 | 学習内容を記録・整理できていない。 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力) | 60% |
| (2) 複式簿記によって、企業の日常の取引について仕訳と転記ができる。 | ほぼ完璧に仕訳・転記ができる。 | 大きな間違いがなく、仕訳・転記ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の仕訳・転記ができる。 | 仕訳・転記ができていない。 | 定期試験(知識・理解) | 25% |
| (3) 決算の意味や目的及び決算整理の必要性を理解し、決算整理の処理ができる。 | ほぼ完璧に決算整理の処理ができる。 | 大きな間違いがなく、決算整理の処理ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の決算整理の処理ができる。 | 決算整理の処理ができていない。 | | 15% |
| (4) 財務諸表(損益計算書と貸借対照表)の作成ができる。 | ほぼ完璧に財務諸表の作成ができる。 | 大きな間違いがなく、財務諸表の作成ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の財務諸表の作成ができる。 | 財務諸表の作成ができていない。 | | |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|--|------------------------|-----------------------------------|-------------------------|------------------------|
| キャリア教育 Career Education | | 情報メディア学科 (一般学生対象) | 20IMC01015 | 1年次 2年次 | 1年次 後期 2年次 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 柴田 道信 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 「大学で学ぶこと」と「社会で働くこと」の意義や関連性を考えて、学生自ら将来の人生設計を行うことができるように、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度を育成する。また、社会人として必要な社会保障制度や労働者の権利・義務についての知識を身に付ける。2年次前期は、特に就職活動と関連付けた授業を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) これまでの人生の歩みから自己の特徴を分析し、自らの言葉で語るができる。 (2) 職種研究をとおして様々な職種への理解を深め、志望職種を決定できる。 (3) 企業研究をとおして様々な企業への理解を深め、志望企業を決定できる。 (4) 社会保障制度や労働者の権利・義務の基本を説明できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | シラバスを読み、科目の内容を把握する (1h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 2 | 自己紹介、自分の将来 | 自分の将来について考える (2h) | 自分の将来についてまとめる (2h) | |
| | 3 | なぜ働くのか？ | なぜ働くのかを考える (2h) | なぜ働くのか自分の考えをまとめる (2h) | |
| | 4 | 企業が求める人材 | 企業が求める人材について考える (2h) | 企業が求める人材についてまとめる (2h) | |
| | 5 | 自己分析 (1) 小・中・高校 | 小・中・高校時代を振り返る (2h) | 小・中・高校時代についてまとめる (2h) | |
| | 6 | 自己分析 (2) 大学 | 大学生活を振り返る (2h) | 大学生活についてまとめる (2h) | |
| | 7 | 自己分析 (3) 長所や短所 | 長所や短所を振り返る (2h) | 長所や短所をまとめる (2h) | |
| | 8 | 様々な職種と職種研究 | どのような職種があるか調べておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 9 | 職種研究 (1) 職種調査 | 自分が興味のある仕事を調べておく (2h) | 調査した結果をまとめる (2h) | |
| | 10 | 職種研究 (2) グループ討議 | 他の職種の質問事項などを考える (2h) | グループ討議の結果をまとめる (2h) | |
| | 11 | 職種研究 (3) 適職分析 | 自己分析結果をまとめておく (2h) | 適職分析結果をまとめる (2h) | |
| | 12 | 履歴書の書き方 | 一般的な履歴書の書き方を予習しておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 13 | 自己紹介書の書き方 (1) 学生生活 | 得意科目・課外活動について振り返る (2h) | 得意科目・課外活動をまとめる (2h) | |
| | 14 | 自己紹介書の書き方 (2) 自己の特徴、特技 | 自己の特徴、特技を考える (2h) | 自己の特徴、特技をまとめる (2h) | |
| | 15 | 自己紹介書による面接 | 自己紹介書に記載した内容を元に面接シミュレーションを行う (2h) | 面接結果をもとに自己紹介書を書き直す (2h) | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 5年後、10年後の自分を思い描く (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 2 | 就職活動の進め方と注意点 | 具体的な就職活動計画を立てておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 3 | 就職活動のマナーとルール | 就職活動のマナーについて予習する (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 4 | 求人情報の見方 | 実際に幾つか求人票を見て不明な項目を調べる (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 5 | 企業情報の収集と分析方法 | 企業情報の収集方法を調べる (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |

| 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|---|-----------------------------|-------------------------------|
| 6 | 企業研究の実践（1）情報収集と分析 | 興味のある企業のHPを閲覧しておく（2h） | 企業の情報を表にまとめ分析する（2h） |
| 7 | 企業研究の実践（2）資料作成 | 発表資料の構成を考える（2h） | 授業での助言をふまえて資料を完成させる（2h） |
| 8 | 企業研究の実践（3）発表 | 発表練習を行う（2h） | 自身の発表の総括および他者の発表内容のまとめを行う（2h） |
| 9 | 自己紹介書の作成 | 志望動機について考えておく（2h） | 自己紹介書を完成させる（2h） |
| 10 | 面接試験対策（1）自己 | 自己に関する質問内容を調査する（2h） | 自己に関する質問への回答をまとめる（2h） |
| 11 | 面接試験対策（2）会社、その他 | 会社に関する質問内容を調査する（2h） | 会社に関する面接の質問を調査する（2h） |
| 12 | 面接試験対策（3）模擬面接 | 面接練習を行う（2h） | 面接で指摘されたところを直す（2h） |
| 13 | 働くルール（1）課題選択 | 労働に関することで気になっていることをまとめる（2h） | 選択した課題を調査する（2h） |
| 14 | 働くルール（2）調査 | 選択した課題を調査する（2h） | 調査した内容をまとめる（2h） |
| 15 | 働くルール（3）発表 | 発表練習を行う（2h） | 働くルールをまとめる（2h） |
| 成績評価 | 提出物（思考力・判断力・表現力）50%、 面接（思考力・判断力・表現力）20%、 発表（思考力・判断力・表現力）30% | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。 | | |
| テキストおよび参考文献 | 必要に応じてプリント配布 | | |
| メッセージなど | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|------------------------------|----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) これまでの人生の歩みから、自己の特徴を分析し、自らの言葉で語るができる。 | 深い自己分析に基づき、自己の特徴を分かりやすく伝えることができる。 | 十分に自己分析できている、自己の様々な特徴を語る事ができる。 | 最低限の自己分析はできており、自己の特徴をいくつか語ることができる。 | 自己分析が不十分であり、自己の特徴を言語化できていない。 | 提出物・面接 (思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (2) 職種研究をとおして様々な職種への理解を深め、志望職種を決定できる。 | 職種研究と自己分析の結果を総合的に判断し、志望職種を決定できる。 | 職種研究を進め、いくつかの候補から志望職種を最終的に決定できる。 | 職種研究を行い、いくつかの職種に興味を持つことができる。 | 職種研究が不十分で、志望職種の決定にいたらない。 | 提出物・面接 (思考力・判断力・表現力) | 25% |
| (3) 企業研究をとおして様々な企業への理解を深め、志望企業を決定できる。 | 企業研究と自己分析の結果を総合的に判断し、志望企業を決定できる。 | 企業研究を進め、いくつかの候補から志望企業を最終的に決定できる。 | 企業研究を行い、いくつかの企業に興味を持つことができる。 | 企業研究が不十分で、志望職種の決定にいたらない。 | 提出物・発表・面接 (思考力・判断力・表現力) | 25% |
| (4) 社会保障制度や労働者の権利・義務の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 発表 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|--|--------------------------|----------------------|-------------------|--------------|
| キャリア教育 Career Education | | 情報メディア学科 (留学生対象) | 日本語能力試験 N2～N1 レベル | 1年 2年 | 1年後期 2年前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 林 伸一 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用して コンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することがで きること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 日本語能力試験は、留学生の日本語能力を測定し、認定する試験として広く認知されており、留學生にとって日本語能力試験に合格し、認定を受けることは、将来のキャリア形成の観点からも重要である。本授業では、日本語能力試験 N2 または N1 合格を目標に、文字・語彙・文法などの言語知識の学習や読解・聴解の練習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 日本語能力試験 N2/N1 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 (2) 日本語能力試験 N2/N1 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 (3) 日本語能力試験 N2/N1 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 問題演習 (1) 文字・語彙 | オリエンテーション | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 2 | 問題演習 (1) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 3 | 問題演習 (1) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 4 | 問題演習 (1) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 5 | 問題演習 (1) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 6 | 問題演習 (2) 文字・語彙 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 7 | 問題演習 (2) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 8 | 問題演習 (2) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 9 | 問題演習 (2) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 10 | 問題演習 (2) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 11 | 問題演習 (3) 文字・語彙 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 12 | 問題演習 (3) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 13 | 問題演習 (3) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 14 | 問題演習 (3) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| 15 | 問題演習 (3) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 問題演習 (4) 文字・語彙 | オリエンテーション | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 2 | 問題演習 (4) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 3 | 問題演習 (4) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 4 | 問題演習 (4) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 5 | 問題演習 (4) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 6 | 問題演習 (5) 文字・語彙 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 7 | 問題演習 (5) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| | 8 | 問題演習 (5) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | |
| 9 | 問題演習 (5) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 | | |

| | | | | |
|------------------------------------|--|------------------|-------------------|-------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
| | 10 | 問題演習(5) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| | 11 | 問題演習(6) 文字・語彙 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| | 12 | 問題演習(6) 文字・語彙の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| | 13 | 問題演習(6) 文法・読解 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| | 14 | 問題演習(6) 文法・読解の解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| | 15 | 問題演習(6) 聴解および解説 | 該当箇所の予習。2時間 | 該当箇所の復習。2時間 |
| 成績評価 | 模擬試験・期末試験 100% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 授業時に資料を配布 | | | |
| メッセージ など | 日本語能力試験に合格するには、授業時間以外にも予習・復習し、自主的に勉強することが大切です。特に漢字の読み書きに力を入れてください。 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--|--------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 日本語能力試験 N2/N1 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 | 日本語能力試験 N1 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 | 日本語能力試験 N2 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 | 日本語能力試験 N3 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 | 日本語能力試験 N4/N5 レベルの言語知識を持ち、適切に用いることができる。 | 模擬試験 期末試験 | 30% |
| (2) 日本語能力試験 N2/N1 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N1 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N2 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N3 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N4/N5 レベルの文章を読み、内容を理解することができる。 | 模擬試験 期末試験 | 30% |
| (3) 日本語能力試験 N2/N1 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N1 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N2 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N3 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | 日本語能力試験 N4/N5 レベルのテキストを聞き、内容を理解することができる。 | 模擬試験 期末試験 | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------|--------------------|------------|
| 情報と職業 Information Careers | | 情報メディア学科 | 20IMC01009 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | コンピュータメーカーのシステムエンジニアとしての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 コンピュータやインターネットを活用することは、現代のビジネス社会において不可欠である。本講義では、コンピュータやインターネットが社会やビジネスをどのように変えてきたのかを様々な事例を通して紹介する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 情報化社会および企業における情報活用の事例を説明できる。 (2) 今日の高度情報化社会を支える業種（職種）について具体例を使って説明できる。 (3) ハイテク犯罪の事例を説明でき、またそれに巻き込まれないようにするための技術などを学ぶ。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | イントロダクション | 授業テーマを参照し、予習する。(1h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 2 | 情報化社会と情報産業 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 社会基盤としての情報システムと行政の情報システム | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 情報化によるビジネス環境の変化① -POS システム- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 情報化によるビジネス環境の変化② -顧客情報の活用- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 情報化によるビジネス環境の変化③ -CTI・ワントゥワンビジネス- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 情報化によるビジネス環境の変化④ -ビジネス環境の変化- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | インターネットビジネス① -BT0・ASP・オークション- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | インターネットビジネス② -広告ビジネス・検索サービス- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | 企業における情報活用① -製造業における情報システム- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | 企業における情報活用② -ナレッジマネジメント- | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | 情報ビジネスと職種 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 資格とキャリアパス | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 高度情報化に伴う諸問題および法制度① | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| 15 | 高度情報化に伴う諸問題および法制度② | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取組み 40%、課題提出 60% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題について、授業内で個別に、または全体に対してフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（プリントを随時配布） 参考文献：駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明 「情報と職業」 オーム社 参考文献：川合慧監修、駒谷昇一編著「情報と社会」 オーム社 |
| メッセージなど | 上級情報処理士：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------|-----------------------|-----------------------------|---------|---------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 情報化社会および企業における情報活用の事例を説明できる。 | ほぼ完璧に学習内容を説明できる。 | 大きな間違いがなく、学習内容を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の学習内容は説明できる。 | 説明できない。 | 授業への取り組み・課題提出（関心・意欲・理解・思考力・表現力） | 60% |
| (2) 今日の高度情報化社会を支える業種（職種）について具体例を使って説明できる。 | ほぼ完璧に学習内容を説明できる。 | 大きな間違いがなく、学習内容を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の学習内容は説明できる。 | 説明できない。 | | 20% |
| (3) ハイテク犯罪の事例を説明でき、またそれに巻き込まれないようにするための技術などを学ぶ。 | ほぼ完璧に学習内容を説明できる。 | 大きな間違いがなく、学習内容を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の学習内容は説明できる。 | 説明できない。 | | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------|
| 特別講義 I Special Lecture I | | 情報メディア学科 (一般学生対象) | 20IMC01012 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 人間の知的創造活動について、その創作者に一定期間の権利保護を与えるようにしたのが知的財産制度である。知的財産権にはいろいろあるが、特許権、実用新案権、意匠権、商標権の4つを産業財産権という。この科目では、産業財産権の基礎知識を身につけ、将来に渡って仕事等に産業財産権を活用できるように学習する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 産業財産権に関する基礎知識を身につけ、それぞれの概要を説明することができる。 (2) 産業財産権の知識を適応して、簡単な事案を的確に分析することができる。 (3) 自分で各種出願書類を作成し申請することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 産業財産権について調べておく。2時間 | 興味を持った事柄について調査する。2時間 | |
| | 2 | 知的財産とは、特許とは | 知的財産とは何か調べておく。2時間 | 色々な知的財産権について種類毎にまとめる。2時間 | |
| | 3 | 日本の10大発明と特許製品の身近な例 | 日本の10大発明と言われるものについて調査しておく。2時間 | どのような点の特許につながるのか整理する。2時間 | |
| | 4 | 特許情報プラットフォームの使い方 | J-PlatPatについて調べておく。2時間 | J-PlatPatの使い方を復習する。2時間 | |
| | 5 | 特許情報の種類 (Fタームほか) | Fタームについて調べておく。2時間 | J-PlatPatの高度な検索を各自でやってみる。2時間 | |
| | 6 | 特許の申請方法と職務発明 | 職務発明とは何か調べておく。2時間 | 職務発明の例を調査する。2時間 | |
| | 7 | 商標について | 商標とは何か調べておく。2時間 | 商標権に関する訴訟の例を調査する。2時間 | |
| | 8 | 実用新案と意匠登録について | 特許と実用新案の違いは何か調べておく。2時間 | 身近なところにある意匠登録されたものについて調査する。2時間 | |
| | 9 | 著作権について | 著作権にはどのようなものがあるのか調べておく。2時間 | 著作権に関する訴訟の例を調査する。2時間 | |
| | 10 | 折り紙工学 (特許みうら折り) とバイオミメティクス (生体模倣) | バイオミメティクスについて調べておく。2時間 | 身近なところに同じように応用した製品はないか調査する。2時間 | |
| | 11 | アイデアの発想技法 (オズボーン、マインドマップ、ブレインストーミング) | オズボーンのチェックリストについて調べておく。2時間 | マインドマップを使って自己紹介を作成する。2時間 | |
| | 12 | 新型ゼムクリップの開発演習、紙タワーコンテスト | ゼムクリップについて調べておく。2時間 | 上手いかなかった点について理由をまとめる。2時間 | |
| | 13 | デザインパテントコンテストについて | デザインパテントコンテストは何か調査する。2時間 | 各自でデザインを考えておく。2時間 | |
| | 14 | デザインパテントコンテスト書類作成① | 書類を各自で作成する。2時間 | 書類を各自で作成する。2時間 | |
| 15 | デザインパテントコンテスト書類作成② | 書類を各自で作成する。2時間 | 書類を各自で作成し提出する。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業での発言・取り組み（関心・意欲・態度） 40%、 課題レポート・意匠登録申請書類作成（知識・理解・表現力） 60% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 校内コンテストの結果を項目毎に採点して各自にフィードバックします。校内審査を通過したものは全国のデザインコンテストに応募します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 自作テキスト 産業財産権 標準テキスト 総合編 第4版 発明推進協会 |
| メッセージ な ど | 高度情報化の進展に伴い、知的財産権の保護が難しくなっています。この科目の中で、一人ひとりが真剣に考えてもらいたいです。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------|--------------------------|--------------------------------|----------------|-------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 産業財産権に関する基礎知識を身につけ、それぞれの概要を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業での発言・取り組み（関心・意欲・態度） | 20% |
| (2) 産業財産権の知識を適応して、簡単な事案を的確に分析することができる。 | ほぼ完璧に分析することができる。 | 大きな間違いがなく、分析ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の分析ができる。 | 分析できていない。 | | 20% |
| (3) 自分で各種出願書類を作成し申請することができる。 | ほぼ完璧な書類を作成することができる。 | 大きな間違いがなく、書類を作成することができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の書類を作成することができる。 | 課題レポートが提出できない。 | 課題レポート 意匠登録申請書類作成 （知識・理解・表現力） | 60% |

| | | | | | |
|-------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------|------------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 特別講義 I (Special Lecture I) | | 情報メディア学科 (留学生対象) | 20IMC01012 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用して コンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することがで きること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概 要 | 日本語能力試験 JLPT 受験のための対策講座で、非漢字圏出身留学生を対象とした基礎力特化（漢字 と語彙）を目的とする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) ひらがなとカタカナが発音でき、かつ書き取りができる。 (2) 認定レベル N5、N4、N3 の対象漢字の読み方がわかる。 (3) 認定レベル N5、N4、N3 の対象語彙の読み方がわかる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーションおよびひらがなとカタカナ の音読と書き取りの練習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 2 | 認定レベル N5 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 3 | 認定レベル N5 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 4 | 認定レベル N4 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 5 | 認定レベル N4 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 6 | 認定レベル N3 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 7 | 認定レベル N3 対象漢字の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 8 | 漢字に関するテスト | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 9 | 認定レベル N5 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 10 | 認定レベル N5 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 11 | 認定レベル N4 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 12 | 認定レベル N4 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 13 | 認定レベル N3 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 14 | 認定レベル N3 対象語彙の学習 | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |
| | 15 | 語彙に関するテスト | 授業テーマを参照し、予習 する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習 する。(2h) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取組み 15%、試験 85% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題について、授業内で個別に、または全体に対してフィードバックする。 |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に資料を配布 |
| メッセージなど | 留学生を対象とした講義である。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------|----------------|---------------------------|----------------|----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ひらがなとカタカナが発音でき、かつ書き取りができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本はできている。 | 最低限の基本もできていない。 | 授業への取組み・試験 (関心・意欲・理解・思考力・表現力) | 10% |
| (2) 認定レベル N5、N4、N3 の対象漢字の読み方がわかる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本はできている。 | 最低限の基本もできていない。 | | 45% |
| (3) 認定レベル N5、N4、N3 の対象語彙の読み方がわかる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本はできている。 | 最低限の基本もできていない。 | | 45% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|--|-----------------------|---|--------------------|-----------|
| 特別講義 I Special Lecture I | | 情報メディア学科 (社会人学生対象) | 20IMC01012 | 1・2 年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 日置 智子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | コンピュータを日常生活や実務において活用する力を養うことを目的とする。 実際にワープロソフトを用いて文書処理を行うことを通して、コンピュータ操作の知識と技術を身に付ける。 | | | | |
| 到達目標 | (1) コンピュータの基本的な操作方法について説明することができる。 (2) コンピュータの基本的な操作ができる。 (3) ワープロソフトを用いて基本的な文書作成が行える。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション・コンピュータの基本操作 | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 2 | ワープロソフトの基本操作 | ワープロソフトにはどのような機能があるかを調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 3 | 文字の入力① - 基本的な入力と変換 - | 文字の入力方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 4 | 文字の入力② - 特殊な入力方法 - | 文字の入力方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 5 | 文章の入力 | ファイルの操作方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 6 | 文書の編集① - 書式の設定 - | 書式設定について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 7 | 文書の編集② - レイアウトの設定 - | レイアウトの設定について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 8 | 表の作成 | 簡単な表の作成方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 9 | 複雑な表の作成 | セルの結合、分割操作について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 10 | 図の挿入 | 図の操作について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 11 | 図形描画機能の利用 | 図形の扱い方について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 12 | 図形描画機能の応用 | 図形の扱い方について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 13 | 索引と目次の作成 | 索引と目次機能について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 14 | 総合応用問題 | これまでに配布した資料を参考にして、ワープロソフトの基本操作が行えるようにしておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 15 | まとめ | これまでに配布した資料を参考にして、ワープロソフトの基本操作が行えるようにしておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力）40%、 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力）60% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：なし 適宜資料を配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------------|---------------------|--------------------|------------------------------------|--------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンピュータの基本的な操作方法について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力） | 10% |
| (2) コンピュータの基本的な操作ができる。 | ほぼ完璧に操作ができる。 | 大きな間違いがなく、操作ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の操作はできる。 | 操作ができない。 | | 20% |
| (3) ワードプロソフトを用いて基本的な文書作成が行える。 | 自分の力のみで、ほぼ完璧に作成できる。 | 助言があれば、ほぼ完璧に作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、助言に基づき修正し、完成させることができる。 | 作成することができない。 | 授業への取り組み・課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 70% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|--|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|-----------|
| 特別講義Ⅱ Special Lecture Ⅱ | | 情報メディア学科 (一般学生対象) | 20IMC01013 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 和西 聡 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 基礎学力と教養を身につけるために、前半はSPI (エスピーアイ) の問題演習を行う。特にSPIの「非言語能力」と「言語能力」について問題演習を行う。後半は、コミュニケーション能力を身につけるために面接練習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) SPIの問題演習をとおして、基礎学力を身につけ応用することができる。 (2) 面接練習をとおして、表現力やコミュニケーション能力を養い応用することができる。 (3) 自己PR文等の文書作成をとおして、文書作成能力を養い応用することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | SPI 基本問題演習 (値段と利益、代金の支払い) | 価格、利益、値引率などの関係を学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 2 | SPI 基本問題演習 (速さ、電車の通過) | 速度、距離、速さの関係を学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 3 | SPI 基本問題演習 (船の速さ、仕事の計算) | 仕事算や水槽をいっばいにする時間計算などを学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 4 | SPI 基本問題演習 (濃度の計算、年齢の計算) | 濃度に関する式を学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 5 | SPI 基本問題演習 (植木の計算、鶴亀算) | 植木の本数と植木の間隔の数の関係を学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 6 | SPI 基本問題演習 (関数とグラフ、グラフと範囲) | 一次関数や放物線について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 7 | SPI 基本問題演習 (数列、確率、集合) | 等差数列、等比数列について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 8 | SPI 基本問題演習 (推理、命題) | 命題の逆、裏、対偶について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 9 | SPI 基本問題演習 (同意語・反意語、二語の関係) | 同意語、反意語について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 10 | SPI 基本問題演習 (漢字、熟語、語彙) | 同音異義語、同訓異字について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 11 | SPI 基本問題演習 (語句の用法、長文問題) | 四字熟語、故事成語について学習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 12 | SPI 理解度確認テスト、クレペリン検査について | これまで学んだことを復習しておく。2時間 | 今回学んだ範囲の問題演習をやる。2時間 | |
| | 13 | 面接について | 企業面接の質問事項にはどのようなものがあるか各自で調査する。2時間 | 面接の作法について再度確認しておく。2時間 | |
| | 14 | 面接練習 (自己PR文作成) | 自己PRの内容を検討しておく。2時間 | 自己PR以外の質問に対する対策を練っておく。2時間 | |
| 15 | 面接練習 (面接作法) | 面接のポイントについて再度確認しておく。2時間 | 就活に活かせるように今回学んだことを整理しておく。2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 模擬SPIテスト（知識・理解・思考力） 60%、 模擬面接をとおしての評価（態度・意欲・表現力） 20%、 課題レポート提出（表現力・思考力・判断力） 20% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 自己PRについてはWordで作成してもらいます。添削後返却します。 また、試験はルーブリック評価の結果を渡します。 |
| テキストおよび参考文献 | プリント配布 |
| メッセージなど | SPIは、株式会社リクルートキャリアが作成している適性検査です。国内で最も多くの企業に使われている採用テストです。SPIの問題演習を通して基礎学力と教養を身につけましょう。また、繰り返し面接練習することでコミュニケーション能力も身につけましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------|--------------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) SPIの問題演習をとおして、基礎学力を身につけ応用することができる。 | 応用問題まで完璧に解くことができる。 | 基本問題を解くことができ、応用問題も少し解ける。 | 基本問題のみ解くことができる。 | 基本問題を解くことができない。 | 模擬SPIテスト（知識・理解・思考力） | 60% |
| (2) 面接練習をとおして、表現力やコミュニケーション能力を養い応用することができる。 | 明瞭な声で、相手に伝える意思をはっきり持っている。 | 明瞭な声で、相手に伝える意思を持っている。 | 声が聞きづらく、相手に伝わりにくい。 | 声が聞きづらく、相手に伝える意思が感じられない。 | 模擬面接をとおしての評価（態度・意欲・表現力） | 20% |
| (3) 自己PR文等の文書作成をとおして、文書作成能力を養い応用することができる。 | 完璧な文書作成能力が身につけられている。 | 基本的な文書作成能力が身につけている。 | 文章を作成することはできるが、不十分である。 | 課題レポートが提出できない。 | 課題レポート提出（表現力・思考力・判断力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------|--|---------------------|--------------------------|---------------------|-----------|
| 特別講義Ⅱ (Special Lecture II) | | 情報メディア学科 (留学生対象) | 20IMC01013 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 柴田 道信 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 留学生が専門分野の学習を進めるにあたっては、日本語の文字・語彙および文法に関する知識の修得が必要不可欠である。本講義では、日本語能力試験 N3 レベルの問題演習をとおして、日本語によるコミュニケーションを図る上で必要となる基礎的な言語知識の修得を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 日本語能力試験 N3 レベルの漢字を読んだり、書いたりすることができる。 (2) 日本語能力試験 N3 レベルの語彙知識を持ち、適切に用いることができる。 (3) 日本語能力試験 N3 レベルの文法知識を持ち、適切に用いることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 日本語で自己紹介できるようにしておく (1h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 2 | 漢字①：たくさんの言葉を作る漢字 | 該当する漢字をノートに書いて覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 3 | 漢字②：場面の言葉を作る漢字 | 該当する漢字をノートに書いて覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 4 | 漢字③：音読みと訓読みを覚える漢字 | 該当する漢字をノートに書いて覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 5 | 漢字④：たくさんの読み方のある漢字 | 該当する漢字をノートに書いて覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 6 | 総合問題・漢字 | これまで出てきた漢字を復習しておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 7 | 語彙① 人間関係、生活、体、趣味と旅行 | 該当する語彙を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 8 | 語彙② 教育、仕事 | 該当する語彙を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 9 | 語彙③ 社会、自然、数量と時間 | 該当する語彙を覚える (2h)) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 10 | 語彙④ オノマトペ、間違いやすい漢語 | 該当する語彙を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 11 | 総合問題・語彙 | これまで出てきた語彙を復習しておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 12 | 文法① 意味機能別の文法形式 | 該当する分法表現を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 13 | 文法② 文法形式の整理 | 該当する分法表現を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 14 | 文法③ 文の組立て、時制 | 該当する分法表現を覚える (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |
| | 15 | 総合問題・文法 | これまで出てきた文法表現を復習しておく (2h) | 配布プリントの内容を復習する (2h) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 試験（知識・理解）100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業において提示した課題については、解説も含め授業内で全体に対してフィードバックする。試験については、ルーブリック評価の結果で提示する。 |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に資料を配布 |
| メッセージなど | 日本語を上達させるために、授業以外の時間にも自主的に勉強しましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------------------|------------------------------|------------------------------|----------------------------|---------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 日本語能力試験N3レベルの漢字を読んだり、書いたりすることができる。 | 全体の8割以上の漢字の読み書きができる。 | 全体の7割程度の漢字の読み書きができる。 | 全体の6割程度の漢字の読み書きができる。 | 全体の6割未満の漢字しか読み書きができない。 | 試験 (知識・理解) | 30% |
| (2) 日本語能力試験N3レベルの語彙知識を持ち、適切に用いることができる。 | 全体の8割以上の語彙について、適切に用いることができる。 | 全体の7割程度の語彙について、適切に用いることができる。 | 全体の6割程度の語彙について、適切に用いることができる。 | 全体の6割未満の語彙しか適切に用いることができない。 | 試験 (知識・理解) | 40% |
| (3) 日本語能力試験N3レベルの文法知識を持ち、適切に用いることができる。 | 全体の8割以上の文法について、適切に用いることができる。 | 全体の7割程度の文法について、適切に用いることができる。 | 全体の6割程度の文法について、適切に用いることができる。 | 全体の6割未満の文法しか適切に用いることができない。 | 試験 (知識・理解) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|--|--|----------------------------------|--------------------|-----------|
| 特別講義Ⅱ Special Lecture Ⅱ | | 情報メディア学科 (社会人学生対象) | 20IMC01013 | 1・2 年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 日置 智子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 表計算ソフトの機能と基本的な操作方法およびインターネットの利用法について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 表計算ソフトの基本的な操作ができる。 (2) 表計算ソフトの色々な機能を活用してデータ処理が行える。 (3) インターネットの利用法について説明することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション・表計算ソフトの基本操作 | シラバスをよく読み、科目の内容を把握する。(1時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 2 | データの入力と表の作成 | 表計算ソフトにはどのような機能があるかを調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 3 | 表の編集 | 表の編集方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 4 | グラフの作成 | グラフの作成方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 5 | 基本的な計算式の入力 | 計算式の入力方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 6 | 絶対参照と相対参照 | 絶対参照と相対参照について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 7 | 関数の利用①－条件の指定－ | 論理関数について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 8 | 関数の利用②－複数の条件の指定－ | 論理関数について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 9 | 関数の利用③－統計処理－ | 統計関数について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 10 | データベースとしての利用①－データの抽出－ | データの抽出方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 11 | データベースとしての利用②－データの順位付けと並べ替え－ | データの並べ替えの方法について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 12 | 差し込み印刷①－はがきの宛名印刷－ | 差し込み印刷(はがき)について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 13 | 差し込み印刷②－宛名ラベルの作成－ | 差し込み印刷(ラベル)について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| | 14 | インターネットの利用 | インターネット利用時に注意すべき点について調べておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | |
| 15 | 総合応用問題 | これまでに配布した資料を参考にして、表計算ソフトの基本操作が行えるようにしておく。(2時間) | 配布資料の内容を復習する。(2時間) | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力）40%、 課題レポート（知識・理解・思考力・判断力）60% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業時に解説を行う。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：なし 適宜資料を配布 |
| メッセージ など | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------|-----------------|----------------------|----------------------------|-------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 表計算ソフトの基本的な操作ができる。 | ほぼ完璧に操作ができる。 | 大きな間違いがなく、操作ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の操作はできる。 | 操作ができない。 | 授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力） | 20% |
| (2) 表計算ソフトの色々な機能を活用してデータ処理が行える。 | ほぼ完璧にデータ処理が行える。 | 大きな間違いがなく、データ処理が行える。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理は行える。 | データ処理が行えない。 | 授業への取り組み・課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 70% |
| (3) インターネットの利用法について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・課題レポート（知識・理解・思考力・判断力） | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|--|-----------------------------------|--|--------------------------|-------------|
| 特別講義Ⅲ Special Lecture Ⅲ | | 情報メディア学科 (日商検定) | 20IMC01014 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 林 孝哉 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 情報化社会において、ビジネス文書作成能力を備えていることが求められている。本講義では、ビジネス文書作成に必要な基礎知識および文書作成のためのワープロ操作について説明する。日本商工会議所が実施しているPC検定のひとつである文書作成検定の内容に沿って説明する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 指示されたとおりに基本的なビジネス文書の編集ができる。 (2) 指示されたとおりに表組の作成や編集ができる。 (3) 指示されたとおりに図形の作成や編集ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 文書検定試験概要と学習ポイント | 文書検定試験について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 2 | ワープロ基本操作の復習(1): ページ設定、文字入力、ファイル操作 | 文字入力などワープロ基本操作について、予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 3 | ワープロ基本操作の復習(2): 画面表示設定、さまざまな編集操作 | 編集操作などワープロ基本操作について、予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 4 | ビジネス文書の種類と文書作成の基礎知識 | ビジネス文書について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 5 | 社外ビジネス文書編集総合練習 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 6 | 社内ビジネス文書の基礎知識 | 社内ビジネス文書について、予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 7 | 社内ビジネス文書編集総合練習 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 8 | 知識問題: ビジネス文書関連、日本語関連 | 情報技術関連の知識問題について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 9 | 表の作成と編集(1): 作成の基本 | 表の作成について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 10 | 表の作成と編集(2): 列幅・高さの調整 | 表の編集について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 11 | 表の作成と編集(3): セルの編集 | セルの編集について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 12 | 表を含むビジネス文書作成総合練習 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 13 | 図形の挿入と編集(1): 図形作成と操作の基本 | 図形作成について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 14 | 図形の挿入と編集(2): 文字入力・配置の調整 | 図形の編集について、Web等で予備学習を行う。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |
| | 15 | 図形を用いたビジネス文書作成総合練習 | 前回までの内容をもとにした課題を行うので、前回までの配布資料をよく読んでおく。2時間 | 受講した内容の復習し、練習問題に解答する。2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験 100% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は、ルーブリック評価の結果を返す。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：なし（適宜プリント配布） |
| メッセージなど | 基本的なワープロ操作技能や日本語、日本語文章表現の知識を修得していることが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------|--------------------|-------------------------|-------------------------------|------------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 指示されたとおりに基本的なビジネス文書の編集ができる。 | ほぼ完璧に文書の編集ができる。 | 大きな間違いが無く、文書の編集ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の文書の編集ができる。 | 文書の編集ができていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 60% |
| (2) 指示されたとおりに表組の作成や編集ができる。 | ほぼ完璧に表組の作成や編集ができる。 | 大きな間違いが無く、表組の作成や編集ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の表組の作成や編集ができる。 | 表組の作成や編集ができていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) 指示されたとおりに図形の作成や編集ができる。 | ほぼ完璧に図形の作成や編集ができる。 | 大きな間違いが無く、図形の作成や編集ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の図形の作成や編集ができる。 | 図形の作成や編集ができていない。 | 定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|---|--------------------------|---------------------|--------------------|-----------|
| 特別講義Ⅲ Special Lecture Ⅲ | | 情報メディア学科 (ITパスポート) | 20IMC01014 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 呉 靱 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 情報通信技術に関する基礎知識を修得していること。 (2) 情報システムを開発するための基本的な知識・技能や情報メディア技術を活用してコンテンツを効果的に制作・発信する能力を身に付け、実践的に応用することができること。 (3) 主体的に課題に取り組み解決する力及び他者と協働する力を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概 要 | ITパスポート試験は国家資格である情報技術者試験の中の一つの試験区分で、情報技術に携わる業務に就く者だけではなく、情報技術を活用していこうとするすべての職業人を対象とした資格である。これの取得は情報技術に関する共通的な基礎知識を習得したことの証にもなりうる。 本講義では、この試験に合格するための基礎力をつけることを目的とし、ITパスポート試験シラバスに沿って学習を進めていく。毎回の授業において、まず問題を解いてもらい、その後関連知識について解説を行う。なお、本講義の内容はテクノロジー系の知識に限られる。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 基数変換、論理演算、情報の単位、デジタル化、文字の表現についての問題を解ける。 (2) 基本的なデータ構造と基本的なアルゴリズム、流れ図、プログラミング・プログラム言語についての問題を解ける。 (3) コンピュータのプロセッサ、メモリ、入出力デバイスおよびシステムの構成、システムの評価指標についての問題を解ける。 (4) オペレーティングシステム、ファイルシステム、開発ツールおよびコンピュータや入出力装置について問題を解ける。 (5) ヒューマンインタフェースとその設計およびマルチメディアの技術と応用についての問題を解ける。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス (ITパスポート試験について) | 授業テーマを参照し、予習する。(1h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 2 | 基礎理論① (離散数学) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 3 | 基礎理論② (応用数学) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 4 | 基礎理論③ (情報に関する理論) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 5 | 基礎理論④ (データ構造とアルゴリズム) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 6 | 基礎理論⑤ (データ構造とアルゴリズム) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 7 | 基礎理論⑥ (プログラミング・プログラム言語) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 8 | 基礎理論⑦ (その他の言語) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 9 | コンピュータシステム① (コンピュータ構成要素) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 10 | コンピュータシステム② (システム構成要素) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 11 | コンピュータシステム③ (ソフトウェア) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 12 | コンピュータシステム④ (ハードウェア) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 13 | 技術要素① (ヒューマンインタフェース) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 14 | 技術要素② (マルチメディア) | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |
| | 15 | 総合演習 | 授業テーマを参照し、予習する。(2h) | 授業で学んだ内容を復習する。(2h) | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取組み 30%、定期試験 70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業時に課した演習・レポートは、次の授業時に解説を行う。また、試験はルーブリック評価の結果を渡します。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：適宜プリント配布 参考図書：滝口直樹著、「ゼロからはじめる IT パスポートの教科書」、とりい書房など |
| メッセージなど | IT パスポート試験合格を目指す意欲がある学生はもちろん、受験するまでは考えていない学生も情報関連授業の内容の復習になりますので、受講を歓迎します。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------|--------------|--------------|-------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 基数変換、論理演算、情報の単位、デジタル化、文字の表現についての問題を解ける。 | 八割以上の問題を解ける。 | 六割以上の問題を解ける。 | 四割以上の問題を解ける。 | 解ける問題が四割未満。 | 授業への取組み (意欲・関心) 定期試験 演習課題等 (知識・理解力・思考力) | 20% |
| (2) 基本的なデータ構造と基本的なアルゴリズム、流れ図、プログラミング・プログラム言語についての問題を解ける。 | 八割以上の問題を解ける。 | 六割以上の問題を解ける。 | 四割以上の問題を解ける。 | 解ける問題が四割未満。 | | 20% |
| (3) コンピュータのプロセッサ、メモリ、入出力デバイスおよびシステムの構成、システムの評価指標についての問題を解ける。 | 八割以上の問題を解ける。 | 六割以上の問題を解ける。 | 四割以上の問題を解ける。 | 解ける問題が四割未満。 | | 20% |
| (4) オペレーティングシステム、ファイルシステム、開発ツールおよびコンピュータや入出力装置について問題を解ける。 | 八割以上の問題を解ける。 | 六割以上の問題を解ける。 | 四割以上の問題を解ける。 | 解ける問題が四割未満。 | | 20% |
| (5) ヒューマンインタフェースとその設計およびマルチメディアの技術と応用についての問題を解ける。 | 八割以上の問題を解ける。 | 六割以上の問題を解ける。 | 四割以上の問題を解ける。 | 解ける問題が四割未満。 | | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|---------------------|------------------------|-----------------------|------------|
| 国語(書写を含む。) Japanese Language(including Calligraphy) | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 和田 正文 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | <p>中学校国語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校の教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 2 学習指導要領・国語の「書写に関する事項」を基にしながら、書写指導の実際を学習する。 3 上代から近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 小学校国語教科書に記載されている国語的術語の説明ができる。 (2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。 (3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語る事ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 「国語」の学習の意味と内容 | これまでの学習を振り返る。30分。 | ワークシートに授業後の感想を書く。1時間。 | |
| | 2 | 国語科の目標 - 3つの内容と構成 - | 学習指導要領の目標を読む。1時間。 | 学力観の推移を整理する。2時間。 | |
| | 3 | 国語科の〔知識及び技能〕の概観 | 学習指導要領の内容を読む。2時間。 | ワークシートに基づき整理する。2時間。 | |
| | 4 | 国語の音韻に関する事項 | テキストを基に音韻の特色を考える。1時間。 | ワークシートに基づき整理する。2時間。 | |
| | 5 | 文字に関する事項 ①漢字と仮名 | 仮名の発明の歴史を調べる。2時間。 | 万葉仮名の特色をまとめる。1時間。 | |
| | 6 | 文字に関する事項 ②漢字の成り立ち | 六書について調べる。2時間。 | 六書を基に漢字の例を調べる。2時間。 | |
| | 7 | 文字に関する事項 ③漢字の部首・熟語 | 二字熟語の特色を調べる。2時間。 | 部首・熟語について例示する。2時間。 | |
| | 8 | 表記に関する事項<仮名遣い> | 漢字仮名交じりの問題点を考える。1.5時間。 | 表記上の問題点をまとめる。2時間。 | |
| | 9 | 文及び文章の構成に関する事項 | 文節相互の関係について調べる。2時間。 | 単文・複文・重文について整理する。2時間。 | |
| | 10 | 言葉遣いに関する事項<敬語> | 敬語の種類について調べる。2時間。 | これからの敬語について考える。1時間。 | |
| | 11 | 語句に関する事項 ①語彙の種類 | テキストを基に語句の分類を調べる。1時間。 | 慣用句の例を基に特徴をまとめる。2時間。 | |
| | 12 | 語句に関する事項 ②語彙の学習 | テキストを基に言葉の由来を調べる。1時間。 | 美しい言葉と和語についてまとめる。2時間。 | |
| | 13 | 言葉の働きや特徴に関する事項 | 言葉の働きの二面性について調べる。2時間。 | 多義語・対義語等の用語を整理する。2時間。 | |
| | 14 | 方言に関する学習 | 教科書の方言の取り上げ方を調べる。1時間。 | 方言の発声に関する考えをまとめる。2時間。 | |
| | 15 | 言語文化に関する事項 | テキストの0部鶴を音読する。1時間。 | の重視する効果についてまとめる。2時間。 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|---|---------------------|-----------------------|----------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 「書写」学習の意義と内容 | テキストに沿って意義を考える。1時間。 | ワークシートに基づき整理する。2時間。 |
| | 2 | 硬筆による書写(低学年) | 手本に基づき「試書」する。1時間。 | 学習の要点を基に書く。2時間。 |
| | 3 | フェルトペンによる書写(中学年) | 「字形」を念頭に「試書」する。1時間。 | テキストの手本で練習する。1時間。 |
| | 4 | 毛筆による書写 ①楷書・漢字(中学年) | 毛筆の書写の注意点を調べる。1時間。 | 「止め」と「払い」を復習する。1時間。 |
| | 5 | 毛筆による書写 ②楷書・仮名(中学年) | テキストを基に運筆について調べる。2時間。 | 手本以外の字の練習をする。1時間。 |
| | 6 | 毛筆による書写 ③漢字と仮名(高学年) | 学習指導要領の運筆の要点を掴む。1時間。 | 之雨天に基づき再度書いてみる。2時間。 |
| | 7 | 毛筆による書写 ④行書(高学年) | 楷書と行書の違いを考える。1時間。 | 行書を段階別を書いてみる。2時間・ |
| | 8 | 筆ペンによる書写 ①平仮名 | テキストを基に筆ペンに慣れる。2時間。 | 「いろは歌」を楷書・行書で書く。2時間。 |
| | 9 | 筆ペンによる書写 ②日常の書式 | テキストにより地名を書いてみる。2時間。 | 葉書の様式に沿って練習する。2時間。 |
| | 10 | 筆ペンによる書写 ③連綿 | テキストを基に「連綿」を知る。2時間。 | テキストに基づき「連綿」で書く。2時間。 |
| | 11 | 「日本文学史」上代の文学 | テキストを基に「上代」を概観する。1時間。 | 上代の作品を読む。2時間。 |
| | 12 | 「日本文学史」中古の文学 | テキストを基に「中古」を概観する。1時間。 | 中古の作品を読む。2時間。 |
| | 13 | 「日本文学史」中世の文学 | テキストを基に「中世」を概観する。1時間。 | 中世の作品を読む。2時間。 |
| | 14 | 「日本文学史」近世の文学 | テキストを基に「近世」を概観する。1時間。 | 近世の作品を読む。2時間。 |
| | 15 | 「日本文学史」近代の文学 | テキストを基に「近代」を概観する。1時間。 | 近代の作品を読む。2時間。 |
| 成績評価 | ① 授業内容のポイントを出題し、記述されたものを「ルーブリック評価」に基づき評価する。 ② 毎時間の提出された作品やレポートを「ルーブリック評価」に基づき評価する。 定期試験(知識・理解)50%、提出作品(関心・意欲、思考力、判断力・表現力)30%、課題レポート(関心・意欲、思考力、判断力・表現力)20% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | ① 授業後提出された感想カードやレポートにコメントを書き、次時に返却する。その際幾つかのものは全体に紹介する。 ② 書写の作品を提出させ、添削・評価をし、次時に返却する。 ③ 文学史は、毎時間レポートさせ、最後に曾且つ的なレポートを書かせて提出させる。それにコメントと評価を示し、後日返却する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 演習用テキスト「国語(前期)」「国語(後期)」(和田征文編著) 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 秋山 虔・三好 行雄「新日本文学史」文英堂 「国語便覧」浜島書店・教研出版・東京書籍 | | | |
| メッセージなど | 1 2年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業 2 書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------|----------------------------|-----------------------------|---------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。 | 具体例を使ってわかるように説明できる。 | 術語の意味を間違いなく説明できる。 | 国語科の中での働きと関わりなく語としての意味が言える。 | 各術語の説明が適切にできない。 | 定期試験（知識・理解） | 50% |
| (2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。 | それぞれの道具の特徴を生かした書写ができる。 | トメ・ハネ・ハライ等を手本に沿って書くことができる。 | 筆の特徴や各字の運筆に関係なく手本通りに書ける。 | 毎時間の作品がきちんと提出できない。 | 提出作品（関心・意欲、思考力、判断力表現力） | 30% |
| (3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語るができる。 | 各時代の時代的な特徴と作品との関係を語るができる。 | 各時代の特徴、代表的な文学作品の説明ができる。 | 各時代を代表する作品の概略や特徴の説明ができる。 | 時代の特徴への意識なく作品の説明をする | 課題レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|--------------------------------|---|-----|------------------|
| 国語表現学 Expression in Japanese Language | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | | 20EPTS2002 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 和田 正文 | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 中学校国語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 「音声言語」と「文字言語」による表現方法について、小学校における実践を念頭に置いた教材の 開発とその指導法について実践的に学習する。 併せて、国語科の今日的な課題を意識した国語科の授業者としての素養と指導力を醸成する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読・朗読・群読をすることができる。 (2) 主題・取材・構成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | I 「音声言語」による表現方法 「小学校学習指導要領・国語」における「表現」 の指導 | 学習指導案の「表現」に関 わる内容を読む。2時間。 | テキストの「まえがき」と からめて本授業の意図を 考える。1時間。 | | |
| | 2 | 「音読」の意義 | テキストある「解説」を読 む。1時間。 | 授業を振り返り、意義を整 理する。1時間。 | | |
| | 3 | 音読による授業づくり | 音読と朗読の違いを考え ておく。1時間。 | 音読を重視する訳を整理 する。1時間。 | | |
| | 4 | 「発音チェック」と詩の音読 | テキストに沿って予習を する。1時間。 | 詩の音読に挑戦する。2時 間。 | | |
| | 5 | 一斉音読・役割音読、群読 | 音読の授業の流れを考え ておく。1時間。 | 実例に基づき学習指導案 を創る。2時間。 | | |
| | 6 | 朗読「声を読もう・声で描こう」 | テキストを読み、音読の練 習をする。2時間。 | 「日本語一音一音法」の感 想を書く。1時間。 | | |
| | 7 | 朗読・読み方を考えよう | テキスト中の詩の読み方 を考える。1時間。 | 他の班の朗読について感 想を書く。2時間。 | | |
| | 8 | 朗読・相手に聞かせる工夫 | テキスト中の散文の読み 方を考える。2時間。 | 授業で取り組んだ朗読を 繰り返す。1時間。 | | |
| | 9 | II 「文字言語」による表現方法 句読点の打ち方・原稿用紙の使い方 | テキスト中の句読点の打 ち方を考える。 2時間。 | 原稿用紙の書き方の例題 をする。1時間。 | | |
| | 10 | 新聞コラムや先輩の作品による「随想」の実際と 創作上のヒント | 3つの例の感想を書い ておく。2時間。 | 「ネタとテーマ」観点で整 理する。1時間。 | | |
| | 11 | 書き出しの効用と実作 ― 「書き出しは読者への 誘惑である」 ― | テキストに沿って考えを メモする。1時間。 | 自分の書き出し例を数点 書く。2時間。 | | |
| | 12 | 実作へのアプローチ ①「テーマとネタ」(主題・ 取材)を考える。 | 「テーマとネタ」を考え る。1時間。 | 自分の作品について準備 する。2時間。 | | |
| | 13 | 実作へのアプローチ ②「文章の構成」(構想) を考える。 | 例を参考に「構成」につ いて考える。1時間。 | 自分の作品の下書きを考 える。2時間。 | | |
| | 14 | 実作へのアプローチ ③「説明と描写の効果」(叙 述・推敲)を考える。 | 例文を比較し考えをメモ する。2時間。 | 自分の作品の下書きを考 える。2時間。 | | |
| | 15 | 「随想」への挑戦 ― 「今の自分」を「外部視点」 をもって書く。― | 例示された「随想」の感想 を書く。1時間。 | 自分の随想を清書する。 2時間。 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | <p>① 授業中の音読・朗読の態度やその感想を「ルーブリック評価」に基づき評価する。</p> <p>② 書くことへの取り組みの状況を「ルーブリック評価」に基づき評価する。 授業中の活動・感想レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力）50% 授業中の活動・提出する作品（関心・意欲、思考力、判断力、表現力）50%</p> |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | <p>① 授業のねらいに沿った活動（音読・朗読、話し合い等）からの意見や感想について、それぞれコメントし、次時に返却する。</p> <p>② 授業中の書く活動や感想の提出に対してコメントする。提出された随想を評価し、後日返却する。</p> |
| テキストおよび参考文献 | <p>上條 晴夫 編著「音読・朗読・群読の授業づくり」学事出版 家本 芳郎 編・脚色「群読・ふたり読み」高文研 「美しい日本語のしらべ」東京出版 和田 征文 監修・山口県中学校国語教育研究会「中学校国語表現ノート」新学社 その他授業の内容に合わせて紹介したもの</p> |
| メッセージなど | <p>国語教室づくりへのヒント、「随想」を書き上げる経験を得る授業</p> |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------------------|------------------------------------|------------------------------|----------------------|----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読・朗読・群読をすることができる。 | 教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。 | 仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。 | 教材や場面の特性に係なく指示に従った音読・朗読ができる。 | 意識的に声を出す活動が不十分である。 | 授業中の活動・感想レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 50% |
| (2) 主題・取材・構成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。 | 作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。 | 授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。 | 授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。 | 作文についての苦手意識から脱皮できない。 | 授業中の活動・提出する作品（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|--------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------|
| 社会 Social Studies | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1003 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 隅野 努 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 中学校社会科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 社会科全般についての基礎的な知識を身につけるとともに、社会的な見方や考え方ができるようになり、よりよき市民・国民としての自覚をもつことができるようになる。 併せて、社会科教師として使命感・責任感をもって教壇に立つ心構えを醸成する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料を活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。 (2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。 (3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 前期の学習計画 ① オリエンテーション | 社会科らしい自己紹介を 考える。2時間。 | 授業内容の振り返り。2時 間。 | |
| | 2 | 社会科で求められる学力 ② 採用試験問題の分 析 | 採用試験の過去問を解く。 2時間。 | 採用試験問題の振り返り。 2時間。 | |
| | 3 | 高校入試問題の分析 | 高校入試問題を解く。2時 間。 | 高校入試問題の振り返り。 2時間。 | |
| | 4 | 社会科の目標と構造 | 学習指導要領社会科の目 標を読む。2時間。 | 社会科の目標のまとめ。2時 間。 | |
| | 5 | 地理的な見方・考え方の基礎 ⑤ 地図と地球儀 | 地図と地球儀についての 資料を読む。2時間。 | 地図と地球儀のまとめ。2時 間。 | |
| | 6 | 地形図と地図記号 | 地形図と地図記号の資料 を読む。2時間。 | 地形図と地図記号のまと め。2時間。 | |
| | 7 | 地域社会の調査① | 地元の新旧の地形図を読 む。2時間。 | 地元の地形図の読み取り。 2時間。 | |
| | 8 | 地域社会の調査② | 現地調査の実践例を読む。 2時間。 | 現地調査のまとめ。2時間。 | |
| | 9 | 日本の都道府県 | 都道府県の位置と名称、特 色について整理する。2時 間。 | 都道府県の位置と名称、特 色を復習する。2時間。 | |
| | 10 | 歴史的な見方・考え方の基礎 ⑩ 時代区分と時代 の特色 | 日本の歴史の時代区分と 時代の特色を整理する。2 時間。 | 日本の歴史の時代区分と 時代の特色を復習する。2 時間。 | |
| | 11 | 歴史的思考力の育成 | 歴史における「なぜ」をあ げる。2時間。 | 授業内容の振り返り。2時 間。 | |
| | 12 | 年表や歴史資料の活用 | 「なぜ」に関係する歴史資 料や年表をみる。2時間。 | 授業内容の振り返り。2時 間。 | |
| | 13 | 人物学習① | 日本の歴史に登場する代 表的な人物を確認する。2 時間。 | 歴史上の代表的な人物に ついてまとめる。2時間。 | |
| | 14 | 人物学習② | 学習指導要領社会で扱う 人物を調べる。2時間。 | 学習指導要領で扱う人物 のまとめ。2時間。 | |
| 15 | 前期の学習の振り返り ⑮ 学習評価と授業評価 | 15回の授業資料を読み直 す。2時間。 | 授業内容の振り返り。2時 間。 | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|--------------------------------|--|----------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 後期の学習計画 ① オリエンテーション | 前期試験の内容の分析をする。2時間。 | 学習指導要領社会の目標を読む。2時間。 |
| | 2 | 第3・4学年の社会科 | 第3・4学年の社会科の目標と内容を読む。2時間。 | 第3・4学年の目標、内容をまとめる。2時間。 |
| | 3 | 目標と内容、内容の取り扱い③ 地域の先人のはたらき① | 前期の地域社会の調査のレポートを読む。2時間。 | 地域の先人の働きについて、調べる。2時間。 |
| | 4 | 地域の先人のはたらき② | 地域の発展に尽くした先人について調べる。2時間。 | 地域の先人の働きについてまとめる。2時間。 |
| | 5 | 第5学年の社会科 ⑤ 目標と内容、内容の取り扱い | 第5学年の社会科の目標と内容を読む。2時間。 | 第5学年の目標、内容をまとめる。2時間。 |
| | 6 | わたしたちの国土 | 第5学年の内容「わたしたちの国土」について資料を読む。2時間。 | わたしたちの国土についてまとめる。2時間。 |
| | 7 | 我が国の自然と人々の生活 | 第5学年の内容「日本の自然」について資料を読む。2時間。 | 我が国の自然と人々の生活についてまとめる。2時間。 |
| | 8 | 日本の第1次産業 | 第5学年の内容「日本の農業」について資料を読む。2時間。 | 日本の農業についてまとめる。2時間。 |
| | 9 | 日本の第2・3次産業 | 第5学年の内容「日本の工業」について資料を読む。2時間。 | 日本の工業についてまとめる。2時間。 |
| | 10 | 第6学年の社会科 ⑩ 目標と内容、内容の取り扱い | 第6学年の社会科の目標と内容を読む。2時間。 | 第6学年の目標、内容をまとめる。2時間。 |
| | 11 | 日本の歴史① | 第6学年の内容「大化の改新」について資料を読む。2時間。 | 大化の改新についてまとめる。2時間。 |
| | 12 | 日本の歴史② | 第6学年の内容「室町文化」について資料を読む。2時間。 | 室町文化についてまとめる。2時間。 |
| | 13 | 日本の歴史③ | 第6学年の内容「黒船の来航」について資料を読む。2時間。 | 黒船の来航についてまとめる。2時間。 |
| | 14 | 日本の政治制度 | 第6学年の内容「日本の祝日」について資料を読む。2時間。 | 日本の政治制度についてまとめる。2時間。 |
| | 15 | ⑮ 学習評価と授業評価 | 15回の授業資料を読み直す。2時間。 | 授業内容の振り返り。2時間。 |
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度、知識・理解）50%、 定期試験（知識・理解、思考力・判断力・表現力）40%、 課題・レポート（思考力・判断力・表現力）10% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「社会」山口短期大学 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社 小学校社会科用教科書「あたらしい社会（3～6年）」東京書籍 | | | |
| メッセージ な | 社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、社会科の授業づくりを創意工夫する科目 小学校教諭二種免許状：選択必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------|-------------------------|---------------------------|-----------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度、知識・理解) | 50% |
| (2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。 | 様々な角度から考察できる。 | いくつかの角度から考察できる。 | 1つ以上考察できる。 | 考察できない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 40% |
| (3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。 | ほぼ完璧に発表できる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて発表できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を発表できる。 | 発表できない。 | 課題・レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|--|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------|
| 算数 Arithmetic | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1004 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 山根 郁夫 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 算数科の各領域6学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導するための基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な見方・考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的な学習や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。 (2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取り組むことができる。 (3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション・数と四則演算 | | 数の分類、演算の可能性のまとめ。 2時間 | |
| | 2 | 数(整数)概念の形成 | テキスト第1章§2(P3~P5)を読む。 2時間 | テキストP6の提示課題への回答。 2時間 | |
| | 3 | 命数法と記数法 | テキスト第1章§3を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 各国の命数法、記数法の特徴について整理する。 2時間 | |
| | 4 | 十進数、非十進数 | テキスト第1章§4を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 練習課題を通してn進数への理解を深める。 2時間 | |
| | 5 | 加法の意味と計算 | テキスト第1章§5、6を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 加法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 6 | 減法の意味と計算 | テキスト第1章§7を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 減法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 7 | 乗法の意味と計算 | テキスト第1章§8を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 乗法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 8 | 除法の意味と計算 | テキスト第1章§9を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 除法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 9 | 整数の性質 | テキスト第1章§10を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 整数の諸性質をもとにした定義、定理を整理する。 2時間 | |
| | 10 | 概数、概算 | テキスト第1章§11を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 概数、概算についてまとめ、演習課題を解く。 2時間 | |
| | 11 | 小数の意味と計算 | テキスト第1章§12を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 小数の意味、標記の仕組み、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 12 | 分数の意味と加法、減法 | テキスト第1章§13を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 分数の意味、標記の仕組み、加減算について整理する。 2時間 | |
| | 13 | 分数の乗法、除法 | テキスト第1章§14を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 分数の乗法、除法の意味、演算法を整理する。 2時間 | |
| | 14 | 量概念の形成と測定 | テキスト第2章§1を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 量の類型、比較方法、度量衡の歴史について整理する。 2時間 | |
| 15 | 長さ、重さ、時間、容積、角度 | テキスト第2章§2を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 量の種類や測定や単位との関連等を整理する。 2時間 | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|---|-------------------|----------------------------|------------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 平面図形、平面図形の性質 | テキスト第3章§1を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。2時間 |
| | 2 | 立体図形、立体図形の性質及び展開図 | テキスト第3章§2を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。2時間 |
| | 3 | 図形の合同 | テキスト第3章§3を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 合同の証明に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 4 | 図形の対称、拡大、縮小 | テキスト第3章§4を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 拡大、縮小に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 5 | 円と正多角形 | テキスト第3章§5を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 円と正多角形に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 6 | 平面図形の面積 | テキスト第3章§6を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 平面図形の内積に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 7 | 円周と円の面積 | テキスト第3章§7を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 演習と縁の内積に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 8 | 立体の体積 | テキスト第3章§8を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 立体の体積や容積に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 9 | 平均、単分量、速さ | テキスト第4章§1を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 円と正多角形に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 10 | 割合とグラフ、比 | テキスト第4章§2を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 割合、グラフ、比に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 11 | 比例、反比例 | テキスト第4章§3を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 一次関数、二次関数に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 12 | 量の単位とメートル法 | テキスト第4章§4を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 単位の換算に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 13 | 計算法則と演算の工夫 | テキスト第4章§5を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 計算法則や法則利用に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 14 | 資料の整理とグラフ | テキスト第4章§6を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 柱状グラフ等に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| | 15 | 場合の数 | テキスト第4章§7を読み疑問点等をまとめる。 2時間 | 場合の数や確率に関する課題プリントをやる。 2時間 |
| 成績評価 | 定期試験(知識・理解、思考力・判断力)40%、課題演習や発表活動(関心・意欲・思考力・判断力・表現力)30%、課題プリント(知識・理解、思考力・判断力)30% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業内容の整理メモや課題プリントへのコメント記入や採点を行い、必要に応じて再提出を求めたり発展的な課題を課したりすることにより、理解定着と達成感、成就感の醸成を図る。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『算数』山口短期大学 プリント類は必要に応じて配付する。 文部科学省「小学校指導要領解説 算数編」 小学校算数教科書 | | | |
| メッセージなど | 小学校6年間の算数科学習内容の重要事項を領域・系統に沿って体系的に学習し、算数の有用性や数学的な考え方のよさを見出しましょう。 小学校教諭二種免許：選択必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------------|----------------------------------|---------------------------|-----------------------------|----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな間違いがなく内容に関する基礎知識の説明ができる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎知識の説明ができる。 | 基礎知識が身についておらず、説明ができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力) | 40% |
| (2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取り組むことができる。 | 主体的に取り組組み、ほぼ完璧に成し遂げることができる。 | 主体的に取り組組み、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。 | 主体性に課題はあるが、ほぼ成し遂げることができる。 | 主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。 | 課題演習や発表活動 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。 | ほぼ完璧な解決ができる。 | 単純ミスはあるが、大きな間違いをせずに解決できる。 | いくつかの間違いはあるが、ほぼ的確に解決できる。 | 間違いが多く、ほとんどの的確な解決ができていない。 | 課題プリント (知識・理解、思考力・判断力) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|---------------------------|----------------------------------|----------------------------|-----|------------------|
| 理科 Science | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | | 20EPTS1005 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 西田 稔 | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科教育について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。 (2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。 (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 教科「理科」について理科の目標と内容 | 学習指導要領理科編を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 2 | 「理科」でつけるべき学力について | 学習指導要領理科編を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 3 | 第3学年の理科「風とゴムの力の働き」 | 3年理科教科書の「風とゴムの力のはたらき」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 4 | 第3学年の理科「光と音の性質」 | 3年理科教科書の「光と音の性質」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 5 | 第3学年の理科「磁石の性質」 | 3年理科教科書の「磁石の性質」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 6 | 第3学年の理科「電気の通り道」 | 3年理科教科書の「電気の通り道」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 7 | 第3学年の理科「身の回りの生物 植物」 | 3年理科教科書の「身の回りの生物 植物」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 8 | 第4学年の理科「空気と水の性質」 | 4年理科教科書の「空気と水の性質」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 9 | 第4学年の理科「月と星」 | 4年理科教科書の「月と星」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 10 | 第4学年の理科「月と星 観察の仕方」 | 4年理科教科書の「観察の仕方」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 11 | 第4学年の理科「電流のはたらき」 | 4年理科教科書の「電流のはたらき」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 12 | 第4学年の理科「ものづくり」 | 4年理科教科書の「ものづくり」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 13 | 第4学年の理科「もののあたたまりかた」 | 3年理科教科書の「もののあたたまりかた」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| | 14 | 第4学年の理科「人の体のつくりとはたらき」 | 4年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | |
| 15 | 第4学年の理科「季節と生物」 | 4年理科教科書の「季節と生物」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---|-----------------------|----------------------------------|----------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 第5学年の理科「物の溶け方」 | 5年理科教科書の「物の溶け方」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 2 | 第5学年の理科「振り子の運動」 | 5年理科教科書の「振り子の運動」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 3 | 第5学年の理科「電流がつくる磁力」 | 5年理科教科書の「電流がつくる磁力」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 4 | 第5学年の理科「植物の発芽、成長、結実」 | 5年理科教科書の「植物の発芽、成長、結実」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 5 | 第5学年の理科「動物の誕生 魚」 | 5年理科教科書の「魚の誕生」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 6 | 第5学年の理科「動物の誕生 人」 | 5年理科教科書の「人の誕生」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 7 | 第5学年の理科「流れる水の働き」 | 5年理科教科書の「流れる水の働き」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 8 | 第5学年の理科「天気の変化」 | 5年理科教科書の「天気の変化」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 9 | 第6学年の理科「燃焼の仕組み」 | 6年理科教科書の「燃焼の仕組み」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 10 | 第6学年の理科「水溶液の性質」 | 6年理科教科書の「水溶液の性質」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 11 | 第6学年の理科「人の体のつくりとはたらき」 | 6年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 12 | 第6学年の理科「生物と環境」 | 6年理科教科書の「生物と環境」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 13 | 第6学年の理科「てこの規則性」 | 6年理科教科書の「てこの規則性」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 14 | 第6学年の理科「土地のつくりと変化」 | 6年理科教科書の「土地のつくりと変化」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| | 15 | 第6学年の理科「月と太陽」 | 6年理科教科書の「月と太陽」を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 |
| 成績評価 | 講義用学習シート（関心・意欲・態度・理解・思考力）30%、 教材作成（技能・表現）30%、 定期試験（知識理解・思考力・判断力・表現力）40% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 小学校理科教科書3年、4年、5年、6年 文部科学省「小学校指導要領 理科編」 文部科学省「小学校学習指導要解説 理科編」 | | | |
| メッセージ な ど | 理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践と理科授業におけるアクティブラーニングについて学習します。小学校教諭二種免許：選択必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------|--------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。 | 目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。 | 目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。 | 目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。 | 目標や内容を理解しておらず、説明もできない。 | 課題レポート (知識・理解) 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。 | こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。 | こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。 | 理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。 | 理解しておらず、説明もできてない。 | 課題レポート (知識・理解) 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。 | 心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。 | 身にはつけているが、完璧な説明ができない。 | 十分とは、言えないが、何とか説明はできる。 | 身についてないため、説明もできない。 | 学習プリント (関心・意欲・態度・思考力・判断力・技能) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|--------------------|----------------------|-------------------|-----------|
| 生活 Life Environments | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2006 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 川上 認 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 小学校1、2年生対象の総合的な教科である生活科の特設的な意義を知り、その目標や内容の理解を深める。 「直接的な活動や体験重視」の教科であり、3学年以上の「理科や社会科の基礎」を培うという特質的性格を究明していく。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し、説明できる。 (2) 生活科の4つの目標と9つの内容とその扱い方がわかり、解説できるようになる。 (3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる。 (4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる</p> | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 生活科設置の背景と趣旨 | テキスト1～7Pを読む 1時間 | 理由をまとめる 1時間 | |
| | 2 | 生活科の目標 | 要領解説8～22Pを読む 2時間 | 改訂点をまとめる 1時間 | |
| | 3 | 生活科の内容1～3 | テキスト11～16Pを読む 1時間 | 内容をまとめる 2時間 | |
| | 4 | 生活科の内容4～6 | テキスト17～19Pを読む 1時間 | 内容をまとめる 2時間 | |
| | 5 | 生活科の内容7～9 | テキスト20～22Pを読む 1時間 | 内容構成図を書く 2時間 | |
| | 6 | 自然との触れ合い計画立案 | 自然の教材をさがす 2時間 | 計画案を検討する 1時間 | |
| | 7 | 春の遠足実習 | 実施上の配慮を書く 1時間 | 報告書を書く 1時間 | |
| | 8 | 栽培活動(1) 畑づくり | 春野菜の種類を調べる 1時間 | 植栽方法を書く 1時間 | |
| | 9 | (2) 野菜の植栽 | 植付の仕方を調べる 1時間 | 自己評価表を書く 1時間 | |
| | 10 | 飼育活動(1) メダカの飼育方法 | メダカの特徴を調べる 1時間 | 注意点をメモする 1時間 | |
| | 11 | (2) 飼育の実際 | メダカ新聞をつくる 2時間 | 感想文を書く 1時間 | |
| | 12 | 交流授業の計画(対)～小学校参観 | 訪問時の挨拶を書く 1時間 | 日程表を作る 1時間 | |
| | 13 | 交流授業の実践 | 指導案を読んでおく 2時間 | 令状を書く 1時間 | |
| | 14 | 遊び教材づくり(例) 空気鉄砲 | 子供の遊びを調べる 2時間 | 関連教材を調べる 1時間 | |
| 15 | 遊びの実際 | 指導上の留意点を調べる 2時間 | 相互評価する 1時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|-------------------------------|--|--------------------|-------------------------|-------------------|
| | 1 | 生活科の全体計画・年間計画 | 要領解説 73P～86 を読む 1 時間 | 模擬計画を作る 2 時間 |
| | 2 | 生活科の単元計画の作成 | 要領解説 87～93 を読む 1 時間 | 計画を修正する 1 時間 |
| | 3 | 指導案の作成 (1) 作成上の留意点 | 指導案事例を読む 2 時間 | 案を作成する 3 時間 |
| | 4 | (2) 指導案の作成 | 指導案の作成 3 時間 | 案を修正する 1 時間 |
| | 5 | 生活科の評価の基本 | 配布プリントを読む 1 時間 | 自己評価してみる 1 時間 |
| | 6 | 評価基準と評価規準 | テキスト 3P を読む 1 時間 | 違いをまとめる 1 時間 |
| | 7 | 自然との触れ合い体験計画 | 注意点を調べる 2 時間 | 準備物を整える 1 時間 |
| | 8 | 秋の野山の散策 例) 右田ヶ岳 | 持ち物等を整える 1 時間 | 感想文を書く 1 時間 |
| | 9 | 栽培活動の実際 (1) 秋植えの野菜 | 秋野菜の種類を調べる 1 時間 | 野菜の絵を描く 1 時間 |
| | 10 | (2) 秋の収穫体験 | 収穫物の活用を書く 1 時間 | 自己評価する 1 時間 |
| | 11 | 交流活動の計画 対) 小学校 | 計画書を作製する 2 時間 | 形式を調べる 1 時間 |
| | 12 | 交流活動の実際 | 訪問マナーをメモする 1 時間 | 相互評価する 1 時間 |
| | 13 | 自然物を使った遊び 例) 糸電話等 | 糸電話について調べる 1 時間 | 遊びを絵にする 1 時間 |
| | 14 | 季節的行事の計画 | 伝統行事を調べる 2 時間 | 発表材料を作る 2 時間 |
| | 15 | 季節的行事の実際 例) もちつき | 餅つきについて調べる 1 時間 | 正月行事を調べる 1 時間 |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価方法 定期試験による知識評価と活動状況時の観察による態度評価 (個人評価や相互評価による累積評価) ・評価基準 体験活動への積極性、創造性、協力性の 3 点 定期試験 (知識・理解) 50%、 レポート (思考力・表現力等) 20%、 授業態度 (関心・意欲) 30% | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・過去の活動体験時に作成した累積成果物等によりフィードバックする | | | |
| テキストおよび参考文献 | 文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」 東洋館出版 山口短期大学授業用テキスト「生活」 山口短期大学 | | | |
| メッセージなど | 体験活動を重視した教科なので、大学キャンパスより外に学習の場を設けることもあり、広く実践的に社会や自然に働きかける活動を行います。 小学校教諭二種免許：選択必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる | ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる | 十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる | おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる | まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2) 生活科の4つの目標と9つの内容とその扱い方が分かり、解けるようになる | ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる | 十分に生活科の目標と内容を記述できる | おおむね生活科の目標と内容を記述できる | まったく生活科の目標と内容を記述できない | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる | ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる | 十分に指導計画や指導案が作成できる | おおむね指導計画や指導案が作成できる | まったく指導計画や指導案が作成できない | レポート (思考力・表現力等) | 20% |
| (4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる | ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる | 十分に学習指導・評価の在り方を説明できる | おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる | まったく学習指導・評価の在り方を説明できない | 授業態度 (関心・意欲) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|---------------------------|---|--------------------------|------------------|
| 音楽 Music | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1007 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 山崎 凱千 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 高等学校音楽科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 小学校の先生として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、先生自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的技能を養う。 グループ演習をとおしてアンサンブルをする体験を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。 (2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。 (3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 講義の全体目標及び概要説明 | テキスト1ページを読んで おく1時間 | 理解して自分の考えをま とめる。1時間 | |
| | 2 | 音の長さ・音符と休符について | テキスト27ページを読んで おく1時間 | プリントパート1でまと める1時間 | |
| | 3 | 音の高さ・音名と階名 | テキスト28ページを読んで おく1時間 | プリントパート2でまと める1時間 | |
| | 4 | 音の強さ・音の色・味わいの考察 | テキスト30ページを読んで おく1時間 | プリントパート3でまと める1時間 | |
| | 5 | 音楽用語と各種記号の意味するところ | 教科書242,243ページを読 んでおく2時間 | 用語を暗記する1時間 | |
| | 6 | リズムと速度、リズムと拍子について | 教科書244,245ページを読 んでおく2時間 | プリントパート2でまと める1時間 | |
| | 7 | ソルフェージュ・聴音 | テキスト7ページを読んで おく1時間 | 添削指導の復習1時間 練習1時間 | |
| | 8 | リズムの変化、反復、終止感 | テキスト31,32ページを読 んでおく1時間 | プリントパート6でまと める1時間 | |
| | 9 | 曲想、アンサンブルーグループ演習ー | 教科書82ページを読んでお く1時間 グループで練習する2時間 | プリントパート7でまと める2時間 | |
| | 10 | 指揮の仕方、指揮者の役割 | テキスト34ページ、教科書 141ページを読んでおく1 時間 | プリントパート5でまと め、会得する2時間 | |
| | 11 | ハ長調の音階とイ短調の音階 | テキスト33ページを読んで おく1時間 | プリントパート3,4でまと める1時間 | |
| | 12 | アンサンブルと指揮者の務め | 教科書143ページを読んで おく2時間 自分の割り当てを練習して おく1時間 | 実習、演習し会得する 2時間 | |
| | 13 | 音楽の歴史の概要をつかむ | テキスト4,5ページを読ん でおく1時間 | 記憶、暗記し、まとめる 1時間 | |
| | 14 | 形式美・鑑賞教材のとらまえ方 | テキスト34,35,36ページ を熟読しておく 2時間 | 内容をまとめる 2時間 | |
| 15 | 移調・転調、楽典総論 | テキスト37,38ページを読 んでおく1時間 | プリントパートまとめ 1から3でまとめる2時間 | | |
| 内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ハ長調の主要三和音I・IV・Vの和音 | テキスト14ページを読んで おく1時間 | 実際に演習する2時間 | |
| | 2 | コードネームについて | テキスト14ページを読んで おく1時間 | 振り返りシートによりま とめる1時間 | |
| | 3 | ヘ長調の主要三和音I・IV・Vの和音 | テキスト16ページを読んで おく1時間 | 鍵盤で会得する1時間 | |
| | 4 | ト長調の主要三和音I・IV・Vの和音 | テキスト17ページを読んで おく1時間 | 鍵盤で会得する1時間 | |

| | | | | |
|------------------------------------|---|----------------------------|------------------------------------|-------------------------|
| 内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
| | 5 | メジャーコード・マイナーコード | テキスト 16 ページを読んで おく 1 時間 | 検眼で実習する 1 時間 |
| | 6 | イ短調の主要三和音 I・IV・V の和音 | テキスト 14 ページを読んで おく 1 時間 | 実際に演習する 2 時間 |
| | 7 | セブンのコード C7. F7. G7. D7. E7 | テキスト 14 ページを読んで おく 1 時間 | 鍵盤で会得する 2 時間 |
| | 8 | コードによる平易な伴奏 | テキスト 18 ページを読み鍵 盤奏をしておく 1 時間 | 練習し会得する 2 時間 |
| | 9 | ハ長調→ト調、ハ長調→ヘ調への移調奏 | 教科書 139 ページの鍵盤奏 をしておく 1 時間 | 練習し会得する 2 時間 |
| | 10 | 旋律を歌い、コードによる伴奏をつける | テキスト 25、26 ページを読 んでおく 1 時間 | 練習し会得する 2 時間 |
| | 11 | コードのみの伴奏で旋律を歌う | テキスト 29 ページを読んで おく 1 時間 | 練習し会得する 2 時間 |
| | 12 | 弾き歌いを人前で発表する | テキスト 30 ページの鍵盤奏 をしておく 2 時間 | 他人のを聞いて自分へ取 り込む 2 時間 |
| | 13 | 和音の教え方 アクティブラーニング | テキスト 19 ページを読み、 考える 1 時間 | 自分の考えをまとめる 2 時 間 |
| | 14 | グループによる AL の成果発表 | 前時のまとめをしておく 1 時間 | 発表シートをまとめる 2 時 間 |
| 15 | コードを使って即興演奏に挑戦 | 自由課題に取り組む 2 時間 | 演習・実践あるのみ 2 時間 | |
| 成績評価 | 相対的な知識・技能の達成をするため、テキストの課題曲集 28 ページまでの演奏 を目安とする。 定期試験（楽典）50%、実技検査（鍵盤楽器）30%、定期試験・実技検査 20% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | プリント 10 パートの習得及び繰り返しの実技検定やレッスンをとおし、課題を段 階的にクリアさせる。やる気を引き出し技能の習得を目指させる。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 音楽（山口短期大学） 初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領 第6節 音楽 | | | |
| メッセー ジ な ど | 義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地を造りましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。 小学校教諭二種免許状：必修 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--------------------|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 基本的な音楽理論 (楽典) の習得がで きる。 | 音楽の三要素 (旋律・リズム・ 和音) を記号化し た楽典を全体的 にほぼ完璧に理 解し活用できる。 | 理論として理 解でき、活用の 段階で実用で きる程度に習 得できる。 | ほぼ理解でき、 実用実践の段階 で混乱せずに活 用できる理論が 習得できる。 | 合理性に富む 楽典理論が理 解習得できて いない。 | 定期試験 (楽典) | 50% |
| (2) 器楽演奏や歌唱の 基本を学び、その基 礎力の体得ができ る。 | 鍵盤楽器を中心 として、弾き歌い の技量など、ほぼ 完璧に出来る | 器楽と歌唱の 別々でなら、ほ ぼ完璧に表現 できる。 | 基本的、基礎 的な演奏力がほ ぼ身に着いてい る。 | 基礎的、基 本的技量が全 く身に着かな い。 | 実技検査 (鍵盤楽 器) | 30% |
| (3) 音楽における基礎 能力の感性を助長 し、技能を向上させ ることができる。 | 自らの力で自ら の感性を磨く練 習ができ、技能の 向上に努めるこ とができる。 | 楽譜等の指示 に従ってほぼ 完璧に表現で き、感性を助長 させることが できる。 | 楽譜等の指示 に従ってほぼ正 確に表現でき るが、感性を助 長させるまで には至らない。 | 楽譜等の指示 に従って正 確に表現でき ない。技能の向 上が見られな い | 定期試験 実技検査 | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------|-----------|
| 声楽 Vocal Music | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1008 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 必修 | 田中 奏子・大谷 美和 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 初等科音楽教育における歌唱共通教材の音楽的歌唱方法の基本を修得し、ピアノの弾き歌いができる。また、合唱（輪唱、二部合唱）の体験し、指導法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 児童発声についての知識を習得する。 (2) 小学校歌唱教材24曲の楽曲の内容を把握し、歌うことができる。また声楽アンサンブルができる。 (3) 習得した楽曲をピアノで弾き歌いができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 児童発声及び声楽的発声法について | テキスト52ページから60ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 2 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 1学年 共通教材― | テキスト136ページから142ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 3 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 2学年 共通教材― | テキスト144ページから150ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 4 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 3学年 共通教材― | テキスト152ページから158ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 5 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 4学年 共通教材― | テキスト160ページから168ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 6 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 5学年 共通教材― | テキスト170ページから180ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 7 | 歌唱指導及び簡単な声楽アンサンブル 6学年 共通教材― | テキスト182ページから188ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 8 | ピアノによる弾き歌い ―1週目 | 指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 9 | ピアノによる弾き歌い ―2週目 | 指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 10 | ピアノによる弾き歌い ―3週目 | 指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 11 | ピアノによる弾き歌い ―4週目 | 指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 12 | ピアノによる弾き歌い ―5週目 | 指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 13 | 二部合唱、三部合唱 ―1週目 | 授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 14 | 二部合唱、三部合唱 ―2週目 | 授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| 15 | 二部合唱、三部合唱 ―3週目 | 授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | ディプロマポリシーに沿って、授業評価と実技試験結果によって評価する。 授業への取り組み（関心・意欲・態度）：50%、定期試験（知識・実技）：50% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回の授業の曲を復習する。 |
| テキストおよび参考文献 | 初等科音楽研究会 編「最新 初等科音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領 第6節 音楽 |
| メッセージなど | 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|----------------|------------------------|-------------------------|--------------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 児童発声についての知識を習得する。 | ほぼ完璧に習得している。 | 大きな間違いがなく、基礎を習得している。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。 | 習得していない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 30% |
| (2) 小学校歌唱教材24曲の楽曲の内容を把握し、歌うことができる。また声楽アンサンブルができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、基礎ができる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎ができている。 | できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 40% |
| (3) 習得した楽曲をピアノで弾き歌いができる。 | ほぼ完璧に弾き歌いができる。 | 大きな間違いがなく、基礎の弾き歌いができる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎が弾き歌いできる。 | 弾き歌いでできていない。 | 定期試験 | 30% |

| | | | | | |
|------------------------------|---|-----------------------|-----------------------|----------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 器楽 I Instrumental Music I | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1009 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 必修 | 上田 奈奈・宮本 千穂 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ |
| 概要 | 初等科音楽教育に必要なピアノ演奏技術と歌唱教材伴奏の修得を目指す。 それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。 個人レッスンの形態で演習する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 (2) 正しい楽譜の読み方を学べる。 (3) 各学年の共通歌唱教材について学び、演奏できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ピアノの扱い方 演奏の方法 演奏楽曲の説明 | テキストを読んでおく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 2 | ピアノ演奏① バイエル 15 番 | バイエル 15 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 3 | ピアノ演奏② バイエル 15 番 | バイエル 15 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 4 | ピアノ演奏③ バイエル 28 番 | バイエル 28 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 5 | ピアノ演奏④ バイエル 28 番 | バイエル 28 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 6 | ピアノ演奏⑤ バイエル 48 番 | バイエル 48 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 7 | ピアノ演奏⑥ バイエル 48 番 | バイエル 48 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 8 | ピアノ演奏⑦ バイエル 51 番 | バイエル 51 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 9 | ピアノ演奏⑧ バイエル 51 番 | バイエル 51 番を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 10 | 音階について① ハ長調、ニ長調、ヘ長調 | 譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 11 | 音階について② ト長調、イ短調 | 譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 12 | 「アラバスク」 ―1週目― | 課題曲の練習をしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 13 | 「アラバスク」 ―2週目― | 課題曲の練習をしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| | 14 | 「アラバスク」 ―3週目― | 課題曲の練習をしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | |
| 15 | 「アラバスク」 ―4週目― | 課題曲の練習をしておく・2時間 | 授業を振り返り習った曲を復習する・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | ディプロマポリシーに沿って評価と実技試験結果によって評価。 授業への取り組み（関心・意欲・態度）：55%、定期試験（知識・実技）：45% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 日々の練習の成果を復習練習でフィードバックし、実技試験の場で発表する。 |
| テキストおよび参考文献 | 泉 靖彦他「初等科音楽教育法」音楽之友社 「バイエル教則本」全音出版社 「ブルグミュラー25の練習曲」全音出版 小学校学習指導要領 第6節 音楽 |
| メッセージなど | 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|----------------------|------------------------|-----------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 | ほぼ完璧に習得している。 | 大きな間違いがなく、基礎を習得している。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。 | 習得できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |
| (2) 正しい楽譜の読み方を学べる。 | ほぼ完璧に学んでいる。 | 大きな間違いがなく、基礎を学んでいる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を学んでいる。 | 学べていない。 | 授業への取り組み | 30% |
| (3) 各学年の共通歌唱教材について学び、演奏できる。 | ほぼ完璧に演奏できる。 | 大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。 | 演奏できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|---|---------------------------------|------------------------------|----------------------|-----------|
| 器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2010 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 田中 奏子・安部 浩信 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 器楽合奏法は初等音楽教育に必要な様々な楽器の知識を習得し、合奏方法とその指導法を学ぶ。 また、歌唱教材のピアノ伴奏法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。 (2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。 (3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | リコーダー演習法 ー1週目ー | リコーダーの運指を教科書を見ながら練習しておく・2時間 | 授業で練習した音階と曲を練習する・2時間 | |
| | 2 | リコーダー演習法 ー2週目ー | 井、トの指使いを予習しておく・2時間 | 授業で練習した音階と曲を練習する・2時間 | |
| | 3 | リコーダー演習法 ー3週目ー | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業で練習した音階と曲を練習する・2時間 | |
| | 4 | 合奏楽器の特徴と扱い方 ー1週目ー | 合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく・2時間 | 授業で練習した楽器の練習をする・2時間 | |
| | 5 | 合奏楽器の特徴と扱い方 ー2週目ー | 合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく・2時間 | 授業で練習した楽器の練習をする・2時間 | |
| | 6 | 合奏① ー1、2、3年生対象曲1週目ー | 合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく・2時間 | 授業で練習した楽器の練習をする・2時間 | |
| | 7 | 合奏② ー1、2、3年生対象曲2週目ー | 合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく・2時間 | 授業で練習した楽器の練習をする・2時間 | |
| | 8 | 合奏③ ー1、2、3年生対象曲3週目ー | 合奏曲で使用する打楽器、鍵盤楽器の練習をしておく・2時間 | 授業で練習した楽器の練習をする・2時間 | |
| | 9 | 合奏(創作)① ー4、5、6年生対象曲1週目ー | 合奏曲のリズムを工夫しておく・2時間 | 授業で創作したリズムを練習する・2時間 | |
| | 10 | 合奏(創作)② ー4、5、6年生対象曲2週目ー | 創作したリズムを発展させておく・2時間 | 授業で創作したリズムを練習する・2時間 | |
| | 11 | 合奏(創作)③ ー4、5、6年生対象曲3週目ー(発表会) | 創作リズムの練習をしておく・2時間 | 合奏曲の仕上げ練習をする・2時間 | |
| | 12 | ピアノ伴奏法① ー歌唱教材伴奏法1、2年 | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 13 | ピアノ伴奏法② ー歌唱教材伴奏法3、4年 | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 14 | ピアノ伴奏法③ ー歌唱教材伴奏法5、6年 | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 15 | ピアノ伴奏法④ まとめ | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業で習得したリコーダーや打楽器、鍵盤楽器を用いて曲を合奏し、実技試験を含めて評価する。 授業への取り組み（関心・意欲・態度）：60%、定期試験（知識・実技）：40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回授業の終わりに出来ているか個別に確認をする。 |
| テキストおよび参考文献 | 泉 靖彦 他「初等科 音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領 第6節 音楽 |
| メッセージなど | 初等科音楽教育の実践的指導法を学びます。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|--------------|----------------------|------------------------|------------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。 | ほぼ完璧に演奏できる。 | 大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。 | 演奏できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |
| (2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。 | ほぼ完璧に習得している。 | 大きな間違いがなく、基礎を習得している。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。 | 習得できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |
| (3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。 | ほぼ完璧に合奏できる。 | 大きな間違いがなく、基礎を合奏できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を合奏できる。 | 合奏ができていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|----------------------------|--------------------------------------|--|------------------|
| 図画工作 Arts and Handicrafts | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1011 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 佐古 淳子 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 中学校美術科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主に行う。工作は教材研究に、鑑賞は美術史の託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。 (2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。 (3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。 (4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション・人物クロッキー | テキスト P.3～P.7 を読んでおく。0.5時間 | 授業を振り返り、人物クロッキーの自己評価をする。0.5時間 | |
| | 2 | 鉛筆デッサン・ものの見方 ー手・器と視点ー | テキスト P.8、P.9 の演習 1)、2) を予習する。各0.5時間。 | 授業を振り返り、2つのデッサンの自己評価をする。0.5時間 | |
| | 3 | 鉛筆デッサン ー人物の顔ー | テキスト P.10 を読んで実践してみる。1時間 | 授業を振り返り、デッサンの途中段階の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 4 | 鉛筆デッサン ー人物の顔の仕上げー | | デッサンの完成度を高め、自己評価をして次時提出する。2時間 | |
| | 5 | 水彩画の制作 ーモチーフの選択・レイアウトー | テキスト P.11～P.18 を読んでおく。1時間 | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 6 | 下描き①ー構図決定(鉛筆)ー | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 7 | 下描き②ー細部描画(鉛筆)ー | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 8 | 着彩①ー薄塗りー | テキスト P.19～P.21 を読んでおく。1時間 | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 9 | 着彩②画面全体を見ながら色を重ねていくー | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 10 | 着彩③ー色を重ねて深みを出すー | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 11 | 着彩④ 同上 | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 12 | 着彩⑤ 同上 | | 授業を振り返り、制作の自己評価をする。0.5時間 | |
| | 13 | 評価・講評 | | 授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか自己評価をする。0.5時間 | |
| | 14 | 演習グラデーション①ー色についてー | テキスト P.24～P.27 を読んでおく。1時間 | 授業を振り返り、疑問点などをまとめる。0.5時間 | |
| | 15 | 演習グラデーション ーポスターカラーの使い方ー | | 授業を振り返り、課題の制作状況の自己評価をする。0.5時間 | |
| | | | | 修正箇所を見直し、課題の完成度を高め、提出する。2時間 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---|---------------------|--|--|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | ポスターについて | テキスト P. 22, P. 23, P. 30 を読んでおく。1 時間 | 授業を振り返り、自分の主 題、構想、資料収集に取り 掛かる。2 時間 |
| | 2 | レタリングゴシック体と明朝体① | テキスト P. 28、P. 29 を読 んで演習 1)、2) を予習す る。2 時間 | 授業を振り返り、予習した 内容を見直す。1 時間 |
| | 3 | レタリングゴシック体と明朝体② | | 授業を振り返り、演習シー トを完成させ、次時提出す る。2 時間 |
| | 4 | 資料収集・構想・アイデアスケッチ | 構想シートに数種類、構想 を描く。2 時間 | 授業を振り返り、構想を何 度も見直す。2 時間 |
| | 5 | コピー・レタリングの考案 | 構想シートに数種類、構想 を描く。2 時間 | 授業を振り返り、構想を何 度も見直す。2 時間 |
| | 6 | 下描き①ー構図決定ー | 構想シートに数種類、構想 を描く。2 時間 | 授業を振り返り、構想を何 度も見直す。2 時間 |
| | 7 | 下描き②ーレタリングのトレースや細部ー | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 8 | 着彩①ーモダンテクニックについて | テキスト P. 31 を読んでお く。0.5 時間 | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 9 | 着彩② | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 10 | 着彩③ | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 11 | 着彩④ | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 12 | 着彩⑤ | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| | 13 | 着彩⑥ | | お互いに鑑賞しあいなが ら意見交換をして作品の 完成度を高め、次時提出す る。2 時間 |
| | 14 | 評価・講評 | | 授業を振り返り、鑑賞内容 や言葉の表現が適切だっ たか自己評価をする。 0.5 時間 |
| | 15 | まとめ | | 授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間 |
| 成績評価 | <p>定期試験（知識・理解）：10% 授業内での制作（発想・構想・創意工夫および関心・意欲・態度）：40% 授業内での制作（表現の技能および関心・意欲・態度）40% 授業内での相互評価（鑑賞）：10% ただし、試験の一部は技能と鑑賞の評価に反映させることとする。</p> | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | <p>学生は授業の振り返りシートに課題に対する疑問や感想、自己評価を記入し連絡 ボックスに入れる。それに対して次時までにはコメントを記入し返却する。 課題の評価は作品完成時に口頭で、試験の評価は点数（100 点中～80 点：優、79 ～70 点：良、69～60 点：可、60 点未満：不可）で知らせる。正解とともに返却 する。場合によっては個人的に呼び出して指導することもある。</p> | | | |
| テキストおよび 参考文献 | <p>テキスト『図画工作』 山口短期大学 佐古淳子 小学校学習指導要領 第7節 図画工作 中学校学習指導要領 第6節 美術</p> | | | |
| メッセー ジ な ど | <p>制作が主となる活動です。この実習を通じて、水彩絵の具とポスターカラーの 扱い、色彩、画面構成、レタリングを学んでいきます。概ね中学校課程に準ずる 内容になっているのは、小学校の学習が次に何に繋がっていくのかを理解してお くことはとても大切だからです。とはいえ、一つのパターンに導くのではなく、 児童に個人差や個性があるように、皆さんの個性を重視しながら、創意・工夫や 完成させる意欲が高まるような関わり方を模索していきます。 小学校教諭二種免許状：必修</p> | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具、色彩について説明することができる。 | ほぼ完璧に基本を説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。 | ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。 | 大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。 | 理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。 | 理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。 | 授業内での制作(発想・構想・創意工夫および関心・意欲・態度) | 40% |
| (3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。 | ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。 | 大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。 | 技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。 | 技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。 | 授業内での制作(表現の技能および関心・意欲・態度) | 40% |
| (4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。 | ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。 | 大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。 | 不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。 | 説明できていない。 | 授業内での相互評価 (鑑賞) | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|-------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------|
| 工芸 Craft | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1012 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 村上 芳明 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概 要 | 粘土と木を主材料として制作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら造形する粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、大道は萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの制作をおこなう。 後期では、削って造形する木を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを学ぶ。実際に木材を使ってペン皿やペーパーナイフを制作し、電動糸のこ盤の使用法や木材の加工方法をあらためて学習する。後期のみ、採用試験対策の為、定期試験を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。 (2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。 (3) 素材の違いを考慮しながら、各自の制作意図に反映された作品を創造することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 授業の概要についての説明と心構え | | 授業の概要と心構えをまとめる。2時間 | |
| | 2 | 概要及び焼物用粘土の取扱いについて | 本時の内容に該当する教科書の項目を読む。2時間 | 焼物用粘土の取り扱いについて振り返り、まとめる。2時間 | |
| | 3 | 粗練りと菊練りの練り方 | 前時に指定した教科書の項目を読む。2時間 | 粗練りと菊練りの注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 4 | 土鈴の制作 | 土鈴のデザインを考える。2時間 | 土鈴を作る時の注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 5 | 玉づくりの制作方法と制作 | 玉づくりの器のデザインを考える。2時間 | 玉づくりで器を作る時の注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 6 | 玉づくりの底削り方法 | 底削りに該当する教科書の項目を読む。2時間 | 底削りの注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 7 | 板づくりの制作方法と制作 | 板づくりの器のデザインを考える。2時間 | たたら板を使用する板づくりの注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 8 | 板づくりの制作 | 板づくりに該当する教科書の項目を読む。2時間 | 板づくりのパーツの組み立ての注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 9 | 板づくりの底削り方法 | 板づくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。2時間 | 板づくりならではの底削りの注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 10 | ひもづくりの制作方法と制作 | ひもづくりの器のデザインを考える。2時間 | ひもづくりで器を作る時の注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 11 | ひもづくりの制作(1)成形 | ひもづくりに該当する教科書の項目を読む。2時間 | 自らのデザインに近づけるための注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 12 | ひもづくりの制作(2)仕上げ | 自らのデザインを形にするための制作方法を考える。2時間 | 大きな器を作る時の注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 13 | ひもづくりの底削りの方法 | ひもづくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。2時間 | ひもづくりならではの底削りの注意事項をまとめる。2時間 | |
| | 14 | 施釉 | 釉薬を掛けて仕上げた状態の器のデザインを考える。2時間 | 釉薬を掛ける時の注意事項をまとめる。2時間 | |
| 15 | 鑑賞・評価 | 焼成の方法に該当する教科書の項目を読む。2時間 | 陶芸の作業を振り返り、注意事項をまとめる。2時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|---|-------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| | 1 | 概要及び木工について | 教科書の木工編を読む。 2時間 | 概要と木工についての説明を振り返り、まとめる。 2時間 |
| | 2 | ペン皿作品のデザインを決定 | ペン皿のデザインを考える。 2時間 | 木材の製材方法とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。 2時間 |
| | 3 | ペーパーナイフのデザインを決定 | ペーパーナイフのデザインを考える。 2時間 | 木の種類とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。 2時間 |
| | 4 | 糸のこ盤の使用方法和役割 | 糸のこ盤の使用方法来に該当する教科書の項目を読む。 2時間 | 糸のこ盤の使用にあたっての注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 5 | 切削手順と方法 | 自らのデザインを形にするための切削方法を考える。 2時間 | 切削の方法と手順についての注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 6 | 彫刻刀による切削方法 | 彫刻刀の使用に該当する教科書の項目を読む。 2時間 | 彫刻刀の種類と使用に関する注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 7 | ペン皿の切削(1) 荒彫り | 浮き彫り(レリーフ)をイメージしてデザインを考える。 2時間 | 本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。 2時間 |
| | 8 | ペン皿の切削(2) 中彫り | 荒彫りから仕上げ彫りに該当する教科書の項目を読む。 2時間 | 本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。 2時間 |
| | 9 | ペン皿の切削(3) 仕上げ彫り | 立体的なデザインを考え、本時の作業の進行方法を考える。 2時間 | 本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。 2時間 |
| | 10 | ペーパーナイフの切削(荒・中彫り) | ペーパーナイフを立体的にイメージして本時の作業を考える。 2時間 | 本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。 2時間 |
| | 11 | ペーパーナイフの切削(仕上げ彫り) | 作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。 2時間 | 彫刻刀の切削作業全般を振り返り、注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 12 | サンドペーパーによる研ぎ作業 | 作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。 2時間 | サンドペーパーの使用に関する注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 13 | アクリル絵の具による着色 | 色付けのデザインを考える。 2時間 | アクリル絵の具の適性と長所・短所をまとめる。 2時間 |
| | 14 | 仕上げ(ニス塗装) | ニス塗装に該当する教科書の項目を読む。 2時間 | ニス塗装の注意事項をまとめる。 2時間 |
| | 15 | 鑑賞・評価 | 工芸の授業全般を振り返り、疑問点・質問事項をまとめる。 2時間 | 工芸の授業全般の注意事項をまとめて、定期試験に備える。 2時間 |
| 成績評価 | 定期試験(知識・理解・判断力) 10% 作品(関心・意欲・態度・技能・発想・表現力) 90% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 定期試験終了後に試験の解答・解説を行う。 作品の評価・改善方法については授業の中で随時指導する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領 第7節 図画工作 | | | |
| メッセージなど | 毎回の授業の取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|---|--------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。 | 粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が十分に身につけている。 | 粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が概ね身につけている。 | 粘土と木の素材の特性を概ね理解し、技法及び道具の使用方法は理解している。 | 粘土と木の素材の特性を理解できず、技法及び道具の使用方法も理解していない。 | 定期試験 (知識・理解・判断力) | 10% |
| (2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。 | 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。 | 課題の内容を概ね理解し、自分なりのデザインを考案することができる。 | 課題の内容を概ね理解し、一般的なデザインであれば考案することができる。 | 課題の内容を理解できず、一般的なデザインも考案することができない。 | 作品 (関心・意欲・態度・技能・発想・表現力) | 45% |
| (3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図に反映された作品を創造することができる。 | 素材の違いを理解し、自らの製作意図の通りの作品を創造することができる。 | 素材の違いを理解し、自らの製作意図の通りの作品を概ね制作することができる。 | 素材の違いを概ね理解し、自らの製作意図に近い作品を制作することができる。 | 素材の違いを理解できず、作品を制作することができない。 | | 45% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------|---|---|----------------------|---------------------|------------|
| 体育 I Physical Education | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2013 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 子安 崇夫 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 小学校免許修得にふさわしい力を身に付けることを主眼に授業を行う。主に、小学校の体育科教育で対象とする種目の指導ができるということが中心である。子どもの教育に責任を持つためにふさわしい資質能力を身に付けることができるように授業を進めていく。そのために、「スポーツの科学」、「系統的指導法」、「運動の基礎技術」という言葉をキーワードにして行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) マット運動、短距離走の基礎技術を中心にした基本的な動作を修得する。 (2) 種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、基本的な指導法を修得する。 (3) 系統的指導という観点から、スポーツを科学的に分析し表現できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 学習指導要領を読んでくる 2時間 | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 2 | 小学校における体育科教育の実技内容の確認 | 学習指導要領を読んでくる 2時間 | 学習指導要領を読む 2時間 | |
| | 3 | マット運動の面白さについて考える(議論) | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 4 | 「議論」に基づいた、マット運動の面白さの実技 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 5 | マット運動のオリエンテーション(理論) | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 6 | マット運動のオリエンテーション(実技) | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 7 | マット運動の空間構成を考慮した実技 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 8 | マット運動の基礎技術の実技 ①回転系・バランス系 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 9 | マット運動の基礎技術の実技 ②スプリング系・ジャンプ系 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 | |
| | 10 | マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方①グループづくりと発表準備 | 事前資料と発表内容の確認 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 | |
| | 11 | マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方②グループ活動と発表準備 | 事前資料と発表内容の確認 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 | |
| | 12 | マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方③グループ発表1回目 | グループでの発表内容の確認と練習 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 | |
| | 13 | マット運動の基礎技術を身に付ける系統的指導法のあり方④グループ発表2回目 | グループでの発表内容の確認と練習 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 | |
| | 14 | マット運動の基礎技術を取り入れた3種目連続技の工夫 | 連続技の確認と練習 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 | |
| 15 | まとめ | 前期授業資料のまとめ | 前期授業資料のまとめ | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|---------------------------------|---|-------------------|---------------------|
| | 1 | オリエンテーション①（前期の振り返り） | 前期授業資料の確認 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 2 | オリエンテーション②（後期の授業について） | 学習指導要領を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 3 | 様々な種目の系統的指導法について | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 4 | 短距離走の科学（速く走るために）（議論等） | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 5 | 短距離走の科学（短距離走の実際） | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 6 | 自分の「走り」を科学する | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 |
| | 7 | 短距離走における「歩幅走」の実際 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 計測データの分析 2時間 |
| | 8 | 短距離走における歩幅走の実技 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 計測データの分析 2時間 |
| | 9 | 短距離走のまとめ | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 10 | 長距離走の科学 | 学習指導要領を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 11 | 自分の長距離走を科学する | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと授業資料の確認 2時間 |
| | 12 | 長距離走の科学に基づいた実技 | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 |
| | 13 | 長距離走の科学を身に付ける | 事前資料を読んでくる 2時間 | 授業の振り返りと実技内容の確認 2時間 |
| | 14 | 長距離走のまとめ | 事前資料を読んでくる 2時間 | 後期授業資料のまとめ |
| | 15 | まとめ | 後期授業資料のまとめ | 後期授業のまとめ |
| | 成績評価 | 授業への取り組み・実技発表（関心・意欲知識・理解・表現力）40%、 グループ発表・模擬授業・授業レポート（理解・思考力・判断力・表現力）40%、 課題レポート 20% | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートはコメントをつけてお返しします。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時資料を配布 | | | |
| メッセージ など | 小学校教諭二種免許状：必修 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------|------------------|----------------|----------|------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) マット運動、短距離走の基礎技術を中心にした基本的な動作を修得する。 | ほぼ完璧に修得できている | 大きな間違いがなく修得できている | 最低限のことは修得できている | 修得できていない | 授業への取り組み・実技発表（関心・意欲知識・理解・表現力） | 30% |
| (2) 種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、基本的な指導法を修得する。 | ほぼ完璧に修得できている | 大きな間違いがなく修得できている | 最低限のことは修得できている | 修得できていない | グループ発表・模擬授業・授業レポート（理解・思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (3) 系統的指導という観点から、スポーツを科学的に分析し表現できる。 | ほぼ完璧に表現できる | 大きな間違いがなく表現できる | 最低限のことは表現できる | 表現できない | 授業への取り組み・課題レポート（知識・理解・表現力） | 30% |

| | | | | | |
|-----------------------------|---|---|----------------------|-------------------|------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 体育Ⅱ Physical Education Ⅱ | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2014 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 子安 崇夫 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 小学校体育における「体育科」の目標、内容（各運動領域）の構成などを理解するとともに、指導者の基礎的な技術を身につける。なわとび、フラッグフットボールを教材とし、実践することを通じて子どもが安全かつ自主的な活動を展開できる指導方法の理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) なわとび、球技の特性に応じた楽しみ方を理解し実践できる。 (2) なわとび、球技の指導に必要な基本的知識を理解し表現できる。 (3) 縄を使用したグループでの動きの構成づくりと表現ができる。 (4) 球技に必要な時空間の構成を理解し表現できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーションー授業の概要についてー | | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 2 | なわあそびの考え方と指導の留意点 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 3 | 短なわ技術の系統的指導 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 4 | なわあそびにおける表現活動 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 5 | リズムなわとびについて | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 6 | リズムなわとびのグループづくりと練習 | なわとびの練習 2時間 | リズムなわとびの立案と練習 2時間 | |
| | 7 | リズムなわとびのグループ発表 | グループ練習 2時間 | 発表の振り返りレポート 2時間 | |
| | 8 | フラッグフットボール①ーグループづくりおよび基本のゲーム（川渡りゲーム）ー | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 9 | フラッグフットボール②ーランプレイについてー | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 10 | フラッグフットボール③ーパスプレイについてー | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 11 | 作戦の立て方 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 授業の振り返り 2時間 | |
| | 12 | 攻撃・守りの基礎的技術の習熟練習①ー基本陣形からの攻撃の展開と守備についてー | フラッグフットボールの作戦の立案 2時間 | グループでの振り返り 2時間 | |
| | 13 | 攻撃・守りの基礎的技術の習熟練習②ーパスプレイ、ランプレイの駆け引きを含めた攻防ー | フラッグフットボールの作戦の立案 2時間 | グループでの振り返り 2時間 | |
| | 14 | 戦術を意識したゲームの進め方について | フラッグフットボールの作戦の立案 2時間 | グループでの振り返り 2時間 | |
| | 15 | まとめのゲーム | グループでの作戦の確認と練習 2時間 | 課題レポート 2時間 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・表現力）30%、 レポート（理解・思考力・判断力・表現力）30%、 発表（知識・理解・判断力・表現力）20%、 ゲーム・運営（知識・理解・判断力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 小学校学習指導要領 第9節 体育 資料は随時配布 |
| メッセージ など | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|------------|----------------|--------------|--------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 球技、なわとびの特性に応じた楽しみ方を理解し実践できる。 | ほぼ完璧に実践できる | 大きな間違いがなく実践できる | 最低限のことは実践できる | 実践できない | 授業への取り組み （関心・意欲 表現力） | 30% |
| (2) なわとび、球技の指導に必要な基本的知識を理解し表現できる。 | ほぼ完璧に表現できる | 大きな間違いがなく表現できる | 最低限のことは表現できる | 表現できない | 授業への取り組み・レポート （理解・思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 縄を使用したグループでの動きの構成づくりと表現ができる。 | ほぼ完璧に表現できる | 大きな間違いがなく表現できる | 最低限のことは表現できる | 表現できない | 発表・レポート（知識・理解・判断力・表現力） | 20% |
| (4) 球技に必要な時空間の構成を理解し表現できる。 | ほぼ完璧に表現できる | 大きな間違いがなく表現できる | 最低限のことは表現できる | 表現できない | ゲーム・レポート（知識・理解・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|--------------------------------------|-------------------------|----------------------|------------------|
| リズム運動 Rhythmical Movement | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1015 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 必修 | 手島 史子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について理解する。なかでも日本の民族舞踊の踊りを中心に、歴史的な背景や独特の身体づかいを学びながら日本の踊りの独自性について理解する。また、ペア学習、グループ学習などの学習方法を学びながら、指導をする上での基礎を学び、表現の楽しさを追求する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。 (2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解する。 (3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法を修得する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーションー今日のダンス・踊りを取り巻く背景と教育の中のダンスー | | 学習指導要領をダンスの領域を読む。2時間 | |
| | 2 | 日本の伝統文化「荒馬」について学ぶー「今別荒馬」を知るー | 学習指導要領のダンスの領域を読む。2時間 | 学習指導要領の領域を読む。2時間 | |
| | 3 | 「荒馬」の基本の動き①ー踏み、探り足、踏み遊びー | 荒馬についての資料を読む。2時間 | 基本の動きの復習。2時間 | |
| | 4 | 「荒馬」の基本の動き②ー一つ踏み、二つ踏み、足踏みー | 基本の動きの確認。2時間 | 基本の動きの復習。2時間 | |
| | 5 | 馬をつけて、前半の動きのまとめと発表 | 基本の動きの確認。2時間 | 前半部分の練習。2時間 | |
| | 6 | 後半の動きの学習とペア学習 | 前半の通りの復習。2時間 | 後半の踊りの練習。2時間 | |
| | 7 | 身体の使い方の違いを知る動き (ペア) | 後半の動きの復習。2時間 | 踊りの練習。2時間 | |
| | 8 | 全体の構成づくりと踊りの練習 | 踊りの復習。2時間 | 全体の構成の確認と練習。2時間 | |
| | 9 | 「正調ソーラン節」の学習① 歴史と実践例 | ソーラン節について調べる。2時間 | ソーラン節の練習。2時間 | |
| | 10 | 「正調ソーラン節」の学習② 踊りを学ぶ | ソーラン節の復習。2時間 | ソーラン節の練習。2時間 | |
| | 11 | 模擬授業の指導案づくり | 指導案の作成方法について参考資料を読む。2時間 | 授業指導案の作成。2時間 | |
| | 12 | 模擬授業 その1 (導入から動きの指導) | 指導案の作成または練習。2時間 | 指導方法の要点をまとめる。2時間 | |
| | 13 | 模擬授業 その2 (導入から動きの指導) | 指導案の作成または練習。2時間 | 指導方法の要点をまとめる。2時間 | |
| | 14 | 荒馬の発表に向けての構成づくりと練習 | 発表に向けて練習。2時間 | 発表に向けて練習。2時間 | |
| 15 | 荒馬の発表 (まとめと振り返り含む) | 発表に向けて練習。2時間 | 授業のまとめをレポートに書く。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業での取り組みと発表（知識・理解、思考力、判断力、表現力）30%、 授業での取り組み（意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力）30%、 指導案づくり・模擬授業（意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業中に踊りに関する良い点、改善点を伝えていく。踊りの発表と模擬授業では、学生同士が互いに評価しフィードバックする。また教員からも同様に行う。課題レポートは授業外で返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | 小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時配布資料 |
| メッセージ な ど | 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|---|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。 | 歴史について理解し、基本動作を修得し、自分なりに表現し踊ることができる。 | ほぼ基本動作を修得し、前に出て踊ることができる。 | 多少の間違いはあるが、基本動作を覚え、踊ることができる。 | 部分的には踊れるが、全体を通して踊ることができない。 | 授業での取り組みと発表（知識・理解、思考力、判断力、表現力） | 30% |
| (2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解する。 | クラス全体での発表会の構成がイメージでき、提案できる。 | ペア学習、グループ学習の取り組み方がわかり、良い視点で踊りを評価できる。 | ペア学習の取り組み方がわかり、自分や他者の良い点を評価することができる。 | 個人練習はできるが、ペア以上の取り組みができない。自分や他者の良い点を見つけることができない。 | 授業での取り組み（意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 模擬授業を通して、表現運動の基本的な指導法を修得する。 | 動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。 | 指導者の適切な向きがわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。 | 部分的な踊りの指導案を計画することができる。大まかに指導することができる。 | 指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。 | 指導案づくり・模擬授業（意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|--|---|------------------------------------|-----|------------------|
| 家庭 Home Economics | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | | 20EPTS1016 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 三時 貴久子 | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 小学校学習指導要領の「家庭」の目標および内容を理解する。教育実践に必要な知識と技術を習得する。全領域の教材を扱い、指導案の作成を練習し、模擬授業を体験する。模擬授業への検討・反省を通して教育実践への力を培いたい。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。 (2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 「家庭」の目標 | 指導要領解説(以下解説) p 5～p 10を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 2 | 学習指導要領(目標・内容) | 解説 p 12～p 19を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 3 | 指導計画の作成・内容の取扱い | 解説 p 71～p 81を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 4 | 「家庭・家庭生活」の内容 | 解説 p 20～p 31を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 5 | 「家族・家庭生活」の指導 | 児童用教科書の該当ページ を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 6 | 食事の役割と調理の基礎 | 解説 p 34～p 43を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 7 | 「食領域」の教材を使った調理実習① ・調理器具の取扱いとゆで方 | 児童用教科書の該当ページ を読み、安全上の留意点 をまとめておく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 8 | 「食領域」の教材を使った実践研究 | 児童用教科書の該当ページ を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 9 | 「食領域」の教材を使った調理実習② ・ごはんのみそ汁 | 児童用教科書の該当ページ を読んで指導上の留意 点をまとめておく。2時 間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 10 | 「消・費生活と環境」の構成 | 解説 p 64～p 70を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 11 | 「消費生活」の基礎 | 児童用教科書の該当ページ を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 12 | 「物や金銭の使い方と買い物」の指導 | 児童用教科書の該当ページ を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 13 | 「環境に配慮した生活」の指導 | 児童用教科書の該当ページ を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| | 14 | 家族・家庭生活についての課題の設定 | 解説 p 29～p 31を読み、 課題の設定例を考えて おく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | |
| 15 | 「家庭」と他教科との関連 | 解説 p 76～p 77と児童 用教科書の関連ページ を読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|-------------------------------|--|-----------------------------|
| | 1 | 「衣料域」の展開 | 解説 p 4 9 ~ p 5 7 を読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 2 | 「衣料域」の実技演習① | 児童用教科書の該当ページを読んで安全上の留意点をまとめておく。2 時間。 | 授業で学んだ実技内容を再度実践する。2 時間。 |
| | 3 | 「衣領域」の実技演習② 手縫いの基礎 | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 4 | 「布を用いた製作」材料と手順 | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 5 | 「布を用いた製作」ミシンの基礎 | 児童用教科書の該当ページを読み、ミシン操作の手順を予習しておく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 6 | 「布を用いた製作」袋の製作① | 児童用教科書の該当ページを読み、製作上の留意点をまとめておく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 7 | 「布を用いた製作」袋の製作② | 児童用教科書の該当ページを読み、作品完成までの手順をまとめておく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 8 | 「住領域」の内容 | 解説 p 5 8 ~ p 6 3 を読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 9 | 「快適な住まい方」の指導 | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 1 0 | 「食領域」の教材を使った調理実習③ ・いためる調理 | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 1 1 | 「食領域」の教材を使った調理実習④ ・じゃがいも料理 | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 1 2 | 指導案の作成の手順と演習 | 配付資料を読んでおく。2 時間。 | 模擬授業の準備をする。2 時間。 |
| | 1 3 | 模擬授業の実践と改善点の討議 | 共通課題の指導案を作成する。2 時間。 | 模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。2 時間。 |
| | 1 4 | 模擬授業の実践と改善点の討議 | 共通課題の指導案を作成する。2 時間。 | 模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。2 時間 |
| 1 5 | 「食領域」と家族のだんらん | 児童用教科書の該当ページを読んでおく。2 時間。 | 家庭科授業の意義と重要性をまとめる。2 時間。 | |
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）50% 実習への取り組み・作品の完成度（関心・意欲、技能）30% 模擬授業への取り組み・討議への参加態度（関心・意欲・態度）20% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 評価できる点や改善点を、口頭又は文書で指導する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 小学校家庭科教科書 「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省 | | | |
| メッセージなど | 小学校家庭科は、誰の実生活にも役立つ基本を学びます。 小学校教諭二種免許：選択必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-----------------------|-----------------------------|------|
| (1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 不足している部分はあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 | 30% |
| (2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 | 実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を十分に身に付けている。 | 実習に参加し、基礎的な知識・技能を身に付けている。 | 基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品制作には個別指導が必要である。 | 基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。 | 定期試験 | 20% |
| | | | | | 実習態度・作品の完成度 | 30% |
| (3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。 | 模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議で改善点を提案できる。 | 模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議に参加できる。 | 模擬授業の指導案を書くことはできるが、改善点への意欲が不足している。 | 模擬授業の指導案を書くことができない。 | 模擬授業への取り組み・協議への参加（関心・意欲・態度） | 20% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|--|--|-------------------|--------------------|-----------|-----------|-------|
| 外国語 Foreign Language (English) | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1017 | 1年次 | 通年 | |
| 講義・演習・ 実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 必修 | 大野厚子 他 | オムニバ ス | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | ○ | |
| 2 | 各教科・道德等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | ○ | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | ○ | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | 教科に関する専門的事項 | | | | |
| <p>〇コアカリキュラム：外国語に関する専門的事項【1単位程度を想定】</p> <p>全体目標：小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。</p> <p>1. 授業実践に必要な英語力と知識</p> <p>1－（1）授業実践に必要な英語力</p> <p>一般目標：小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場を意識しながら身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。 2) 授業実践に必要な話す力〔やり取り・発表〕を身に付けている。 3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。 4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。</p> <p>1－（2）英語に関する背景的な知識</p> <p>一般目標：小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。</p> <p>到達目標：1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。 2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。 4) 異文化理解に関する事柄について理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場を意識しながら身に付ける。 1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 授業実践に必要な話す力〔やり取り・発表〕を身に付けている。 | | | | | (1)-2) | |
| 3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。 | | | | | (1)-3) | |
| 4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。 | | | | | (1)-4) | |
| (2) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。 | | | | | (2)-1) | |
| 1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。 | | | | | (2)-2) | |
| 2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 | | | | | (2)-2) | |
| 3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。 | | | | | (2)-3) | |
| 4) 異文化理解に関する事柄について理解している。 | | | | | (2)-4) | |

| 回数 | 外国語 授業内容 【前期】 【大野厚子・他】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----|--|-------------------------|-------------------|---|
| 1 | 小学校における外国語活動・外国語科とはどのような内容か。これまでの歴史的背景も含めて学ぶ。(担当：他) | Unit 1 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3)、4) |
| 2 | 授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力とはどのようなものなのか。またどのように身につけるのか、今後の授業展開と見比べながら知る。(担当：他) | Unit 2 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3)、4) |
| 3 | 英語に関する基本的な事柄(音声、語彙、文構造、文法、正書法)の基本を知る。また、今後の授業内容と照らし合わせながら、どの内容がどの学習内容に対応するのかの説明を聞き本講義を通じて基本的な事柄をどのように身につけるかイメージできるようにする。(担当：他) | Unit 3 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (2) : (1) 2) |
| 4 | 第二言語習得理論に触れながら、第二言語の発達を学び、コミュニケーション(やりとりによる学習)の大切さを知る。(担当：他) | Unit 4 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (2) : 2) |
| 5 | 学校生活、教科、時間割について聞いたり言ったりできるように練習する。活字体の小文字を認識し読む練習する。(担当：他) | Unit 5 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |
| 6 | 学校生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉えていたり時間割について伝え合ったりする練習をする。ペアやグループで時間割について聞き合ったりするなかで音声・語彙を学ぶ。(担当：大野) | Unit 6 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |
| 7 | 英語での一日の生活を書くことで文構造・文法、正書のルールを学ぶ。(担当：大野) | Unit 7 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |
| 8 | 一日の生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を書き取る練習を通じて文構造・文法を学ぶ。(担当：大野) | Unit 8 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |
| 9 | 自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また、文字には音があることを気付く。(担当：大野) | Unit 9 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |
| 10 | 自分や第三者について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝え合う練習をする。ペアやグループで、お互いにできることやできないことを紹介しあう。(担当：大野) | Unit 10 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 4) |
| 11 | 諸外国の絵本、児童書に触れることから異文化での文学について知る。(担当：大野) | Unit 11 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (2) : 3) 4) |
| 12 | 行きたい国や地域について理解も含めて伝え合う練習をする。ペアやグループで行きたい国や地域について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりする練習をする。それぞれの国の文化・習慣など異文化の理解を深める。(担当：大野) | Unit 12 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) 4)、(2) : 1) 2) 3) 4) |
| 13 | 言語・非言語的コミュニケーションの視点から異文化理解に努める。(担当：大野) | Unit 13 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (2) : 2) 4) |
| 14 | 家族の呼称や、丁寧に注文や値段を尋ね、答える表現を聞いたり言ったりする練習をする。簡単な語句を書き写す練習をする。ペアやグループで丁寧に注文を尋ねたり答えたりする練習をする。(担当：大野) | Unit 14 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) 4) (2) : (1) 2) |
| 15 | 得意なことについて聞いたり言ったりする練習をする。簡単な語句や表現を書き写す練習をする。ペアやグループで自分があこがれたり尊敬したりする人について紹介しあう練習をする。(担当：大野) | Unit 15 を読んでくる。 1 時間 | 文法や表現を復習する。1 時間 | (1) : (1) 2) 3) (2) : (1) 2) |

| 回数 | 外国語 授業内容 【後期】【大野厚子・他】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|------------|---|--|-------------------|-------------------------------------|
| 16 | 自己紹介に関する表現や好きなこと、できること等を聞いたり言ったりする練習をする。自己紹介で自分の好きな事やできることなどについて伝え合う練習をする。(担当:大野) | Unit 1 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 17 | 日本の行事や食べ物などについて、聞いたりする練習をする。(担当:大野) | Unit 2 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4)、(2): 1) 2) 4) |
| 18 | 日本の行事や食べ物や、自分が好きな日本文化について伝え合ったり、例を参考に語順を意識しながら書いたりする練習をする。ペアやグループで日本文化について伝え合う練習をする。(担当:大野) | Unit 3 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4)、(2): 1) 2) 4) |
| 19 | 「主語+動詞+目的語」の文の語順に気付き、自分や第三者について聞いたりすることができる。(担当:大野) | Unit 4 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 20 | 語順を意識して、自分や人を紹介し、例を参考に紹介する文を書く。ペアやグループで第三者について伝え合う。(担当:大野) | Unit 5 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 21 | 地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか。さらに地域の良さなどを聞いたり言ったりすることができるように練習する。(担当:大野) | Unit 6 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 22 | 地域の良さや課題などを自分の考えや気持ちを伝え、それらについて例を参考に語順を意識しながら書く練習をする。ペアやグループで地域の良さなどについて伝え合おうと練習する。(担当:大野) | Unit 7 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 23 | 夏休みに行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などを聞いたり言ったりする練習をする。(担当:大野) | Unit 8 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 24 | 夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを伝え合う練習をする。例を参考に語順を意識しながら書いたりする練習をする。ペアやグループで夏休みの思い出について伝えあう。(担当:大野) | Unit 9 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) |
| 25 | 国名や競技名等について、聞いたり読んだりする練習する。(担当:大野) | Unit 10 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) 4) |
| 26 | オリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて伝え合う練習をする。ペアやグループでオリンピック・パラリンピックで見たい競技とその理由などについて伝え合う練習をする。(担当:大野) | Unit 11 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) (2):1) 2) 4) |
| 27 | 学校行事について、聞いたり言ったりすることを練習する。また諸外国での学校行事について知り異文化理解を深める。(担当:大野) | Unit 12 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1)、2)、3)、4) (2):1)、2) |
| 28 | 授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力がどの程度身についたか習熟度を確認するとともに今後の自己学習の課題を見いだす。(担当:他) | Unit 13 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3) 4) |
| 29 | 英語に関する基本的な事柄(音声、語彙、文構造、文法、正書法)がどの程度身についたか習熟度を確認するとともに今後の自己学習の課題を見いだす。(担当:他) | Unit 14 を読んでくる。 1時間 Unit を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (2):1) |
| 30 | 中学校の部活動や学校行事などについて、聞いたり言ったりする練習をする。中学校生活について書かれている英語を推測しながら読む。また中学校の英語にどのように移行していくかについて知る。(担当:大野) | Unit 15 を読んでくる。 1時間 | 文法や表現を復習する。1時間 | (1):1) 2) 3)、 (2):1) 2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価 方法 | レポート(関心・意欲・態度)20%、定期試験(知識・理解)80% | | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 一人一人確認する。 |
| テキストおよび参考文献 | New Horizon Elementary（文部科学省：新学習指導要領対応、小学校外国語教材） |
| メッセージなど | 外国語の授業を通して、英語を学ぶだけではなく、世界にはいろいろな文化や価値観があるという、異文化に対する興味や敬意を醸成する。 小学校教諭二種免許状：必修 |

ループリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---------------|------------------------|-----------------------------|-----------|-------------|------|
| (1)-1 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。 | ほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。 | 身に付けていない。 | 定期試験（知識・理解） | 10% |
| (1)-2 授業実践に必要な話す力[やり取り・発表]を身に付けている。 | ほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。 | 身に付けていない。 | 定期試験（知識・理解） | 20% |
| (1)-3 授業実践に必要な読む力を身に付けている。 | ほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、読む力を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。 | 身に付けていない。 | 定期試験（知識・理解） | 20% |
| (1)-4 授業実践に必要な書く力を身に付けている。 | ほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、書く力を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。 | 身に付けていない。 | 定期試験（知識・理解） | 20% |
| (2)-1 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 定期試験（知識・理解） | 10% |
| (2)-2 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 課題レポート | 5% |
| (2)-3 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 課題レポート | 5% |
| (2)-4 異文化理解に関する事柄について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 課題レポート | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------|---|------------------------------|-------------------------|----------------------------|------------------|
| 特別講義 Special Lecture | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPSL1001 | 1年次 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福屋 いずみ・村上 芳明 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 子どもと一緒に楽しむ活動を企画し、親子とコミュニケーションをとることを通して、教育者として必要なコミュニケーション能力を養う。また、チームで活動し地域と連携することで、協働性を身に付けていく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 他者と協力して、ボランティア活動に積極的に取り組み、社会に貢献することができる。 (2) 活動の内容を企画・運営し、実践に向けて計画的に進めることができる。 (3) ボランティア活動の省察を行い、自分の意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 福屋・村上 | — | ボランティア活動の心構えをまとめる。2時間 | |
| | 2 | ボランティア活動の計画 福屋 | ボランティア活動の計画を考えてまとめる。2時間 | 活動の内容を決定し、必要な物を準備する。2時間 | |
| | 3 | 5月の活動の企画・準備 福屋 | 5月の活動に必要な物を準備する。2時間 | 活動の計画書を作成する。2時間 | |
| | 4 | 5月の活動を共有する 村上 | 共有に向けて必要な試作品等を完成させる。2時間 | 修正案を受け、5月の活動に必要な物を準備する。2時間 | |
| | 5 | 5月の実践①午前の部 福屋 | 5月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午前の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| | 6 | 5月の実践②午後の部 村上 | 5月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午後の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| | 7 | 5月の活動の振り返り 6月の活動の企画・準備 福屋 | 6月の活動に必要な物を準備する。2時間 | 活動の計画書を作成する。2時間 | |
| | 8 | 6月の活動を共有する 村上 | 共有に向けて必要な試作品等を完成させる。2時間 | 修正案を受け、6月の活動に必要な物を準備する。2時間 | |
| | 9 | 6月の実践①午前の部 福屋 | 6月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午前の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| | 10 | 6月の実践②午後の部 村上 | 6月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午後の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| | 11 | 6月の活動の振り返り 7月の活動の企画・準備 福屋 | 7月の活動に必要な物を準備する。2時間 | 活動の計画書を作成する。2時間 | |
| | 12 | 7月の活動を共有する 村上 | 共有に向けて必要な試作品等を完成させる。2時間 | 修正案を受け、7月の活動に必要な物を準備する。2時間 | |
| | 13 | 7月の実践①午前の部 福屋 | 7月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午前の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| | 14 | 7月の実践②午後の部 村上 | 7月の活動に必要な物を完成させる。2時間 | 午後の部の振り返りをまとめる。2時間 | |
| 15 | 3回の実践の振り返り 福屋・村上 | これまでの活動内容をまとめる。2時間 | レポートを作成し提出する。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 実践（関心・意欲・態度）50%、 授業の取り組み、計画書（知識・理解、思考力・判断力・表現力）30%、 レポート（思考力・判断力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 計画書や振り返りレポートは、コメントを書いて返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | プリントを配布する。 |
| メッセージ など | 5月～7月の第3日曜日に、子どもや保護者とのイベントを企画、実践を行います。興味がある人はぜひ受講してください。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------------------|--|---------------------------|-----------------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 他者と協力して、ボランティア活動に積極的に取り組み、社会に貢献することができる。 | 他者と協力して積極的にボランティア活動に取り組んでいる。 | 指導や助言を受けながらボランティア活動に取り組んでいる。 | 最低限、ボランティア活動に取り組んでいる。 | ボランティア活動に取り組めていない。 | 実践 (関心・意欲・態度) | 50% |
| (2) 活動の内容を企画・運営し、実践に向けて計画的に進めることができる。 | 活動の内容を自ら設定し、それに向けて計画的に準備を進めることができる。 | 指導や助言を受けながら活動の内容を設定し、それに向けて計画的に準備を進めることができる。 | 最低限、実施できる程度の計画や準備ができています。 | 計画や準備が不十分である。 | 授業の取り組み、計画書 (知識・理解、判断力・表現力) | 30% |
| (3) ボランティア活動の省察を行い、自分の意見を述べるができる。 | 活動の内容について自分の言葉で振り返りをまとめることができる。 | 活動の内容について指導や助言を受けながら振り返りをまとめることができる。 | 活動の内容について最低限の振り返りができる。 | 活動の内容について振り返ることができない。 | レポート (思考力・判断力・表現力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------------|--|-------------------|-------------------|-----|------------------|
| 卒業研究 Graduation Research | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPGR2001 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 隅野 努・村上 芳明・福屋 いずみ | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけ出す。その成果を卒業研究・保育総合研究発表会で、展示もしくは舞台上で発表する。最後に、報告集にまとめる。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 令和元年度は、下記のようなテーマで研究が行われた ① GISを活用した社会科授業の一考察 ② マット運動の指導法について 一連続技の楽しさを味わえる授業づくりの検討― ③ 防府とつながりのある菅原道真について ④ 意味理解を意識した個別支援の提案 一実際の子どもの観察して― ⑤ 吉田松陰について ⑥ 日本と韓国の小学校教科書比較により問題を探る ⑦ 図画工作の研究 一粘土を用いてのアクセサリーの作成― ⑧ 総合的な学習の時間の研究 一タイダイ染めからみる国際文化― ⑨ 伝わる授業づくり ⑩ 漢字の由来と音読み・訓読み ⑪ 非認知的(社会情緒的)能力の発達の理解 一児童への支援のあり方を求めて― ⑫ 指導案の書き方を整理する ⑬ なぜ僕は授業がうまくいかなかったのか 一4年算数科「小数」の授業からの自己理解― ⑭ 視覚情報を活用した授業づくり 一3年算数科「何倍でしょう」の授業から― ⑮ 走るこって楽しいんだ 一ペーシングの授業づくりの検討― ⑯ 作文指導について ⑰ 誰もがわかる授業づくりをめざして 一ユニバーサルデザインの視点から― ⑱ 「執行者」 一アクリル画による心象風景の表現― | | | | |
| 成績評価 | 研究計画(知識・理解・技能・判断力)20%、 研究活動(関心・意欲・態度・知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力)50%、 発表(表現力)10%、 報告集原稿(思考力・表現力)20% | | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 研究活動の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや発表は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 必要に応じて自分自身で選択、購入すること | | | | |
| メッセージなど | 2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。 | | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---|------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 | 何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。 | テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。 | テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。 | テーマが設定できず、研究計画書の提出がない。 | レポート (知識・理解・技能・判断力) | 20% |
| (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 | 意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。 | ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。 | 研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていく力に欠けるところがある。 | 研究活動に取り組む姿勢がみられない。 | 活動への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力) | 50% |
| (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 | 研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。 | ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。 | わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。 | 研究の成果を発表会で発表していない。 | 発表会での発表(表現力) | 10% |
| (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。 | 研究の成果を適切に文章にまとめることができる。 | 書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。 | 誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。 | 報告集原稿提出なし。 | 報告集原稿の作成 (思考力・表現) | 20% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------------------------------------|--------------------|------------|------|------------------|
| 現代教師論 Teaching Modern Teachers | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE1001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 馬庭清志 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）</p> <p>全体目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>(1) 教職の意義 一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 到達目標：1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教員の役割 一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 到達目標：1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員の職務内容 一般目標：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 2) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 3) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) チーム学校への対応 一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 到達目標：1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を認識するとともに、その担い手としての教職の意義・役割・職務内容、教育をとりまく現況や今日的課題などを明確に理解することを通して、教員に求められる基礎的な資質能力を身に付け、教職をめざす者としての確固たる覚悟を培う。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 教職の意義・教員の身分 一般目標：国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を理解する。 到達目標：1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。 | | | | | | (1)-1) (2)-1) |
| 到達目標：2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。 | | | | | | (1)-2)、(3)-3) |
| (2) 教員の役割・職務内容 一般目標：教職の職業的特殊性を認識し、これからの学校組織の在り方としての「チーム学校」の概念や組織の一員として各専門分野の人々と連携して諸課題に対応することの必要性について理解する。 到達目標：1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。 | | | | | | (1)-2) (3)-1) |
| 到達目標：2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。 | | | | | | (2)-1)、(4)-1) |
| (3) 教員の資質・能力 一般目標：学校教育の成否は、教員の資質能力に負うところが大きく、これからの時代に求められる学校教育を実現するためには、生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。 到達目標：1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。 | | | | | | (3)-2) |
| 到達目標：2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べるができる。 | | | | | | (2)-2) |
| 到達目標：3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べるができる。 | | | | | | (2)-1)、(4)-1) |

| 回数 | 現在教師論 授業内容 【馬庭清志】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|---|---------------------------------|----------------|
| 1 | オリエンテーション —現代教師論でなにを学ぶか— | シラバスを通して、現代教師論での学びのイメージを持つ。1時間 | | 1-1) |
| 2 | 教員の身分① —法的な身分、資格、免許状・免許更新制— | テキスト3ページから13ページまで読む。1時間 | 法令問題等のプリントで復習する。1時間 | 1-2) |
| 3 | 目指す教師像① —子どもたちにどう向き合うか— | テキスト26ページから34ページまで読む。1時間 | 子どもに向き合うために自分に足りないものは何かまとめる。1時間 | 3-2) |
| 4 | 目指す教師像② —演習「わたしの出会った先生」— | テキスト18ページ「好きだった先生・嫌いだった先生」について考えをまとめてくる。1時間 | | 3-2) |
| 5 | 目指す教師像③ —求められる教師像・教師力— | 採用試験を受ける県の「求める教師像」を調べる。1時間 | 「求める教師像」に近づくための戦略を整理する。1時間 | 3-2) |
| 6 | 目指す教師像④ —教師観の確立のために— | テキスト165ページから180ページまで読む。1時間 | どのような教師を目指すか、考えを整理する。2時間 | 3-2) |
| 7 | 教師の職務① —勤務実態と教職の特殊性、教員の多忙— | 「1日の教師の仕事」について想像し、メモしてくる。1時間 | 教師の多忙感について考えをまとめる。1時間 | 2-1) |
| 8 | 教師の職務② —「チーム学校」の一員・組織における役割— | テキスト141ページから159ページまで読む。1時間 | 「チーム学校」について考えをまとめる。1時間 | 2-2) |
| 9 | 教育をとりまく現状と課題① —不易の課題と流行の課題— | 教育をとりまく問題について考え、メモしてくる。1時間 | 教育をとりまく多くの問題について分類し整理する。2時間 | 3-3) |
| 10 | 教育をとりまく現状と課題② —演習「課題に対応する力」1— | テキスト185ページから218ページまで読む。2時間 | 自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。2時間 | 3-3) |
| 11 | 教育をとりまく現状と課題③ —演習「課題に対応する力」2— | 自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。2時間 | 課題への対応について、書物やインターネット等で調べる。2時間 | 3-3) |
| 12 | 教育をとりまく現状と課題④ —演習「課題に対応する力」3— | よりよい発表ができるように準備する。2時間 | 発表会を通して不足の部分や良さを整理する。2時間 | 3-3) |
| 13 | 教員の身分② —教員の任免— | | 法令問題等のプリントで復習する。1時間 | 3-1) |
| 14 | 教員の身分③ —研修・サービス— | テキスト91ページから105ページまで読む。1時間 | 法令問題等のプリントで復習する。1時間 | 3-1) |
| 15 | まとめ —教師をめざして— | 現代教師論を終えるにあたって、今思うことを書いてくる。 | 自己評価をもとに、今後の在り方について、考えをまとめる。2時間 | 1-1) 3-1) 3-2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験(知識・理解):30%、授業への取り組み(意欲・関心・態度)30%、演習・プレゼンテーション・レポート(思考力・判断力・表現力)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:『現代の教師論 ミネルバ書房 佐久間重紀・佐伯胖(編書)』 資料プリントはその都度配布 | | | |
| メッセージなど | 「教師とはなにか」という原点に立ち、教職を目指す上での皆さん自身の課題の解明を中心に、「主体的で、対話的な、深い学び」を通して、自分の中にめざす教師像を創りあげてほしいと願っています。 小学校教諭二種免許状:必修 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------------|---------------------------|---|----------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 10% |
| (1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 15% |
| (2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 10% |
| (2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。 | ほぼ完璧にイメージできる。 | 認識に大きな間違いがなく、具体的にイメージできる。 | 認識の間違いはいくつかあるが、イメージできる。 | イメージができていない。 | 課題レポート（関心・意欲・態度・思考力・表現力） | 10% |
| (3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 15% |
| (3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。 | ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 大きな論理的問題もなく、自分の考えを述べている。 | 認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。 | ほぼ完璧に述べることができる。 | 大きな間違いがなく、具体的に述べることができる。 | 間違いはいくつかあるが、具体的に述べるができる。 | 具体的に述べるできていない。 | 課題レポート（関心・意欲・思考力・表現力） | 20% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---|------------|------|-------|
| 学校教育の制度と経営 School Education System and School Management | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE2002 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | | | |
| <p>○コアカリキュラム:教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)</p> <p>全体目標:現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p> <p><u>* (1-1), (1-2), (1-3)はいずれかを習得し、そこに記載されている一般目標と到達目標に沿ってシラバスを編成する。なお、この3つのうち、2つ以上を含んでシラバスを編成する場合は、それぞれの1)から3)までを含むこと。</u></p> <p>(1-1) 教育に関する社会的事項 一般目標:社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 到達目標:1) 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 2) 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 3) 近年の教育政策の動向を理解している。 4) 諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。</p> <p>(1-2) 教育に関する制度的事項 一般目標:現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 到達目標:1) 公教育の原理及び理念を理解している。 2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。</p> <p>(1-3) 教育に関する経営的事項 一般目標:学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 到達目標:1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 4) 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。</p> <p>(2) 学校と地域との連携 一般目標:学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 到達目標:1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。</p> <p>(3) 学校安全への対応 一般目標:学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 到達目標:1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。</p> | | | | | | |

| 【全体目標及び概要】 | | | | |
|--|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|-----------------------|
| <p>中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 教育に関する社会的・制度的・経営的な基礎知識および概念を習得した上で安全・安心をベースにした学校の運営のあり方について検討する。また、学校教育の社会的側面に注視し「地域社会の中での学校」「開かれた学校」について実例も含め学ぶ。この前提として、このような教育に関する社会的・制度的・経営的な基礎知識を身につけた上で現代的な課題を遂行できる教師としての資質・能力を養うことを目的とする。</p> | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | コア目標対応 |
| (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 1) 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 | | | | (1-1)-1) |
| 2) 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 | | | | (1-1)-2) |
| 3) 近年の教育政策の動向を理解している。 | | | | (1-1)-3) |
| (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 | | | | (1-3)-1) |
| 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 | | | | (1-3)-2) |
| 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 | | | | (1-3)-3) |
| (2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 | | | | (2)-1) |
| 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 | | | | (2)-2) |
| (3) 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 | | | | (3)-1) |
| 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 | | | | (3)-2) |
| 回数 | 学校教育の制度と経営 授業内容 【隅野 努】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
| 1 | 社会の状況が学校に及ぼす影響 | 少子高齢化、情報化、グローバル化、環境問題などの資料を読む。2時間。 | 社会の変化が学校に及ぼしている影響についてまとめる。2時間。 | (1-1)-1)、2)、3) |
| 2 | 子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向 | 子どもの生活環境の現状についての資料を読む。2時間。 | 今の教育政策の動向についてまとめる。2時間。 | (1-1)-1)、2)、3) |
| 3 | 日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策 | 日本の学校制度について、資料を読む。2時間。 | 日本の学校制度の課題についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1) |
| 4 | 教育行政と教育関連法規 | 教育基本法、学校教育法などを読む。2時間。 | 教育関連諸法規についてまとめる。2時間。 | (1-2)-2) |
| 5 | 学校組織のマネジメント、学校評価とはー学校評価ガイドラインを基にー | カリキュラム・マネジメントの資料を読む。2時間。 | 学校評価と学校改善についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1)、2) |
| 6 | 学級経営の基本・学級経営のあり方と課題 | 学級経営のねらいについて、資料を読む。2時間。 | 学校経営の効果的な方法についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1)、3) |
| 7 | 教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題ーよりよい学校経営を目指してー | 学校内外の人的、物的資源の活用について、資料を読む。2時間。 | これからの学校経営についてまとめる。2時間。 | (1-2)-3) (2)-1)、2) |
| 8 | 地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正 | 改正された社会教育法を読む。2時間。 | 地域と学校が協働して成果を上げる取組についてまとめる。2時間。 | (1-1)-3) (2)-1)2) |
| 9 | 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール | 学校と地域との連携の意義について、資料を読む。2時間。 | 地域との連携・協働による学校教育活動についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) |

| 回数 | 学校教育の制度と経営 授業内容 【隅野 努】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|---------------------------------|-----------------------------------|------------------------|
| 10 | コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の理念・役割 | コミュニティ・スクールについて、資料を読む。2時間。 | コミュニティ・スクールの役割についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) |
| 11 | 学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標 | 学校における安全教育の資料を読む。2時間。 | 子どもを取り巻く危険と安全教育についてまとめる。2時間。 | (3)-1) |
| 12 | 地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例 | 地域との連携による子どもの安全体制について資料を読む。2時間。 | 地域ぐるみの学校安全体制の事例をまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) (3)-1)、2) |
| 13 | 学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定 | 学校保健安全法を読む。2時間。 | 学校安全計画や危機管理マニュアルについて、まとめる。2時間。 | (1-1)-3) (3)-1)、2) |
| 14 | 危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに | 危機管理と安全教育の取り組み事例を読む。2時間。 | 教育委員会とスクールカウンセラーが協働した事例をまとめる。2時間。 | (1-2)-3) (3)-1)、2) |
| 15 | 「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応 | 地域安全マップについて実践事例を読む。2時間。 | 学校安全を確保するための地域との連携についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) (3)-1)、2) |
| 定期試験 | 定期試験を実施する。 | | | |
| 成績評価方法 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)60%、定期試験(知識・理解)20% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に資料を配付する。 | | | |
| メッセージなど | 今日、学校教育は急激に変化している。常に、新しい情報を入手しようと努力すること。 小学校教諭二種免許状：必修 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1-1)-1) 学校を巡る近年の様々な状況の変化を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1-1)-2) 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (1-1)-3) 近年の教育政策の動向を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | レポート(思考力・判断力) | 10% |
| (1-2)-1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験(知識・理解) | 10% |
| (1-2)-2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 15% |
| (1-2)-3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) | 10% |
| (2)-1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (2)-2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) | 10% |
| (3)-1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (3)-2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---|------------|------|------------------|
| 教育原論 Principles of Education | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE1003 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的、制度的、経営的事項 | | | |
| ○コアカリキュラム：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | | | | | |
| 全体目標：教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。 | | | | | | |
| (1) 教育の基本的概念 | | | | | | |
| 一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 | | | | | | |
| 2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 | | | | | | |
| (2) 教育に関する歴史 | | | | | | |
| 一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。 | | | | | | |
| 2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。 | | | | | | |
| 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 | | | | | | |
| (3) 教育に関する思想 | | | | | | |
| 一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 | | | | | | |
| 2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 | | | | | | |
| 3) 代表的な教育家の思想を理解している。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 教育の基本的概念は何か。また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかを理解する。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| (1) 教育について、哲学的・歴史的にとらえ基本的な内容を理解している。 | | | | | | |
| 1) 教育原論とは何かが説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 2) カントの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。 | | | | | | (3)-3) |
| 3) 現代の学校制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。 | | | | | | (3)-2) |
| 4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。 | | | | | | (3)-3) |
| (2) 日本の教育について、歴史・法律・制度・指導法・評価から多角的にとらえ理解している。 | | | | | | |
| 1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。 | | | | | | (2)-1)、(3)-1) |
| 2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校制度や教育基本法の条文から説明できる。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 学校経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。 | | | | | | (3)-2) |
| 4) 生徒指導や学習指導について、その概要や考え方の基本を説明できる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 6) 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。 | | | | | | (2)-1)、(3)-1)、2) |
| (3) 学校を取り巻く今日的な教育課題について、自分の考えや意見を述べることができる。 | | | | | | |
| 1) 日本とドイツの学校制度を比較し、自分の考えを述べることができる。 | | | | | | (1)-2) |

| 2) 学級担任として、よりよい学級づくりへの意見を述べることができる。 | | (1)-2)、(3)-2) | | |
|--|--|----------------------------|---|---------------|
| 3) 絶対評価と相対評価を比較し、自分の考えを述べるができる。 | | (2)-3) | | |
| 4) 保護者として、よりよい家庭教育のあり方について自分の意見を述べるができる。 | | (1)-2)、(3)-1)、2) | | |
| 回数 | 教育原論 授業内容 【隅野 努】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
| 1 | オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。 | 「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。2時間。 | 教育原論の概要について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-1) |
| 2 | カントや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。 | 「教育とは何か」の資料を読む。2時間。 | カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。2時間。 | (1)-2) |
| 3 | 古代から現代までの教育の歴史を「学校はどのようにしてできたのか」の視点で探ることで理解する。 | 教育の歴史(欧米)の資料を読む。2時間。 | 欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-3) |
| 4 | ソクラテスからデューイまで「教育の先人たちの」概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。 | 教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。2時間。 | 教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 5 | 古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。 | 日本の教育の歴史の資料を読む。2時間。 | 日本の教育の歴史の概要をまとめる。2時間。 | (2)-1) |
| 6 | 日本の学校教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。 | 学校教育と法規の資料を読む。2時間。 | 学校教育に関する諸法規についてまとめる。2時間。 | (2)-2) |
| 7 | 学校制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校の間接関係を理解する。 | 学校制度と教育行政の資料を読む。2時間。 | 学校制度のあり方について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-2)、(3)-1) |
| 8 | 学校の責任者としての校長の視点を通して、学校経営の仕組みや学校運営のあり方について理解する。 | 学校経営の資料を読む。2時間。 | 学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-3) |
| 9 | 学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。 | 学級経営の資料を読む。2時間。 | いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。2時間。 | (2)-3)、(3)-2) |
| 10 | グループ学習での成果を発表し合うことで、担任としてもつべき「学級経営の基本的な構えと手立て」について理解する。 | 子どもの学級力の育成の資料を読む。2時間。 | 学級経営の基本についてまとめる。2時間。 | (2)-3)、(3)-2) |
| 11 | 生徒指導の原理と方法について生徒指導提要求をもとに学び、「生徒指導とは何か」について理解する。 | 生徒指導提要求を読む。2時間。 | 生徒指導とは何かについてまとめる。2時間。 | (2)-4) |
| 12 | 学習指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。 | 授業研究の資料を読む。2時間。 | 授業づくりの基本について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-4) |
| 13 | 教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやPDCAの意味について理解する。 | 教育評価の資料を読む。2時間。 | 教育評価の基本についてまとめる。2時間。 | (2)-5)、(3)-3) |
| 14 | 教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。 | 家庭教育のあり方の資料を読む。2時間。 | 家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。2時間。 | (2)-6)、(3)-4) |
| 15 | 社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。 | 社会教育の資料を読む。2時間。 | 社会教育についての基本をまとめる。2時間。 | (2)-6) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み(関心・意欲・態度)50% 定期試験(知識・理解、思考力・判断力・表現力)50% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献:『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』東洋館出版 | | | |
| メッセージ | 教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 小学校教諭二種免許状:必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|---|------|
| (1)-1) 教育原論とは何かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (1)-2) カントの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 現代の学校制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校制度や教育基本法の条文から説明でき。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-3) 学校経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (2)-4) 生徒指導や学習指導について、その概要や考え方の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|------------------------|------------|---------------|-------|
| 教育心理学 Educational Psychology | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE1004 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 福屋いずみ | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | | |
| ○コアカリキュラム：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | | | | | |
| 全体目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 | | | | | | |
| (1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程 | | | | | | |
| 一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程及び特徴を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 | | | | | | |
| 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 | | | | | | |
| (2) 幼児、児童及び生徒の学習過程 | | | | | | |
| 一般目標：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 | | | | | | |
| 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 | | | | | | |
| 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 | | | | | | |
| 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 学習・記憶・発達など教育に関連する基本的な内容を学習する。 学校内の様々事象・問題を心理学的視点から考える。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。 1) 児童期の発達特徴と課題を説明できる | | | | | (1)-1)、2) | |
| 2) 記憶のメカニズムについて説明できる | | | | | (1)-2) | |
| 3) 学習理論について説明できる | | | | | (1)-2) | |
| (2) 教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。 1) 学習法の特徴を説明できる | | | | | (2)-1) | |
| 2) 学習法の長短を把握し、授業での応用方法を理解する | | | | | (2)-1)、2) | |
| 3) 教育評価の方法を把握し、実践する力を見につける | | | | | (2)-2) | |
| 4) 教育に関連する基本的な統計の手法を習得する | | | | | (2)-3) | |
| (3) 現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる 1) 不登校・いじめの現状と課題について説明できる | | | | | (1)-2)、(2)-2) | |
| 2) チーム学校の趣旨を理解し、他専門家との連携を理解する | | | | | (1)-2)、(2)-2) | |
| 3) 児童の心理的サポートの方法について説明できる | | | | | (2)-3) | |

| 回数 | 教育心理学 授業内容 【福屋いずみ】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|-------------------|-------------------|-----------------------|
| 1 | 教育心理学とは何か概要を知る | — | 配布資料の内容をまとめる。2時間 | (1)－1 |
| 2 | 教育心理学の歴史を理解する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－1、(1)－3 |
| 3 | 学習理論について理解する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－1、 (1)－3 |
| 4 | 動機づけの種類と重要性を理解する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－3 |
| 5 | 教育と発達（レディネス）について理解する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－3 |
| 6 | 学習方法について学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)－1、(2)－2、 (1)－3 |
| 7 | 記憶のメカニズムについて学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－1、(1)－2 |
| 8 | 教師・児童関係の重要性を理解する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)－2、(3)－3 |
| 9 | 学童期の発達特徴と課題を学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)－1、(3)－3 |
| 10 | 児童の評価方法を学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)－3、(2)－4 |
| 11 | 基本的な統計法を学び評価を実践する | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)－3、(2)－4 |
| 12 | 教育現場でのカウンセリング的かわりについて学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)－1、(3)－2 |
| 13 | 学校で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)－1、(3)－2 |
| 14 | 学校で起こる様々な問題（非行・その他）について学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)－1、(3)－2 |
| 15 | 特別な支援が必要な児童への対応を学ぶ | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)－2、(3)－3 |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・講義中の発表（関心・意欲・態度・表現力）50% 筆記試験（知識・理解・思考力・判断力）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎時の課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づき結果を示す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）東洋館出版 『教育心理学』山口短期大学 | | | |
| メッセージなど | 教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---------------------------------|--|---|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|------|
| (1)-1) 児童期の発達特徴と課題を説明できる | 児童期の発達の特徴と課題を十分に説明することができる。 | 児童期の発達の特徴と課題を概ね説明することができる。 | 児童期の発達の特徴と課題について最低限の説明ができる。 | 児童期の発達の特徴と課題を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見を持ち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (1)-2) 記憶のメカニズムについて説明できる | 記憶のメカニズムを十分に説明することができる。 | 記憶のメカニズムを概ね説明することができる。 | 記憶のメカニズムについて最低限の説明ができる。 | 記憶のメカニズムを説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見を持ち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (1)-3) 学習理論について説明できる | 学習理論を十分に説明することができる。 | 学習理論を概ね説明することができる。 | 学習理論について最低限の説明ができる。 | 学習理論を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見を持ち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (2)-1) 学習法の特徴を説明できる | 学習法の特徴を十分に説明することができる。 | 学習法の特徴を概ね説明することができる。 | 学習法の特徴について最低限の説明ができる。 | 学習法の特徴を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見を持ち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (2)-2) 学習法の長短を把握し、授業での応用方法を理解する | 学習法の長短を十分に理解し、授業での応用の方法を心理学的に説明することができる。 | 学習法の長短を概ね理解し、授業での応用の方法を心理学的に説明することができる。 | 学習法の長短を概ね理解し、授業での応用の方法を説明することができる。 | 学習法の長短を把握できず、授業での応用の方法を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見を持ち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|-----------------------------------|--|--|--|--|------------------------------|------|
| (2)-3) 教育評価の方法を把握し、実践する力を見につける | 教育評価の方法を十分に把握し、評価することができる。 | 教育評価の方法を概ね把握し、評価することができる。 | 教育評価の方法に最低限必要な知識を有し、評価することができる。 | 教育評価の方法を理解できず、評価することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (2)-4) 教育に関連する基本的な統計の手法を習得する | 教育に関連する基本的な統計の手法を十分に理解し、使うことができる。 | 教育に関連する基本的な統計の手法を概ね理解し、使うことができる。 | 教育に関連する基本的な統計の手法に最低限必要な知識を有し、使うことができる。 | 教育に関連する基本的な統計の手法を理解できず、使うことができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (3)-1) 不登校・いじめの現状と課題について説明できる | 不登校・いじめの現状と課題について十分に説明することができる。 | 不登校・いじめの現状と課題について概ね説明することができる。 | 不登校・いじめの現状と課題について最低限の説明ができる。 | 不登校・いじめの現状と課題について説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (3)-2) チーム学校の趣旨を理解し、他専門家との連携の理解する | チーム学校の趣旨を十分に理解し、他専門家との連携を想定した教育について理解することができる。 | チーム学校の趣旨を概ね理解し、他専門家との連携を想定した教育についても概ね理解することができる。 | チーム学校について最低限の趣旨を理解し、他専門家との連携を想定した教育について概ね理解することができる。 | チーム学校の趣旨を理解できず、他専門家との連携を想定した教育について理解することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (3)-3) 児童の心理的サポートの方法について説明できる | 児童の心理的サポートの方法について十分に理解し、説明することができる。 | 児童の心理的サポートの方法について概ね理解し、説明することができる。 | 児童の心理的サポートの方法について最低限の知識を有し、説明することができる。 | 児童の心理的サポートの方法について理解できず、説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力) | 5% |
| | また内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。 | また内容について、自分の意見を概ね表現することができる。 | また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。 | また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。 | 毎時の課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------|--|------------------------|-------------------|-------------------|-----|------------------|
| 児童心理学 Child Psychology | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | | 20EPBE1005 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福屋 いずみ | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 児童期における児童の心身の発達、発達課題について学ぶ。発達の連続性、幼児期からの継続、青年期への移り変わりについて理解する。児童の子どもの心の、問題、関わり方の基礎について学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。 1) 児童期の発達特徴と課題を説明できる。 2) 代表的な発達理論を理解する。 3) 幼児期・青年期との接続を理解する。 4) 児童期の心の問題を理解する。 (2) 児童の学習の基本的知識を身につけ発道を踏まえた上での関わりについて学ぶ。 1) 運動・言語・認知、社会性の発達を理解する。 2) 学年での発達の違い、学習の特徴を理解する。 3) 児童期の仲間関係、集団の特徴を理解する。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 児童心理学とは何かその特徴を理解する | - | 本時の内容をまとめる。2時間 | | |
| | 2 | 乳幼児期の発達を理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 3 | 児童の身体的発達について理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 4 | 現代の児童の生活特徴を理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 5 | 児童期の運動機能の発達を理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 6 | 代表的な発達段階と児童期の位置づけを学ぶ | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 7 | 言語・思考の発達について学ぶ | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 8 | 認知の特徴を理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 9 | 自己・自我の発達を理解する | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 10 | 仲間関係と集団行動（遊びの発達）を学ぶ | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 11 | 学校生活と児童の発達の関連を知る | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 12 | 学年ごとの発達の違いを知る（低学年を中心に） | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 13 | 学年ごとの発達の違いを知る（高学年を中心に） | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| | 14 | 青年期への接続について学ぶ | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | |
| 15 | 児童を取り巻く環境の変化と子どもの変化について考える | キーワードから印象を書く。2時間 | テキストの該当箇所を読む。2時間 | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）50%、 発表・課題（思考力・判断力・表現力・関心・意欲）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 課題はコメントを書いて返却する。 定期試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。 |
| テキストおよび 参考文献 | プリントを配布する 坂上 裕子・山口 智子・林 創・中間 玲子（2014）問いからはじめる発達心理学： 生涯にわたる育ちの科学 有斐閣 |
| メッセージ な ど | 児童期の子どもの心身面の発達特徴を知るとともに、生涯における児童期の重要性を眺めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------|---|--|---------------------------------------|---|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 児童期の発達特徴と課題を説明できる | 児童期の発達特徴と課題について十分に説明することができる。 | 児童期の発達特徴と課題について概ね説明することができる。 | 児童期の発達特徴と課題について最低限の説明はできる。 | 児童期の発達特徴と課題について説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 8% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 8% |
| (1)-2) 代表的な発達理論を理解する | 代表的な発達理論を十分に説明することができる。 | 代表的な発達理論を概ね説明することができる。 | 代表的な発達理論について最低限の説明をすることができる。 | 代表的な発達理論を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |
| (1)-3) 幼児期・青年期との接続を理解する | 幼児期・青年期との接続を十分に説明することができる。 | 幼児期・青年期との接続を概ね説明することができる。 | 幼児期・青年期との接続について最低限の説明をすることができる。 | 幼児期・青年期との接続を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べるることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 |
|-----------------------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---|------------------------------|------|
| (1)-4) 児童期の心の問題を理解する | 児童期の心の問題を十分に説明することができる。 | 児童期の心の問題を概ね説明することができる。 | 児童期の心の問題について最低限の説明をすることができる。 | 児童期の心の問題を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |
| (2)-1) 運動・言語・認知、社会性の発達を理解する | 運動・言語・認知、社会性の発達を十分に説明することができる。 | 運動・言語・認知、社会性の発達を概ね説明することができる。 | 運動・言語・認知、社会性の発達について最低限の説明をすることができる。 | 運動・言語・認知、社会性の発達を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |
| (2)-2) 学年での発達の違い、学習の特徴を理解する | 学年での発達の違い、学習時の特徴を十分に説明することができる。 | 学年での発達の違い、学習時の特徴を概ね説明することができる。 | 学年での発達の違い、学習時の特徴について最低限の説明をすることができる。 | 学年での発達の違い、学習時の特徴を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |
| (2)-3) 児童期の仲間関係、集団の特徴を理解する | 児童期の仲間関係、集団の特徴を十分に説明することができる。 | 児童期の仲間関係、集団の特徴を概ね説明することができる。 | 児童期の仲間関係、集団の特徴について最低限の説明をすることができる。 | 児童期の仲間関係、集団の特徴を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 7% |
| | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。 | またこれまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを述べるのが不十分である。 | またこれまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。 | 発表・課題 (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 7% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|-----------------------------------|------------|------|---------------|
| 初等教育課程論 Lecture on Curriculum Theory | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE1006 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 全体目標：学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>(1) 教育課程の意義 一般目標：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法 一般目標：教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 到達目標：1) 教育課程編成の基本原則を理解している。 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 3) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント 一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 教育課程の原理及び教育課程の編成と管理について学び、学校における教育指導計画の価値がわかり、その作成方法について理解する。 小学校教育を法的根拠や学習指導要領からとらえるとともに、教育課程編成をめぐる今日的な教育課題についての認識を深める。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| (1) 教育課程の原理、編成の方法をもとに、教育指導計画の意義を理解する。 | | | | | | |
| 1) 初等教育課程論とは何かが説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2)、3) |
| 2) 教育課程の意義を3つの観点から説明できる。 | | | | | | (1)-1)、(2)-3) |
| 3) 教育課程編成にかかわって、学校教育目標の大切さを説明できる。 | | | | | | (2)-1) |
| 4) 教育課程編成にかかわって、指導内容の組織化の意味を説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| (2) 法令や学習指導要領に基づいて、小学校教育の目標や内容を理解する。 | | | | | | |
| 1) 教育課程にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 戦後の学習指導要領の変遷について、各時代の特色を簡潔に説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 現在の生きる力を育む教育になった理由を、歴史的社会的背景を踏まえて説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 4) 今日的な課題である学力向上・特別支援教育・生徒指導について、その概要を説明できる。 | | | | | | (1)-1)、3) |
| (3) 教育課程をめぐる今日的な課題について、自分の考えや意見を述べることができる。 | | | | | | (2)-2) |
| 1) 学力向上プランについて、自分の考えを述べることができる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 2) 生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べるができる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 3) 実習校の教育指導計画について調べ、発表資料と原稿を作成できる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 4) 各実習校の発表をもとに、互いに適切な質疑応答ができる。 | | | | | | (3)-1)、2) |

| 回数 | 初等教育課程論 【隅野 努】 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------|----------------------|
| 1 | オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「初等教育課程論とは何か」が明確になる。 | 日課表の作成について、学習指導要領総則を読む。2時間。 | 初等教育課程論とは何かについて、内容をまとめる。2時間。 | (1)-1) |
| 2 | 「日課表」の作成をきっかけに、教育課程が総合的な教育計画であることを学び、教育課程の意義を理解する。 | 教育課程の意義について、学習指導要領総則を読む。2時間。 | 教育課程の意義についてまとめる。2時間。 | (1)-2) |
| 3 | 「学校教育目標」の設定のためには、児童の実態把握とその分析が大切であることを調査項目の具体例をもとに理解する。 | 学校教育目標について資料を読む。2時間。 | 学校教育目標の設定について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-3) |
| 4 | 「指導内容の組織化」の観点から教育課程の意義を学ぶとともに、教育課程編成の原則を理解する。 | 教育課程構成の3要素について、資料を読む。2時間。 | 教育課程編成の意義、原則について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 5 | 教育課程に関する法令を調べ、その内容を理解する。 | 教育課程に関する法令を読む。2時間。 | 教育課程に関する法令をまとめる。2時間。 | (2)-1) |
| 6 | 学習指導要領の法的根拠を整理し、戦後の学習指導要領の大まかな変遷を問題解決学習や系統学習の観点から理解する。 | 学習指導要領の法的根拠について、資料を読む。2時間。 | 問題解決学習や系統学習についてまとめる。2時間。 | (2)-2) |
| 7 | 戦前からつながる日本の歴史の中で学習指導要領の変遷を捉え直す。ゆとり教育から生きる力への転換の意味を理解する。 | 学習指導要領の変遷について、資料を読む。2時間。 | 戦後の学習指導要領の変遷についてまとめる。2時間。 | (3)-3) |
| 8 | 教育課程編成のための今日的課題として「学習指導と学力向上」を取り上げ、その方法をグループ学習で考える。 | 学力の定義について、資料を読む。2時間。 | 学習指導と学力向上について、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、(3)-4) |
| 9 | グループ学習の発表を通して、視野を広げて取り組むことの大切さに気づき、コミュニティ・スクールの意図を理解する。 | 学力向上プランについて、資料を読む。2時間。 | コミュニティ・スクールについて、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、(3)-4) |
| 10 | 教育課程編成のための今日的な課題として「特別支援教育」を取り上げ、その概要と現状を理解する。 | 特別支援教育が学校教育法に位置づけられている資料を読む。2時間。 | 特別支援教育について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-4) |
| 11 | 教育課程編成のための今日的な課題として「生徒指導上の諸問題」を取り上げ、具体的な対応策を考える。 | 生徒指導提要を読む。2時間。 | 生徒指導上の諸問題について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-4)、(3)-2) |
| 12 | 教育課程の実施状況を評価し、改善を図っていくカリキュラム・マネジメントの意義を理解するとともに、教育課程編成の具体として、ある学校の教育指導計画を取り上げ、徹底的に質問をすることで指導計画の分析力をつける。 | カリキュラム・マネジメントとは、何かについての資料を読む。2時間。 | カリキュラム・マネジメントについて、内容をまとめる。2時間。 | (3)-4) |
| 13 | 教育実習予定校の教育指導計画を発表し合い、質疑応答を重ねることで、実習校がどのような教育をめざしているかを理解する。 | 教育実習予定校の教育指導計画について、発表する準備をする。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-3)、(3)-4)、(1)-3) |
| 14 | 教育実習予定校の教育指導計画を発表し合い、質疑応答を重ねることで、実習校がどのような教育をめざしているかを理解する。 | 教育実習予定校の教育指導計画について、発表する準備をする。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-3)、(3)-4)、(1)-3) |
| 15 | 全15回の学習内容を「授業の流れ」の記録をもとに振り返り、初等教育課程についての理解を深める。 | 15回の授業資料を読み直す。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)、(2)、(3)のすべて |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）50% 定期試験（知識・理解、思考力・判断力・表現力）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』東洋館出版 | | | |
| メッセージなど | 小学校教育について、教育課程の編成（指導計画の作成）の観点から、基本的なことを学ぶ授業 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 初等教育課程論とは何かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (1)-2) 教育課程の意義を3つの観点から説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-3) 教育課程編成にかかわって、学校教育目標の大切さを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-4) 教育課程編成にかかわって、指導内容の組織化の意味を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 教育課程にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-2) 戦後の学習指導要領の変遷史について、各時代の特色を簡潔に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-3) 現在の生きる力を育む教育になった理由を、歴史的社会的背景を踏まえて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-4) 今日的な課題である学力向上・特別支援教育・生徒指導について、その概要を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (3)-1) 学力向上プランについて、自分の考えを述べることができる。 | 様々な角度から述べることができる。 | いくつかの角度から述べることができる。 | 1つ以上述べることができる。 | 述べることができない。 | グループ討議 (思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (3)-2) 生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べるができる。 | ほぼ完璧に述べることができる。 | 大きな間違いがなく、基本を述べることができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を述べることができる。 | 述べることができない。 | | 5% |
| (3)-3) 実習校の教育指導計画について調べ、発表資料と原稿を作成できる。 | ほぼ完璧に作成できる。 | 大きな誤りがなく、基本をおさえて作成できる。 | 最低限の基本を踏まえて作成できる。 | 作成できない。 | グループ討議 (思考力・判断力・表現力) | 20% |
| (3)-4) 各実習校の発表をもとに、互いに適切な質疑応答ができる。 | 質問も応答もほぼ完璧にできる。 | 質問はできないが、応答はきちんとできる。 | 基本的な対応はできるが、さらなる努力を要する。 | 質疑応答ができない。 | | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------------|------------|--------|-------|
| 国語科指導法 Teaching Methods of Japanese Language | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2018 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 和田征文 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 当該教科の目標及び内容 | | | | | | |
| 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | | | | | | |
| 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | |
| (2) 当該教科の指導方法及び授業設計 | | | | | | |
| 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | | |
| 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | | | | | | |
| 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 中学校国語科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 授業を実践するに際しての指導事項との関連を踏まえた教材分析上の観点を学ぶ。 典型的な教材を例に、教材の構造と内容の把握、精査と解釈について実践的に学ぶ。 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの柱を意識して授業を設計する。 「言語による見方・考え方」を念頭に置いた授業実践のあり方を、具体的な方法として身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 「言葉による見方・考え方」を軸に授業を構想する要件を理解する。 | | | | | | |
| 1) 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。 | | | | | | |
| 2) 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。 | | | | | | |
| 3) 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。 | | | | | | |
| 4) 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。 | | | | | | |
| (2) 〔思考力、判断力、表現力等〕を育成することに繋がる教材の捉えができる。 | | | | | | |
| 1) 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているかその意図が説明できる。 | | | | | | |
| 3) 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。 | | | | | | |
| 4) 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。 | | | | | | |
| (3) 「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計することができる。 | | | | | | |
| 1) 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。 | | | | | | |
| 2) 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。 | | | | | | |
| 3) 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。 | | | | | | |
| 5) 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。 | | | | | | |
| (4) 「言葉による見方・考え方」が働いている学習状況を学習者の姿で捉えることができる。 | | | | | | |
| 1) どの言葉（表現）で話や文章が理解できたとしているのかを掴むことができる。 | | | | | | |
| 2) 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているか掴むことができる。 | | | | | | |
| 3) 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているか見定めることができる。 | | | | | | |
| 4) 「振り返り」の中で誰の言葉で考えが深まったとしているかを見取ることができる。 | | | | | | |

| 回数 | 国語科指導法 授業内容 【和田征文】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|--|--|--|-------------------------------------|
| 1 | 教材研究って何？①—新見南吉「あめだま」の構造を考える。 | テキストの前外を読み、授業内容を概観する。1時間。 | 「あめだま」の結末の予測ができた訳を表現に求める。2時間。 | (2)―1), 2) 3) |
| 2 | 教材研究って何？②—新見南吉「あめだま」における「問いづくり」を中心にして「アクティブ・ラーニング」を体験する。 | 前時に書いた考えを基に予測の理由が説明できるよう準備する。1時間。 | 「教材を教材として捉える」ことを整理する。2時間。 | (1)―1), 2) (2)―2) |
| 3 | 「国語」を教える意味？—国語科の目標、三つの構造を復習する。 | 学力の三層とのかねあいで「目標」について考えておく。1時間。 | 「学力観の変遷」と関わらせ説明できるよう整理する。2時間。 | (1)―3), (2)―1), (3)―3) (4)―2), 3) |
| 4 | 低学年教材「お手紙」—登場人物の背負っている表現を掴む。 | 学習指導要領を基に「説明」について考えておく。1時間。 | 教材構造図に沿って「お手紙」の特徴を整理する。2時間。 | (2)―1), 2), 3) |
| 5 | 低学年教材「どうぶつの赤ちゃん」—「説明」とは何かを掴む。 | 学習指導要領を基に「指導事項のウ」について考えておく。1時間。 | 教材文の中から「説明」に気付かせる発問を考える。1時間。 | (2)―1), 2), 4) |
| 6 | 中学年教材「ありの行列」—キーワードで段落相互の関係を掴む。 | 段落相互の関係を掴むためのキーワードを探しておく。2時間。 | テキストのワークシートを軸に「学習の流れ」を考える。2時間。 | (1)―3) (2)―4) (4)―1) |
| 7 | 中学年教材「つり橋わたれ」—心情・情景の「変化」を掴む。 | 「変化」をキーワードに教材文を音読し、概観しておく。2時間。 | 教材構造図に沿って「つり橋わたれ」発問を考える。2時間。 | (1)―3) (2)―3) (4)―2) |
| 8 | 高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」—「問題提起」の答えはどこから文章全体の論理の展開の仕方を掴む。 (電子黒板の活用) | テキストの指示の「問題提示の解答はどこに」の答えとその理由を考えておく。2時間。 | 内容読解に際してのキーワードについて、教材構造図を基に説明できるように復習する。2時間。 | (1)―4) (2)―2) (3)―4) (4)―3) |
| 9 | 高学年教材「海のいのち」—「クライマックス」の場面を見つけその根拠を語り合うことで「精査と解釈」の仕方を学ぶ。 (電子黒板の活用) | 「クライマックスはどこか」を考えながら音読しておく。2時間。 | 電子黒板の利用法や利用場面について考えを整理する。2時間。 | (1)―1), 2) (2)―3) (3)―2), 4) (4)―4) |
| 10 | 教材研究から学習指導案の作成へ①学習指導案のしくみを知る。 | テキストに例示されている「学習指導案」を読み特徴を掴んでおく。1時間。 | 授業の三要素を踏まえ「指導案のしくみ」を整理する。2時間。 | (1)―4) (3)―1), 2), 4), 5) |
| 11 | 教材研究から学習指導案の作成へ②低学年教材「ニャーゴ」で教材構造図を作成する。 | 学習指導案づくりの対象となる「ニャーゴ」の教材研究をしておく。2時間。 | 授業中に示された構造図作成の手順を基に作成する。2時間。 | (1)―1) (2)―1), 2), 3) |
| 12 | 教材研究から学習指導案の作成へ③低学年教材「ニャーゴ」で学習指導案を作成する。 | 先例をヒントにして自分の学習指導案の素案を考えておく。2時間。 | 授業中の班別話し合いを参考に指導案を作成する。3時間。 | (3)―1), 2), 3), 4), 5) |
| 13 | 学習指導案の作成から授業実践へ①各自の作成した学習指導案を基にプロジェクターでプレゼンテーションを行う。 | 一人 10～15 分で要点発表の準備をする。2時間。 | 仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。2時間。 | (1)―4) (3)―4) (4)―1), 2), 3), 4) |
| 14 | 学習指導案の作成から授業実践へ②各自の作成した学習指導案をもとにプロジェクターでプレゼンテーションを行う。 | 一人 10～15 分で要点発表の準備をする。2時間。 | 仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。2時間。 | (1)―4) (3)―4) (4)―1), 2), 3), 4) |
| 15 | 授業の総括—望ましい反応の取り上げ方の映像と各プレゼンテーションを比較し、教師による「反応喚起・反応解釈・反応組織」についてレポートする。 | 教師と児童との遣り取りの例を軸に、「教師の出番」について考えておく。2時間。 | 最後の指導者の解説を基に「教師の出番」についてレポートを書く。2時間。 | (3)―4), 5) (4)―1), 2), 3), 4) |
| 定期試験 | 定期試験は実施しない | | | |
| 成績評価方法 | レポート(思考力・判断力・表現力)、対話への参加(関心・意欲・態度) 40% 模擬授業での態度、学習指導案の作成(表現・知識・態度) 60% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | ① 授業後の感想を提出させ、それへのコメントを書き、次時に返却する。 ② 各自の提出した「教材構造図」「学習指導案」「授業全般の感想レポート」等を提出させ、それへのコメント・評定を示して、後日返却する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 国語編(平成29年7月 文部科学省)』 和田征文・渡邊亮太編著『教育実習の研究』山口短期大学 『平成29年度小学校学習指導要領ポイント総整理・国語』吉田裕久・水戸部修治東洋館出版社 | | | |
| メッセージなど | 今日的な教育課題の「アクティブ・ラーニング」を意識した授業展開 後期の教育実習に繋がる授業技術を実践的な形で学ぶ授業 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。 | 児童の主体的な活動を意識した授業が構想できる。 | 反応を生かす形で授業を計画することができる。 | 学級全体の児童の学習への構えをおおよそ予測できる。 | 教材との絡みで児童の反応の分類ができない。 | 教材研究の活動・授業後の感想レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 20% |
| (1)-2 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。 | 妥当性・真実性・活動性のある「問い」が予測されている。 | 初発の感想の中から学習を誘発する「問い」を考えることができる。 | 教師の解説を聞いて「問い」を考えることができる。 | 教材文を読むことのできない。 | | |
| (1)-3 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。 | 作者・筆者の創作意図を担った言葉を発見することができる。 | 仲間との協議の中からキーワードを捉えることができる。 | 教師の補説を聞いて教材のキーワードを掴むことができる。 | 文中におけるキーワードとしての価値がわからない。 | | |
| (1)-4 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。 | 教材構造を掴むことができ、「板書計画」に表せる。 | 教材文中のキーワードを中心に「板書計画」が考えられる。 | 教師の指示によって「板書」を予測することができる。 | 羅列的な「板書計画」から脱皮できない。 | | |
| (2)-1 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。 | 初発の感想と教材の特質から表現の特徴が説明できる。 | 教材の特質を主体にその表現の価値を語るることができる。 | 仲間や教師の発言から重要な表現に気付くことができる。 | 教材文中の表現の意味を掴むことのできない。 | 教材研究の活動・授業後の感想レポート（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 20% |
| (2)-2 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているのかその意図が説明できる。 | 作者・筆者の創作意図に支えられている表現を繋いで説明できる。 | 表現の意味の把握から作者・筆者の創作意図が掴める。 | 教師の補説を聞いて、作者・筆者の意図が表れている表現に気づける。 | 教材文中の表現の意味を掴むことのできない。 | | |
| (2)-3 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。 | 表現の工夫の内に作者・筆者の意図が表れていることが説明できる。 | 登場人物の状況に繋いで言葉の意味として説明できる。 | 伏線やオノマトペは見出すことができるが、働きまで説明できない。 | 説明を聞いて、伏線やオノマトペがわかる。 | | |
| (2)-4 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。 | 接続語や指示語を中心に文章の構造を説明できる。 | 論の展開と接続語の関係は説明できる。 | 語を指摘することはできるが働きの説明はできない。 | 言語内容にだけ目が向き、言語形式は掴めない。 | | |
| (3)-1 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。 | 「問い」の意義を授業の流れと絡めて説明できる。 | 価値まで行かないが「問い」は指摘できる。 | 児童に「問い」を印象づけることができない。 | 学習課題の設定の意義まで考えが及ばない。 | | |
| (3)-2 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。 | 学習中の位置づけが十分配慮されている。 | 「対話」をさせることに関わる条件が洗い出せない。 | 話し合わせる活動のみに目が向いている。 | 授業の過程の中の役割という考え方ができない。 | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------|---------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (3)-3) 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。 | 学習者の主体的・対話的な学びを誘発する板書ができる。 | 教材の内容を理解した構造的な板書になっている。 | 教材の内容が羅列されているだけで学びに導くことができない。 | 児童の発言を生かすことが全くできない。 | 授業づくりの活動・模擬授業の実施（関心・意欲、思考力、判断力、表現力） | 30% |
| (3)-4) 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。 | 児童の学習中の活動の中に自然に様々な評価の仕方が導入できている。 | 様々な手立ては講じられているが授業の流れの中で今一つ生かされていない。 | 決まった形の評価の仕方であり、児童の活動に合わせての工夫ができない。 | 評価の仕方が一面的である。 | | |
| (3)-5) 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。 | 自己評価を中心とした「振り返り」が自然に導入されている。 | 「振り返り」の場面は設定できるがそれを生かし切れない。 | 児童の「振り返り」を取り上げるが、教師サイドでまとめてしまう。 | 「振り返り」の導入が形式的である。 | | |
| (4)-1) どの言葉（表現）で話や文章が理解できたかとしているかを掴むことができる。 | 児童個々の言葉への着目を学習の成果として伝えていく。 | 教材レベルでの理解はあるが児童の学びと結びつけられない。 | 児童の学習中の活動に囚われ過ぎている。 | 表面的な取り上げ方しかできない。 | 授業づくりの活動・模擬授業の実施（思考力、判断力、表現力、学びに向かう力） | 30% |
| (4)-2) 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているかを掴むことができる。 | 学習の過程の中で教材の特性と絡めて価値づけることができる。 | 一人一人の発言のよさとしては学習の過程の中で掴むことができる。 | 教材の言葉と結びつけての価値付けができない。 | 授業を流すことではいっばいである。 | | |
| (4)-3) 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているかを見定めることができる。 | 個人内評価に繋がる捉え方ができている。 | 学習中の重要な発言としての評価はできる。 | 発言を学習の深まりとして捉えることができない。 | 発言を聞き流している。 | | |
| (4)-4) 「振り返り」の中でだれの言葉で考えが深まったかを見取ることができる。 | 授業後に回収した児童の自己評価を分析・考察できる。 | 「振り返り」の全体の傾向は大掴みできる。 | 「振り返り」の個々の内容に囚われすぎて考察できない。 | 学習の評価としての価値づけへの意識が薄い。 | | |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------------|------------|-----------------|-------|
| 社会科指導法 Teaching Methods of Social Studies | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2019 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 選択 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>（1）当該教科の目標及び内容</p> <p>一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。</p> <p>到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>（2）当該教科の指導方法と授業設計</p> <p>一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>中学校社会科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>社会科の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実践と授業検討等を通して、公民的資質の基礎と養う社会科の「授業のつくり方」と「授業のしかた」についての基礎・基本を学ぶ。</p> <p>社会科の学習指導者としての使命感と実践力を身につけて、教壇に立つ準備ができる。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 社会科の教材研究を「授業のつくり方」の観点から理解する。 | | | | | | |
| 1) 社会科における教材研究の必要性を説明できる。 | | | | | (1)-1)、2)、4) | |
| 2) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、その要旨を説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| 3) 教科書が主たる教材である理由と教科書の選定の仕組みを説明できる。 | | | | | (1)-4) | |
| 4) 各社の教科書の長短所を指摘し、よりよい教科書の選定ができる。 | | | | | (1)-1)、2)、4) | |
| 5) 社会科学習指導案作成のための基礎知識を説明できる。 | | | | | (1)-4)、(2)-(2) | |
| (2) 社会科の教材研究を「授業のしかた」の観点から理解する。 | | | | | | |
| 1) 題材「聖徳太子の国づくり」を例に、指導内容を整理できる。 | | | | | (2)-1) | |
| 2) 他の人の学習指導案を読んで、そのよさや問題点を指摘できる。 | | | | | (1)-3)、(2)-3) | |
| 3) 各自で模擬授業の教材を選択し、社会科学習指導案を書くことができる。 | | | | | (2)-2) | |
| 4) 授業を展開するうえで必要になる発問・資料・板書の計画を立てることができる。 | | | | | (2)-3) | |
| (3) 社会科の模擬授業を実践し、教えることの使命感と実践力を身につける。 | | | | | | |
| 1) 自分の学習指導案をもとに45分間の模擬授業ができる。 | | | | | (2)-1)、2)、3)、4) | |
| 2) 自評・質疑応答・感想意見の手順に従って、授業検討をすることができる。 | | | | | (1)-3)、(2)-4) | |
| 3) 授業の実践・検討を通して、教えることの厳しさと楽しさを実感する。 | | | | | (2)-3)、4) | |

| 回数 | 社会科指導法 授業内容 【隅野 努】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 | 社会科の目標を構造的にとらえるとともに、教材研究の価値と方法について理解する | 学習指導要領解説社会編の目標を読む。2時間。 | 社会科の目標、教材研究の価値と方法についてまとめる。2時間。 | (1)-1)、(1)-2) |
| 2 | 学習指導要領と教科書、教材の関係について学び、教科書が主たる教材である意味や教科書選定の仕組みを理解する。 | 学習指導要領解説社会編の内容を読む。2時間。 | 学習指導要領と教科書、教材の関係についてまとめる。2時間。 | (1)-3) |
| 3 | 各社の教科書の比較・分析・検討を通して、よりよい教科書の選び方について理解する。 | A社とB社の教科書を読み比べる。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 4 | 授業を活性化させる3つの授業構想をコンピュータやプロジェクターを活用して、課題作りの「元の襲来」、現認識を生かす「賢い消費者」、授業型の「明治時代」を具体的事例をもとに学ぶ。 | 学習指導案の基礎知識の資料を読む。2時間。 | 具体的事例に基づき授業を活性化させる授業構想についてまとめる。2時間。 | (1)-5) |
| 5 | 学習指導案の様式に従って、題材「聖徳太子の国づくり」について実際に書いてみる。 | 聖徳太子の国づくりの教科書、資料等を読む。2時間。 | 学習指導案を吟味し、検討する。2時間。 | (2)-1) |
| 6 | お互いの書いた学習指導案を相互にチェックし合うことで、教材観を書くための下調べの大切さを実感する。 | 「聖徳太子の国づくり」の学習指導案を完成させる。2時間。 | お互いの書いた学習指導案について、見比べ、気づきをまとめる。2時間。 | (2)-2) |
| 7 | 「聖徳太子の国づくり」の実例から、指導案の書き方のポイントをつかむとともに、発問・資料・板書の観点で分析する。 | 「聖徳太子の国づくり」の授業について、発問、資料、板書を吟味する。2時間。 | 学習指導案の書き方のポイントについて、内容をまとめる。2時間。 | (2)-4) |
| 8 | 先輩の優れた社会科模擬授業のVTRを見ることで、発問の巧みさ、資料提示のタイミング、板書のまとめ方を学び取る。 | 自分の模擬授業の教材選び①。2時間。 | 発問、資料提示、板書のまとめ方についてまとめる。2時間。 | (3)-2) |
| 9 | 各学年の教科書を参考に自分の模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、ICT機器を活用した資料準備を行う。 | 自分の模擬授業の教材選び②。2時間。 | 自分の模擬授業の学習指導案を作成する。2時間。 | (2)-2)、 (2)-3)、(2)-4) |
| 10 | 各学年の教科書を参考に自分の模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、ICT機器を活用した資料準備を行う。 | 自分の模擬授業の学習指導案の作成。2時間。 | 自分の模擬授業の学習指導案を作成する。2時間。 | (2)-2)、 (2)-3)、(2)-4) |
| 11 | 模擬授業①を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。 | 自分の模擬授業の準備と反省①。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、 (3)-2)、(3)-3) |
| 12 | 模擬授業②を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。 | 自分の模擬授業の準備と反省②。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、 (3)-2)、(3)-3) |
| 13 | 模擬授業③を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。 | 自分の模擬授業の準備と反省③。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、 (3)-2)、(3)-3) |
| 14 | 模擬授業④を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。 | 自分の模擬授業の準備と反省④。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、 (3)-2)、(3)-3) |
| 15 | 模擬授業⑤を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。 | 自分の模擬授業の準備と反省⑤。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1)、 (3)-2)、(3)-3) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み(関心・意欲・態度)50%、模擬授業(知識・理解、思考力・判断力・表現力)30%、授業分析力(思考力・表現力)20% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：授業時に資料を配布する。 参考文献：『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』 『小学校社会科教科書』東京書籍 『小学校社会科教科書』日文 | | | |
| メッセージなど | 後期10月から始まる教育実習に向けて、社会科の授業づくりの基本を学ぶ。学習指導案を書いて、模擬授業に挑戦する実践的な講座。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|------------------------------|-----------------------------|---------------------------|----------------|---|------|
| (1)-1) 社会科における教材研究の必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (1)-2) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、その要旨を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-3) 教科書が主たる教材である理由と教科書の選定の仕組みを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-4) 各社の教科書の長短所を指摘し、よりよい教科書の選定ができる。 | ほぼ完璧に長短所を指摘できる。 | 大きな間違いがなく、長短所を指摘できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の指摘ができる。 | 長短所の指摘ができない。 | | 5% |
| (1)-5) 社会科学学習指導案作成のための基礎知識を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 題材「聖徳太子の国づくり」を例に、指導内容を整理できる。 | ほぼ完璧に整理できる。 | 大きな間違いがなく、基本が整理できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の整理ができる。 | 整理できない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 学習指導案づくり (思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (2)-2) 他の人の学習指導案を読んで、そのよさや問題点を指摘できる。 | 様々な角度から指摘できる。 | 幾つかの角度から指摘ができる。 | 1つ以上指摘ができる。 | 指摘できない。 | | 5% |
| (2)-3) 各自で模擬授業の教材を選択し、社会科学学習指導案を書くことができる。 | ほぼ完璧に書くことができる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて書くことができる。 | 形式的に最低限の記述ができる。 | 書くことができない。 | | 5% |
| (2)-4) 授業を展開するうえで必要になる発問・資料・板書の計画を立てることができる。 | 子どもの立場に立ったほぼ完璧な準備ができる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえた準備ができる。 | 最低限の準備ができる。 | 準備ができない。 | | 5% |
| (3)-1) 自分の学習指導案をもとに45分間の模擬授業ができる。 | よい授業の3条件を生かした、ほぼ完璧な授業ができる。 | 大きな間違いがなく、基本をおさえた授業ができる。 | 最低限授業の形にはなっている。 | 授業ができない。 | 模擬授業 授業検討会 (思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度) | 30% |
| (3)-2) 自評・質疑応答・感想意見の手順に従って、授業検討をすることができる。 | 様々な角度から、適切な質問や意見を述べることができる。 | 幾つかの角度から、質問や意見を述べることができる。 | 1つ以上、質問や意見を述べるができる。 | 意見を述べることができない。 | | 20% |
| (3)-3) 授業の実践・検討を通して、教えることの厳しさと楽しさを実感する。 | 教壇に立つことの自覚をもって、積極的・協働的に取り組む。 | 基本はできている。創造性や柔軟性も一部身につけている。 | 授業をすることを義務的にとらえている。 | その場にいらない。 | | 5% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|--------------------------|------------|-----------|-------|
| 算数科指導法 Teaching Methods of Arithmetic | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2020 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 選択 | 山根郁夫 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 当該教科の目標及び内容 | | | | | | |
| 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | | | | | | |
| 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | |
| (2) 当該教科の指導方法と授業設計 | | | | | | |
| 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | | |
| 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | | | | | | |
| 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 | | | | | | |
| 小学校算数科の目標、内容及び学習内容を支える数理等への理解を深めるとともに、問題解決の過程を通して、児童自らが数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ算数科学習指導のあり方について学ぶ。これらを踏まえて教材研究を行い、授業案を作成したり、模擬授業を実施したりして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の実践的な指導力を身につける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 小学校算数科の目標、各学年における目標、内容、領域等、全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。 | | | | | (1)-1)、2) | |
| 2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。 | | | | | (1)-2) | |
| 3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。 | | | | | (1)-3) | |
| 4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念についての確に説明することができる。 | | | | | (1)-4) | |
| (2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、問題解決の過程を重視した算数科の授業設計能力並びに授業実践力を習得する。 | | | | | | |
| 1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。 | | | | | (2)-1) | |
| 2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。 | | | | | (2)-2) | |
| 3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。 | | | | | (2)-3) | |
| 4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。 | | | | | (2)-4) | |

| 回数 | 算数科指導法 授業内容 【山根郁夫】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|--|--|---|
| 1 | 算数教育の目標と各学年における目標・内容① 1～3年 | 学習指導要領の該当箇所を読んでおく。2時間 | 目標構造と内容の概要をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4) |
| 2 | 算数教育の目標と各学年における目標・内容② 4～6年 | 学習指導要領の該当箇所を読んでおく。2時間 | 目標構造と内容の概要をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4) |
| 3 | 各領域と内容の発展系列① 「A数と計算」「B図形」「C測定」 | 学習指導要領の該当箇所を読んでおく。2時間 | 領域別内容の発展系列をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 4) |
| 4 | 各領域と内容の発展系列② 「C変化と関係」「Dデータの活用」 | 学習指導要領の該当箇所を読んでおく。2時間 | 領域別内容の発展系列をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 4) |
| 5 | 算数科における基本的な学習過程 | テキスト第4章を読んでおく。2時間 | 問題解決的な学習の要点をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 2) |
| 6 | 主体的な学びを促す教材・教具の工夫開発と教材との対話や児童相互の対話を深め確かな学びを促すICT機器の活用 | テキスト第5章を読むとともに、算数科でのICT機器の活用や意義について調べる。2時間 | 主体的な学びと確かな理解につながる課題設定やICT機器活用の在り方をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 2) |
| 7 | 主体的な学びと確かな理解を図る学習形態及び評価の在り方 | テキスト第6章を読んでおく。2時間 | TTや観点別評価についてまとめる。2時間 | (1) - 3)、(2) - 1) |
| 8 | 教材研究とICT機器を活用した算数科学習指導案の作成の仕方 -3年 重さ-の事例を通して | テキスト第7章を読んでおく。2時間 | 作成要領、作成ポイントと指導案例との対比による指導案の読み。2時間 | (2) - 1)、(2) - 2) |
| 9 | 教材研究及びICT機器を活用した学習指導案の作成 -2年 1000までの数- 協同研究 | ICT機器を活用した2年生「1000までの数」の授業構想を練っておく。2時間 | 協議のもとに「1000までの数」の学習指導案を銘々で完成させる。3時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3) |
| 10 | 学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 -3年 三角形- | ICT機器を活用した「三角形」の授業の原案を作成する。2時間 | 3年「三角形」の学習指導案を作成する。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3) |
| 11 | 学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 -5年 面積- | ICT機器を活用した「面積」の授業の原案を作成する。2時間 | 5年「面積」の学習指導案を作成する。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3) |
| 12 | 学習指導案及びICT機器を活用した教材教具の作成 -3年 三角形- -5年 面積- | 模擬授業で使用する教材、教具作成に必要な材料等の計画や準備にあたる。2時間 | それぞれの指導案を完成させる。(模擬授業実施分、模擬授業省略分) 2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3) |
| 13 | 模擬授業の実施 | 模擬授業の準備をする。2時間 | 模擬授業の反省事項をまとめる。2時間 | (2) - 4) |
| 14 | 模擬授業の実施 | 模擬授業の準備をする。2時間 | 模擬授業の反省事項をまとめる。2時間 | (2) - 4) |
| 15 | 模擬授業の実施 | 模擬授業の準備をする。2時間。 | 模擬授業の反省事項をまとめる。2時間 | (2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 学習態度(関心・意欲・態度)30%、定期試験(知識・理解)40% 学習指導案・模擬授業(表現力・思考力・判断力)30% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『算数科教材研究』山口短期大学 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 算数編(平成29年7月 文部科学省)』 | | | |
| メッセージなど | 国語に次いで、授業時数の多い教科です。教員は教えやすいと思いがちですが、児童にとっては意外と学びにくい教科です。児童の学びに視点をあて、主体的にかつ深く学ぶことの喜びを喚起する教材研究の在り方について究明しましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|------------------|-------------------------------|-----------------------------------|----------------|--|------|
| (1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りがなく説明することができる。 | 誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明することができない。 | 定期試験(知識・理解) | 8% |
| (1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りがなく説明することができる。 | 誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明することができない。 | | 8% |
| (1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。 | ほぼ完璧に作成することができる。 | 大きな誤りがなく作成することができる。 | 誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。 | 作成することができない。 | | 8% |
| (1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念についての的確に説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りがなく説明することができる。 | 誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明することができない。 | | 8% |
| (2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りがなく説明することができる。 | 誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明することができない。 | | 8% |
| (2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。 | ほぼ完璧に計画することができる。 | 若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。 | 問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。 | 計画することができない。 | 課題レポート、グループ討議への参加(知識・理解・関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。 | ほぼ完璧に作成することができる。 | 若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。 | 問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。 | 作成することができない。 | | |
| (2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。 | ほぼ完璧に進めることができる。 | 若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて進めることができる。 | 問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて進めることができる。 | 適切に進めることができない。 | 模擬授業(知識・理解・判断力・表現力) | 30% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|--------------------------|------------|--------|-------|
| 理科指導法 Teaching Methods of Science Studies | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2021 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 選択 | 西田 稔 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 当該教科の目標及び内容 | | | | | | |
| 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | | | | | | |
| 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | |
| (2) 当該教科の指導方法と授業設計 | | | | | | |
| 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | | |
| 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | | | | | | |
| 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 学習指導要領に示された教科の目標や内容を理解する。 | | | | | (1)-1 | |
| 1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。 | | | | | (1)-1 | |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。 | | | | | (1)-2 | |
| 3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。 | | | | | (1)-3 | |
| 4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | (1)-4 | |
| (2) 基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | (2)-1 | |
| 1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解できる。 | | | | | (2)-1 | |
| 2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。 | | | | | (2)-2 | |
| 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | (2)-3 | |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。 | | | | | (2)-4 | |

| 回数 | 理科指導法 授業内容 【西田稔】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1 | 小学校理科教育の目標と内容 | 小学校理科の指導要領を読んでおく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 4) |
| 2 | 第3学年の理科教育と学習指導案の作成 | 3年生理科の学習指導案を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 4) |
| 3 | 第4学年の理科教育と学習指導案の作成 | 4年生理科の学習指導案を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 4) |
| 4 | 第5学年の理科教育と学習指導案の作成 | 5年生理科の学習指導案を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 4) |
| 5 | 第6学年の理科教育と学習指導案の作成 | 6年生理科の学習指導案を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) |
| 6 | 第3学年理科単元指導計画の作成 | 3年生理科の単元指導計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) |
| 7 | 第3学年理科評価計画の位置づけ | 前時で作った単元指導計画に評価計画を位置付けてみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2)、(1) - 3) |
| 8 | 第3学年理科授業の実際と振り返り | 授業計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4)、) |
| 9 | 第4学年理科単元指導計画と評価計画の作成 | 4年生理科の単元指導計画と評価計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3) |
| 10 | 第4学年理科授業の実際と振り返り | 4年生理科の授業計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4) |
| 11 | 第5学年理科単元指導計画と評価計画の作成 | 5年生理科の単元指導計画と評価計画を作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 2)、(2) - 3) |
| 12 | 第5学年理科授業の実際と振り返り | 5年生理科の授業計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4) |
| 13 | 第6学年理科単元指導計画と評価計画の作成 | 6年生理科の単元指導計画と評価計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4) |
| 14 | 第6学年理科授業の実際と振り返り | 6年生理科の授業計画を自分で作ってみる。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4) |
| 15 | 授業における指導と評価 | これまでの学習のまとめをしておく。2時間 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間 | (2) - 3)、(2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | レポート(関心・態度・知識・理解・思考力)40%、模擬授業(関心・意欲・態度・技能)30% 定期試験(思考力・判断力・表現力)30% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』 『各学年理科教科書』 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 理科編(平成29年7月 文部科学省)』 | | | |
| メッセージなど | 理科離れを防ぎ、理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践に取り組みましょう。 小学校教諭二種免許：選択必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|-----------------------|--------------------------|---------------------------|-----------|--|------|
| (1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) | 10% |
| (1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) | 10% |
| (1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) | 10% |
| (1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) 模擬授業 (技能・表現) | 10% |
| (2)-1) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) | 10% |
| (2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。 | ほぼ完璧に、活用することができる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) 模擬授業 (技能・表現) | 10% |
| (2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。 | 作成できない。 | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) 模擬授業 (技能・表現) | 20% |
| (2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。 | ほぼ完璧に実施することができる。 | 大きな間違いがなく、実施ができる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。 | 実施できない | 学習レポート (知識・理解) 定期試験 (思考・判断・表現) 模擬授業 (技能・表現) | 20% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------------|------------|---------------------|-------|
| 生活科指導法 Teaching Methods of Life Environments | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2022 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 選択 | 川上 認 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>（1）当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>（2）当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標：1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>「教材」が「学習体験や活動を左右する」ことの認識を深め、生活科における「教材研究の視点」や「教材開発の必要性や留意点」を理解し、身近な社会や自然の中にある素材の教材化と効果的活用方法を身に付ける。</p> <p>生活科における年間指導計画や単元計画並びに指導案作成について理解する。</p> <p>生活科における体験的な活動の実践を通して指導の在り方を探求する。</p> <p>生活科における評価の在り方を理解する。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| （1）生活科教材の役割の重要性を理解する 一般目標：生活科の授業における教材選択の重要性と教材化の意味を理解する 到達目標：1）生活科授業における教材の大切さを理解する | | | | | (1)-1)、2) | |
| 2）素材と教材の意味の違いを理解する | | | | | (1)-4) | |
| 3）効果的な教材選択や教材の授業への位置づけを理解する | | | | | (1)-4)、(2)-2) | |
| （2）学習内容の違いによる効果的な教材化の方法と指導の在り方を理解する 一般目標：生活科に適した教材を活用した指導事例から教材化の方法を理解する 到達目標：1）直接的な体験や活動の教材化を理解する | | | | | (1)-2)、4) (2)-1) | |
| 2）ICT等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を理解する | | | | | (1)-2)、(2)-2) | |
| （3）生活科の指導計画の立て方を理解する 一般目標：生活科の指導計画作成の方法を理解する 到達目標：1）年間指導計画・単元計画の作成の方法を理解する | | | | | (1)-1)、(2)-3) | |
| 2）単位時間の指導案の作成の方法を理解する | | | | | (2)-3) | |
| （4）生活科の評価の仕方を理解する 一般目標：生活科における評価の仕方を理解する 到達目標：1）評価規準を作成することができる | | | | | (1)-3)、(2)-4) | |
| 2）多様な評価方法を身に付ける | | | | | (2)-4) | |

| 回数 | 生活科指導法 【川上 認】 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|------------------|---|----------------------|-------------------|----------------------|
| 1 | | 生活科の授業における教材の特質性を説明できる | テキスト 8～11P を読む 1時間 | 授業の特質を箇条書きにする 1時間 | (1) - 1) |
| 2 | | 教材化の意味・意義を理解し、指導計画への生かし方を学ぶ | テキスト第1章を読む 1時間 | 教材化の意味をまとめる 2時間 | (1) - 2) (1) - 3) |
| 3 | | ① 人と関わる活動の教材化について学ぶ | テキスト12～13Pを読む 1時間 | どんな人と関わるかまとめる 1時間 | (2) - 1) |
| 4 | | ② 飼育栽培活動の教材化について学び、体験活動する | テキスト14～15Pを読む 1時間 | 実際に世話をしてみる 3時間 | (2) - 1) |
| 5 | | ③ 探検活動の教材化について説明できる | テキスト16～17Pを読む 1時間 | 探検場所と方法をまとめる 2時間 | (2) - 1) |
| 6 | | ④ 遊びの教材化について学び、体験活動する | テキスト18～19Pを読む 1時間 | 教育実習等で児童と遊ぶ 3時間 | (2) - 1) |
| 7 | | ⑤ ものづくりの教材化について学び、教材を作成する | テキスト20～21Pを読む 1時間 | 制作作品を実際に使ってみる 2時間 | (2) - 1) |
| 8 | | ⑥ 表現・イベント活動の教材化について学ぶ | テキスト22～23Pを読む 1時間 | 多様な表現方法をまとめる 1時間 | (2) - 1) |
| 9 | | ⑦ 交流活動を実践し、動画や静止画として記録する | テキスト24～25Pを読む 1時間 | 画像を整理する 2時間 | (2) - 1) |
| 10 | | 町探検の振り返り学習時にタブレットを活用して発表活動をする | プレゼン内容をまとめる 2時間 | プレゼン方法を修正する 1時間 | (2) - 2) |
| 11 | | 映像や音声機器等、多様な表現活動を図った指導事例を検討する | 指導事例を調べる 2時間 | 指導事例をまとめる 1時間 | (2) - 2) |
| 12 | | 地域実態に即した生活科の年間・単元計画の作成事例を検討する | テキスト12～13Pを読む 1時間 | 他の事例を調べる 1時間 | (3) - 1) |
| 13 | | 生活科の指導案を作成し、模擬授業を行なう | 生活科指導案を作成する 3時間 | 授業の反省文を書く 1時間 | (3) - 2) |
| 14 | | 評価基準と評価規準の違いについて学ぶ | 文科省「指導要録」を調べる 1時間 | 単位時間の評価基準を書く 1時間 | (4) - 1) |
| 15 | | 多様な評価方法を理解する | 指導要領解説 92～93Pを読む 1時間 | 多様な評価方法をまとめる 1時間 | (4) - 2) |
| 定期試験 | | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | | 個人評価や相互評価、教師による評価等の多様な評価方法による 定期試験(知識・理解)30%、授業態度(関心・意欲)30%、 レポート(知識・理解・判断力・表現力)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | | 活動体験の記録(レポート等)を学習成果物として累積し、フィードバックに生かす | | | |
| テキストおよび参考文献 | | 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 生活編(平成29年7月 文部科学省)』東洋館出版 『生活科教材研究』山口短期大学 | | | |
| メッセージなど | | 小学校低学年児童が喜ぶ直接的な体験活動の実践と指導方法の体得が主な授業内容である。 具体的な教材との触れ合いを大切にする。 小学校教諭二種状：選択必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|------|
| (1)-1) 生活科授業における教材の大切さを理解する | ほぼ完璧に教材の大切さを理解している | 十分教材の大切さを理解している | おおむね教材の大切さを理解している | まったく理解できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 素材と教材の意味の違いを理解する | ほぼ完璧に意味の違いを理解している | 十分意味の違いを理解している | おおむね意味の違いを理解している | まったく意味の違いを理解していない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけを理解する | ほぼ完璧に教材の授業への位置づけができる | 十分に教材の授業への位置づけができる | おおむね教材の授業への位置づけができる | まったく教材の授業への位置づけができない | 授業態度 (関心・意欲) | 10% |
| (2)-1) 直接的な体験や活動の教材化を理解する | ほぼ完璧に体験活動の教材化ができる | 十分に体験活動の教材化ができる | おおむね体験活動の教材化ができる | まったく体験活動の教材化ができない | 授業態度 (関心・意欲) | 10% |
| (2)-2) ICT等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を理解する | ほぼ完璧にICT等の活用の在り方を理解している | 十分にICT等の活用の在り方を理解している | おおむねICT等の活用の在り方を理解している | まったくICT等の活用の在り方を理解していない | 授業態度 (関心・意欲度) | 10% |
| (3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成の方法を理解する | ほぼ完璧に年間・単元計画の作成方法を理解している | 十分に年間・単元計画の作成方法を理解している | おおむね年間・単元計画の作成方法を理解している | まったく年間・単元計画の作成方法を理解していない | レポート (知識・理解) | 10% |
| (3)-2) 単位時間の指導案の作成の方法を理解する | ほぼ完璧に単位時間の指導案が作成できる | 十分に単位時間の指導案が作成できる | おおむね単位時間の指導案が作成できる | まったく単位時間の指導案が作成できない | レポート (思考力・判断力等) | 10% |
| (4)-1) 評価規準を作成することができる | ほぼ完璧に評価規準を作成することができる | 十分に評価規準を作成することができる | おおむね評価規準を作成することができる | まったく評価規準を作成することができない | レポート (知識・理解) | 10% |
| (4)-2) 多様な評価方法を身に付ける | ほぼ完璧に評価方法を身に付けている | 十分に評価方法を身に付けている | おおむね評価方法を身に付けている | まったく評価方法を身に付けていない | レポート (思考力・判断力等) | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|--------------------------|------------|------|------------------------|
| 音楽科指導法 Teaching Methods of Music | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2023 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 山崎凱千 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 当該教科の目標及び内容 | | | | | | |
| 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | | | | | | |
| 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | |
| (2) 当該教科の指導方法及び授業設計 | | | | | | |
| 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | | |
| 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | | | | | | |
| 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 高等学校音楽科教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 学習指導要領における小学校教科音楽の目標を概説し、音楽教育の現状と問題について考察する。 指導案の作成方法を学ぶことにより授業展開の方法を学ぶ。 模擬授業を演習実習し、実践的な技能の伸長を図る。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| (1) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す指導計画を立案する研究をする。 | | | | | | (1)-1)、2)、3) |
| 1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てられるような配慮ができる。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。 | | | | | | (1)-1)、2)、3) (2)-1) |
| 3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切に指導計画を考えることができる。 | | | | | | (2)-1)、2)、3) |
| (2) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す授業展開を考察。さらに ICT 等の活用により仮想体験を味わえる展開が考察できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画ができる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| 2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考えることができる。 | | | | | | (1)-1)、2) (2)-2)、3) |
| 3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考えることができる。 | | | | | | (1)-3)、4) (2)-2)、3) |
| (3) 音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す指導案の作成を模索する。 | | | | | | (1)-3)、4) |
| 1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。 | | | | | | (2)-3)、4) |
| 2) ねらい、展開、振り返り等授業展開のあり方を学ぶことができる。 | | | | | | (2)-3)、4) |
| 3) 他者の模擬授業を評価することにより、自分自身の授業の指導案作りの参考にできる。 | | | | | | (2)-3)、4) |

| 回数 | 音楽科指導法 授業内容 【山崎凱千】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|------------------------------|--|--------------------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 1 | 学習指導要領「音楽」の概説・音楽科教育の目標 | テキストまえがきを読んでおく 1時間 | 自分の考えをまとめる 2時間 | (1)、(2)、(3) |
| 2 | 年間指導計画の立案の考え方 | テキスト 21 ページ、教科書の 26～31 ページを読んでおく 2時間 | 考えをまとめる 2時間 | (1) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 3 | 歌唱共通教材の授業展開の考え方 | 教科書の 50 ページ～55 ページを読んでおく 2時間 | 再度 50～55 ページを読み考えをまとめる 2時間 | (2) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 4 | 指導案の作成① 目標、概念 | 教科書の 32～35 ページを読んでおく 1時間 | レポート課題を参考にして試作してみる 2時間 | (3) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 5 | 歌唱共通教材模擬授業① 1年「うみ」「かたつむり」「日のまる」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) | 教科書の 136～141 ページを演習練習しておく 2時間 | 反省をもとに演習する 2時間 | (2) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 6 | 指導案の作成② 題材、題材研究、題材感 | テキスト 22, 23 ページを完成させておく 1時間 | 暗記できるようにする 2時間 | (3) - (1) |
| 7 | 歌唱共通教材模擬授業② 1年「ひらいたひらいた」2年「かくれんぼ」「春がきた」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) - | 教科書の 142～147 ページを演習練習しておく 2時間 | 反省をもとに演習する 2時間 | (2) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 8 | 指導案の作成③ 題材の指導計画 | テキスト 25 ページを試作しておく 1時間 | 学習成果を生かして再度試作してみる 2時間 | (1) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 9 | 歌唱共通教材模擬授業③ 2年「虫のこえ」「夕やけこやけ」3年「うさぎ」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) - ビデオ録画自己批評 | 教科書の 148～153 ページを演習練習しておく 2時間 | 他人の評価表 A を参考にし て演習する 2時間 | (3) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 10 | 指導案の作成④ 本時の目標、ねらいの設定 | テキスト 26、27 ページを読んでおく 1時間 | モデルを試作してみる 2時間 | (3) - (2) |
| 11 | 歌唱共通教材模擬授業④ 3年「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) - | 教科書の 154～159 ページを演習練習しておく 2時間 | 評価表をもとに演習する 2時間 | (3) - (1)、 - (2)、- (3) |
| 12 | 指導案の作成⑤ 授業展開の方法 | テキスト 28 ページを読んでおく 1時間 | テキスト 30 ページを完成させる 1時間 | (2) - (2) |
| 13 | 歌唱共通教材模擬授業⑤ 4年「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) - ビデオ録画相互批評 | 教科書の 160～169 ページを演習練習しておく 2時間 | 評価表 B をもとに演習する 2時間 | (3) - (1)、 - (2) |
| 14 | 指導案の作成⑥ 模擬授業の録画映像を見て、工夫・改善点をまとめる | 教科書の 227～241 を読んでおく 2時間 | 工夫改善をもとに指導案を作成してみる 1時間 | (3) - (2)、 - (3) |
| 15 | 歌唱共通教材模擬授業⑥ 5年「こいのぼり」「子守歌」「スキーの歌」「冬げしき」-ICT 機器の活用 (CD デッキ、画像の提示、授業の録画) - 評価、振り返りの方法 | 教科書の 170～181 ページを演習練習しておく 2時間 | 録画の反省をもとに演習する 2時間 | (3) - (3) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価方法 | 指導案作成 (思考・判断) 50%、 模擬授業 (準備・表現・技能) 30% 他者模擬授業評価レポート (知識、判断) 20% | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法 | 模擬授業の評価表 A, B を提出させ評価する。模擬授業の録画を利用し評価する。全体的にはルーブリックを用いて評価する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『音楽科教材研究』山口短期大学 『初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用』音楽之友社 『小学校指導要領 (平成 29 年告示) 解説 音楽編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)』 東洋館出版 | | | |
| メッセージなど | 教育現場に通じる指導法を会得するために指導案の作成をし、実際の授業を模擬体験してみる。音楽の実力が必要があることはもちろんであるが、他者の模擬授業を評価することなどをおし、さらなる資質のレベルアップを図りましょう。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|------------------|--------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てられるような配慮ができる | 全般にわたって完璧に近い計画を立てられる。 | 大きな考え違いがなく計画が立てられる。 | 自分の考えのみではあるが最低限の授業計画が配慮できる。 | 配慮できていない。 | レポート作成 | 10% |
| (1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。 | 年間を通しての計画がほぼ完璧に立てられる。 | 大きな考え違いがなく計画が立てられる。 | 最低限の長期的指導計画が立てられる。 | 計画が立てられない。 | レポート作成 | 10% |
| (1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にしている指導計画を考えることができる。 | 過程を大切にしている指導計画が考えられる。 | 大きな考え違いがなく計画が立てられる。 | 計画だけは考え、立てることができる。 | 考えることができない。 | 課題レポート | 10% |
| (2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画ができる。 | 工夫した計画に基づく指導案を作成することができる。 | 大きな考え違いがなく計画が立てられる。 | 豊かで工夫した計画には至らないが、最低限の計画はできる | 計画ができない。 | 課題レポート | 10% |
| (2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考えることができる。 | 深く多様な体験をさせる授業展開を充分考えることができる | ほぼ間違いない授業展開が考えられる。 | 勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。 | 深く多様で幅広い考えができない。 | 模擬授業 | 15% |
| (2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考えることができる。 | 幅広く豊かな展開を考えることができる。 | 大きな間違いない考えにより展開を考えることができる。 | 勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。 | 授業展開が考えられない。 | 模擬授業 | 15% |
| (3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。 | 多岐にわたり精査できる。 | 充分とは言えないが精査しようとしている。 | 基本を踏まえることはできる。 | 基本が理解できていない。 | 指導案作成 | 30% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | | |
|--|--|------|--------------------------|------------|------------|----------|-------|--|
| 図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and Handicrafts | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2024 | 1年次 2年次 | 後期 前期 | | |
| 講義・演習・実技・実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 | | |
| 演習 | 2 | 必修 | 必修 | 縄田也千 | 単独 | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ | | |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ | | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | | | |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | |
| コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 （1）当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 （2）当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標：1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | | | |
| 図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける | | | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | | | |
| （1）図画工作科教材研究の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。 到達目標：1）学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | (1)-1 | | | |
| 2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | | | | | | | (1)-2 | |
| 3）図画工作科の学習評価の考え方を理解している。 | | | | | | | | |
| 4）図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | | (1)-4 | |
| （2）図画工作の指導方法と授業方針を理解している 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けている。 到達目標：1）子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | (2)-1 | | | |
| 2）図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | | | | | | | (2)-2 | |
| 3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | | | |
| 4）模擬授業に実施とその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | | (2)-4 | |

| 回数 | 図画工作科指導法 授業内容【1年次後期】【縄田也千】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|------|--|----------------------------------|--|----------------------------|
| 1 | 図画工作科指導法とはどんな授業か、図画工作は何のためにあるのか、その目標や内容を理解する。 | 事前に配ったプリントを読む・2時間 | 図画工作科指導法の目標、内容理解について考察し感想を書く・2時間 | (1)－1) (2)－2) |
| 2 | 低学年～中学年の教科書を見ながら、低学年～中学年の学習内容と特徴を学ぶ。 | 前時に配った小学生の教科書に目を通す通・2時間 | 低学年、中学年教科書の内容理解について考察し感想を書く・2時間 | (1)－1) (1)－2) |
| 3 | 中学年～高学年の教科書を見ながら、中学年～高学年の学習内容と特徴を学ぶ。 | 前時に配った小学生の教科書に目を通す・2時間 | 中学年、高学年教科書の内容理解について考察し感想を書く・2時間 | (1)－1) (1)－2) |
| 4 | 造形遊びの意義とその内容について実践し、その意義を理解する。 | 前時に配った「造形遊び」のプリントに目を通す・2時間 | 「造形遊び」の内容理解について考察し感想を書く・2時間 | (2)－1) |
| 5 | 図画工作における絵画・デザイン・工芸・彫刻の各領域の内容を理解し、図画工作教材との関連を理解する。 | 前時に配った「各領域」についてのプリントに目を通す・2時間 | 「各領域」の内容理解について考察し感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－1) |
| 6 | 図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ①(クレヨン・コンテ・マーカー・色鉛筆で線遊びをする) | 前時に配った「用具の特質①」についてのプリントに目を通す・2時間 | 用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2) |
| 7 | 図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ②(竹ペン・墨で観察画を描く「にぼし」) | 前時に配った「用具の特質②」についてのプリントに目を通す・2時間 | 用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2) |
| 8 | 図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ③(透明水彩・ポスターカラーでパッチックなどを体験する。) | 前時に配った「用具の特質③」についてのプリントに目を通す・2時間 | 用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－2) |
| 9 | 「コラージュ」(モダンテクニック)の歴史(美術史)について映像資料を通して授業を想定しながら雑誌、新聞紙をちぎり、「見立て遊び」を経験する。 | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | コラージュの歴史を知り、紙を使用して制作できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－2) |
| 10 | 「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら枯れ葉で「見立て遊び」を経験する。 | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | コラージュの技法で自然物を使用して制作できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) (2)－3) |
| 11 | 「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら雑誌から「同じ色集め」を経験する。(色彩学) | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | コラージュの技法で「同じ色」を集めて制作できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－3) |
| 12 | コラージュ作品を並べ、先生、児童になってお互いの作品の良いところを見つけて評価することができる。 | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | 教師の立場に立って、お互いの作品の講評ができたかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－3) (1)－4) |
| 13 | ICT機器を活用し、画像や映像をもとにしたイメージトレーニングを通じて、発想力を身につける。 | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | 教師自身の想像力、創造力が身に付いたかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) (2)－3) |
| 14 | 好きな物や人形を好きな場所に配置し、デジカメで撮影し「物語」を作ることができる。 | 前時に配ったプリントに目を通す・2時間 | 教師自身の想像力、創造力が身に付いたかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) (2)－3) |
| 15 | 9～14までの教材から好きなものを選んで指導案を書いてみる。(後期の模擬授業にむけて) | 前時に配った指導案についてのプリントに目を通す・2時間 | 学年を想定して今までの教材を使った指導案が書けたかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－1) (2)－2) (2)－3) |
| 定期試験 | 前半は実施しない。後半15コマ(2年前期)が終わった時点で定期試験を行う | | | |

| 回数 | 図画工作科指導法 授業内容 【2年次前期】【縄田也千】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|------------------------------------|---|---------------------------------|---|----------------------------|
| 16 | 模擬授業の実践①各自の作成した低学年の指導案を元にして実践し、ビデオカメラに録画する。 | 低学年用の指導案に目を通す・2時間 | 指導案を元実践できたかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) (2)－3) (2)－4) |
| 17 | 模擬授業の実践②各自の作成した中学年、高学年の指導案を元にして実践し、ビデオカメラに録画する。 | 中・高学年用の指導案に目を通す・2時間 | 指導案を元実践できたかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) (2)－3) (2)－4) |
| 18 | 絵巻物の作成(鳥獣人物戯画)日本の美術への理解を深め、授業に取り入れる事ができる。 | 前時に配った日本美術のプリントに目を通す・2時間 | 絵巻物の歴史を理解しているかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－1) |
| 19 | キット教材の研究 特質や問題点を認識し、授業計画の中に取り込むことができる。 | 前時に配ったキット教材についてのプリントに目を通す・2時間 | キット教材について理解しているかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－1) (2)－2) |
| 20 | キット教材の制作 ワイヤアート、アナモルフォーシスシートの作成方法を理解し、作る事ができる。 | 代表的なキット教材についてのプリントに目を通す・2時間 | キット教材について理解し作成できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－1) (2)－2) |
| 21 | 版画の研究① 作品の画像をもとに版画の種類を各技法の特徴と用具を学ぶ。 | 前時に配った版画の研究①のプリントに目を通す・2時間 | 版画の特質を理解し作品制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 22 | 版画の研究② 映像資料をもとにステレン版画、回転版画の制作手順を知る。(低学年) | 前時に配った版画の研究②のプリントに目を通す・2時間 | 版画の特質を理解し作品制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 23 | 版画の研究③ 映像資料をもとに紙版画、木版画の制作手順を知る。(中学年・高学年) | 前時に配った版画の研究③のプリントに目を通す・2時間 | 版画の特質を理解し作品制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 24 | 立体に表すとは?粘土、紙、木、廃材を使った立体作品の鑑賞を通じて、立体造形のたのしさと意義を学ぶ。 | 前時に配った「立体造形」についてのプリントに目を通す・2時間 | 立体に表す事の意義、鑑賞についての理解ができているかを考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 25 | 粘土の種類と特質を知り、使いこなせるようになる。(本物そっくり) | 前時に配った粘土に関するプリントに目を通す・2時間 | 粘土の特質を理解した上で制作できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 26 | 紙の種類と特質を知り、使いこなせるようになる。(飛び出すカード、六角返し他) | 前時に配った「紙」に関するプリントに目を通す・2時間 | 紙の特質を理解した上で制作できたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 27 | 牛乳パック、コロッコで「私たちの町」を作って共同作品のたのしさを味わい、その意義を学ぶ。 | 共同制作についてのプリントに目を通す・2時間 | 共同制作について理解し、制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (2)－2) |
| 28 | モダンテクニック①マーブリングやデカルコマニー、スクラッチステンシル、ドリッピング、スクラッチ等で「感想画」を描く。 | モダンテクニック①についてのプリントに目を通す・2時間 | モダンテクニック①について理解し、制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－2) |
| 29 | モダンテクニック②マーブリングやデカルコマニー、スクラッチステンシル、ドリッピング、スクラッチ等で「空想画」を描く。 | モダンテクニック②についてのプリントに目を通す・2時間 | モダンテクニック②について理解し、制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | (1)－4) (2)－2) |
| 30 | 1年間の授業で制作したものと模擬授業の録画映像を振り返り、実習に活用できるようにする。 | ファイルを整理して実際の授業に使用できそうな教材を選ぶ・2時間 | ファイル作品を整理する・2時間 | (2)－2) (2)－3) (2)－4) |
| 定期試験 | 後半15コマ(2年前期)が終わった時点で定期試験を行う | | | |
| 成績評価 方 | 図画工作科の目標、内容の理解(定期試験):15% 教材作成(意欲・関心・態度・発想力・完成度等)60% 模擬授業、指導案25% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 毎回の考察・感想文の提出 前半、後半30コマ分の作品ファイルを作成し、毎回振り返りを行う。後に返却する。 | | | |

| | |
|-------------|--|
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 図画工作編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』日本文教出版 『図画工作科教材研究』山口短期大学 |
| メッセージ | 図画工作は、子どもの「心」を育てる大切な科目で、アクティブラーニングそのものといえます。子どもの素直な表現を認め、評価できる教師を育成します。 小学校教諭二種状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 図画工作科教材研究の目標及び内容 1) 学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 | ほぼ完璧に理解、説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解、説明できる。 | 全く理解できていない。説明できない。 | 課題レポート（知識・理解）授業 | 5% |
| (1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 | ほぼ完璧に理解、説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解説明できる。 | 全く理解できていない。説明できない。 | 課題レポート（知識・理解） | 5% |
| (1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。 | ほぼ完璧に理解、説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかある最低限の基本を理解、説明できる。 | 全く理解できていない。説明できない。 | 課題レポート（知識・理解） | 5% |
| (1)-4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 | ほぼ完璧に理解し、教材研究を十分に活用した作品制作ができる。 | 大きな間違いがなく理解し、教材研究を活用し作品制作ができる。 | 間違いはいくつかあるが、基本を理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。 | 全く理解できない。教材研究を活用した作品制作ができない。 | ・授業内の教材研究（意欲、関心、態度） ・各作品提出（完成度、技能、発想力） | 20% |
| (2) 図画工作の指導方法と授業方針を理解している。 1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | ほぼ完璧に理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。 | 間違いはいくつかあるが基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。 | 全く理解できていない。学年や発達を視野に入れた教材選択ができない。 | | |
| (2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 | ほぼ完璧に教材、用具を効果的に活用した作品制作ができている。 | 大きな間違いがなく教材、用具を活用した作品制作ができている。 | 間違いは少しあるが教材、用具を活用した作品制作ができている。 | 全く教材、用具を活用した作品制作ができている。 | ・用具の使用方法（知識、使用方法の理解） ・指導案に合う試作品の作成（応用力） | 20% |
| (2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。 | 大きな間違いがなく指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、指導案を書くことができ、それに合った試作品を作成できる。 | 全く指導案を書けない。指導案に合った試作品の作成ができない。 | | |
| (2)-4) 模擬授業の実施との振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けている。 | ほぼ完璧な模擬授業ができる。 | 大きな間違いがなく、模擬授業ができる。 | 間違いはいくつかあるが、模擬授業ができる。 | 全く模擬授業ができない。 | ・模擬授業 課題レポート | 5% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|--------------------------|------------|------|-----------|
| 体育科指導法 Teaching Methods of Physical Education | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2025 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 必修 | 手島史子 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| <p>全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>(1) 当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>(2) 当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。</p> <p>3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 今日の社会及び将来の社会において求められている「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」ために必要な資質・能力を、学習指導要領に示された体育教科の学習内容を中心に理解する。また、それを子どもたちが身につけるための学習指導理論を実践的に学修し、実践できる基礎的な資質・能力を理解する。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| <p>一般目標：学習指導要領に示された体育教科の目標や内容を、根拠を持って理解し、その内容が持つ本質を子どもたちがつかみ取れるよう授業計画を立てることができる。</p> <p>到達目標：</p> <p>(1) 学習指導要領における体育教科の目標・内容等を今日及び将来の社会的状況を踏まえて理解している。</p> <p>1) 今日及び将来の社会とスポーツの価値について理解している。</p> <p>2) 学習指導要領の目標について理解している。</p> <p>3) 学習指導要領の内容について理解している。</p> <p>(2) 体育教科の学習内容における指導上の留意点及び学習評価の在り方を理解している。</p> <p>1) 各学習内容の指導上の留意点を理解している。</p> <p>2) 体育教科の評価の在り方について理解している。</p> <p>(3) 「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」のために必要な資質・能力を理解している。</p> <p>1) スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解している。</p> <p>2) スポーツを行うための必要条件について理解している。</p> <p>3) 器械運動のマット運動それ自体の面白さに基づいた授業計画作成の在り方を理解している。</p> <p>4) 陸上運動の短距離走それ自体の面白さに基づいた授業計画作成の在り方を理解している。</p> <p>(4) 「目的・目標—内容—教材—方法—評価の統一」を意識した授業計画案をつくらることができる。</p> <p>1) 「目的・目標—内容—教材—方法—評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。</p> <p>2) 自分で作成した授業計画を1) に基づき検討することができる。</p> | | | | | | |
| | | | | | | (1)-1) |
| | | | | | | (1)-1)、4) |
| | | | | | | (1)-1)、4) |
| | | | | | | (1)-2) |
| | | | | | | (1)-3) |
| | | | | | | (2)-1) |
| | | | | | | (2)-1) |
| | | | | | | (2)-2) |
| | | | | | | (2)-2) |
| | | | | | | (2)-3) |
| | | | | | | (2)-4) |

| 回数 | 体育科指導法 授業内容 【前期】 【手島史子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|------|--|---------------------------------|-------------------|-------------------------------------|
| 1 | 学習指導要領「体育教科」の読み方 | | 配布資料を読み返す。2時間 | (1) - 2)・3) |
| 2 | 学習指導要領「体育教科」の目標と現代社会について | 学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 1)・2) |
| 3 | 学習指導要領「体育教科」の学年別にみる内容について | 学習指導要領を体育科の内容について読んでおく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 3) |
| 4 | 学習指導要領「体育教科」の内容と指導上の留意点 | 学習指導要領を体育科の内容の取り扱いについて読んでおく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) |
| 5 | 「豊かなスポーツライフ」をキーワードに「体育教科の目標・内容」について意見交換する | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 1)・ 2)・3) (3) - 1) |
| 6 | 自分達が受けてきた「体育教科」を振り返る(意見交換及び報告) | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 1)・ 2)・3) |
| 7 | 体育教科の授業計画をつくるときの基礎知識 | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - 1) (4) - 1) |
| 8 | スポーツそれ自体の面白さとスポーツを行う必要条件について | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - 1)・ 2) |
| 9 | 現代社会におけるスポーツの価値について | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - 1) |
| 10 | スポーツそれ自体の面白さを器械運動のマット運動で考える | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - 1)・3) |
| 11 | 授業計画作成上の基礎知識(器械運動のマット運動を例にして) | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (2) - 1) (3) - 1)・3) (4) - 1) |
| 12 | 器械運動のマット運動それ自体の面白さとは何か検討する(意見交換及び報告) | 前回の資料を読んで復習しておく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - 1)・ 3) (2) - 1) |
| 13 | 器械運動のマット運動それ自体の面白さをベースにした授業づくり(グループでの活動)(ICTの活用) | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (2) - 1) (3) - 1)・3) (4) - 1) |
| 14 | 器械運動のマット運動それ自体の面白さをベースにした授業づくり(報告)(ICTの活用) | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - 1)・3) (4) - 1) |
| 15 | 器械運動のマット運動それ自体の面白さをベースにした授業の報告に基づく検討 | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 2) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |

| 回数 | 体育科指導法 授業内容【後期】 【手島史子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|----------------------------|-------------------|---|
| 16 | 「豊かなスポーツライフの実現」を視点とした小学校での体育教科の授業の検討(意見交換) | 学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (1)・(2)・(3) |
| 17 | スポーツを行うための必要条件について | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - (2) |
| 18 | 体育教科の評価と授業の在り方 | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (2) - (2) |
| 19 | 評価の視点から見る体育教科の授業づくり | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (2) - (2) (4) - (1) |
| 20 | 学習指導要領体育教科における陸上運動の短距離走の目標及び内容について | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (2)・(3) |
| 21 | 陸上競技の短距離走それ自体の面白さを考える | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (3) - (1)・(4) |
| 22 | 陸上競技の短距離走を科学的に考察するー走り可視化するー | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (2)・(3) |
| 23 | 陸上競技の短距離走の可視化することを意識した授業計画をつくる(情報機器の使用の検討) | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 指導案の作成をする。2時間 | (3) - (1) (3) - (4) |
| 24 | グループに分かれ短距離走における「速く走る」を意識した内容及び方法を検討する | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (3) (3) - (4) |
| 25 | 24回目の授業で検討した内容・方法を、グループで実際に確かめ修正する(グループ1と2の模擬授業) | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (3) (3) - (4) (4) - (2) |
| 26 | 24回目の授業で検討した内容・方法を、グループで実際に確かめ修正する(グループ3と4の模擬授業) | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (3) (3) - (4) (4) - (2) |
| 27 | 25・26回目の授業で修正した内容・方法を報告し意見交換する | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (3) (3) - (4) (4) - (2) |
| 28 | 意見交換で得た知見をもとにグループで報告した内容・方法を修正する | 指導案の作成をする。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (3) (3) - (4) (4) - (2) |
| 29 | 授業計画作成における「目的・目標ー内容ー教材ー方法ー評価の統一」という視点の重要性について考える | 自身の指導案を見直す。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (2)・(3) (2) - (1)・(2) (4) - (1) |
| 30 | 「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」のために必要な資質・能力について | 前回の資料を読んで復習する。2時間 | 授業の要点をまとめる。2時間 | (1) - (1)・(2)・(3) (3) - (1)・(2) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価方法 | 授業時の発表(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)30%、授業計画案(思考力・判断力・構成力)50% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 各授業でレポートをした場合は、翌週にコメントを付けて返却する。また授業の検討会や意見交換会では授業内でフィードバックをする。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 体育編(平成29年7月 文部科学省)』 授業中に適時資料を配付する | | | |
| メッセージ | 身体を動かしながら、あるいは意見交換をする場において、自分の考えを表現しながらも、他者の意見や考えについても熟考できるよう、みんなで切磋琢磨しましょう。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------|---------------------|--------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 今日及び将来の社会とスポーツの価値について理解している。 | スポーツの価値について今日的状況を踏まえて考えを述べられる。 | スポーツの価値について資料などを参考に考えを述べられる。 | 自分なりの経験的な考えを述べることができる。 | スポーツの価値について述べるできない。 | 授業時の発表 | 5% |
| (1)-2) 学習指導要領の目標について理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 授業時の発表 | 10% |
| (1)-3) 学習指導要領の内容について理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 授業時の発表 | 5% |
| (2)-1) 各学習内容の指導上の留意点を理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 指導計画案 | 10% |
| (2)-2) 体育教科の評価の在り方について理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 15% |
| (3)-1) スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 15% |
| (3)-2) スポーツを行うための必要条件について理解している。 | 自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 授業指導案 | 10% |
| (3)-3) 器械運動のマット運動それ自体の面白さに基づいた授業計画作成の在り方を理解している。 | マット運動それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。 | マット運動の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。 | マット運動の面白さの知識を知る程度で理解している。 | 理解できていない。 | 授業指導案 | 10% |
| (3)-4) 陸上運動の短距離走それ自体の面白さに基づいた授業計画作成の在り方を理解している。 | 短距離走それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。 | 短距離走の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。 | 短距離走の面白さの知識を知る程度で理解している。 | 理解できていない。 | 授業計画案 | 10% |
| (4)-1) 「目的・目標—内容—教材—方法—評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 授業計画案 | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------------|------------|------|--------|
| 家庭科指導法 Teaching Methods of Home Economics | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2026 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 選択 | 三時貴久子 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>（1）当該教科の目標及び内容 一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>（2）当該教科の指導方法と授業設計 一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 到達目標：1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 小学校学習指導要領家庭における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習内容について他教科との関連や歴史的背景について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| (1) 学習指導要領に示された家庭の目標や内容を理解する。 1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。 | | | | | | (1)-3) |
| 4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 様々な学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | | | | | | (2)-3) |
| 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 | | | | | | (2)-4) |

| 回数 | 家庭科指導法 授業内容 【三時貴久子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|-------------------------------------|---|--|---|-----------------------|
| 1 | 家庭科教育の意義と歴史について理解する。 | テキスト p 1 3 から 1 5 を読んでおく。2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2 時間。 | (1) - 1)、 (1) - 4) |
| 2 | 指導要領に示された家庭の目標及び内容構 成を理解する。 | 指導要領解説 p 1 2 から 1 6 までを読んでおく。 2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2 時間。 | (1) - 1) |
| 3 | 指導計画の作成・内容の取り扱いについて理 解する。 | 指導要領解説 p 7 1 から 7 9 までを読んでおく。 2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2 時間。 | (1) - 1)、 (1) - 2) |
| 4 | 小学校家庭科における子供の家庭理解及び 家庭との連携の重要性について理解する。 | 指導要領解説 p 8 0 から 8 3 までを読んでおく。 2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2 時間。 | (1) - 2)、 (2) - 1) |
| 5 | ICT を活用した「A 家族・家庭生活」につい て実践上の留意点を学ぶ。乳幼児の育児や高 齢者の介護に関する映像を用いた授業の展 開を学ぶ。 | 指導要領解説 p 2 0 から 3 1 までを読んでおく。 2 時間。 | 実践上の留意点と映像を 用いた授業の展開につい てまとめる。2 時間。 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 6 | ICT を活用した「B 衣食住の生活」について、 実践上の留意点 (1) を学ぶ。一包丁、アイ ロン、ミシン等の用具の安全な使い方を指導 するために、ICT を使用し映像資料を作成す る方法を学ぶ。 | 児童用教科書の該当ペー ジを読み、指導上のポイ ントをまとめておく。2 時間。 | 資料作成上の留意点をま とめる。2 時間。 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 7 | ICT を活用した「B 衣食住の生活」について、 実践上の留意点 (2) を学ぶ。一道具の扱い 方をタブレットで撮影しあい、映像を見て技 能を高めようとするための指導を学ぶ。 | 児童用教科書の該当ペー ジを読み、実践上の留意 点をまとめておく。2 時 間。 | 映像撮影上の留意点をま とめる。2 時間。 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 8 | ICT を活用した「C 消費生活・環境」につい て、実践上の留意点を学ぶ。一情報通信機器 を用いて生活・環境の問題を調べ、情報を収 集・整理し、発表するまでを指導する方法を 学ぶ。 | 児童用教科書の該当ペー ジを読み、実践上の留意 点をまとめておく。2 時 間 | 指導の手順をまとめる。 2 時間。 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 9 | 指導案作成の手順及び評価の意義や方法を 理解する。 | 指導案作成について、配 付資料を読んでおく。2 時間。 | 指導案作成の手順・評価 の意義、方法をまとめる。 2 時間。 | (1) - 3)、 (2) - 1) |
| 1 0 | 「A 家族・家庭生活」について模擬授業の教 材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用 いて資料の準備を行う。 | 指導要領解説と児童用教 科書の該当ページを読ん でおく。2 時間 | 学習指導案の再考を行い 完成させる。2 時間。 | (2) - 3)、 (2) - 2) |
| 1 1 | 模擬授業の実践と振り返り・評価を行う。 | 模擬授業の発問・板書計 画を準備する。2 時間 | 模擬授業後の検討会で学 んだことをまとめる。2 時間。 | (2) - 4) |
| 1 2 | 「B 衣食住の生活」について模擬授業の教材 を選び、学習指導案の作成、パソコンを用い て資料の準備を行う。 | 指導要領解説と児童用教 科書の該当ページを読ん でおく。2 時間。 | 学習指導案の再考を行い 完成させる。2 時間。 | (2) - 3)、 (2) - 2) |
| 1 3 | 模擬授業を実践し、振り返りと評価を行う。 | 模擬授業の発問・板書計 画を準備しておく。2 時 間。 | 模擬授業後の検討会で学 んだことをまとめる。2 時間 | (2) - 4) |
| 1 4 | 「C 消費生活・環境」について模擬授業の教 材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用 いて資料準備を行う。 | 指導要領解説と児童用教 科書の該当ページを読ん でおく。2 時間。 | 学習指導案の再考を行い 完成させる。2 時間。 | (2) - 3)、 (2) - 2) |
| 1 5 | 模擬授業の実践を録画した映像をもとに、振 り返りと評価を行う。 | 模擬授業の発問・板書計 画を準備しておく。2 時 間 | 検討会で学んだことをま とめる。2 時間 | (2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価 方 法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) 3 0 % 指導案作成・模擬授業の実践 (思考力・判断力・表現力) 3 0 % 定期試験 (知識・理解) 4 0 % | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 提出物について、評価できる点や改善点を示す。 | | | |

| | |
|-------------|---|
| テキストおよび参考文献 | テキスト：小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 『家庭科教材研究』山口短期大学 参考文献：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』東洋館出版 |
| メッセージなど | 子供が自分の家庭生活を見つめ直し、改善し、よりよい生活者としての歩みができるようになるための家庭科の授業はどうあるべきかを一緒に学びましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------|-----------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。 | ほぼ完璧に理解し、説明できる。 | 大きな間違いがなく理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し説明できる。 | 理解できていない。 | 定期試験 | 20% |
| (1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。 | ほぼ完璧に理解し、活用できる。 | 大きな間違いがなく理解し、活用できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し活用できる。 | 理解が不足し、活用できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 | 実態把握の重要性を十分理解し、授業設計できている。 | 実態把握の重要性を理解し、授業設計できる。 | 実態把握の重要性は理解できているが授業設計に十分生かしていない。 | 実態把握の重要性を視野に入れた授業設計ができない。 | 指導案作成 | 10% |
| (2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。 | ICT 等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。 | ICT 等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。 | ICT 等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。 | ICT 等を活用した授業設計ができない。 | | 10% |
| (2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。 | 大きな間違いがなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。 | 理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。 | 作成できていない。 | | 10% |
| (2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。 | 模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。 | 模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。 | 模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。 | 模擬授業の実践も振り返りもできていない。 | 授業への取り組み・討議への参加 | 30% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------|-------------------|------|--------|
| 道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teaching Method | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS1027 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | 必修 | 必修 | 山根郁夫 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 | | | | 道徳の理論及び指導法 | | |
| ○コアカリキュラム：道徳の理論及び指導法 | | | | | | |
| <p>全体目標：道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。</p> <p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>(1) 道徳の理論 一般目標：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 到達目標：1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>(2) 道徳の指導法 一般目標：学校教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 到達目標：1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 5) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 道徳の根本理念や道徳教育推進の意義を学校教育と関連づけ、小学校における道徳教育の目標や内容について理解する。 | | | | | | (1)-1) |
| 1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。 | | | | | | |
| 2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。 | | | | | | |
| 3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。 | | | | | | |
| 4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 全教育活動を通じて行う道徳教育及び道徳科における授業の在り方や指導計画の作成について理解を深め、道徳科の授業設計能力並びに授業実践力を習得する。 | | | | | | (2)-1) |
| 1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。 | | | | | | |
| 2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。 | | | | | | |
| 3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。 | | | | | | |
| 4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。 | | | | | | (2)-5) |

| 6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。 | | | | (2)-6) |
|-------------------------------------|---|--|---|--|
| 回数 | 道徳の理論と指導法 【山根郁夫】 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
| 1 | 人間としての生き方を学ぶ道徳教育 | テキスト序章を読んでおく。 2時間 | 自分の道徳教育観をまとめる。 2時間 | (1) - 1) |
| 2 | 道徳教育の変遷 | テキスト第1章を読んでおく。 2時間 | 道徳教育の歴史的経緯をまとめる。 2時間 | (1) - 2) |
| 3 | 道徳性の発達と道徳教育 | テキスト第2章を読んでおく。 2時間 | 道徳性の発達特性を整理する。 2時間 | (1) - 3) |
| 4 | 道徳教育の目標及び内容 | テキスト第3章を読んでおく。 2時間 | 目標の相互関連、内容の整理をする。 2時間 | (1) - 4) |
| 5 | 全教育活動における道徳教育 | テキスト第4章1～4を読んでおく。 2時間 | 全教育活動で行う方法をまとめる。 2時間 | (2) - 1) |
| 6 | 道徳教育計画の策定 | テキスト第4章の5を読んでおく。 2時間 | 作成の意義と要点をまとめる。 2時間 | (2) - 1) |
| 7 | 道徳科の指導過程と教材・発問 | テキスト第5章を読んでおく。 2時間 | 基本過程に沿った指導の要点や発問についてまとめる。 2時間 | (2) - 2) (2) - 3) |
| 8 | 道徳科における評価 | テキスト第6章を読んでおく。 2時間 | 評価の意義、対象、方法をまとめる。 2時間 | (2) - 5) |
| 9 | 道徳科学習指導案の作成の仕方 | テキスト第7章及び道徳科指導書の関連部分を読んでおく。 2時間 | 基本形式、項目、項目ごとの記載の要点をまとめる。 2時間 | (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) |
| 10 | 道徳科学習指導案の作成(グループ研究) —低学年教材— 「はしの上のおおかみ」 | テキスト第8章を読んで、銘々が所定様式に授業シナリオを作成しておく。 3時間 | 協議をもとに、銘々が道徳科学習指導案「はしの上のおおかみ」を作成する。 4時間 | (1) - 3) (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) |
| 11 | 授業説明(グループ代表)及び研究協議 | 役割分担に従い、発表内容やその意図について考えをまとめておく。 2時間 | 協議をもとに、指導案を見直し、完成させる。 2時間 | (1) - 3) (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) |
| 12 | 道徳科学習指導案の作成—中学年教材— 「学級文庫」 —高学年教材— 「転校生がやってきた」 | それぞれの教材について学習指導案の原案を作成する。 3時間 | 指導案を作成する。(模擬授業実施分、模擬授業省略分) 4時間 | (1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) |
| 13 | 模擬授業の実施 | 指導案作成と模擬授業の準備をする。 2時間 | 模擬授業の反省事項をまとめる。 2時間 | (2) - 6) |
| 14 | 模擬授業の実施 | 指導案作成と模擬授業の準備をする。 2時間 | 模擬授業の反省事項をまとめる。 2時間 | (2) - 6) |
| 15 | 模擬授業の実施 | 指導案作成と模擬授業の準備をする。 2時間 | 模擬授業の反省事項をまとめる。 2時間 | (2) - 6) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 学習態度(関心・意欲・態度) 30%、定期試験(知識・理解) 40% 学習指導案・模擬授業(表現力・思考力・判断力) 30% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:『道徳教育の研究』山口短期大学 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 総則編(平成29年7月 文部科学省)』 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 小学校特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)』『小学校新学習指導要領の展開 特別の教科道徳編』永田繁雄 編著 明治図書 | | | |
| メッセージなど | 特別な教科として位置づけられ、教科書の導入も確定するなど、道徳教育に対する国民の関心も一層高まっています。人格形成という教育の根幹に直接関わるだけに指導者の資質や技量の向上がより一層強く求められています。 小学校教諭二種状:必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------|---|------------------------|
| (1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | | |
| (1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | | 5% |
| (1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | | |
| (2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | | 5% |
| (2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな誤りなく説明することができる。 | 誤りはあるが、大筋については説明することができる。 | 説明することができない。 | | |
| (2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。 | ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。 | 大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。 | 特性を生かしてないが授業設計の基本はできる。 | 教材の特性を生かした授業設計ができない。 | 課題レポート、グループ討議、定期試験 (知識・理解 関心・意欲・ 態度・判断力・ 表現力・ 思考力) | 50% (内、定期試験 20%) |
| (2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に作成できる。 | 大きな誤りなく作成できる。 | いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。 | 作成できない。 | | |
| (2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。 | ほぼ完璧に道徳科における評価の仕方が説明できる。 | 大きな誤りなく道徳科における評価の仕方が説明できる。 | 道徳科における評価の仕方の大筋が説明できる。 | 道徳科における評価の仕方が説明できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。 | ほぼ完璧に模擬授業が展開できる。 | 若干の検討課題はあるが、基本を踏まえた模擬授業が展開できる。 | 問題点はあるが、最低限の基本を踏まえた模擬授業が展開できる。 | 模擬授業を展開することができない。 | 模擬授業(知識・理解・判断力・表現力) | 30% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|---|--|-------------------|--------------------|------|--------|-------|
| 総合的な学習の時間の指導法 Teaching Methods of Period for Integrated Studies | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2028 | 2年次 | 後期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 必修 | 川上 認 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 | | | 総合的な学習の時間の指導法 | | | |
| ○コアカリキュラム：総合的な学習の時間の指導法 | | | | | | |
| 全体目標：総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 総合的な学習の時間の意義と原理 一般目標：総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 到達目標：1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。 2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。 | | | | | | |
| (2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成 一般目標：総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 到達目標：1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。 2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。 | | | | | | |
| (3) 総合的な学習の時間の指導と評価 一般目標：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。 到達目標：1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。 2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から見て捉え、実社会・実生活の課題を探究する総合的な学びを実現するための指導の在り方を身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 総合的な学習の時間の意義と原理 一般目標：総合的な学習の時間の意義や、目標や内容を定める際の考え方を理解する。 到達目標：1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割を説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 総合的な学習の時間の目標並びに内容設定の際の留意点を列記できる。 | | | | | (1)-2) | |
| (2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成と指導の在り方 一般目標：総合的な学習の時間の指導計画作成方法や指導方法の基礎的な能力を身に付ける 到達目標：1) 学校や地域の実態に即した模擬的な年間指導計画が作成できる。 | | | | | (2)-1) | |
| 2) 模擬的な単元計画や指導案が作成できる。 | | | | | (2)-2) | |
| 3) 総合的な学習の時間の特質を生かした指導事例を理解している。 | | | | | (2)-3) | |
| (3) 総合的な学習の時間の評価 到達目標：総合的な学習の時間の評価の在り方を理解する 一般目標：1) 総合的な学習の時間の指導と評価活動上の留意点を説明できる。 | | | | | (3)-1) | |
| 2) 総合的な学習の時間における多様な学習状況評価の方法を列記できる。 | | | | | (3)-2) | |

| 回数 | 総合的な学習の時間の指導法 授業内容【川上 認】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|--|------------------------|---------------------------|-------------|
| 1 | 総合的な学習の時間の意義と役割を学ぶ | 要領解説第1章を読む 1時間 | 意義と役割をまとめる 1時間 | (1) - 1) |
| 2 | 総合的な学習の時間の目標を理解する | 要領解説第2章1節読む 1時間 | 目標を箇条書きする 1時間 | (1) - 2) |
| 3 | 総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を理解する | 要領解説第2章2節を読む 1時間 | 育てたい資質・能力を表にする 1時間 | (1) - 2) |
| 4 | 各学校で定める総合的な学習の時間の目標と内容を理解する | 要領解説第3章1, 2節を読む 1時間 | 各学校に適する配慮点をまとめる 1時間 | (1) - 2) |
| 5 | 児童や地域の実態、学校の特色に応じた探求課題を理解する | 要領解説第3章3節を読む 1時間 | 課題達成のための資質・能力を列記する 2時間 | (1) - 2) |
| 6 | 年間指導計画、単元計画作成上の配慮点を学ぶ | 要領解説第4章を読む 1時間 | 作成上の配慮事項をまとめる 1時間 | (2) - 1) |
| 7 | 模擬的な指導計画を作成する | 指導計画の要素を調べる 1時間 | 配慮事項と照合してみる 1時間 | (2) - 2) |
| 8 | 総合的な学習の時間の特質を生かした指導事例を学ぶ | テキスト第1章を読む 1時間 | 本地域に適した教材、課題を考える 1時間 | (2) - 3) |
| 9 | 学習指導事例① 考えるための技法を活用した学習活動 | テキスト第2章を読む 1時間 | 技法の一覧表を作る 1時間 | (2) - 3) |
| 10 | 学習指導事例② 情報活用能力を生かした学習活動 | テキスト第3章を読む 1時間 | タブレットを利用してみる 2時間 | (2) - 3) |
| 11 | 学習指導事例③ 体験活動を重視した学習活動 | テキスト第4章を読む 1時間 | 体験活動の意義をまとめる 1時間 | (2) - 3) |
| 12 | 学習指導事例④ 地域教材や環境を生かした学習活動 | テキスト第5章を読む 1時間 | 人材バンクを作成する 2時間 | (2) - 3) |
| 13 | 学習指導事例⑤ 調査活動を重視した学習活動 | テキスト第6章を読む 1時間 | 調査方法の一覧表を作る 1時間 | (2) - 3) |
| 14 | 総合的な学習の時間の評価活動上の留意点を理解する | 要領解説第8章を読む 1時間 | 留意点をまとめる 1時間 | (3) - 1) |
| 15 | 児童の学習状況評価、教師や学校の評価の在り方を学ぶ | 要領解説第9章を読む 1時間 | 評価方法を列記する 1時間 | (3) - 2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業態度（関心・意欲・能力）50% 定期試験 50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 個人評価や相互評価、活動の成果物等でフィードバックし、学習を深める。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）』東洋館出版 | | | |
| メッセージなど | 教科の学習の枠を超えた多様で創造的で、共に学ぶ楽しい授業展開の計画・実践力を身に付けよう。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--------------------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|----------------|------|
| (1)-1) 総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。 | ほぼ確実に役割を説明できる。 | 十分に役割を説明できる。 | おおむね役割を説明できる。 | ほとんど役割を説明できない。 | 定期試験 (知識) | 10% |
| (1)-2) 総合的な学習の時間の目標や内容を説明できる。 | ほぼ確実に目標や内容を説明できる。 | 十分に目標や内容を説明できる。 | おおむね目標や内容を説明できる。 | ほとんど目標や内容を説明できない。 | 定期試験 (知識) | 20% |
| (2)-1) 総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。 | ほぼ確実に作成上の留意点が説明できる。 | 十分に作成上の留意点が説明できる。 | おおむね作成上の留意点が説明できる。 | ほとんど作成上の留意点が説明できない。 | 定期試験 (知識) | 10% |
| (2)-2) 総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。 | ほぼ確実に作成上の留意点が列記できる。 | 十分に作成上の留意点が列記できる。 | おおむね作成上の留意点が列記できる。 | ほとんど作成上の留意点が列記できない。 | レポート (表現力等) | 20% |
| (2)-3) 総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。 | ほぼ確実に指導法を具体的に述べることができる。 | 十分に指導事例を具体的に述べることができる。 | おおむね指導事例を具体的に述べることができる。 | ほとんど指導事例を具体的に述べるできない。 | 相互評価 (表現力等) | 20% |
| (2)-3) 総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。 | ほぼ確実に評価上の留意点を述べることができる。 | 十分に評価上の留意点を述べることができる。 | おおむね評価上の留意点を述べることができる。 | ほとんど評価上の留意点を述べるできない。 | 相互評価 (表現力等) | 10% |
| (3)-2) 総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。 | ほぼ確実に評価の多様性を述べることができる。 | 十分に評価の多様性を述べることができる。 | おおむね評価の多様性を述べることができる。 | ほとんど評価の多様性を述べるできない。 | 観察評価 (知識) | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|--|--|------|-------------------|-------------------|------|-------|-----------|
| 特別活動の指導法 Teaching Methods of Extra-Curricular Activities | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2029 | 2年次 | 前期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状 取得 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 | |
| 演習 | 1 | 選択 | 必修 | 川上 認 | 単独 | ○ | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | | |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ | |
| 科目 | | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 | | | | 特別活動の指導法 | | | |
| 〇コアカリキュラム：特別活動の指導法 | | | | | | | |
| <p>全体目標：特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。</p> <p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>(1) 特別活動の意義、目標及び内容 一般目標：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。</p> <p>(2) 特別活動の指導法 一般目標：特別活動の指導の在り方を理解する。 到達目標：1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> | | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | | |
| <p>小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>全体目標：学校教育全体の中で行われる特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点を持ち、学年の違いによる所属集団や活動の変化や各教科や道徳のとの関連及び他の教職員・家庭や地域との連携等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> | | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 | |
| (1) 特別活動の意義、目標及び内容 | | | | | | | |
| 一般目標：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 | | | | | | | |
| 到達目標：1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる。 | | | | | | | (1)-1)、2) |
| 2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる。 | | | | | | | (1)-1)、2) |
| 3) 特別活動の特質を列記できる。 | | | | | | | (1)-3) |
| 4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる。 | | | | | | | (1)-4) |
| (2) 特別活動の指導法 | | | | | | | |
| 一般目標：特別活動の指導の在り方を理解する。 | | | | | | | |
| 到達目標：1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる。 | | | | | | | (2)-1) |
| 2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案を模擬作成できる。 | | | | | | | (2)-1)、2) |
| 3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる。 | | | | | | | (2)-3)、4) |
| 4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる。 | | | | | | | (2)-2) |

| 回数 | 特別活動の指導法 授業内容 【川上 認】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|--|-------------------------|----------------------|-------------|
| 1 | 特別活動の改訂の基本方針や改善点を理解する | 要領解説第1章を読む 1時間 | 改善点をシートにまとめる 1時間 | (1) - 1) |
| 2 | 特別活動の目標や内容を理解する | 要領解説第2章1節を読む 1時間 | 振り返りシートにまとめる 1時間 | (1) - 2) |
| 3 | 特別活動の指導における他教科と異なる特質を調べる | 要領解説第2章2節を読む 1時間 | テキスト8～9Pを読む 1時間 | (1) - 3) |
| 4 | 学級活動の目標と内容(1)を理解する | 要領解説第3章を読む 1時間 | 内容(1)表にまとめる 1時間 | (1) - 4) |
| 5 | 学級活動の目標と内容(2)を理解する | 内容(1)(2)の分類表をつくる 2時間 | 内容(2)表にまとめる 1時間 | (1) - 4) |
| 6 | 児童会活動、クラブ活動目標と内容を理解する | 要領解説第3章2節3節を読む 1時間 | テキスト19～22Pを読む 1時間 | (1) - 4) |
| 7 | 学校行事の目標と内容を理解する | 要領解説第3章4節を読む 1時間 | テキスト23～28Pを読む 1時間 | (1) - 4) |
| 8 | 児童や家庭、学校、地域の実態に即した指導の在り方を理解する | 要領解説第4章1節を読む 1時間 | 要領解説付録3を読む 1時間 | (2) - 1) |
| 9 | 特別活動の全体・年間指導計画・指導案の作成の仕方を学ぶ | 全体計画の項目を列記する 1時間 | 振り返りシートに記入する 1時間 | (2) - 2) |
| 10 | 話し合い活動の指導計画を作成する | 活動形態を調べる 1時間 | テキスト14～18を読む 1時間 | (2) - 3) |
| 11 | 話し合い活動の指導実践する | 指導案を作成する 3時間 | 指導案を修正する 1時間 | (2) - 3) |
| 12 | 交流活動の実践計画を立てる | 挨拶状を書く 2時間 | 持参物を作る 2時間 | (2) - 3) |
| 13 | 交流活動を実践する | 活動の事前準備をする 1時間 | お礼状を書く 1時間 | (2) - 3) |
| 14 | 特別活動の評価の在り方を理解する | 要領解説第4章5節を読む 1時間 | 評価表を作る 1時間 | (2) - 4) |
| 15 | ガイダンスやカウンセリング(教育相談)の必要性を理解する | 要領解説第4章2節を読む 1時間 | ガイダンスについて調べる 1時間 | (2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 学習態度(関心・意欲・態度)50% 定期試験(知識・理解)50% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 過去の学習による累積した活動成果物の振り返りを通してフィードバックする | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編(平成29年7月 文部科学省)』東洋館出版社、『特別活動の研究』山口短期大学 | | | |
| メッセージなど | 教科の学習活動とは異なる特別活動の趣旨に鑑み、よりよい仲間づくりと楽しい学級・学校づくりを目指す姿勢で受講してほしい。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|------|
| (1)-1) 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる | ほぼ確実に方針や内容を対比できる | 十分に方針や内容を対比できる | おおむね方針や内容を対比できる | まったく方針や内容を対比できない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる | ほぼ確実に目標や内容を説明できる | 十分に目標や内容を説明できる | おおむね目標や内容を説明できる | まったく目標や内容を説明できない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-3) 特別活動の特質を列記できる | ほぼ確実に特質を列記できる | 十分に特質を列記できる | おおむね列記できる | まったく列記できない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-4) 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる | ほぼ確実に目標や内容を説明できる | 十分に目標や内容を説明できる | おおむね目標や内容を説明できる | まったく目標や内容を説明できない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2)-1) 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる | ほぼ確実に実態に配慮した指導の在り方を説明できる | 十分に実態に配慮した指導の在り方を説明できる | おおむね実態に配慮した指導の在り方を説明できる | まったく実態に配慮した指導の在り方を説明できない | 授業態度 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-2) 特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる | ほぼ確実に指導計画が作成できる | 十分に指導計画が作成できる | おおむね指導計画が作成できる | まったく指導計画が作成できない | 授業態度 (関心・意欲・態度) | 20% |
| (2)-3) 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる | ほぼ確実に交流活動が計画・実践できる | 十分に交流活動が計画・実践できる | おおむね交流活動が計画・実践できる | まったく交流活動が計画・実践できない | 授業態度 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-4) 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる | ほぼ確実に評価・改善活動の方法を説明できる | 十分に評価・改善活動の方法を説明できる | おおむね評価・改善活動の方法を説明できる | まったく評価・改善活動の方法を説明できない | 授業態度 (関心・意欲・態度) | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|--------------------------|------------|----------|-------|
| 外国語指導法 Teaching Methods of Foreign Language (English) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2030 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 大野厚子 他 | オムニバス | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | | | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>〇コアカリキュラム：外国語の指導法【2単位程度を想定】</p> <p>全体目標：小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。</p> <p>1. 授業実践に必要な知識・理解</p> <p>1－（1）小学校外国語教育についての基本的な知識・理解</p> <p>一般目標：小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。</p> <p>到達目標：1）小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科、中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解している。</p> <p>2）主教材の趣旨、構成、特徴について理解している。</p> <p>3）小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解している。</p> <p>4）様々な指導環境に柔軟に対応するため児童や学校の多様性への対応について基礎的な事柄を理解している。</p> <p>1－（2）子供の第二言語習得についての知識とその活用</p> <p>一般目標：児童期の第二言語習得の特徴について理解する。</p> <p>到達目標：1）言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>2）音声によるインプットの内容の類推から理解へと進むプロセスを経ることを理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>3）児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>4）コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>5）受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>6）国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>2. 授業実践</p> <p>2－（1）指導技術</p> <p>一般目標：実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。</p> <p>到達目標：1）児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。</p> <p>2）児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる。</p> <p>3）文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>2－（2）授業づくり</p> <p>一般目標：実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。</p> <p>到達目標：1）題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。</p> <p>2）学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解し、学習指導案を立案することができる。</p> <p>3）ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方について理解している。</p> <p>4）ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。</p> <p>5）学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| （1）小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 | | | | | | |
| 1）小学校外国語教育変遷、小学校の外国語活動や外国語科、中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解している。 | | | | | 1-(1)-1) | |
| 2）主教材の趣旨、構成、特徴について理解している。 | | | | | 1-(1)-2) | |

| | 3) 小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解している。 | 1-(1)-3) | | |
|-----|--|---------------------------------------|----------------------|---|
| | 4) 様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について、基礎的な事柄を理解している。 | 1-(1)-4) | | |
| (2) | 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。 | 1-(2)-1) | | |
| | 1) 言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。 | | | |
| | 2) 音声によるインプットの内容の類推から理解へと進むプロセスを得ることを理解し、指導に生かすことができる。 | 1-(2)-2) | | |
| | 3) 児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かすことができる。 | 1-(2)-3) | | |
| | 4) コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやりとりを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。 | 1-(2)-4) | | |
| | 5) 受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。 | 1-(2)-5) | | |
| | 6) 国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる。 | 1-(2)-6) | | |
| (3) | 実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。 | | | |
| | 1) 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。 | 2-(1)-1) | | |
| | 2) 児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる。 | 2-(1)-2) | | |
| | 3) 文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解し、指導に生かすことができる。 | 2-(1)-3) | | |
| (4) | 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。 | | | |
| | 1) 題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。 | 2-(2)-1) | | |
| | 2) 学習到達目標に基づいた指導計画(年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等)について理解し、学習指導案を立案することができる。 | 2-(2)-2) | | |
| | 3) ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方について理解している。 | 2-(2)-3) | | |
| | 4) ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。 | 2-(2)-4) | | |
| | 5) 学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について理解している。 | 2-(2)-5) | | |
| 回数 | 外国語活動 授業内容 【大野厚子・他】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
| 1 | ・小学校外国語教育の変遷を理解する。 ・小学校・中学校・高等学校の授業場面の映像を観て、学習の内容や目標を理解する。授業体験①:好きなもの、欲しいものを聞き、話し、自己紹介の練習をする。またアルファベットを認識し発音することができるようにする。自己紹介を聞いて、好きなものやほしいものなどを伝え合う練習をし、学んだことを使って、ペアやグループで自己紹介の実践を行う。(担当:他) | Unit 1 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (1):1) (2):(1)2)3) 4)、(3):(1)2) 3)、 (4):(1)2)3) 4)5) |
| 2 | ・ALTとのチーム・ティーチングにより日本と外国の行事の違いを知り、多様な考えがあることに気付く指導の実際を知る。 ・授業体験②:誕生日、行事、祭りについて聞いたり話したりする。・ICTを活用し活字の大文字を書くための指導法を検討する。 (担当:大野) | Unit 2 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):(1)2)3) 4)、(3):(1)2) 3)、 (4):(3)4) |
| 3 | ・小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割を理解する。 ・授業体験③:映像を観て、世界の祭りや行事について気づいたことを発表する。話を聞いて理解し、誕生日や欲しいもの、好きなものなどを伝え合う。学んだことを使って、ペアやグループで誕生日などを聞き合わせる。 (担当:他) | Unit 3 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (1):3) (2):(1)2)3) 4)、(3):(1)2) 3)、 (4):(3)4) |

| 回数 | 外国語活動 授業内容 【大野厚子・他】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----|---|------------------------------------|----------------------|--|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童や学校の多様性への対応を理解する。 ・授業体験④：映像を観て、世界の学校の時間割を理解し学校生活、教科、時間割について聞いたり話したりする授業を体験する。 ・ICT を用いて活字体の小文字を認識し読む練習をするための指導法を検討する。(担当：大野) | Unit 4 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4)、(3):1) 2) 3)、(4):3) 4) |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における外国語指導助手とのチーム・ティーチングによる授業場面の映像を通して理解する。 ・学習指導案の作成と教材作成：ペアやグループで学校生活や教科、時間割について聞いたり話したりする活動 (担当：大野) | Unit 5 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (1):2) (2):1) 2) 3) 4)、(3):1) 2) 3) (4):1) 2) 3) |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業体験⑤：一日の生活について聞き、話す練習をするための指導法について学ぶ。 ・ICT を用いて活字の小文字を書くための指導法を検討する。(担当：大野) | Unit 6 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) (3):1) 2) 3)、(4):3) |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業体験⑥一日の生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉え、一日の生活について伝え合う練習をする。ペアやグループで一日の生活を伝えあう。 ・学習指導案の作成と教材作成：一日の生活について伝え合う活動 (担当：大野) | Unit 7 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (1):2) (2):1) 2) 3) 4) (3):1) 2) 3)、(4):1) 2) 3) |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の音韻や文字、語い等などとの違いに気付き、言葉の面白さを実感できるような指導法を検討する。 ・ICT を用いて、文字には音があることに気付くための指導法を検討する。(担当：大野) | Unit 8 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) 6) (3):1) 2) 3)、(4):3) |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業①学校生活、教科、時間割について聞いたり話したりする活動 ・模擬授業②一日の生活について聞いたり話したりする活動 (担当：他) | Unit 9 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) (3):1) 2) 3)、(4):3) |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業体験⑦：インターネットの地図や映像を資料として、国名や行きたい場所について聞き、話す練習をする。またそれらを書き写す練習を行なう。(担当：大野) | Unit 10 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) 5) (3):1) 2) 3)、(4):3) |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成と教材作成：インターネットを用い、行きたい国や地域を調べる。インターネットで調べた映像をもとにして、ペアやグループで行きたい国や地域について説明し、自分の考えを整理して伝え合う。(担当：大野) | Unit 11 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) (3):1) 2) 3)、(4):1) 2) 3) |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業体験⑧：物の位置を尋ねたり答えたりする表現を聞き、話す練習をする。道案内で、場所を尋ねたり答えたり、簡単な語句を推測しながら読んだりする練習をする。 ・簡単な語句を書き写すための指導法を考える。(担当：大野) | Unit 12 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) 5) (3):1) 2) 3)、(4):3) |
| 13 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成と教材作成：道案内で、場所を尋ねたり答えたり、簡単な語句を推測しながら読んだりするという活動 (担当：他) | Unit 13 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4)、5) (3):1) 2) 3)、(4):1) 2) 3) |
| 14 | <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業③：電子黒板を使用し、ペアやグループで行きたい国や地域について説明し、自分の考えを整理して伝え合う。 ・模擬授業④：道案内で、場所を尋ねたり答えたり、簡単な語句を推測しながら読んだりするという活動 (担当：他) | Unit 14 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4) 5)、(3):1) 2) 3) (4):3) |
| 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業体験⑨得意なことについて聞き、話す練習を指導する。ペアやグループで自分があることがたり尊敬したりする人について紹介しあう活動を実践する。 ・簡単な語句や表現を書き写すための指導を考える。 ・学習状況の評価について理解する。(担当：大野) | Unit 15 プレゼンテーションの準備をする。 2時間 | 文法、表現、など復習する。 2時間 | (2):1) 2) 3) 4)、(3):1) 2) 3) (4):3) 5) |

| | |
|----------------------------|---|
| 定期試験 | 実施する |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度）30%、 レポート（思考力・判断力・表現力）30%、定期試験（知識・理解）40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | それぞれのプレゼンテーションに対してコメントをする。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：文部科学省：“New Horizon Elementary” 指導編 （新学習指導要領対応、小学校外国語教材） 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）』 開隆堂出版 |
| メッセージなど | 外国語の授業を通して、英語を学ぶだけではなく、世界にはいろいろな文化や価値観があるという、異文化に対する興味や敬意を醸成する。 小学校教諭二種状：必修科目 |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------|-------------|-------------------|-------------|-------------|--|------|
| (1) 何を教えるかがはっきり伝わっている。 | ほぼ完璧に伝わっている | 大きな間違いがなく、伝わっている。 | 最低限は伝わっている。 | 伝わっていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度）30%、 レポート（思考力・判断力・表現力）30%、 定期試験（知識・理解）40% | 30% |
| (2) 文法や表現をしっかり教えている。 | ほぼ完璧に教えている。 | 大きな間違いがなく教えている | 最低限は教えている | 教えていない | | 30% |
| (3) 発音の指導ができている。 | ほぼ完璧に指導している | 大きな間違いがなく指導している | 最低限は指導している | 指導できない | | 20% |
| (4) ゲームなどを使って楽しく教えている。 | ほぼ完璧に教えている | 大きな間違いがなく教えている | 最低限は教えている | 教えることができない。 | | 20% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|----------------------------|------------|--------|---------------|
| 教育方法学(教育工学を含む) Educational Method (including Educational Technology) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPBE1007 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | | 教育の方法及び技術(情報機器及び機材の活用を含む。) | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 全体目標：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(1) 教育の方法論 一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」</p> <p>(2) 教育の技術 一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 到達目標：1) 話し・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3) 情報機器及び教材の活用 一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。 併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 現代の学校教育にまつわる基本的な内容を理解している。 | | | | | | |
| 1) 公教育としての学校が存在する理由を、自己の体験と結びつけて説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 2) 子どもたちの置かれている現実を、時代背景や社会的条件と結びつけて説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 3) 学力の層に着目した教育方法について学び、その価値と方法を説明できる。 | | | | | | (1)-3) |
| 4) 学習指導案の書き方について、基本的な構成と記述の要諦が説明できる。 | | | | | | (2)-2) |
| 5) 教育評価について、単元の評価規準が必要になった理由を説明できる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 先人の開発した教育方法について、授業実践に応用できる理論を取り出すことができる。 | | | | | | |
| 1) 教育方法学とは何かを説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 2) 現代でも通用するソクラテス・ペスタロッチ・孔子の教育方法の特色を説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 3) 授業の中の教師の指導性について、6人の例をあげて説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2)、3) |
| (3) 授業の基礎技術についての知識を修得し、具体的な授業場面で活用することができる。 | | | | | | (1)-3) |
| 1) 授業を構成している三要素について、それぞれの関連性を含めて説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| 2) 発問と板書のはたらきについて、具体例をもとに説明できる。 | | | | | | (2)-1) |
| 3) 教育メディア(資料)の種類と働きについて、機器の使用方も含めて説明できる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 4) 机間指導・ノート指導・グループ学習の機能と働きについて説明できる。 | | | | | | (2)-1)、(3)-1) |
| 5) 模擬授業を見て、授業の基礎技術を具体的に指摘できる。 | | | | | | (2)-2) |

| 回数 | 教育方法学（教育工学を含む。授業内容【隅野 努】） | 準備学習（予習内容・時間） | 準備学習（復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|------------------------------|---------------------------------------|-------------------|
| 1 | オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。 | 「教育原論」の資料を読み直す。2時間。 | 教育方法学の概要についてまとめる。2時間。 | (2)-1) |
| 2 | 教育の場である学校の存在理由を、戦後の学校風景の資料をもとに理解する。 | 教育の目的・目標の資料を読む。2時間。 | 学校の存在理由について考え、内容をまとめる。2時間。 | (1)-1)、 (1)-2) |
| 3 | 教育の対象である子どもたちが置かれている現実を、諸論文や様々な資料から分析することで理解する。 | 「学びから逃走する子どもたち」を読む。2時間。 | 子どもたちが置かれている現状についてまとめる。2時間。 | (1)-3) |
| 4 | 学力を4つ層に分け、それらを関連させることの大切さを主張する学習理論による教育の方法について理解する。 | 学習指導要領総則を読む。2時間。 | 学力の4つの層に基づく学習理論についてまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 5 | 授業は学習者・教師・教材の三要素から成り立っていることを学び、子どもの側に立つ授業論を理解する。 | 授業の3要素の資料を読む。2時間。 | 子どもの側に立つ授業論について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-1)、 (3)-1) |
| 6 | 教育方法の優れた先人として、ソクラテス・ペスタロッチ・孔子を取り上げ、それぞれの教育の特色を理解する。 | 教育方法史の資料を読む。2時間。 | ソクラテス、ペスタロッチ、孔子の教育の特色をまとめる。2時間。 | (2)-2) |
| 7 | 国内外6人の優れた教師の実践例を学ぶことで、授業の中での教師の指導性の発揮の仕方を理解する。 | 大村はま「教えるということ」を読む。2時間。 | 優れた教師の実践例から、授業の中での教師の指導性についてまとめる。2時間。 | (2)-3) |
| 8 | 具体的な授業例をもとに、授業の基礎技術としての発問と板書のはたらきについて理解する。 | 発問・板書の技術の資料を読む。2時間。 | 発問と板書の技術について、内容をまとめる。2時間。 | (3)-2) |
| 9 | 授業の基礎技術としての教育メディア（資料）の機能とはたらきについて学び、機器の使用方法について理解する。 | 教育メディアについての資料を読む。2時間。 | 教育メディアの機能と働きについてまとめる。2時間。 | (3)-3) |
| 10 | 授業の基礎技術として、机間指導・ノート指導・グループ学習について、資料や演習を通して理解する。 | 机間指導、ノート指導、グループ学習の資料を読む。2時間。 | 机間指導、ノート指導、グループ学習について、内容をまとめる。2時間。 | (3)-4) |
| 11 | 授業の計画書である学習指導案の書き方について理解する。 | 学習指導案について資料を読む。2時間。 | 学習指導案の書き方について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 12 | 6つの授業技術を駆使した中学校社会科の模擬授業を生徒として受けることで、具体的な場面での授業技術を実感できる。 | 模擬授業の指導案をみる。2時間。 | 模擬授業から気づいた授業技術についてまとめる。2時間。 | (3)-5) |
| 13 | 模擬授業を6つの授業技術の観点から分析し、特に発問・資料・板書について、その重要性を理解する。 | 模擬授業の振り返りをする。2時間。 | 授業の発問、資料、板書について、内容をまとめる。2時間。 | (3)-5) |
| 14 | 指導と評価の一体化の観点から教育評価について振り返り、学習指導案上にも単元の評価規程が必要なことを理解する。 | 教育評価について資料を読む。2時間。 | 教育評価について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-5) |
| 15 | 全15回の学習内容を「授業の流れ」の記録をもとに振り返り、教育方法についての理解を深める。 | 15回の授業資料を読み直す。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)(2)(3) のすべて |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）50% 定期試験（知識・理解、思考力・判断力・表現力）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ 参考文献：『教育の方法』山下政俊・湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房 『教育史』柴田義松・上沼八郎 編著 学宝社 『教育の方法と技術』柴田義松・山崎準二 編著 学宝社 『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』東洋館出版 | | | |
| メッセージなど | 教壇に立つに役立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|--------------|---------------------|---------------------------|-----------|---|-----------------------------|
| (1)-1) 公教育としての学校が存在する理由を、自己の体験と結びつけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (1)-2) 子どもたちの置かれている現実を、時代背景や社会的条件と結びつけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 学力の層に着目した教育方法について学び、その価値と方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-4) 学習指導案の書き方について、基本的な構成と記述の要諦が説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-5) 教育評価について、単元の評価規準が必要になった理由を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-1) 教育方法学とは何かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-2) 現代でも通用するソクラテス・ペスタロッチ・孔子の教育方法の特色を説明できる | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-3) 授業の中の教師の指導性について、6人の例をあげて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (3)-1) 授業を構成している三要素について、それぞれの関連性を含めて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (3)-2) 発問と板書のはたらしきについて、具体例をもとに説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (3)-3) 教育メディア(資料)の種類と働きについて、機器の使用法も含めて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) | 5% |
| (3)-4) 机間指導・ノート指導・グループ学習の機能と働きについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) |
| (3)-5) 模擬授業を見て、授業の基礎技術を具体的に指摘できる。 | 様々な角度から指摘できる | いくつかの角度から指摘できる。 | 1つ以上指摘できる。 | 指摘できない。 | グループ討議 (思考力・判断力・表現力) | 5% |

| | | | | | |
|---|---|------------------------|---|----------------------------|----------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 情報処理実習 I Information Processing Practice I | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPIE1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 1 | 選択 | 福原 道照 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成及び表計算ソフトウェアを利用した基本的な表や各種機能を利用した表の作成を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 基本的・応用的文書の作成ができる。 (2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス、情報の活用 | テキスト 4 ページから 54 ページを読んでお く。(1 時間) | 文字入力の基本操作を 復習する。(30 分) | |
| | 2 | 文書の作成① - 基本的文書 - | テキスト 55 ページから 61 ページを読んでお く。(20 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 3 | 文書の作成② - 文字の修飾 - | テキスト 62 ページから 64 ページを読んでお く。(15 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 4 | 文書の作成③ - 表の活用 - | テキスト 65 ページから 78 ページを読んでお く。(30 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 5 | 文書の作成④ - 画像の活用 - | テキスト 79 ページから 88 ページを読んでお く。(30 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 6 | 文書の作成⑤ - 図形の活用 - | テキスト 89 ページから 91 ページを読んでお く。(15 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 7 | 文書の作成⑥ - 総合問題① - | ビジネス文書の作成① から⑤の復習をしてお く。(1 時間) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 8 | 文書の作成⑦ - 総合問題② - | ビジネス文書の作成① から⑤の復習をしてお く。(30 分) | 授業時の文書作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 9 | 表の作成① - データ入力 - | テキスト 96 ページから 111 ページを読んでお く。(30 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 10 | 表の作成② - 基本的なワークシート編集 - | テキスト 112 ページか ら 117 ページを読んで おく。(20 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 11 | 表の作成③ - 関数・セル参照の利用 - | テキスト 120 ページか ら 137 ページを読んで おく。(40 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 12 | 表の作成④ - グラフ - | テキスト 142 ページか ら 148 ページを読んで おく。(20 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 13 | 表の作成⑤ - 条件判定・検索 - | テキスト 152 ページか ら 166 ページを読んで おく。(30 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 14 | 表の作成⑥ - 総合問題① - | 表の作成①から⑤の復 習をしておく。 (1 時間) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |
| | 15 | 表の作成⑦ - 総合問題② - | 表の作成①から⑤の復 習をしておく。(30 分) | 授業時の表の作成方法 を復習する。(30 分) | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力)：60% 定期試験(知識・理解)：40% |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 課題レポートや定期試験は、添削・採点をし原則として次の授業時に返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：「30時間でマスター Office2013」 実教出版編修部 編 実教出版 |
| メッセージなど | 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 基本的・応用的文書の作成ができる。 | ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。 | 大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。 | 基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。 | 基本的・応用的文書の作成ができていない。 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力) | 30% |
| | | | | | 定期試験(知識・理解) | 20% |
| (2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 | ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 | 大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 | 基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。 | 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力) | 30% |
| | | | | | 定期試験(知識・理解) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|---|---|--|------------|
| 情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPIE1002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 1 | 選択 | 福原 道照 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。各自がテーマ設定を行い、プレゼンテーションソフトウェアを活用して資料の作成と発表を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。 (2) 発表に係るレジュメの作成ができる。 (3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス スライドの作成① -文字修飾と図形の活用- | テキスト 194 ページから 209 ページを読んでおく。 (30分) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 2 | スライドの作成② -グラフの活用- スライドの作成③ -SmartArtの活用と アニメーション効果- | テキスト 210 ページから 217 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 3 | スライドの作成④ -表の活用と画像の挿入- スライドの作成⑤ -ワードアートの挿入- | テキスト 218 ページから 225 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 4 | スライドの作成⑥ -その他の機能- スライドの作成⑦ -総合演習①- | テキスト 226 ページから 231 ページを読んでおく。 (20分) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 5 | スライドの作成⑧ -総合演習②- | スライドの作成①から⑥ の復習をしておく。(1時間) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 6 | スライドの作成⑨ -総合演習③- | スライドの作成①から⑥ の復習をしておく。 (30分) | 授業時のスライドの作成 方法を復習する。 (30分) | |
| | 7 | スライドショーと資料作成 | テキスト 232 ページから 239 ページを読んでおく。 (20分) | スライドショーと資料作 成について復習する。(30 分) | |
| | 8 | 発表テーマの検討 | 発表テーマに関する情報 を収集しておく。 (30分) | 発表テーマ決定のために 収集した情報を整理する。 (30分) | |
| | 9 | 発表テーマの決定 | 発表テーマに関する ストーリーを考えておく。 (30分) | プレゼンテーションスト ーリーシートを完成させ る。(30分) | |
| | 10 | 発表用スライドの作成① | スライドの作成条件を確 認し、構成を考えておく。 (30分) | 発表の意図が伝わるスラ イドになっているか確認 する。(30分) | |
| | 11 | 発表用スライドの作成② | スライドの作成条件を確 認し、構成を考えておく。 (30分) | 発表の意図が伝わるスラ イドになっているか確認 する。(30分) | |
| | 12 | レジュメと発表用原稿の作成 | レジュメと発表用原稿の 作成について準備してお く。(30分) | 発表のリハーサルを行う。 (30分) | |
| | 13 | 発表① | 発表のリハーサルをして おく。(30分) | 発表の評価を整理する。 (30分) | |
| | 14 | 発表② | 発表のリハーサルをして おく。(30分) | 発表の評価を整理する。 (30分) | |
| 15 | まとめ | 発表の成果と課題をまと めておく。(30分) | 発表の成果と課題を整理 する。(30分) | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力)：70% 発表(意欲・態度・表現力)：30% |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 課題レポートは、添削をし、原則として次の授業時に返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：「30時間でマスター Office2013」 実教出版編修部 編 実教出版 |
| メッセージなど | 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------|--------------------|-----------------|-----------------|------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。 | とても分かりやすい資料の作成ができる。 | 分かりやすい資料の作成ができる。 | 最低限の資料作成ができる。 | 資料の作成ができていない。 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力) | 60% |
| (2) 発表に係るレジユメの作成ができる。 | とても分かりやすいレジユメの作成ができる。 | 分かりやすいレジユメの作成ができる。 | 最低限のレジユメ作成ができる。 | レジユメの作成ができていない。 | 課題レポート(関心・意欲・態度・思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。 | とても正確で分かりやすい発表ができる。 | 正確で分かりやすい発表ができる。 | 最低限の発表ができる。 | 発表ができていない。 | 発表(意欲・態度・表現力) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------------|---|-------------------------|------------------------|-----------------------------|------------------|
| プログラミング教育 Programming education | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPIE2003 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 寺本 公思 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 2020年から小学校にもプログラミング教育が導入されます。現在の子供達が将来活躍する時代はAIが飛躍的に進化するといわれています。そのような世界を背景とした、Society5.0社会の到来に対応できるように「プログラミング的思考」が出来る子供たちを育てなければなりません。そのためのプログラミング教育をどのように行えばよいかについて学習します。 | | | | |
| 到達目標 | (1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。 (2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。 (3) プログラミング教育について理解し実践できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | コンピュータとプログラミング | プログラムについて ・2時間 | プログラミングについて ・2時間 | |
| | 2 | プログラミング教育が目指すもの | プログラミング教育について ・2時間 | プログラミング教育が目指すものについて ・2時間 | |
| | 3 | アンブラグドによるプログラミング | アンブラグドについて ・2時間 | アンブラグドの復習 ・2時間 | |
| | 4 | オブジェクト指向プログラミング | オブジェクト指向について ・2時間 | オブジェクト指向プログラミング ・2時間 | |
| | 5 | ビジュアル言語によるプログラミング | ビジュアル言語について ・2時間 | ビジュアル言語の種類と特徴 ・2時間 | |
| | 6 | プログラムの基礎 | プログラムについて ・2時間 | プログラムの特徴をまとめる ・2時間 | |
| | 7 | プログラムによるプログラミング | プログラムについて ・2時間 | プログラムでプログラミング ・2時間 | |
| | 8 | スクラッチの基礎 | スクラッチについて調べる ・2時間 | スクラッチの特徴をまとめる ・2時間 | |
| | 9 | スクラッチによるプログラミング | スクラッチについて ・2時間 | スクラッチでプログラミング ・2時間 | |
| | 10 | スクラッチによる応用プログラミング | スクラッチでプログラミング ・2時間 | スクラッチでプログラムを作る ・2時間 | |
| | 11 | WeDo2.0によるプログラミング基礎 | WeDo2.0について ・2時間 | WeDo2.0のブロックプログラミング ・2時間 | |
| | 12 | WeDo2.0によるプログラミング応用 | WeDo2.0のブロック ・2時間 | WeDo2.0で応用プログラム作成 ・2時間 | |
| | 13 | マインドストームEV3によるプログラミング基礎 | EV3の特徴 ・2時間 | EV3のブロックプログラミング ・2時間 | |
| | 14 | マインドストームEV3によるプログラミング応用 | EV3のブロック ・2時間 | EV3の応用ブロックプログラミング ・2時間 | |
| 15 | プログラミング課題 | 全体のまとめ ・2時間 | プログラミング課題に取り組む ・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 試験や課題に対してルーブリックによる評価を行う。 定期試験（知識・理解）70%、演習課題等（関心・意欲）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | 適宜プリントを配布する |
| メッセージなど | 2020年から小学校でも必修化されるプログラミング教育について実践的に学ぶことが出来ます。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。 | 十分に理解ができており、それを説明することができる。 | 概ね理解ができており、それを説明することができる。 | 概ね理解ができており、それを十分に説明できない。 | 理解が不十分であり、それを十分に説明できない。 | 定期試験・演習 (知識・理解) | 30% |
| (2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。 | プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。 | プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。 | プログラミングについて概ね理解ができており、それを十分に実践することができない。 | プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。 | 定期試験・演習 (関心・意欲思考・理解) | 40% |
| (3) プログラミング教育について理解し実践できる。 | 十分に理解ができており、それを実践することができる。 | 概ね理解ができており、それを実践することができる。 | 概ね理解ができており、それを十分に実践できない。 | 理解が不十分であり、それを十分に実践できない。 | 定期試験・演習 (関心・意欲思考・理解) | 30% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---------------------|------------|---------------------|-------|
| 進路指導の理論と指導法 Theory and Method of Career Consulting | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2031 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目 | | | 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | | |
| ○コアカリキュラム：進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | | | | | |
| <p>全体目標：進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>(1) 進路指導・キャリア教育の意義及び理論 一般目標：進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 到達目標：1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。 2) 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。 3) 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している</p> <p>(2) ガイダンスとしての指導 一般目標：全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。 到達目標：1) 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。 2) 主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している</p> <p>(3) カウンセリングとしての指導 一般目標：児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解する。 到達目標：1) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。 2) キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方や実践方法を説明することができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>中学校教諭、教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 小学校・中学校における進路指導の理論や発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を素材として活用しながら、体系的・組織的に学ぶ。 近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していく。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | コア目標対応 | |
| (1) 進路指導がキャリア教育として再構築しているわけを、時代や社会の変化から理解する。 1) 具体的事例をもとに、進路指導とは何かが説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 進路指導の目的が大きく転換してきた理由を学習指導要領の改訂から説明できる。 | | | | | (1)-2) | |
| 3) ニート・フリーター問題の現状と課題から、キャリア教育誕生の必然性を説明できる。 | | | | | (1)-3) | |
| 4) キャリア教育の手引きを活用し、キャリア教育とは何かを説明できる。 | | | | | (1)-1)、2)、3) | |
| 5) 進路指導やキャリア教育にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。 | | | | | (1)-3) | |
| (2) 学校教育における各領域の取組を進路指導の観点からとらえ、教育的価値を理解する。 1) 各教科を学ぶ意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 2) 道徳でよりよい生き方を探る意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 3) 学級活動の果たす役割を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 4) 児童会・生徒会活動を体験する意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 5) 学校行事の存在意義を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 6) 総合的な学習の時間の優れた実践を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) | |
| 7) 高等学校の進路指導（キャリア教育）の現状と課題を説明できる。 | | | | | (2)-1)、2) (3)-1)、2) | |
| (3) 自分自身の進路の足跡を見つめ直し、将来への展望をもつ。 1) 幼児期から学生時代まで、キャリア教育の観点で自己の経験を書き出すことができる。 | | | | | (2)-1)、2) (3)-1)、2) | |
| 2) これからの自身の生き方をはっきりと展望することができる。 | | | | | (2)-1)、2) (3)-1)、2) | |

| 回数 | 進路指導の理論と指導法 【隅野 努】 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|------------------------------------|---|------------------|
| 1 | オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「進路指導とは何か」が明確になる。 | 小・中・高で受けた進路指導についてノートにまとめる。2時間。 | 進路指導の概要について、内容をまとめる。2時間。 | (1)-1) |
| 2 | 今までの進路指導とこれからの進路指導の違いを、学生同士の経験や学習指導要領の変遷と関連づけて理解する。 | 進路指導について、学習指導要領総則を読む。2時間。 | 進路指導に関する学習指導要領の変遷についてまとめる。2時間。 | (1)-2) |
| 3 | ニート・フリーター問題を考えることで、進路指導におけるキャリア教育誕生の必然性を理解する。 | ニート、フリーターについての資料を読む。2時間。 | ニート、フリーターなどの問題とその解決に向けての取組についてまとめる。2時間。 | (1)-3) |
| 4 | キャリア教育の手引を参考に「キャリア教育とは何か」を学ぶ。 | キャリア教育の手引きで、キャリア教育とは何かを読む。2時間。 | キャリア教育の意義についてまとめる。2時間。 | (1)-4) |
| 5 | 進路指導とキャリア教育の関係を整理し、それらの教育に関係する法的根拠を理解する。 | 進路指導の法的根拠について、資料を読む。2時間。 | 進路指導とキャリア教育の関係についてまとめる。2時間。 | (1)-5) |
| 6 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「各教科での取組」から考えることで、教科を学ぶ意味を理解する。 | キャリア教育の手引きで、各教科での取組を読む。2時間。 | キャリア教育の各教科での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-1) |
| 7 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「道徳での取組」から考えることで、道徳を学ぶ意味を理解する。 | 学習指導要領で道徳の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の道徳での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-2) |
| 8 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組①学級活動」から考えることで、学級活動の価値を理解する。 | 学習指導要領で特別活動の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の特別活動（学級活動）での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-3) |
| 9 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組②学級活動」から考えることで、学級活動の価値を理解する。 | 学習指導要領で特別活動【学級活動】の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の特別活動（学級活動）での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-3) |
| 10 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組③児童会・生徒会活動」から考え、その価値を理解する。 | 学習指導要領で特別活動【児童会活動】の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の特別活動（児童会・生徒会活動）での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-4) |
| 11 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「特別活動での取組④学校行事」から考え、その価値を理解する。 | 学習指導要領で特別活動【学校行事】の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の特別活動（学校行事）での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-5) |
| 12 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「総合的な学習の時間①」から考え、その価値を理解する。 | 学習指導要領で総合的な学習の時間の目標と内容を読む。2時間。 | キャリア教育の総合的な学習の時間での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-6) |
| 13 | 小中学校での進路指導（キャリア教育）を「総合的な学習の時間②」から考え、その価値を理解する。 | 総合的な学習の時間でのキャリア教育先進校の取組の資料を読む。2時間。 | キャリア教育の総合的な学習の時間での取組について、内容をまとめる。2時間。 | (2)-6) |
| 14 | 小中学校と比較することで、高等学校の進路指導（キャリア教育）の現状と課題について理解する。 | 高等学校学習指導要領総則でキャリア教育について読む。2時間。 | 小中学校と高等学校のキャリア教育を比較し、内容をまとめる。2時間。 | (2)-7) |
| 15 | 自分自身の進路選択の足跡を振り返ることで、自己実現に向けて歩む自分の将来を見つめる。 | 15回の授業資料を読み直す。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)-1) (3)-2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、定期試験（知識・理解）30% 課題・レポート（思考力・判断力・表現力）20% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『学校教育とキャリア教育の創造』学文社 参考文献：文部科学省『キャリア教育のススメ』東京書籍 文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』教育出版 | | | |
| メッセージなど | 急激な社会の変化で、進学や就職に自己を見失いがちな時代の進路選択について、教える立場からの理解だけでなく、自分自身のキャリア発達も見つめながら学ぶ授業。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 | |
|--|----------------------|---------------------|---------------------------|-------------|-----------------------------|-----------------------------|----|
| (1)-1) 具体的事例をもとに、進路指導とは何かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) | 5% | |
| (1)-2) 進路指導の目的が大きく転換してきた理由を学習指導要領の改訂から説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% | |
| (1)-3) ニート・フリーター問題の現状と課題から、キャリア教育誕生の必然性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% | |
| (1)-4) キャリア教育の手引きを活用し、キャリア教育とは何かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% | |
| (1)-5) 進路指導やキャリア教育にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% | |
| (2)-1) 各教科を学ぶ意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% |
| (2)-2) 道徳でよりよい生き方を探る意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | | 5% |
| (2)-3) 学級活動の果たす役割を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | | 5% |
| (2)-4) 児童会・生徒会活動を体験する意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | | 5% |
| (2)-5) 学校行事の存在意義を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | | 5% |
| (2)-6) 総合的な学習の時間の優れた実践を、キャリア教育と関連づけて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度) | 5% | |
| (2)-7) 高等学校の進路指導(キャリア教育)の現状と課題を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 5% | |
| (3)-1) 幼児期から学生時代まで、キャリア教育の観点で自己の経験を書き出すことができる。 | しっかりと自己を見つめて書いている。 | 自己の足跡を整理できている。 | 甘さはあるが、自己を見つめようとしている。 | 書くことができない。 | 課題・レポート (思考力・判断力・表現力) | 20% | |
| (3)-2) これからの自身の生き方をはっきりと展望することができる。 | 前向きな人生に向かって進もうとしている。 | 進むべき方向性は見えている。 | 進むべき方向を考えようとしている。 | 述べることができない。 | | 10% | |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|--|--|---|--------------------|-----------------|------|-------|
| 生徒指導と教育相談 Student Consulting and Educational Consulting | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTS2032 | 2年次 | 後期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 佐藤 嘉倫 福屋 いずみ | 分担 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | ○ | |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | ○ | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | ○ | |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | ○ | |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目 | | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | | | |
| 〇コアカリキュラム：生徒指導の理論及び方法 | | | | | | |
| <p>全体目標：生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。</p> <p>(1) 生徒指導の意義と原理 一般目標：生徒指導の意義や原理を理解する。 到達目標：1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。 2) 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。 3) 集団指導・個別指導の方法原理を理解している。 4) 生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。</p> <p>(2) 児童及び生徒全体への指導 一般目標：すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 到達目標：1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。 2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。 3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。</p> <p>(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導 一般目標：児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 到達目標：1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。 2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。 3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。</p> | | | | | | |
| 〇コアカリキュラム：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | | | | | |
| <p>全体目標：教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p> <p>(1) 教育相談の意義と理論 一般目標：学校における教育相談の意義と理論を理解する。 到達目標：1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。</p> <p>(2) 教育相談の方法 一般目標：教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> <p>(3) 教育相談の展開 一般目標：教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 到達目標：1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p> | | | | | | |

| 【全体目標及び概要】 | | | | | |
|---|---|------|--------------------|-------------------|-----------------------|
| 生徒指導の本来的な狙いである一人一人の個性の伸長、社会的スキル行動力を高めるための教育的活動であることを理解する。 児童の発達状況に即した、カウンセリング的な関わりや基本的な方法を身につける。 | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | 目標対応 | | |
| | | | 生徒指導 | 教育相談 | |
| (1) 生徒指導の意義や原理を理解する。 1) 生徒指導の意義・重要性を理解する | | | (1)-1,2 | | |
| 2) 個と集団に応じた指導の方法を理解する | | | (1)-3 | | |
| 3) 校務分掌上の生徒指導の位置づけを理解する | | | (1)-4 (2)-2 | | |
| (2) 課題を抱える児童への指導を理解する。 1) 懲戒・体罰の法的基本を学ぶ | | | (3)-1 | | |
| 2) 生徒指導上の諸問題の現状と指導法を理解する | | | (2)-1,2,3 (3)-2 | | |
| 3) インターネットなど今日的な生徒指導の現状と対応を学ぶ | | | (3)-3 | | |
| (3) 教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。 1) 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法を学ぶ | | | | (1)-1,2 | |
| 2) 基本的なカウンセリングの理論と実践方法を学ぶ | | | | (2)-1,2,3 | |
| 3) 教育相談の進め方、組織的な取組み、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどとの協働について学ぶ | | | | (3)-1,2,3,4 | |
| 回数 | 生徒指導と教育相談 【佐藤嘉倫・福屋いづみ】 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
| 1 | 生徒指導と教育相談とは何か概要を知る 佐藤・福屋 | | - | 本時の内容についてまとめる。2時間 | (1)-1 |
| 2 | 生徒指導の意味を理解する 佐藤 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 配布資料を読む。2時間 | (1)-1、(1)-3 |
| 3 | 教育現場における生徒指導の実践について学ぶ 福屋 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)-1、(1)-2、 (1)-3 |
| 4 | 生徒指導上の諸問題を学ぶ 福屋 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1、 (2)-2 |
| 5 | 生徒指導と教育相談の関連について理解する 福屋 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2、 (3)-1 |
| 6 | 児童の問題行動の意味を考える(予防的な介入) 福屋 | | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1、 (3)-1 |
| 7 | カウンセリングの基本を学ぶ(クライエント中心療法的介入) 佐藤 | | 配布資料を読む。2時間 | 配布資料を読む。2時間 | (3)-1、 (3)-2 |
| 8 | カウンセリングの基本を学ぶ(精神分析的介入) 佐藤 | | 配布資料を読む。2時間 | 配布資料を読む。2時間 | (3)-1、 (3)-2 |
| 9 | 不登校問題について指導と支援を理解する 福屋 | | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2、 (3)-1 |
| 10 | いじめ問題について指導と支援を理解する 福屋 | | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2、 (3)-1 |
| 11 | 非行・問題行動について指導と支援を理解する 佐藤 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 配布資料を読む。2時間 | (2)-1、(2)-2、 (3)-1 |
| 12 | 生徒指導の今日的な課題について考える 福屋 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-3、 (3)-3 |
| 13 | 障害のある児童への支援について学ぶ 福屋 | | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2、 (3)-2 |
| 14 | 教育相談の実際・学校内での心理臨床的援助について学ぶ 福屋 | | 配布資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)-3、 (3)-3 |
| 15 | SC・SSWなど他の専門家との連携について学ぶ 佐藤 | | 生徒指導提要の該当箇所を読む。2時間 | 配布資料を読む。2時間 | (3)-3 |
| 定期試験 | 実施する | | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・講義中の発表(関心・意欲・態度・表現力)50%、 筆記試験(知識・理解・思考力・判断力)50% | | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。 | | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』、文部科学省『生徒指導提要』 『生徒指導と教育相談』山口短期大学 配布資料あり | | | | |
| メッセージ | 生徒指導の本来的な意味を知り子どもたちが生きる力を身につけていくための教育や子どもたちの指導、支援の実践について学んでいきましょう。 小学校教諭二種状：必修科目 | | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---|-------------------------------|-----------------------------------|------|
| (1)-1) 生徒指導の意義・重要性を理解する | 生徒指導の意義・重要性を十分に説明することができる。 | 生徒指導の意義・重要性を概ね説明することができる。 | 生徒指導の意義・重要性について最低限の説明はしている。 | 生徒指導の意義・重要性を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 6% |
| (1)-2) 個と集団に応じた指導の方法を理解する | 個と集団に応じた対応を十分に説明することができる。 | 個と集団に応じた対応を概ね説明することができる。 | 個と集団に応じた対応について最低限の説明はしている。 | 個と集団に応じた対応を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (1)-3) 校務分掌上の生徒指導の位置づけを理解する | 校務分掌上の生徒指導の位置づけを十分に説明することができる。 | 校務分掌上の生徒指導の位置づけを概ね説明することができる。 | 校務分掌上の生徒指導の位置づけについて最低限の説明はしている。 | 校務分掌上の生徒指導の位置づけを説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |
| (2)-1) 懲戒・体罰の法的基本を学ぶ | 懲戒・体罰の法的基本を十分に説明することができる。 | 懲戒・体罰の法的基本を概ね説明することができる。 | 懲戒・体罰の法的基本について最低限の説明はしている。 | 懲戒・体罰の法的基本を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 6% |
| (2)-2) 生徒指導上の諸問題の現状と指導法を理解する | 生徒指導上の諸問題の現状と指導法を十分に説明することができる。 | 生徒指導上の諸問題の現状と指導法を概ね説明することができる。 | 生徒指導上の諸問題の現状と指導法について最低限の説明はしている。 | 生徒指導上の諸問題の現状と指導法を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 |
|---|---|--|--|---|-----------------------------------|------|
| (2)-3) インターネットなど今日的な生徒指導の現状と対応を学ぶ | インターネット、SNS等の今日的な生徒指導の現状と対応を十分に説明することができる。 | インターネット、SNS等の今日的な生徒指導の現状と対応を概ね説明することができる。 | インターネット、SNS等の今日的な生徒指導の現状と対応について最低限の説明はしている。 | インターネット、SNS等の今日的な生徒指導の現状と対応を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 6% |
| (3)-1) 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法を学ぶ | 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法を十分に説明することができる。 | 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法を概ね説明することができる。 | 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法について最低限の説明はしている。 | 生徒指導上の諸問題に即し児童の支援方法を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 6% |
| (3)-2) 基本的なカウンセリングの理論と実践方法を学ぶ | 基本的なカウンセリングの理論と実践方法を十分に説明することができる。 | 基本的なカウンセリングの理論と実践方法を概ね説明することができる。 | 基本的なカウンセリングの理論と実践方法について最低限の説明はしている。 | 基本的なカウンセリングの理論と実践方法を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 6% |
| (3)-3) 教育相談の進め方、組織的な取り組み、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどとの協働について学ぶ | 教育相談の進め方、組織的な取り組み、SC・SSWなどとの協働を十分に説明することができる。 | 教育相談の進め方、組織的な取り組み、SC・SSWなどとの協働を概ね説明することができる。 | 教育相談の進め方、組織的な取り組み、SC・SSWなどとの協働について最低限の説明はしている。 | 教育相談の進め方、組織的な取り組み、SC・SSWなどとの協働を説明することができない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 課題・グループワーク (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 5% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---------------------------|------------|--------|-------|
| 特別支援教育 Special Support Education | | | 児童教育学専攻 初等教育学専攻 | 20EPBE1008 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 三輪研一郎 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | | |
| ○コアカリキュラム：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | | | | | |
| <p>全体目標：通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解 一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 到達目標：1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的的特性及び学習の過程を理解している。 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法 一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 到達目標：1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p> <p>(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 到達目標：1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>特別支援学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学ぶ。</p> <p>個々の教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程の編成、自立活動の内容や方法、幼児児童生徒が教科指導などの学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、個別の教育支援計画の作成や実践事例をもとにして具体的に学ぶ。</p> <p>特別支援学校や特別支援学級での実際を知り、特別支援教育にかかわる教員の資質を考察する。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的的特性及び学習の過程を説明できる。 | | | | | (1)-2) | |
| 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 | | | | | (1)-3) | |
| (2) 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。 1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について例示することができる。 | | | | | (2)-1) | |

| 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 | | (2)-2) | | |
|--|---|-------------------|-------------------|-------------------------------|
| 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 | | (2)-3) | | |
| 4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 | | (2)-4) | | |
| (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。 | | (3)-1) | | |
| 回数 | 特別支援教育 授業内容 【三輪研一郎】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
| 1 | 特別支援教育の歴史について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1) |
| 2 | 特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 3) |
| 3 | 障害児の理解(1) 概念と就学基準について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 3) |
| 4 | 障害児の理解(2) 心理と行動特性について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 3) |
| 5 | 特別支援教育の場について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(2) - 1) (2) - 2) |
| 6 | 特別支援教育の教育課程について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(2) - 3) |
| 7 | 障害児の教育支援(1) 学習指導要領、指導計画の作成を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 3) |
| 8 | 障害児の教育支援(2) 自立活動、日常生活の指導を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 9 | 障害児の教育支援(3) 各教科、遊びの指導を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 10 | 個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 11 | 特別支援学級における教育の実際について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 2) |
| 12 | 特別支援学校における教育の実際について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 1) |
| 13 | 障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 3)、(2) - 4) |
| 14 | 障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 4)、(3) - 1) |
| 15 | 特別支援教育にかかわる専門性について考察する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度)30%、レポート(思考力・判断力・表現力)30%、定期試験(知識・理解)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:『特別支援教育』山口短期大学 参考文献:『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部(平成30年3月 文部科学省))』 | | | |
| メッセージ | 特別支援教育の意義・内容・方法の学びを通して、教育環境のさらなる充実とみんなが幸せで豊かな人生を過ごすことのできる社会をつくりましょう。 小学校教諭二種状:必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|---------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|--------------|-----------------------------------|------|
| (1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 | 基礎的な知識をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、基礎的な知識を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基礎的な知識を身に付けている。 | 身に付けていない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について例示することができる。 | 支援の方法についてほぼ完璧に例示することができる。 | 大きな間違いがなく、支援の方法について例示することができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の方法について例示することができる。 | 例示することができない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 20% |
| (2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------------|---|---|-----------------------------|----------------------------|---------------------|
| ボランティア実習 Volunteer Practice | | 児童教育学専攻 初等教育学科 | 20EPTP1005 | 1年次 2年次 | 1年次後期 2年次前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 2 | 選択 | 村上 芳明・梅田 美穂 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 1年後期と2年前期の授業である。 この「ボランティア実習」の授業は、「介護等体験の実習の研究」ということである。 この授業では、「教師」という職業の「資質能力」について言及しながら具体的な内容に迫っていく。また、少なくとも、子どもたちとかわかるとき、子ども達に責任が持てる「人間性」ということを考える。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 教師の資質能力について他の意見を聞き、自分の考えを述べることができる。 (2) 教師の資質能力を意識した子どもとの関わりのあり方について専門的に考えることができる。 (3) 「介護等体験実習」の目的を考慮し、自分の課題を導き出し、充実した実習ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (1年次後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 梅田・村上 | | 授業計画と内容の把握 2時間 | |
| | 2 | 介護等体験の法律から教員の資質能力を考える 手島 | 授業の概要を読み、自分の 課題を立てる。2時間 | 教員の資質能力について まとめる。2時間 | |
| | 3 | 教師の資質能力について（問題提起） 梅田 | 教員の資質能力について まとめる。2時間 | 問題提起の内容をまとめ る。2時間 | |
| | 4 | 「教育への疑問」について、議論する 梅田・ 村上 | 教育への疑問についてま まとめる。2時間 | 教育に関する課題をま まとめる。2時間 | |
| | 5 | 教師の「資質能力」について①－不祥事の事例か ら－ 村上 | 教師の不祥事について調 べる。2時間 | 検討内容のまとめをする。 2時間 | |
| | 6 | 教師の「資質能力」について②－給食指導から－ 村上 | 給食指導について調べる。 2時間 | 給食指導の検討内容をま まとめる。2時間 | |
| | 7 | 社会福祉施設での学び 梅田 | 社会福祉施設について調 べる。2時間 | 授業内容をまとめる。2時 間 | |
| | 8 | 特別支援学校での学びについて 梅田 | 特別支援学校について調 べる。2時間 | 授業内容をまとめる。2時 間 | |
| | 9 | 手話のいろはと演習 村上 | 手話の種類について調べる。 2時間 | 手話の習得練習。2時間 | |
| | 10 | レクリエーションについて 村上 | レクリエーションとは何か 調べる。2時間 | レクリエーション活動内 容の作成。2時間 | |
| | 11 | レクリエーションの発表 村上 | レクリエーションの発表 準備。2時間 | レクリエーションの課題を まとめる。2時間 | |
| | 12 | 介護等体験実習に出るまでの実際 梅田 | 実習に出るまでの心構え を明確にしておく。2時間 | 授業内容をまとめる。2時 間 | |
| | 13 | 実習を経験した先輩からのアドバイス 梅田 | 先輩からのアドバイスを 読んでおく。2時間 | 実習に向けての目標をま まとめる。2時間 | |
| | 14 | 実習希望調査・プロフィールの作成 梅田・村上 | 自身のスケジュールをま まとめておく。2時間 | 実習希望調査を完成させ る。2時間 | |
| | 15 | 介護等体験の実習の心構え（まとめ） 梅田・ 村上 | プロフィールを完成させ る。2時間 | 実習への心構えをまとめ る。2時間 | |
| 授業内容 と 進め方 (2年次前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 16 | オリエンテーション 梅田・村上 | 1年次の授業資料を読みか えず。2時間 | 授業内容のまとめをする。 2時間 | |
| | 17 | 特別支援学校の実習希望者プロフィール等の記 入及び実習日程の確認と留意事項 梅田 | 自身のスケジュールを整 理しておく。2時間 | プロフィールを完成させ る。2時間 | |
| | 18 | 車椅子の実技①（基本） 村上 | 車いすについて調べる。2 時間 | 車いすの操作の注意点に ついてまとめる。2時間 | |
| 19 | 車椅子の実技②（応用） 村上 | 前時の資料を読み返して おく。2時間 | 車いすの注意点をまとめ る。2時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 (2年次前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
|------------------------------|--|--|-------------------------|-----------------------|--|
| | 20 | 実習を充実させるための「いろは」 梅田 | 実習先の概要を調べておく。2時間 | 実習に向けての心構えをまとめる。2時間 | |
| | 21 | 実習日誌の書き方 ー意味と目標ー 梅田 | 実習先への連絡とそのまとめをする。2時間 | 日誌の書き方のまとめをする。2時間 | |
| | 22 | 実習日誌の書き方 ー内容ー 梅田 | 日誌の良い例の内容を読んでおく。2時間 | 日誌の書き方の例を読んでおく。2時間 | |
| | 23 | 自立について考える (高齢者について) 村上 | 高齢者福祉施設の資料を読んでおく。2時間 | 授業内容をまとめ理解を深める。2時間 | |
| | 24 | 自立について考える (障害者について) 梅田 | 特別支援学校の資料を読んでおく。2時間 | 授業内容をまとめ理解を深める。2時間 | |
| | 25 | 介護等体験実習の心構え ー社会福祉施設でのびきー (具体的な目標の記述と発表) 村上 | 介護等体験実習の手引きを読んでおく。2時間 | 心構えと具体的な目標を整理する。2時間 | |
| | 26 | 授業の振り返りとまとめ 村上 | 実習のスケジュールと持参物の確認をする。2時間 | 実習後に1年生へのアドバイスを書く。2時間 | |
| | 27 | ※介護等体験実習において、特別支援学校2日間、社会福祉施設に5日間実習に行く。 | | | |
| | 28 | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 成績評価 | 最終レポート 30%、社会福祉施設の実習 10%、授業の取り組み 20%、社会福祉施設の日誌 15% 特別支援学校の実習 10%、特別支援学校の日誌 15% | | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法 | 課題レポートについては、授業内での返却が難しいため別の日に返却する。また実習を通して各自が課題について確認する。 | | | | |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に指示 | | | | |
| メッセージなど | 教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えていって欲しい。 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|---|--|---------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教師の資質能力について他の意見を聞き、自分の考えを述べることができる。 | 教育の現状や教員の資質を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 教師の資質能力や教育の課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の意見や考えを述べている。 | 教育の課題や教師の資質能力に対する認識は浅いが、最低限の自分の考えを述べている。 | 十分に考察や議論をせず、自分の考えを述べていない。 | 最終課題レポート (知識・理解、思考力・表現力) | 30% |
| (2) 教師の資質能力を意識した子どもとの関わり方について専門的に考えることができる。 | 教師の資質能力を意識した子どもとの関わり方について、専門的な視点を含みつつ述べるることができる。 | 子どもとの関わり方について、大きな論理的な問題もなく、自分お意見を述べるることができる。 | 資料や他者の意見を参考にしつつ、子どもとの関わり方について述べるができる。 | 自分の考えを述べるできない。 | | 授業の取り組み(発表・感想文)(知識・理解、思考力・判断力) |
| (3) 「介護等体験実習」の目的を考慮し、自分の課題を導き出し、充実した実習ができる。 | 自分で導き出した課題に向きあい、充実した実習ができる。 | 利用者や児童・生徒とのかかわり合いで振り返りを行い、特に問題なく、実習ができる。 | 利用者や児童・生徒とのかかわり合いが十分ではないが、実習を自分なりにできることができる。 | 不適切な実習態度がみられ、未提出のものがある。 | 実習および実習日誌 (関心・意欲・態度力) | 50% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|------------------|
| 教育実習指導 Study of Practical Teaching at Elementary School | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTP1001 | 1年次 2年次 | 1年次後期 2年次前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 隅野 努・福屋 いずみ | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 学習指導の知識を生かし、模擬授業にチャレンジすることで、教壇に立つ準備を進めるとともに、指導主事による「学習指導」「生徒指導」「人権教育」の講義や市内公立小学校における参観実習などを通して、教育現場の実態にも直接ふれ、教師として必要な資質や能力の向上を図り、教師となる心構えを培っていく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。 (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。 (3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (1年次後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 隅野・福屋 | 教育実習に向けての心構えを考える。2時間。 | 教育実習に向けての準備、予定についてまとめる。2時間。 | |
| | 2 | 教育実習の意義と目的 隅野 | 教育実習の意義と目的について資料を読む。2時間。 | 教育実習の意義と目的について、まとめる。2時間。 | |
| | 3 | 教育実習の内容 隅野 | 教育実習の内容について資料を読む。2時間。 | 教育実習の内容について、まとめる。2時間。 | |
| | 4 | 授業づくりの基礎を学ぶ① －指導案作り－ 福屋 | 指導案作りについての資料を読む。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2時間。 | |
| | 5 | 授業づくりの基礎を学ぶ② －発問・資料・板書－ 福屋 | 前時の復習より、発問、資料、板書の課題をまとめる。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2時間。 | |
| | 6 | 教育実習について先輩に学ぶ 福屋 | 教育実習の過去の体験談の資料を読む。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2時間。 | |
| | 7 | 小学校参観実習① －参観実習の説明－ 隅野 | 小学校参観実習校の学校要覧を読む。2時間。 | 参観実習校の学校要覧について、まとめる。2時間。 | |
| | 8 | 小学校参観実習② －校長講話－ 隅野 | 参観実習校の概要について、資料を読む。2時間。 | 校長講話の気づき、感想をまとめる。2時間。 | |
| | 9 | 小学校参観実習③ －授業参観－ 隅野 | 参観実習の準備。2時間。 | 授業参観しての気づき、感想をまとめる。2時間。 | |
| | 10 | 小学校参観実習④ －授業参観－ 隅野 | 参観実習の準備。2時間。 | 授業参観しての気づき、感想をまとめる。2時間。 | |
| | 11 | 市教委講話 －学習指導－ 隅野 | 学習指導について、資料を読む。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2時間。 | |
| | 12 | 市教委講話 －生徒指導－ 隅野 | 生徒指導について、資料を読む。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。2時間。 | |

| | | | | |
|------------------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (1年次後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
| | 1 3 | 参観実習・学習指導・生徒指導の 振り返り 福屋 | 参観実習、学習指導、生徒 指導の資料の読み直し。2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 1 4 | 実習校の教育方針や運営体制の調査 隅野 | 実習校の概要について、ま とめる。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| 1 5 | 実習校の教育方針や運営体制の発表と振り返り 隅野・福屋 | 発表資料をまとめる。2時 間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | |
| 授業内容 と 進め方 (2年次前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
| | 1 | オリエンテーション 隅野・福屋 | 15回の授業の見通しを立 てる。2時間。 | 模擬授業の進め方などま とめる。2時間。 |
| | 2 | 模擬授業の説明と準備 福屋 | 模擬授業に向けての心構 えを書く。2時間。 | 模擬授業の進め方につい てまとめる。2時間。 |
| | 3 | 模擬授業①－授業実践と協議－ 隅野・福屋 | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 4 | 模擬授業②－授業実践と協議－ 隅野・福屋 | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 5 | 模擬授業③－授業実践と協議－ 隅野・福屋 | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 6 | 模擬授業④－授業実践と協議－ 隅野・福屋 | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 7 | 模擬授業⑤－模擬授業の検討－ 隅野・福屋 | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 |
| | 8 | 小学校参観実習① －参観実習の説明－ 隅野 | 参観実習校の概要につい て、資料を読む。2時間。 | 参観実習校の概要につい て、まとめる。2時間。 |
| | 9 | 小学校参観実習② －校長講話－ 隅野 | 参観実習の準備。2時間。 | 校長講話の気づき、感想を まとめる。2時間。 |
| | 1 0 | 小学校参観実習③ －授業参観－ 隅野 | 参観実習の準備。2時間。 | 授業参観しての気づき、感 想をまとめる。2時間。 |
| | 1 1 | 小学校参観実習④ －授業参観－ 隅野 | 参観実習の準備。2時間。 | 授業参観しての気づき、感 想をまとめる。2時間。 |
| | 1 2 | 市教委講話－人権教育－ 隅野 | 人権教育について、資料を 読む。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 |
| | 1 3 | 参観実習・人権教育の振り返り 実習校への事前打合せについて 隅野 | 参観実習、人権教育の資料 の読み直し。2時間。 | 実習校への事前打ち合わ せについて、内容をまとめ る。2時間。 |
| | 1 4 | 実習日誌の書き方について 実習生プロフィールの作成 福屋 | 実習日誌の書き方につい て、確認する。2時間。 | 実習日誌の書き方につい て、内容をまとめる。2時 間。 |
| 1 5 | 実習中の健康管理について 教育実習の心構えについて 隅野・福屋 | 実習中の健康管理と心構 えについて、まとめる。2 時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。 2時間。 | |
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）50%、課題・レポート（思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度）30%、模擬授業（思考力・判断力・表現力）20% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。課題、レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社 | | | |
| メッセー ジ な ど | 教育実習のための準備を行います。実習に関する重要書類や手続きに関するこ とも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み上げ、教育実習へ行くことの意味を理解 し、教育に携わることの使命感と緊張感をもてるようになりましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|---|---------------------------------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。 | 教壇に立つ準備がほぼできている。 | 基本的な準備はできている。 | 最低限の準備はできている。 | 準備ができていない。 | 授業への取り組み (関心・意欲・態度、知識・理解) | 50% |
| (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。 | 社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようとする努力をしている。 | 大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。 | さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。 | 最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。 | 課題、レポート (思考力・判断力・表現力、関心・意欲・態度) | 30% |
| (3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。 | 様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。 | いくつかの角度から、自己の課題を把握している。 | 1つ以上自己の課題を把握している。 | 課題を把握していない。 | 模擬授業 (思考力・判断力・表現力) | 20% |

| | | | | | | |
|---|---|------------------------------------|--------------------------|---------------------------------|-----|------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 教育実習 Practical Teaching at Elementary School | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | | 20EPTP2003 | 2年次 | 後期 (集中) |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 実習 | 4 | 選択 | 隅野 努・福屋 いずみ | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 子どもの発達や心理、教員の業務や学校組織についての理解を深め、確かな学習指導や生徒指導ができるようになるため、小学校の現場において4週間の実地実習を行う。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。 (2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。 (3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 子どもの発達や心理について理解し、実際に子どもたちとふれあう。 | 子どもの発達や心理についての資料を読む。2時間。 | 実習日誌で子どもたちとのふれあいの振り返りをする。2時間。 | | |
| | 2 | 教材研究をし、学習指導案を作成し、教科指導を行い、授業技術を磨く。 | 教材研究をし、学習指導案を作成する。2時間。 | 実施した授業について振り返りをする。2時間。 | | |
| | 3 | 学級経営、生徒指導について理解し、学級経営力を身に付ける。 | 学級経営、生徒指導についての資料を読む。2時間。 | 実習日誌で学級担任としての仕事について振り返りをする。2時間。 | | |
| | 4 | 道徳、特別活動について理解し、授業実践を行う。 | 道徳、特別活動の学習指導案を作成する。2時間。 | 実施した授業について振り返りをする。2時間。 | | |
| | 5 | 校務分掌、学校事務、PTA、地域社会等について理解を深める。 | 実習校の状況について資料等で確認する。2時間。 | 学校教育活動について全般的に振り返る。2時間。 | | |
| | 6 | 国民に託された教育者としての自覚をもつ。 | 教師としての心構えについて、資料を読む。2時間。 | めざす教師像について、考えをまとめる。2時間。 | | |
| | 7 | ※実習時期 基本的に、2年次10月に小学校での実習(4週間)を行う。 | | | | |
| | 8 | | | | | |
| | 9 | | | | | |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | | | | | |
| | 12 | | | | | |
| | 13 | | | | | |
| | 14 | | | | | |
| 15 | | | | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 教育実習校からの評価（知識・理解、関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力）60%、 教育実習日誌（関心・意欲・態度）20%、 実地授業の指導案、教育実習日誌（知識・理解、思考力・判断力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 教育実習中の訪問指導の際に、実習校の校長、指導教官等からの気づき、教育実習日誌等に基づき、本人に指導助言を実施する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：実習校で渡される各種の資料 |
| メッセージ | 小学校の教壇に立って実際に授業をするという得がたい経験のできる科目です。使命感と緊張感をもって取り組む真剣勝負のキャリア教育そのものです。 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。 | 教師としての自覚をもった言動ができる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえた言動ができる。 | さらに自覚が必要だが、最低限の言動ができる。 | 教師としての適性が見られない。 | 教育実習校からの評価 (知識・理解、関心・意欲・態度) | 60% |
| (2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。 | 子どもたちとの信頼関係を築けている。 | 大きな間違いがなく、子どもたちと基本的な関係は築けている。 | さらに努力は要するが、最低限の関係は築けている。 | 関係を築けない。 | 教育実習日誌 (関心・意欲・態度) | 20% |
| (3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。 | ほぼ完璧に授業ができる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。 | さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。 | 授業ができない。 | 実地授業の指導案、教育実習日誌 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|------------------------------------|---|---|---------------------------|-----------------------|------------------|--|
| 学校体験活動 School Internship | | 児童教育学専攻 初等教育学科 | 20EPTP1002 | 1年次 | 前期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 | |
| 実習 | 1 | 選択 | 隅野 努・福屋 いずみ | | ○ | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ | |
| 概要 | 小学校教諭を目指す学生が、小学校で生活する児童の姿や学校の環境を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童の実態と小学校の教育活動の特色を理解することを目的とする。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。 (3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション 学校体験活動とは 福屋 | 学校体験活動について先輩の報告書を読む。2時間 | 学校体験活動の概要をまとめる。2時間 | | |
| | 2 | 事前指導① 学校体験活動実施校を知る 隅野 | 学校体験活動の心構えについてまとめる。2時間 | 学校体験活動校の学校要覧をまとめる。2時間 | | |
| | 3 | 事前指導② 学校体験活動にむけての準備 (プロフィール作成) 福屋 | プロフィール作成に向けて必要事項を確認する。2時間 | プロフィールを完成させる。2時間 | | |
| | 4 | 事前指導③ 学校体験活動にむけての準備 (心構え、出勤簿、記録など) 福屋 | 学校体験活動の目標についてまとめる。2時間 | 学校体験活動に必要な物を準備する。2時間 | | |
| | 5 | 事後指導 学校体験活動の報告会 隅野 | 学校体験活動の報告書を作成する。2時間 | 学校体験活動の振り返りをする。2時間 | | |
| | 6 | ※ 授業の日程は提示します ※ 実習時期 基本的に1年次の9月に防府市内の小学校での体験活動(5日間) | | | | |
| | 7 | | | | | |
| | 8 | | | | | |
| | 9 | | | | | |
| | 10 | | | | | |
| | 11 | | | | | |
| | 12 | | | | | |
| | 13 | | | | | |
| | 14 | | | | | |
| 15 | | | | | | |
| 成績評価 | 事前指導の取り組み(関心・意欲・態度・知識・理解) 25%、 訪問指導・体験活動日誌・事後の報告会(知識・理解・思考力・判断力・表現力) 75% | | | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | 学校体験活動の訪問指導の際に、活動校、指導教官からの気づき、体験活動日誌、事後の振り返りに基づき、本人に指導助言を実施する。 | | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| テキストおよび 参 考 文 献 | 授業時に指示 |
| メ ッ セ ー ジ な ど | 実際に小学校で先生の仕事を体験するために準備をしっかりとしましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|--|---|--|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 | 事前指導の内容について、資料にまとめるなど整理をしており、理解を深め、また自分の言葉で述べることができる。 | 事前指導の内容を自分なりに整理し、言葉で述べることができる。 | 事前指導の内容について指導・助言を受けながら、理解している。 | 事前指導の内容について理解できていない。 | 事前指導の取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解) | 25% |
| (2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。 | 小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。 | 小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。 | 小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。 | 小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。 | 報告会、日誌 (思考力・判断力・表現力) | 25% |
| (3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 | 学級担任の役割と職務内容を实地に即して十分に理解し、实地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。 | 学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、实地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。 | 学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、实地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。 | 学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、实地の内容を整理し、具体的に発表することができない。 | 報告会、日誌 (知識・理解、思考力・判断力・表現力) | 25% |
| (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。 | 教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わることができる。 | 教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。 | 教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。 | 教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わることはできない。 | 報告会、日誌 (思考力・判断力・表現力) | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|--|--------------------------|------------------------------------|------------------|
| 教職実践演習（小学校） Practice of Teaching Profession (Elementary School) | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20EPTP2004 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 隅野 努・福屋 いずみ | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 短大2年間で学んだ学習知と教育実習で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の向上とその確認を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。 (2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。 (3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション －教育実習の礼状の書き方－ 福屋 | 教育実習の振り返りを する。2時間。 | 教育実習の礼状の作成。2 時間。 | |
| | 2 | 教育実習で学んだことを記録する 教育実習報告会の説明とその準備 福屋 | 教育実習の振り返りを する。2時間。 | 教育実習の報告会資料を 作成する。2時間。 | |
| | 3 | 教育実習報告会 －教育実習で学んだ ことの発表と意見交換－ 隅野 | 教育実習の振り返りを する。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 4 | 教育実習で学んだことを伝える －教育実習で学んだことを後輩へ 伝える－ 福屋 | 教育実習で学んだことの 発表準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 5 | 模擬授業の実施の説明 模擬授業① 福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 6 | 模擬授業② 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 7 | 模擬授業③ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 8 | 模擬授業④ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 9 | 模擬授業⑤ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 10 | 模擬授業⑥ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 11 | 模擬授業⑦ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 12 | 模擬授業⑧ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 13 | 模擬授業⑨ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 14 | 模擬授業⑩ 隅野・福屋 －査定授業の再現と研究協議－ | 模擬授業の準備。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |
| | 15 | 本授業を振り返って －到達度の確認と今後の課題の発見－ 隅野・福屋 | 15回の授業資料を読み直 す。2時間。 | 授業の振り返りシートに 基づき内容をまとめる。2 時間。 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）20%、 課題・レポート（知識・理解、思考力・判断力・表現力）20%、 模擬授業・授業検討会（思考力・判断力・表現力）60% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：教育実習報告会資料 |
| メッセージ な ど | 本学で教員免許を修得するための最終的な評価の授業です。教育実習を含め本学で学んだことを総合的に判断し、教員免許修得者としてふさわしいか、また、今後、教員としてやっていけるかどうかを判断する実践的な授業です。教育実習で学んだことをもとに授業を構成するので教育実習の経験が物を言います。 小学校教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。 | 教師としての資質・能力が磨かれている。 | 教師としての基本的な資質・能力が見られる。 | 教師としての資質・能力の最低限の基本が見られる。 | 教師としての適性が見られない。 | 授業への取り組み （関心・意欲・態度） | 20% |
| (2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題・レポート （知識・理解、思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。 | ほぼ完璧に表現できる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。 | その場にいらない。 | 模擬授業・授業検討会 （思考力・判断力・表現力） | 60% |

| | | | | | | |
|---|-----|------|--------------------|------------|------|-------|
| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECBE1011 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | | 必修 | 中原久子 | 単独 | ○ |

ディプロマ・ポリシーとの関連

| | | |
|---|--|---|
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | ○ |

| | |
|----------------|-----------------------------------|
| 科目 | 施行規則に定める科目区分又は事項等 |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） |

○コアカリキュラム：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

全体目標：学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

（1）教育課程の意義

一般目標：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

到達目標：1）学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。

2）学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。

3）教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

（2）教育課程の編成の方法

一般目標：教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

到達目標：1）教育課程編成の基本原則を理解している。

2）教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。

3）単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

（3）カリキュラム・マネジメント

一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

到達目標：1）学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。

2）カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

【全体目標及び概要】

乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。

| 【一般目標及び到達目標】 | 目標対応 |
|---|-----------|
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解している。 1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 | (1)-1)、2) |
| 2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 | (1)-1)、3) |
| (2) 幼稚園教育における保育の計画と評価の基本を理解し、指導計画作成について理解する。 1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | (2)-1) |
| 2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 | (2)-2)、3) |
| 3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 | (2)-3) |
| 4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 | (2)-3) |
| (3) 幼稚園における教育課程と、指導計画のつながりについて理解し、説明できる。 1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 | (3)-1)、2) |
| 2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。 | (3)-2) |

| 回数 | 幼児教育課程論 授業内容 【中原久子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|-----------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 1 | 幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 2 | 幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 3 | 幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 4 | 「教育課程」「保育課程」について理解する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-2) (2)-4)、(3)-1) |
| 5 | 「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-2) (2)-4)、(3)-1) |
| 6 | 乳児の特徴と指導計画について学ぶ(0～1・2歳児) | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2)、(2)-3) |
| 7 | 3歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 8 | 3歳時の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 9 | 4歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 10 | 4歳児の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 11 | 5歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 12 | 5歳児の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 13 | 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて理解する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-4) |
| 14 | 指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-4)、(3)-1) |
| 15 | 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく(45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (3)-1)、(3)-2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成(関心・思考力・表現力)30% 定期試験(知識・理解)70% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 提出課題にコメントを添えて返却する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 参考文献：『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一 編著(萌文書林) | | | |
| メッセージなど | 幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 | 課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。 | 課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 | ほぼ完璧な指導計画を作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。 | ほぼ完璧に指導計画作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| | | | | | |
|---|--|---------------------------|--------------------|------|------|
| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 幼児指導法 Infant Teaching Method | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC1010 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 |
| 講義 | 2 | | 必修(幼稚園) | 中津愛子 | 単独 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | ○ |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | | | | |
| 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| (1)各領域のねらい及び内容 | | | | | |
| 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 | | | | | |
| 到達目標：1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | |
| 2)当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している | | | | | |
| 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | | | | | |
| 4)領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 | | | | | |
| (2)保育内容の指導方法と保育の構想 | | | | | |
| 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| 到達目標：1)幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 | | | | | |
| 2)各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 | | | | | |
| 3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 | | | | | |
| 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 | | | | | |
| 5)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | |

| | |
|---|-----------|
| 【全体目標及び概要】 | |
| 保育内容の指導法(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。 | |
| 【一般目標及び到達目標】 | 目標対応 |
| (1)幼稚園教育の基本を踏まえた指導の考え方を理解している。 1)幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 | (1)-1) |
| 2)遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 | (1)-2) |
| 3)幼児理解に基づく評価について説明できる。 | (1)-3) |
| 4)幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | (1)-4) |
| (2)幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、発達の過程を見通した指導計画の作成について理解する。 1)幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | (2)-1) |
| 2)長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 | (2)-2) |
| 3)子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | (2)-3) |
| 4)指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 | (2)-4) |
| (3)幼児の興味・関心や発達の実情に応じた具体的な指導・援助のあり方を説明できる。 1)幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | (2)-2) |
| 2)具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 | (2)-3) |
| 3)模擬保育を実践し、導入ー展開ーまとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。 | (2)-4)、5) |

| 回数 | 幼児指導法 授業内容 【中津愛子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|-------------------|---------------------|--|
| 1 | 幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。 | | 復習プリント 2時間 | (1) - 1) (1) - 2) |
| 2 | 子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 1) (1) - 2) |
| 3 | 子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 1) (1) - 3) |
| 4 | 環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 1) (1) - 2) (3) - 1) |
| 5 | 子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 2) (1) - 3) |
| 6 | 遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 3) (2) - 3) |
| 7 | 附属幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 3) |
| 8 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 4) |
| 9 | 幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (1) - 4) |
| 10 | 保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 復習プリント 2時間 | (2) - 1) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) |
| 11 | 長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 指導計画の課題レポート 2時間 | (2) - 2) |
| 12 | 指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 模擬保育の教材作成 2時間 | (2) - 1) (2) - 3) |
| 13 | 模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 模擬保育の練習 2時間 | (3) - 1) (3) - 2) (3) - 3) |
| 14 | グループで模擬保育を実践する(ビデオ録画の方法を身につける)。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 模擬保育の実践後の感想レポート 2時間 | (3) - 3) |
| 15 | 録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。 | 事前配布資料を読んでおく 2時間 | 模擬保育の指導計画の修正 2時間 | (2) - 4) (3) - 3) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度)30%、 レポート(思考力・判断力・表現力)30%、 定期試験(知識・理解)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 『幼児指導法』山口短期大学 参考文献:文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社 | | | |
| メッセージなど | グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブ・ラーニング型の授業です。保育場面の映像を観たり、実際に附属幼稚園で子どもに関わったりしながら、遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状:必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|------------------------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| (1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | 環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、工夫もできる。 | 環境構成の基本は身に付け、教材の工夫もできる。 | 工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。 | 身につけていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) | 30% |
| (3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。 | 導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。 | 模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。 | 模擬保育を実践していない。 | | |
| (3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 | ほぼ完璧な指導計画を作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート(思考力・判断力・表現力) | 30% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|------|--------------------------|------------|------|------------------------|
| 保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC2011 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | | 必修(幼稚園) | 手島史子 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| 一般目標 | 幼稚園教育要領の健康領域を核にして、「子どもたち自らが運動あそびであそび込むことができる力を育てる」ということを実践的に学ぶ。そして、運動あそびを子どもたちが主体的・対話的に取り組むための保育のあり方を実践で可能にする資質・能力を身に付ける。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 「健康領域」を踏まえた保育のあり方を理解している。 | | | | | (1)-1) |
| | 1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。 | | | | | (1)-1) |
| | 2) 「健康領域」のねらいを理解している。 | | | | | (1)-1) |
| | 3) 「健康領域」の内容等を理解している。 | | | | | (1)-1) |
| | (2) 「健康領域」のねらいと内容及び幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。 | | | | | (1)-2) |
| | 1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。 | | | | | (1)-2) |
| | 2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。 | | | | | (1)-2)、2)-1) |
| | (3) 幼児期における運動あそびの重要性とその指導のあり方を理解している。 | | | | | (1)-3) |
| | 1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。 | | | | | (2)-1)、2)、3) |
| | 2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。 | | | | | (1)-2) (2)-3)、4)、5) |
| | 3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる | | | | | |
| | 4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。 | | | | | (2)-1)、2) |
| | (4) 「発達段階」という視点から、発達における「接続」について理解している。 | | | | | (1)-2) |
| | 1) 発達段階という言葉の意味を理解している。 | | | | | (2)-1)、2) |
| | 2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。 | | | | | (1)-3) (2)-1)、2)、3) |
| | 3) 「おにごっこ」あそびの必要性と発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。 | | | | | (2)-3)、5) |
| | 4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。 | | | | | (1)-4) |

| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容【前期】【手島史子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の 番号 |
|------|--|------------------------------|---------------------------|--|
| 1 | 保育指針・幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義 | | 健康領域についてわからない用語を調べる。2時間 | (1) - 1) (2) - 1) |
| 2 | 保育指針・幼稚園教育要領のねらいについて | 保育指針・幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。2時間 | 保育指針・幼稚園教育要領のねらいをまとめる。2時間 | (1) - 2) |
| 3 | 保育指針・幼稚園教育要領の内容等について | 指針・要領「健康領域」3歳児未満の内容を読む。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) |
| 4 | 健康領域における幼児期の発達の特徴—保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2)・3) (2) - 1) |
| 5 | 幼児期における運動あそびの重要性—保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 1) |
| 6 | 運動あそびと「具体的な活動を通してわかる」ということ | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 1)・2) (3) - 1)・4) |
| 7 | 保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(1)から(5)をつなげる保育について話し合う | 健康領域の内容(1)～(5)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 8 | 保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(6)から(10)をつなげる保育について話し合う | 健康領域の内容(6)～(10)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 9 | 保育場面の映像をもとに、健康領域の内容(7)の考え方や指導のあり方について理解する | 健康領域の内容(7)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 10 | 保育者中心の保育と子ども中心の保育について | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2)・3) (2) - 2) (4) - 1) |
| 11 | 保育実践報告にみる子ども中心の保育のあり方—映像による保育実践の分析— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 2) |
| 12 | 保育実践報告の映像から今日的意義を考える | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 2) (3) - 2) (4) - 1) |
| 13 | 幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について（総論） | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1) |
| 14 | 幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について（運動あそびの面から）ICTを活用した情報収集を行い、パソコンを用いて発表資料を作成し、発表する | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 発表資料を作成する。2時間 | (1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1) |
| 15 | 対話的保育の今日的意義とその運動あそびへの応用について | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 2) (3) - 2) |
| 定期試験 | | 実施する | | |
| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容【後期】【手島史子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の 番号 |
| 16 | 子ども中心の保育と対話的保育について | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 1) (2) - 2) |
| 17 | 運動あそびにおける「対話的保育」の重要性—映像による保育実践の分析— | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 2) |
| 18 | 発達段階に応じた運動あそび（乳児期から幼児期への移行の時期を中心に） | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・2)・4) |

| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容【後期】【手島史子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の 番号 |
|------------------------------------|--|-------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 19 | 発達段階に応じた運動あそび（2歳児から3歳児への移行の時期を中心に） | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 20 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（2歳児の時期を中心に）を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 21 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（3歳児の時期を中心に）を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 22 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（4歳児の時期を中心に）を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 23 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（5歳児の時期を中心に）を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 24 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成 「健康」領域におけるICT機器の活用方法を学び、保育構想に活かすことのできるアイデアを考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 指導案の修正または作成。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2) |
| 25 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備 | 指導案の作成。2時間 | 指導の修正または作成。2時間 | (2) - 2) (3) - 1)・ 2) |
| 26 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察 ビデオカメラの撮影と録画、タブレットの活用方法を学ぶ | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 3)・4) |
| 27 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅰの取り組みを中心に）を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 2)・ 3)・4) |
| 28 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に）を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 2)・ 3)・4) |
| 29 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に）を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 3) |
| 30 | 幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 全範囲の資料を振り返る。2時間 | (4) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価 方 法 | 授業感想レポート・報告（関心・意欲・態度・理解）20%、レポート（思考力・判断力）30%、定期試験（知識・理解）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については翌週に返却し、解説をする。 | | | |
| テキストおよび 参 考 文 献 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・井狩芳子『演習保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 | | | |
| メ ッ セ ー ジ な | 乳幼児期の健康に関する知識や考え方を学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|-------------------------------|---------------------------------------|----------------------|-------------|-----------|
| (1)-1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。 | 健康領域の新旧の相違がほぼ完璧に理解している。 | 健康領域の新旧の相違が大きな間違いなく理解している。 | 幾つかの間違いはあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | 授業感想レポート・報告 | 5% |
| (1)-2) 「健康領域」のねらいおよび内容を理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 10% |
| (2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポートおよび定期試験 | 5% 10% |
| (2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。 | 幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。 | 基本的な触れ合いの中で保育のあり方を理解している。 | 対話的な保育の意味を自分なりに理解している。 | 理解できていない。 | 授業感想レポート・報告 | 10% |
| (3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。 | 評価の考え方を自分の言葉で述べられるまで理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 10% |
| (3)-2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。 | 発達に合い、子どもとの対話のある指導案を作成できる。 | 大きな間違いがなく、保育者主導ではない指導案を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って作成できる。 | 作成できていない。 | レポート | 5% |
| (3)-3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる。 | 要点をすべて意識した対話的なかわりが実践できる。 | いくつか要点を意識した対話的なかわり実践できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って実践できる。 | 理解できず、実践に結びつかない。 | 定期試験 | 10% |
| (3)-4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。 | 運動あそびと健康領域の項目を結びつけてほぼ完璧に説明できる。 | 運動あそびと健康領域の項目を大きな間違いなく説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、運動あそびと健康領域の項目を説明できる。 | 具体的に説明できていない。 | 定期試験 | 10% |
| (4)-1) 発達段階という言葉の意味を理解している。 | 発達段階を具体的な内容で正しく説明できる。 | 大きな間違いがなく、具体的な内容で説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解している。 | 理解できていない。 | 定期試験 | 10% |
| (4)-2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。 | 自分の問いを出し、他者と検討し、発表できる。 | 他者と問いを出し合い、検討し、発表できる。 | 他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。 | 他者との意見交換・検討ができない。 | 授業感想レポート・報告 | 5% |
| (4)-3) 「おにごっこ」あそびの必要性和発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。 | おにごっこの遊びの必要性についてほぼ完璧に説明でき、指導法について説明できる。 | 発達段階を自分なりに理解し、そのことを言葉で説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、指導方法について自分なり具体例を挙げて説明できる。 | 理解できていない。具体例が挙げられない。 | 定期試験 | 5% |
| (4)-4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。説明でない。 | 定期試験 | 5% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|---------------------------|------------|------------------------|-------|
| 保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC2012 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | | 必修（幼稚園） | 木村一恵 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>（1）各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している</p> <p>3）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>（2）保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| （1）「生きる力」の原点としての人間関係には、乳幼児期からのかかわりが重要であることを理解している。 1）今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 | | | | | (1)-1) (2)-1) | |
| 2）「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| （2）集団生活の中での発達の過程を見通した指導について理解する。 1）幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳児期からのかかわりの重要性を理解する。 | | | | | (2)-1) | |
| 2）幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 | | | | | (1)-2)、3) (2)-2)、3) | |
| 3）乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。 | | | | | (2)-4)、5) | |
| （3）人間関係は子ども同士の関係だけでなく、大人との関係、大人同士の関係が大きく影響することを理解する。 1）子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。 | | | | | (1)-1)、4) (2)-1) | |

| 回数 | 保育内容の指導法（人間関係） 授業内容 【木村一恵】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|---|---|-------------------------------|
| 1 | 「生きる力」の原点としての人間関係を理解する。 | 「人間関係」に関して自分の考えをまとめておく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (3) 1) |
| 2 | 乳児期からの子どもと現代の親のおかれている状況を理解する。 | 現代の子どものおかれている状況を調べておく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 1) |
| 3 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における人間関係領域のねらいを学ぶ。 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んでおく。 2時間 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の人間関係領域のとらえ方の違いについてまとめる。 2時間 | (1) 2) |
| 4 | 0歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学ぶ。 | テキストP. 26～27を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 1) |
| 5 | 1, 2歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学び、人間関係の基礎が乳幼児期にあることを理解する。 | テキストP. 32～33, 38～39を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 1) 3) |
| 6 | 保育場面の映像を活用し3歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、集団づくりの考え方を学ぶ。「人間関係」の領域でのICTの活用法を学び、保育構想に活用する方法を考える。 | 配布資料3歳児の姿を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 2) |
| 7 | 3歳児の集団づくりを考える上で、どのような活動が適切かを理解し、個と集団に応じた援助についてロールプレイを行なう。 | テキストP. 40～43を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 2) 3) |
| 8 | 保育場面の映像を活用して4歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、具体的な集団づくりの過程について学ぶ。 | テキストP. 44～48を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 2) |
| 9 | 4歳児の集団づくりを発展させていく遊びの展開を考えて指導計画を立案し、教師の援助について具体的に考える。 | 配布資料を基に4歳児の遊びについてまとめる。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 2) 3) |
| 10 | 保育場面の映像を活用して5歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、4歳児との違いを理解する。子ども同士のトラブル場面の事例をもとに、子ども同士が解決していく過程をどう援助するかを話し合う。 | 配布資料を読み、4歳児と5歳児の大きな違いについてまとめておく。 2時間 | 自分の体験した実習の中で子どもと保育者、親、保護者、子ども同士の関係で気になったこと、感激したこと等をこれまでの学びと関連させて自分の考えをまとめる。 2時間 | (2) 2) |
| 11 | 保育場面の映像を活用して5歳児の集団づくり、リーダーについて子どもたちの姿を理解する。 | テキストP. 48～52を読んでおく。 1時間 | 10での準備学習をまとめて書く。 1時間 | (2) 2) 3) |
| 12 | 幼稚園生活の中で人とかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。 | テキストP. 60～65を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (2) 1) 2) (3) 1) |
| 13 | 保護者と保育者の望ましい関係はどういうものか事例を通し、理解する。 | テキストP. 54～55を読んでおく。 1時間 | 保護者と保育者の関係について出されている書籍から1例を選び、自分の考えをまとめる。 2時間 | (3) 1) |
| 14 | 保育者間の子どもの見方、保育観が子どもの人間関係を育むためには重要なことを理解する。 | テキストP. 68～70を読んでおく。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (3) 1) |
| 15 | 情報機器を活用し、さまざまな社会状況や家庭環境の中で過ごす子どもたちの実態を知り、子どもたちがすやかに人とかかわりをもって育つために必要なことを理解する。 | 子どものおかれている状況をこれまでの授業を振り返りながら理解し、自分の考えを発表できるようにまとめておく。 2時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 1) (2) 1) 2) (3) 1) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）30%、レポート（思考力・判断力・表現力）20%、定期試験（知識・理解）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業振り返りシートにコメントを書き、返却する。レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『保育内容の指導法（人間関係）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） | | | |
| メッセージなど | 人として生きていく上で欠かすことのできない人とかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 幼稚園教諭二種免許状：必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|------------|--------------------|-----------------------|----------|--|------------|
| (1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) 課題レポート(思考力・判断力・表現力) | 5% 20% |
| (1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2)-2) 幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2)-3) 乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 授業への取り組み(関心・意欲・態度) | 20% |
| (3)-1) 子どもの発達にとってどのような環境や人のかかわりが重要なのか具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) 授業への取り組み(関心・意欲・態度) | 10% 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---------------------------|------------|------|-----------|
| 保育内容の指導法(環境) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC2013 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | | 必修(幼稚園) | 安藤稔朗 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 領域「環境」のねらいや内容を踏まえた指導の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。 | | | | | | (1)-3) |
| 4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 調和のとれた組織的、発展的な指導計画の作成について理解する。 | | | | | | |
| 1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-1)、5) |
| 2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。 | | | | | | (2)-5) |
| 3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| (3) 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、幼児の興味・関心や発達の実情に応じた適切な指導・援助のあり方を説明できる。 | | | | | | |
| 1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | | | | | | (2)-4) |
| 2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探究へと導く力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4) |
| 4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4) |
| 5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4)、5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（環境） 授業内容 【安藤稔朗】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------------------------------------|---|------------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 1 | 環境を通して行う保育の基本を理解する。 | テキスト1～7ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、(1)－2) |
| 2 | 子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、 (1)－2)、(3)－4) |
| 3 | 子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、 (1)－2)、(1)－4) |
| 4 | 環境を構成する人や身近な動植物とのかかわりについて保育場面の映像から具体的に理解する。 身近な生き物をビデオカメラで撮影し、体のしくみや動き、成長過程をタブレットで見せる等、保育場面でのICTの活用を考える。 | テキスト8～22ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、 (3)－3)、(3)－4) |
| 5 | 環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－ | テキスト23ページと資料プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、 (3)－3) |
| 6 | 環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－ | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、 (3)－3)、(3)－5) |
| 7 | 数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。 | テキスト26～34ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－3) |
| 8 | 地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心が高まるよう情報機器を活用した映像資料を作成する。 | テキスト24～26ページとプリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－4) |
| 9 | 環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (2)－1)、 (2)－2)、(2)－3) |
| 10 | 短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (2)－2)、(2)－3) |
| 11 | 指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。 | テキスト35ページとプリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－5) |
| 12 | 幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－1)、 (3)－4)、(3)－5) |
| 13 | 幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるようにICTを活用して教材を作成する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－5) |
| 14 | 環境とのかかわりを促すアイデアを保育活動に活かした指導案を作成する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－1)、 (3)－2)、(3)－5) |
| 15 | 身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－3) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価 方 法 | 授業への取り組み・作品の製作（関心・意欲・態度）20%、 レポート（思考力・判断力・表現力）20%、定期試験（知識・理解）60% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |

| | |
|-------------|--|
| テキストおよび参考文献 | テキスト：・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 安藤稔朗 『保育内容の指導法（環境）』 山口短期大学 参考文献： 酒井幸子・守 功 『保育内容 環境』 萌文書林 |
| メッセージ | 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|-----------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 | 到達目標 |
|--|------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-----------|--------------------------|------|
| (2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。 | 指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 指導計画作成の基本を身に付けている。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 身に付けていない。 | 授業への取り組み・作品の製作（関心・意欲・態度） | 10% |
| (3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | 環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。 | 環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。 | 環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 5% |
| (3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。 | 探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。 | 適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 5% |
| (3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。 | 個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。 | 多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。 | 身に付けていない。 | レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。 | 保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。 | 環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---------------------------|------------|------|---------------|
| 保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language) | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC2014 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | | 必修(幼稚園) | 中司志磨子 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>（1）各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>（2）保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いをふまえた指導の考え方を理解している。 1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のあり方、評価を説明できる。 | | | | | | (1)-1)、3) |
| 2) 幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる | | | | | | (1)-2) |
| 3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 言葉の重要性を理解し、幼児の言葉の獲得に資する環境設定や情報機器・児童文化財の活用について理解している。 1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| 2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| 3) 言葉を育てる児童文化財について理解し、それらを利用できる。 | | | | | | (2)-2) |
| (3) 実社会の現実をふまえて保護者や学校・地域社会との連携を深めるための諸方策を理解している。 1) 実社会における言葉に関する課題について説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| 2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 | | | | | | (1)-4)、(2)-3) |
| 3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| (4) グローバリゼーション化時代における言葉の育ちに関わる諸問題を理解し、指導・援助のあり方を説明できる。 1) 言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。 | | | | | | (2)-3)、4)、5) |
| 2) 母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説明できる。 | | | | | | (2)-3)、4)、5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【前期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------|---|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------|
| 1 | 領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて理解する。 | テキストp1～7を読み、p1の①②につまどめる。2時間 | 授業メモをもとに、①②のまとめ直しをする。1時間 | (1) - 1) |
| 2 | 幼稚園教諭・保育教諭の役割についてグループで話し合い発表する。 | テキストp8～9を読み、p8に考えをまとめる。1時間 | グループ発表をふまえ、p8をまとめ直す。1時間 | (1) - 1) (3) - 3) |
| 3 | 幼児をとりまく家庭や社会の言葉に関わる現状を映像資料をもとに理解し、子どもの言語環境に関わる課題をグループ討議し発表する。 | 教科書p1を読み、テキストp10にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p10をまとめ直す。1時間 | (3) - 1) (3) - 3) |
| 4 | 言葉を獲得することの意義についてグループで話し合い、ICTを活用して発表する。言葉を豊かにする絵本・紙芝居等を保育場面でどうかすかを考える。 | 教科書p2～3を読み、テキストp11にまとめる。1時間 | グループ発表をふまえ、p11をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 5 | 保育場面の映像をもとに言葉が社会的獲得物であることを理解し、幼稚園教諭・保育教諭の役割について改めて考えを深める。 | 教科書p3～4を読み、テキストp12にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p12をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 6 | 言葉の機能について学び、幼稚園教諭・保育教諭のあるべき対応を、映像資料をもとに考え、適切な言葉がけについて発表する。 | 教科書p4～7を読み、テキストp13～15にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p13～15をまとめ直す。2時間 | (2) - 1) |
| 7 | 保育場面の映像から「言葉により自我が形成される」ことを理解し、幼児教育に携わる者としての向上心を育む。 | 教科書p7～8を読み、テキストp15にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p15をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 8 | 誕生とともに言葉獲得のコミュニケーションが始まっていることを映像資料をもとに理解し、この時期の養育のありかたをグループで話し合いICTを活用して発表する。 | 教科書p9～10を読み、テキストp17～18にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p17～18をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 1) 2) |
| 9 | 育児語の特徴について理解し、発声法を練習する。 | 教科書p10～12を読み、テキストp18～19にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p18～19をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 10 | 領域「言語」から「言葉」への変遷要因を学び、基本的な関わり方を理解する。 | 教科書p12～14を読み、テキストp20にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p20をまとめ直す。1時間 | (1) - 1) |
| 11 | 保育場面の映像を活用し保育の現場で子どもへの対応に悩む諸問題を出し合い、その対応をグループで話し合いICTを活用し発表する。 | 教科書p14～16を読み、テキストp21～23にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p21～23をまとめ直す。2時間 | (2) - 2) |
| 12 | 言葉を育てるシステムの現状について、グループで話し合いICTを活用して発表する。 | 教科書p17～21を読み、テキストp23～24にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p23～24をまとめ直す。2時間 | (3) - 1) - 2) - 3) |
| 13 | 領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。 | 教科書p24～33を読み、テキストp25～29にまとめる。4時間 | グループ発表をふまえ、テキストp25～29をまとめ直す。3時間 | (1) - 3) |
| 14 | 総合的な活動での領域「言葉」の役割、必要な視点を理解する。 | 教科書p34～36を読み、テキストp29～31にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p29～31をまとめ直す。1時間 | (1) - 3) |
| 15 | 領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解し、幼児教育のありかたをグループで話し合い、ICTを活用して発表する。 | 教科書p36～43を読み、テキストp32～34にまとめる。3時間 | グループ発表をふまえ、p32～34をまとめ直す。2時間 | (3) - 2) |
| 定期試験 | | 実施する | | |
| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【後期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
| 16 | 乳児と養育者の共鳴関係に映像資料を活用して理解し、愛着の形成を基盤とする前言語期のコミュニケーションの重要性を学ぶ。 | 教科書p48～51を読み、テキストp1～2にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p1～2をまとめ直す。2時間 | (1) - 2) |
| 17 | 三項関係について理解し、乳児期の子どもとのコミュニケーションのありかたを発表する。 | 教科書p51～54を読み、テキストp3にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p3をまとめ直す。2時間 | (1) - 2) |
| 18 | 保育場面のビデオ映像をもとに幼児の言葉の発達段階を理解し、各段階における言葉による伝え合いをどう援助するかを話し合う。 | 教科書p54～61を読み、テキストp4の表にまとめる。4時間 | グループ発表をふまえ、4をまとめ直す。2時間 | (1) - 1) |
| 19 | 幼児語・幼児音の特徴を理解し、対応のありかたを発表する。 | 教科書p60～61を読み、テキストp4にまとめる。1時間 | 授業メモをもとに、p4をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) |
| 20 | 保育場面のビデオ映像をもとに文字への関心を高め、文字で伝える楽しさをどのように経験するかを話し合う。 | 教科書p62～66を読み、テキストp5、7にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p6、7をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 2) |

| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【後期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|--|-----------------------------------|----------------------|
| 21 | 幼児の言葉かけの基本について理解し、想定場面での言葉かけを実演する。 | 教科書 p70～76 を読み、テキスト p8 にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p8 をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) |
| 22 | 幼稚園教諭・保育教諭の陥りがちな言葉かけについて事例をもとに考え、子どもの心を支える言葉掛けの実践の模擬保育を行なう。 | 教科書 p76～82 を読み、テキスト p9～10 にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p9～10 をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) |
| 23 | 子どもの言葉を豊かにするために絵本や紙芝居をもとにしたお話の映像等を視聴し、ICT 機器を活用した保育構想のアイデアを考える。 | 教科書 p82～88 を読み、テキスト p11 にまとめる。1時間 | グループ発表をふまえ、p11 をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 24 | 言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びの実践を行う。 絵本を使つての「しりとり遊び」の指導計画を作成し、模擬保育を行なう | 教科書 p83 を読み、前時紹介した絵本を参考にテキスト p12 にしりとり遊びの指導計画を作る。2時間 | 仲間の発表をふまえ、p12 を作り直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 3) |
| 25 | 言葉を育てる様々な児童文化財の特徴を理解する。 パネルシアターやペープサートを製作し、保育場面での活かし方を考える | 教科書 p94～101 を読み、テキスト p13、14、16 にまとめる。「ちいさなくも」を参考にペープサート作成の構想を練っておく。3時間 | 授業メモをもとに、p13、14、16 をまとめ直す。2時間 | (2) - 3) |
| 26 | 保育場面のビデオ映像をもとに絵本について発達段階ごとの幼児の認識の仕方を理解し、絵本からの発展遊びを計画し、模擬保育を行なう（ビデオ録画）。 | 教科書 p95～96 を読み、テキスト p15 にまとめる。前時紹介した絵本の発展遊びを考えておく。2時間 | グループ発表をふまえ、p15 をまとめ直す。1時間 | (2) - 3) |
| 27 | 科学絵本「たんぼぼ」を読み、豊かな言葉と感性を育む絵本の役割を理解し、自分の体験事例をもとにデジタル絵本のアイデアを出す。 | 教科書 p105～107 を読み、テキスト p18 の①に概略をまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p18～19 をまとめ直す。2時間 | (2) - 3) |
| 28 | 地域文化の大切さを理解し、地域で仲間と遊ぶなかで培われる力について話し合い、ICT を活用して発表する。 | 教科書 p107～114 を読み、テキスト p20～23 にまとめる。3時間 | グループ発表をふまえ、p20～23 をまとめ直す。2時間 | (3) - 1) - 3) |
| 29 | ICT を活用して言葉に関わる障害の諸相を理解し、実習での体験もふまえ適切な指導・対応のありかたを話し合う。 | 教科書 p118～123 を読み、テキスト p26～27 にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、テキスト p26～27 をまとめ直す。2時間 | (4) - 1) |
| 30 | ICT を活用して母国語が日本語でない幼児や保護者の心情や実態を理解し、適切な指導対応を話し合う。 | 教科書 p123～129 を読み、テキスト p30～31 にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p30～31 をまとめ直す。2時間 | (4) - 2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループでの話し合いへの参加（関心・意欲・態度）30%、レポート（思考力・判断力・表現力）30% 定期試験（知識・理解）40% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎時の授業のグループ発表時に補足、コメントを加える。試験はルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『保育内容「言葉」』 小田 豊・芦田 宏 編著 北大路書房 『保育内容の指導法（言葉）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） | | | |
| メッセージなど | 幼児の言葉獲得過程と養育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験から共に考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|----------------------|---------------------|---------------------------|-----------------|---------------------------------|------|
| (1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (1)-2) 幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなくできる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限できる。 | きない。 | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなくできる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限できる。 | できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。 | ほぼ完璧に理解し、利用できる。 | 理解に偏りがあるが、利用できる。 | 理解への偏りが大きい、何とか利用できる。 | 理解できず、利用できない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。 | ほぼ完璧に広く、深く捉えている。 | 課題の捉え方が、やや限定的である。 | 課題の捉え方が限定的である。 | 理解できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 15% |
| (3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。 | 多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。 | いくつかの事例をあげ、説明できる。 | 事例が限定的であるが、何とか説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (4)-1) 言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。 | ほぼ完璧に理解し、説明できる。 | 大きな間違いがなく理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 理解できず、説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (4)-2) 母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説ける。 | ほぼ完璧に理解し、説明できる。 | 大きな間違いがなく理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 理解できず、説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|-------------------|---------------------------|----------------------|-----------|
| 保育内容の指導法(表現Ⅰ(音楽・造形)) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I) | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECCC2015 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 |
| 演習 | 2 | | 必修(幼稚園) | 田中奏子(音楽) 縄田也千(造形) | 単独 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | | | | |
| 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| (1)各領域のねらい及び内容 | | | | | |
| 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 | | | | | |
| 到達目標：1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | |
| 2)当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している | | | | | |
| 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | | | | | |
| 4)領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 | | | | | |
| (2)保育内容の指導方法と保育の構想 | | | | | |
| 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| 到達目標：1)幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 | | | | | |
| 2)各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 | | | | | |
| 3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 | | | | | |
| 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 | | | | | |
| 5)各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | |
| 【全体目標及び概要【音楽】】 | | | | | |
| 豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。 | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標【音楽】】 | | | | | 目標対応 |
| (1)幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 | | | | | (1)-1) |
| 2)表現を生成する過程について理解している。 | | | | | (1)-2)、4) |
| 3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め。共感することができる。 | | | | | (1)-3) |
| (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 | | | | | |
| 1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 | | | | | (2)-1) |
| 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 | | | | | (2)-2) |
| 3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 | | | | | (2)-3) |
| 4)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | | | | | (2)-4) |
| 5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 | | | | | (2)-5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【前期・音楽】【田中奏子】 | 準備学習（予習内容・時間） | 準備学習（復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------|--|---------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 1 | 幼児と表現、音楽表現について理解する（オリエンテーション） | テキスト3ページ、4ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、3) |
| 2 | 音楽を中心とした音楽劇についてDVDを視聴して具体的に理解する | テキスト5ページから7ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2)、3) |
| 3 | 「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ 「表現遊び」におけるICTの活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える | テキスト8ページ、9ページ、14ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、 (2)-1)、-2) |
| 4 | 「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ 自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する | テキスト15ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2) |
| 5 | 「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICTを用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する | テキスト16ページ、23ページ、24ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-2)、 (2)-2)、4)、5) |
| 6 | 「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ | テキスト10ページ、11ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、 (2)-2)、3) |
| 7 | 「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ | テキスト12ページ13ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2)、4) |
| 8 | グループ練習。 絵本からイメージする音づくりを通して想像力を高める。 | テキスト17ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、5) |
| 9 | グループで創作活動について指導計画を立案する。 | テキスト18ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、 4)、5) |
| 10 | グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。 | テキスト19ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、 5) |
| 11 | 中間発表を行い、各グループ評価しあう。 発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。 | テキスト20ページ、21ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-3)、 (2)-3)、4) |
| 12 | グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認 | テキスト22ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、 5) |
| 13 | 模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動 | テキスト25ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-3)、 (2)-1)、4)、5) |
| 14 | 模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動 | テキスト26ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-2)、3)、 (2)-4)、5) |
| 15 | 模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。 | テキスト29ページ、30ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、(2)-5) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |

| 全体目標及び概要【造形】 | | | | |
|---|---|-----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。 | | | | |
| 【一般目標及び到達目標【造形】】 | | | | 目標対応 |
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 | | | | (1)-1) |
| 2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 | | | | (1)-2) |
| 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | | | | (1)-3) |
| 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。 | | | | (1)-4) |
| (2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 | | | | (2)-1) |
| 2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 | | | | (2)-2) |
| 3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 | | | | (2)-3) |
| 4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 | | | | (2)-4) |
| 5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。 | | | | (2)-5) |
| 回数 | 保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【後期・造形】【縄田也千】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
| 16 | 表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する | 授業前に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 「表現とは何か」について理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (1)-1) -2) |
| 17 | 表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する | 前時に配った「表現と表出」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 「表現」と「表出」について理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-1) |
| 18 | 表現活動の3系論、拇指対向性、円の終結を理解する | 前時に配った「3系論」のプリントを読んでおく・2時間 | 「3系論」を理解したかどうかを考察し感想を書く・2時間 | (1)-1) (2)-1) |
| 19 | 0歳～6歳までの幼児画を観察し各年齢の特徴を理解する | 前時に配った6歳までの幼児画のプリントを読んでおく・2時間 | 6歳までの幼児画を理解したかどうか考察し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-1) |
| 20 | 絵の具、パス、竹ペン、筆等の主な用具の特徴を理解する タブレットを用いて絵の具の使い方を撮影した教材を作成する | 前時に配った「描画用具」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く・2時間 | (2)-2) -5) |
| 21 | 保育場面の映像を通して絵遊び（線遊び、記号遊び、みため遊び）の指導法を学ぶ | 前時に配った「絵遊び」のプリントを読んでおく・2時間 | 「絵遊び」の内容を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2)-5) |
| 22 | 幼児のハサミとノリの使い方について保育場面の映像を通して子どもの姿を学び、具体的な指導法を学ぶ（切り止めなど） | 前時に配った「ハサミとノリ」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 「ハサミとノリ」について理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2) -5) |
| 23 | 紙の種類について学び、季節に合わせた美しい折り紙、切り紙、壁面構成が出来るようになる。 | 前時に配った「紙について」のプリントを読んでおく・2時間 | 習得した技法を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2)-5) |
| 24 | 季節に合った造形遊びの方法を学ぶ（色水遊び等） | 前時に配った「造形遊び」のプリントを読んでおく・2時間 | 「造形遊び」を理解し実践できるか考察し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2)-5) |
| 25 | モダンテクニック① ドリッピング、コラーージュなどの美術史的由来を、ICT機器を活用して理解する。 | 前時に配った「モダンテクニック①」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック①」を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2)-5) |
| 26 | モダンテクニック② 染め紙、マーブリング、洗い絵、フロッタージュのテクニックを学び、幼児造形に活用できるような教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する | 前時に配った「モダンテクニック②」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック②」を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)-2) (2)-2)-5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【後期・造形】【縄田也千】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|----------------------------------|--------------------------------------|----------------------|
| 27 | モダンテクニック③ デカルコマー、パチック、スクラッチ、ステンシル他のテクニックを学び、幼児造形に活用できるよう教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する。 | 前時に配った「モダンテクニック③」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック③を」理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 28 | 小学校図画工作の教科書を見て関連性を学び、評価の方法を学ぶ(否定しない、良さを褒める、保育者の好みに合わせない、など) | 前時に配った小学校教科書に関するプリントを読んでおく・2時間 | 小学校図工との関連性を理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) －3) －4) |
| 29 | 授業から好きな題材を選ぶ。技能優先ではなく、「子どもの心」を育てる「指導案」を立案できる | 前時に配った指導案の例を読んでおく・2時間 | 指導案の立案ができたか考察し感想を書く・2時間 | (2)－3) |
| 30 | 指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法、評価方法を身に付け、更なる向上に取り組むことができる | 模擬保育が出来るよう3グループで準備する・2時間 | 模擬保育を振り返り感想、反省を書く・2時間 | (2)－4)－5) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価法 | <p>音楽：毎回の学習状況（関心・意欲・態度）50%、発表点（表現力）25% レポート（理解力・判断力）25%</p> <p>造形：毎回の学習状況(意欲・感性・態度)30点 作品提出(完成度・技能・発想力)50点 レポート(理解度、思考力)20点</p> <p>音楽と造形、それぞれ100点満点で評価し、2つの平均値を評価点とする。</p> | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | <p>試験に准ずるプリント配り、幼児の造形や技法についての理解ができたかどうか試す。15コマ分の感想と作品ファイルを返却し、実技の目標到達、完成度などを振り返る。</p> | | | |
| テキストおよび参考文献 | <p>テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）</p> <p>『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸術社</p> <p>『うたっておどっておもちゃ箱2』鈴木 恵津子 教育芸芸術社</p> <p>『保育内容の指導法（表現Ⅰ（造形））』山口短期大学</p> <p>参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院</p> | | | |
| メッセージなど | <p>（音楽）この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。</p> <p>（造形）子どもの絵は、頭から手足が出ていて不思議です。でも意味があるのです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。</p> <p>幼稚園教諭二種免許状：必修</p> | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--|---|--|--------------------------------------|---|------|
| (1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） グループ活動 | 5% |
| (1)-2) 表現を生成する過程について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。 | 理解していない。 | | 5% |
| (1)-3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 | 表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。 | 表現の基本を受け止め、共感することができる。 | 表現を受け止め、共感することが最低限できる。 | 表現を受け止めることができない。 | | 10% |
| (2)-1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、様々な表現を感じる、イメージを豊かにすることができる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。 | 授業への取り組み グループ活動 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 | ほぼ完璧に表現できる。 | 大きな間違いがなく、基本を表現できる。 | 基礎を表現できるが努力を要す。 | 表現できない。 | | 15% |
| (2)-3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 | ほぼ完璧に分析することができる。 | 大きな間違いがなく、基本を分析できる。 | 分析することは最低限できるが、努力を要す。 | 分析できない。 | | 15% |
| (2)-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。 | | 20% |
| (2)-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。 | | 20% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|---|---|--|---|------|
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート（理解力、思考力） | 5% |
| 2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート（理解力、思考力） | 5% |
| 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート（解力、思考力） | 5% |
| 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート（解力、思考力） | 5% |
| (2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、その上で子どもの絵の特徴を完璧に説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きく理解し、その上で子どもの絵の特徴を説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、その上で子どもの絵の特徴をある程度説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解できない。子どもの絵の特徴を説明できない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児造形に関する意欲、関心、態度 (30%) ・用具、材料の理解。モダンテクニック等を使いこなし、子どもの発達や立場に立った試作品への取り組み (完成度、技能、発想力) ・材料の特質を生かした指導案作成、模擬授業 (50%) | 80% |
| 2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 | ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。 | 間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。 | 理解していない。活用できない。 | | |
| 3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 理解していない。指導案を作成できない。 | | |
| 4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 | ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 計画を練ることができない。 | | |
| 5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。 | ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。 | 大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている。 | 間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。 | 知識、技能、指導法を身に付けていない。 | | |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---|-------------------------|------|-------|
| 幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling | | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECUI2011 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | | 必修(幼稚園) | 佐藤 嘉倫 福屋 いずみ 鄭 曉琳 | 分担 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導 法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | | ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 | | | |
| <p>○コアカリキュラム：幼児理解の理論及び方法 全体目標：幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。</p> <p>(1) 幼児理解の意義と原理 一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：1) 幼児理解の意義を理解している。 2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2) 幼児理解の方法 一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p> <p>○コアカリキュラム：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 全体目標：教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。</p> <p>(1) 教育相談の意義と理論 一般目標：学校における教育相談の意義と理論を理解する。 到達目標：1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。</p> <p>(2) 教育相談の方法 一般目標：教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> <p>(3) 教育相談の展開 一般目標：教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 到達目標：1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p> | | | | | | |

【全体目標及び概要】

幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。
 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。
 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。

| 【一般目標及び到達目標】 | | 目標対応 | | |
|--|---|---------------------|-------------------|---------------------------|
| | | 幼児理解 | 教育相談 | |
| (1) 幼児理解についての基本的な知識を身につける。 1) 幼児理解の意味と意義を理解する | | (1)-1 | | |
| 2) 幼児の発達や学びについて知る | | (1)-2 | | |
| 3) 幼稚園における教師の基本的な態度を理解する | | (1)-3 | | |
| (2) 幼児の理解、保護者を含めた関係者の理解。 1) 行動観察、記録の付け方の基本を身につける | | (2)-1, 2 | | |
| 2) 幼児の発達をつまずきの背景について学ぶ | | (2)-3 | | |
| 3) 保護者の心理、基本的な対応方法について学ぶ | | (2)-4 | | |
| (3) 幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ 1) 幼児を対象とした教育相談の基礎を理解する | | | (1)-1, 2 | |
| 2) 発達状況に応じた支援方法を身につける | | | (2)-1, 2, 3 | |
| 3) カウンセラーなどとの協働について学ぶ | | | (3)-1, 2, 3, 4 | |
| 回数 | 幼児理解と教育相談 授業内容 【佐藤嘉倫 福屋いずみ 鄭 曉琳】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標 の番号 |
| 1 | 幼児理解とは何か概要を知る 佐藤・福屋・鄭 | — | 幼児理解の概要をまとめる。2時間 | (1)-1 |
| 2 | 幼児理解の必要性・意義について学ぶ 鄭 | テキストの第1講を読む。2時間 | もう一度第1講を読む。2時間 | (1)-1 (1)-2 |
| 3 | 幼児の生活状況について学ぶ 鄭 | テキストの第3, 4講を読む。2時間 | もう一度第3, 4講を読む。2時間 | (1)-1、 (1)-2、 (1)-3 |
| 4 | 幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する 鄭 | テキストの第8, 9を読む。2時間 | もう一度第8, 9講を読む。2時間 | (1)-1 (1)-2 |
| 5 | 親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ 鄭 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (2)-2 (2)-3 |
| 6 | 保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ 鄭 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (1)-2 (1)-3 |
| 7 | 教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ 福屋 | 補足資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)-1 (3)-2 |
| 8 | カウンセリング技術(受容・傾聴・共感)に基づく子どもとの関わりについて学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (3)-1 (3)-2 |
| 9 | 発達をつまずきとは何か学ぶ 福屋 | テキストの第7, 10講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1、 2)、3) |
| 10 | 発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ 福屋 | テキストの第14講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1、2) (3)-2 |
| 11 | 発達の問題への支援方法について学ぶ 福屋 | テキストの第13講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2、 (3)-1、 (3)-2 |
| 12 | 保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (2)-3、 (3)-2 |
| 13 | 社会的資源について知り活用方法を学ぶ 福屋 | 補足資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。 | (3)-3 |
| 14 | カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (3)-2、 (3)-3 |
| 15 | 幼児を取り巻く環境の今後について考える 福屋 | テキストの第15講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)-1、 (1)-2 |

| | |
|----------------------------|--|
| 定期試験 | 実施する |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・講義中の発表（関心・意欲・態度・表現力）50% 筆記試験（知識・理解・思考力・判断力）50% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業内での課題は、コメントを記入し返却する。 試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。 |
| テキストおよび参考文献 | 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 『幼児理解と教育相談』山口短期大学 清水益治・森俊之（2019）新・基本保育シリーズ10子どもの理解と援助 中央法規 |
| メッセージなど | 幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|--|-----------------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 幼児理解の意味と意義を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 6% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (1)-2) 幼児の発達や学びについて知る | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 6% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (1)-3) 幼稚園における教師の基本的な態度を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 5% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 5% |
| (2)-1) 行動観察、記録の付け方の基本を身につける | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---|------------------------|-------------------------------|------|
| (2)-2) 幼児の発達のみずきの背景について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表 (関心・意欲・態度) | 6% |
| (2)-3) 保護者の心理、基本的な対応方法について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (3)-1) 幼児を対象とした教育相談の基礎を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表 (関心・意欲・態度) | 6% |
| (3)-2) 発達の状況に応じた支援方法を身につける | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (3)-3) カウンセラーなどとの協働について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表 (関心・意欲・態度) | 5% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|------------------------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| 保育・教職実践演習(幼稚園) Practice of Teaching Profession(Kindergarten) | | 児童教育学科 初等教育学専攻 | 20ECTP2004 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | | 子安 崇夫・田中 奏子・縄田 也千 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。 (2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。 (3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育等の実践を通して表現することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 手あそびについて | てあそびについて調べて くる 2時間 | 授業の振り返りと手あそび の選択と練習 2時間 | |
| | 2 | 手あそびの練習 | 手あそびを2つ練習 2時 間 | グループで出た手あそび の練習 2時間 | |
| | 3 | 手あそびの発表・相互評価 | 模擬保育(手あそび)の練 習 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 4 | 運動あそびを使った保育計画・グループ作り・練 習 | 事前配布資料を読んでく る 2時間 | 授業の振り返りと指導案の まとめ 2時間 | |
| | 5 | 運動あそびを使った模擬保育 | グループ企画の練習 2時 間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 6 | リトミックを使った保育計画・グループ作り・練 習 | 事前配布資料を読んでく る 2時間 | 授業の振り返りと指導案の まとめ 2時間 | |
| | 7 | リトミックを使った模擬保育 | グループ企画の練習 2 時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 8 | 人権教育 | 事前配布資料を読んでく る 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 9 | モダンテクニックを使った保育計画・グループ作 り・練習(造形) | 事前配布資料を読んでく る 2時間 | 授業の振り返りと指導案 づくり | |
| | 10 | モダンテクニックを使った模擬保育(造形) | グループ企画の練習 2 時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 11 | 保育実践の説明及び準備(指導案づくり) | 保育教材の選定 2時間 | 指導案の作成 2時間 | |
| | 12 | 保育実践の準備及び練習 | 模擬保育の練習 2時間 | 指導案の作成とまとめ 2 時間 | |
| | 13 | 幼稚園での保育実践①保育実践 | 模擬保育の練習 2時間 | 課題レポート 2時間 | |
| | 14 | 幼稚園での保育実践②保育実践と事後指導 | 模擬保育のまとめ | 課題レポート 2時間 | |
| | 15 | 授業の振り返り、自己評価シート記入 | 授業資料と指導案のまと め 2時間 | 授業の振り返りとまとめ 2時間 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（意欲・関心・態度・理解）20%、 課題レポート（理解・知識・思考力・表現力）40%、 発表・実践後のレポート（技能・意欲・理解・思考力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振り返りに使用します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 参考文献：幼稚園教育要領 |
| メッセージ な ど | 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。 | 幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。 | 幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。 | 幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。 | 幼稚園教諭としての適性が見られない。 | 授業への取り組み・グループワーク（関心・意欲・態度・表現力） | 30% |
| (2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート・グループでの発表（知識・理解、思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。 | ほぼ完璧に表現できる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。 | 表現することができない。 | 模擬保育・地域の子育て支援行事への準備・参加・発表・事後レポート（思考力・判断力・表現力） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|-------------------------------|--|---|------------|
| 国語 Japanese Language | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 中司 志磨子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 一般社会で生きて働く「国語」の力（読む・書く・聞く・話す）全般にわたって具体的教材を通して学習する。 日本文学史並びに代表的文学作品を概観し、日本人としての教養を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 国語・漢和辞書を的確かつ迅速に、目的に応じて利用できる。 (2) 常用漢字や主要な熟字訓等の読み書きができる。 (3) 日本の代表的な文学を読み味わい、その特徴や良さを適切な話し方で発表できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 「国語」学習の意義・ガイダンス | テキストのまえがきを読む。「教養を高める」とは どういうことか考えておく。2時間 | 「教養を高める」という題 でレポートを書く。2時間 | |
| | 2 | 辞典の引き方・小試験の練習① | テキスト p 1～2 の設問 に答える。2時間 | 色々な漢字を3種類の引 き方で出してみる。2時間 | |
| | 3 | 辞典の引き方・小試験の練習② | テキスト p 3、配布プリン トの設問に答える。2時間 | p 3、配布プリントの漢字 を3種類の引き方で出し てみる。2時間 | |
| | 4 | 五十音図・その他の日本語の音韻 | p 4～7 の設問に答える。 3時間 | 授業メモをもとに、p 4～ 7 をまとめる。2時間 | |
| | 5 | いろは歌・いろはかるた | p 8～10 の設問に答える。 2時間 | いろは歌を暗唱する。 2時間 | |
| | 6 | 日本のことわざの意味を考える | p 11～13 を読めるように する。配布プリントで意味 を考える。3時間 | いろはかるたを滞りなく 読めるよう何度も読み返 す。2時間 | |
| | 7 | 日本語の表記・平仮名・片仮名・漢字 | p 14～16 の設問に答える。 2時間 | 授業メモをもとに、p 14 ～16 を完成させる。2時間 | |
| | 8 | 万葉仮名表記の万葉集を読む | p 17～20 の設問に答える。 3時間 | 授業メモをもとに、p 17 ～20 を完成させる。2時間 | |
| | 9 | 百人一首に親しむ①－百首を読み通す | p 22～24 を読めるように し、p 25 の設問に答える。 3時間 | 百人一首を滞りなく読め るよう何度も読み返す。 2時間 | |
| | 10 | 百人一首に親しむ②－好きな歌（得意な札）を 味わう－ | 選んだ上位10首をp 26に 記入。上位1～3首をp 27 に記入し、調べる。3時間 | 授業メモをもとに、p 27 をまとめ直す。2時間 | |
| | 11 | 百人一首に親しむ③－有名歌を味わう－ | 上位4～7首を配布プリン トに記入し調べておく。 3時間 | 授業メモをもとに、配布プ リントをまとめ直す。2時間 | |
| | 12 | 百人一首に親しむ④－有名歌を味わう－ | 上位8～10首を配布プリン トに記入し調べる。3時間 | 授業メモをもとに、配布プ リントをまとめ直す。2時間 | |
| | 13 | 俳諧の連歌・俳句の概要 | p 28 を読み、季語・季節を 記入する。2時間 | p 28 を読み返す。 1時間 | |
| | 14 | 古典俳句を味わう①－芭蕉－ | p 29 を読み、情景を考え、 季語・季節を記入する。2 時間 | p 29 の句を何度も読み返 す。1時間 | |
| | 15 | 古典俳句を味わう②－蕪村・一茶－ | p 30 を読み、情景を考え、 季語・季節を記入する。2 時間 | p 30 の句を何度も読み返 す。1時間 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|-------------------------|---|--------------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 1 | 近代・現代の俳句を味わう | p 31～32 を読み、設問に答える。2 時間 | p 31、32 の句を暗唱する。2 時間 |
| | 2 | 種田山頭火①－自由律俳句を味わう－ | p 3、配布プリントを読む。2 時間 | 代表句を暗唱する。2 時間 |
| | 3 | 種田山頭火②－映像で見る生涯－ | p 1～2 を読む。2 時間 | 授業メモをもとに、p 1～2 をまとめ直す。1 時間 |
| | 4 | 種田山頭火③－「行乞記」を読む－ | p 4～7 を読む。2 時間 | p 4～7 を読み返す。1 時間 |
| | 5 | 種田山頭火④－「行乞記」を読む－ | p 8 を読み、p 9、10 の足跡を確かめる。2 時間 | p 9、10 の足跡をマーカーで確認する。1 時間 |
| | 6 | 与謝野晶子①－短歌を味わう－ | p 11～12 を読み、情景を想像する。2 時間 | p 12 の短歌を暗唱する。2 時間 |
| | 7 | 与謝野晶子②－詩を味わう－ | p 13 を読む。1 時間 | p 13 を読み返す。1 時間 |
| | 8 | 与謝野晶子③－生き方を考える－ | 配布プリントを読む。2 時間 | 晶子の生き方・考え方・功績をレポートにまとめる。2 時間 |
| | 9 | 山口県の詩人－金子みすゞ① | p 14～18、配布プリントを読む。2 時間 | p 15～17、配布プリントの詩を朗読練習する。2 時間 |
| | 10 | 山口県の詩人－金子みすゞ② | p 15～16 の各詩にこめられた作者の思いをプリントにまとめる。2 時間 | 各グループの発表メモをもとに、プリントにまとめ直す。2 時間 |
| | 11 | 山口県の詩人－金子みすゞ③ | p 17、配布プリントの詩にこめられた作者の思いをまとめる。2 時間 | 各グループの発表メモをもとに、プリントにまとめ直す。2 時間 |
| | 12 | 山口県の詩人－まどみちお① | p 19～24、配布プリントを読む。2 時間 | p 21～24 の詩を朗読練習する。2 時間 |
| | 13 | 山口県の詩人－まどみちお② | p 23～24 の詩を読み作者の物の見方・考え方をプリントにまとめる。2 時間 | 授業メモをもとに、プリントをまとめ直す。2 時間 |
| | 14 | 職場で使われる敬語①－尊敬語・丁寧語・謙譲語－ | p 33～36 の設問に答える。2 時間 | p 34～36 を読み返し敬語表現に慣れる。2 時間 |
| | 15 | 職場で使われる敬語－クッション言葉－ | p 37～38 の設問に答える。2 時間 | クッション言葉を日常生活の中で使う。 |
| 成績評価 | 授業への取組み・発表（関心・意欲・態度）30% 毎時間の小試験（思考・判断・技能）30% 定期試験（知識・理解・表現）40% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験は採点・コメント記入後、返却。誤りを訂正後再提出。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・☆国語辞典 ☆漢和辞典（高等学校で使用する程度のもの・電子辞書は不可） テキスト「国語」山口短期大学 刊 ・資料プリントはその都度配布。 | | | |
| メッセージなど | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、辞書を引ながらの小テストを実施。 ・上記☆印の辞典 テキストは各自必ず準備、<u>毎時間持参</u>のこと。 ・配布した資料プリントをまとめる A 4 ファイル、記録用ノートを用意のこと。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------|-------------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 国語・漢和辞書を的確かつ迅速に、目的に応じて利用できる。 | ほぼ完璧に利用できる。 | 間違いが少しあるが、何とか利用できる。 | 間違いが多く時間がかかるが、何とか利用しようとする。 | 利用できない。 | 毎時間ごとの小テスト（知識・理解・意欲） | 30% |
| (2) 常用漢字や主要な熟字訓等の読み書きができる。 | ほぼ完璧にできる。 | 間違いが少しあるが、何とかできる。 | 間違いが多いが、何とかできる。 | ほとんどできない。 | 定期試験・授業での朗読（知識・理解・態度） | 30% |
| (3) 日本の代表的な文学を読み味わい、その特徴や良さを適切な話し方で発表できる。 | ほぼ完璧に捉えられ、自分の言葉で表現・発表できる。 | やや表面的な捉え方があるが、自分の言葉で表現・発表できる。 | 表面的な捉え方で、ありきたりの表現・発表に終わる。 | 的を外れた捉え方で、適切な表現・発表ができない。 | 定期試験・授業での発表（判断力・思考力・表現力・関心・態度） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|--|-------------------------------|--|-----------------------------------|------------------|
| 音楽 I Music I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCC1002 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 田中 奏子・安部 浩信・大谷 美和 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 音楽理論、ソルフェージュなど音楽の基礎を学習し、音楽的能力や感性を磨く。 幼児音楽の世界を学び、幼児の音楽を学習する。 保育現場での幼児音楽教育に必要な、歌唱指導法、合奏指導法、音楽表現法などを学習する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 音楽の基礎を理解し、幼児の歌のための基礎を歌唱できる。 (2) 楽譜を正しく読み取り、幼児のための歌唱が表現できる。 (3) 楽譜の指示を理解し、簡易楽器演奏ができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 音楽理論・幼児の歌について | | | | |
| | 2 | 春の歌① ソルフェージュ 音楽表現① (手遊び、指遊び) | | 春の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 3 | 春の歌② ソルフェージュ 音楽表現② (手遊び、指遊び) | | 春の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 4 | 夏の歌① ソルフェージュ 音楽表現③ (手遊び、指遊び) | | 夏の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 5 | 夏の歌② ソルフェージュ 音楽表現④ (手遊び、指遊び) | | 夏の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 6 | 秋の歌① ソルフェージュ 音楽表現⑤ (手遊び、指遊び) | | 秋の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 7 | 秋の歌② ソルフェージュ 音楽表現⑥ (手遊び、指遊び) | | 秋の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 8 | 冬の歌① ソルフェージュ 音楽表現⑦ (手遊び、指遊び) | | 冬の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 9 | 冬の歌② ソルフェージュ 音楽表現⑧ (手遊び、指遊び) | | 冬の歌、手遊びを譜読みし ておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 10 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 (ハ長調) | | テキスト4ページから6ペ ージを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | |
| | 11 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 (ニ長調) | | テキスト9ページから10 ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | |
| | 12 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 (ヘ長調) | | テキスト11ページから12 ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | |
| | 13 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 (ト長調) | | テキスト13ページから15 ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | |
| | 14 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 1 | | テキスト16ページから18 ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | |
| 15 | 音楽理論 簡易伴奏基礎 2 | | テキスト19ページと20ペ ージを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキスト を見て復習する・2時間 | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽の特徴と奏法 1週目 | | 打楽器奏法のテキスト 65 ページ、66ページを読んで おく・2時間 | 授業を振り返り71ページ のリズム練習をする・2時 間 | |
| | 2 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽の特徴と奏法 2週目 | | 打楽器奏法のテキスト 67 ページ、68ページを読んで おく・2時間 | 授業を振り返り71ページ のリズム練習をする・2時 間 | |
| | 3 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽曲 1週目 ブンブンン ぞうさん アイアイ | | 指定された曲のリズム練 習をしておく・2時間 | 授業を振り返り71ページ のリズム練習をする・2時 間 | |
| | 4 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽曲 2週目 ブンブンン ぞうさん アイアイ | | 指定された曲のリズム練 習をしておく・2時間 | 授業を振り返り71ページ のリズム練習をする・2時 間 | |
| 5 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽合奏曲 1週目 さんぽ アンパンマンのマーチ | | 指定された曲のパートを 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り復習練習 をする・2時間 | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|---|-------------------------------|----------------------|
| | 6 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽合奏曲 2週目 さんぼ アンパンマンのマーチ | 指定された曲のパートを練習しておく・2時間 | 授業を振り返り復習練習をする・2時間 |
| | 7 | 器楽合奏法 保育で用いる器楽合奏曲 3週目 さんぼ アンパンマンのマーチ | 指定された曲のパートを練習しておく・2時間 | 授業を振り返り復習練習をする・2時間 |
| | 8 | 歌唱法 4月、5月、6月の歌 | 指定した4月、5月、6月の歌を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 9 | 歌唱法 7月、8月、9月の歌 | 指定した7月、8月、9月の歌を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 10 | 歌唱法 10月、11月、12月の歌 | 指定した10月、11月、12月の歌を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 11 | 歌唱法 1月、2月、3月の歌 | 指定した1月、2月、3月の歌を譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 12 | 歌唱法 愛唱歌① | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 13 | 歌唱法 愛唱歌② | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| | 14 | 歌唱法 愛唱歌③ | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 |
| 15 | 歌唱法 愛唱歌④ | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| 成績評価 | 授業で習得した音楽理論や手遊び、指遊びを実技試験の場で発表し評価する。また打楽器、鍵盤楽器等を使って曲を練習し、全体の合奏で評価する。 授業への取り組み60%、定期試験40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 毎回の授業の曲を予習復習しておく。 器楽合奏法の授業では毎回の授業で叩き方を一人ずつ確認する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 森田 百合子 他「幼児の音楽教育」教育芸芸術社 鈴木 恵津子「うたっておどっておもちゃ箱2」教育芸芸術社 | | | |
| メッセージなど | ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 音楽理論の基礎を理解し、簡易伴奏のための基礎を習得できる。 | ほぼ完璧に基礎を理解し、習得できる。 | 大きな間違いなく、基礎を理解し、習得できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を理解し、習得できる。 | 基礎が理解できておらず、習得できない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 30% |
| (2) 楽譜を正しく読み取り、幼児のための歌唱が表現できる。 | ほぼ完璧に楽譜の読み取りと歌唱表現ができる。 | 楽譜の読み取りに大きな間違いなく、歌唱表現できる。 | 楽譜の読み取り、歌唱表現の基礎が最低限できる。 | 楽譜の読み取りができず、歌唱表現できない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |
| (3) 楽譜の指示を理解し、簡易楽器演奏ができる。 | ほぼ完璧に楽譜の指示を理解し、簡易楽器演奏ができる。 | 大きな間違いなく楽譜の指示を理解し、簡易楽器演奏ができる。 | 間違いはあるが、最低限の楽譜の指示を理解し、簡易楽器演奏ができる。 | 楽譜の指示が理解できず、簡易楽器演奏ができない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|---|---|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|------------|
| 音楽Ⅱ MusicⅡ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCC1003 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 田中 奏子・上田 奈奈・ 宮坂 真理子・宮本 千穂 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ |
| 概要 | それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。また、保育現場で活用できる幼児の歌唱教材の伴奏法を学ぶ。個人レッスンの形態で演習する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶ事ができる。 (2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 (3) 保育現場で必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ピアノ曲演奏① ピアノの扱い方 ピアノ楽譜の読みとり方 | | 3ページから5ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 2 | ピアノ曲演奏② ピアノ曲目説明 | | 6ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 3 | ピアノ曲演奏③ バイエル15番 | | 6ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 4 | ピアノ曲演奏④ バイエル28番 | | 7ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 5 | ピアノ曲演奏⑤ バイエル48番 | | 8ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 6 | ピアノ曲演奏⑥ バイエル51番 | | 9ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 7 | ピアノ曲演奏発表 伴奏曲演奏について | | 指定された曲を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 8 | 伴奏曲演奏① 八長調音階 —1週目— | | 10ページ、14ページ、15ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 9 | 伴奏曲演奏② 八長調音階 —2週目— おおきなクリの木の下で むすんでひらいて | | 10ページ、14ページ、15ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 10 | 伴奏曲演奏③ 十長調音階 —1週目— うみ | | 11ページ、16ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 11 | 伴奏曲演奏④ 二長調音階 —1週目— チューリップ | | 11ページ、12ページ、17ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 12 | 伴奏曲演奏⑤ 二長調音階 —2週目— チューリップ ちょうちょう あくしゅでこんにちは | | 17ページから19ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 13 | 伴奏曲演奏⑥ 二長調音階 —3週目— チューリップ ちょうちょう あくしゅでこんにちは | | 17ページから19ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 14 | 伴奏曲演奏⑦ 八長調音階 —1週目— きらきら星 たなばたさま | | 13ページ、20ページ、21ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| 15 | 伴奏曲演奏⑧ 八長調音階 —2週目— きらきら星 たなばたさま | | 13ページ、20ページ、21ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 伴奏曲演奏① 2拍子 —1週目— | | 22ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 2 | 伴奏曲演奏② 2拍子 —2週目— シャボン玉 かたつむり | | 22ページ、23ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |
| | 3 | 伴奏曲演奏③ 2拍子 —3週目— とんぼのめがね どんぐりころころ | | 24ページ、25ページを譜読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て復習する・2時間 | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| | 4 | 伴奏曲演奏④ 2拍子 —4週目— とんぼのめがね どんぐりころころ | 24 ページ、25 ページを譜 読みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 5 | 伴奏曲演奏⑤ 2拍子 —5週目— うれしいひな祭り | 26 ページを譜読みしてお く・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 6 | 伴奏曲演奏⑥ 3拍子 —1週目— こいのぼり ありさんのおはなし | 27 ページ28 ページを譜読 みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 7 | 伴奏曲演奏⑦ 3拍子 —2週目— こいのぼり ありさんのおはなし | 27 ページ28 ページを譜読 みしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 8 | 伴奏曲演奏⑧ 4拍子 —1週目— お正月 | 29 ページを譜読みしてお く・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 9 | 伴奏曲演奏発表 ピアノ曲演奏について | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 10 | ピアノ曲演奏① —1週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 11 | ピアノ曲演奏② —2週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 12 | ピアノ曲演奏③ —3週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 13 | ピアノ曲演奏④ —4週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| | 14 | ピアノ曲演奏⑤ —5週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 |
| 15 | ピアノ曲演奏⑥ —6週目— 教材「音楽Ⅱ」より選択 | 指定された曲を譜読みし 練習しておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| 成績評価 | ディプロマポリシーに沿い、実技試験とルーブリック評価に基づき評価する。 授業への取り組み 65%、定期試験 35% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 幼稚園教諭保育士養成課程をめざす学生のための音楽教材「音楽Ⅱ」（山口短期 大学） | | | |
| メッセー ジ な ど | ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 予習復習を欠かさず行いましょう。 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------|----------------------|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶことができる。 | ほぼ完璧に 学んでいる。 | 大きな間違いがなく、 基本を学ん でいる。 | 間違いはあるが、最低 限の基本を 学んでいる。 | 学んでいな い。 | 授業への取り 組み 定期試験 | 30% |
| (2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 | ほぼ完璧に 習得している。 | 大きな間違いがなく、 基本を習得 している。 | 間違いはあるが、最低 限の基本を 習得している。 | 習得できて いない。 | 授業への取り 組み 定期試験 | 35% |
| (3) 保育現場に必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。 | ほぼ完璧に 習得している。 | 大きな間違いがなく、 基本を習得 している。 | 間違いはあるが、最低 限の基本を 習得している。 | 習得できて いない。 | 授業への取り 組み 定期試験 | 35% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|--|--|--------------------------|-----------------|
| 器楽 I Instrumental Music I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2004 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 田中 奏子・上田 奈奈・ 大谷 美和・宮本 千穂 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、保育現場に必要な伴奏法・弾き歌いの方法を学ぶ。また、簡易伴奏法はハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調の I V V (V 7) の和音を修得し伴奏に活用できる方法を学ぶ。各自のピアノ演奏技術にあわせ個人レッスンの形態で学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。 (2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調の I V V (V 7) の和音を修得し、伴奏に活用できる。 (3) 保育現場で必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 弾き歌い① ハ長調伴奏 ー1週目ー 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう | テキスト 5 ページから 10 ページまでを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 2 | 弾き歌い② ハ長調伴奏 ー2週目ー 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう | テキスト 5 ページから 10 ページまでを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 3 | 弾き歌い③ ハ長調伴奏 ー3週目ー とんぼのめがね やきいもグーチーパー | テキスト 11 ページから 14 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 4 | 弾き歌い④ ト長調伴奏 ー1週目ー うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット | テキスト 15 ページから 20 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 5 | 弾き歌い⑤ ト長調伴奏 ー2週目ー うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット | テキスト 15 ページから 20 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 6 | 弾き歌い⑥ ニ長調伴奏 ー1週目ー チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた | テキスト 21 ページから 26 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 7 | 弾き歌い⑦ ニ長調伴奏 ー2週目ー チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた | テキスト 21 ページから 26 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 8 | 弾き歌い⑧ ニ長調伴奏 ー3週目ー チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた | テキスト 21 ページから 26 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 9 | 弾き歌い⑨ ヘ長調伴奏 ー1週目ー たなばたさま きらきら星 プン プン プン やぎさんゆうびん | テキスト 27 ページから 34 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 10 | 弾き歌い⑩ ヘ長調伴奏 ー2週目ー たなばたさま きらきら星 プン プン プン やぎさんゆうびん | テキスト 27 ページから 34 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 11 | 弾き歌い⑪ ヘ長調伴奏 ー3週目ー たなばたさま きらきら星 プン プン プン やぎさんゆうびん | テキスト 27 ページから 34 ページを譜読みして おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 12 | 弾き歌い⑫ 自由曲 (保育実習で必要と考える曲) | 指定された曲を練習して おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 13 | 弾き歌い⑬ 自由曲 (幼稚園実習で必要と考える 曲) | 指定された曲を練習して おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| | 14 | 弾き歌い⑭ 自由曲 (幼稚園実習で必要と考える 曲) | 指定された曲を練習して おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | |
| 15 | ピアノ演奏 自由曲 (保育現場で演奏する曲) | 指定された曲を練習して おく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見 て復習する・2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | ディプロマポリシーに沿い、実技試験とルーブリック評価に基づき評価する。 授業への取り組み 70%、定期試験 30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。 |
| テキストおよび 参考文献 | 森田 百合子 他「幼児の音楽教育」教育芸芸術社 |
| メッセージ な ど | 保育現場で音楽指導ができるようになりましょう。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|----------------|------------------------|--------------------------|-------------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。 | ほぼ完璧に習得している。 | 大きな間違いがなく、基本を習得している。 | 間違いはあるが、最低限の基本を習得している。 | 習得できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |
| (2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調の I IV V (V7) の和音を修得し、伴奏に活用できる。 | ほぼ完璧に活用できる。 | 大きな間違いがなく、基本を活用できる。 | 間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。 | 活用できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 30% |
| (3) 保育現場に必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。 | ほぼ完璧に弾き歌いができる。 | 大きな間違いがなく、基本を弾き歌いができる。 | 間違いはあるが、最低限の基本を弾き歌いができる。 | 弾き歌いできていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 35% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|---|-----------------------------------|------------------------|----------------------|-------------|
| 器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2005 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 田中 奏子・上田 奈奈 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概 要 | 音楽によるコミュニケーション力と教育現場に必要な即興演奏力を様々なリトミック的な要素を用いたエクササイズや遊びを通して身につけていく。 ピアノ曲を各自の能力に合わせ選択し、イメージーション豊かな表現力を身につけ、幼児教育現場で効果的に用いる事ができるようなピアノ演奏技術を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 表現する事、アンサンブルに必要な“コミュニケーション力”が身に付く。 (2) “自由に発想する力”や“イメージ力”を高める事ができる。 (3) イメージーション豊かにピアノを演奏できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | “イメージする事”と“アンサンブル”について | 事前に伝えたテーマについて調べておく・2時間 | 授業を振り返り内容をまとめる・2時間 | |
| | 2 | “コミュニケーション力”を高めるエクササイズ 基本・応用 | 事前に伝えた内容について調べておく・2時間 | 授業を振り返り内容をまとめる・2時間 | |
| | 3 | “イメージ力”を高めるエクササイズ 演劇系・音楽系 | 事前に伝えた内容について調べておく・2時間 | 授業を振り返り内容をまとめる・2時間 | |
| | 4 | “イメージ力”を高める複合的なエクササイズ リトミック基本 | 事前に伝えた内容について調べておく・2時間 | 授業を振り返り内容をまとめる・2時間 | |
| | 5 | リトミック、リズム遊び | 事前に伝えた内容を練習しておく・2時間 | 授業を振り返り内容をまとめる・2時間 | |
| | 6 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備① グループ編成 | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 7 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備② 企画・曲練習 | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 8 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備③ 練習及び流れの確認 | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 9 | 任意のピアノ曲 1曲目 ① | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 10 | 任意のピアノ曲 1曲目 ② | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 11 | 任意のピアノ曲 1曲目 ③ | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 12 | より高度な任意のピアノ曲 2曲目 ① | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 13 | より高度な任意のピアノ曲 2曲目 ② | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 14 | より高度な任意のピアノ曲 2曲目 ③ | 指定した曲の譜読みをしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |
| | 15 | 発表 | 指定した曲の練習をしておく・2時間 | 授業を振り返り楽譜を見て練習する・2時間 | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | ディプロマポリシーに沿い、授業と実技により評価をする。 授業への取り組み 70%、定期試験 30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回のテーマについて事前学習をし、授業の場で発表できるようにしておく。毎授業後に、達成度確認のため個別確認をする。 |
| テキストおよび参考文献 | 授業内で適宜紹介 |
| メッセージなど | ピアノの技術を磨くことも大切ですが、現場では臨機応変に対応できる音楽表現力とテクニックが必要となってきます。そんな“即興力”と、枠にとらわれない自由な“イメージ力”を楽しみながら身につけていきましょう！ |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------|-----------------------------|-------------------------------|-------------------|------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 表現する事、アンサンブルに必要な“コミュニケーション力”が身に付く。 | ほぼ完璧に身に付いている。 | 大きな間違いがなく、基礎が身に付いている。 | 間違いはあるが、最低限の基礎が身に付いている。 | 身に付いていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 30% |
| (2) “自由に発想する力”や“イメージ力”を高める事ができる。 | 2つの力をほぼ完璧に高める事ができる。 | 2つの力を大きな間違いがなく、基礎を高める事ができる。 | 2つの力を間違いはあるが、最低限の基礎を高める事ができる。 | 2つの力を高める事ができていない。 | 授業への取り組み | 30% |
| (3) イマジネーション豊かにピアノを演奏できる。 | ほぼ完璧に演奏できる。 | 大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。 | 演奏できていない。 | 授業への取り組み 定期試験 | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 図画工作 Arts and Handicrafts | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC1006 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 縄田 也千 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 絵画、デザインの領域にわたり、幼児造形の基本的内容を中心として演習する。幼児の興味を引く課題を織り交ぜながら図画工作のあり方を考える。作る喜びを味わう中で保育者として身に付けておきたい造形技法を習得すると同時に子どもの立場にも立ち、子どもが喜んで造形活動ができるように創意工夫する能力を養っていく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育者として身に付けておきたい造形素材、技法及び用具についての基本的な知識を持ち自在に使いこなす技術を持つ。 (2) 子どもの発達や年齢に合い、且つ子どもの興味を引き、保育現場で保育者が実践できるものを作ることが出来る。 (3) 子どもに教える事を想定し、子どもが楽しく造形活動ができるものを工夫し制作できる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 授業演習の概要についてと心構え | 授業前に配ったプリントを読む・2時間 | 授業の概要理解について考察し感想を書く・2時間 | |
| | 2 | おもちゃの製作① ー封筒で作るコイノポリー | 前時に配った「おもちゃ製作①」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合うおもちゃ作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 3 | おもちゃの製作② ー六角返しー | 前時に配った「おもちゃ製作②」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合うおもちゃ作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 4 | おもちゃの製作③ ーのびるオモチャー | 前時に配った「おもちゃ製作③」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合うおもちゃ作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 5 | 折り紙 (基本) | 前時に配った「折り紙」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合う折り紙作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 6 | 折り紙 (キャラクター折り紙) | 前時に配った「キャラクター折り紙」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合う折り紙作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 7 | 切り紙 (基本) | 前時に配った「切り紙」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合う切り紙作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 8 | 切り紙 (並ぶもの、環になるもの) | 前時に配った「切り紙」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合う切り紙作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 9 | 切り紙 (季節の飾りもの) | 前時に配った「季節の紙」についてのプリントを読む・2時間 | 季節に合う切り紙作成ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 10 | イメージトレーニング① | 前時に配ったプリント①を読む・2時間 | 想像性、創造性が身に付いたかを考察し感想を書く・2時間 | |
| | 11 | イメージトレーニング② | 前時に配ったプリント②を読む・2時間 | 想像性、創造性が身に付いたかを考察し感想を書く・2時間 | |
| | 12 | 画面構成表現テスト① | 前時に配った「画面構成①」についてのプリントを読む・2時間 | 画面構成について考察し感想を書く・2時間 | |
| | 13 | 画面構成表現テスト②ー評価・まとめー | 前時に配った「画面構成②」についてのプリントを読む・2時間 | 画面構成について考察し感想を書く・2時間 | |
| | 14 | おもちゃの製作④ージグソーパズルー | 前時に配った「おもちゃ製作④」プリントを読む・2時間 | 実習に使える保育材料について考察し感想を書く・2時間 | |
| | 15 | おもちゃの製作⑤ージグソーパズルー | 前時に配った「おもちゃ製作⑤」のプリントを読む・2時間 | 実習に使える保育材料について考察し感想を書く・2時間 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------|--|-------------------------------|---|--|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 16 | 簡単な仕掛け絵本の製作の概要 | 授業前に配ったプリントを読む・2時間 | 授業内容を振り返り感想を書く・2時間 |
| | 17 | 仕掛け絵本の構想①ーテーマの設定ー | 前時に配った「仕掛け絵本」についてのプリントを読む・2時間 | 発達、年齢に合ったテーマ設定ができたかを考察し感想を書く・2時間 |
| | 18 | 仕掛け絵本の構想②ーストーリーの設定ー | ストーリーを考えて大まかに書いてみる・2時間 | 発達、年齢に合ったストーリーが書けたかを考察し感想を書く・2時間 |
| | 19 | 仕掛け絵本の構想③ー場面設定ー | 各ページの場面設定を大まかに考える・2時間 | 各ページの場面設定について十分練る事ができたかを考察し感想を書く・2時間 |
| | 20 | 仕掛け絵本の構想④ー画面構成ー | 各ページの画面構成について大まかに構想する・2時間 | 各ページについて十分な画面構成ができたかを考察し感想を書く・2時間 |
| | 21 | 仕掛け絵本の構成①ー試作品作りー (雑紙にスケッチ) | 雑紙にアイデアスケッチをしてみる・2時間 | 雑紙で試作品ができたかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 22 | 仕掛け絵本の構成②ー仕掛け作りー | 仕掛けの注意事項を確認する・2時間 | 仕掛けの仕組みについて理解し制作ができたかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 23 | 製本する (仕掛けの確認⇒製本) | 前時に配った製本についてのプリントを読む・2時間 | 製本方法について理解し仕掛け絵本の製本ができたかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 24 | 仕掛け絵本の製作①ー下描きー | 前時に配った下描きから仕上げについてのプリントを読む・2時間 | 大まかな下描きが出来たかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 25 | 仕掛け絵本の製作②ー下描き仕上げー | 前時に配った下描きから仕上げについてのプリントを読む・2時間 | 下描きが完成したかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 26 | 仕掛け絵本の製作③ー大まかな着彩ー | 前時に配った着彩についてのプリントを読む・2時間 | 大まかな着彩が出来たかどうかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 27 | 仕掛け絵本の製作④ー細かい着彩ー | 着彩についてのプリントを読む・2時間 | 細かい着彩が出来たかどうかを振り返り感想を書く・2時間 |
| | 28 | 仕掛け絵本の製作⑤ー着彩仕上げー | 着彩についてのプリントを読む・2時間 | 仕上がりについて振り返り感想を書く・2時間 |
| | 29 | 指導案の概略と作成 | 前期のおもちゃ作りについて指導案を練る・2時間 | 発達、年齢に合った指導案作成について考察し感想を書く・2時間 |
| 30 | 各自の指導案の作成 | 前期のおもちゃ作りについて指導案を練る・2時間 | 実習に備え、子どもに教える事を前提とした指導案が書けたかを考察し感想を書く・2時間 | |
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> 造形の素材、技法、用具の知識、使いこなし 30% 保育現場で使えるものができる 40% 子どもが実際に制作できるもの作る 30% ※意欲・関心・態度を含んだうえで採点する。 | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法 | <ul style="list-style-type: none"> 試験は実施しない 授業の感想提出と、ファイルの作成・振り返り (後期 15 コマ終了後返却) | | | |
| テキストおよび参考文献 | 「図画工作」山口短期大学 | | | |
| メッセージ | 子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------------|------------------------------------|--|------------------------|----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育者として身に付けておきたい造形素材、技法及び用具についての基本的な知識を持ち自在に使いこなせる。 | ほぼ完璧に理解し、使いこなす事ができる。 | 大きな間違いがなく理解し使いこなす事ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限理解し使える。 | 全く理解せず、使えない。 | 授業内での制作（知識、理解）（意欲、関心、態度、技能） | 30% |
| (2) 子どもの発達や年齢に合い、且つ子どもの興味を引き保育現場で保育者が実践できるものを作ることが出来る。 | ほぼ完璧に現場で保育者が実践できるものを作ることができる。 | 大きな間違いがなく現場で保育者が実践できるものを作ることができる。 | 間違いはいくつかあるが、現場で保育者がほぼ実践できるものを作ることができる。 | 現場で保育者が実践できるものが制作できない。 | 授業内での制作（発想、意欲、関心、態度、技能、完成度） | 40% |
| (3) 子どもに教えることを想定し、子どもが楽しく造形活動を実践できるものを工夫し、制作できる。 | ほぼ完璧に子どもが楽しく実践できるものを想定し制作できる。 | 大きな間違いがなく、子どもが楽しく実践できるものを想定し制作できる。 | 間違いはいくつかあるが、子どもが楽しく実践できるものを想定し制作できる。 | 現場で子どもが実践できるものが制作できない。 | 授業内での制作（発想、創意工夫、意欲、関心、態度、技能、完成度） | 30% |

| | | | | | |
|---|--|--|--------------------------------------|--|------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 幼児図画工作 Arts and Handicrafts for Infant | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2007 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 縄田 也千 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 紙芝居の製作を通して幼児図画工作の基本的技術の習得を目的とする。各自一つオリジナルの紙芝居を製作する事により、描画材料の扱い、場面の構成力、文章力、読み聞かせの技術など保育士として必要な総合的な力をつけていく。また実習や就職試験にも役立つようにする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる。 (2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通じて「何を伝えたいか」という問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。 (3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。 (4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。 (5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずる事ができる。 (6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べる事ができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 授業演習の概要について。児童文化の中にある紙芝居の位置付け | 授業前に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 児童文化への理解ができているか復習し、感想を書く・2時間 | |
| | 2 | 紙芝居の歴史、特質。制作についての説明、参考作品の鑑賞 | 前時に配った紙芝居の歴史についてプリントを読んでおく・2時間 | 紙芝居の歴史、特質を理解できたかを復習し感想を書く・2時間 | |
| | 3 | お話の設定 ストーリーを考える① 5領域やファンタジーの世界から構想を練る | 前時に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 紙芝居の様々な種類を知り、構想を練る事ができたかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 4 | お話の設定 ストーリーを考える② アイデアスケッチ（4分の1サイズ上質紙で作成） | 前時に配ったプリントを読んでおく・2時間 | ストーリー設定ができたかどうかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 5 | お話の設定 ストーリーを考える③ アイデアスケッチ、文章を考える | 前時に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 内容に合った文章の考案ができているかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 6 | 場面の絵を描く① 8つ切り画用紙に下描きをする | 前時に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 計画通り下描きができているかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 7 | 場面の絵を描く②—彩色1週目— | 構図通り彩色計画を行い色鉛筆で縮小サイズの試作を作る・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 8 | 場面の絵を描く③—彩色2週目— | 計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 9 | 場面の絵を描く④—彩色3週目— | 計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 10 | 場面の絵を描く⑤—彩色4週目— | 計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 11 | 場面の絵を描く⑥—彩色5週目— | 計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 12 | 場面の絵を描く⑦—彩色6週目— | 計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる・2時間 | 絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 13 | 場面に合った文章を考え入力する | 内容に合う文章を考えてみる・2時間 | 場面に合った文章になっているか振り返り感想を書く・2時間 | |
| | 14 | 文章をもう一度校正し、プリントアウトして画用紙に貼り付ける | 考えた文章を校正してみる・2時間 | 場面に合った文章の最終校正を振り返り感想を書く・2時間 | |
| 15 | 実技発表・講評 | 発表できるように練習する・2時間 | 人前で紙芝居の演技ができたかどうか振り返り、考察・感想を書く・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・試験は行わない。 ・児童文化への理解・知識 10%、発達段階、年齢に合った紙芝居を考案できる 10%、内容に合った造形技法で紙芝居の制作ができる 50% ・演技の評価、お互いの講評 30% ※制作に対する意欲・関心・態度・完成度等含んで評価する |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化に関する文献、文章を読み、その内容に関するプリントに回答を記入して提出。 ・お互いに完成した紙芝居を読みあい、感想を述べる。 ・15コマ分の感想、考察を提出。 ・作品を返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：子どもと言葉 岡田 明編 萌文書林 |
| メッセージなど | 15コマで1つの紙芝居を完成させるためには相当の集中力を必要とします。描画材（ポスターカラー等）の扱いを知り、構成力、文章力、演技力を身に付けたい人。 保育士証：選択科目 幼稚園教諭二種免許状：選択科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------|---------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない | レポート（知識・理解） | 10% |
| (2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通じて「何を伝えたいか」という問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。 | ほぼ完璧に調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。 | よく調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。 | 間違いはいくつかあるが、発達や年齢に合った内容を決定できる | 発達や年齢に合った内容を決定できない | 授業内での制作（発達・年齢に合ったアイデアスケッチをしている） | 10% |
| (3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。 | ほぼ完璧に描画材を使いこなして丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる | 描画材をあてる程度使いこなして丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる | 描画材は使いこなせていないが、自分なりの技法で場面の絵を描くことができる | 描画材を全く使いこなせていない。制作する意欲がない | 授業内での制作（表現技法に対する意欲・関心・態度） | 30% |
| (4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。 | ほぼ完璧に絵の内容に合った文章を書けている。 | ほぼ絵の内容に合った文章を書けている。 | 絵の内容に合った文章が書けていない場面もあるが自分なりに表現している | 全く絵の内容に合った文章を書く意欲がない | 授業内での制作（絵に合う文章を書く能力） | 20% |
| (5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずることができる。 | ほぼ完璧に演技ができている | 大きな間違いがなく演技ができている | やや演技の技能に不足はあるが演ずることができる | 全くできていない。また意欲もない | 実技発表 | 20% |
| (6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べる事ができる | ほぼ完璧に作品について意見を述べる事ができる | 大きな間違いがなく、作品について意見を述べる事ができる | 言葉の選択に間違いはいくつかあるが作品について意見を述べる事ができる | 全く意見が言えない。意欲がない。 | 授業内での相互評価（鑑賞） | 10% |

| | | | | | | |
|--------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------|---------------------|-----|------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 体育 Physical education | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCC1008 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 子安 崇夫 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 元来、子どもにとって「あそび」は生活そのものだが、近年、子どもを取り巻く環境が変化し、子どものあそびが貧弱なものになってきている。「体育」では、「自ら組織してあそぶ」ということを主眼に、しっぽを使用した「しっぽとり」をベースにあそびの内容・指導方法を学ぶことをねらいとする。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) あそびをあそびとして楽しむことができる。 (2) 発達段階に応じた運動あそびの内容、主にしっぽを使ったあそびのルールづくりができる。 (3) 運動あそび、主にしっぽを使ったあそびの指導を含めた発表ができる。 (4) 模擬保育や発表から自己の課題を明確にし、考えを述べることができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション①ー授業の心構え及びレクリエーションゲームー | テキストを読んでくる(2時間) | 授業内容・実技内容の振り返り(2時間) | | |
| | 2 | オリエンテーション②ーコミュニケーションづくりレクリエーションゲームー | テキストを読んでくる(2時間) | 授業内容・実技内容の振り返り(2時間) | | |
| | 3 | オリエンテーション③ー授業の目的・内容ー | テキストを読んでくる(2時間) | 授業内容・実技内容の振り返り(2時間) | | |
| | 4 | しっぽづくり | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 授業内容の振り返り(2時間) | | |
| | 5 | しっぽを使ったあそびの指導①ー目的・目標についてー | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 6 | しっぽを使ったあそびの指導②ー内容についてー | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 7 | しっぽを使ったあそびを考える | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 8 | しっぽを使ったあそびの発表①第一グループ | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | |
| | 9 | しっぽを使ったあそびの発表②第二グループ | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | |
| | 10 | しっぽを使ったあそびの発表③第三グループ | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | |
| | 11 | しっぽを使ったあそびの発表④第四グループ | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | |
| | 12 | あそびを指導するときに必要な技術の学習 | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 13 | しっぽを使ったあそびの指導③ールールについてー | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 14 | しっぽを使ったあそびの指導④ー応用についてー | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| 15 | まとめ | テキストを読んでくる(2時間) | 前期授業資料のまとめ | | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション | テキストを読んでくる(2時間) | 授業内容の振り返り(2時間) | | |
| | 2 | しっぽ陣とりの基本的なルールで遊ぶ① | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 3 | しっぽ陣とりのグループづくり | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 4 | しっぽ陣とりの基本的なルールで遊ぶ② | 事前配布資料を読んでくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| 5 | しっぽ陣とりのルールづくり①第一グループ | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|--|----------------------------------|---------------------------|----------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 6 | しっぽ陣とりのルールづくり②第二グループ | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2 時間) |
| | 7 | しっぽ陣とりのルールづくり③第三グループ | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2 時間) |
| | 8 | しっぽ陣とりのルールづくり④第四グループ | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2 時間) |
| | 9 | ルールづくりの意味について考える | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2 時間) |
| | 10 | しっぽ陣とりが十分に楽しめる力について考える | 事前配布資料を読んでく る(2時間) | 課題レポート(2時間) |
| | 11 | しっぽ陣とりの作戦を深めながら遊ぶ① 一対 戦形式1回目ー | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 課題レポート(2時間) |
| | 12 | しっぽ陣とりの作戦を深めながら遊ぶ② 一対 戦形式2回目ー | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 課題レポート(2時間) |
| | 13 | しっぽ陣とりの作戦を深めながら遊ぶ③ 一対 戦形式3回目ー | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 課題レポート(2時間) |
| | 14 | しっぽ陣とりの作戦を深めながら遊ぶ④ 一対 戦形式4回目ー | グループでの発表内容の 確認と練習(2時間) | 課題レポート(2時間) |
| | 15 | まとめ | 後期授業資料のまとめ(2 時間) | 授業資料のまとめ(2時間) |
| 成績評価 | 授業への取り組み(関心・意欲・理解・表現力)30%、 授業振り返りレポート・グループ発表(知識・理解・判断力・思考力・表現力)40%、 課題レポート(意欲・理解・判断力・表現力)30% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却します。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方 学校体育研究同志会編 創文企画 | | | |
| メッセージ など | ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------------------|----------------------------|---------------------------|-------------|---------------------------------------|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) あそびをあそびとして楽しむことができる。 | 楽しむことができる | ある程度楽しむことができる | 最低限楽しむことができる | 楽しめない | 授業への取り組み (関心・意欲・理解・表現力) | 20% |
| (2) 発達段階に応じた運動あそびの内容、主にしっぽを使ったあそびのルールづくりができる。 | ほぼ完璧にできる | 大きな間違いがなくできる | 最低限のことはできる | ルールづくりができない | 授業への取り組み・課題レポート・発表 (知識・理解・思考力・表現力) | 20% |
| (3) 運動あそび、主にしっぽを使ったあそびの指導を含めた発表ができる。 | ほぼ完璧にできる | 大きな間違いがなくできる | 最低限のことはできる | ルールづくりができない | 発表・振り返りレポート (理解・判断力・表現力) | 30% |
| (4) 模擬保育や発表から自己の課題を明確にし、考えを述べるができる。 | 様々な角度から課題を見出しレポートにまとめることができる | いくつかの課題を見出しレポートにまとめることができる | 最低限の課題を見出しレポートにまとめることができる | 課題を把握できない | 課題レポート (意欲・理解・判断力・表現力) | 30% |

| | | | | | | |
|---|--|------------------------------|-----------------------|--------------------|-----|-------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 幼児体育 Young Children Physical Education | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCC2009 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 子安 崇夫 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 「子どもの生活はあそびである」と言われるが、幼児期の子どものあそびは身体活動を伴うことが多い。そして、これらの身体活動を伴うあそびは、子どもの心身の発育・発達に大きく関与している。本授業では、幼児期の子どもにとっての運動あそびとは何か、また、運動あそびの指導はどのように進めていけばよいかなど、単に動きの指導やあそびを考える指導に留まらず、心身の発達を視野において保育活動の一環としての運動あそびの指導ができるように、必要な能力や知識を身につけることを目標とする。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。 (2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。 (3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 幼児期の運動あそびの意義ーオリエンテーションー | テキストを読んでおく(2時間) | 授業の振り返り(2時間) | | |
| | 2 | なわあそびの考え方と指導の留意点 | テキストを読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 3 | 短なわ技術の系統的指導 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 4 | なわあそびにおける表現活動 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 5 | リズムなわとびについて | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 6 | リズムなわとびのグループづくりと練習 | なわとびの練習(2時間) | リズムなわとびの立案と練習(2時間) | | |
| | 7 | リズムなわとびのグループ練習① | なわとびの練習(2時間) | リズムなわとびの立案と練習(2時間) | | |
| | 8 | リズムなわとびのグループ練習② | なわとびの練習(2時間) | リズムなわとびの立案と練習(2時間) | | |
| | 9 | リズムなわとびの発表 | グループ練習(2時間) | 発表の振り返りレポート(2時間) | | |
| | 10 | 「おにごっこ」の考え方と指導の留意点 | テキストを読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 11 | 「おにごっこ」の初期段階と指導の要点 | テキストを読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 12 | 「おにごっこ」の意味と課題(グループ活動) | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 13 | 「おにごっこ」におけるルールの意味 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 14 | 現実の発達課題に応じた「おにごっこ」の内容の検討(発表) | グループでの発表内容の確認と練習(2時間) | 課題レポート(2時間) | | |
| | 15 | まとめ | 授業資料のまとめ(2時間) | 授業資料の確認とまとめ(2時間) | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲表現力）30%、 レポート（理解・思考力・判断力・表現力）30%、 発表（知識・理解・判断力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用しません。 |
| テキストおよび 参考文献 | みんなが輝く体育① 幼児期 運動あそびの進め方 学校体育研究同志会編 創文企画 資料は随時配布 |
| メッセージ な ど | 保育士証：選択科目 幼稚園教諭二種免許状：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------|-----------------------|-------------------|---------------|-----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。 | ほぼ完璧に雰囲気をつくることができる | ある程度の雰囲気をつくることができる | 最低限の雰囲気をつくることはできる | 雰囲気がつくることできない | 授業への取り組み・発表 (関心・意欲表現力) | 20% |
| (2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。 | ほぼ完璧に考えを述べることができる | 大きな間違いがなく考えを述べることができる | 最低限の考えを述べることができる | 考えを述べることできない | 授業への取り組み・レポート (理解・思考力・判断力・表現力) | 40% |
| (3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。 | ほぼ完璧に実践できる | 大きな間違いがなく実践できる | 最低限のことは実践できる | 実践できない | 発表・レポート (知識・理解・表現力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|--------------------|---------------------|-------------------|------------------|
| 社会福祉 Social Welfare | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 母子生活支援施設に勤務した保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 社会福祉の歴史的背景から現在に至るまでの社会福祉制度を理解し、現在社会において多様化している社会福祉ニーズや、社会福祉事業所等での現状と課題を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。 (2) 社会福祉の歴史の変遷について説明することができる。 (3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について主体的に考えることができる。 (4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 社会福祉と現代社会の動向 | テキスト第1章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 2 | 社会福祉の歴史 ①欧米 | テキスト第2章の1, 2を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 3 | 社会福祉の法律 ②日本 | テキスト第2章の3を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 4 | 社会福祉の法律 | テキスト第3章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 5 | 社会福祉の体系 | テキスト第4章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 6 | 社会福祉施設と専門職 | テキスト第5章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 7 | 社会保障制度 ①社会保険 | テキスト第6章の1を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 8 | 社会保障制度 ②公的扶助 | テキスト第6章の2を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 9 | 子ども家庭福祉の法律と制度 | テキスト第7章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 10 | 高齢者福祉の方途制度 | テキスト第8章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 11 | 障害者福祉の方途制度 | テキスト第9章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 12 | 社会福祉におけるソーシャルワーク | テキスト第10章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 13 | 社会福祉サービスの利用支援と権利擁護 | テキスト第11章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 14 | 地域福祉の視点から | テキスト第12章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 15 | これからの社会福祉・まとめのテスト | テキスト第12章を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・知識・態度・理解）30%、 レポート（思考力・判断力・表現力）20%、 まとめのテスト（知識・理解）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポート課題は、次回授業で返却します。質問は授業内で対応します。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編「みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉」株式会社みらい 参考文献：松原康雄 坪洋一 金子充 編「社会福祉（基本保育シリーズ④）」 中央法規 その他の参考書はその都度紹介します |
| メッセージ な ど | 私たちの生活が豊かで幸せであるために、どんな社会であることが望ましいのでしょうか。積極的に授業に参加し、積極的に自分の意見を発表しましょう。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------|-----------------------|------------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 30% |
| (2) 社会福祉の歴史の変遷について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |
| (3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について、自分の意見を述べるができる。 | 正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | まとめのテスト（知識・理解） | 25% |
| (4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解することができる。 | ほぼ完璧に理解できている。 | 大きな間違いがなく、理解できている。 | 間違いはいくつかあるが、理解しようとしている。 | 理解できていない。 | | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------------|---|--|-------------------|-------------------|------------------|
| 子ども家庭福祉 Child and Family Welfare | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1002 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 岩城 淳 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概 要 | 児童養護施設での実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 児童家庭福祉の意義や役割、児童家庭福祉関係法制度と児童家庭福祉サービスを理解するとともに、保育士として子育て支援に関わる際に、児童家庭福祉サービスを活用できることをねらいとし、保育士に必要な知識や技術を解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 児童家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。 (2) 児童家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。 (3) 児童家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 現代社会と児童家庭福祉 - オリエンテーション | | | |
| | 2 | 児童家庭福祉の理念と概念 | 1回概要プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 3 | 児童福祉の歴史① - 日本の場合 - | 2回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 4 | 児童福祉の歴史② - 諸外国の場合 - | 3回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 5 | 児童家庭福祉と保育 | 4回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 6 | 児童家庭福祉の制度と法体系 | 5回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 7 | 児童家庭福祉の行政組織 | 6回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 8 | 児童福祉施設等について | 7回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 9 | 児童福祉施設等で働く人びと | 8回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 10 | 児童家庭福祉の現状と課題① - 子育て支援サービス - | 9回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 11 | 児童家庭福祉の現状と課題② - 母子保健と児童の健全育成 - | 10回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 12 | 児童家庭福祉の現状と課題③ - 児童虐待・ドメスティックバイオレンスへの対応 - | 11回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 13 | 児童家庭福祉の現状と課題④ - 社会的養護 - | 12回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 14 | 児童家庭福祉の現状と課題⑤ - 障がいのある児童への対応 - | 13回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 15 | これからの児童家庭福祉 | 14回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |

| | |
|--------------------------------|---|
| 成績評価 | (定期試験)筆記試験で講義内容の理解度を確認します。: 60%、 (関心・意欲・態度)視聴覚資料を使用した際にはレポートの提出: 40% |
| 課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法 | 定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。 |
| テキストおよび 参考文献 | 配布資料 |
| メッセージ な ど | 毎回、A4サイズの資料を配布予定であるので、資料を保管するためのクリアファイル等を用意することが望ましいです。基本的には講義形式で行いますが、視聴覚資料の活用、ディスカッションの場を随時設け、学びを深めていきたいと思 います。 保育士証:必修科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|--|---|---------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子ども家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (2) 子ども家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (3) 子ども家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べるができる。 | 子ども家庭福祉の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 子ども家庭福祉の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 子ども家庭福祉の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート (関心・意欲・思考力・判断力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 児童福祉法と子どもの権利 Child Welfare Act and Children's Right | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE2003 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 母子生活支援施設に勤務した保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 児童福祉法の法律と児童の権利に関する条約の内容を理解し、知識を深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。 (2) 児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。 (3) 条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。 (4) 法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 児童福祉法と子どもの権利で学ぶこと | — | 配布資料を読む・2時間 | |
| | 2 | 児童福祉法の概要 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 3 | 児童福祉法制定の経緯 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 4 | 子どもを取り巻く社会の現状 | 配布資料を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 5 | 児童の権利に関する条約ができるまで | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 6 | 4つの権利 ①生きる権利 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 7 | 4つの権利 ②育つ権利 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 8 | 4つの権利 ③守られる権利 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 9 | 4つの権利 ④参加する権利 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 10 | 児童の権利に関する条約を表現する(分担) | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | |
| | 11 | 児童の権利に関する条約を表現する(解釈) | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | |
| | 12 | 児童の権利に関する条約を表現する(解釈) | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | |
| | 13 | 児童の権利に関する条約を表現する(発表) | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | 条例を自分の言葉で表現する・2時間 | |
| | 14 | 子どもの最善の権利 | 配布資料を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 15 | 子どもの未来を守る社会 | 課題レポート・2時間 | 課題レポート・2時間 | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力）40%、 課題への取り組みと発表（関心・意欲・思考力・表現力・判断力）30%、 レポート課題（思考力・表現力・判断力）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポート課題は、授業内で返却します。質問は授業内で対応します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 参考文献：児童福祉六法 小口尚子、福岡鮎美「子どもによる子どものための『子ども権利条約』」小学館 資料プリントはその都度配布 |
| メッセージ な ど | 子どもに関連する法律や制度についての知識を深めることで、本来子どもが持っている力や、権利について一緒に学びましょう。 保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------|-------------------------|------------------------------|---------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 20% |
| (2) 児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 20% |
| (3) 条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。 | ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。 | 大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。 | 間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。 | 説明できない。 | グループ活動への取り組み・発表（意欲・態度・思考力・表現力） | 30% |
| (4) 法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べることができる。 | 正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート（知識・思考力・表現力） | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|----------------------------|-------------------------|-------------------------------|-----|----------------|
| 保育原理 Principle of Childcare and Education | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECBE1004 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 中津 愛子 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ |
| 概要 | 保育の意義と目的、保育所保育指針の基本、保育の歴史を学び、現代社会における保育の現状と課題について認識を深める。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 (2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。 (3) 保育の思想と歴史的変遷を説明できる。 (4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べるができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 保育の理念と概念 | テキスト第1講を読んでおく (2時間) | 就学前の保育・教育の概念と役割をまとめる (2時間) | | |
| | 2 | 子どもの最善の利益と保育、保育所の社会的責任 | テキスト第2講を読んでおく (2時間) | 保育所の役割と社会的責任をまとめる(2時間) | | |
| | 3 | 子ども家庭福祉と保育、保育に関する法令 | テキスト第3講を読んでおく (2時間) | 保育に関する法令の復習プリント(2時間) | | |
| | 4 | 保育の制度的位置づけ | テキスト第3講を読んでおく (2時間) | 子ども・子育て支援新制度をまとめる(2時間) | | |
| | 5 | 保育所保育指針における保育所保育の基本原則 | テキスト第4講を読んでおく (2時間) | 保育所保育指針第1章総則をまとめる(2時間) | | |
| | 6 | 0歳児の保育、1歳以上3歳未満児の保育 | テキスト第5講を読んでおく (2時間) | 0歳児、1歳以上3歳未満児の復習プリント(2時間) | | |
| | 7 | 3歳以上児の保育 | テキスト第6講を読んでおく (2時間) | 3歳以上児の復習プリント(2時間) | | |
| | 8 | 保育所保育の目標と方法 | テキスト第8講を読んでおく (2時間) | 保育の目標と方法復習プリント(2時間) | | |
| | 9 | 保育の計画と実践 | テキスト第9講を読んでおく (2時間) | お正月の遊びを練習してくる(2時間) | | |
| | 10 | 保育の過程(計画・実践・記録・評価・改善)とその循環 | テキスト第9講を読んでおく (2時間) | お正月の遊びの教材作成(2時間) | | |
| | 11 | 諸外国の保育の思想と歴史 1回目 | テキスト第10講を読んでおく (2時間) | 諸外国の保育の歴史復習プリント1(2時間) | | |
| | 12 | 諸外国の保育の思想と歴史 2回目 | テキスト第11講を読んでおく (2時間) | 諸外国の保育の歴史復習プリント2(2時間) | | |
| | 13 | 日本の保育の思想と歴史 1回目 | テキスト第12講を読んでおく (2時間) | 日本の保育の歴史復習プリント1(2時間) | | |
| | 14 | 日本の保育の思想と歴史 2回目 | テキスト第13講を読んでおく (2時間) | 日本の保育の歴史復習プリント2(2時間) | | |
| 15 | 保育の現状と課題 | テキスト第14・15講を読んでおく (2時間) | 保育の現状と課題レポート(2時間) | | | |

| | |
|--------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）60%、 課題レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）40% |
| 課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法 | 授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：天野珠路・北野幸子編「保育原理」第2版 中央法規 参考文献：大沼良子・榎沢良彦編「三訂 保育原理」建帛社 ミネルヴァ書房編集部 監修「保育小六法」ミネルヴァ書房 |
| メッセージ など | 保育現場の観察、行事への参加など、子どもと直接関わる機会を得る努力をして保育所の役割と現状について理解を深めるようにしてください。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-----------------------------------|---|--|---------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 30% |
| (2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (3) 保育の思想と歴史の変遷を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べるができる。 | 保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|---------------------|-------------------|--------------------|----------------|
| 現代社会と保育行政 Childcare Administration in Modern Society | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE2005 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 中津 愛子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 子ども・子育て支援新制度を中心とした現代社会の保育制度について詳しく学ぶとともに、現代社会における子ども、子育て、保育の課題を認識し、その解決策について考えを深める。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。 (2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。 (3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 保育制度の現状 | | 復習プリント(2時間) | |
| | 2 | 少子化対策の変遷 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 3 | 子育て支援施策の変遷 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 4 | 子ども・子育て支援新制度とその課題 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 5 | 子育て支援における世界の取り組みの現状 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 6 | 世界の保育・幼児教育の現状 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 7 | 現代社会がもたらす子どもへの影響 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 8 | 子どもの育ちと生活・遊びの変化 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 9 | 子育て中の人抱えている問題とは | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 10 | 保育現場の抱える問題 施設型保育 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 11 | 保育現場の抱える問題 地域型保育 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 12 | 保育者を支える体制の問題点 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 13 | 課題報告会① 現代の子どもの問題 | 課題レポート(2時間) | 報告会で学んだことレポート(2時間) | |
| | 14 | 課題報告会② 現代の保育・子育ての問題 | 課題レポート(2時間) | 報告会で学んだことレポート(2時間) | |
| 15 | まとめ | 報告会の振り返りレポート(2時間) | 報告会の振り返りレポート(2時間) | | |

| | |
|--------------------------------|---|
| 成績評価 | 毎回の授業のワークシート（知識・理解）30%、 課題レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）40%、 レポート報告会での討議（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法 | 授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：事前資料配布 参考文献：日本保育学会編著「保育学講座②保育を支えるしくみ 制度と行政」東京大学出版会 天野珠路・北野幸子編「保育原理」第2版 中央法規 |
| メッセージ など | 現在の保育事情を理解し、保育現場で働くことを考えている人の受講をお勧めする。 保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|--|---------------|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 毎回の授業のワークシート（知識・理解） | 30% |
| (2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。 | 保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | レポート報告会での討議（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------|--|--|-------------------|-------------------|------------------|
| 社会的養護 I Social Care I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1006 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 岩城 淳 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 児童養護施設での実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 養護問題の史的展開や今日の特徴を踏まえ、社会的養護の基本原理や原則についての理解を深め、 保育士として求められる資質や専門性について考察を深めることをねらいとして解説する。また、実 習に向けた事前学習として「ペアレントトレーニング」「子どもの権利」「日本型社会的養育」を中心 に構成していきたい。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。 (2) 社会的養護の基本原理や原則について説明することができる。 (3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べるすることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション：この講義の進め方 | | | |
| | 2 | ペアとれ：①わかりやすく伝えよう | 1回概要プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 3 | ペアとれ：②ABC 行動分析から見える行動の 結果 | 2回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 4 | ペアとれ：③誉め方のコツ～グッドサイクル ～ | 3回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 5 | ペアとれ：④望ましい行動の習慣づけ | 4回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 6 | ペアとれ：⑤代替行動の強化 | 5回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 7 | ペアとれ：⑥場面切り替えとふり返り | 6回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 8 | 児童養護施設を知ろう「ETV 特集：つかさ 18 歳、人生を取り戻したい」 | 7回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 9 | 保育士の専門性とは | 8回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 10 | 児童福祉施設とは | 9回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 11 | 児童福祉法と児童の権利 | 10回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 12 | 虐待の理解 | 11回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 13 | 障がいの理解 | 12回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 14 | 社会的養護の歴史 | 13回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |
| | 15 | まとめと視聴覚資料 | 14回配布プリント 30分 | 配布プリント 30分 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | (定期試験)筆記試験で講義内容の理解度を確認します。: 60% (関心・意欲・態度) 視聴覚資料を使用した際にはレポートの提出: 40% |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。 |
| テキストおよび参考文献 | 配布資料 |
| メッセージなど | 毎回、A4サイズの資料を配布予定であるので、資料を保管するためのクリアファイル等を用意することが望ましいです。基本的には講義形式で行いますが、施設見学、視聴覚資料の活用、ディスカッションの場を随時設け、学びを深めたいと思います。 保育士証: 必修科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------------------|--|---|---------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験(知識・理解) | 30% |
| (2) 社会的養護の基本原則や原則について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験(知識・理解) | 30% |
| (3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べるることができる。 | 社会的養護の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 社会的養護の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 社会的養護の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 定期試験(知識・理解) レポート(関心・意欲・態度) | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------|---|-----------------------|---------------------------|-------------------------------|------------------|
| 社会的養護Ⅱ Social Care Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM1001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 井原 貴美 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 児童養護施設での実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 子どもが育つ環境としての家族が果たす役割や機能について基礎的な理解を深め、家庭の支援における子ども達の発達段階を理解し、少子高齢化等家庭を取り巻く社会状況と子育てのため支援体制の現状や問題点等保育に携わる者に求められる基本的知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 社会的養護とは何か、児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。 (2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。 (3) 子どもの最善の利益を考え、実際に計画を作成し期限内に提出する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 社会的養護について調べておく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(1時間) | |
| | 2 | 子どもの理解と権利擁護 | テキスト第1講～第2講読んでおく。(2時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 3 | 施設養護とは(特に児童養護施設について) | テキスト第6講～第7講を読んでおく。(2時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 4 | 家庭養護とは | テキスト第8講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 5 | 入所や委託までの流れ | 児童相談所について調べておく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 6 | 社会的養護における保育士の倫理及び責務 | 保育士などの倫理綱領について調べておく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 7 | 養育 — 日常生活支援 | テキスト第3講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 8 | 心理的支援 | テキスト第4講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 9 | 自立支援 | テキスト第5講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 10 | アセスメントと自立支援計画の作成 | テキスト第9講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる、自立支援計画の作成(2.5時間) | |
| | 11 | 記録及び自己評価 | テキスト第10講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 12 | 社会的養護における保育の専門性及び家庭支援 | テキスト第11講と第14講を読んでおく。(2時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 13 | 社会的養護におけるソーシャルワークについて | テキスト第12講～第13講を読んでおく。(2時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | |
| | 14 | グループワーク | 特になし | グループワークで学んだことをまとめる。(1時間) | |
| 15 | これからの社会的養護の課題と展望 | テキスト第15講を読んでおく。(1時間) | レジュメに沿ってまとめる。(2時間) | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験(知識・理解)：50%、 課題提出(関心・意欲・思考・判断力・表現力)：30%、 毎回の授業感想レポート(関心・意欲・態度)：20% |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、返却する。 課題作成や試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 |
| テキストおよび参考文献 | 基本保育シリーズ ⑱社会的養護内容 |
| メッセージなど | 児童虐待などのような問題が増加している現在、保育所で働く保育士においても、児童養護施設などの保育士の職務内容や役割を学ぶことが必要とされる。 児童養護施設などで暮らす子どもたちやその子どもたちを支える保育士の職務内容に関心を寄せることを期待したい。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------------|-------------------|----------------------|----------|----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 社会的養護とは何か。特に児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな間違いのない説明ができる。 | 最低限の説明ができる。 | 説明できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 25% |
| (2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな間違いのない説明ができる。 | 最低限の説明ができる。 | 説明できない。 | | 25% |
| (3) 子どもの最善の利益を考えたうえで、実際に計画を作成し期限内に提出する。 | 子どもの最善の利益をよく考えて作成している。 | 子どもの利益を考えて作成している。 | 最低限の内容が記入でき期限内に提出する。 | 提出していない。 | 課題提出 (関心・意欲・思考・判断力・表現力) | 30% |
| (4) 各回の講義や演習に関心をもって参加する。 | とても関心をもって参加している。 | 関心をもって参加している。 | 参加している。 | 参加していない。 | 毎回の授業感想レポート (関心・意欲・態度) | 20% |

| | | | | | |
|------------------------------------|---|-----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 社会的養護演習 Practice of Social Care | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2002 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 母子生活支援施設に勤務した保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 社会的養護における基本的な対人援助の技術を、グループ演習を交えながら体験的に学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 社会福祉施設で働く保育士に求められる支援の在り方を説明できる。 (2) 子どもと関わるために必要な援助技術を習得する。 (3) グループ実践を通して、他者と育ちあうことの意味を体験する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 社会的養護を必要とする子どもの特徴と背景 | — | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 2 | アセスメント | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 3 | 対人援助のスキル | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 4 | 信頼関係の構築 | 配布資料を読む・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 5 | 困っている子どもの特徴 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 6 | 支援と計画（プランニング） | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 7 | 子どもの行動への対応—感情のコントロール— | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 8 | 子どもの行動への対応—学習面への支援— | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 9 | 子どもの行動への対応—社会面への支援— | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 10 | 子どもの行動への対応—身体面への支援— | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 11 | モニタリング | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 12 | 振り返り | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 13 | 親子関係再構築支援 | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 14 | リービングケアとアフターケア | 配布資料を読む・2時間 | 内容をまとめる・2時間 | |
| | 15 | チームとしての職員集団 | 配布資料を読む・2時間 | レポート課題・2時間 | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・思考力・判断力）40%、 課題への取り組み（関心・意欲・思考力・表現力・判断力）40%、 レポート課題（思考力・表現力・判断力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 各回のプリント及びレポート課題は、授業内に返却します。質問は授業内で対応します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 講義中に資料を配布 参考文献はその都度紹介する |
| メッセージ など | 現代社会の中で、子どもたちは様々な課題を持ちながら生活しています。特に施設で生活をする子どもたちに焦点を当て、子どもたちの行動にどのような意味があるのか、どのように対応すればよいのか一緒に考えましょう。 保育士証：選択科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------|-------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 社会福祉施設で働く保育士に求められる支援の在り方を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 40% |
| (2) 子どもと関わるために必要な援助技術を習得する。 | ほぼ完璧に習得している。 | 大きな間違いがなく、技術の活用ができる。 | 間違いはいくつかあるが、技術の活用ができています。 | 技術の活用ができない。 | 授業への取り組み・グループ活動への参加（関心・意欲・態度） | 40% |
| (2) グループ実践を通して、他者と育ちあうことの意味を理解する。 | ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。 | 大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。 | 間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。 | 説明できない。 | グループ活動への取り組み・発表・レポート（意欲・態度・思考力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------------------|---|-------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|------------------|
| 子ども家庭支援論 Study on Family Support | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1007 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 今川 晋平 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 本講義では、子どもが育つ環境としての家族が果たす役割や機能について基礎的な理解を深め、家庭の支援における子ども達の発達段階を理解し、少子高齢化や核家族化などの家庭を取り巻く社会状況と子育てのための支援体制の現状や問題点等、保育に携わる者に求められる基本的知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。 (2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる。 (3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | | 授業の振り返りプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 2 | 家庭の意義と機能：家族とは？家庭とは？世帯とは？ | 家族とは何か、調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 3 | 家庭支援の意義と役割 ー少子化の意味するものー | 少子化の課題は何か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 4 | 現代家庭の人間関係 ーいまどきの子どもたちー | 子どもの在り方とはどんなものか調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 5 | 家庭を取り巻く社会的状況 | 家庭を取り巻く社会的状況は、どうなっているか調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 6 | 家庭支援の政策と制度と現状 | 家庭支援の制度はどんなものがあるか調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 7 | 特別なニーズを持つ家族と援助①育てにくさや障害のある子ども | 障害のある野の家庭支援は何か必要か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 8 | 特別なニーズを持つ家族と援助②児童虐待 | 児童虐待に対して調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 9 | 特別なニーズを持つ家族と援助③ | 特別なニーズを持つ家族に必要な支援は何か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 10 | 保育現場でのソーシャルワーク | ソーシャルワークとは何か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 11 | 子どもの食育 ーキレル子どもの食生活ー | 子どもの食育について何が必要か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 12 | 子どもの発達段階としつけ ー体力・知力は遊びからー | 子どもの遊びについて何が必要か調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 13 | 保育者担う社会福祉援助技術のあり方 | 保育者の必要な援助の在り方について調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| | 14 | 演習ワークショップ① ー課題解決のための方策討議ー | 問題解決の仕方の必要ならえ方を調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | |
| 15 | 演習ワークショップ② ー課題のグループ討議とまとめー | 支援に必要な課題等の問題を調べておく 2時間 | 授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）70%、 課題レポート（関心・判断・思考・把握）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：『保育と子どもの家庭支援論』 井村圭壯・今井慶宗 頸草書房 他、講義時に資料を配布、参考文献はその都度紹介 |
| メッセージ など | 資料を配布予定なので、資料を保管するためのファイル等を用意することが望ましい。 講義中の私語、携帯は慎む。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|--|---------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。 | 問題なくほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違えはないが基本的な説明をすることが可能である。 | 最低限度の説明はできる | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 40% |
| (2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる | 問題なくほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違えはないが基本的な説明をすることが可能である。 | 最低限度の説明はできる | 説明できていない。 | | 30% |
| (3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。 | 家庭支援を必要とする社会的状況を正しく認識してほぼ完璧に自分の考えを述べることができる | 家庭支援を必要とする社会的状況を基本的な説明をすることが可能で自分の考えを述べることができる。 | 家庭支援を必要とする社会的状況を最低限度の説明はでき自分の考えを述べることができる。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート (関心・判断・思考・把握) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-----------------------------|---|-------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------|
| 子育て支援 Child Care Support | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2003 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 梅田 美穂 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。保育園に通う在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのか、事例を通して考えていきましょう。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。 (2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について理解する。 (3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 子育て支援の特性 | 「子育て支援と聞いてイメージすること」をまとめる・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 2 | 保護者との相互理解と信頼関係の形成 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 3 | 保育士の専門性を生かした子育て支援 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 4 | 保育士の行う子育て支援の展開 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 5 | 子どもを取り巻く家庭の状態の把握 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 6 | 支援の計画 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 7 | 支援の実践、記録、評価 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 8 | 社会資源の活用と関係機関との連携 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 9 | 職員間の連携・協働 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 10 | 日常会話を活用した子育て支援 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 11 | 環境の活用 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 12 | 地域子育て支援拠点における支援 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 13 | 特別な配慮を必要とする子どもと保護者に行う支援 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 14 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |
| | 15 | 子育て支援の今後 | 配布資料を読む・2時間 | 授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる・2時間 | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み・感想レポート（関心・意欲・知識・態度・理解）40% レポート（思考力・判断力・表現力）30% ロールプレイ等，実践の積極性（意欲・知識・思考力・判断力・表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | レポート課題は、次回授業で返却します。質問は授業内で対応します。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：二宮祐子「子育て支援」萌文書林 |
| メッセージなど | 子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。それは在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのでしょうか。事例を通して考えていきましょう。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---------------------------|----------------------|------------------------|------------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | レポート（知識・思考力・表現力） | 40% |
| (2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 講義中の発表・感想レポート（知識・思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。 | 自分の考えをしっかりと持ち、積極的に参加している。 | 考えに大きな間違いがなく、参加している。 | 考えに間違いがいくつかあるが、参加している。 | 考えようとせず、参加していない。 | ロールプレイ・感想レポート（知識・思考力・表現力） | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----|------------------|
| 保育実習指導 I Study of Practical Training of Nursing I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCP1001 | 1年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 中津 愛子・ 梅田 美穂・鄭 曉琳 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育実習生としての基本的態度の形成、実習に必要な事前の準備や学習について、演習形式で行う。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。 (2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。 (3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。 (4) 実習の計画・実践・観察・記録の方法や内容を具体的に理解する。 (5) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | 保育士の仕事について | | 保育実習の手引きを読む (2時間) | | |
| | 2 | 保育実習の意義と目的、実習概要 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 保育実習の手引きを読む (2時間) | | |
| | 3 | 保育実践の模擬 手遊び・絵本・壁面制作 | 折り紙の練習をし てくる(2時間) | 壁面制作(2時間) | | |
| | 4 | 保育者に必要な言葉表現 | 事前資料を読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |
| | 5 | 保育者としての基本的態度(服装・行動) | 事前資料を読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |
| | 6 | 保育者としての基本的態度(子どもへの関わり 方) | 事前資料を読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |
| | 7 | プライバシーの保護及び守秘義務 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |
| | 8 | 保育教材の制作① | 事前資料を読ん でくる(2時間) | 保育教材の制作(2時間) | | |
| | 9 | 保育教材の制作② | 保育教材の制作(2時間) | 保育教材の制作(2時間) | | |
| | 10 | 制作した保育教材の演じ方 | 保育教材の制作(2時間) | 保育教材の実演の練習(2 時間) | | |
| | 11 | 制作した保育教材の実演の練習 | 保育教材の実演の練習(2 時間) | 保育教材の実演の練習(2 時間) | | |
| | 12 | 絵本の読み聞かせの仕方 | 絵本を選ん でくる(2時間) | 絵本の読み聞かせ練習(2 時間) | | |
| | 13 | 絵本の読み聞かせ・保育教材の実演の練習 | 保育教材の実演の練習読 み聞かせの練習(2時間) | 保育教材の実演の練習読 み聞かせの練習(2時間) | | |
| | 14 | 絵本の読み聞かせ・保育教材の実演 1回目 | 保育教材の実演の練習読 み聞かせの練習(2時間) | 保育教材の実演の練習読 み聞かせの練習(2時間) | | |
| | 15 | 絵本の読み聞かせ・保育教材の実演 2回目 | 保育教材の実演の練習読 み聞かせの練習(2時間) | 実演の振り返り(2時間) | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|--|--|----------------------------|-----------------------------|
| | 1 | 実習規定、実習着、実習必要書類の説明 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 保育実習の手引きを読む (2時間) |
| | 2 | 保育観察①子どもの姿 障害者支援施設の概要と実習生の活動 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 3 | 保育観察②保育のねらい・保育者の援助 児童養護施設の概要と実習生の活動 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 4 | 実習日誌配布・実習生プロフィール、証明写真 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 実習日誌の記入(2時間) |
| | 5 | 保育実習日誌の書き方 ①基本的事項 児童発達支援センターの概要と実習生の活動 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 6 | 実習日誌の書き方 ②一日を書くとは 保育所見学観察実習の事前オリエンテーション について・実習先への電話のかけ方 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 7 | 部分保育の指導案、保育所実習の先輩の話 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 部分保育の課題レポート (2時間) |
| | 8 | 実習の心得・見学観察実習の事前指導・守秘義務 | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 9 | 施設見学観察実習 | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 見学観察レポート(2時間) |
| | 10 | 保育実習Ⅰ(施設)日誌の記入 実習生調書・誓約書の記入 事前オリエンテーションについて | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 実習生調書・誓約書、実習 日誌の記入(2時間) |
| | 11 | 保育実習日誌の書き方・お礼状の書き方 | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 保育所見学観察実習のお 礼状作成(2時間) |
| | 12 | 保育実習Ⅰ(施設)のねらい 「実習にあたって」の書き方 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 「実習にあたって」下書き の作成(2時間) |
| | 13 | 保育実習Ⅰ(施設)の心得・日誌指導 「実習にあたって」の記入 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 実習日誌の記入(2時間) |
| | 14 | 保育実習Ⅰ(施設)の先輩の話 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 先輩の話をきいて考えて ことを記述する(2時間) |
| 15 | 保育実習Ⅰ(施設)の心得・手続き確認・事前指 導 | 保育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | レクリエーションの指導 案・教材準備(2時間) | |
| 成績評価 | 授業への取り組み状況(知識・理解・関心・意欲・態度)30%、 実習に必要な書類作成及び名札制作(技能)20%、 見学実習日誌(思考力・判断力)30%、 部分保育の課題レポート(思考力・表現力)10%、 施設実習後の課題レポート(思考力・判断力・表現力)10% | | | |
| 課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法 | レポートはコメントをつけてお返しします。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | テキストとして配布:「保育(保育所・施設)実習の手引き」山口短期大学 | | | |
| メッセージ など | <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習を受ける学生は必ず受講しなければならない。12月中旬に2日間の保育所見学観察実習あり。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること。 ・保育士証:必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|---|--|--|--------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。 | 実習への意欲があり、あいさつ、礼儀、言葉遣い、服装等が完璧で、他の学生の模範となる。 | 実習への意欲があり、礼儀、言葉遣い、服装等、実習生に必要な態度を身につけている。 | 実習への意欲はあり、実習生としての最低限のマナーは身についている。 | 実習への意欲がなく、実習生にふさわしい言葉遣いや服装、礼儀等が身につけていない。 | 授業への取り組み状況 (知識・理解・関心・意欲・態度) | 30% |
| (2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。 | 保育実習の意義目的を正しく理解し、実習に必要な書類の作成や名札制作を完璧に行う。 | 保育実習の意義や目的をほぼ理解し、期限内に書類の提出や名札制作ができる。 | 実習に必要な書類や名札制作はできるが、提出の遅れがみられる。 | 実習に必要な書類の提出や名札制作ができていない。 | 実習に必要な書類作成及び名札制作 (技能) | 20% |
| (3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。 | 子どもや利用者に積極的に関わり、子どもや利用者から学び考えを深めたことを日誌に記述することができる。 | 子どもや利用者に関わり、理解したことを日誌に書くことができる。 | 子どもや利用者の姿を日誌に記述しているが、観察のポイントをつかんだ記述にはなっていない。 | 子どもや利用者をどのように理解したかということが、日誌の記述から読み取れない。 | 見学実習日誌 (思考力・判断力) | 30% |
| (4) 実習の計画・実践・観察・記録の方法や内容を具体的に理解する。 | 部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を詳しく書くことができる。 | 部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程をほぼ抜けなく書くことができる。 | 部分保育の計画・実践・記録・反省までを書いているが、いくつか抜けた箇所がある。 | 部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を書けていない。 | 部分保育の課題レポート (思考力・表現力) | 10% |
| (5) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。 | 施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。 | 自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。 | 施設実習後課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|-------------------|--|--|------------|--------------------------------|
| 保育実習 I Practical Training in Nursery School I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCP1002 | 1年次 2年次 | 1年次後期 (集中) 2年次前期 (集中) |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 実習 | 4 | 選択 | 中津 愛子・ 梅田 美穂・鄭 曉琳 | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育所や社会福祉施設（居住型施設）で実習を行い、子どもや利用者への理解を深めるとともに、施設の役割と機能、保育士の職務内容を理解する。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育所・施設の役割を理解することができる。 (2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。 (3) 指導計画・援助計画を理解することができる。 (4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。 (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を具体的に述べることができる。 | | | | | |
| 1年次後期 (2月～3月) 施設での実習 | 実習で学ぶ事項 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | ○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習施設について理解する。 ・施設の一日の流れを理解し、援助活動に参加する。 ・観察や関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 ・援助計画を理解する。 ・生活の援助の一部を担当し援助の技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を学ぶ。 ・安全対策、健康管理及び疾病予防への配慮を学ぶ。 | | 実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 施設の役割、どのような方を対象としているのかを調べておく。 保育教材の作成を行い、練習しておく。 レクリエーションや設定保育を担当する場合、教材や指導案作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間 | 毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず施設に提出すること。 レクリエーションや設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は2～3時間 | | |
| 2年次前期 (7月) 保育所での実習 | 実習で学ぶ事項 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | ○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習園について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、保育活動に参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画、指導計画を理解する。 ・担当クラスで生活や遊びに関する保育活動を実践し、保育技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の倫理を学ぶ。 ・安全及び疾病予防への配慮について学ぶ。 | | 実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 手遊びの練習、ピアノの練習、絵本の読み聞かせの練習をしておく。 パネルシアター等の保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育及び一日責任実習の指導案を作成し、保育実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間 | 毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず園に提出すること。 設定保育や責任実習を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は2～3時間 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力）40%、 実習日誌（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）40%、 実習事後レポート（思考力・判断力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージ な ど | 保育士証：必修科目 ※実習時期 1年次2月・3月：施設 2年次7月：保育所 ※実習先 施設・保育所、ともに学校が指定する。 ※実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※検便、インフルエンザ予防接種、麻疹・風疹抗体証明書等が必要である。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|---|-----------------------------|-----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育所・施設の役割を理解することができる。 | たいへんよく理解している。 | よく理解している。 | 最低限の理解はしている。 | 理解していない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力） | 10% |
| (2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。 | たいへんよく理解を深めている。 | よく理解を深めている。 | 理解はしているが、深まっていない。 | 理解していない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力） | 10% |
| (3) 指導計画・援助計画を理解することができる。 | たいへんよく理解している。 | よく理解している。 | 最低限の理解はしている。 | 理解していない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力） | 10% |
| (4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。 | たいへんよく理解している。 | よく理解している。 | 最低限の理解はしている。 | 理解していない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力） | 10% |
| (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 | 用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。 | 用語の使用や表現の誤り。誤字。脱字がほぼなく、丁寧に書いている。 | 用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。 | 用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。 | 実習日誌実習日誌（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (6) 実習を振り返り、自己の課題を具体的に述べることができる。 | 事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。 | 自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。 | 実習事後レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|--------------------------------------|----------------------|---------------------|------------------|
| 保育実習指導Ⅱ Study of Practical Training of Nursing Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCP2003 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 中津 愛子・鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育実習Ⅰでの学びを深め、保育士としての実践力を養うために、子ども理解、指導計画の立案、保育実践について演習形式で授業を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育実習Ⅰを踏まえた実習の意義と目的を理解し、すでに学んだ教科の内容と関連付けて、子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導案を作成することができる。 (2) 保育の知識、技術をいかした保育実践の力を習得する。 (3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 (4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。 (5) 実習事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 実習の意義と目的、実習概要の説明、保育所実習の手続き | 保育実習の手引きを読んでもくる(2時間) | 保育実習Ⅰの振り返り(2時間) | |
| | 2 | 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 | 保育実習の手引きを読んでもくる(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 3 | 子どもの保育と保護者支援、実習日誌の書き方、実習生調書・実習誓約書の記入 | 保育実習の手引きを読んでもくる(2時間) | 実習生調書、実習誓約書の記入(2時間) | |
| | 4 | 子どもの状態に応じた適切な関わり | 保育実習の手引きを読んでもくる(2時間) | 実習生プロフィールの記入(2時間) | |
| | 5 | 保育の知識・技術を活かした保育実践 | 保育実習の手引きを読んでもくる(2時間) | 指導案作成(2時間) | |
| | 6 | 保育の全体計画に基づく具体的なねらいと内容の設定・指導計画の立案 | 指導案作成(2時間) | 指導案作成(2時間) | |
| | 7 | 環境構成、保育教材の作成 | 教材作成(2時間) | 教材作成(2時間) | |
| | 8 | 模擬保育の実践ー集団と個に応じた保育者の援助の検討ー | 模擬保育の練習(2時間) | 模擬保育の練習(2時間) | |
| | 9 | 模擬保育の実践ー導入、展開、まとめの工夫ー | 模擬保育の練習(2時間) | 模擬保育の実践後レポート(2時間) | |
| | 10 | 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善、実習に関する連絡・手続き | 保育実践自己評価(2時間) | 指導案の修正(2時間) | |
| | 11 | 実習先に提出する書類の確認・日誌の確認 | 実習日誌の記入(2時間) | 実習日誌の記入(2時間) | |
| | 12 | 実習にあたって(各自のねらいの明確化)、実習に関する諸連絡 | 実習課題を考えてくる(2時間) | 実習にあたっての記入(2時間) | |
| | 13 | 実習事前調査、実習の手続き確認 | 実習日誌の記入(2時間) | 実習事前準備(2時間) | |
| | 14 | 保育士の専門性と職業倫理 | 事前配布資料を読んでもくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| 15 | 保育実習Ⅱを終えて(実習の総括・自己評価・新たな課題の明確化) | 実習の振り返り(2時間) | 実習事後レポート(2時間) | | |

| | |
|--------------------------------|--|
| 成績評価 | 指導案（思考力・表現力）30%、 模擬保育の実践力（知識・技能・関心・意欲・態度）30%、 実践後のレポート（思考力・判断力・表現力）10%、 課題レポート（知識・理解）10%、 実習事後レポート（意欲・思考力・判断力）20% |
| 課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法 | 模擬保育の指導案と実践後のレポートは、コメントを記入して返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージ など | <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、2020年8月に保育実習Ⅱを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること ・保育士証：選択必修科目 |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--|--|--|--|-------------------------------|------|
| (1) 保育実習Ⅰを踏まえた実習の意義と目的を理解し、すでに学んだ教科の内容と関連付けて、子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導案を作成することができる。 | 既習の教科と関連づけて、子どもの発達に応じた保育内容を自分で考え、指導案を作成することができる。 | 既習の教科と関連づけ、ほぼ子どもの発達に沿った保育内容を考え、指導案を作成することができる。 | 指導案の作成方法は理解できているが、作成した指導案は、子どもの発達に即していない。 | 子どもの発達に応じた保育内容を自分で考え、指導案が作成できない。 | 指導案 (思考力・表現力) | 30% |
| (2) 保育の知識、技術を活かした保育実践力を習得する。 | 保育の知識・技術を活かした模擬保育が実践できる。 | 保育の知識、技術の基本をほぼ踏まえた模擬保育が実践できる。 | 保育の知識、技術には不足しているところがあるが、模擬保育は実践した。 | 模擬保育を実践していない。 | 模擬保育の実践力 (知識・技能・関心・意欲・態度) | 30% |
| (3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 | 保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 保育観察、記録、自己評価を総合し、改善点を見出すことと努力したことを述べるができる。 | 保育観察、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べるができる。 | 保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。 | 模擬保育実践後のレポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (知識・理解) | 10% |
| (5) 実習事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。 | 事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。 | 自分の今後の課題が言いだせず、レポートが提出されない。 | 実習事後レポート (意欲・思考力・判断力) | 20% |

| | | | | | |
|---|--|-------------------|--|---|------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 保育実習Ⅱ Practical Training in Nursery School Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCP2004 | 2年次 | 前期 (集中) |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 2 | 選択 | 中津 愛子・鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育実習Ⅰでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるため保育所で10日間の実習を行う。指導計画の作成と保育実践、記録と省察、自己評価及び計画の改善までの過程を実践的に学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 (2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にして保育を理解し、具体的に記述することができる。 (3) 既習の科目及び保育実習Ⅰを踏まえ、子どもの保育と子育て支援の現状と課題を述べることができる。 (4) 指導計画の作成、保育実践、記録、省察及び自己評価を実施することができる。 (5) 保育士の職務内容や職業倫理を踏まえたうえで保育を実践することができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を具体的に述べることができる。 | | | | |
| 実習内容 | 実習で学ぶ事項 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | ○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画を立案し、実際に保育活動を行い、子どもへのかかわりや保育技術を高める。 ・子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ・子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解する。 ・保育所の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 | | 実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラムの概要、書いておく。 手遊びの練習、ピアノの練習、絵本の読み聞かせの練習をしておく。 パネルシアター等の保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育及び一日責任実習の指導案を作成し、保育実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間 | 毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず園に提出すること。 設定保育や責任実習を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は2～3時間 | |
| 成績評価 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力・判断力・表現力）40%、 実習日誌（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）40%、 実習事後レポート（思考力・判断力・表現力）20% | | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。 | | | | |

| | |
|-------------|---|
| テキストおよび参考文献 | テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの前に、保育実習Ⅰ（施設・保育所）を受けなければならない。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数 2年次8月 10日間 ※実習先 各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|--|---|-----------------------------|------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 | たいへんよく理解を深めている。 | よく理解を深めている。 | 理解はしているが、深まっていない。 | 理解していない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力） | 10% |
| (2) 子どもの観察や関わりの視点を明確にして保育を理解し、具体的に記述することができる。 | 用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。 | 用語の使用や表現の誤り。誤字。脱字がほぼなく、丁寧に書いている。 | 用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。 | 用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。 | 実習日誌（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (3) 既習の科目及び保育実習Ⅰを踏まえ、子どもの保育と子育て支援の現状と課題を述べることができる。 | 現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べるができる。 | 現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 現状と課題に対する認識の間違があるが、自分の考えを述べるができる。 | 自分の考えを述べるできない。 | 実習先からの評価（知識・理解・関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (4) 指導計画の作成、保育実践、記録、省察及び自己評価を実施することができる。 | 計画、実践、省察の過程を踏まえ、適切に自己評価行うことができる。 | ほぼ、適切な自己評価が実施できる。 | 自己評価をしようと努力するが、適切ではない。 | 自己評価を行おうとする意欲が見られない。 | 実習先からの評価表（知識・理解・関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (5) 保育士の職務内容や職業倫理を踏まえたうえで保育を実践することができる。 | 職務威容や職業倫理を十分に理解し、保育が実践できる。 | 職務威容や職業倫理をほぼ理解し、保育が実践を行う。 | 職務威容や職業倫理の最低限の知識をもとに保育を実践する。 | 職務威容や職業倫理を理解していない。 | 実習先からの評価表（知識・理解・関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (6) 実習を振り返り、自己の課題を具的に述べるができる。 | 事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。 | 自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。 | 実習事後レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|--------------------------------|---------------------|------------------------|------------------|
| 保育実習指導Ⅲ Study of Practical Training of Nursing Ⅲ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCP2005 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 母子生活支援施設に勤務した保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 保育実習Ⅰでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を養い、施設実習に向けた事前学習や実習後の反省について、演習形式で行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもの発達や対象者の特性にあわせた保育内容・養護内容を説明することができる。 (2) 指導計画を作成する力を身につける。 (3) 保育教材を準備することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 実習の意義と目的、実習概要の説明、実習の手続きについて | — | 保育実習Ⅰのふりかえり・2時間 | |
| | 2 | 子どもの最善の利益を考慮した施設保育の具体的理解 | 保育実習の手引きを読む・2時間 | 保育実習の手引きをもう一度読む・2時間 | |
| | 3 | 実習日誌の書き方、実習生プロフィール、実習誓約書の記入 | 保育実習の手引きを読む・2時間 | 実習生プロフィール、実習誓約書の記入・2時間 | |
| | 4 | 実習施設の理解 | 実習先施設の種別を調べまとめる・2時間 | 配布資料を読む・2時間 | |
| | 5 | 施設における支援の具体的内容 | 保育実習の手引きを読む・2時間 | 配布資料を読む・2時間 | |
| | 6 | 保育士とソーシャルワーク | 配布資料を読む・2時間 | もう一度配布資料を読む・2時間 | |
| | 7 | 施設における保育実践 | 指導案作成・2時間 | 指導案作成・2時間 | |
| | 8 | 施設における保育実践 | 教材作成・2時間 | 教材作成・2時間 | |
| | 9 | 施設における保育実践 | 模擬保育の練習・2時間 | 模擬保育の練習・2時間 | |
| | 10 | 実習に関する連絡・手続き | 保育実践自己評価・2時間 | 指導案の修正・2時間 | |
| | 11 | 実習先に提出する書類の確認・日誌の確認 | 実習日誌の記入・2時間 | 実習日誌の記入・2時間 | |
| | 12 | 保育実習Ⅲの事前指導（実習課題の明確化）、実習に関する諸連絡 | 実習課題を考える・2時間 | 実習にあたっての記入・2時間 | |
| | 13 | 実習事前調査、保育実習Ⅲの手続き確認 | 実習日誌の記入・2時間 | 実習日誌の記入・2時間 | |
| | 14 | 保育実習Ⅲ事前面談 | 実習事前準備・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| 15 | 保育実習Ⅲの事後指導（実習後の反省・考察） | 実習のふりかえり・2時間 | 実習事後レポート・2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 指導案（思考力・表現力）30%、 模擬保育の実践力（知識・技術・関心・意欲・態度）30%、 実践後のレポート（思考力・判断力・表現力）10%、 課題レポート（意欲・思考力・判断力）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 模擬保育の指導案とレポートは、コメントを記入して返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージ など | <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅲ（施設）の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習Ⅲを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること。 ・保育士証：選択必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-----------------|------------------------------|----------------------------------|-----------|----------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもの発達や対象者の特性にあわせた保育内容・養護内容を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 授業の取り組み（関心・意欲・態度） | 40% |
| (2) 指導計画を作成する力を身につける。 | ほぼ完璧な指導案を作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字があるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | レポート（知識・思考力・判断力・表現力） | 30% |
| (3) 保育教材を準備することができる。 | ほぼ完璧に準備できている。 | 必要な物は大体準備できている。 | 足りない保育教材がある | 準備できていない。 | 実技に取り組む態度（態度・技能・表現） | 30% |

| | | | | | |
|---|---|-------------------|--|---|------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 保育実習Ⅲ Practical Training in Nursery School III | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCP2006 | 2年次 | 前期 (集中) |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 2 | 選択 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育実習での学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるために、児童福祉施設等で10日間の実習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 対象にあわせた援助を行うことができる。 (2) 実習日誌を書くことができる。 (3) 保育士の職業倫理を説明することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 授業内容 | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・養護全般に参加し、養護技術を学ぶ。 ・子どもの発達の個人差に応じた援助や生活環境にともなう子どものニーズに即した援助の実際を学ぶ。 ・援助計画を立案し、実践する。 ・子どもの家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ。 ・地域における他の施設の役割を理解し、連携の方法について学ぶ。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を理解する。 ・児童福祉施設等の保育士に求められる資質や知識、技能に照らし合わせて自己の課題を明確 <p>※実習時期 2年次8月に社会福祉施設での実習を10日間(通勤の場合は12日間)行う。 ※実習先 各自が依頼した施設。 居住型施設のほかに、社会福祉施設諸法令に基づき設置される施設も含まれる。 ※その他 実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。事前準備として、検便、麻疹・風疹抗体検査が必要である。</p> | | その都度授業内で指示します。 ○実習施設の理解 ・施設の目的、役割、法的な位置づけ等の事前学 ○実習日誌の記入 ・施設概要 ・環境校正 ・日課 ○実習課題を明確にしておく。 ○資料の記述内容を理解する。 ○模擬保育およびレクリエーションの指導案の作成と準備を行い、模擬保育の練習をする。 | その都度授業内で指示します。 ○実習施設の理解 ・施設の目的、役割、法的な位置づけ等の事前学習の事後学習 ○実習日誌の記入 ・施設概要 ・環境校正 ・日課 ○実習課題を下書き、清書する。 ○資料の記述内容を理解する。 ○模擬保育およびレクリエーションの模擬保育を行い、指導案の修正、模擬保育の振り返りを行う。 | |
| 成績評価 | 毎回の授業の取り組み 10%、 模擬保育およびレクリエーションへの取り組み 20%、 レポート・その他の準備物 50%、 実習先施設の評価表 20% | | | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | レポートはコメントを記入し返却します。 実践はその都度コメントします。 準備段階での質問等には、その都度相談に応じます。 |
| テキストおよび参考文献 | 「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージなど | <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰ（施設・保育所）を終えた後に施設での実習を希望する学生の必修科目である。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数 2年次8月 10日間 ※実習先 各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------|----------------------------|-------------------------------------|--|--------------------|-------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 対象にあわせた援助を行うことができる。 | 対象にあわせた必要な援助が分かり、行うことができる。 | 対象にあわせた必要な援助について、だいたい分かり、行なおうとしている。 | 対象にあわせた必要な援助についての理解が十分ではないが、行なおうとしている。 | 行えていない。 | 実習評価（知識・理解・思考・判断・関心・技能） | 40% |
| (2) 実習日誌を書くことができる。 | 誤字・脱字がなく、自分の考えを書けている。 | 誤字・脱字が時々あるが、空欄が少なく、自分の考えを書けている。 | 誤字・脱字、空欄があるが、毎日書けている。 | 誤字・脱字が多く、毎日書けていない。 | 日誌評価（表現・技能） | 40% |
| (3) 保育士の職業倫理を説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、説明できる。 | 説明できない。 | 実習事後指導（意欲・態度） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------|---|---|-------------------|-------------------|-----------|
| 子どもの保健 Child Health | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 安富 雅恵 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 専門職として子どもに関わるには、保健に関する知識と実践が必要であり、子どもの健康を守り、健康を増進する積極的な活動が、求められる。その為には、各発達段階における子どもの健全な心身の発育、発達過程を習得することが必須となる。また、今日の子どもの取り巻く環境を踏まえ、健康問題や課題について学ぶと共に、家庭、専門機関、地域との連携についても学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解出来る。 (2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について理解出来る。 (3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について理解出来る。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション(学習の目的・意義について) 1. 子どもの健康と保健の意義 1-1. 子どもの健康と子どもを取巻く環境 | テキストの1-1を読む(60分) | 1-1の学びの振り返り(90分) | |
| | 2 | 1-2. 子どもの健康と健康指標、 | テキストの2を読む(60分) | 1-2の学びの振り返り(90分) | |
| | 3 | 1-3. 子どもを取巻く環境、地域社会と保育所 | テキストの3を読む(60分) | 1-3の学びの振り返り(90分) | |
| | 4 | 2-1. 身体の発育 | テキストの2-1を読む(90分) | 2-1の学びの振り返り(90分) | |
| | 5 | 2-2. 子どもの発達 | テキストの2-2を読む(90分) | 2-2の学びの振り返り(90分) | |
| | 6 | 2-3. 生理機能の特徴(体温、睡眠、消化、歯) | テキストの2-3を読む(90分) | 2-3の学びの振り返り(90分) | |
| | 7 | 3-1. 子どもの健康状態の把握(子どもの健康状態の見方) | テキストの3-1を読む(90分) | 3-1の学びの振り返り(90分) | |
| | 8 | 3-2. 体調の良くない子どもへの対応 | テキストの3-2を読む(90分) | 3-2の学びの振り返り(90分) | |
| | 9 | 3-3. 発育と発達の評価とその診断基準 | テキストの3-3を読む(90分) | 3-3の学びの振り返り(90分) | |
| | 10 | 3-4. 保護者との情報共有とその方法 | テキストの3-4を読む(90分) | 3-4の学びの振り返り(90分) | |
| | 11 | 4-1. 子どもの病気の予防と適切な対応(主な病気の特徴と対応、予防について) | テキストの4-1を読む(90分) | 4-1の学びの振り返り(90分) | |
| | 12 | 4-2. 保育所でよく見かける病気(呼吸器、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科、整形外科等) | テキストの4-2を読む(90分) | 4-2の学びの振り返り(90分) | |
| | 13 | 4-2. 保育所でよく見かける病気(感染症) | テキストの4-2を読む(90分) | 4-2の学びの振り返り(90分) | |
| | 14 | 4-3. 予防できる疾患に対する対策(予防接種、ワクチン等) | テキストの4-3を読む(90分) | 4-3の学びの振り返り(90分) | |
| | 15 | まとめ | テキストを一通り見直す(120分) | 学び全体の振り返り(120分) | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験 60%、 課題レポート 20%、 ミニレポート（授業終了後） 20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 定期試験・課題レポートは、返却時解説をする。 毎回のミニレポートは、翌週返却時解説する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「保育者のためのわかりやすい 子どもの保健」飯島一誠監修 日本小児医事出版社 参考文献：「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 配布資料 |
| メッセージ な ど | 子どもの心と体の健康を育むことは、保育の原点です。なるべくニュース、統計 等に目を向け、子どもを取り巻く環境や子どもの命について向き合っていきま しょう。必ず、復習をして、知識の確認をしていきましょう。 ・保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|---|---|---------------|--|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 子どもの心身の健康 増進を図る保健活動 の意義について述べ ることが出来る。 | ほぼ完璧に 述べること が出来る。 | 大きな間違 いがなく、 基本的なこ とは述べて いる。 | 間違いがあ いづつかあ るが、最低 限の基本的 なことは、 述べてい る。 | 殆ど述べて いない。 | 定期試験 (知識・理解) | 60% |
| (2) 子どもの身体発育、 生理機能、運動機能、 及び精神機能の発達 について具体的に述 べることが出来る。 | ほぼ完璧に 述べること が出来る。 | 大きな間違 いがなく、 基本的なこ とは述べて いる。 | 間違いがあ いづつかあ るが、最低 限の基本的 なことは、 述べてい る。 | 殆ど述べて いない。 | 小レポート (関心・意 欲・思考力・ 判断力・表現 力) | 20% |
| (3) 子どもの健康状態に ついて気付く視点を 学び、その対応と対 策、予防について述 べることができる。 | 幅広い視点 から総合的 に考えら れ、ほぼ完 璧に述べる ことが出来 る。 | 大きな間違 いがなく、 基本的なこ とは述べて いる。 | 間違いがあ いづつかあ るが、最低 限の基本的 なことは、 述べてい る。 | 殆ど述べて いない。 | 課題レポート (関心・意欲 思考力・判断 力・表現力) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--------------------------------------|--|--|---------------------|---------------------|-----|------------------|
| 子どもの健康と安全 Child Health and Safety | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | | 20ECCM1004 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 安富 雅恵 | | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 「子どもの保健」で学んだことを基礎に、保育現場で出会う子どもの病気や事故について理解し、 予防や対策について学ぶ。また、子どもに関連する法律を踏まえ、健康障害の有無に拘わらず、その 子どもに合った保健的対応について学ぶと共に、保育者としての責任や役割を学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べる ことができる。 (2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べる ことができる。 (3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、その知識を身に つけることができる。 (4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べるができる。 | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | |
| | 1 | オリエンテーション(子どもの健康と安全) 保 育環境 等 | テキストの1を読む (90分) | 1の学びの振り返り (90分) | | |
| | 2 | 保育における健康安全管理の実際(保育現場での 衛生管理、事故防止と安全対策 等 | テキストの2を読む (90分) | 2の学びの振り返り (90分) | | |
| | 3 | 保育における健康安全管理の実際(災害への備え と危機管理) | テキストの3を読む (90分) | 3の学びの振り返り (90分) | | |
| | 4 | 子どもの体調不良などへの対応(子どもの主な症 状への対応、応急処置) | テキストの4を読む (90分) | 4の学びの振り返り (90分) | | |
| | 5 | 子どもの体調不良などへの対応(救急処置および 救急蘇生法、子どもと薬) | テキストの5を読む (90分) | 5の学びの振り返り (90分) | | |
| | 6 | 感染症の予防と対策(感染症の集団発生の予防、 感染症対策) | テキストの6を読む (90分) | 6の学びの振り返り (90分) | | |
| | 7 | 保育所における保健的対応(3歳未満児への対応) | テキストの7を読む (90分) | 7の学びの振り返り (90分) | | |
| | 8 | 保育所における保健的対応(個別な配慮を必要と する子どもへの対応) | テキストの8を読む (90分) | 8の学びの振り返り (90分) | | |
| | 9 | 保育所における保健的対応(障害がある子どもへ の対応) | テキストの9を読む (90分) | 9の学びの振り返り (90分) | | |
| | 10 | 健康、安全への取り組み(職員の連携と組織的取 組、子どもの健康づくりへの取り組み) | テキストの10を読む (90分) | 10の学びの振り返り (90分) | | |
| | 11 | 母子に関する法律(母子保健法、児童福祉法、児 童虐待の防止等に関する法律) | テキストの11を読む (90分) | 11の学びの振り返り (90分) | | |
| | 12 | 法律に関する事業の実際(母子保健福祉事業の 実、21世紀の母子保健福祉) | テキストの12を読む (90分) | 12の学びの振り返り (90分) | | |
| | 13 | 法律に関する事業の実際(児童虐待防止法の 実際) | テキストの13を読む (90分) | 13の学びの振り返り (90分) | | |
| | 14 | 子育て支援のためのネットワーク(施設を中心と した地域活動と住民による子育て支援活動) | テキストの14を読む (90分) | 14の学びの振り返り (90分) | | |
| 15 | まとめ | テキストを一通り見直す (120分) | 学び全体の振り返り (120分) | | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験 60%、 課題レポート 20%、 ミニレポート（授業終了後） 20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 定期試験・課題レポートは、返却時に解説する。 毎回のミニレポートは、翌週返却時に解説する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「わかりやすい子どもの保健」飯島一誠監修 日本小児医事出版社 参考文献：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 配布資料 |
| メッセージ な ど | 前期「子どもの保健Ⅰ」で習ったことをよく復習し、授業に臨んで下さい。 子どもに関わるニュース等から、現状を考える姿勢を養っていきましょう。 ・保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることができる。 | ほぼ完璧に述べる事が出来る。 | 大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。 | 殆ど述べていない。 | ・定期試験 (知識・理解) | 60% |
| (2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べる事が出来る。 | ほぼ完璧に述べる事が出来る。 | 大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。 | 殆ど述べていない。 | | |
| (3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、説明することができる。 | ほぼ完璧に説明することができる。 | 大きな間違いがなく、基本的なことは説明出来ている。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本は説明出来ている。 | 殆ど説明出来ていない。 | ・小レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 20% |
| (4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べる事が出来る。 | ほぼ完璧に述べる事が出来る。 | 大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。 | 殆ど述べていない。 | | |
| | | | | | 課題レポート (関心・意欲・思考力・判断力) | 20% |

| | | | | | |
|---------------------------------------|--|--|----------------------|----------------------|-----------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 子どもの疾病と保健 Child Disease and Health | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2002 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 安富 雅恵 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | <p>看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>子どもを健康で安全に保育するという保育所保育指針を踏まえて、子どもの発育・発達状況や健康状態を把握し、積極的に健康の保持増進を図り、疾病や事故の予防・対処に向けての視点を養う。その為には、「子どもの保健」で習得した知識を基礎に、保育実践に必要な保健活動について学び、子どもの疾病と保健についての基本的な援助能力を養うことを目的とする。</p> | | | | |
| 到達目標 | <p>(1) 子どもの健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べる事が出来る。</p> <p>(2) 子どもを取り巻く環境と子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動について述べる事が出来る。</p> <p>(3) 子どもの健康についての個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について述べる事が出来る。</p> | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 保健活動の計画と評価（保育における保健活動） | テキストの1を読む (60分) | 1の学びの振り返り (90分) | |
| | 2 | 保健計画の作成と活用、保健活動の記録と自己評価 | テキストの2を読む (60分) | 2の学びの振り返り (90分) | |
| | 3 | 子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理 | テキストの3を読む (60分) | 3の学びの振り返り (90分) | |
| | 4 | 子どもの保健と環境（保健における養護と教育の一体性） | テキストの4を読む (60分) | 4の学びの振り返り (90分) | |
| | 5 | 子どもの健康増進と保育の環境、子どもの生活習慣と心身の健康 | テキストの5を読む (60分) | 5の学びの振り返り (90分) | |
| | 6 | 子どもの発達援助と保健活動 | テキストの6を読む (60分) | 6の学びの振り返り (90分) | |
| | 7 | 子どもの疾病と適切な対応（感染症の予防と対策） | テキストの7を読む (60分) | 7の学びの振り返り (90分) | |
| | 8 | 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（熱性痙攣、てんかん他） | テキストの8を読む (60分) | 8の学びの振り返り (90分) | |
| | 9 | 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（乳児の病気、障害のある子どもへの対応） | テキストの9を読む (60分) | 9の学びの振り返り (90分) | |
| | 10 | 事故防止および健康管理・安全管理（組織的取り組み） | テキストの10を読む (60分) | 10の学びの振り返り (90分) | |
| | 11 | けがや急な病気への対応の基本 | テキストの11を読む (60分) | 11の学びの振り返り (90分) | |
| | 12 | 子どもに起きやすい事故の応急処置 | テキストの12を読む (60分) | 12の学びの振り返り (90分) | |
| | 13 | 子どもに起こりやすい症状とケア | テキストの13を読む (60分) | 13の学びの振り返り (90分) | |
| | 14 | 災害への備えと危機管理（危機管理、非常災害などへの取り組みの実際等） | テキストの14を読む (60分) | 14の学びの振り返り (90分) | |
| | 15 | 心とからだの健康問題と地域保健活動 子どもの養育環境と心の健康問題、心とからだの健康づくりと地域保健活動 | テキストの15を読む (120分) | 15の学びの振り返り (120分) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験 50%、 グループワーク・プレゼンテーション 40%、 ミニレポート（授業後）10% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 定期試験、ミニレポートは返却時解説する。 グループワーク・プレゼンテーションは、発表時解説する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：「子どもの保健Ⅱ」佐藤益子/中根淳子編著 ななみ書房 参考文献：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 1年時使用のテキスト「子どもの保健」 配布資料 |
| メッセージ など | 子どもの保健の成果は実践を通して得られるものである。健康という視点から子どもを取り巻く環境や現状の課題について関心を持つことが重要である。授業前にテキストの該当箇所を予習して臨んで下さい。 ・保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------------------------------|---|---|----------------|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもと健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べる事が出来る。 | ほぼ完璧に述べている。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。 | 内容について、述べていない。 | 定期試験（知識・理解） | 50% |
| (2) 子どもを取り巻く環境、子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動が展開できる為の基本について述べる事が出来る。 | ほぼ完璧に述べている。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。 | 基本について、述べていない。 | 授業後のレポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (3) 子どもの健康について、その個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について自分の考えを述べる事が出来る。 | 子どもを取巻く現状や課題を見据えて、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方について、倫理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方に間違いや誤字脱字等はいくつかあるが、最低限、自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題学習：グループワーク・プレゼンテーション（関心・意欲・思考力・判断力・表現力・チームワーク） | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|------------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|
| 子どもの食と栄養 Child Dietary Life and Nutrition | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2003 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 高橋 育代 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 栄養に関する基礎知識をもとに、子どもの発育・発達と栄養や食生活、疾患への対応食に関して理解する。調乳・離乳食・幼児食の調理演習を実施する。子どもの食生活全般への働きかけや、栄養教育などについて 演習を通して学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもの発育・発達に適切な栄養を説明できる。 (2) 調乳・離乳食・幼児食にふさわしい食品と調理形態に触れ、実際に活用することができる。 (3) 幼児期食生活での問題と対応が認識でき、健康な食生活を工夫することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 子どもの栄養の特徴・重要性 | シラバスをみて 内容を 確認する 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 2 | 栄養に関する基礎知識① ー食品群の理解ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 3 | 栄養に関する基礎知識② ー栄養バランスガイドー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 4 | 栄養に関する基礎知識③ ー栄養素の機能ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 5 | 栄養に関する基礎知識④ ー食事摂取基準の理解ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 6 | 栄養に関する基礎知識④ ー消化・吸収・食品の衛生ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 7 | 妊娠・授乳期の栄養 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 8 | 母乳栄養・乳汁栄養 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 9 | 調乳の演習 | 演習プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 10 | 離乳の意義と基本 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 11 | 調理演習ー離乳食 | 演習プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 12 | 乳児期の発達と離乳の進め方 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 13 | 調理実習ー幼児と一緒に作る「おやつ」 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 14 | 食育と子育て支援 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 15 | 児童福祉施設における食生活 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 幼児期の食生活 | シラバスをみて 内容を 確認する 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 2 | 幼児期食生活上での問題と対応①ー偏食ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 3 | 調理実習 ー幼児食 ー | 演習プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 4 | 演習 ー子ども達に栄養・食べ物を教えるー | 演習プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |
| | 5 | 問題と対応②ー虫歯と間食ー | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確 認しまとめる1時間 | |

| | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|------------------------------------|--|-----------------------------------|-------------------|--------------------------|
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 6 | 咀嚼と消化機能―箸の正しい持ち方演習― | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 7 | 骨の発達・体の発育 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 8 | 子どもの疾病の特徴と食生活① ―発熱と食生活― | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 9 | 子どもの疾病の特徴と食生活② ―下痢・便秘等と食生活― | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 10 | 子どもの疾病の特徴と食生活③ ―食物アレルギーと食生活― | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 11 | 子どもの疾病の特徴と食生活④ ―糖尿病や生活習慣病と食生活― | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 12 | 感染症と食中毒 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 13 | 学童期の食生活 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 14 | 栄養教育の実践 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| | 15 | 献立作成 食生活の問題点 | 前時プリントを読む 1時間 | 配布プリントの内容を確認 しまとめる1時間 |
| 成績評価 | 定期試験（知識）：60%、 プリントの提出（関心・意欲・態度）：20% 課題研究（表現力・関心・意欲）：10%、 演習（態度・関心・意欲）：10% | | | |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 提出プリント・課題は、評価等を書いて、次の時間に返却する。 試験は、評価結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび 参考文献 | 参考文献：堤ちはる・土井正子編著「子どもの食と栄養（萌文書林）」他、 「七訂食品成分表 2015年版」他 を資料として配布 | | | |
| メッセージ など | 子どもの食を知ることにより自分の食生活にも役立つ科目です。 保育士証：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|---|---|------------------------------|--------------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもの発育・発達に適切な栄養を説明できる。 | ほぼ完璧に説明ができる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) 演習 (関心・意欲) | 80% |
| (2) 調乳・離乳食・幼児食にふさわしい食品と調理形態を学び、実際に活用することができる。 | ほぼ完璧に説明ができ、活用することができる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明でき、活用できる | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | |
| (3) 幼児期食生活上での問題と対応が認識でき、健康な食生活を工夫することができる。 | 幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践することができる。 | 幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践しようことができる。 | 幼児期の食生活についての問題と対応の認識の間違いはいくつかあるが、自身の食生活において実践しようとする姿勢は持つことができる。 | 自身の食生活において実践しようとする姿勢ができていない。 | 課題研究（表現力・関心・意欲・） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|----------------------------------|---|---------------------------------|-----------------------------|---------------------|-----------|
| 乳児保育 I Early Childhood Care I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM1005 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 中安 妙子 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 乳児保育の変遷現状を学ぶとともに、現代における乳児保育の意義や課題を学ぶ。 3歳未満児の健全な発達を保障していくには、どのような援助が必要か、3歳未満児の発達を理解し、3歳未満児を主体とした保育について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 乳児保育の意義・目的・役割等について理解している。 (2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について理解している。 (3) 3歳未満児の発達、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。 (4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について理解している。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | オリエンテーションに臨んでから 2時間 | 乳児保育で学ぶ3歳未満児の確認 2時間 | |
| | 2 | 胎生期から出生後の映像を観て、乳幼児の発達全般の基礎知識を得る | (テキスト参照) 乳児の発達 2時間 | 乳児の発達を知る 2時間 | |
| | 3 | 乳児保育の意義 目的 現状 課題 | 保育所 子ども園について調べる 2時間 | 保育に関する現況理解 2時間 | |
| | 4 | 乳児保育における養護及び教育 | 多様な保育の場について調べる 2時間 | 保育の場での問題は何か考える 2時間 | |
| | 5 | 保育所、乳児院等における乳児保育と子育て支援 | 保育所 乳児院等の現況を知る (テキスト参照) 2時間 | 現況について理解 2時間 | |
| | 6 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (0歳) | 乳児について知る (テキスト参照) 2時間 | 乳児の発達について理解 2時間 | |
| | 7 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (0歳) | 乳児について知る (テキスト参照) 2時間 | 乳児の生活について理解 2時間 | |
| | 8 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (0歳) | 乳児について知る (テキスト参照) 2時間 | 乳児の遊びについて理解 2時間 | |
| | 9 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (1歳) | 1歳児の発達について知る (テキスト参照) | 1歳児の発達について理解 2時間 | |
| | 10 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (1歳) | 1歳児の生活遊びについて知る (テキスト参照) 2時間 | 1歳児の生活遊びについて理解 2時間 | |
| | 11 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (2歳) | 2歳児の発達について知る (テキスト参照) 2時間 | 2歳児の発達について理解 2時間 | |
| | 12 | 3歳未満の発達 生活遊びと環境 (2歳) | 2歳児の生活遊びについて知る (テキスト参照) 2時間 | 2歳児の生活遊びについて理解 2時間 | |
| | 13 | 3歳未満児の発達を踏まえた保育士による援助 関わり | 3歳未満児への関わりについて考え 2時間 | 関わりについての理解 2時間 | |
| | 14 | 乳児保育における連携 協働 | 保護者との連携について考える 2時間 | 連携について理解 2時間 | |
| | 15 | 全体のまとめ | 疑問点の把握 2時間 | 全体のまとめ 2時間 | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験 50%、 課題レポート 30%、 授業への参加意欲発表 20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎回いろんな方のエッセイ、保育関連の資料、新聞記事を読み、それに対し適時コメントを書き返却する。 毎回の折り紙も折れなかったら再度折り、自分のものにしましょう。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：乳児保育ⅠⅡ（萌文書林） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） 資料プリントは適時配布 |
| メッセージ など | 保育者としての基本的知識を学び、自分なりの保育者像を一緒に考えていきましょう。 積極的な発言・発表を望む。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------|--------------------|--------------------------|----------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 乳児保育の意義・目的・役割等について理解している。 | ほぼ完璧に理解している | 大きな間違いがなく基本を理解している | 間違いはいくつかあるが最低限の基本を理解している | 理解していない | 定期試験 （知識・理解） 課題レポート （関心・思考力・表現力） | 20% |
| (2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について理解している。 | ほぼ完璧に理解している | 大きな間違いがなく基本を理解している | 間違いはいくつかあるが最低限の基本を理解している | 理解していない | 定期試験 （知識・理解） 課題レポート （関心・思考力・表現力） | 20% |
| (3) 3歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく基本を説明できる | 間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 定期試験 （知識・理解） 課題レポート （関心・思考力・表現力） | 40% |
| (4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について理解している。 | ほぼ完璧に理解している | 大きな間違いがなく基本を理解している | 間違いはいくつかあるが最低限の基本を理解している | 理解していない | 定期試験 （知識・理解） 課題レポート （関心・思考力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---------------------------------|---|---------------------------|--------------------------------|---|------------------|
| 乳児保育Ⅱ Early Childhood Care Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2006 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 中安 妙子 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育園の保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 急激な少子化の進行にもかかわらず乳児保育を必要とする家庭が増加し、乳児保育の需要は増大している。本授業では乳児保育Ⅰにおいて修得した知識に基づき、乳児保育における具体的配慮、計画の方法を学び理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 3歳未満の発育発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。 3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について理解する。 乳児保育における配慮の実際について理解する。 乳児保育における計画の作成について理解する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 1年次の振り返りと2年次の授業の内容を知る | 0、1、2歳児の発達についてテキストを見ておく 2時間 | 0、1、2歳児の保育内容について確認 まとめ 2時間 | |
| | 2 | 保育所の1日・生活の流れ、保育環境・配慮の実際 | 1日の園生活の流れを理解し保育者の関わりを考えてくる 2時間 | 具体的にどう子どもに声掛けをする事がよいかを考える 2時間 | |
| | 3 | 乳児保育の内容と方法－0歳児保育と生活 | 0歳児の発達 保育内容の確認 2時間 | 具体的関わりについて復習 2時間 | |
| | 4 | 乳児保育の内容と方法－0歳児保育と生活 | 0、1、2歳児の遊びについて考える 2時間 | 月齢別発達についての遊具を考える 自分の作る遊具製作 2時間 | |
| | 5 | 乳児保育の内容と方法－遊び玩具作品発表 | どの月齢年齢についての遊具か遊び方を考える 2時間 | 自分製作玩具の良い点改良点を考える 2時間 | |
| | 6 | 乳児保育の内容と方法－1歳児の保育と生活 | 1歳児の発達 保育内容の確認 2時間 | 具体的な関わりについて自分なりに考える 2時間 | |
| | 7 | 各グループによる課題研究発表 | 所属するグループでの発表準備 2時間 | 他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる 2時間 | |
| | 8 | 各グループによる課題研究発表 | 所属するグループでの発表準備 2時間 | 他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる 2時間 | |
| | 9 | 乳児保育の内容と方法－1歳児の保育と生活 | 1歳児の精神的発達の特徴の再確認 2時間 | 具体的関わりについて自分なりに考えてみる 2時間 | |
| | 10 | 乳児保育の内容と方法－2歳児の保育と生活 | 2歳児の発達 保育内容の確認 2時間 | 具体的関わりについて自分なりに考えてみる 2時間 | |
| | 11 | 乳児保育の内容と方法－2歳児の保育と生活 | 2歳児の精神的発達の特徴の再確認 2時間 | 具体的関わりについて自分なりに考えてみる 2時間 | |
| | 12 | 乳児保育における計画－長短期計画 個別的集団的計画 | 3歳未満児における長短期計画について調べてみる 2時間 | 自分で個別計画を立ててみる 2時間 | |
| | 13 | 乳児保育における保護者との連携 | 保護者との連携について調べてみる 2時間 | 参観日、個別指導、登下園時での保護者との会話について考えてみる 2時間 | |
| | 14 | 保育者の役割援助（ワーク） | 保育者の役割について考えてみる 2時間 | 子どもたちへの語りかけワークを通して自分の五感を使って保育を行う事を考えてみる 2時間 | |
| 15 | 乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの | 自分なりの保育者像を考える 2時間 | どんな保育をめざしたいのかを自分なりに書いてみる 2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 定期試験 50%、 課題レポート 30%、 毎時授業振り返り 10%、 授業への参加意欲発表 10% で行う。 |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 現場における0、1、2歳の保育事例を読み、又、短期計画・設定案を書き、それに対し適時コメントを書き返却する。 0、1、2歳児の遊具を手作りし、個々が発表する中で、他の使い方、このような遊具もいいのではと実物・書籍等で紹介をする。 |
| テキストおよび 参考文献 | 乳児保育ⅠⅡ（萌文書林） 保育所保育指針 授業の中で適宜本紹介 資料プリント適時配布 |
| メッセージ な ど | 保育者としての基本的知識技術を学ぶことはもちろんですが、子どもたちに寄り添える保育士とはどういうことか、自分なりの保育者像を考えられるよう一緒に考えていきたい。積極的な発言発表で全員参加型の授業をつくっていくことを望む。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------|---------------------|----------------------------|----------|----------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 3歳未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 定期試験（知識理解） 課題レポート（関心、思考力、表現力） | 25% |
| (2) 3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について理解する。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 定期試験（知識理解） 課題レポート（関心、思考力、表現力） | 25% |
| (3) 乳児保育における配慮の実際について理解する。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 定期試験（知識理解） 課題レポート（関心、思考力、表現力） | 25% |
| (4) 乳児保育における計画の作成について理解する。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解していない。 | 定期試験（知識理解） 課題レポート（関心、思考力、表現力） | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|-------------------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 障害児保育 Care and Education for Disable Children | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2007 | 2年次 | 2年次 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 中津 愛子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 障害のある子どもの保育の基本と、障害特性、一人一人の子どもに対する理解、保育における発達援助の方法を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 (2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べるができる。 (3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。 (4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べるができる。 (5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べるができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 (前期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 障害の概念と障害児保育の歴史 | | 復習プリント(2時間) | |
| | 2 | 障害のある子どもに対する保育の基本 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 3 | 障害児等の理解と保育における発達の援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 4 | 肢体不自由児への理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 5 | 肢体不自由児の発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 6 | 知的障害児への理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 7 | 知的障害児の発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 8 | 発達障害とは | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 9 | 発達障害児への理解 ①自閉症スペクトラム障害 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 10 | 発達障害児の発達援助 ①自閉症スペクトラム障害 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 11 | 発達障害児への理解 ②注意欠如・多動症 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 12 | 発達障害児の発達援助 ②注意欠如・多動症 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 13 | 発達障害児への理解 ③学習障害 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 14 | 発達障害児の発達援助 ③学習障害 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| 15 | 発達の遅れや発達に偏りのある子どもの保育 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |
| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 16 | 視覚に障害のある子どもへの理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 17 | 視覚に障害のある子どもの発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 18 | 聴覚に障害のある子どもへの理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 19 | 聴覚に障害のある子どもの発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 20 | 重複障害児への理解と発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| 21 | 重症心身障害児への理解と発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |

| 授業内容 と 進め方 (後期) | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) |
|----------------------------|--|--|-------------------|-------------------|
| | 2 2 | 医療的ケア児への理解と発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 3 | その他の特別な配慮を要する児への理解と援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 4 | 子ども理解に基づいた保育の計画 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 5 | 個別の指導計画・支援計画の作成 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 6 | 個々の発達を促す生活や遊びの環境 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 7 | 家庭との連携及び家族への支援 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 8 | 障害児支援の制度の理解と地域における関係機関(保育所、児童発達支援センター等)との連携・協働 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 2 9 | 障害のある子どもの早期発見と療育 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| | 3 0 | 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) |
| 成績評価 | 課題レポート(関心・意欲・思考力・判断力・表現力)(関心・意欲・思考力・判断力・表現力)60%、定期試験(知識・理解)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:授業事前配布資料 参考文献:前田泰弘 編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林 | | | |
| メッセージ | DVD視聴やグループワークを取り入れた、実践的な授業を行います。 保育士証:必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|--|---|-----------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験(知識・理解) | 20% |
| (2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。 | たいへん具体的に述べることができる。 | おおよその内容について具体的に述べることができる。 | 部分的には具体的に述べることができる。 | 具体的に述べることができない。 | 定期試験(知識・理解) | 20% |
| (3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート(関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 20% |
| (4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べることができる。 | 子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識に誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート(関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 20% |
| (5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。 | たいへん具体的に述べることができる。 | おおよその内容について具体的に述べることができる。 | 部分的には具体的に述べることができる。 | 具体的に述べることができない。 | 課題レポート(関心・意欲・思考力・判断力・表現力) | 20% |

| | | | | | |
|--|---|---------------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 障害児・者の支援 Care and Support for Disable Child and Adult | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2008 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 中津 愛子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 障害のある人の生涯発達を視野に入れ、本人とその周囲の人々に対しどのような支援を行うのか、医療、教育、福祉の各機関の役割と連携による支援の現状を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。 (2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。 (3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 障害のある子どもに対する理解 | | 復習プリント(2時間) | |
| | 2 | 障害の早期発見と療育、障害児の発達援助 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 3 | 知的発達に遅れのある子どもに対する理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 4 | 発達障害のある子どもに対する理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 遊びの計画・準備(2時間) | |
| | 5 | 発達を促す遊び | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 遊びの計画・準備(2時間) | |
| | 6 | 障害のある子どもへの関わり方 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 遊びの計画・準備(2時間) | |
| | 7 | 指導計画の作成 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 指導案の作成(2時間) | |
| | 8 | 記録と評価 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 遊びの実践記録(2時間) | |
| | 9 | 障害のある子どもの家族に対する理解 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 10 | 家族の障害受容と保護者支援 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 11 | 乳幼児期における地域の専門機関との連携 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 12 | 就学に向けての支援 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 13 | 学童期の発達支援・専門機関との連携 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 14 | 青年期から成人期の生活支援の現状 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 15 | 生涯発達を視野に入れた支援の課題 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| 成績評価 | 定期試験(知識・理解)50%、 課題レポート(関心・意欲・表現力)50% | | | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の復習プリント、課題レポートはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：授業事前配布資料 参考文献：前田泰弘 編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林、エデュマムコミュニケーション MOOK「発達障害あんしん子育てガイド 幼児期から思春期まで」小学館 |
| メッセージなど | 授業の中で障害のある子どもたちに触れあう時間があります。障害児保育について学びを深めたい人の受講をすすめます。 保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート（関心・意欲・表現力） | 25% |
| (2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 50% |
| (3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート（思考力・判断力） | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|-------------------------|---|--|-------------------------|---------------------------|------------------|
| 特別講義 Special Lecture | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECSL1001 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 梅田 美穂 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 教育者・保育者になるためのコミュニケーション能力や表現力を養う。また、社会のニーズを考慮しつつ、地域に貢献できる教育者・保育者になるための基本的な知識と技術を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) ボランティア活動を通して、地域に貢献することができる。 (2) 自分がイメージしたことを、表現することができる。 (3) 実践力向上のために必要な知識を理解し、自分の意見を述べるすることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション 活動グループ分け | — | 保育雑誌で壁面を探しておく・2時間 | |
| | 2 | ボランティア活動に参加する意義 親子ふれあい 家庭の日イベントへの参加に向けて | 配布資料を読んでおく ・2時間 | 振り返りシートにより内 容をまとめる・2時間 | |
| | 3 | ボランティア活動の計画 | 配布資料を読んでおく ・2時間 | 振り返りシートにより内 容をまとめる・2時間 | |
| | 4 | 子どもの生活の環境づくり 壁面の製作—計画・ 準備— | 保育雑誌から作りたい壁 面を探す・2時間 | 壁面作成・2時間 | |
| | 5 | 子どもの生活の環境づくり 壁面の製作—製作— | 壁面作成・2時間 | 壁面作成・2時間 | |
| | 6 | ボランティア活動の企画・準備 | 配布資料を読んでおく ・2時間 | 活動内容を考える・2時間 | |
| | 7 | 子どもの生活の環境づくり 壁面の製作—製作— | 壁面作成・2時間 | 壁面作成・2時間 | |
| | 8 | 子どもの生活の環境づくり 壁面の製作—完成— | 壁面作成・2時間 | 壁面作成・2時間 | |
| | 9 | ボランティア活動の準備 | 活動の準備をする・2時間 | 活動の準備をする・2時間 | |
| | 10 | 実践 —子どもとのふれあい— | 活動の準備をする・2時間 | 振り返りシートにより活 動の振り返り・2時間 | |
| | 11 | 実践 —遊びの展開— | 活動の準備をする・2時間 | 振り返りシートにより活 動の振り返り・2時間 | |
| | 12 | 実践 —遊びの展開— | 活動の準備をする・2時間 | 振り返りシートにより活 動の振り返り・2時間 | |
| | 13 | 実践の振り返り | 活動をふりかえる・2時間 | 課題レポート・2時間 | |
| | 14 | 実践発表 | 実践発表の準備をする・2 時間 | 課題レポート・2時間 | |
| 15 | まとめ | 課題レポート・2時間 | 課題レポート・2時間 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | グループ活動への参加（関心・意欲・態度）30%、 実践活動への取り組み（思考力・判断力・表現力）20% 製作活動への取り組み（思考力・意欲・表現力）20% 壁面の完成度（表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 振り返りシートと課題レポートはコメントを記入して返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | テキスト：特になし 適宜プリントの配布 |
| メッセージ など | 保育者を目指す学生は全員受講することが望ましい。 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) ボランティア活動を通して、地域に貢献することができる。 | 実践を通して、積極的に参加者と関わっている。 | 実践しようとする意欲があり、参加者と関わりが持てている。 | 実践しようとする意欲があるが、参加者と関わりが持てない。 | 実践に参加していない。 | 実践の参加（関心・意欲・態度） | 30% |
| (2) 自分がイメージしたことを、表現することができる。 | イメージが明確であり、完璧に表現できる。 | イメージができており、だいたいの表現できている。 | イメージが漠然としているが、表現しようとしている。 | イメージできず、努力していない。 | 課題の作製（表現力・技能） | 50% |
| (3) 実践力向上のための知識を理解し、自分の意見を述べることができる。 | ほぼ完璧に理解し、自分の意見を述べている。 | 大きな間違いなく理解し、自分の考えを述べている。 | 最低限必要な知識は理解でき、自分の考えを述べている。 | 必要な知識が理解できておらず、自分の意見を述べていない。 | レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|-------------------|--|-----|------------------|
| 保育総合研究 Child Care Synthesis Research | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCR2001 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 必修 | 中津 愛子・縄田 也千・子安 崇夫・ 梅田 美穂・鄭 曉琳・田中 奏子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 子どもの教育や保育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定・遂行し、その結果について検討し今後の課題を見つけて出す。研究目的、研究方法から、結果、考察に至るまで、担当教員の指導を受けながらテーマごとに進め、その成果を発表し、報告書にまとめる。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。 | | | | |
| <p>各研究室で教員に指導を受けながら、各自のテーマに沿って研究活動を進めていく。授業時間外に各自で研究に取り組むこと。そのうえで、週1回、決められた時間に教員から指導を受けること。</p> <p>令和元年度は、下記のような内容で行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭の現状と子育て支援の課題について ・子育て支援マップの作成 ・事例検討から考える虐待支援の問題ー東京目黒区5歳児虐待事件を通してー ・虐待事件における判決と事件が社会にもたらせた影響 ・離乳食のすすめ方 ・幼児における次元形容詞遠い・近いの理解の発達 ・発達に遅れのある子どもの理解 ・絵本の読み聞かせにおける保育者と保育専攻生の選書理由の比較 ・0・1・2歳児向けの絵本の特徴ー食育に関する絵本ー ・0・1・2歳児向けの絵本の特徴ー擬音語・擬態語・あいさつ語に関する絵本ー ・0・1・2歳児向けの絵本の特徴ー生活に関する絵本ー ・0・1・2歳児向けの絵本の特徴ー遊びに関する絵本ー ・幼児期の運動遊びについてー幼児期に育ってほしい10の姿から考えるー ・言語がけによる導入の指導法 ・保育現場での支援や環境への配慮について ・教材作成から保育実践までの過程 ・1年間の造形活動計画 ・クリスマスツリーの制作ー発達段階に合った制作方法ー ・壁面構成ー教育実習での設定保育と関連させてー ・造形活動の指導法ー設定保育の反省点をふまえてー ・壁面構成ー春・夏・秋・冬ー ・幼児による音楽活動ー年齢別リトミックー ・パブリカー身近な曲が子どもに与える影響ー ・ブラックシアター 『七夕』 | | | | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 毎回の取り組み（意欲）50%、 レポート（関心）20%、発表（技術）10%、 報告集作成（表現）20% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | ルーブリック評価を用いた成績評価をお知らせする。 |
| テキストおよび 参考文献 | 自分自身で選択、購入すること |
| メッセージ など | 2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。 ・保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---|------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 | 何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。 | テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。 | テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。 | テーマが設定できず、研究計画書の提出がない。 | レポート (知識・理解・技能・判断力) | 20% |
| (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 | 意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。 | ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。 | 研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていくことに力に欠けるところがある。 | 研究活動に取り組む姿勢がみられない。 | 活動への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解・技能・思考力・判断力・表現力) | 50% |
| (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 | 研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。 | ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。 | わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。 | 研究の成果を発表会で発表していない。 | 発表会での発表（表現力） | 10% |
| (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。 | 研究の成果を適切に文章にまとめることができる。 | 書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。 | 誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。 | 報告集原稿提出なし。 | 報告集原稿の作成（思考力・表現） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|---------------------|--------------------------|--------------------------------|-----------------|
| 児童文化財と子どもの遊び Cultural Assets for Children and Playing | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2009 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 木村一恵 | | ○ |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育園の保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 子どものあそびを通して、児童文化を学ぶ。 「保育」の中でのあそび・児童文化を学び、保育士に必要な資質、能力、技術の習得をはかる。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 昔と現代の子どものあそび、文化について説明することができる。 (2) 保育の中でのあそびや文化活動について深く理解し、様々な状況の対応について具体的に説明することができる。 (3) 遊びの総合的なものとしての「劇あそび」を創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 子どもの文化を考える | 自分の考えをまとめる 1時間 | 話し合った内容をまとめる 1時間 | |
| | 2 | 子どものあそびの変遷 | 自分の子ども時代のあそびをまとめる 1時間 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |
| | 3 | 現代の子どものあそび | 今の子どものあそびを調べてくる 1時間 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |
| | 4 | 絵本について考える 絵本の歴史 | 好きな絵本を10冊選ぶ 1時間 | グループ毎の選ばれた絵本をまとめる1時間 | |
| | 5 | 絵本について考える 昔話 | 同じ題材の絵本を3冊選ぶ 1時間 | 内容の違いについて比較表を作る。2時間 | |
| | 6 | 絵本について考える 絵本を選ぶ | 人前で絵本を読む練習をしてくる 1時間 | 見やすい絵本の読み方を練習する。1時間 | |
| | 7 | 「保育を創る」という考え方 | 配布資料を読んできて 30分 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |
| | 8 | 保育の中での行事を考える① | どういう行事があるか調べてくる 1時間 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |
| | 9 | 保育の中での行事を考える② | 行事に対する自分の考えをまとめる 1時間 | 話し合った内容をまとめる。 1時間 | |
| | 10 | あそびを創る① 劇あそびを創る | 劇あそびにしたい絵本を選んでくる 1時間 | 選んだ絵本を劇あそびにすることを考えて読み込んでくる。1時間 | |
| | 11 | あそびを創る② 劇あそびができるまで | 配布資料を読んできて 30分 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |
| | 12 | あそびを創る③ 絵本から劇あそび | 構想を練る 1時間 | 自分なりの劇の流れをまとめる。2時間 | |
| | 13 | あそびを創る④ 台本・音楽・美術 | 具体的にどうするか考えてくる 1時間 | 劇の主題歌になる曲を作ってくる。2時間 | |
| | 14 | あそびを創る⑤ 劇あそびのまとめ | 冊子にする準備をしてくる 2時間 | 協力して冊子を作る 2時間 | |
| | 15 | これからの子どもの文化・あそびについて | 自分の考えをまとめる 1時間 | 振り返りシートに基づき まとめる。1時間 | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 40%、 課題・レポート（思考力・判断力・表現力） 20%、 定期試験（知識・理解） 40% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 提出されたものに対し、コメントを書き、返却する。 |
| テキストおよび 参考文献 | 講義資料：その都度配布 参考文献：授業の中で紹介 |
| メッセージ など | 絵本・人形劇・劇遊びなど保育の中で取り上げられがちなものについて関心を深められるように、わかりやすく実技を取り入れながら授業をすすめていきます。 保育士証：選択科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|------------------------------|-----------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 子どもの文化、あそびを昔と比較し、現代のあそび、保育の中での文化活動について説明することができる。 | 昔と現代のあそび、保育の中での文化活動について正しく認識し、ほぼ完璧に説明できる。 | 昔と現代のあそび、文化活動について大きな違いを誤りなく説明できる。 | 昔と現代のあそび、文化活動について最低限の説明ができる。 | 説明ができない。 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 課題・レポート（思考力・表現力） 定期試験（知識・理解） | 10% |
| | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく説明できる。 | 最低限の説明ができる。 | 説明ができない。 | | 10% |
| | 20% | | | | | |
| (2) 保育の内容について深く理解しさまざまな保育の状況の対応について具体的に説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。 | 最低限、自分の考えを述べることができる。 | 説明ができない。 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 定期試験（知識・理解） | 10% |
| (3) 劇あそびを創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べるができる。 | 子どもの文化に対する自分の考えを述べるができる。 | 大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。 | 最低限、自分の考えを述べることができる。 | 自分の考えをわかるように述べるができない。 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 課題・レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |
| | | | | | | 10% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|---|--|------------------------------------|--------------------|------|--------|-------|
| 現代教師論 Teaching Modern Teachers | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1008 | 1年次 | 前期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 木村一恵 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）</p> <p>全体目標：現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p> <p>(1) 教職の意義 一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 到達目標：1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教員の役割 一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 到達目標：1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員の職務内容 一般目標：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 2) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 3) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) チーム学校への対応 一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 到達目標：1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>保育園の保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>現代社会における幼児教育の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員のやくわり・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。</p> <p>未来を担う子どもたちの保育・教育にあたる保育者の役割と倫理、専門性について学ぶ。</p> <p>保育者としてだけでなく、人間として成長していくことと専門職としての成長について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 | | | | | | |
| 1) 幼稚園教育の目的とその担い手である教員（保育者）の存在意義を理解している。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 他の職業と幼稚園等教職である専門職を比較することを通して理解している。 | | | | | (1)-2) | |
| (2) 幼児教育の動向を踏まえ、今日の教員（保育者）に求められる役割や資質能力を理解する。 | | | | | | |
| 1) 子どもたちのおかれている社会の現状を理解する。 | | | | | (2)-1) | |
| 2) 幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の教員（保育者）に求められる役割を理解している。 | | | | | (2)-1) | |
| 3) 今の教員（保育者）に求められる基礎的な資質能力を理解している。 | | | | | (2)-2) | |
| (3) 教員（保育）の職務内容の全体像や、課せられる服務上、身分上の義務を理解する。 | | | | | | |
| 1) 幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、教員（保育者）の職務の全体像を理解している。 | | | | | (3)-1) | |
| 2) 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性を理解している。 | | | | | (3)-2) | |
| 3) 教員に課せられる服務上、身分上の義務を理解している。 | | | | | (3)-3) | |
| (4) 幼稚園の担う役割が多様化する中で幼稚園内外の専門家等と連携する必要性について理解する。 | | | | | | |
| 1) 幼稚園内の教職員や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 | | | | | (4)-1) | |

| 回数 | 現代教師論 授業内容 【木村一恵】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|--|---|------------------------|
| 1 | 教職を目指すに当たって、「人としてどう生きるか」についてグループ討議をし、さまざまな考え方のあることを学ぶ。 | 自分の目指す教職についての自分の考えをまとめてくる。 1時間 | 「生き方」についての文章を読んで自分の考えを描く。 2時間 | (1) 1) 2) |
| 2 | 現代の子どもたち、親の生活の現状を理解する。 | 子どもを取りまく現状について調べる。 1時間 | 子どもを取りまく事件等の記事をもとに自分の考えを描く。 2時間 | (2) 1) |
| 3 | 教員（保育者）の役割、倫理、資質について学ぶ。 | テキストP20～28を読む 1時間 | 教師の立場から書かれた文章を読んで自分の考えを描く。 2時間 | (1) 1) 2) (2) 2) 3) |
| 4 | 教員（保育者）の性差について討議し、性差の是非について理解する。 | 男性保育者の実態について調べる。 1時間 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (1) 2) (2) 2) 3) |
| 5 | 子どもの命を守る保育・教育について学ぶ。 | 子どもの施設内での事故について調べる。 1時間 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (1) 1) 2) (2) 2) 3) |
| 6 | 子どもの求める理想の教師像（保育者像）について具体的に考えを述べる。 | 子どもの求める理想の教師像について自分の考えをまとめてくる。 1時間 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (1) 1) (2) 2) 3) |
| 7 | 保護者の求める理想の教師像（保育者像）について具体的に考え意見交換をする。 | 保護者の求める理想の教師像について自分の考えをまとめてくる。 1時間 | 保護者の育児・教育について書いた文章を読んで自分の考えを書く。 2時間 | (1) 1) (2) 2) 3) |
| 8 | 国、社会の求める理想の教師像（保育者像）について意見交換をし、子ども、親の求める教師像（保育者像）との比較をする。 | 国・社会の求める理想の教師像について自分の考えをまとめてくる。 1時間 | 世界と国の教育に対する考え方の違いについて書く。 2時間 | (1) 1) (2) 2) 3) |
| 9 | 教職に就いたらどのような子どもに育てたいのか自分の考えを具体的に述べる。 | 自分の考えを発表できるようにまとめてくる。 1時間 | 他の人の発表から学んだことをまとめる。 1時間 | (1) 1) (3) 1) 2) |
| 10 | 教員に課せられた服務上、身分上の義務について学ぶ。 | テキストP28～32を読む 30分 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (3) 3) |
| 11 | 指導力不足、教員の精神的疾患による休職等、教育現場で起きている問題について理解する。 | 配布資料を読む 30分 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (2) 2) (3) 3) |
| 12 | 幼稚園に通う子どもたちだけでなく、地域の子育て家庭の支援、の重要性を理解する。 | テキストP51～58を読む 1時間 | いじめなど教育に関わる文章を読んで自分の考えを書く。 2時間 | (3) 1) |
| 13 | 幼稚園内の教職員や専門機関との連携の必要性について学ぶ。 | 配布資料を読む 30分 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (4) 1) |
| 14 | 専門職として職務を遂行するためには、学び続けることの必要性を理解する。 | 配布資料を読む 30分 | 学び続けることの重要性について書かれた文章を読んで自分の考えを書く。 1時間 | (3) 2) |
| 15 | 幼児教育の現状を踏まえ、これからの教員（保育者）に求められるものは何かを理解する。 | テキストP59～64を読む 1時間 | 授業振り返りシートをもとにまとめる。 1時間 | (2) 3) (3) 1) 2) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み 30%、課題レポート 70% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業振り返りシートにコメントを書き返却する。レポートはルーブリック評価の結果を伝える。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『現代教師論』山口短期大学 『保育白書』 | | | |
| メッセージなど | 教職とはどういうものなのか。人が人を育てることの重さを伝えながら、子どもや保護者と共に育っていける自分を発見できるようすすめていきます。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|----------------|--------------------|---------------------|----------|---------------------------------------|-----------|
| (1)-1) 幼稚園教育の目的とその担い手である教員（保育者）の存在意義について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力）授業への取り組み（関心・意欲・態度） | 5% 10% |
| (1)-2) 他の職業と幼稚園等教職である専門職を比較することを通して専門職について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (2)-1) 子どもたちのおかれている社会の現状について具体的に述べることができる。 | ほぼ完璧に述べることができる | 大きな間違いがなく述べるができる | おおまかな現状については述べるができる | 述べるができない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力）授業への取り組み（関心・意欲・態度） | 5% 10% |
| (2)-2) 幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の教員（保育者）に求められる役割を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (2)-3) 今の教員（保育者）に求められる基礎的な資質能力を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力）授業への取り組み（関心・意欲・態度） | 5% 10% |
| (3)-1) 幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、教員（保育者）の職務の全体像を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (3)-2) 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性、重要性を具体的に述べるができる。 | ほぼ完璧に述べることができる | 大きな間違いがなく述べるができる | おおまかな現状については述べるができる | 述べるができない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |
| (3)-3) 教員に課せられる服務上、身分上の義務を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 5% |
| (4)-1) 幼稚園内の教職員や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本を説明できる | 最低限の基本を説明できる | 説明できていない | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|---|------------|------|----------|
| 学校教育の制度と経営 School Education System and School Management | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2009 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 隅野 努 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい人間性と専門性を有している。 | | | | | ○ |
| 2 | 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | ○ |
| 4 | さまざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 全体目標：現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。</p> <p>* (1-1), (1-2), (1-3)はいずれかを習得し、そこに記載されている一般目標と到達目標に沿ってシラバスを編成する。なお、この3つのうち、2つ以上を含んでシラバスを編成する場合は、それぞれの1) から3) までを含むこと。</p> <p>(1-1) 教育に関する社会的事項 一般目標：社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 到達目標：1) 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 2) 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 3) 近年の教育政策の動向を理解している。 4) 諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。</p> <p>(1-2) 教育に関する制度的事項 一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的な知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 到達目標：1) 公教育の原理及び理念を理解している。 2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。</p> <p>(1-3) 教育に関する経営的事項 一般目標：学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 到達目標：1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 4) 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解している。</p> <p>(2) 学校と地域との連携 一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 到達目標：1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。</p> <p>(3) 学校安全への対応 一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 到達目標：1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>教育に関する社会的・制度的・経営的な基礎知識および概念を習得した上で安全・安心をベースにした学校の運営のあり方について検討する。また、学校教育の社会的側面に注視し「地域社会の中での学校」「開かれた学校」について実例も含め学ぶ。この前提として、このような教育に関する社会的・制度的・経営的な基礎知識を身につけた上で現代的な課題を遂行できる教師としての資質・能力を養うことを目的とする。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | コア目標対応 |
| (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 | | | | | | |
| 1) 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 | | | | | | (1-1)-1) |
| 2) 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 | | | | | | (1-1)-2) |

| | 3) 近年の教育政策の動向を理解している。 | | | (1-1)-3) | |
|----------------------------|--|---|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|
| | (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 | | | | |
| | 1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 | | | (1-3)-1) | |
| | 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 | | | (1-3)-2) | |
| | 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。 | | | (1-3)-3) | |
| | (2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 | | | | |
| | 1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 | | | (2)-1) | |
| | 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 | | | (2)-2) | |
| | (3) 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 | | | | |
| | 1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 | | | (3)-1) | |
| | 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。 | | | (3)-2) | |
| 回数 | 学校教育の制度と経営 【隅野 努】 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
| 1 | | 社会の状況が学校に及ぼす影響 | 少子高齢化、情報化、グローバル化、環境問題などの資料を読む。2時間。 | 社会の変化が学校に及ぼしている影響についてまとめる。2時間。 | (1-1)-1)、 2)、3) |
| 2 | | 子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向 | 子どもの生活環境の現状についての資料を読む。2時間。 | 今の教育政策の動向についてまとめる。2時間。 | (1-1)-1)、 2)、3) |
| 3 | | 日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策 | 日本の学校制度について、資料を読む。2時間。 | 日本の学校制度の課題についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1) |
| 4 | | 教育行政と教育関連法規 | 教育基本法、学校教育法などを読む。2時間。 | 教育関連諸法規についてまとめる。2時間。 | (1-2)-2) |
| 5 | | 学校組織のマネジメント、学校評価とはー学校評価ガイドラインを基にー | カリキュラム・マネジメントの資料を読む。2時間。 | 学校評価と学校改善についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1)、2) |
| 6 | | 学級経営の基本・学級経営のあり方と課題 | 学級経営のねらいについて、資料を読む。2時間。 | 学校経営の効果的な方法についてまとめる。2時間。 | (1-2)-1)、3) |
| 7 | | 教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題ーよりよい学校経営を目指してー | 学校内外の人的、物的資源の活用について、資料を読む。2時間。 | これからの学校経営についてまとめる。2時間。 | (1-2)-3) (2)-1)、2) |
| 8 | | 地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正 | 改正された社会教育法を読む。2時間。 | 地域と学校が協働して成果を上げる取組についてまとめる。2時間。 | (1-1)-3)) (2)-1)2) |
| 9 | | 地域学校協働活動とコミュニティ・スクール | 学校と地域との連携の意義について、資料を読む。2時間。 | 地域との連携・協働による学校教育活動についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) |
| 10 | | コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の理念・役割 | コミュニティ・スクールについて、資料を読む。2時間。 | コミュニティ・スクールの役割についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) |
| 11 | | 学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標 | 学校における安全教育の資料を読む。2時間。 | 子どもを取り巻く危険と安全教育についてまとめる。2時間。 | (3)-1) |
| 12 | | 地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例 | 地域との連携による子どもの安全体制について資料を読む。2時間。 | 地域ぐるみの学校安全体制の事例をまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) (3)-1)、2) |
| 13 | | 学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定 | 学校保健安全法を読む。2時間。 | 学校安全計画や危機管理マニュアルについて、まとめる。2時間。 | (1-1)-3) (3)-1)、2) |
| 14 | | 危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに | 危機管理と安全教育の取り組み事例を読む。2時間。 | 教育委員会とスクールカウンセラーが協働した事例をまとめる。2時間。 | (1-2)-3) (3)-1)、2) |
| 15 | | 「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応 | 地域安全マップについて実践事例を読む。2時間。 | 学校安全を確保するための地域との連携についてまとめる。2時間。 | (2)-1)、2) (3)-1)、2) |
| 定期試験 | 定期試験を実施する。 | | | | |
| 成績評価方法 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)60%、定期試験(知識・理解)20% | | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | | |
| テキストおよび参考文献 | 授業時に資料を配付する。 | | | | |
| メッセージなど | 今日、学校教育は急激に変化している。常に、新しい情報を入手しようと努力すること。 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|-------------|---------------------|---------------------------|-----------|--------------------------|------------------------------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1-1)-1 学校を巡る近年の様々な状況の変化を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 5% |
| (1-1)-2 子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1-1)-3 近年の教育政策の動向を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) |
| (1-2)-1 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (1-2)-2 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (1-2)-3 学級経営の仕組みと効果的な方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) |
| (2)-1 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (2)-2 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) |
| (3)-1 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解) | 10% |
| (3)-2 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | レポート(思考力・判断力) 定期試験(知識・理解) |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|---|------------|---------------------|-------|
| 教育原論 Principles of Education | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1010 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 木村一恵 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的、制度的、経営的事項 | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>全体目標：教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p> <p>(1) 教育の基本的概念 一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 到達目標：1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>(2) 教育に関する歴史 一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 到達目標：1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。 2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p> <p>(3) 教育に関する思想 一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 到達目標：1) 家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3) 代表的な教育家の思想を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>保育園の保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 教育の基本的概念、理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想においてそれらがどのようになされてきたかについて学ぶとともにこれまでの幼児教育がどのように社会の中で捉えられ、変遷してきたのかを理解する。 幼児教育について基本的な制度、理念、歴史、思想について理解を深め、これからの乳幼児教育の課題を探り、積極的に取り組む必要性を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 幼児教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の内容、理念を過去から現代に至るまでの変遷を理解する。 1) 子ども、家族と幼児教育の歴史の変遷を理解している。 | | | | | (1)-1)、2) (2)-1) | |
| 2) 近代教育制度の成立と2015年より改正施行された子ども・子育て支援新制度について説明できる。 | | | | | (2)-2) | |
| 3) 現代社会における幼児教育のあり方を歴史的な視点から理解している。 | | | | | (2)-3) | |
| (2) 教育に関するさまざまな思想と実際の幼児教育とのかかわりを理解している。 1) 家庭や子どもに関する教育の思想を理解している。 | | | | | (3)-1) | |
| 2) 幼児教育の内容にかかわるさまざまな理念、思想を説明できる。 | | | | | (3)-2) | |
| 3) 日本、世界における代表的な教育家の教育理論を理解している。 | | | | | (3)-3) | |

| 回数 | 教育原論 授業内容 【木村一恵】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|--|---|---------------------|
| 1 | 「生きるということ 育つということ」と教育についての関連性について理解する。 | テキスト全体に目を通し、この教科の大まかな内容を理解する。 2時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 3) (2) 1) |
| 2 | 現代の問題点といわれる「貧困」と教育の関係について理解を深める。 | 貧困と教育についての問題点について調べる。 1時間 | 貧困について調べる。 1時間 | (1) 3) |
| 3 | 教育の目的について論議し、さまざまな考え方があることを学ぶ。 | 自分自身の考えをまとめる。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 3) (2) 1) |
| 4 | 「子どもの権利条約」と現代の教育について理解する。 | こどもの権利条約を読んでくる。2時間 | 現代起っている子どもの問題について調べてまとめる。 2時間 | (2) 2) |
| 5 | 世界の教育の歴史、思想、教育理論について学ぶ。 | テキストP 18～19 を読んでくる。30分 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 1) (2) 2) 3) |
| 6 | 日本の幼児教育の歴史、思想、教育理論について学ぶ。 | テキストP. 20～22 を読んでくる。30分 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 他の教育理論を調べる。 2時間 | (1) 1) (2) 2) 3) |
| 7 | 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学ぶ。 | 教育基本法・学校教育法・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでくる。2時間 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の比較をする。 2時間 | (1) 2) |
| 8 | 子ども・子育て支援制度の概要について学ぶ中で子どもを取り巻く情勢の変遷について理解する。 | テキストP. 22～25 を読んでくる。30分 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 1) 2) |
| 9 | 子ども・子育て支援制度の具体的内容について学ぶ。 | 配布資料を読んでくる。 30分 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 2) |
| 10 | 子ども・子育て支援制度の内容を学ぶ中で、幼稚園教育だけではなく幼児教育には様々な形態のあることを理解する。 | テキストP. 26～33 配布資料を読んでくる。1時間 | 子ども・子育て支援制度の内容をまとめる。 2時間 | (1) 2) (2) 1) |
| 11 | 教育内容を考える上で教材研究の重要性を理解する。 | テキストP. 43～45 を読んでくる。 | 3歳児に合った教材を考えてくる。 1時間 | (1) 3) (2) 2) |
| 12 | 教育内容を深めていくために教育計画、指導計画がいかに重要かを理解する。 | 配布資料、テキストP. 46～48 を読んでくる。 1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 3) (2) 2) |
| 13 | 教育・保育実践記録の意味と必要性について理解する。 | テキストP. 35～37 を読んでくる。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 3) (2) 2) |
| 14 | 幼稚園教育と家庭教育の連携の重要性について学ぶ。 | テキストP. 49～54 を読んでくる。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 1) (2) 2) |
| 15 | これからの幼児教育のあり方についてグループで協議する。 | テキストP. 55～56 を読み、自分の考えをまとめてくる。 2時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。 1時間 | (1) 3) (2) 1) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験(知識・理解力・思考力) 80%、 レポート(思考力・表現力・意欲) 20% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業振り返りシートにコメントを書き、返却する。 レポート・試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『教育原論』山口短期大学 保育福祉小六法 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) | | | |
| メッセージなど | 保育・教育を学ぶ入口。教育の歴史、思想が今日の教育のなかにどのように伝わっているのか。幼児教育に関する法律をもとに幼児教育のあり方をわかりやすく伝えていきます。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|------------|-----------------|------------|----------|---|------------|
| (1)-1) 子ども、家庭と幼児教育の歴史の変遷を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 近代教育制度の成立と2015年より改正された子ども・子育て支援新制度について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (1)-3) 現代社会における幼児教育のあり方を歴史的な視点から説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2)-1) 家庭や子どもに関する教育の思想について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2)-1) 幼児教育の内容にかかわるさまざまな理念、思想を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2)-2) にほん、世界における代表的な教育家の教育理論を具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いはなく、説明できる | 最低限の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% 20% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|------------------------|------------|------|---------------------|
| 教育心理学 Educational Psychology | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI1004 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 必修 | 必修 | 鄭 曉琳 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | | |
| <p>〇コアカリキュラム：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</p> <p>全体目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程 一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程 一般目標：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 到達目標：1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学であり、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問である。</p> <p>子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について学ぶ。</p> <p>家庭や社会的背景と子どもの発達をもとに教育心理の理解を深め、教育実践に結びつけることができる。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 教育心理学の基礎的な知識が身につく。 | | | | | | (1)-1) |
| 1) 様々な学習形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を身に着ける。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 主体的学習を支える動機づけ、集団づくり、教育評価の在り方について説明することができる。 | | | | | | (1)-2) (2)-1)、2) |
| 3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎を身に着ける。 | | | | | | (1)-2) (2)-3) |
| (2) 教育という営みを心理学的な観点から分析できる。 | | | | | | (2)-1) |
| 1) 教師観、教師の役割、学習者の影響について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 友人関係の発達、道徳性の発達、自己意識の発達、他者理解の発達について説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 3) 協調的問題解決能力や主体的な学習能力が強調される学習について評価する方法を説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| 4) 児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を選択できる。 | | | | | | (2)-3) |
| (3) 学校という現場を心理学的な観点から内省できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 1) 人間の成長過程において、子ども時代の課題と教育の役割を内省できる。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 学級内での人間関係、教師の影響、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきかについて内省できる。 | | | | | | (2)-3) |

| 回数 | 教育心理学 授業内容 【鄭 曉琳】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
|----------------------------|---|---------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | 教育心理学とは何かについて概観する | 資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む | (1)-1) |
| 2 | ライフサイクルにおける心理的特徴を理論的に学び、各段階における課題と特徴について概観する | テキストの pp. 1～3 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 1～3 を読む・2時間 | (1)-1) (1)-3) |
| 3 | 乳幼児期～幼児期の発達の特徴と課題について理解する | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (1)-1) (1)-3) |
| 4 | 学童期～思春期の発達と特徴と課題について理解する | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (1)-1) (1)-3) |
| 5 | 青年期の発達と特徴と課題について理解する | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (1)-1) (1)-3) |
| 6 | 個性と学習における個人差について理解する | テキストの pp. 4～5 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 4～5 を読む・2時間 | (1)-3) (2)-2) (3)-1) |
| 7 | 不登校・いじめなどの問題を発達の観点より理解を深める | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (2)-1) (2)-2) (3)-3) |
| 8 | 学校における児童生徒の学習活動と、それを支援する教師の教育活動について概観する | テキストの pp. 31～41 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 31～41 を読む・2時間 | (2)-1) (3)-1) (3)-2) |
| 9 | 外発的動機づけと内発的動機づけについて、様々な研究例と実践例を通して具体的に学ぶ | テキストの pp. 24～26 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 24～26 を読む・2時間 | (1)-1) (1)-2) (1)-3) |
| 10 | 生徒のやる気を高めるにはどうすればよいか？内発的動機づけを育てる方法について学ぶ | テキストの pp. 26～28 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 26～28 を読む・2時間 | (1)-1) (1)-2) (1)-3) (2)-1) |
| 11 | 児童生徒の主体的な学習としてのアクティブラーニングについて理解する | テキストの pp. 36～40 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 36～40 を読む・2時間 | (1)-3) (2)-1) |
| 12 | 学力や知力の獲得に対する評価の在り方について学ぶ | テキストの pp. 1～5 を読む・2時間 | もう一度テキストの pp. 1～5 を読む・2時間 | (2)-3) (2)-4) |
| 13 | 学級内での人間関係や教師の影響力について理解する | 補足資料とテキストの pp. 41 を読む・2時間 | もう一度補足資料とテキストの pp. 41 を読む・2時間 | (2)-1) (2)-2) |
| 14 | 様々な研究例と実践例を通して集団力学について概観する | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (2)-1) (2)-2) (3)-2) (3)-3) |
| 15 | 発達障害における学習困難と支援方法について理解する | 補足資料を読む・2時間 | もう一度補足資料を読む・2時間 | (1)-3) (3)-1) (3)-3) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループディスカッションへの参加及びワークシート（思考力・表現力・判断力）30%、定期試験（知識・理解）70% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験の採点方法（試験の前）と得点（試験の後）について説明する 毎回のワークシートにコメントをつけて返却する | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『教育心理学』山口短期大学 参考文献：『やさしい教育心理学』有斐閣アルマ | | | |
| メッセージなど | 本授業では、子どもの特性、学習指導と教育評価の3つの観点から教育活動を捉え、その内容ごとに事例を挙げながら解説する、教育心理学の基礎的な理論および実践的知識・技能の習得を図る。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------------------------|------|
| (1)-1 様々な学習形態や概念及びその過程について、事例を挙げて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (1)-2 主体的学習を支える動機づけ、集団づくり、教育評価の在り方について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (1)-3 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動について説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (2)-1 教師観、教師の役割、学習者の影響について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (2)-2 友人関係の発達、道徳性の発達、自己意識の発達、他者理解の発達について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (2)-3 協調的問題解決能力や主体的な学習能力が強調される学習について評価する方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (2)-4 児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (3)-1 人間の成長過程において、子ども時代の課題と教育の役割を内省できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (3)-2 学級内での人間関係、教師の影響、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |
| (3)-3 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきかについて内省できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 7% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 3% |

| | | | | | |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|----------------------------|--------------------------------|---------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 発達心理学 Developmental Psychology | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI1005 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 乳児期から児童期まで各発達時期における心理的な特徴と課題を理解する。 乳幼児の運動発達・言語発達・認知発達・社会発達について理解する。 それらの背後にある環境の重要性和、相互関係について理解する。 子どもの発達における保育者の役割について理解する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション — 発達心理学で何を学ぶか | テキスト pp. 1～4 を読む・ 2時間 | pp. 5「復習のポイント」を 記入する・2時間 | |
| | 2 | 発達のしくみ — 遺伝と環境、人間発達の特殊性 | テキスト pp. 6～9 を読む・ 2時間 | pp. 10「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 3 | 知覚の発達 — 子どもの知覚と記憶 | テキスト pp. 11～12 を読 む・2時間 | もう一度 pp. 11～12 を読 む・2時間 | |
| | 4 | 思考の発達 — ピアジェの認知発達理論 | テキスト pp. 13～14 を読 む・2時間 | pp. 15「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 5 | 愛着 — 母子相互作用、愛着、愛着障害 | テキスト pp. 16～19 を読 む・2時間 | もう一度 pp. 16～19 を読 む・2時間・2時間 | |
| | 6 | 自己の発達 — 自己意識の発達と自己制御 | テキスト pp. 19～22 を読 む・2時間 | pp. 23「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 7 | 情動の発達 — 情動を構成するものと情動の社 会化 | テキスト pp. 24～26 を読 む・2時間 | もう一度 pp. 24～26 を読 む・2時間・2時間 | |
| | 8 | 社会的認知の発達① — 他者理解の発達、愛他行 動の発達 | テキスト pp. 26～29 を読 む・2時間 | pp. 30「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 9 | 社会的認知の発達② — 道徳性の発達 | テキスト pp. 31～36 を読 む・2時間 | もう一度 pp. 31～36 を読 む・2時間・2時間 | |
| | 10 | 言語発達① — 言葉の発達とコミュニケーショ ンの発達 | テキスト pp. 37～38 を読 む・2時間 | pp. 39「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 11 | 言語発達② — 書き言葉の発達 | テキスト pp. 40～42 を読 む・2時間 | pp. 43「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 12 | 遊びの発達と友たち関係 — 子どもの遊びとは、 友だち関係の発達 | テキスト pp. 44～47 を読 む・2時間 | pp. 48「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 13 | さまざまな発達の障害① — 身体的障害、言葉の 障害、発達の障害 | テキスト pp. 49～53 を読 む・2時間 | pp. 54「復習のポイント」 を記入する・2時間 | |
| | 14 | さまざまな発達の障害② — 特別支援 | 補助資料を読む | 補助資料を復習する・2時 間 | |
| 15 | 全体のまとめ | 期末試験の復習資料を読 む | もう一度資料を読む | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み・グループディスカッションへの参加及びワークシート（意欲・態度・思考力・表現力・判断力）30%、定期試験（知識・理解）70% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 試験の採点方法（試験の前）と得点（試験の後）について説明する 毎回のワークシートにコメントをつけて返却する |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『発達心理学』山口短期大学 参考文献：『新乳幼児発達心理学』 福村出版 |
| メッセージなど | 子どもの発達の特徴や個々の発達段階の課題について理解することによって、子どもに関する理解が深まり、子どもの発達についての関心が高まる。 ・保育士証：必修科目　・幼稚園教諭二種免許状：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 | 70% |
| (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | |
| (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|-------------------|----------------------|-------------------|------------------|
| 子ども家庭支援の心理学 Psychology of child and family support | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2006 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福屋 いずみ | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概 要 | 生涯発達の視点から人の発達について、それぞれの発達段階の特徴を知ることが目的とする。また発達課題の連続性を考えながら人の一生をながめる視点を解説する。なかでも青年期以降の人の発達についてくわしく学び発達の連続性を知る。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について説明することができる。 (2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。 (4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | — | 本時の内容をまとめる。2時間 | |
| | 2 | 生涯発達とは何か | 第1章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 3 | 乳幼児期から学童前期にかけての発達 | 第2章のエクササイズをまとめる。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | |
| | 4 | 学童期後期から青年期にかけての発達 | 第3章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 5 | 成人期・老年期における発達 | 第4章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 6 | 子育てを取り巻く社会的状況 | 第5章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 7 | 家族・家庭の意義と機能 | 第6章のエクササイズをまとめる。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | |
| | 8 | 親子・家族関係の理解 | 第6章を読む。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 9 | 子育ての経験と親としての育ち | 第7章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 10 | 多様な家庭形態とその理解 | 第8章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 11 | 特別な配慮を必要とする家庭 | 第9章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 12 | 発達支援の必要な子どものいる家庭 | 第10章のエクササイズをまとめる。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| | 13 | 子どもの精神保健 | 第11章のエクササイズをまとめる。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | |
| | 14 | 子どもの精神保健 | 第11章を読む。2時間 | テキストの演習に取り組む。2時間 | |
| 15 | まとめ | 毎時の課題をふりかえる。2時間 | レポートを作成して提出する。 | | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 授業の取り組み・毎時の課題（知識・理解、思考力・表現力・判断力）50%、 レポート（関心・意欲・態度、思考力・表現力・判断力）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎時の課題はコメントを書いて返却する。 レポートはルーブリック評価に基づいて結果を示す。 |
| テキストおよび 参考文献 | プリントを配布する 青木紀久代（2019）シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学 みらい |
| メッセージ など | これまでの自分、今の自分、これからの自分と照らし合わせながら講義の内容を 考えていければと思います。 保育士証：必修科目 |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|--|--|--|--|----------------------------|------|
| (1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について説明することができる。 | 生涯発達に基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。 | 生涯発達に基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。 | 生涯発達に基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。 | 生涯発達に基礎的な知識を十分に説明できない。またその重要性や発達課題を十分に説明できない。 | 毎時の課題（知識・理解、思考力・表現力・判断力） | 15% |
| | | | | | レポート（関心・意欲・態度、思考力・表現力・判断力） | 15% |
| (2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 | 家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達の観点を包括的に捉えて自分の見述べることができる。 | 家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達の観点を包括的に捉えて自分の見述べることができる。 | 家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達の観点を包括的に捉えて自分の見述べることができる。 | 家庭の意義や機能を十分に説明できない。また発達の観点を包括的に捉えて自分の見述べることができる。 | 毎時の課題（知識・理解、思考力・表現力・判断力） | 10% |
| | | | | | レポート（関心・意欲・態度、思考力・表現力・判断力） | 10% |
| (3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。 | 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況について十分に説明できない。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 毎時の課題（知識・理解、思考力・表現力・判断力） | 10% |
| | | | | | レポート（関心・意欲・態度、思考力・表現力・判断力） | 10% |
| (4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。 | 子どもの精神保健の課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子どもの精神保健の課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子どもの精神保健の課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 子どもの精神保健の課題について十分に説明できない。また自分の意見を十分に述べることができる。 | 毎時の課題（知識・理解、思考力・表現力・判断力） | 15% |
| | | | | | レポート（関心・意欲・態度、思考力・表現力・判断力） | 15% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|-------------------|-------------------|-----------------|
| 子どもの理解と援助 Understanding and support of children | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2007 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 保育現場での具体事例に基づき、子どもの成長発達の特徴を理解する上で、保育者はどのように援助し働きかけをしていくべきかを考える。また、具体的な保育現場の子どもの姿を通して子どもの気持ちを理解するための観察法と分析法を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 (2) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 (3) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 2 | 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 —保育における子どもの理解の意義 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 3 | 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 —養護及び教育の一体的展開 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 4 | 子どもの実態に応じた発達や学びの把握 —共感的理解 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 5 | 子どもを理解する視点 —子どもの生活や遊び | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 6 | 子どもを理解する視点 —人的環境としての保育者 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 7 | 子どもを理解する視点 —子どもの仲間関係 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 8 | 子どもを理解する視点 —集団における経験と育ち | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 9 | 子どもを理解する視点 —葛藤やつまずき | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 10 | 子どもを理解する視点 —保育の環境の理解と構成 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 11 | 子どもを理解する視点 —環境の変化や移行 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 12 | 子どもを理解する方法 —観察 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 13 | 子どもを理解する方法 —記録 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 14 | 子どもを理解する方法 —省察・評価 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 15 | 子どもを理解する方法 —職員と保護者との情報の共有 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| 成績評価 | 授業への取り組み・グループディスカッションへの参加とワークシート(思考力・表現力・判断力)50%、期末レポート(知識・理解)50% | | | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回のワークシートにコメントをつけて返却する。 各学生の期末発表に対する視聴者の感想とコメント（無記名）及び教員のコメントを手渡しする。 |
| テキストおよび参考文献 | 『発達心理学』山口短期大学 『子どもの理解と援助』中央法規 |
| メッセージなど | 子どもを理解するためには、まず、しっかりした行動観察が必要とされます。 保育士証：必修科目 |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|--|--|--------------------------------|-----------------------------------|------|
| (1) 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 10% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている。 | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない。 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (2) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 20% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない内 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 20% |
| (3) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 20% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない内 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|----------------------|-------------------|-------------------|-----------------|
| 発達心理学Ⅱ(行動観察法) Developmental PsychologyⅡ (Method in behavioral observation) | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2008 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 鄭 曉琳 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ |
| 概要 | 私たちは相手の表情と行動を見たり解釈したりすることによって、その人の心理状態を推測する。本授業では、観察法という研究方法の基本と、観察によるデータの収集および分析の方法について、受講者が実際に経験しながら学んでゆく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 人間の行動・心理を観察によって測定するとはどういうことかという基本的な考え方を理解する。 (2) 行動観察データの収集と分析、およびレポート作成を通して、観察法及び分析方法を身に着ける。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション — 行動観察とは何か | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 2 | 時間見本法 — 理論、技法の説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 3 | 時間見本法 説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 4 | 時間見本法 — 実践 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 5 | データ処理と分析 — 統計の基礎知識 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 6 | 事象見本法 — 理論、技法の説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 7 | 事象見本法 説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 8 | 事象見本法 — 実践 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 9 | データ処理と分析 — 統計の基礎知識 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 10 | 参与観察法 — 理論、技法の説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 11 | 参与観察法 説明 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 12 | 参与観察法 — 実践 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 13 | データ分析 — 統計の基礎知識 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| | 14 | 分析方法 — KJ法 | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | |
| 15 | 全体のまとめ | 配布資料を読む・2時間 | もう一度資料を読む・2時間 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | 授業への取り組み・グループディスカッションへの参加・レポートの完成度 30% ワークシート（思考力・表現力・判断力）30%、期末発表（知識・理解）40% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 毎回のワークシートにコメントをつけて返却する 各学生の期末発表に対する視聴者の感想とコメント（無記名）及び教員のコメントを手渡しする |
| テキストおよび参考文献 | 「発達心理学」山口短期大学 |
| メッセージなど | 子どもを理解するためには、まず、しっかりした行動観察が必要とされます。子どもたちの仲間関係の形成や表現される行動に興味のある方は受講して下さい。 保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---------------------------------|-----------------------------|-------------------------|------------------------------|-------------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 人間の行動・心理を観察によって測定するとはどういうことかという基本的な考え方を理解する。 | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 30% |
| (2) 行動観察データの収集と分析、およびレポート作成を通して、観察法及び分析方法を身に着ける。 | 十分に調べられて、説得力のある資料である。 | 調べられて、説得力のある資料である。 | 調べが不足している、説得力が不足している。 | 調べが全く不足している、説得力がない | レポート課題 | 30% |
| (3) 自分の意見を他者にわかりやすく・説得的にプレゼンできるようになる。 | 堂々と聴衆を見ながら声量も十分に適切なスピードで発表できている | 視線や声量、話すスピードにも一定のレベルに達している | 視線、声量、話すスピードを改善する必要がある | 発表態度全体を大きく改善する必要がある | 期末発表 | 40% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|------------------------------|---|-------------------|----------------------|--------------------|------------------|
| 臨床心理学 Clinical psychology | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2009 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 福屋 いずみ | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 社会には様々な精神疾患があり、自分自身あるいは身近な人に起こり得ることである。臨床心理学では、心理的な問題をもつ個人の状態を理解し、適切な援助を行うことを目的としている。本講義では、精神疾患の特徴と臨床心理学の理論などについて解説する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 様々な臨床心理学の理論と支援方法について説明することができる。 (2) 精神疾患について理解し、特徴を説明することができる。 (3) 精神疾患についてこれまでの経験と関連づけながら理解し、表現することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | オリエンテーション、臨床心理学とは | — | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 2 | パーソナリティの理解 | 自分についてまとめる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 3 | うつ病、双極性障害 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 4 | 不安症 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 5 | 統合失調症 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 6 | 心的外傷後ストレス障害 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 7 | 依存症 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 8 | 性別違和 | 指定した作品をみる。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 9 | 臨床心理学の歴史 | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 10 | 臨床心理学の理論①：精神分析 | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 11 | 臨床心理学の理論②：認知行動療法 | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 12 | 臨床心理学の理論③：人間性心理学 | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 13 | 心理アセスメント | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 14 | カウンセリング技法 | 配布資料を読む。 2時間 | 本時の内容をまとめる。 2時間 | |
| | 15 | まとめ | これまでの配布資料を読む。 2時間 | レポートを提出する。 2時間 | |

| | |
|------------------------------------|---|
| 成績評価 | 毎時の課題（知識・理解、思考力・判断力・表現力）50%、 レポート（関心・意欲・態度、思考力・判断力・表現力）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | 毎時の課題にはコメントを書いて返却する。 レポートは、ルーブリック評価に基づいて結果を示す。 |
| テキストおよび 参考文献 | プリントを配布する （参考文献）藤田 哲也・串崎 真志（2016） 絶対役立つ臨床心理学：カウンセ ラーを目指さないあなたにも ミネルヴァ書房 |
| メッセージ な ど | こころについて考え、自分自身や周りの人のことを考えるきっかけにしてくださ い。予習の「指定された作品をみる」は自費になります。 保育士証：選択科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 様々な臨床心理学の 理論と支援方法につ いて説明することが できる。 | 様々な臨床 心理学の理 論と支援方 法の知識を 十分に獲得 し、それぞ れの違いを 比較しなが ら説明する ことができ る。 | 様々な臨床 心理学の理 論と支援方 法の知識を 概ね獲得 し、それぞ れを説明す ることがで きる。 | 様々な臨床 心理学の理 論と支援方 法の基礎的 な知識を獲 得し、それ ぞれを説明 することが できる。 | 様々な臨床 心理学の理 論と支援方 法を説明す ることがで きない。 | 毎時の課題 （知識・理解・ 思考力・ 判断力・ 表現力） | 20% |
| (2) 精神疾患について理 解し、特徴を説明す ることができる。 | 各精神疾患 について理 解し、指定 された作品 と合わせて 特徴を十分 に説明する ことができ る。 | 各精神疾患 について理 解し、指定 された作品 と合わせて 特徴を概ね 説明するこ とができる。 | 各精神疾患 について理 解し、指定 された作品 と合わせて 最低限の特 徴を説明す ることがで きる。 | 各精神疾患 について理 解できず、 特徴につい て説明する ことができ ない。 | | 30% |
| (3) 精神疾患についてこ れまでの経験と関連 づけながら理解し、 表現することができ る。 | 講義の内容 とこれまでの 経験を関連 づけ、それ を十分に 表現するこ とができ る。 | 講義の内容 とこれまでの 経験を関連 づけ、それ を概ね表 現するこ とができる。 | 講義の内容 とこれまでの 経験を関連 づけている が、それ を表現す ることが不 十分である。 | 講義の内容 とこれまでの 経験を関連 づけるこ とができ ず、表現す ることがで きない。 | レポート （関心・意 欲・態度、 思考力・ 判断力・ 表現力） | 50% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|--------------------|---------------------------|------|--------|
| 特別支援教育 Special Support Education | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI1010 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 三輪研一郎 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | | | 特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | |
| ○コアカリキュラム：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | | | | | | |
| 全体目標：通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 | | | | | | |
| (1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解 | | | | | | |
| 一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 | | | | | | |
| 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 | | | | | | |
| 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 | | | | | | |
| (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法 | | | | | | |
| 一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 | | | | | | |
| 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 | | | | | | |
| 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 | | | | | | |
| 4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 | | | | | | |
| (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 | | | | | | |
| 一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学ぶ。 | | | | | | |
| 個々の教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程の編成、自立活動の内容や方法、幼児児童生徒が教科指導などの学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、個別の教育支援計画の作成や実践事例をもとにして具体的に学ぶ。 | | | | | | |
| 特別支援学校や特別支援学級での実際を知り、特別支援教育にかかわる教員の資質を考察する。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 | | | | | | |
| 1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 | | | | | | (1)-3) |
| (2) 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。 | | | | | | |
| 1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について例示することができる。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| 4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 | | | | | | (2)-4) |
| (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 | | | | | | |
| 1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。 | | | | | | (3)-1) |

| 回数 | 特別支援教育 授業内容 【三輪研一郎】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|------------------------------|--|-------------------|-------------------|-------------------------------|
| 1 | 特別支援教育の歴史について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1) |
| 2 | 特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 3) |
| 3 | 障害児の理解 (1) 概念と就学基準について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(1) - 2) (1) - 3) |
| 4 | 障害児の理解 (2) 心理と行動特性について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(1) - 3) |
| 5 | 特別支援教育の場について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 1)、(2) - 1) (2) - 2) |
| 6 | 特別支援教育の教育課程について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 2)、(2) - 3) |
| 7 | 障害児の教育支援 (1) 学習指導要領、指導計画の作成を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 1)、(2) - 3) |
| 8 | 障害児の教育支援 (2) 自立活動、日常生活の指導を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 9 | 障害児の教育支援 (3) 各教科、遊びの指導を理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 10 | 個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 3) |
| 11 | 特別支援学級における教育の実際について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 2) |
| 12 | 特別支援学校における教育の実際について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 1) |
| 13 | 障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (1) - 3)、(2) - 4) |
| 14 | 障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 4)、(3) - 1) |
| 15 | 特別支援教育にかかわる専門性について考察する | 資料プリントを読んでおく。2時間 | 資料プリント内容をまとめる。2時間 | (2) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) 30%、 レポート (思考力・判断力・表現力) 30%、定期試験 (知識・理解) 40% | | | |
| 課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。 レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『特別支援教育』山口短期大学 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚園・小学部・ 中学部 (平成30年3月 文部科学省)』 | | | |
| メッセージなど | 特別支援教育の意義・内容・方法の学びを通して、教育環境のさらなる充実とみんなが 幸せで豊かな人生を過ごすことのできる社会をつくりましょう。 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|---------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|--------------|-------------------------------|------|
| (1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 | 基礎的な知識をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、基礎的な知識を身に付けている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基礎的な知識を身に付けている。 | 身に付けていない | 定期試験 (知識・理解) | 20% |
| (2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について例示することができる。 | 支援の方法についてほぼ完璧に例示することができる。 | 大きな間違いがなく、支援の方法について例示することができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の方法について例示することができる。 | 例示することができない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) | 20% |
| (2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|------|----------------------------|----------------------|------|-----------|
| 教育方法学（教育工学を含む） Educational Method (including Educational Technology) | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM1010 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 中津愛子 梅田美穂 鄭 曉琳 | 複数 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 | | | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>(1) 教育の方法論 一般目標：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 到達目標：1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」</p> <p>(2) 教育の技術 一般目標：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 到達目標：1) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3) 情報機器及び教材の活用 一般目標：情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 到達目標：1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2) 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて保育の内容を考え、附属幼稚園で保育を実践することを通して、教育者に必要とされる教材の工夫、保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する | | | | | | |
| 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方（主体的・対話的で深い学びなど）を理解している。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 学級、幼児、教員、保育室、教材など保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。 | | | | | | (1)-3) |
| 4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、習得する。 | | | | | | |
| 1) 子どもへの働きかけや援助など、保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 子どもの発達に応じて保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。 | | | | | | (2)-2) |
| (3) 情報機器を活用した効果的な情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 | | | | | | |
| 1) 子どもたちの興味・関心を高めるために ICT を効果的に使用した教材を作成し、その教材を用いて保育を実践する能力を身に付ける。 | | | | | | (3)-1)、2) |

| 回数 | 教育方法学 授業内容 【中津・梅田・鄭】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|------------------------|------------------------|----------------------------------|
| 1 | 子どもの資質、能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて学ぶ。(担当：中津) | 『教育方法学』第1回を読んでおく(2時間) | 保育場面のビデオ記録のまとめ(2時間) | (1)－1 (1)－2 |
| 2 | 子どもの遊びを充実させるための教師の役割について理解する。(担当：中津) | 『教育方法学』第2回を読んでおく(2時間) | 保育場面のビデオ記録のまとめ(2時間) | (1)－3 |
| 3 | 様々な保育形態と保育時間について学ぶ。(担当：梅田) | 『教育方法学』第3回を読んでおく(2時間) | 保育形態の復習プリント(2時間) | (1)－3 |
| 4 | 子どもの遊びが充実するための保育環境の工夫について学ぶ。(担当：梅田) | 『教育方法学』第4回を読んでおく(2時間) | ペープサート・パネルシアターの作成(2時間) | (1)－1 (1)－3 |
| 5 | 子どもの発達に応じた教材の選び方、教材作成の方法を理解する。(担当：鄭) | 『教育方法学』第5回を読んでおく(2時間) | ペープサート・パネルシアターの作成(2時間) | (2)－2 |
| 6 | 保育実践を展開していくための保育教材を検討する。(担当：中津) | 『教育方法学』第6回を読んでおく(2時間) | ペープサート・パネルシアターの作成(2時間) | (2)－2 |
| 7 | 保育実践の展開に必要な保育者の援助について学ぶ。(担当：中津) | 『教育方法学』第7回を読んでおく(2時間) | ペープサート・パネルシアターの作成(2時間) | (2)－1 |
| 8 | ペープサートやパネルシアター等の保育教材の使い方、演じ方について学ぶ。(担当：鄭) | 『教育方法学』第8回を読んでおく(2時間) | ペープサート・パネルシアターの練習(2時間) | (2)－1 (2)－2 |
| 9 | 子どもの実態に応じて保育のねらいと内容を考え、指導計画を立案する。(担当：梅田) | 『教育方法学』第9回を読んでおく(2時間) | 指導案の作成(2時間) | (2)－2 |
| 10 | 保育実践の準備及び模擬保育の実践を行なう。(担当：梅田) | 『教育方法学』第10回を読んでおく(2時間) | 模擬保育の練習(2時間) | (1)－3 (2)－1 (2)－2 |
| 11 | 保育実践を行なう。(担当：鄭) | 『教育方法学』第11回を読んでおく(2時間) | 保育の反省・今後の課題の記入(2時間) | (1)－3 (2)－1 (2)－2 |
| 12 | 保育実践の反省と評価を行い、改善点を反映させた指導計画を立案する。(担当：中津) | 『教育方法学』第12回を読んでおく(2時間) | 改善した指導案の作成(2時間) | (1)－3 (2)－1 (2)－2 |
| 13 | ICTを活用した保育教材の作成を行なう。(担当：鄭) | 『教育方法学』第13回を読んでおく(2時間) | ICT教材の作成及び保育の計画(2時間) | (3)－1 |
| 14 | ICTを活用して作成した保育教材を用いて保育実践を行なう。(担当：鄭) | 『教育方法学』第14回を読んでおく(2時間) | ICT教材を使用した保育の再計画(2時間) | (1)－3 (2)－1 (2)－2 (3)－1 |
| 15 | 子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。(担当：中津・梅田・鄭) | 『教育方法学』第15回を読んでおく(2時間) | まとめプリント(2時間) | (1)－4 |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度)30%、指導案・教材作成(思考力・判断力・表現力)30%、定期試験(知識・理解)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 作成した指導案は添削して返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 『教育方法学』山口短期大学 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社 | | | |
| メッセージなど | グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育や附属幼稚園での保育実践を行うとともに、ICTの活用を勧め、学生の主体的な学びを重視します。 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|---------------------------------|------------------------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。 | ほぼ完璧に理解できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 学級、幼児、教員、保育室、教材など保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。 | ほぼ完璧に理解できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | | 10% |
| (1)-4) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 | ほぼ完璧に理解できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | | 10% |
| (2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。 | ほぼ完璧に身につけている | 大きな間違いがなく、基本を身につけている。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 身につけていない。 | 模擬保育の実践 (技能・表現力・判断力) | 15% |
| (2)-2) 子どもの発達に応じて保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。 | ほぼ完璧に作成できる。 | 子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。 | 作成できていない。 | 指導案 (思考力・表現力) | 15% |
| (3)-1) 子どもたちの興味・関心を高めるために ICT を効果的に使用した教材を作成し、その教材を用いて保育を実践する能力を身に付ける。 | 子どもたちの興味・関心を高めるための工夫をした ICT 教材を作成し、それを用いた保育もほぼ完璧に実践できる。 | ほぼ子どもたちの興味・関心にあった ICT 教材が作成でき、基本を踏まえた実践ができる。 | 工夫する力は努力を要すが、最低限の基本を踏まえた実践ができる。 | ICT 教材を作成せず、それを用いた実践ができていない。 | 教材作成 (関心・意欲・態度・技能・表現力) | 30% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|--|--|----------------------------|-----------------------------------|------|
| (4) 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析できていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 10% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない内 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (5) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析できていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 20% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない内 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 20% |
| (6) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを十分に表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することができる。また、それを概ね表現することができる。 | 子どもの言動の背景について理解・分析することが概ねできているが、表現が不十分である。 | 子どもの言動の背景について理解・分析できていない。 | レポート (思考力・判断力・表現力・関心・意欲) | 20% |
| | 課題の全ての項目が適切な内容で詳しく記述されている | 課題の全ての項目が、大きく間違っていない内 | 課題の半数の項目が空欄か不適切な内容 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出 | 授業への取り組み・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|--|--------------------------|--------------------|-----------|
| 情報処理実習 I Information Processing Practice I | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECIE1001 | 1年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 1 | 選択 | 大上 文典 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 今日、日常生活や仕事業務、あらゆる分野において、情報処理は欠かすことは出来ない。 本授業では、前半は、情報処理とは何か・パソコンの起動・ワープロ基本操作等をわかり易く説明し、実践しながらパソコン操作の方法をマスターしてゆく。 後半は、Excel の操作について学習し、目的とする表のレイアウト方法を学び、より良い表のシートを作成してゆく。具体的には表計算、グラフ、図の挿入、報告書等を作成する。 最後に、Excel によるデータ管理、Word へのリンク貼り付けなど総合的な活用をする。 | | | | |
| 到達目標 | (1) パソコンの基本的操作を行うことができる。 (2) レイアウトの良い表や文書を作成することができる。 (3) 表計算・グラフ・図・イラスト等を作成することができる。 (4) Word・Excel を活用して、幼児教育に関する資料を作成することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス：建学の精神、注意事項等、ファイルの配布・整理等 | パソコンの基本操作練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 2 | PCの起動・操作方法 パスワード Wordの基本操作とページ設定 タイピング | タイピング練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 3 | Word 実習 Word による文書作成と文字の加工 | Wordの基本作業練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 4 | Word 実習 Word による文書作成とテーブル(表)の作成 | Wordの基本作業練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 5 | Word 実習 案内文書作成 作図の方法 表・イラスト・図の挿入 | イラスト練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 6 | Word 実習 報告文書作成 表・イラスト・図の活用 | 文書・表作成練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 7 | Word 実習 広告・チラシの作成 | イラスト練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 8 | Excel 実習 基本操作と表の作成、並べ替え、 | Excel 基本作業練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 9 | Excel 実習 表の作成・集計計算・フィルター | Excel 基本作業集計計算練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 10 | Excel 実習 表計算と並べ替え グラフ作成とグラフの変更 | Excel 基本作業グラフの練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 11 | Excel 実習 作図と図・グラフの挿入 | Excel 基本作業図の挿入【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 12 | Excel 実習 表の集計とグラフの応用課題①報告書 | Excel のデータ活用練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 13 | Excel 実習 表の集計とグラフの応用課題② | Excel のデータ管理練習【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| | 14 | Word・Excel 実習 リンク作業と Excel でのデータ管理、データの共有化 | Word と Excel のデータ共有【2時間】 | 課題の確認とファイルの整理【2時間】 | |
| 15 | Word 実習 Excel とのリンクと表現の工夫 ファイル整理と提出 知識試験 | 知識試験の準備【2時間】 | ファイルの整理【2時間】 | | |

| | |
|----------------------------|---|
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み（関心・意欲・態度）：15%、 ・実習課題の提出（知識・技能・理解）：60%、 ・基礎知識試験（情報技術に関する基礎知識）：15%、 ・ファイルの整理（自己評価、実習資料や提出課題の整理）：10% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習の演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。 ・演習内容は幼児教育に関するデータを活用し、幼児教育における課題や問題点などを用いる。保育士としての必要なスキルを身につけさせる。 |
| テキストおよび参考文献 | 実習用資料 情報に関する演習データ（情報処理実習に必要な演習サンプルや加工する自作素材集） 実習課題プリント |
| メッセージなど | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) パソコンの基本的操作を行うことができる。 | ほぼ完璧に操作できる。 | 大きな間違いがなく、基本的な操作ができる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限のパソコン操作ができる。 | パソコンを操作することができない。 | 課題 (技能・知識・関心・意欲・態度) 知識試験 (コンピュータの基礎知識) | 25% |
| (2) レイアウトの良い表や文書を作成することができる。 | ほぼ完璧に文書を作成できる。 | 大きな間違いがなく、表や文書を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限文書や表が作成できる。 | 表や文書を作成することができない。 | | 25% |
| (3) 表計算・グラフ・図等を作成することができる。 | ほぼ完璧に表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 大きな間違いがなく、表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限表計算・グラフ・図等を作成できる。 | 表計算・グラフ・図等を作成することができない。 | | 25% |
| (4) Word・Excel を活用して幼児教育に必要な文書や資料を作成することができる。 | ほぼ完璧にどちらも活用できる。資料が作成できる。 | 大きな間違いがなく、Word や Excel を活用できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限 Word や Excel を活用できる。 | Word や Excel を活用することができない。 | | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|--------------------------------|-------------------------|-----------|
| 情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECIE1002 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 1 | 選択 | 大上 文典 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ |
| 概要 | 情報処理実習Ⅰでも述べたように、情報処理は今日欠かすことは出来ない。 本授業では、前半は、WordやExcelによる図形作成を行う。基本図形作成・書式設定・図形の調整・回転・応用図形作成方法等を学ぶ。 後半は、PowerPointによるプレゼンテーション作成方法を学ぶ。アニメーション・サウンド効果等も学ぶ。最終的にはプレゼン作品を作成し、発表する。 | | | | |
| 到達目標 | (1) WordやExcelで図形を作成することができる。 (2) PowerPointの基本操作をすることができる。 (3) PowerPointを用いてスライドを作成することができる。 (4) PowerPointにより人前でプレゼン発表することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | ガイダンス：授業内容、日程表、諸注意等 実習 Wordの復習とイラスト作成 | WordとExcelの基本練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 2 | Wordによる図形の作成 実習 WordのPOP広告作成 | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 3 | Wordによる図形の作成 実習 ポスターやチラシの作成図(形作成と挿入) | イラスト練習 【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 4 | PowerPointの基本操作 PP実習 スライドの作成 | PowerPoint基本練習 デザイン【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 5 | PowerPointの基本操作 PP実習 デザイン・コンテンツの挿入 | PowerPoint基本練習 挿入図形【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 6 | PowerPointの活用 PP実習 表の挿入、図形作成 | PowerPoint基本練習 表、グラフ【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 7 | PowerPointの活用 PP実習 アニメーションの導入 | PowerPoint基本練習 アニメーション【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 8 | PowerPointの活用 PP実習 アニメーション化・イラスト挿入 | PowerPoint基本練習 アニメーション【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 9 | PowerPointの活用 PP実習 スライドのリンク クイズ作成 | PowerPoint基本練習 リンク作業【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 10 | PowerPointの活用 PP実習 スライドの外部リンク 写真・動画挿入 | PowerPoint基本練習 リンク作業【2時間】 | 課題の確認とファイルの 整理 【2時間】 | |
| | 11 | PowerPointの活用 PP実習 スライドの外部リンク 写真・動画挿入 | スライドの資料準備とデ ータ収集【2時間】 | 発表スライドの作成 【2時間】 | |
| | 12 | PowerPointの活用 PP実習 発表用プレゼンテーションの作成 | スライドの資料準備とデ ータ収集【2時間】 | 発表の練習【2時間】 | |
| | 13 | プレゼン作品発表①ー前半ー | 発表の練習【2時間】 | 発表の反省【2時間】 | |
| | 14 | プレゼン作品発表②ー後半ー | 発表の練習【2時間】 | 発表の反省【2時間】 | |
| 15 | 授業のまとめ 知識試験 ファイルの課題整理・提出 | 知識試験の準備 【2時間】 | ファイルの整理 【2時間】 | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組み（関心・意欲・態度）：15%、 ・実習課題の提出（知識・技能・理解）：50%、 ・プレゼンテーション（表現・発表・意欲）：10%、 ・基礎知識試験（情報技術に関する基礎知識）：15%、 ・ファイルの整理（自己評価、実習資料や提出課題の整理）：10% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習の演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。 ・プレゼンテーションは情報活用能力を身につけ、幼児教育における課題や問題点、表現力を身につけ、保育士として必要なスキルを身につけさせる。 |
| テキストおよび参考文献 | <p>実習用資料 情報に関する演習データ（情報処理実習に必要な演習サンプルや加工する自作素材集） 実習課題プリント</p> |
| メッセージなど | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ループリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--|---------------------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) Word や Excel で図形を作成することができる。 | ほぼ完璧に図形を作成できる。 | 大きな間違いがなく図形を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、図形を作成できる。 | まったく図形を作成できていない。 | 課題作成 (関心・意欲・思考・技能・態度) 知識試験 (コンピュータの基礎知識) | 25% |
| (2) PowerPoint の基本操作をすることができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint の基本操作ができる。 | 大きな間違いがなく PowerPoint を操作できる。 | 間違いはいくつかあるが、PowerPoint を操作できる。 | まったく PowerPoint を操作できていない。 | | 20% |
| (3) PowerPoint を用いてスライドを作成することができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint でスライドが作成できる。 | 大きな間違いがなく PowerPoint でスライドを作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、PowerPoint でスライドを作成できる。 | まったく PowerPoint でスライドを作成できていない。 | | 30% |
| (4) PowerPoint により人前でプレゼン発表することができる。 | ほぼ完璧に PowerPoint でプレゼンテーションをすることができる。 | 人前で自分が作成したプレゼンテーションをすることができる。 | いくつかミスもあったが、自分が作成したプレゼンテーションをすることができる。 | まったく PowerPoint でプレゼンテーションをすることができない。 | 発表演習 (興味・関心・意欲・態度・思考力・判断力・熱意・資料作成) | 25% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|--|-----------------------------------|--------------------|------------|------|-----------|
| 幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECBE1011 | 1年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 中原久子 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | | | |
| <p>○コアカリキュラム：教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 全体目標：学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>(1) 教育課程の意義 一般目標：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法 一般目標：教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 到達目標：1) 教育課程編成の基本原則を理解している。 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 3) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント 一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 到達目標：1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。 乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解している。 1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 | | | | | | (1)-1)、2) |
| 2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 | | | | | | (1)-1)、3) |
| (2) 幼稚園教育における保育の計画と評価の基本を理解し、指導計画作成について理解する。 1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 | | | | | | (2)-2)、3) |
| 3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 | | | | | | (2)-3) |
| 4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| (3) 幼稚園における教育課程と、指導計画のつながりについて理解し、説明できる。 1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 | | | | | | (3)-1)、2) |
| 2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。 | | | | | | (3)-2) |

| 回数 | 幼児教育課程論 授業内容 【中原久子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|---------------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 1 | 幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 2 | 幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 3 | 幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-1)、(1)-2) |
| 4 | 「教育課程」「保育課程」について理解する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-2) (2)-4)、(3)-1) |
| 5 | 「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-2) (2)-4)、(3)-1) |
| 6 | 乳児の特徴と指導計画について学ぶ(0～1・2歳児) | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2)、(2)-3) |
| 7 | 3歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 8 | 3歳時の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 9 | 4歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 10 | 4歳児の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 11 | 5歳児の発達の主な特徴を学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (1)-2) |
| 12 | 5歳児の指導計画を作成する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-3) |
| 13 | 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて理解する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-1)、(2)-4) |
| 14 | 指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (2)-4)、(3)-1) |
| 15 | 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ | 指定された単元について概要を収集しておく (45分程度) | 自分なりのまとめノートを作る(45分程度) | (3)-1)、(3)-2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成(関心・思考力・表現力)30% 定期試験(知識・理解)70% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 提出課題にコメントを添えて返却する | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 参考文献：『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一 編著(萌文書林) | | | |
| メッセージなど | 幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|-----------------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| (1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 | 課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。 | 課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) | 10% |
| (2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 | ほぼ完璧な指導計画を作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 14% |
| (3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。 | ほぼ完璧に指導計画作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|---|--|-------------------|---------------------------|------|-----------|-------|
| 幼児指導法 Infant Teaching Method | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC1010 | 1年次 | 前期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 中津愛子 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | ○ | |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | ○ | |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | |
| (1) 各領域のねらい及び内容 | | | | | | |
| 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 | | | | | | |
| 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している | | | | | | |
| 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 | | | | | | |
| (2) 保育内容の指導方法と保育の構想 | | | | | | |
| 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | |
| 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 | | | | | | |
| 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 | | | | | | |
| 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 | | | | | | |
| 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 | | | | | | |
| 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 幼稚園教育の基本を踏まえた指導の考え方を理解している。 | | | | | | |
| 1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 | | | | | (1)-1) | |
| 2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 | | | | | (1)-2) | |
| 3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。 | | | | | (1)-3) | |
| 4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | | | | | (1)-4) | |
| (2) 幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、発達の過程を見通した指導計画の作成について理解する。 | | | | | (2)-1) | |
| 1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 | | | | | (2)-2) | |
| 3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | | | | | (2)-3) | |
| 4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 | | | | | (2)-4) | |
| (3) 幼児の興味・関心や発達の実情に応じた具体的な指導・援助のあり方を説明できる。 | | | | | (2)-2) | |
| 1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | | | | | | |
| 2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 | | | | | (2)-3) | |
| 3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。 | | | | | (2)-4)、5) | |

| 回数 | 幼児指導法 授業内容 【中津愛子】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|-------------------|----------------------|--------------------------|
| 1 | 幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。 | | 復習プリント(2時間) | (1)－1 (1)－2 |
| 2 | 子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－1 (1)－2 |
| 3 | 子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－1 (1)－3 |
| 4 | 環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－1(1)－2 (3)－1 |
| 5 | 子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－2 (1)－3 |
| 6 | 遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－3 (2)－3 |
| 7 | 幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－3 |
| 8 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－4 |
| 9 | 幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (1)－4 |
| 10 | 保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | (2)－1(2)－2 (2)－3(2)－4 |
| 11 | 長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 指導計画の課題レポート(2時間) | (2)－2 |
| 12 | 指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 模擬保育の教材作成(2時間) | (2)－1 (2)－3 |
| 13 | 模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 模擬保育の練習(2時間) | (3)－1(3)－2 (3)－3 |
| 14 | グループで模擬保育を実践する(ビデオ録画の方法を身につける)。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 模擬保育の実践後の感想レポート(2時間) | (3)－3 |
| 15 | 録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。 | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 模擬保育の指導計画の修正(2時間) | (2)－4 (3)－3 |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度)30%、レポート(思考力・判断力・表現力)30%、定期試験(知識・理解)40% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト:幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 参考文献:文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社 | | | |
| メッセージなど | グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。保育場面の映像を観たり、実際に附属幼稚園で子どもに関わったりしながら、遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 ・幼稚園教諭二種免許状:必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|------------------------------------|------------------------------|----------------------------------|---------------|-------------------------------|------|
| (1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | 環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、工夫もできる。 | 環境構成の基本は身に付け、教材の工夫もできる。 | 工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身に付けた。 | 身につけていない。 | 授業への取り組み・グループ討議への参加（関心・意欲・態度） | 30% |
| (3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。 | 導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。 | 模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。 | 模擬保育を実践していない。 | | |
| (3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 | ほぼ完璧な指導計画を作成できる。 | 大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 作成できていない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 30% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|---|--|-------------------|-------------------|------------------|
| 保育内容総論 Foundations of Contents of Child Care | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCM2011 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 中津 愛子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概 要 | 養護と教育が一体となって展開される保育の基本について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して、具体的な保育のねらいと内容を考えるための基礎的な力を養う。 小グループでのディスカッションを通して指導案作成、環境構成を行う。また、指導計画に基づき、グループで模擬保育を実践し、実践後の評価を行なうことで、計画の改善を図るまでの過程を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。 (2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。 (3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史の変遷について述べることができる。 (4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。 (5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 2 | 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景を学ぶ | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 3 | 子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本を学ぶ | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 4 | 養護と教育が一体となって展開する保育について学ぶ | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 5 | 保育場面の観察を通し、子どもの主体性を尊重する保育の展開を学ぶ | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 6 | 子どもの発達や生活の連続性を踏まえた保育の展開を考え、指導計画を作成する | 保育の計画(2時間) | 指導案の作成(2時間) | |
| | 7 | 養護と教育が一体となった保育を展開するための環境構成、教材作成を行う | 保育の計画(2時間) | 教材作成(2時間) | |
| | 8 | 子どもの自発的な活動を支えるための保育者の援助についてグループで検討する | 保育実践の準備(2時間) | 指導案の作成(2時間) | |
| | 9 | 子どもの活動を予想しながら、遊びを通して総合的に保育する際の留意点を考える | 保育実践の準備(2時間) | 教材作成(2時間) | |
| | 10 | 学生同士で模擬保育を行ない、個と集の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ | 保育実践の準備(2時間) | 実践の振り返りレポート(2時間) | |
| | 11 | 模擬保育を振り返り、グループ内で自己評価を行い、改善点を話しあう | 保育実践の反省(2時間) | 実践の振り返りレポート(2時間) | |
| | 12 | 保育実践を振り返り、改善点をもとに新たな指導計画を作成する | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 修正した指導案の作成(2時間) | |
| | 13 | 保育の多様な展開 ー長時間の保育、病児保育、保護者のニーズに即した保育とはー | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| | 14 | 保育の多様な展開 ー多文化共生の保育・特別な配慮を必要とする子どもの保育ー | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | |
| 15 | 家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育の実践のDVDを視聴し、具体的に学ぶ | 事前配布資料を読んでおく(2時間) | 復習プリント(2時間) | | |

| | |
|----------------------------|--|
| 成績評価 | 定期試験（知識・理解）45%、 模擬保育の実践（技能・表現力・判断力）15%、 指導案（思考力・表現力）20%、 課題レポート（関心・意欲・思考力・表現力）20% |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。 |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：授業の事前配布資料。 参考文献：開仁志 編著「保育指導案 大百科事典」一藝社 森上史朗・大豆生田啓友 編「よくわかる保育原理」ミネルヴァ書房 出雲美枝子著「実習おまかせ Book」ひかりのくに |
| メッセージなど | 指導案の作成、教材作成、保育実践は、少人数グループでの演習としますので、それぞれの学生が積極的にアイデアを出し実践するようにしてください。 保育士証：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|--|--|---------------|---------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史の変遷について述べるができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 15% |
| (4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。 | 環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を十分に生かした模擬保育が実践できる。 | 環境構成、教材準備、保育者の援助の基本をほぼ理解して模擬保育が実践できる。 | 環境構成、教材準備、保育者の援助についていくつか不足するところがあるが、模擬保育が実践は実践した。 | 模擬保育を実践していない。 | 模擬保育の実践 (技能・表現力・判断力) | 15% |
| | | | | | 指導案 (思考力・表現力) | 20% |
| (5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。 | 保育の多様な展開について現状を正しく理解したうえで、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 保育の多様な展開の現状についてほぼ誤りなく認識し、大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。 | 保育の多様な展開についての認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。 | 自分の考えを述べていない。 | 課題レポート (関心・意欲・思考力・表現力) | 20% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|-------------------|--------------------------|------|------------------------|
| 保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health) | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2011 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業 認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 |
| 演習 | 2 | 選択 | 必修 | 手島史子 | 単独 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | |
| 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | |
| (1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 | | | | | |
| (2) 保育内容の指導方法及び保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | |
| 幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。 | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 |
| 一般目標 | 幼稚園教育要領の健康領域を核にして、「子どもたち自らが運動あそびであそび込むことができる力を育てる」ということを実践的に学ぶ。そして、運動あそびを子どもたちが主体的・対話的に取り組むための保育のあり方を実践で可能にする資質・能力を身に付ける。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 「健康領域」を踏まえた保育のあり方を理解している。 1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。 | | | | (1)-1) |
| | 2) 「健康領域」のねらいを理解している。 | | | | (1)-1) |
| | 3) 「健康領域」の内容等を理解している。 | | | | (1)-1) |
| | (2) 「健康領域」のねらいと内容及び幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。 1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。 | | | | (1)-2) |
| | 2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。 | | | | (1)-2)、2)-1) |
| | (3) 幼児期における運動あそびの重要性とその指導のあり方を理解している。 | | | | (1)-3) |
| | 1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。 | | | | (2)-1)、2)、3) |
| | 2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。 | | | | (1)-2) (2)-3)、4)、5) |
| | 3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる | | | | |
| | 4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。 | | | | (2)-1)、2) |
| | (4) 「発達段階」という視点から、発達における「接続」について理解している。 | | | | (1)-2) |
| | 1) 発達段階という言葉の意味を理解している。 | | | | (2)-1)、2) |
| | 2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。 | | | | (1)-3) (2)-1)、2)、3) |
| | 3) 「おにごっこ」あそびの必要性と発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。 | | | | (2)-3)、5) |
| | 4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。 | | | | (1)-4) |

| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容 手島史子 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------|--|------------------------------|---------------------------|--|
| 1 | 幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義 | | 健康領域についてわからない用語を調べる。2時間 | (1) - 1) (2) - 1) |
| 2 | 幼稚園教育要領のねらいについて | 保育指針・幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。2時間 | 保育指針・幼稚園教育要領のねらいをまとめる。2時間 | (1) - 2) |
| 3 | 幼稚園教育要領の内容等について | 指針・要領「健康領域」3歳児未満の内容を読む。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) |
| 4 | 健康領域における幼児期の発達的特徴—保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2)・3) (2) - 1) |
| 5 | 幼児期における運動あそびの重要性—保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 1) |
| 6 | 運動あそびと「具体的な活動を通してわかる」ということ | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 1)・2) (3) - 1)・4) |
| 7 | 保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(1)から(5)をつなげる保育について話し合う | 健康領域の内容(1)～(5)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 8 | 保育場面の映像をもとに、運動あそびと健康領域の内容の(6)から(10)をつなげる保育について話し合う | 健康領域の内容(6)～(10)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 9 | 保育場面の映像をもとに、健康領域の内容(7)の考え方や指導のあり方について理解する | 健康領域の内容(7)を読んでおく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 3) (2) - 1) (3) - 1)・2)・4) |
| 10 | 教師中心の保育と子ども中心の保育について | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2)・3) (2) - 2) (4) - 1) |
| 11 | 保育実践報告にみる子ども中心の保育のあり方—映像による保育実践の分析— | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 2) |
| 12 | 保育実践報告の映像から今日的意義を考える | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 2) (3) - 2) (4) - 1)・2)・3) |
| 13 | 幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について（総論） | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1) |
| 14 | 幼児期の発達段階に応じた幼児の表現の仕方について（運動あそびの面から）ICTを活用した情報収集を行い、パソコンを用いて発表資料を作成し、発表する | 前回までの資料を読んで復習しておく。2時間 | 発表資料を作成する。2時間 | (1) - 2) (2) - 1)・2) (4) - 1) |
| 15 | 対話的保育の今日的意義とその運動あそびへの応用について | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (2) - 2) (3) - 2) |
| 定期試験 | | 実施する | | |
| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容 手島史子 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
| 16 | 子ども中心の保育と対話的保育について | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (1) - 1) (2) - 2) |
| 17 | 運動あそびにおける「対話的保育」の重要性—映像による保育実践の分析— | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 2) |
| 18 | 発達段階に応じた運動あそび（乳児期から幼児期への移行の時期を中心に） | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・2)・4) |
| 19 | 発達段階に応じた運動あそび（2歳児から3歳児への移行の時期を中心に） | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・2)・4) |
| 20 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（2歳児の時期を中心に）を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・2)・4) |
| 回数 | 保育内容の指導法（健康） 授業内容 手島史子 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |

| | | | | |
|----------------------------|---|-------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 21 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(3歳児の時期を中心に)を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 22 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(4歳児の時期を中心に)を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 23 | 保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび(5歳児の時期を中心に)を理解する | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2)・4) |
| 24 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成 「健康」領域における ICT 機器の活用法を学び、保育構想に活かすことのできるアイデアを考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 指導案の修正または作成。2時間 | (3) - 2) (4) - 1)・ 2) |
| 25 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備 | 指導案の作成。2時間 | 指導の修正または作成。2時間 | (2) - 2) (3) - 1)・ 2) |
| 26 | 「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察 ビデオカメラの撮影と録画、タブレットの活用法を学ぶ | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (3) - 3)・4) |
| 27 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方(段階Ⅰの取り組みを中心に)を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 2)・3)・ 4) |
| 28 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方(段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に)を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 2)・3)・ 4) |
| 29 | 保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方(段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に)を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 内容に関する課題レポートをまとめる。2時間 | (4) - 1)・ 3) |
| 30 | 幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える | 前回の配布資料を読んで復習。2時間 | 全範囲の資料を振り返る。2時間 | (4) - 4) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業感想レポート・報告(関心・意欲・態度・理解)20%、レポート(思考力・判断力)30%、定期試験(知識・理解)50% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については翌週に返却し、解説をする。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) ・伊狩芳子『演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 | | | |
| メッセージ | <p>乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|-------------------------------|---------------------------------------|----------------------|-------------|-----------|
| (1)-1) 旧「健康領域」と新「健康領域」の相違を知り、今日的な保育のあり方を理解している。 | 健康領域の新旧の相違がほぼ完璧に理解している。 | 健康領域の新旧の相違が大きな間違いなく理解している。 | 幾つかの間違いはあるが、最低限の基本は理解している。 | 理解できていない。 | 授業感想レポート・報告 | 5% |
| (1)-2) 「健康領域」のねらいおよび内容を理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 10% |
| (2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポートおよび定期試験 | 5% 10% |
| (2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解している。 | 幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解している。 | 基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解している。 | 対話的な保育の意味を自分なりに理解している。 | 理解できていない。 | 授業感想レポート・報告 | 10% |
| (3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を理解している。 | 評価の考え方を自分の言葉で述べられるまで理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。 | レポート | 10% |
| (3)-2) 幼児期の運動あそびの指導のあり方を理解し、指導案を作成することができる。 | 発達に合い、子どもとの対話のある指導案を作成できる。 | 大きな間違いがなく、保育者主導ではない指導案を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って作成できる。 | 作成できていない。 | レポート | 5% |
| (3)-3) 「おにごっこ」あそびの初期段階における実践を模擬保育で実践し、対話的なかわり方が理解ができる。 | 要点をすべて意識した対話的なかわり方が実践できる。 | いくつかの要点を意識した対話的なかわり方が実践できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本に則って実践できる。 | 理解できず、実践に結びつかない。 | 定期試験 | 10% |
| (3)-4) 運動あそびと「健康領域」の10項目の内容の関連性を理解している。 | 運動あそびと健康領域の項目を結びつけてほぼ完璧に説明できる。 | 運動あそびと健康領域の項目を大きな間違いなく説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、運動あそびと健康領域の項目を説明できる。 | 具体的に説明できていない。 | 定期試験 | 10% |
| (4)-1) 発達段階という言葉の意味を理解している。 | 発達段階を具体的な内容で正しく説明できる。 | 大きな間違いがなく、具体的な内容で説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解している。 | 理解できていない。 | 定期試験 | 10% |
| (4)-2) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を理解する。 | 自分の問いを出し、他者と検討し、発表できる。 | 他者と問いを出し合い、検討し、発表できる。 | 他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。 | 他者との意見交換・検討ができない。 | 授業感想レポート・報告 | 5% |
| (4)-3) 「おにごっこ」あそびの必要性と発達段階に応じた指導のあり方を理解し、指導案を作成する。 | おにごっこの遊びの必要性についてほぼ完璧に説明でき、指導法について説明できる。 | 発達段階を自分なりに理解し、そのことを言葉で説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、指導方法について自分なり具体例を挙げて説明できる。 | 理解できていない。具体例が挙げられない。 | 定期試験 | 5% |
| (4)-4) 「接続」という観点から、幼稚園教育と小学校教育の相違に関して理解している。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。 | 理解できていない。説明できない。 | 定期試験 | 5% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|---------------------------|------------|------------------------|-------|
| 保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations) | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2012 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 必修 | 木村一恵 | 単独 | ○ |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| <p>全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>（１）各領域のねらい及び内容</p> <p>一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している ３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>（２）保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>保育園の保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。</p> <p>人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | 目標対応 | |
| （１）「生きる力」の原点としての人間関係には、乳幼児期からのかかわりが重要であることを理解している。 1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 | | | | | (1)-1 (2)-1 | |
| 2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 | | | | | (1)-1 | |
| （２）集団生活の中での発達の過程を見通した指導について理解する。 1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳児期からのかかわりの重要性を理解する。 | | | | | (2)-1 | |
| 2) 幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 | | | | | (1)-2)、3) (2)-2)、3) | |
| 3) 乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。 | | | | | (2)-4)、5) | |
| （３）人間関係は子ども同士の関係だけでなく、大人との関係、大人同士の関係が大きく影響することを理解する。 1) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。 | | | | | (1)-1)、4) (2)-1) | |

| 回数 | 保育内容の指導法（人間関係） 授業内容 【木村一恵】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|--|--|-------------------------------|
| 1 | 「生きる力」の原点としての人間関係を理解する。 | 「人間関係」に関して自分の考えをまとめておく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (3) 1) |
| 2 | 乳児期からの子どもと現代の親のおかれている状況を理解する。 | 現代の子どものおかれている状況を調べておく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (1) 1) |
| 3 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における人間関係領域のねらいを学ぶ。 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んでおく。2時間 | 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の人間関係領域のとらえ方の違いについてまとめる。2時間 | (1) 2) |
| 4 | 0歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学ぶ。 | テキストP. 26～27を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 1) |
| 5 | 1, 2歳児の集団生活の中での姿を実践記録を通して学び、人間関係の基礎が乳幼児期にあることを理解する。 | テキストP. 32～33, 38～39を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 1) 3) |
| 6 | 保育場面の映像を活用し3歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、集団づくりの考え方を学ぶ。「人間関係」の領域でのICTの活用法を学び、保育構想に活用する方法を考える。 | 配布資料3歳児の姿を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 2) |
| 7 | 3歳児の集団づくりを考える上で、どのような活動が適切かを理解し、個と集団に応じた援助についてロールプレイを行なう。 | テキストP. 40～43を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 2) 3) |
| 8 | 保育場面の映像を活用して4歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、具体的な集団づくりの過程について学ぶ。 | テキストP. 44～48を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 2) |
| 9 | 4歳児の集団づくりを発展させていく遊びの展開を考えて指導計画を立案し、教師の援助について具体的に考える。 | 配布資料を基に4歳児の遊びについてまとめる。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 2) 3) |
| 10 | 保育場面の映像を活用して5歳児の幼稚園生活の中での姿を知り、4歳児との違いを理解する。子ども同士のトラブル場面の事例をもとに、子ども同士が解決していく過程をどう援助するかを話し合う。 | 配布資料を読み、4歳児と5歳児の大きな違いについてまとめておく。2時間 | 自分の体験した実習の中で子どもと保育者、親、保護者、子ども同士の関係で気になったこと、感激したこと等をこれまでの学びと関連させて自分の考えをまとめる。2時間 | (2) 2) |
| 11 | 保育場面の映像を活用して5歳児の集団づくり、リーダーについて子どもたちの姿を理解する。 | テキストP. 48～52を読んでおく。1時間 | 10での準備学習をまとめて書く。1時間 | (2) 2) 3) |
| 12 | 幼稚園生活の中で人とかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。 | テキストP. 60～65を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (2) 1) 2) (3) 1) |
| 13 | 保護者と保育者の望ましい関係はどういうものか事例を通し、理解する。 | テキストP. 54～55を読んでおく。1時間 | 保護者と保育者の関係について出されている書籍から1例を選び、自分の考えをまとめる。2時間 | (3) 1) |
| 14 | 保育者間の子どもの見方、保育観が子どもの人間関係を育むためには重要なことを理解する。 | テキストP. 68～70を読んでおく。1時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (3) 1) |
| 15 | 情報機器を活用し、さまざまな社会状況や家庭環境の中で過ごす子どもたちの実態を知り、子どもたちがすこやかに人とかかわりもって育つために必要なことを理解する。 | 子どものおかれている状況をこれまでの授業を振り返りながら理解し、自分の考えを発表できるようにまとめておく。2時間 | 授業振り返りシートを基に内容をまとめる。1時間 | (1) 1) (2) 1) 2) (3) 1) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度）30%、レポート（思考力・判断力・表現力）20%、定期試験（知識・理解）50% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業振り返りシートにコメントを書き、返却する。レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 『保育内容の指導法（人間関係）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） | | | |
| メッセージ | 人として生きていく上で欠かすことのできない人とかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------|--------------------|-----------------------|----------|--|----------------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) 課題レポート(思考力・判断力・表現力) | 5% 20% |
| (1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2)-2) 幼稚園における集団づくりの考え方の基本や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (2)-3) 乳幼児期に適切な集団遊びについて具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 授業への取り組み(関心・意欲・態度) | 20% |
| (3)-1) 子どもの発達にとってどのような環境や人のかかわりが重要なのか具体的に説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる | 大きな間違いがなく、基本は説明できる | 間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる | 説明できていない | 定期試験 (知識・理解) 授業への取り組み(関心・意欲・態度) | 10% 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|---------------------------|------------|------|-----------|
| 保育内容の指導法(環境) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment) | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2013 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 必修 | 安藤稔朗 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| (1) 領域「環境」のねらいや内容を踏まえた指導の考え方を理解している。 1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。 | | | | | | (1)-2) |
| 3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。 | | | | | | (1)-3) |
| 4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 | | | | | | (1)-4) |
| (2) 調和のとれた組織的、発展的な指導計画の作成について理解する。 | | | | | | |
| 1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-1)、5) |
| 2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。 | | | | | | (2)-5) |
| 3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| (3) 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、幼児の興味・関心や発達の実情に応じた適切な指導・援助のあり方を説明できる。 | | | | | | (2)-4) |
| 1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | | | | | | |
| 2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 子どもが環境とかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探究へと導く力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4) |
| 4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4) |
| 5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。 | | | | | | (2)-4)、5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（環境） 授業内容 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|------------------------------|-----------------------------|----------------------|
| 1 | 環境を通して行う保育の基本を理解する。 | テキスト1～7ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、(1)－2) |
| 2 | 子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、(1)－2)、(3)－4) |
| 3 | 子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－1)、(1)－2)、(1)－4) |
| 4 | 環境を構成する人や身近な動植物とのかかわりについて保育場面の映像から具体的に理解する。 身近な生き物をビデオカメラで撮影し、体のしくみや動き、成長過程をタブレットで見せる等、保育場面での ICT の活用を考える。 | テキスト8～22ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－3)、(3)－4) |
| 5 | 環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－ | テキスト23ページと資料プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－3) |
| 6 | 環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－ | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－3)、(3)－5) |
| 7 | 数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。 | テキスト26～34ページを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－3) |
| 8 | 地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心が高まるよう情報機器を活用した映像資料を作成する。 | テキスト24～26ページとプリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－4) |
| 9 | 環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (2)－1)、(2)－2)、(2)－3) |
| 10 | 短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (2)－2)、(2)－3) |
| 11 | 指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。 | テキスト35ページとプリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－5) |
| 12 | 幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－1)、(3)－4)、(3)－5) |
| 13 | 幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるよう ICT を活用して教材を作成する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－2)、(3)－5) |
| 14 | 環境とのかかわりを促すアイデアを保育活動に活かした指導案を作成する。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (3)－1)、(3)－2)、(3)－5) |
| 15 | 身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。 | 授業用プリントを読んでおく。2時間。 | 授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。2時間。 | (1)－3) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・作品の製作（関心・意欲・態度）20%、レポート（思考力・判断力・表現力）20%、定期試験（知識・理解）60% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 安藤稔朗 『保育内容の指導法（環境）』 山口短期大学 参考文献： 酒井幸子・守 功 『保育内容 環境』 萌文書林 | | | |
| メッセージ | 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|-------------------------------|----------------------------|-------------------------------------|-----------|------------------------------|------|
| (1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 10% |
| (1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 10% |
| (2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | | 5% |
| (2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。 | 指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 指導計画作成の基に身に付けている。 | 誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。 | 身に付けていない。 | 授業への取り組み・作品の製作 (関心・意欲・態度) | 10% |
| (3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 | 環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。 | 環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。 | 環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 5% |
| (3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。 | 探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。 | 適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 5% |
| (3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。 | 個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。 | 多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。 | 身に付けていない。 | レポート(思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。 | 保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。 | 大きな間違いがなく、デザインする力を身に付けている。 | 環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。 | 身に付けていない。 | | 10% |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|------|---------------------------|------------|------|---------------|
| 保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language) | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2014 | 2年次 | 通年 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 必修 | 中司志磨子 | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| ○コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | | | | |
| 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | |
| （１）各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している ３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 | | | | | | |
| （２）保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 ２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 ３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| 幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に付ける。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標】 | | | | | | 目標対応 |
| （１）幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いをふまえた指導の考え方を理解している。 | | | | | | |
| １）領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のあり方、評価を説明できる。 | | | | | | (1)-1)、3) |
| ２）幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる | | | | | | (1)-2) |
| ３）領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 | | | | | | (1)-4) |
| （２）言葉の重要性を理解し、幼児の言葉の獲得に資する環境設定や情報機器・児童文化財の活用について理解している。 | | | | | | |
| １）言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| ２）言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 | | | | | | (2)-1)、2) |
| ３）言葉を育てる児童文化財について理解し、それらを利用できる。 | | | | | | (2)-2) |
| （３）実社会の現実をふまえて保護者や学校・地域社会との連携を深めるための諸方策を理解している。 | | | | | | |
| １）実社会における言葉に関する課題について説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| ２）領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 | | | | | | (1)-4)、(2)-3) |
| ３）地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。 | | | | | | (2)-3) |
| （４）グローバル化時代における言葉の育ちに関わる諸問題を理解し、指導・援助のあり方を説明できる。 | | | | | | |
| １）言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。 | | | | | | (2)-3)、4)、5) |
| ２）母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説明できる。 | | | | | | (2)-3)、4)、5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【前期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------|---|--------------------------------------|--|-------------------------|
| 1 | 領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて理解する。 | テキスト p 1～7を読み、p 1の①②についてまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、①②の加除訂正をする。1時間 | (1) - 1) |
| 2 | 幼稚園教諭・保育教諭の役割についてグループで話し合い発表する。 | テキスト p 8～9を読み、p 8に考えをまとめる。1時間 | 授業メモをもとに、p 8をまとめ直す。1時間 | (1) - 1) (3) - 3) |
| 3 | 幼児をとりまく家庭や社会の言葉に関わる現状を映像資料をもとに理解し、子どもの言語環境に関わる課題をグループ討議し発表する。 | 教科書 p 1を読み、テキスト p 10にまとめる。2時間 | グループの発表をふまえ、p 10をまとめ直す。1時間 | (3) - 1) (3) - 3) |
| 4 | 言葉を獲得することの意義についてグループで話し合い、ICTを活用して発表する。言葉を豊かにする絵本・紙芝居等を保育場面でどういかすかを考える。 | 教科書 p 2～3を読み、テキスト p 11にまとめる。1時間 | 授業メモをもとに、p 11をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 5 | 保育場面の映像をもとに言葉が社会的獲得物であることを理解し、幼稚園教諭・保育教諭の役割について改めて考えを深める。 | 教科書 p 3～4を読み、テキスト p 12にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 12をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 6 | 言葉の機能について学び、幼稚園教諭・保育教諭のあるべき対応を、映像資料をもとに考え、適切な言葉がけについて発表する。 | 教科書 p 4～7を読み、テキスト p 13～15にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 13～15をまとめ直す。2時間 | (2) - 1) |
| 7 | 保育場面の映像から「言葉により自我が形成される」ことを理解し、幼児教育に携わる者としての向上心を育む。 | 教科書 p 7～8を読み、テキスト p 15にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 15をまとめ直す。1時間 | (2) - 1) |
| 8 | 誕生とともに言葉獲得のコミュニケーションが始まっていることを映像資料をもとに理解し、この時期の養育のありかたをグループで話し合い ICT を活用して発表する。 | 教科書 p 9～10を読み、テキスト p 17～18にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p 17～18をまとめ直す。1時間 | (1) - 2) (2) - 1) 2) |
| 9 | 育児語の特徴について理解し、発声法を練習する。 | 教科書 p 10～12を読み、テキスト p 18～19にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 18～19をまとめ直す。発声練習をくり返す。2時間 | (1) - 2) (2) - 2) |
| 10 | 領域「言語」から「言葉」への変遷要因を学び、基本的な関わり方を理解する。 | 教科書 p 12～14を読み、テキスト p 20にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 20をまとめ直す。1時間 | (1) - 1) |
| 11 | 保育場面の映像を活用し保育の現場で子どもへの対応に悩む諸問題を出し合い、その対応をグループで話し合い ICT を活用し発表する。 | 教科書 p 14～16を読み、テキスト p 21～23にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p 21～23をまとめ直す。2時間 | (2) - 2) |
| 12 | 言葉を育てるシステムの現状について、グループで話し合い ICT を活用して発表する。 | 教科書 p 17～21を読み、テキスト p 23～24にまとめる。2時間 | グループ発表をふまえ、p 23～24をまとめ直す。2時間 | (3) - 1) - 2) - 3) |
| 13 | 領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。 | 教科書 p 24～33を読み、テキスト p 25～29にまとめる。4時間 | 授業メモをもとに、p 25～29をまとめ直す。3時間 | (1) - 3) |
| 14 | 総合的な活動での領域「言葉」の役割、必要な視点を理解する。 | 教科書 p 34～36を読み、テキスト p 29～31にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、テキスト p 29～31をまとめ直す。1時間 | (1) - 3) |
| 15 | 領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解し、幼児教育のありかたをグループで話し合い、ICTを活用して発表する。 | 教科書 p 36～43を読み、テキスト p 32～34にまとめる。3時間 | 授業メモとグループ発表をふまえ、テキスト p 32～34をまとめ直す。2時間 | (3) - 2) |
| 定期試験 | | 実施する | | |
| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【後期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
| 16 | 乳児と養育者の共鳴関係に映像資料を活用して理解し、愛着の形成を基盤とする前言語期のコミュニケーションの重要性を学ぶ。 | 教科書 p 48～51を読み、テキスト 1～2に記述する。2時間 | 授業メモをもとに、p 1～2をまとめ直す。2時間 | (1) - 2) |
| 17 | 三項関係について理解し、乳児期の子どもとのコミュニケーションのありかたを発表する。 | 教科書 p 51～54を読み、テキスト p 3にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p 3をまとめ直す。2時間 | (1) - 2) |
| 18 | 保育場面のビデオ映像をもとに幼児の言葉の発達段階を理解し、各段階における言葉による伝え合いをどう援助するかを話し合う。 | 教科書 p 54～61を読み、テキスト p 4の表にまとめる。4時間 | 授業メモをもとに、p 4をまとめ直す。2時間 | (1) - 2) |

| 回数 | 保育内容の指導法（言葉） 授業内容 【後期】 【中司志磨子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|---|---|-------------------------------|------------------------|
| 19 | 幼児語・幼児音の特徴を理解し、対応のありかたを発表する。 | 教科書 p60～61 を読み、テキスト p4 にまとめる。1時間 | 授業メモをもとに、p4 をまとめ直す。1時間 | (1) - (2) |
| 20 | 保育場面のビデオ映像をもとに文字への関心を高め、文字で伝える楽しさをどのように経験するかを話し合う。 | 教科書 p62～66 を読み、テキスト p5～7 にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p5～7 をまとめ直す。1時間 | (1) - (2) (2) - (2) |
| 21 | 幼児の言葉かけの基本について理解し、想定場面での言葉かけを実演する。 | 教科書 p70～76 を読み、テキスト p8 にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p8 をまとめ直す。1時間 | (1) - (2) |
| 22 | 幼稚園教諭・保育教諭の陥りがちな言葉かけについて事例をもとに考え、子どもの心を支える言葉掛けの実践の模擬保育を行なう。 | 教科書 p76～82 を読み、テキスト p9～10 にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p9～10 をまとめ直す。1時間 | (1) - (2) |
| 23 | 子どもの言葉を豊かにするために絵本や紙芝居をもとにしたお話の映像等を視聴し、ICT 機器を活用した保育構想のアイデアを考える。 | 教科書 p82～88 を読み、テキスト p11 にまとめる。1時間 | 授業メモをもとに、p11 をまとめ直す。 | (1) - (2) (2) - (2) |
| 24 | 言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びの実践を行う。 絵本を使つての「しりとり遊び」の指導計画を作成し、模擬保育を行なう | 教科書 p83 を読み、前時紹介した絵本を参考に、テキスト p12 にしりとり遊びの指導計画を作る。2時間 | 仲間の発表をふまえ、p12 を作り直す。1時間 | (1) - (2) (2) - (3) |
| 25 | 言葉を育てる様々な児童文化財の特徴を理解する。 パネルシアターやペープサートを製作し、保育場面での活かし方を考える | 教科書 p94～101 を読み、テキスト p13、14、16 にまとめる。「ちいさなくも」を参考に、ペープサート作成の構想を練っておく。3時間 | 授業メモをもとに p13、14、16 をまとめ直す。2時間 | (2) - (3) |
| 26 | 保育場面のビデオ映像をもとに絵本について発達段階ごとの幼児の認識の仕方を理解し、絵本からの発展遊びを計画し、模擬保育を行なう（ビデオ録画）。 | 教科書 p95～96 を読み、テキスト p15 をまとめる。前時紹介した絵本の発展遊びを考えておく。2時間 | 授業メモをもとに、p15 をまとめ直す。1時間 | (2) - (3) |
| 27 | 科学絵本「たんぼぼ」を読み、豊かな言葉と感性を育む絵本の役割を理解し、自分の体験事例をもとにデジタル絵本のアイデアを出す。 | 教科書 p105～107 を読み、テキスト p18 の①に概略をまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p18～19 をまとめ直す。2時間 | (2) - (3) |
| 28 | 地域文化の大切さを理解し、地域で仲間と遊ぶなかで培われる力について話し合い、ICT を活用して発表する。 | 教科書 p107～114 を読み、テキスト p20～23 にまとめる。3時間 | 授業メモをもとに、p20～23 をまとめ直す。2時間 | (3) - (1) - (3) |
| 29 | ICT を活用して言葉に関わる障害の諸相を理解し、実習での体験もふまえ適切な指導・対応のありかたを話し合う。 | 教科書 p118～123 を読み、テキスト p26～27 にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p26～27 をまとめ直す。2時間 | (4) - (1) |
| 30 | ICT を活用して母国語が日本語でない幼児や保護者の心情や実態を理解し、適切な指導対応を話し合う。 | 教科書 p123～129 を読み、テキスト p30～31 にまとめる。2時間 | 授業メモをもとに、p30～31 をまとめ直す。2時間 | (4) - (2) |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・グループでの話し合いへの参加（関心・意欲・態度）30% レポート（思考力・判断力・表現力）30%、定期試験（知識・理解）40% | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：『保育内容「言葉」』 小田 豊・芦田 宏 編著 北大路書房 『保育内容の指導法（言葉）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） | | | |
| メッセージ | 幼児の言葉獲得過程と養育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験から共に考えていきましょう。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|---|----------------------|---------------------|---------------------------|-----------------|---------------------------------|------|
| (1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (1)-2) 幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなくできる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 15% |
| (1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなくできる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | できない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。 | ほぼ完璧に理解し、利用できる。 | 理解に偏りがあるが、利用できる。 | 理解への偏りが大きい、何とか利用できる。 | 理解できず、利用できない。 | 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 30% |
| (3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。 | ほぼ完璧に広く、深く捉えている。 | 課題の捉え方が、やや限定的である。 | 課題の捉え方が限定的である。 | 理解できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 15% |
| (3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 5% |
| (3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげ、説明できる。 | 多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。 | いくつかの事例をあげ、説明できる。 | 事例が限定的であるが、何とか説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (4)-1) 言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。 | ほぼ完璧に理解し、説明できる。 | 大きな間違いがなく理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 理解できず、説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |
| (4)-2) 母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説明できる。 | ほぼ完璧に理解し、説明できる。 | 大きな間違いがなく理解し、説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 理解できず、説明できていない。 | 授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度) | 5% |

| 授業科目名 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | |
|---|--|-------------------|---------------------------|----------------------|------|-----------|
| 保育内容の指導法(表現Ⅰ(音楽・造形)) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I) | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECCC2015 | 2年次 | 前期 | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 必修 | 田中奏子(音楽) 縄田也千(造形) | 単独 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | | | 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) | | | |
| <p>○コアカリキュラム：保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 各領域のねらい及び内容 一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 到達目標：1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想 一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 到達目標：1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要【音楽】】 | | | | | | |
| 豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。 | | | | | | |
| 【一般目標及び到達目標【音楽】】 | | | | | 目標対応 | |
| (1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 | | | | | | (1)-1) |
| 2) 表現を生成する過程について理解している。 | | | | | | (1)-2)、4) |
| 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め。共感することができる。 | | | | | | (1)-3) |
| (2) 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 | | | | | | (2)-1) |
| 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 | | | | | | (2)-2) |
| 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 | | | | | | (2)-3) |
| 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | | | | | | (2)-4) |
| 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 | | | | | | (2)-5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【音楽】 【田中奏子】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|------|--|---------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 1 | 幼児と表現、音楽表現について理解する （オリエンテーション） | テキスト3ページ、4ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、3) |
| 2 | 音楽を中心とした音楽劇についてDVDを視聴して具体的に理解する | テキスト5ページから7ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2)、3) |
| 3 | 「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ 「表現遊び」におけるICTの活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える | テキスト8ページ、9ページ、14ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、 (2)-1)、-2) |
| 4 | 「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ 自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する | テキスト15ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2) |
| 5 | 「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICTを用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する | テキスト16ページ、23ページ、24ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-2)、 (2)-2)、4)、5) |
| 6 | 「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ | テキスト10ページ、11ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、2)、 (2)-2)、3) |
| 7 | 「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ | テキスト12ページ13ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-1)、2)、4) |
| 8 | グループ練習。 絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。 | テキスト17ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、5) |
| 9 | グループで創作活動について指導計画を立案する。 | テキスト18ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、 4)、5) |
| 10 | グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。 | テキスト19ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、 5) |
| 11 | 中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。 | テキスト20ページ、21ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-3)、 (2)-3)、4) |
| 12 | グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認 | テキスト22ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (2)-2)、3)、4)、 5) |
| 13 | 模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動 | テキスト25ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-3)、 (2)-1)、4)、5) |
| 14 | 模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動 | テキスト26ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-2)、3)、 (2)-4)、5) |
| 15 | 模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。 | テキスト29ページ、30ページを読んでおく・2時間 | 授業を振り返りテキストを見て復習する・2時間 | (1)-1)、(2)-5) |
| 定期試験 | | 実施しない | | |

| 全体目標及び概要【造形】 | |
|---|--------|
| 保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。 | |
| 【一般目標及び到達目標【造形】】 | 目標対応 |
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。 | (1)-1) |
| 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 | (1)-1) |
| 2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 | (1)-2) |
| 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | (1)-3) |
| 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。 | (1)-4) |
| (2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。 | (2)-1) |
| 1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 | (2)-1) |
| 2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 | (2)-2) |
| 3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 | (2)-3) |
| 4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 | (2)-4) |
| 5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。 | (2)-5) |

| 回数 | 保育内容の指導法（表現Ⅰ） 授業内容【造形】 【縄田也千】 | 準備学習 （予習内容・時間） | 準備学習 （復習内容・時間） | 到達目標の番号 |
|----------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 16 | 表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する | 授業前に配ったプリントを読んでおく・2時間 | 「表現とは何か」について理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (1)－1) －2) |
| 17 | 表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する | 前時に配った「表現と表出」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 「表現」と「表出」について理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－1) |
| 18 | 表現活動の3系論、拇指対向性、円の終結を理解する | 前時に配った「3系論」のプリントを読んでおく・2時間 | 「3系論」を理解したかどうかを考察し感想を書く・2時間 | (1)－1) (2)－1) |
| 19 | 0歳～6歳までの幼児画を観察し各年齢の特徴を理解する | 前時に配った6歳までの幼児画のプリントを読んでおく・2時間 | 6歳までの幼児画を理解したかどうか考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－1) |
| 20 | 絵の具、パス、竹ペン、筆等の主な用具の特徴を理解する タブレットを用いて絵の具の使い方を撮影した教材を作成する | 前時に配った「描画用具」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く・2時間 | (2)－2) －5) |
| 21 | 保育場面の映像を通して絵遊び（線遊び、記号遊び、みたて遊び）の指導法を学ぶ | 前時に配った「絵遊び」のプリントを読んでおく・2時間 | 「絵遊び」の内容を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 22 | 幼児のハサミとノリの使い方について保育場面の映像を通して子どもの姿を学び、具体的な指導法を学ぶ（切り止めなど） | 前時に配った「ハサミとノリ」についてのプリントを読んでおく・2時間 | 「ハサミとノリ」について理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2) －5) |
| 23 | 紙の種類について学び、季節に合わせた美しい折り紙、切り紙、壁面構成が出来るようになる。 | 前時に配った「紙について」のプリントを読んでおく・2時間 | 習得した技法を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 24 | 季節に合った造形遊びの方法を学ぶ（色水遊び等） | 前時に配った「造形遊び」のプリントを読んでおく・2時間 | 「造形遊び」を理解し実践できるか考察し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 25 | モダンテクニック① ドリッピング、カラーージュなどの美術史的由来を、ICT機器を活用して理解する。 | 前時に配った「モダンテクニック①」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック①」を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 26 | モダンテクニック② 染め紙、マーブリング、洗い絵、フロッタージュのテクニックを学び、幼児造形に活用できるよう教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する | 前時に配った「モダンテクニック②」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック②」を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 27 | モダンテクニック③ デカルコマニー、パチック、スクラッチ、ステンシル他のテクニックを学び、幼児造形に活用できるよう教材を工夫し、手順を示したタブレット教材を作成したうえで指導案を作成する。 | 前時に配った「モダンテクニック③」のプリントを読んでおく・2時間 | 「モダンテクニック③」を理解し活用できるかどうか復習し感想を書く・2時間 | (1)－2) (2)－2)－5) |
| 28 | 小学校図画工作の教科書を見て関連性を学び、評価の方法を学ぶ（否定しない、良さを褒める、保育者の好みに合わせない、など） | 前時に配った小学校教科書に関するプリントを読んでおく・2時間 | 小学校図工との関連性を理解できたか考察し感想を書く・2時間 | (2)－2) －3) －4) |
| 29 | 授業から好きな題材を選ぶ。技能優先ではなく、「子どもの心」を育てる「指導案」を立案できる | 前時に配った指導案の例を読んでおく・2時間 | 指導案の立案ができたか考察し感想を書く・2時間 | (2)－3) |
| 30 | 指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法、評価方法を身に付け、更なる向上に取り組むことができる | 模擬保育が出来るよう3グループで準備する・2時間 | 模擬保育を振り返り感想、反省を書く・2時間 | (2)－4)－5) |
| 定期試験 | 実施しない | | | |
| 成績評価方法 | 音楽：毎回の学習状況（関心・意欲・態度）50%、発表点（表現力）25% レポート（理解力・判断力）25% 造形：毎回の学習状況（意欲・感心・態度）30% 作品提出（完成度・技能・発想力）50%、レポート（理解度、思考力）20% 音楽と造形、それぞれ100点満点で評価し、2つの平均値を評価点とする。 | | | |
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 音楽：テキストのフィードバックページに毎回コメントを記入し復習する。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼児連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸社 『うたっておどっのおもちゃ箱2』鈴木 恵津子 教育芸芸社 『保育内容の指導法（表現Ⅰ（造形））』山口短期大学 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院 | | | |
| メッセージなど | （音楽）この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。（造形）子どもの絵は、頭から手足が出ていて不思議です。でも意味があるのです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 ・保育士証：必修科目 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|--|---|--|--------------------------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。 | 説明できていない。 | 授業への取り組み（関心・意欲・態度） グループ活動 | 5% |
| (1)-2) 表現を生成する過程について理解している。 | ほぼ完璧に理解している。 | 大きな間違いがなく、基本を理解している。 | 間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。 | 理解していない。 | | 5% |
| (1)-3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 | 表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。 | 表現の基本を受け止め、共感することができる。 | 表現を受け止め、共感することが最低限できる。 | 表現を受け止めることができない。 | | 10% |
| (2)-1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。 | 様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。 | 授業への取り組み グループ活動 課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 10% |
| (2)-2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 | ほぼ完璧に表現できる。 | 大きな間違いがなく、基本を表現できる。 | 基礎を表現できるが努力を要す。 | 表現できない。 | | 15% |
| (2)-3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 | ほぼ完璧に分析することができる。 | 大きな間違いがなく、基本を分析できる。 | 分析することは最低限できるが、努力を要す。 | 分析できない。 | | 15% |
| (2)-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。 | 他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。 | | 20% |
| (2)-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、表現活動に展開させることができる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。 | 大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。 | 知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。 | | 20% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|--|---|---|---|--|---|------|
| (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート(理解力、思考力) | 5% |
| 2) 領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート(理解力、思考力) | 5% |
| 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート(解力、思考力) | 5% |
| 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教科書とのつながりを理解している。 | ほぼ完璧に理解し説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。 | 理解していない。説明できない。 | レポート(解力、思考力) | 5% |
| (2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、その上で子どもの絵の特徴を完璧に説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きく理解し、その上で子どもの絵の特徴を説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、その上で子どもの絵の特徴をある程度説明できる。 | 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解できない。子どもの絵の特徴を説明できない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児造形に関する意欲、関心、態度 (30%) ・用具、材料の理解。モダンテクニック等を使いこなし、子どもの発達や立場に立った試作品への取り組み (完成度、技能、発想力) ・材料の特質を生かした指導案作成、模擬授業 (50%) | 80% |
| 2) 領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 | ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。 | 間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。 | 理解していない。活用できない。 | | |
| 3) 指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 | ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。 | 理解していない。指導案を作成できない。 | | |
| 4) 模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 | ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。 | 計画を練ることができない。 | | |
| 5) 領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。 | ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。 | 大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている。 | 間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。 | 知識、技能、指導法を身に付けていない。 | | |

| 授業科目名 | | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|---|--|---|--------------------|-----------------------|------|-------|
| 幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling | | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECUI2011 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 教員免許状取得 必修/選択必修 | 担当教員 | 担当形態 | 実務家教員 |
| 講義 | 2 | 選択 | 必修 | 佐藤嘉倫 福屋いずみ 鄭 曉琳 | 分担 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | |
| 1 | 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技術を身につけている。 | | | | | ○ |
| 2 | 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有している。 | | | | | ○ |
| 3 | 子どもに関わるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | ○ |
| 4 | 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけている。 | | | | | ○ |
| 科目 | | 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | | | |
| <p>コアカリキュラム：幼児理解の理論及び方法 全体目標：幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。</p> <p>（1）幼児理解の意義と原理 一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：1）幼児理解の意義を理解している。 2）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>（2）幼児理解の方法 一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：1）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p> <p>コアカリキュラム：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 全体目標：教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付ける。</p> <p>（1）教育相談の意義と理論 一般目標：学校における教育相談の意義と理論を理解する。 到達目標：1）学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。</p> <p>（2）教育相談の方法 一般目標：教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む）を理解する。 到達目標：1）幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2）学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3）受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> <p>（3）教育相談の展開 一般目標：教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 到達目標：1）職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2）いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3）教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4）地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p> | | | | | | |
| 【全体目標及び概要】 | | | | | | |
| <p>幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。</p> | | | | | | |

| 【一般目標及び到達目標】 | | 目標対応 | | |
|--|--|--------------------|-------------------|---------------------|
| | | 幼児理解 | 教育相談 | |
| (1) 幼児理解についての基本的な知識を身につける。 1) 幼児理解の意味と意義を理解する | | (1)-1 | | |
| 2) 幼児の発達や学びについて知る | | (1)-2 | | |
| 3) 幼稚園における教師の基本的な態度を理解する | | (1)-3 | | |
| (2) 幼児の理解、保護者を含めた関係者の理解。 1) 行動観察、記録の付け方の基本を身につける | | (2)-1,2 | | |
| 2) 幼児の発達のみならずの背景について学ぶ | | (2)-3 | | |
| 3) 保護者の心理、基本的な対応方法について学ぶ | | (2)-4 | | |
| (3) 幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ 1) 幼児を対象とした教育相談の基礎を理解する | | | (1)-1,2 | |
| 2) 発達の状態に応じた支援方法を身につける | | | (2)-1,2,3 | |
| 3) カウンセラーなどとの協働について学ぶ | | | (3)-1,2,3,4 | |
| 回数 | 幼児理解と教育相談 授業内容 【佐藤嘉倫 福屋いずみ 鄭 曉琳】 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | 到達目標の 番号 |
| 1 | 幼児理解とは何か概要を知る 佐藤・福屋・鄭 | — | 幼児理解の概要をまとめる。2時間 | (1)-1 |
| 2 | 幼児理解の必要性・意義について学ぶ 鄭 | テキストの第1講を読む。2時間 | もう一度第1講を読む。2時間 | (1)-1 (1)-2 |
| 3 | 幼児の生活状況について学ぶ 鄭 | テキストの第3,4講を読む。2時間 | もう一度第3,4講を読む。2時間 | (1)-1, (1)-2, (1)-3 |
| 4 | 幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する 鄭 | テキストの第8,9講を読む。2時間 | もう一度第8,9講を読む。2時間 | (1)-1 (1)-2 |
| 5 | 親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ 鄭 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (2)-2 (2)-3 |
| 6 | 保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ 鄭 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (1)-2 (1)-3 |
| 7 | 教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ 福屋 | 補足資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (3)-1 (3)-2 |
| 8 | カウンセリング技術(受容・傾聴・共感)に基づく子どもとの関わりについて学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (3)-1 (3)-2 |
| 9 | 発達のみならずとは何か学ぶ 福屋 | テキストの第7,10講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1, 2, 3 |
| 10 | 発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ 福屋 | テキストの第14講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-1, 2 (3)-2 |
| 11 | 発達の問題への支援方法について学ぶ 福屋 | テキストの第13講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (2)-2, (3)-1, (3)-2 |
| 12 | 保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (2)-3, (3)-2 |
| 13 | 社会的資源について知り活用方法を学ぶ 福屋 | 補足資料を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。 | (3)-3 |
| 14 | カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ 佐藤 | 補足資料を読む。2時間 | もう一度補足資料を読む。2時間 | (3)-2, (3)-3 |
| 15 | 幼児を取り巻く環境の今後について考える 福屋 | テキストの第15講を読む。2時間 | 本時の内容をまとめる。2時間 | (1)-1, (1)-2 |
| 定期試験 | 実施する | | | |
| 成績評価方法 | 授業への取り組み・講義中の発表(関心・意欲・態度・表現力)50%、筆記試験(知識・理解・思考力・判断力)50% | | | |
| 課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法 | 授業内での課題は、コメントを記入し返却する。試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。 | | | |
| テキストおよび参考文献 | 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省) 『幼児理解と教育相談』山口短期大学 清水益治・森俊之(2019)新・基本保育シリーズ10子どもの理解と援助 中央法規 | | | |
| メッセージ | 幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 ・幼稚園教諭二種免許状：必修科目 | | | |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---|-----------------------------|---------------------------|------|
| (1)-1) 幼児理解の意味と意義を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (1)-2) 幼児の発達や学びについて知る | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (1)-3) 幼稚園における教師の基本的な態度を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 5% |
| | ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。 | ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。 | ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。 | 2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 5% |
| (2)-1) 行動観察、記録の付け方の基本を身につける | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (2)-2) 幼児の発達のみならず背景について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験 (知識・理解) | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。 | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |

ルーブリック評価を用いた成績評価

| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|--|------------------------|---------------------------|------|
| (2)-3) 保護者の心理、基本的な対応方法について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 5% |
| (3)-1) 幼児を対象とした教育相談の基礎を理解する | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 6% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 6% |
| (3)-2) 発達の状況に応じた支援方法を身につける | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 5% |
| (3)-3) カウンセラーなどとの協働について学ぶ | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 定期試験（知識・理解） | 5% |
| | また、問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。 | また、問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である | また、問題意識をもって講義に参加していない。 | 授業への取り組み・授業中の発表（関心・意欲・態度） | 5% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|-------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------|
| 教育実習指導(幼稚園) Study of Practical Teaching at Kindergarten | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECTP2002 | 2年次 | 前期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 1 | 選択 | 子安 崇夫・縄田 也千・田中 奏子 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 教育実習を行うに当たり、基本的態度の形成、事前学習や準備について演習形式で進めていく。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。 (2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。 (3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 幼稚園実習の意義・目的・幼稚園教育要領について | | 教育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | |
| | 2 | 手遊びの基本 | 教育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 授業の振り返りと | |
| | 3 | 手遊びの練習 | 手遊びを練習してくる (2時間) | 手遊びの復習とグループ 練習(2時間) | |
| | 4 | 手遊びの発表 | グループ発表の練習(2時 間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 5 | 幼稚園の1日について | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 授業の振り返りと課題レポ ート(2時間) | |
| | 6 | 運動あそびについて | テキストを読ん でくる(2時間) | 授業の振り返りと保育計画 の立案(2時間) | |
| | 7 | 運動あそびの保育計画の立案 | 保育計画の立案と練習(2 時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 8 | リトミックについて | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 授業の振り返りと保育計画 の立案(2時間) | |
| | 9 | リトミックの保育計画の立案 | 保育計画の立案と練習(2 時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 10 | 人権教育 | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 11 | 造形活動について | 事前配布資料を読ん でくる(2時間) | 授業の振り返りと保育計画 の立案(2時間) | |
| | 12 | 造形活動の保育計画の立案 | 保育計画の立案と練習(2 時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 13 | 教育実習に向けて(実習日誌必要書類の作成) | 教育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 必要書類の作成(2時間) | |
| | 14 | 幼稚園実習の基本的なあり方 | 教育実習の手引きを読ん でくる(2時間) | 必要書類の作成(2時間) | |
| | 15 | 振り返りとまとめ | 授業プリント・ファイルの まとめ(2時間) | 授業プリント・ファイルの まとめ(2時間) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（意欲・関心・態度・理解）20%、 課題レポート（理解・知識・思考力・表現力）50%、 発表・実践後のレポート（技能・意欲・理解・思考力・表現力）30% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 「教育実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージ な ど | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|---|--|---|---|--|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。 | 実習に必要な基本的な態度や素養を身に付け、事前準備ができています。 | 実習に必要な基本的な態度や素養をある程度身に付けることができます。 | 実習に必要な最低限の態度や素養を身に付けることができます。 | 実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けることができていない。 | 授業への取り組み・課題レポート (関心・意欲・態度、知識・理解) | 30% |
| (2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。 | 設定保育の準備から実践が系統立ててできる。 | 設定保育の準備から実践が大きなく間違いなく系統立ててできる。 | 設定保育の準備から実践が最低限系統立ててできる。 | 設定保育の準備から実践が系統立ててできない。 | 保育計画の立案、実践のレポート・発表 (知識・理解技能・関心・表現力) | 40% |
| (3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べるができる。 | 保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。 | 保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べるができる。 | 保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べることができる。 | 保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。 | 保育実践発表後のレポート、課題レポート (思考力・判断力・表現力) | 30% |

| | | | | | |
|--|---|-------------------|--|---|------------------|
| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
| 教育実習 Practical Teaching at Kindergarten | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECTP2003 | 2年次 | 後期(集中) |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 実習 | 4 | 選択 | 子安 崇夫・田中 奏子・縄田 也千 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 教育実習は、幼稚園教諭として幼稚園の現場で実際に勤務できるようにするための様々な力を実践的に身につけるためのものである。幼稚園教諭としての資質・能力について反省洞察しながら、それをより一層高めていけるように幼稚園の現場において実習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。 (2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。 (3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。 | | | | |
| 2年次後期 (10月) 幼稚園(認定 こども園) での実習 | 教育実習(幼稚園)について | | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 教育実習では以下のことを学ぶことができるように実習に臨んでください。 1 教育理論と教育実践の統合 2 幼児の発達と園生活の実態の把握 3 保育内容の研究と実践 4 クラス経営について理解を深める 5 園務分掌、園事務、保護者会、地域社会への理解を深める 6 幼稚園教諭としての自覚 ※実習時期 2年次10月に行い4週間の期間とする。 ※実習先 各自が希望する幼稚園に依頼する。(依頼についての説明は、前年の11月～12月に行う) ※その他 実習前に各園でのオリエンテーションを必ず行うこと。 | | 実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項(実習生プロフィール、実習園の概要、配属クラスの環境、デイリープログラム)を書いておく。 保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育を行うために、教材や指導案を作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間 | 毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず実習園の担当教諭に提出すること。 設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は2～3時間 | |
| 成績評価 | 教育実習先からの評価(知識・理解・意欲・関心・態度)60%、 実習日誌(知識・理解・表現)20%、 実習事後レポート(思考力・判断力・表現力)20% | | | | |

| | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 | 実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。 |
| テキストおよび参考文献 | 「教育実習の手引き」山口短期大学 |
| メッセージなど | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|---|---|---|-----------------------------|----------------------------|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。 | 幼稚園教諭としての自覚をしっかりと持ち、習得した理論や知識を正しく実践できる。 | 幼稚園教諭として自覚を持ち、習得した理論や知識を大きな間違いがなく実践できる。 | 幼稚園教諭としてさらに自覚が必要だが、習得した理論や知識を最低限実践できる。 | 幼稚園教諭としての適性が見られない。 | 教育実習先からの評価（知識・理解・意欲・関心・態度） | 60% |
| (2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。 | 用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。 | 用語の使用や表現の誤り。誤字。脱字がほぼなく、丁寧に書いている。 | 用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。 | 用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。 | 実習日誌（知識・理解・表現） | 20% |
| (3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。 | 教育実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。 | 今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。 | 自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。 | 課題レポート（思考力・判断力・表現力） | 20% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------------------------------------|------------------------------------|----------------------------|------------------|--|-------|------|----|----|---|---------------|--------|----|------|---|------------------|-----------|----|------|----------------|----------|---|-------------|-----------|----|-----|
| 学校体験活動 School Internship | | 児童教育学専攻 幼児教育学科 | 20ECTP1001 | 1年次 | 1年次 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実習 | 1 | 選択 | 子安 崇夫・縄田 也千・田中 奏子 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 概要 | 学校体験活動は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園で生活する幼児の姿や幼稚園の環境を観察するとともに、園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、幼児の実態と、幼稚園の教育活動の特色を理解することを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | (1) 幼稚園の運営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制についての基礎を理解している。 (2) クラス担任の補助的な役割を担うことができる。 (3) クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解している。 (4) 様々な活動の場面で積極的に幼児と関わることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | オリエンテーション 学校体験活動とは | 事前配布資料を読んでく る(2時間) | 授業の振り返りと課題レ ポート(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 事前指導① 学校体験活動実施園について | 事前配布資料を読んでく る(2時間) | 学校体験活動実施園につ いての確認(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3 | 事前指導② 学校体験活動実施行事について | 学校体験実施園での行事 について確認しておく(2 時間) | 実施園での受入れ行事に ついての確認(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 事前指導③ 学校体験活動受入れ参加手続き | 学校体験活動の目的等の 確認(2時間) | 必要書類の完成(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5 | 学校体験活動①の振り返り | 学校体験活動の報告書 を作成する(2時間) | 学校体験活動の振り返り をする(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6 | 附属幼稚園での活動について① 事前指導 | 事前配布資料を読んでく る(2時間) | 授業の振り返りと参加行 事の確認(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 附属幼稚園での活動について② 附属幼稚園での活動①(環境整備等) | グループでの活動確認(2 時間) | 活動レポート作成(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | 附属幼稚園での活動について③ 附属幼稚園での活動②(行事参加) | グループでの活動確認(2 時間) | 活動レポート作成(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | 振り返りとまとめ | 授業資料の確認と活動レ ポート作成(2時間) | 授業資料のまとめと課題 レポート(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>活動の種類</th> <th>実施時期</th> <th>日数</th> <th>時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>学校体験活動内託園での活動</td> <td>1年時 9月</td> <td>2日</td> <td>16時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td>学校体験活動内託園での行事等参加</td> <td>1年時 10月以降</td> <td rowspan="2">2日</td> <td rowspan="2">16時間</td> </tr> <tr> <td>教育実習内託園での行事等参加</td> <td>2年時 4月以降</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>本学附属幼稚園での活動</td> <td>1年時 10月以降</td> <td>1日</td> <td>8時間</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">合計40時間</p> <p>① 学校体験活動内託園での活動 クラス活動に参加し子どもと関わる、先生方の指示のもと園務の補助を行う、掃除・整理整頓や教材作成等の環境整備を行う等の内容が体験できるように行う。</p> <p>② 学校体験活動内託園での行事等参加、または、教育実習内託園での行事等参加 園の行事に参加し、子どもたちや教職員の方々と一緒に活動することができるように行う。</p> <p>③ 本学附属幼稚園での活動 本学附属幼稚園の園児を本学の教室に招いての活動や花壇等の環境整備、園長先生の講話等を計画。 ※学校体験活動は教育実習と異なり、担任の先生の業務の補助や行事参加を通して、幼稚園の様々な業務を体験することが主な内容である。</p> | | | | | | | 活動の種類 | 実施時期 | 日数 | 時間 | ① | 学校体験活動内託園での活動 | 1年時 9月 | 2日 | 16時間 | ② | 学校体験活動内託園での行事等参加 | 1年時 10月以降 | 2日 | 16時間 | 教育実習内託園での行事等参加 | 2年時 4月以降 | ③ | 本学附属幼稚園での活動 | 1年時 10月以降 | 1日 | 8時間 |
| | 活動の種類 | 実施時期 | 日数 | 時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① | 学校体験活動内託園での活動 | 1年時 9月 | 2日 | 16時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | 学校体験活動内託園での行事等参加 | 1年時 10月以降 | 2日 | 16時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育実習内託園での行事等参加 | 2年時 4月以降 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ | 本学附属幼稚園での活動 | 1年時 10月以降 | 1日 | 8時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業の取り組み・活動状況（関心・意欲・態度、知識・理解）40%、 訪問指導・体験活動レポート・課題レポート（知識・理解、思考力・判断力・ 表現力）60% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振り返りに使 用します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 授業時に資料配布 |
| メッセー ジ な ど | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|----------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価 比率 |
| (1) 幼稚園の運営方針及 び特色ある教育活動 並びにそれらを実施 するための組織体制 についての基礎を理 解している。 | 事前指導の 内容をほぼ 完璧に理解 している | 事前指導内 容をある程 度理解して いる | 事前指導の 内容を最低 限理解して いる | 理解できて いない。 | 授業への取り 組み、課題レ ポート (関心・意欲・ 態度、知識・ 理解) | 25% |
| (2) クラス担任の補助的 な役割を担うことが できる。 | 場面に応じた補助的 な役割を積極 的に担うこ とができる。 | 場面に応じた補助的 な役割を担う 姿勢がみら れる。 | 最低限指示 された役割 を担うこと ができる。 | 役割を担う ことができ ない。 | 訪問指導・課 題レポート・ 行事参加 (思考力・理解 判断力・表現 力) | 25% |
| (3) クラス担任の役割と 職務内容についての 基礎を理解してい る。 | クラス担任 の役割と職 務内容につ いての基礎 を十分に理 解している。 | クラス担任 の役割と職 務内容につ いての基礎 をある程度 理解してい る。 | クラス担任 の役割と職 務内容につ いての基礎 を最低限理 解してい る。 | クラス担任 の役割と職 務内容につ いての基礎 を理解して いない | 訪問指導・課 題レポート・ 行事参加 (知識・理解、 思考力・ 判断力・ 表現力) | 25% |
| (4) 様々な活動の場面で 積極的に幼児と関わ ることができる。 | 様々な活動 の場面で役 割を十分に 把握し、積 極的に幼児 と関わること ができる。 | 様々な活動 の場面で役 割を十分に 把握し、あ る程度積極 的に幼児と 関わること ができる。 | 様々な活動 の場面で役 割を十分に 把握し、最 低限幼児と 関わること ができる。 | 様々な活動 の場面で関 わることに できない。 | 訪問指導・課 題レポート・ 行事参加 (思考力・ 判断力・ 表現力) | 25% |

| 授業科目 | | 対象学科・専攻 | ナンバリング | 年次 | 期別 |
|--|---|--|-----------------------|-----------------------|------------------|
| 保育・教職実践演習(幼稚園) Practice of Teaching Profession(Kindergarten) | | 児童教育学科 幼児教育学専攻 | 20ECTP2004 | 2年次 | 後期 |
| 講義・演習・実技・ 実習・実験 | 単位数 | 卒業認定 | 担当教員 | | 実務家 教員 |
| 演習 | 2 | 選択 | 子安 崇夫・田中 奏子・縄田 也千 | | |
| ディプロマ・ ポリシー との関係 | (1) 保育・幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付けていること。 (2) 何事にも誠実に取り組み、責任感・使命感を持って保育を実践する力を有していること。 (3) 子どもにかかわるための豊かな表現力とコミュニケーション能力を身に付けていること。 (4) 保育・幼児教育に関する課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けていること。 | | | | ○ ○ ○ ○ |
| 概要 | 教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。 | | | | |
| 到達目標 | (1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。 (2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。 (3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育等の実践を通して表現することができる。 | | | | |
| 授業内容 と 進め方 | 回 | 授業内容 | 準備学習 (予習内容・時間) | 準備学習 (復習内容・時間) | |
| | 1 | 教育実習の振り返り(自己評価)・教職履修ファイルの記入 | 教育実習日誌をまとめる(2時間) | 授業の振り返りとファイルのまとめ(2時間) | |
| | 2 | 1年生に対する実習についての話①・模擬保育の準備と練習 | 事前配布資料を読む(2時間) | 模擬保育の準備(2時間) | |
| | 3 | 1年生に対する実習についての話①・模擬保育 | 模擬保育の練習(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 4 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備①・内容確認とグループ編成 | 事前配布資料を読む(2時間) | グループ課題(2時間) | |
| | 5 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備②・企画と立案 | グループ企画の立案(2時間) | グループ企画の立案と確認(2時間) | |
| | 6 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備③・教材作成 | グループ企画の教材作成(2時間) | グループ企画の教材作成と確認(2時間) | |
| | 7 | 地域の子育て支援に関する行事参加の準備④・練習及び流れの確認 | グループ企画の練習と準備物の確認(2時間) | グループ企画の練習と確認(2時間) | |
| | 8 | 地域の子育て支援に関する行事での実践① | グループ企画の練習(2時間) | グループ企画の確認(2時間) | |
| | 9 | 地域の子育て支援に関する行事での実践② | グループ企画の練習(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 10 | 地域の子育て支援に関する行事参加の振り返り 実習評価票に基づく今後の課題の明確化① | 行事の振り返り(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 11 | 実習評価票に基づく今後の課題の明確化② | 事前配布レポート(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 12 | 1年生に対する実習についての話②の準備 | 実習日誌のまとめ(2時間) | グループでの話の立案と確認(2時間) | |
| | 13 | 1年生に対する実習についての話② | グループでの話のまとめ(2時間) | 課題レポート(2時間) | |
| | 14 | 各自の課題への取り組み | 事前配布資料を読む(2時間) | 各自の課題への取り組み(2時間) | |
| | 15 | 課題についてのまとめ | 各自の課題への確認とまとめ(2時間) | 課題レポート(2時間) | |

| | |
|------------------------------------|--|
| 成績評価 | 授業への取り組み（意欲・関心・態度・理解）20%、 課題レポート（理解・知識・思考力・表現力）30%、 発表・実践後のレポート（技能・意欲・理解・思考力・表現力）50% |
| 課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法 | レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。 |
| テキストおよび 参考文献 | 参考文献：幼稚園教育要領 |
| メッセージ など | 幼稚園教諭二種免許：必修科目 |

| ルーブリック評価を用いた成績評価 | | | | | | |
|--|------------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------|---|------|
| 到達目標 | 優 | 良 | 可 | 不可 | 評価手段 | 評価比率 |
| (4) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。 | 幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。 | 幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。 | 幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。 | 幼稚園教諭としての適性が見られない。 | 授業への取り組み・グループワーク（関心・意欲・態度・表現力） | 30% |
| (5) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。 | ほぼ完璧に説明できる。 | 大きな間違いがなく、基本を説明できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。 | 説明できていない。 | 課題レポート・グループでの発表（知識・理解、思考力・判断力・表現力） | 40% |
| (6) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。 | ほぼ完璧に表現できる。 | 大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。 | 間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。 | 表現することができない。 | 模擬保育・地域の子育て支援行事への準備・参加・発表・事後レポート（思考力・判断力・表現力） | 30% |